



1

0055335-000

特209-559

初級軍事数学

野原博・著

秋田屋書房

図形編

昭和18

AJA

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法
第67条の規定に基づき、平成12年3月2日付
けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。

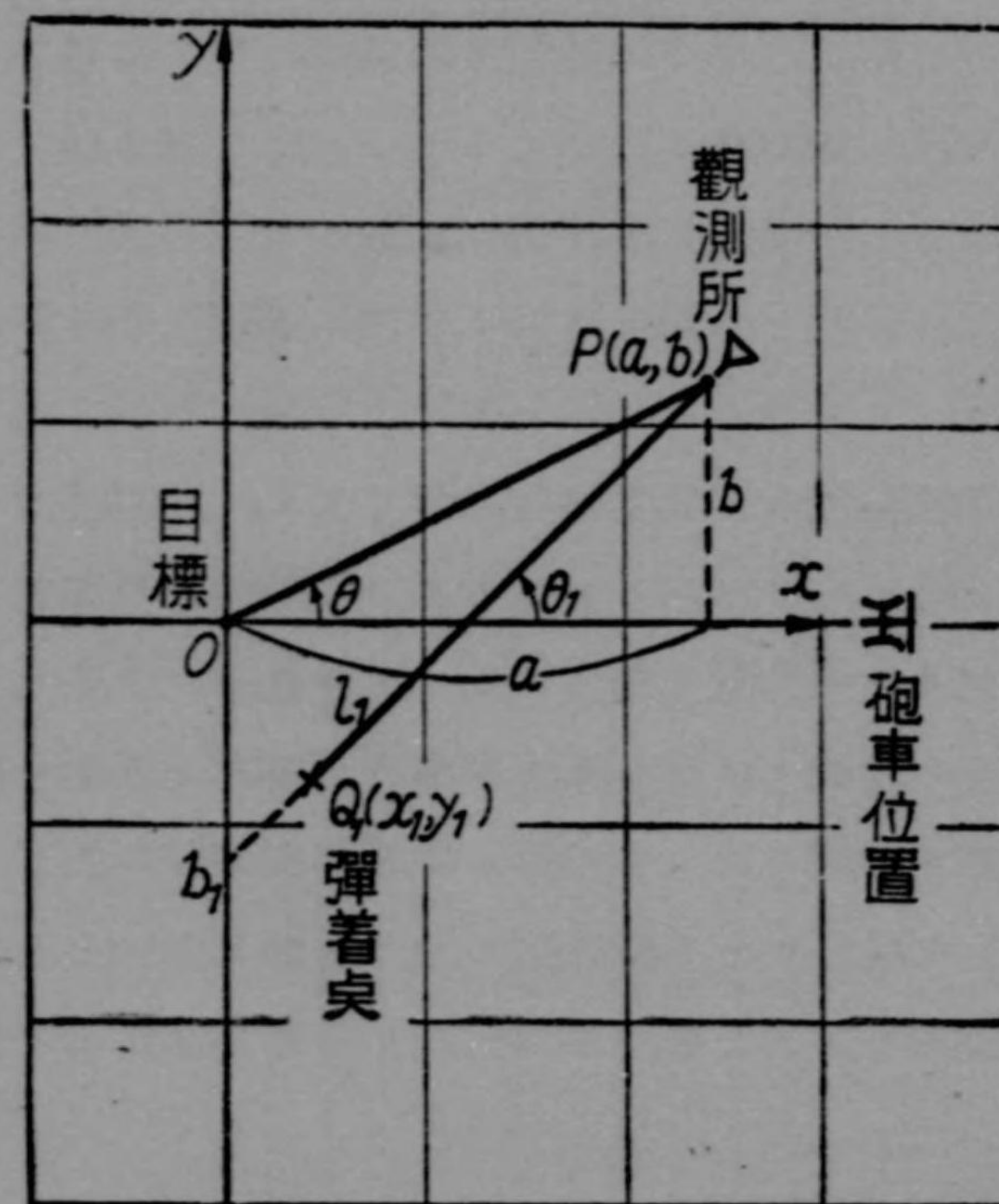
434
126

特209
559

初級 軍事數學 (圖形編)

陸軍豫科士官學校教官 野原博 著
陸軍中尉

現地座標



秋田屋書房發行



序

國家ノ總力ヲ擧ゲテ大東亞ノ建設ニ邁進シツ、アルノトキ小著
初級 軍事數學 (圖形編)

ヲ戰線及銃後ニ送り、一ハ以テ皇軍初級幹部ノ識能ノ向上ニ資シ、
一ハ以テ普通教育關係者ニ數學ノ軍事ヘノ應用ノ一端ヲ紹介シ一般
生徒教育ノタメノ參考書クラシメントス。

戰爭トハ“國家ノ總力ヲ擧ゲテ行フ科學的創造ナリ”トモ謂フヲ
得ベク、兵器技術ハ勿論、戰略、戰術一ツトシテ數理ヲ基礎トセザ
ルハナシ。從ツテ軍事數學ト特ニ名附クベキ數學アリトセバ、ソノ
關係ノ程度ノ差コソアレ全數學ヲ包含スルモノト謂フベシ。今日ニ
到ル迄斯クノ如キ書ノ現ハレザリシ所以モ亦此處ニ存スベシ。然レ
ドモ其ノ應用ノ部ニ於テハ確カニ野戰軍ノ特異性 (實驗室或ハ講堂
内、軍艦内等ト異リ野戰ニ於テハ極メテ僅少ノ將兵ヲ以テ而モ砲煙
彈雨ノ中ニ在リテ行フ科學、數學ナルコトヲ意味ス。)ニ基ク特性ヲ
具フベク、自然科學ノタメノ數學或ハ工業ノタメノ數學ノ存在ガ許
サル、如ク當然軍事數學ノ存在モ許サルベキモノト信ズ。

然レ共之ガ構成ハ容易ノ事ニ非ズ。依ツテ取敢ヘズ本書ニ於テハ
微分學、積分學等ノ所謂高等數學ト稱セラル、部分ヲ使用セザル範
圍ニ限定シテ之ヲ初級軍事數學ト名附ケ、其ノ内特ニ圖形、齒車等
ニ關スルモノ、一端ヲ收メテ之ヲ圖形編トセル次第ナリ。

將來完備セル軍事數學書ノ出シコトヲ軍ノタメニ祈念シテ止マ
ズ。

次ニ編纂ニ當リ特ニ著意セル事項ヲ掲ゲテ讀者ノ參考トス。

1. 概ネ今日迄ノ所謂中等數學ノ一部ヲ基礎トシテ豫想セルコト。
從ツテ中等教育ヲ受ケタルモノナラバ容易ニ理解シ得。

2. 昭和十七年度ヨリ中等教育ニ於ケル數學ハ劃期的ノ變革行ハレタルモ本書ハ其ノ改革ノ趣旨ニ即應シ之ガ具現ニ努メタルコト。

3. 軍事學書ニ於テ直接取扱ヘラザルモ初級幹部ノ理解アル使用ヲ望ムモノヲ收メタルコト。

(例ヘバ 第一章統計ぐらふ)

4. 其ノ理ハ深遠ニシテ到底中等程度ノ教育ヲ受ケタル者ニテハ理解シ難ク其ノ取扱ノミヲ習得セシムルヲ以テ満足セルカノ如ク思ハル、モノヲモ平易ニ説明セント努メタルコト。

(例ヘバ 第三章火藥「ガス」壓力ノ仕事, 第九章偏差交會法等)

5. 兵器(航空機ヲ含マズ。)ノ機構及作用及其ノ理論中最モ基本的ナリト考ヘラル、事項中、數學ニ關係深キ事項ヲ努メテ平易ニ説ベタルコト。

(例ヘバ第二篇密位法, 第三篇ねぢト齒車, 第四篇計算線圖等)

6. 本書トシテハ或ハ専門ニ過グルヤモ知レズト思考セラル、モ數學ノ巧ナル應用ヲ一般ニ紹介スベキ資料ヲ收メタルコト。

(例ヘバ 第九章偏差交會法)

稿ヲ終ルニ當リ最初ニ企圖セル所ハ到底滿シアラザルコトハ自ラ認ムルモ一先ヅ之ヲ以テ上梓スルコトトス。

最後ニ精神, 訓練共ニ世界無比ノ皇軍ニ對シ本小著ガ些少タリトモ數學的威力ヲ加ヘ得ルトセバ銃後ニ在ル著者ノ満足之ニ過グルモノナシ。

然シ乍ラ數學, 科學ハ一種ノ兵器ニシテ萬一之ニ使ハル、コトアリトセバ由々シキ大事ナリ。數量ヲ基礎ニシテ而モ之ヲ超越スル所ニ皇軍本領ノ存スルコト今更茲ニ多言ヲ要セズ。

本書ノ編纂ニ當リ種々有益ナル意見ヲ寄セラレタル陸軍少佐高橋湯之介氏及校正其ノ他ニ勞ヲ煩ハセシ陸軍教授國府田恒夫氏ニ對シ

謝意ヲ表ス。

又本書編纂ニ當リ參考トセル書籍ヲアゲ其ノ著者ニ謝意ヲ捧グ。

作戰要務令 第一部, 第二部,

諸兵射擊教範 第一部, 第二部, 第三部,

砲兵射擊教範

砲兵觀測教範

高射砲射擊教範

陸軍豫科士官學校教程(數學, 測圖等)

陸軍士官學校教程(兵器, 射擊, 應用戰術ノ參考等)

陸軍科學學校教程(兵器學, 觀測學等)

陸軍整備學校自動車教程

陸軍航空整備學校理科學教程

自動車工學 三省堂發行 築山潤二氏著

時計學 丸善發行 青木 保氏著

工場數學} 知進社發行 吉原鐵夫氏著

工場機械學}

旋盤工になるまで 工業圖書株式會社發行

大西光雄氏共著
吉原鐵夫氏

航空實用數學 同上

宮本晃男氏共著
坂入一郎氏

實用力學 共立社發行 横山武人氏著

最新力學及材料強弱學 工業圖書株式會社發行 飛永甚治氏著

國勢圖會 國勢社發行

昭和十七年九月

目次

第一篇 ぐらふ	1
第一章 統計ぐらふ	1
1. 緒言	1
2. 點ぐらふ	2
3. 棒ぐらふ	3
4. 繪ぐらふ	10
5. 扇形ぐらふ	11
6. 折線ぐらふ	13
7. ぐらふ描畫上ノ注意	19
第二章 直線ぐらふ	21
8. 直角座標	21
9. 平均彈着點ノ求メ方	22
10. 二點間ノ距離	23
11. 直線ぐらふ	23
12. 直線ぐらふノ應用	30
第三章 面積ノ應用	38
13. 座標平面上ノ圖形ノ面積	38
14. 腔内壓力曲線ト彈丸ノ運動「エネルギー」	43
(1) 腔内壓力曲線	43
(2) 彈丸ニ及ボス火藥「ガス」壓力ノ仕事	44
(3) 阻碍抗力曲線	45
(4) 彈丸ノ有スル運動ノ「エネルギー」	47
15. 四衝程機關	48
(1) 四衝程機關ノ構造及ビ作動ノ大要	48

(2) 示壓線圖(附 効率).....	49
(3) 發生馬力.....	51
第二篇 密位法	55
16. 緒 言.....	55
17. 六十分法.....	55
18. 弧 度 法.....	55
19. 携帶測速器ノ原理.....	57
(1) 光ノ反射ノ法則.....	57
(2) 光ノ屈折ノ法則.....	57
(3) $\sin\alpha = \frac{\pi}{180}\alpha$	58
(4) 構 造.....	58
(5) 機 能.....	59
(6) 測 量 法.....	60
20. 密位法ト其ノ應用.....	61
第三篇 ねぢト齒車	68
第四章 回轉運動トねぢ, 齒車	68
21. 回轉運動ノ速サ.....	68
22. ねぢ, だいやる.....	68
(1) ね ぢ.....	69
(2) だいやる.....	69
(3) ねぢノ作用.....	70
23. 齒車ノ各部ノ名稱ト種類.....	72
24. 平 齒 車.....	73
(1) 外接二齒車.....	74
(2) 内接二齒車.....	76
(3) 三ツ以上ノ平齒車.....	76

25. 永轉螺(ウォーム, 芋蟲)ト永轉齒車.....	79
26. 腔綫ト彈丸ノ回轉.....	83
27. 旋綫作業.....	83
23. 差動齒車裝置.....	84
第五章 自動車ノ傳導裝置	93
29. 傳導裝置.....	93
30. 變速機, 減速比及ビ減速裝置.....	94
第六章 時 計	98
31. 齒車應用ノ計器トシテノ時計.....	98
32. 懷中時計ノ傳導裝置.....	99
33. 日ノ裏裝置.....	100
第七章 旋 盤	103
第四篇 計 算 線 圖	108
第八章 計 算 圖 表	108
34. 機械的近似値ノ計算.....	108
35. 函 數 尺.....	108
36. 共 點 圖 表.....	123
37. 共 線 圖 表.....	133
第九章 偏差交會法	147
38. 直線ノ方程式.....	147
39. 現地座標ト轉相座標.....	148
40. 轉相座標ノ偏差交會法ヘノ應用.....	153
41. 偏差交會法用線圖ノ作り方.....	156
42. 觀測所ニ對應スル直線ノ畫キ方.....	156
43. 偏差ノ決定法.....	158

第一篇 ぐらふ

第一章 統計ぐらふ

1. 緒言

昭和十五年十月一日實施セラレタ國勢調査ノ結果ニ依レバ日本内地ノ人口ハ 7311,4308 人デアル。コノ數ハ統計トシテハ甚ダ重要ナモノデ一人ノ誤リモ許サルベキデハナイガ、平常コノ數字ヲ第一位迄正確ニ記憶シテキルコトハ左程必要デハナイ。

然シナガラ七千萬或ハ七千三百萬程度ノ數字ハ是非トモ記憶シテオキタイモノデアル。

又次ノ表ニ示ス様ナ主要國ノ面積ト人口ノ如キモ精密ニ記憶シテキルコトモ良イガ、例ヘバ

(1) 日本ノ面積

ハ68萬平方軒、人口

1億、人口密度ハ1平

方軒ニツキ 150 デア

ツテ、ドイツノ面積、

人口、人口密度ハ略

々日本ト等シイ。

(2) 「英國ノ面積

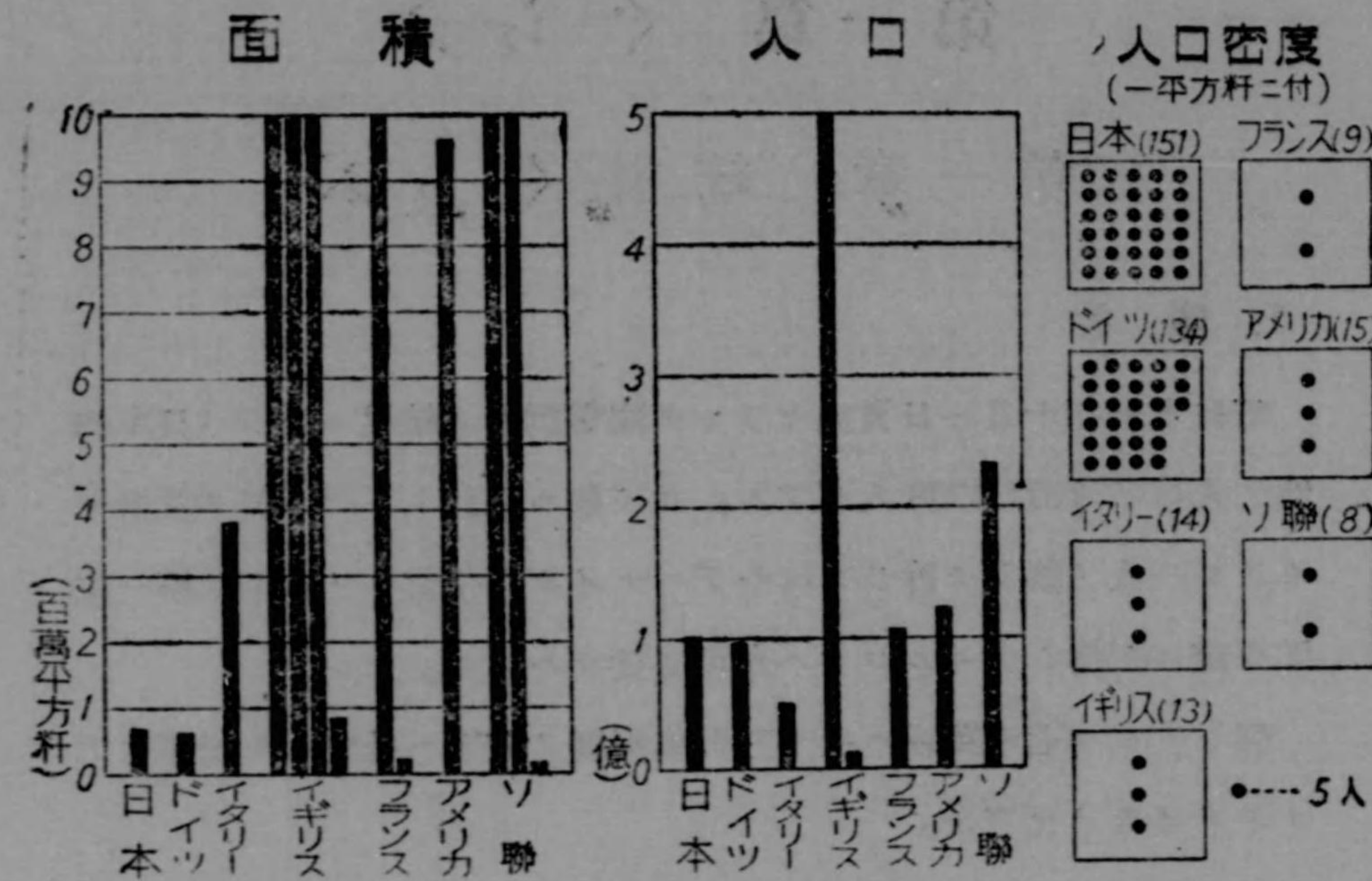
ハ日本ノ58倍、人口

ハ5%、從ツテ人口密度ハ日本ノ12分ノ1デ13デアル」等ノ如キ概數

又ビ相互間ノ比率コソ有用ナモノデアル。

主要國ノ面積、人口、人口密度
(屬領植民地ヲ含ム)

	面積	人口	人口密度
	千平方軒	(昭和13年首) 萬人	(1平方軒ニ付) 人
日本	681	1,0278.8	151
ドイツ	586	7867.9	134
イタリー	3809	5275.5	14
イギリス	3,9141	5,2900.4	13
フランス	1,2656	1,1214.6	9
アメリカ	9673	1,4616.7	15
ソ聯	2,1179	1,6900.0	8



第 1 圖

第 2 圖

第 3 圖

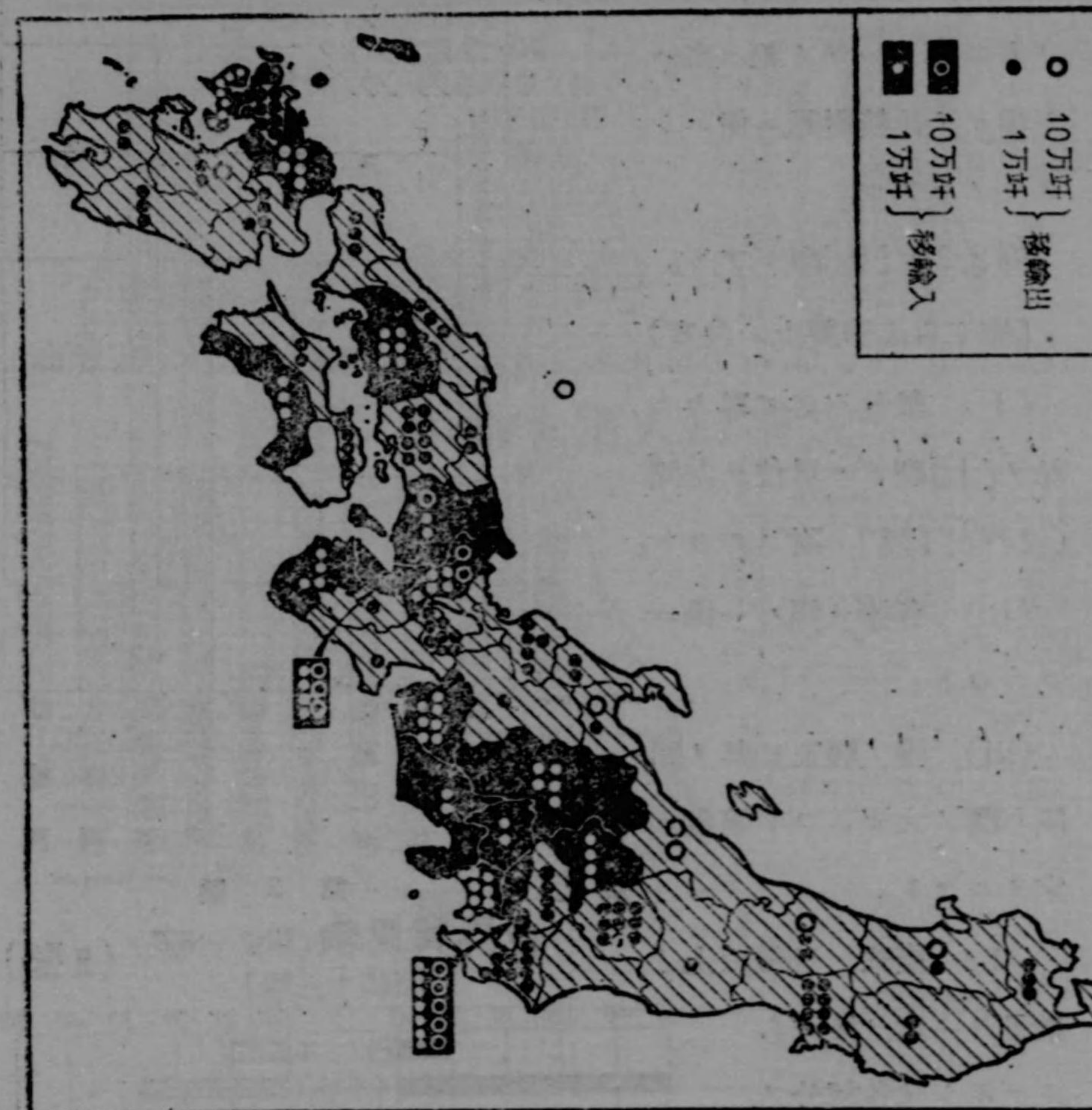
コレガタメニハ例ヘバ第 1, 2 圖ノ様ニ面積或ハ人口ヲソレニ比例スル棒ノ長サデ表ハシ、或ハ又人口密度ヲ第 3 圖ノ様ニ示セバ數字ノ羅列サレタ表ヲ見ヨリハ各々ノ概數及ビ相互間ノ關係ヲ直觀的ニ把握スルコトガ出來ル便ガアル。ソレ故ニ數ノ表ト共ニ之ヲ棒ノ長サ、角ノ大サ、圖形ノ面積等ニヨツテ表ハシタ圖即チぐらふハ直觀的ニ之ヲ理解シ又變化ノ状態ヲ知ルタメニ便利デアルカラ、軍事上ニ於テモ屢々利用セラレル。

次ニ各種ぐらふノ作り方及ビ讀ミ方ヲ説明スル。

2. 點ぐらふ

比較スベキ量ノ或ル單位 (或ハ一定個數) ニツイテツノ點ヲ與ヘ、ソノ數ノ多少ニヨリ統計數値ヲ示ス方法デ人口密度ナドヲ表ハスノニ用ヒラレル。第 3 圖及ビ第 4 圖ハコノ種ノモノデアル。

例 米移輸出割合 (日本内地)



第 4 圖

3. 棒ぐらふ

或ル幅ヲモツ棒ヲ並ベテ其ノ長短デ數量ノ大小ヲ比較スルノニ通常用ヒラレル方法デアル。今ソノ形式ヲ二種ニ分ケ、假リニ

(1) 單式 單ニ一種ノ量ノミ表ハスモノヲイヒ、尙之ヲ [I] 型、[II] 型ニ分ケル。

[I] 型ハ例 1 ノ如キモノ、[II] 型ハ對稱的ナ二種ノ量例ヘバ輸出

例 1. 大陸別面積 (I型)

ト輸入, 出生ト死亡, 男女
ノ人口等チーツノ圖ニ表ハ
シ相互ノ比較對照ニ便ニシ
タモノデアル。

例 2, 3 ハ [II] 型デアル。

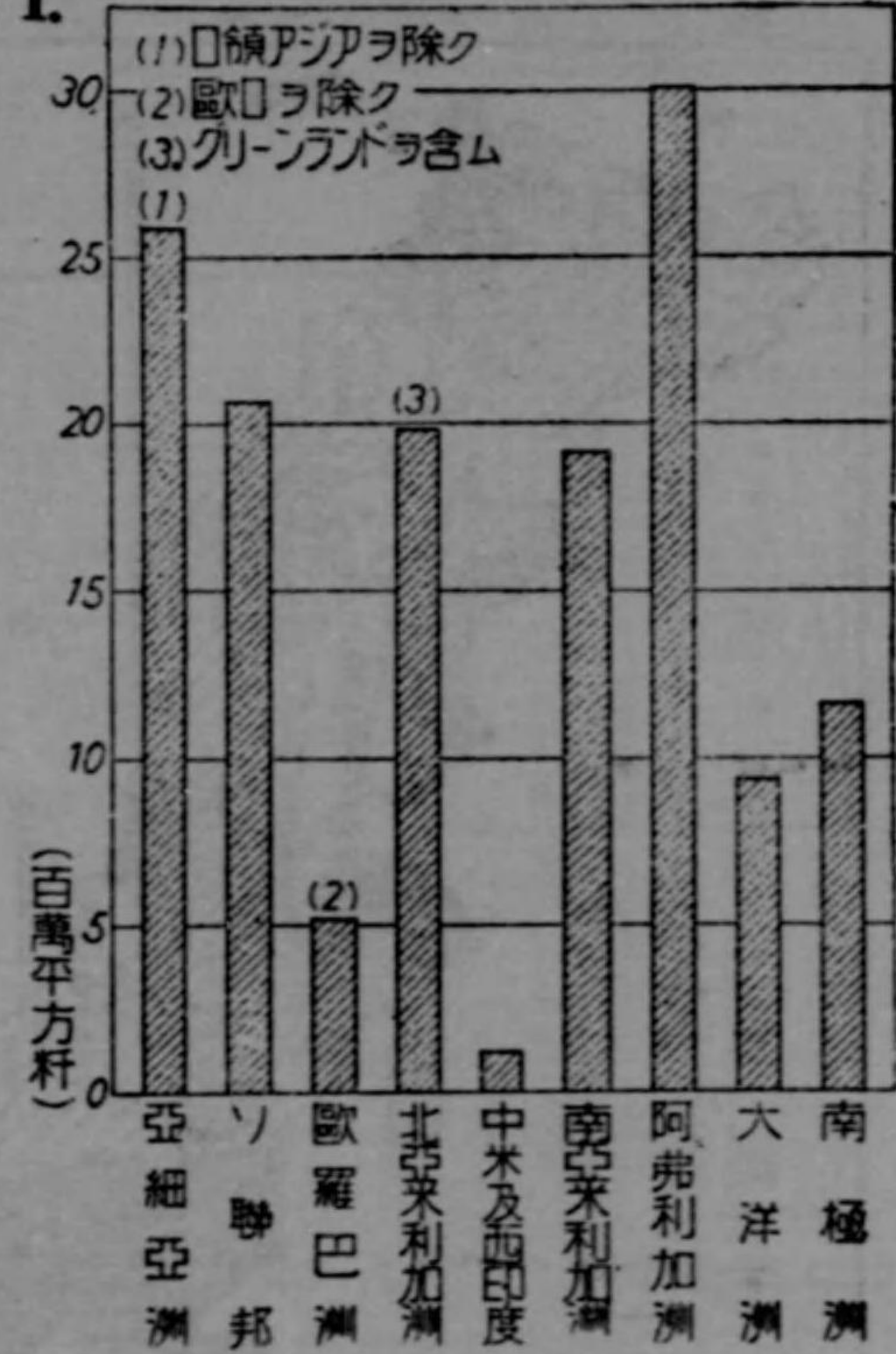
[棒グラフ作製上ノ注意]

(i) 數量ハ必ず零カラ
始メ [I] 型デハ單位ヲ左側
(又ハ左下隅)ニ附スルコト。

(ii) 各棒ノ幅ハ一様ニ
スルコト。

(iii) 棒ノ幅及ビ其ノ間
隔ハ圖ノ大サニヨリ適當ニ
定メルコト。

大陸別面積 (I型)

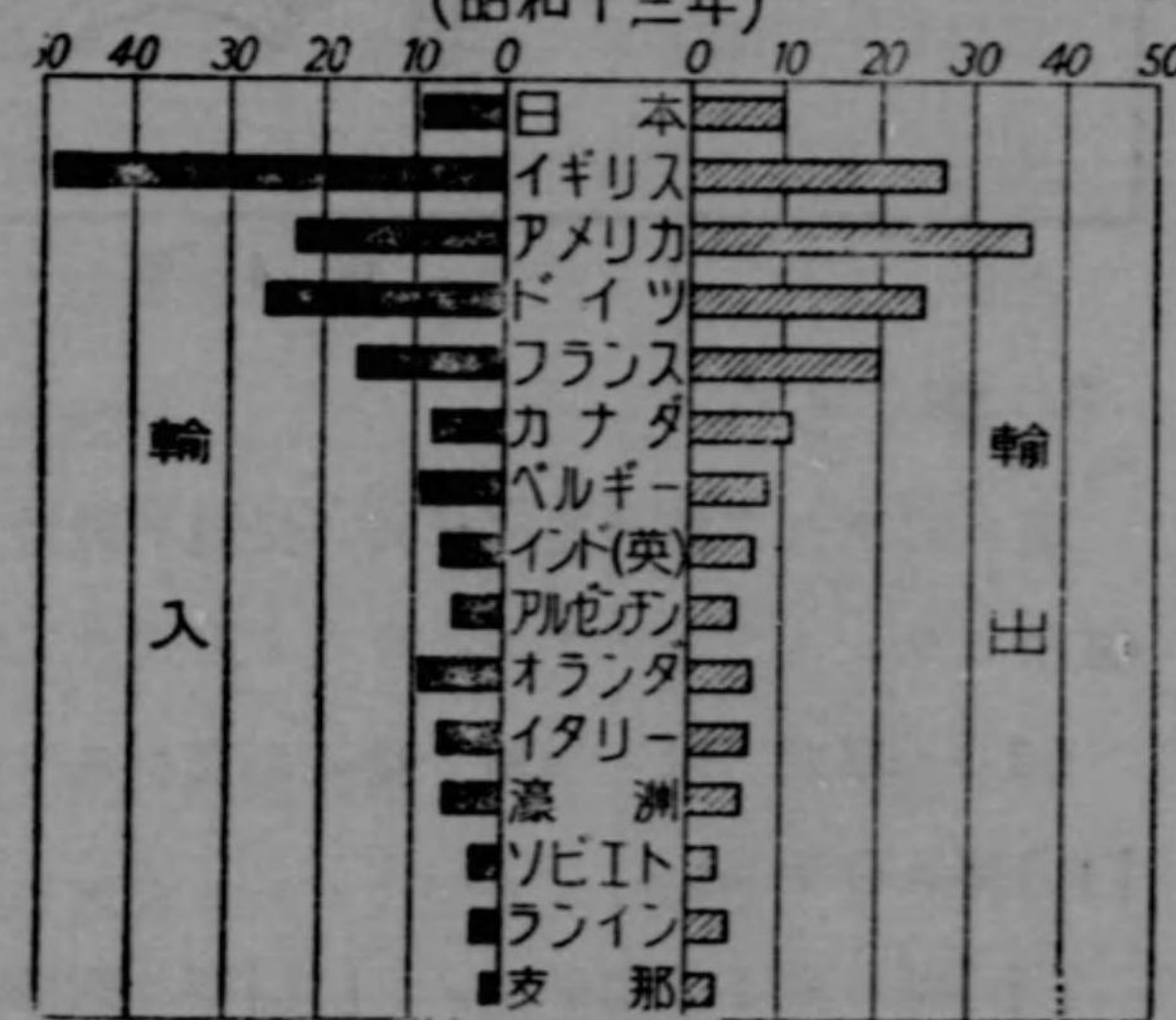


例 2. 世界貿易額 (單位一億圓) (II型)
(昭和十三年)

數量ヲ一本ノ棒グラ
フデ示シ又各部分ノ
比例ヲモ示ス。

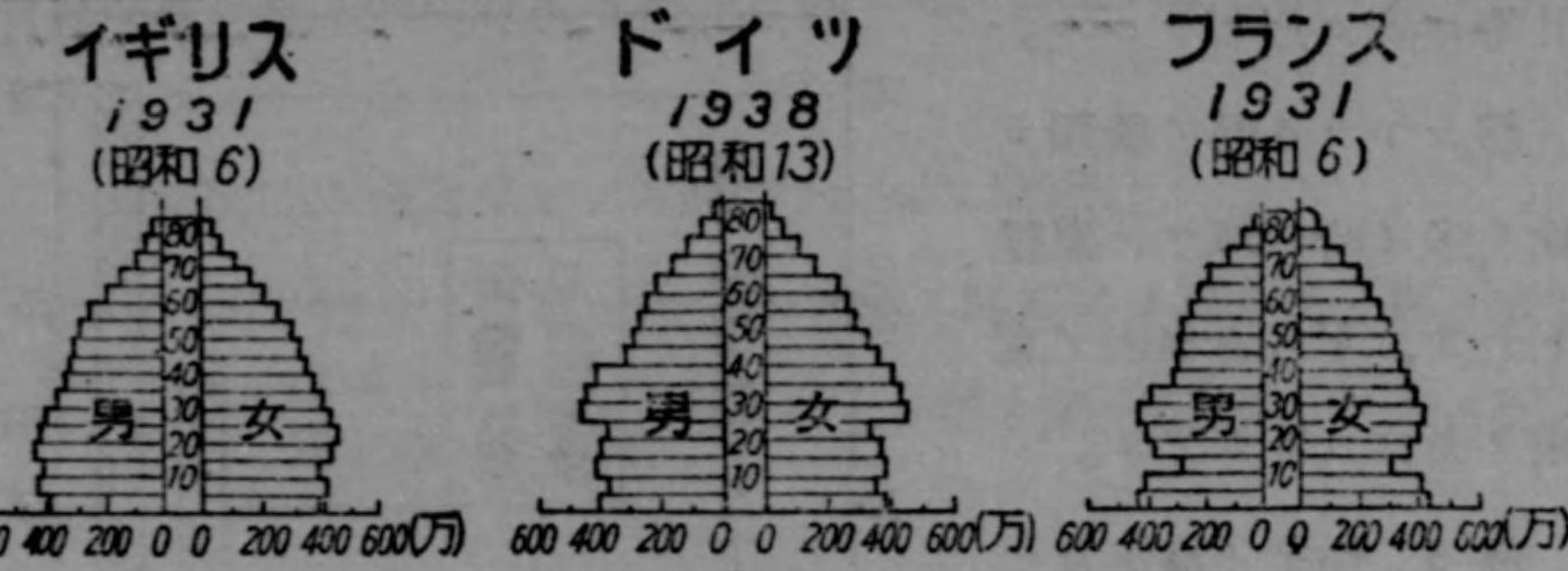
例 4 ハ本邦軍事費
ノ各年次ノ比較ト共
ニ陸, 海軍各々ノ比
較ヲスルノニ便デア
ル。(第6頁第8圖)

此種グラフハ財政

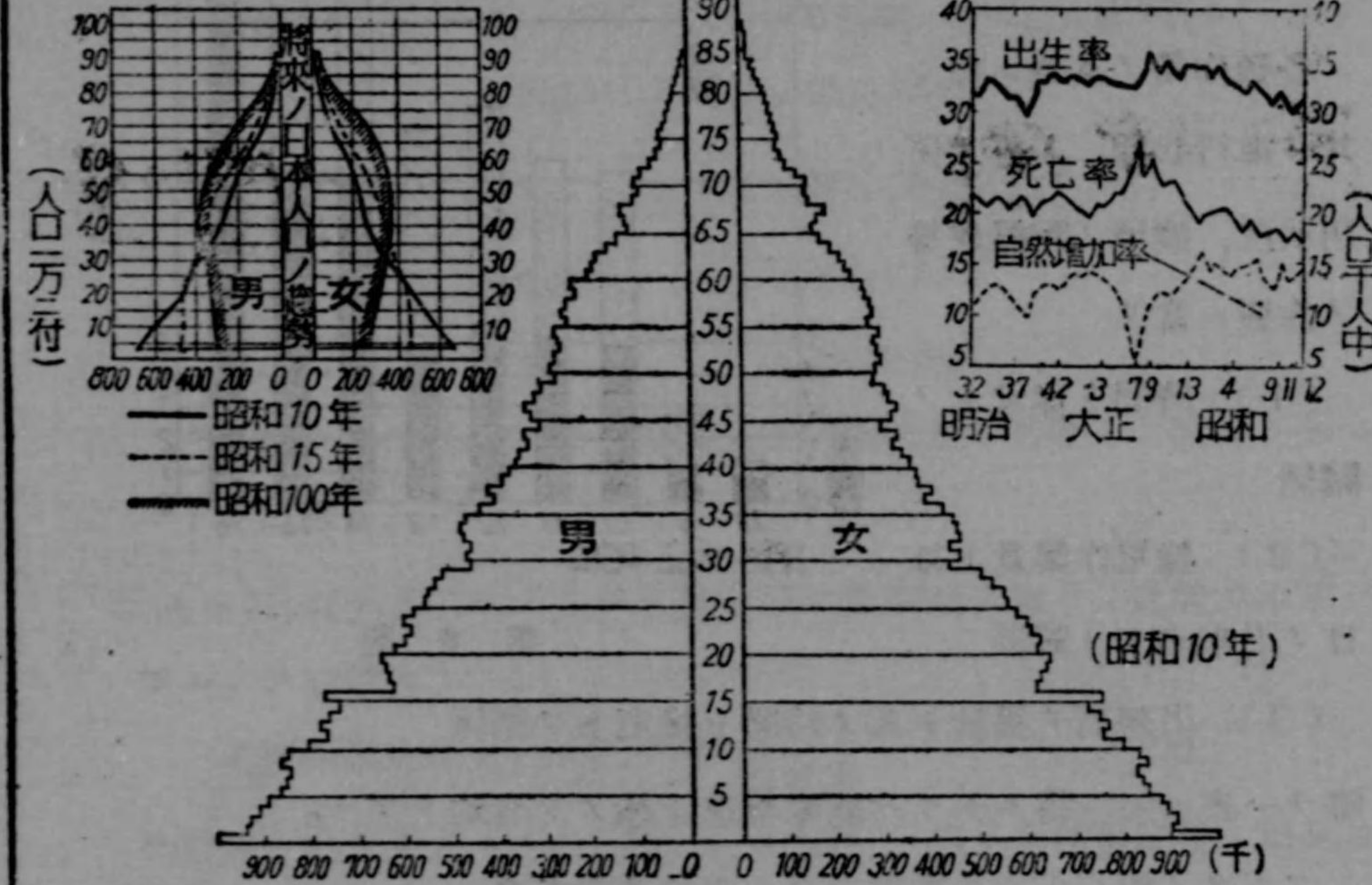


第 6 圖

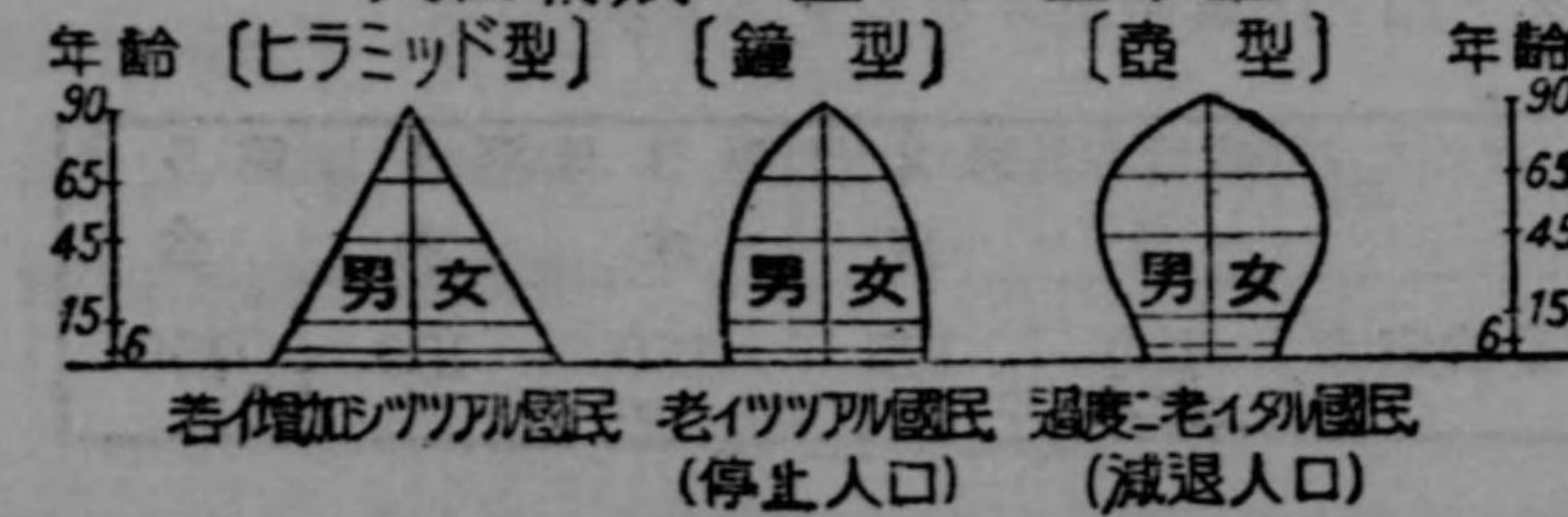
國防力ノ源泉トシテノ人口



日本ノ年齢別人口構成



人口構成ノ三ツノ基本型



第 7 圖

統計, 人口統計, 産業統計等=廣ク用ヒラレル。

然シ乍ラ各部ノ種類ガ餘リ多イ時ハ却ツテ複雑トナリ, ぐらふ本來ノ意味ヲ失フコトガアル。

例 5 作業ノ豫定及ビ進行圖表

各種作業ノ實施=際シ其ノ進行狀態, 人員ノ使用狀況, 機械ノ記録表等ノ作製=當リ

(1) 時間ト豫定トノ關係

(2) 豫定作業量ト毎日ノ出來高トノ關係

(3) 出來高ノ累計ト其ノ時間ト豫定トノ關係

等チ一表ニ示シ得ルナラハ能率増進上極メテ有効デアアル。

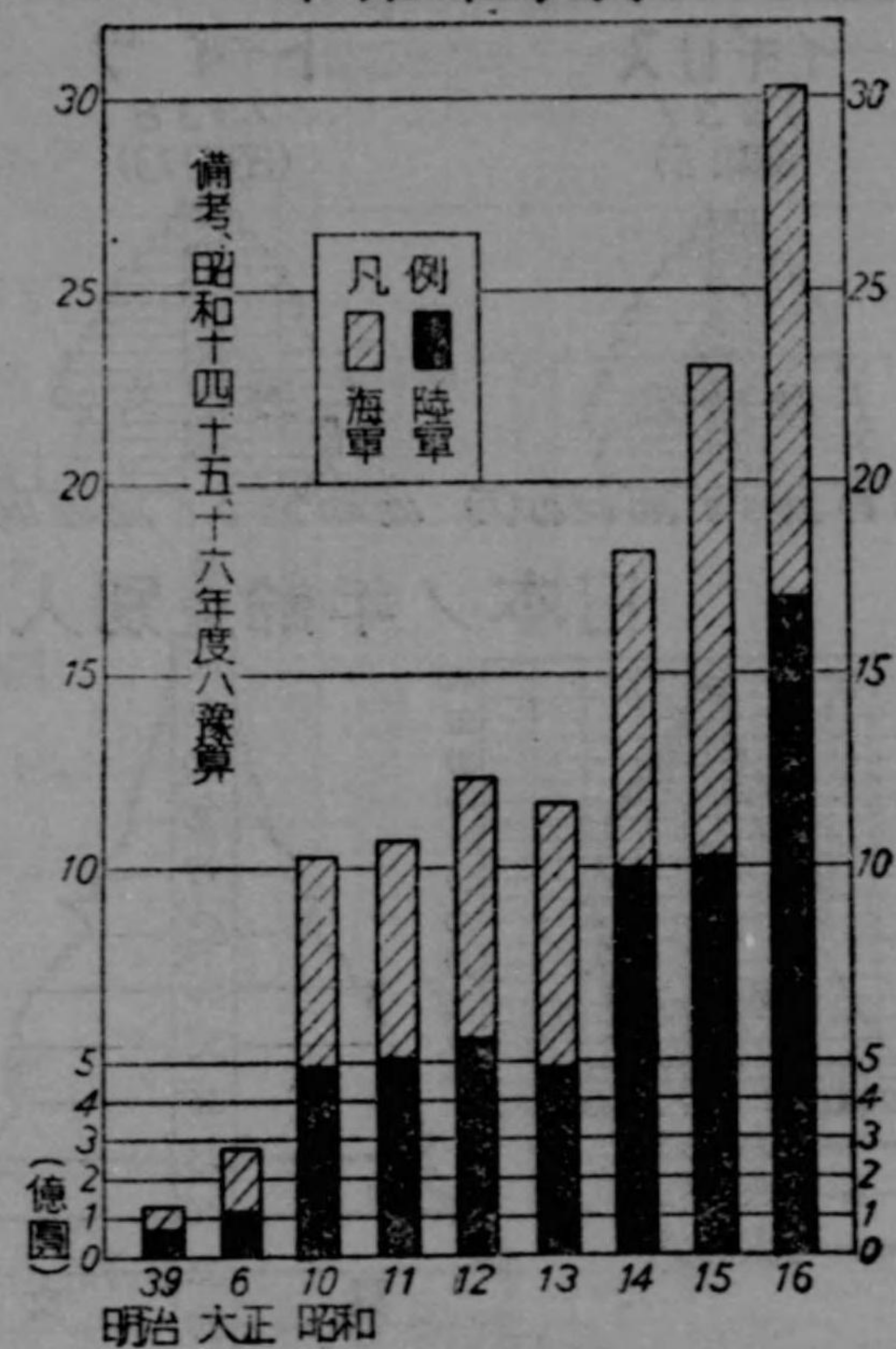
之ガタメ棒ぐらふヲ應用シター方法ヲ示サウ。

今茲ニ次ノ如キ作業豫定ガアルトスル。

日 附	第 1 日	第 2 日	第 3 日	第 4 日	第 5 日
	月	火	水	木	金
作業豫定量	100	125	150	150	150

(イ) 先ヅ表(第9圖)ヲ等分シテ日附欄ヲ作り, 且各日付欄ヲ五

例 4. 本邦軍事費



第 8 圖

等分シ, 次イデ豫定作業量ヲ記入欄ノ左上隅ニ, 又之ガ累計即チ累積豫定量ヲ右上隅ニ記入スル。(以下凡テ計算ハ次頁第一表デ行フモノトスル)

コレデ時間ト豫定量トノ關係ガ分ル。(第9圖)

(ロ) 次ニ毎日ノ豫定ニ對スル實際ノ出來高ノ百分比(第一表比率)即チ $\frac{\text{出來高}}{\text{豫定量}} \times 100$ ヲ求メ之ヲ第9圖(黑細線)ノ如ク記入スル。

即チ第1日ノ欄全體ハ1日ノ豫定量(100%)ヲ示シ實際ノ出來高ハ此ノ日ノ豫定ノ $\frac{75}{100} \times 100 = 75\%$ デアルカラ全欄ノ75%丈ケ線ヲ引ク。以下

同様ニ
 第2日ハ $\frac{100}{125} \times 100 = 80\%$
 第3日ハ $\frac{150}{150} \times 100 = 100\%$
 第4日ハ $\frac{180}{150} \times 100 = 120\%$
 第5日ハ $\frac{75}{150} \times 100 = 50\%$

之ニ依ツテ作業豫定量ト出來高トノ比較及ビ時間トノ關係ヲ知ルコトガ出來ル。

(ハ) 以上ノ二ツノミデハ豫定及ビ出來高ノ累計ノ比較ガ不明デアアル。ソレ故ニ

$$\text{累積作業比率} = \frac{\text{出來高} - \text{前日迄ノ不足高累計}}{\text{豫定量}} \times 100$$

ヲ計算シ之ヲ記入スル。(第9圖黑太線) 但シ累積豫定量, 出來高累計, 不足高累計ハ第一表デ計算スル。

累積作業比率ノ計算及ビ記入

第1日ノ累積作業比率ハ75%デアアルカラ $A_1A_2=75$ トスル。

第2日ノ累積作業比率ハ

$$\frac{100 - 25}{125} \times 100 = \frac{75}{125} \times 100 = 60\%$$

デアアルカラ之ハ第1日ノ不足高ヲ補ツタ上ニ第2日ノ豫定ノ60%ノ出來高

ノアルコトヲ示ス(理由ハ次頁一般の説明参照)カラ A_2A_3 ヲ引キ、尙之ヲ $A_3A_4=60$ 迄延長スル。

第3日ノ累積作業比率ハ

$$\frac{150-50}{150} \times 100 = \frac{100}{150} \times 100 = 67\%$$

テアルカラ之ハ第2日迄ノ不足累計ヲ補ツタ上ニ此ノ日ノ豫定ノ67%ノ出来高ノアルコトヲ示スカラ A_4A_5 ヲ補ヒ且之ヲ $A_5A_6=67$ 迄延長スル。

第4日ノ累積作業比率ハ

$$\frac{180-50}{150} \times 100 = \frac{130}{150} \times 100 = 87\%$$

テアルカラ之ハ第3日迄ノ不足高ヲ補ツタ上ニ此ノ日ノ豫定ノ87%ノ出来高ノアルコトヲ示スカラ A_6A_7 ヲ補ヒ且之ヲ $A_7A_8=87$ 迄延長スル。

第5日ノ累積作業比率ハ

$$\frac{75-20}{150} \times 100 = \frac{55}{150} \times 100 = 37\%$$

テアルカラ之ハ第4日迄ノ不足高ヲ補ツタ上ニ此ノ日ノ豫定ノ37%ノ出来高ノアルコトヲ示スカラ A_8A_9 ヲ補ヒ且之ヲ A_9A_{10} 迄延長スル。

從ツテ第5日迄ノ作業ニ於テハ作業ガ豫定ヨリ後レルコト第5日ノ豫定量ノ $100-37=63\%$ ナルコトガ分ル。

圖表作製ノタメ必要ナル計算ハ次表ノ如ク行フ。

第一表 作業比率及ビ累積作業比率計算例

日	(a) 豫定量	(b) 出来高	(c) 比率	(d) 累積 豫定量	(e) 出来 高累計	(d-e) 不 足高累計	(F) 累積 作業比率
1	100	75	75%	100	75	25	75%
2	125	100	80	225	175	50	60
3	150	150	100	375	325	50	67
4	150	180	120	525	505	20	87
5	150	75	50	675	580	95	37

備考 比率(c) = $\frac{\text{出来高}(b)}{\text{豫定量}(a)} \times 100$

累積作業比率(F) = $\frac{\text{出来高}(b) - \text{前日迄ノ不足高累計}(d-e)}{\text{豫定量}(a)} \times 100$

以上ノ計算ニヨツテ次ノ圖表ヲ作ル。

作業豫定及進行圖表

作業日数累計	1	2	3	4	5
曜日	月	火	水	木	金
予定量	100	125	225	375	525
累積予定量		125	225	375	525
比率					
累積作業比率	A_1	A_2	A_3	A_4	A_5
	1	2	3	4	5

第9圖

参考 累積作業比率計算説明

(a) 豫定量 (b) 出来高 (d) 累積豫定量

$a_1=100$ $b_1=75$ $d_1=a_1=100$

$a_2=125$ $b_2=100$ $d_2=a_1+a_2=d_1+a_2=225$

$a_3=150$ $b_3=150$ $d_3=a_1+a_2+a_3=d_2+a_3=375$

$a_4=150$ $b_4=180$ $d_4=a_1+a_2+a_3+a_4=d_3+a_4=525$

$a_5=150$ $b_5=75$ $d_5=a_1+a_2+a_3+a_4+a_5=d_4+a_5=675$

(e) 出来高累計

$e_1=b_1=75$

$e_2=b_1+b_2=e_1+b_2=175$

$e_3=b_1+b_2+b_3=e_2+b_3=325$

$e_4=b_1+b_2+b_3+b_4=e_3+b_4=505$

$e_5=b_1+b_2+b_3+b_4+b_5=e_4+b_5=580$

(d-e) 不足高累計

$d_1-e_1=a_1-b_1=25$

$d_2-e_2=(a_1-b_1)+(a_2-b_2)=50$

$d_3-e_3=(a_1-b_1)+(a_2-b_2)+(a_3-b_3)=50$

$d_4-e_4=(a_1-b_1)+(a_2-b_2)+(a_3-b_3)+(a_4-b_4)=20$

$$d_5 - e_5 = (a_1 - b_1) + (a_2 - b_2) + (a_3 - b_3) + (a_4 - b_4) + (a_5 - b_5) = 95$$

(F) 累積作業比率

$$F_1 = \frac{b_1}{a_1} \times 100 = \frac{75}{100} \times 100 = 75\% = A_1A_3$$

$$F_2 = \frac{b_2 - (a_1 - b_1)}{a_2} \times 100 = \frac{b_2 - (a_1 - b_1)}{a_2} \times 100 = \frac{100 - 25}{125} \times 100 = 60\% = A_2A_4$$

$$F_3 = \frac{b_3 - (a_1 - b_1) - (a_2 - b_2)}{a_3} \times 100 = \frac{150 - 50}{150} \times 100 = 67\% = A_3A_6$$

$$F_5 = \frac{b_5 - (a_1 - b_1) - (a_2 - b_2) - \dots - (a_4 - b_4)}{a_5} \times 100 = \frac{75 - 20}{150} \times 100 = 37\% = A_5A_{10}$$

即チ或日ノ累積作業比率トハ其ノ前日迄ノ不足高ヲ補ヒ且其ノ日ノ豫定量ノ何%作業シタカヲ示スモノデアル。

又毎日ノ残り $A_2A_3, A_4A_5, A_6A_7, \dots$ ノ意味ハ

$$A_2A_3 = 100 - F_1 = 100 \left(1 - \frac{b_1}{a_1}\right) = 100 \times \frac{a_1 - b_1}{a_1}$$

$$A_4A_5 = 100 - F_2 = 100 \left(1 - \frac{b_2 - (a_1 - b_1)}{a_2}\right) = 100 \times \frac{(a_2 - b_2) + (a_1 - b_1)}{a_2}$$

$$A_6A_7 = 100 - F_3 = 100 \times \frac{(a_3 - b_3) + (a_2 - b_2) + (a_1 - b_1)}{a_3}, \dots$$

故ニ之等ハ當日迄ノ不足高累計ノ當日ノ豫定ニ對スル百分率デアル。

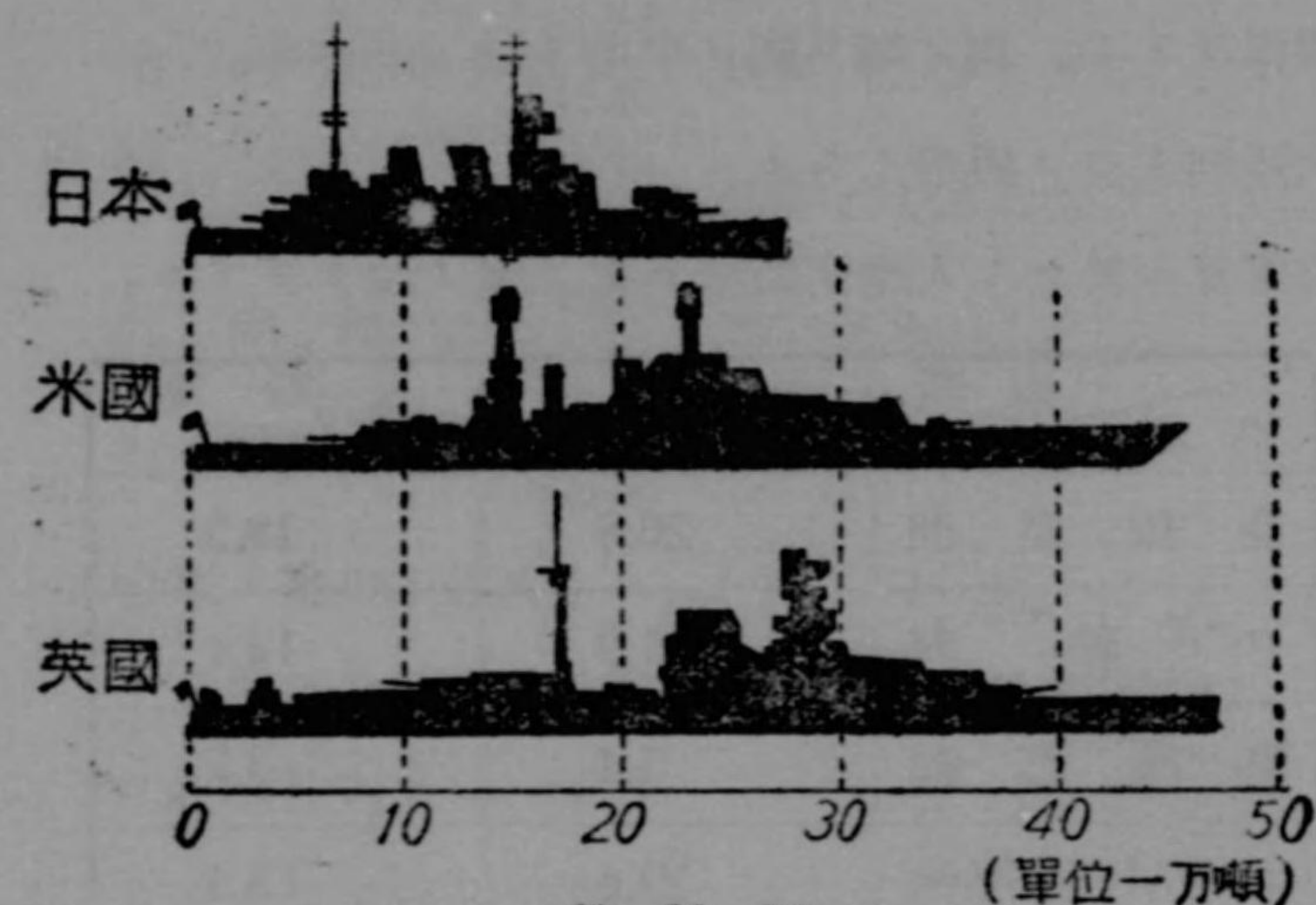
4. 繪ぐらふ

棒ぐらふノ一種デ、宣傳用或ハ一般説明用トシテハ有効デアルガ次ノ缺點ガアル。

(1) 作製勞力ノ大ナルコト。

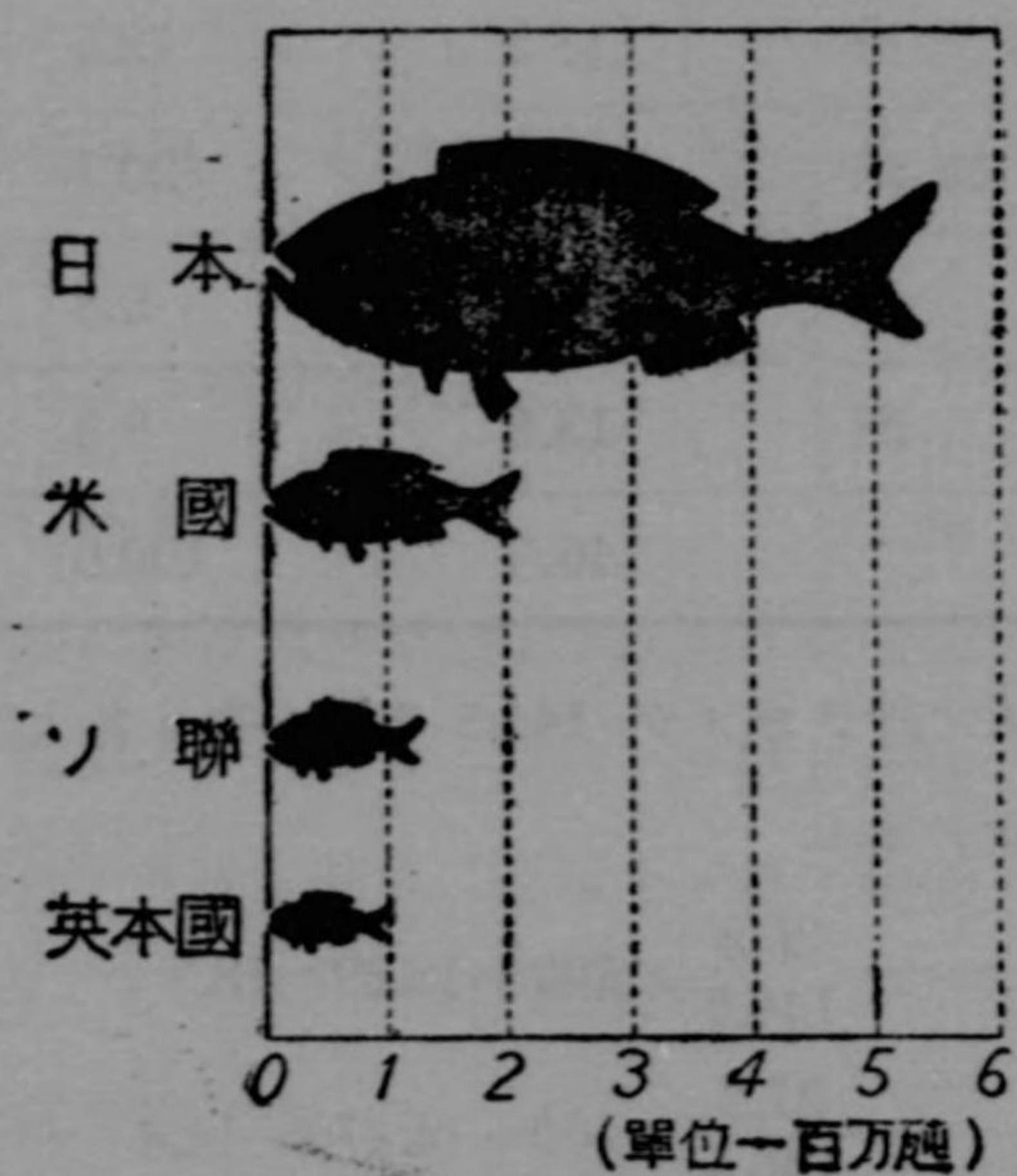
(2) 長サヲ以テ比較スルモノデアルカ、面積或ハ又體積ヲ以テ比較スルモノデアルカ判別シ難イ場合ガアル。斯様ナ場合ニ於テハ數ヲ並記スルカ或ハ比較ノ基準ヲ與ヘル必要ガアル。

例 1. 日英米保有戰艦比較表 (昭和13年)



第 10 圖

例 2. 漁獲高比較表



第 11 圖

5. 扇形ぐらふ

扇形ノ面積ハ圓弧ノ長サ又ハ中心角ノ大サニ比例スルカラ圓周ヲ

百等分シタモノヲ用ヒ、各部ノ全體ニ對スル百分率ヲ求メ、ソレニ應ジテ圓弧ヲトリ、其ノ端ヲ圓ノ中心ト結ンデ作ル。

例 大陸別人口ノ扇形ぐらふ

昭和13年首ニ於ケル大陸別面積ハ次ノ表ノ如クデアル。

名稱	面積 (百萬方呎)	百分率 (%)
亞細亞洲	26.8	18.3
ソ聯邦	21.2	14.4
歐羅巴洲	5.4	3.7
北亞米利加洲	19.6	13.4
中米及西印度	2.8	1.9
南亞米利加洲	18.3	12.5
阿弗利加洲	30.3	20.7
大洋洲	8.6	5.8
南極洲	13.6	9.3
計	146.5	100.0

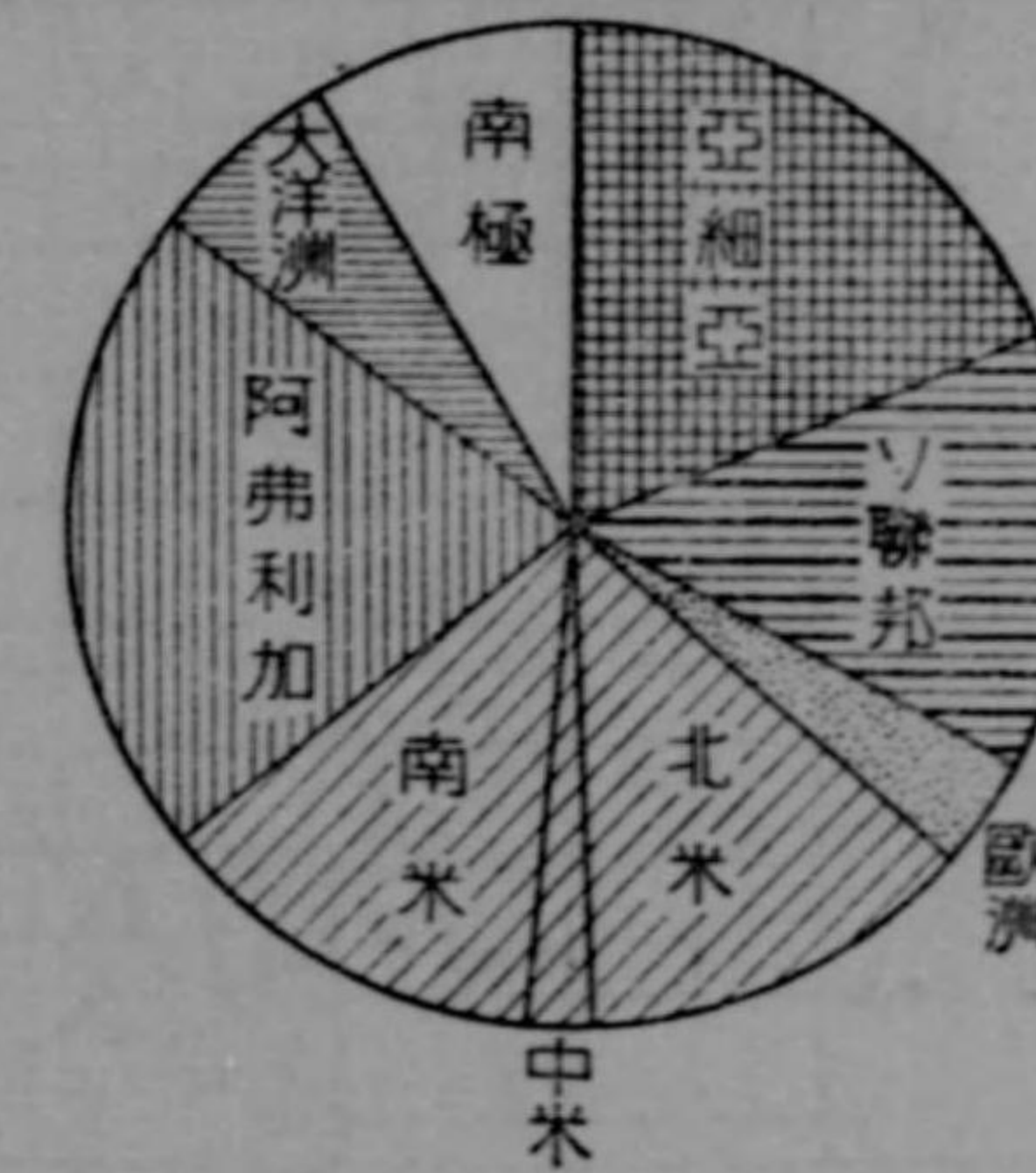
先ヅ全大陸ノ面積ノ計ヲ求メテ 146.5 ヲ得、次ニ各大陸ノ全大陸ニ對スル百分率ヲ求メレバ

$$\begin{aligned} \text{亞細亞洲} & \dots\dots\dots \frac{26.8}{146.5} \times 100 = 18.29 = 18.3 \\ \text{ソ聯邦} & \dots\dots\dots \frac{21.2}{146.5} \times 100 = 14.470 = 14.4 \\ \text{歐羅巴洲} & \dots\dots\dots \frac{5.4}{146.5} \times 100 = 3.68 = 3.7 \\ \text{北亞米利加洲} & \dots\dots\dots \frac{19.6}{146.5} \times 100 = 13.372 = 13.4 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{中米及西印度} & \dots\dots\dots \frac{2.8}{146.5} \times 100 = 1.91 = 1.9 \\ \text{南亞米利加洲} & \dots\dots\dots \frac{18.3}{146.5} \times 100 = 12.49 = 12.5 \\ \text{阿弗利加洲} & \dots\dots\dots \frac{30.3}{146.5} \times 100 = 20.68 = 20.7 \\ \text{大洋洲} & \dots\dots\dots \frac{8.6}{146.5} \times 100 = 5.86 = 5.8 \\ \text{南極洲} & \dots\dots\dots \frac{13.6}{146.5} \times 100 = 9.28 = 9.3 \end{aligned}$$

茲ニ百分率ノ總和ハ理論上ハ100トナルベキモ凡テ小數點第2位以下ヲ四捨五入スレバ計ハ100.2トナルカラソ聯ト大洋洲ハ小數點第二位以下ヲ切捨テ計ガ100トナル如ク補正スル。
コノ百分率ニ應ジテ圓弧ヲトリ其ノ端ヲ中心ニ結ビ付ケレバ右ノ扇形ぐらふガ得ラレル。

大陸別人口
(昭和13年首)



第12圖

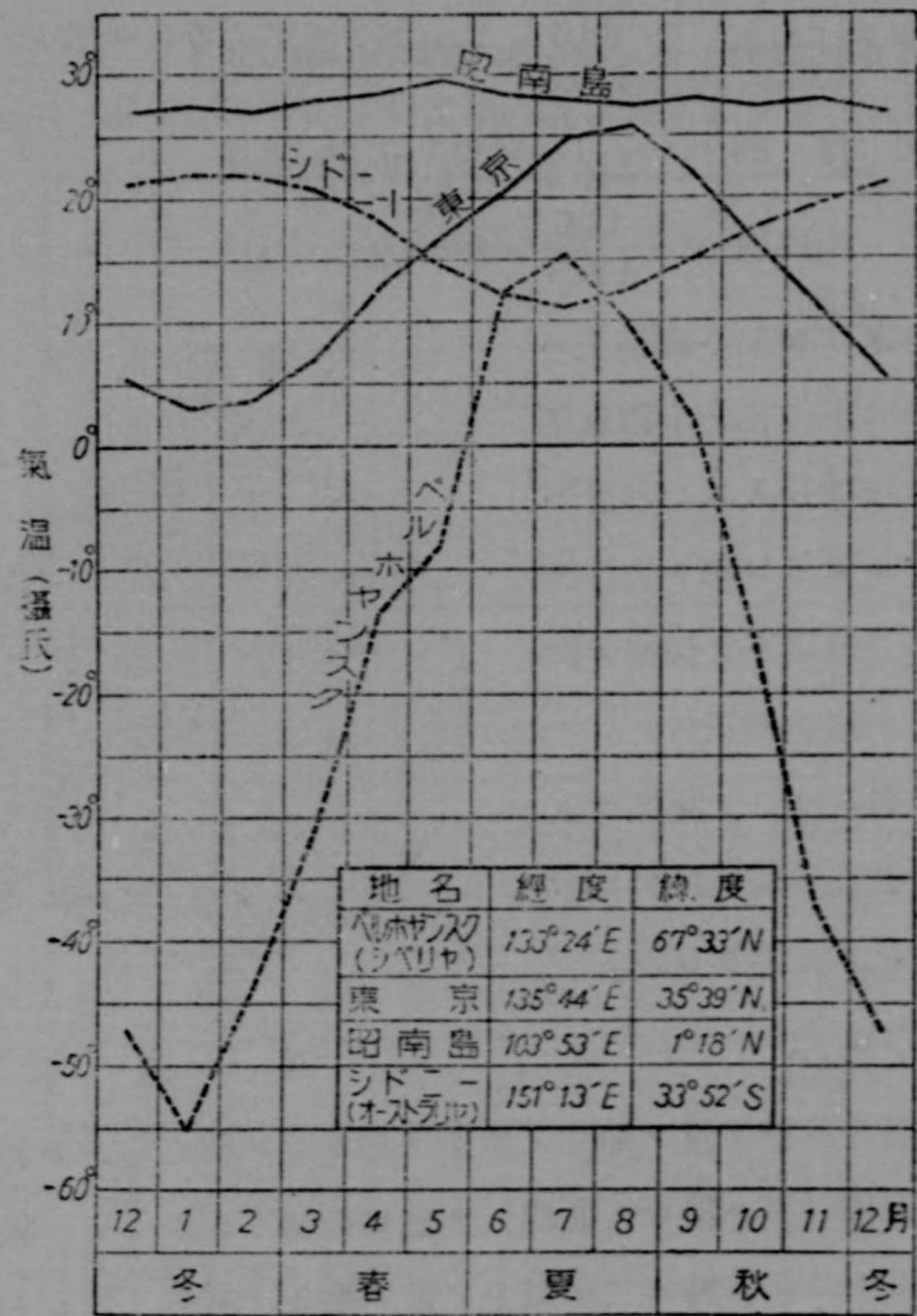
6. 折線ぐらふ

某期間ニ於ケル或ル量ノ變化ノ状態ヲ知ルニハ棒ぐらふヲ省略シテ其ノ端ヲ直線(又ハ滑カナ曲線)デ結ビ折線ぐらふ(又ハ曲線ぐらふ)ヲ作ルトヨイ。特ニ二種以上ノ量ノ變化ノ關係ヲ知ル上ニハ便利デアル。(第13圖ヨリ第19圖參照)

問題 1. 氣温變化表

東徑 100° カラ東徑 150° 附近ニ亙リ寒帶、溫帶、熱帶ニアル四地點ノ一年間ニ於ケル各月平均氣温ヲぐらふデ示セバ次圖ノ如クナル。(東亞地圖參照)

ベルホヤンスク } 一年間日平均気温比較
東京 }
南島 }
シドニー }



第 13 圖

問 1. 各地ノ気温變化ノ状態ヲ研究セヨ。各々ノ最高気温及ビ最低気温ノ差ヲ測リ、又之等ガ自然及ビ人生ニ及ボス影響ヲ考ヘヨ。

問 2. 各地ノ最低、最高気温ヲ示ス月ヲ調べ又気温ノ變化ノ激シサヲ比較シテ考ヘヨ。

問 3. 四季ノ變化ハ各地共ニアルカ。

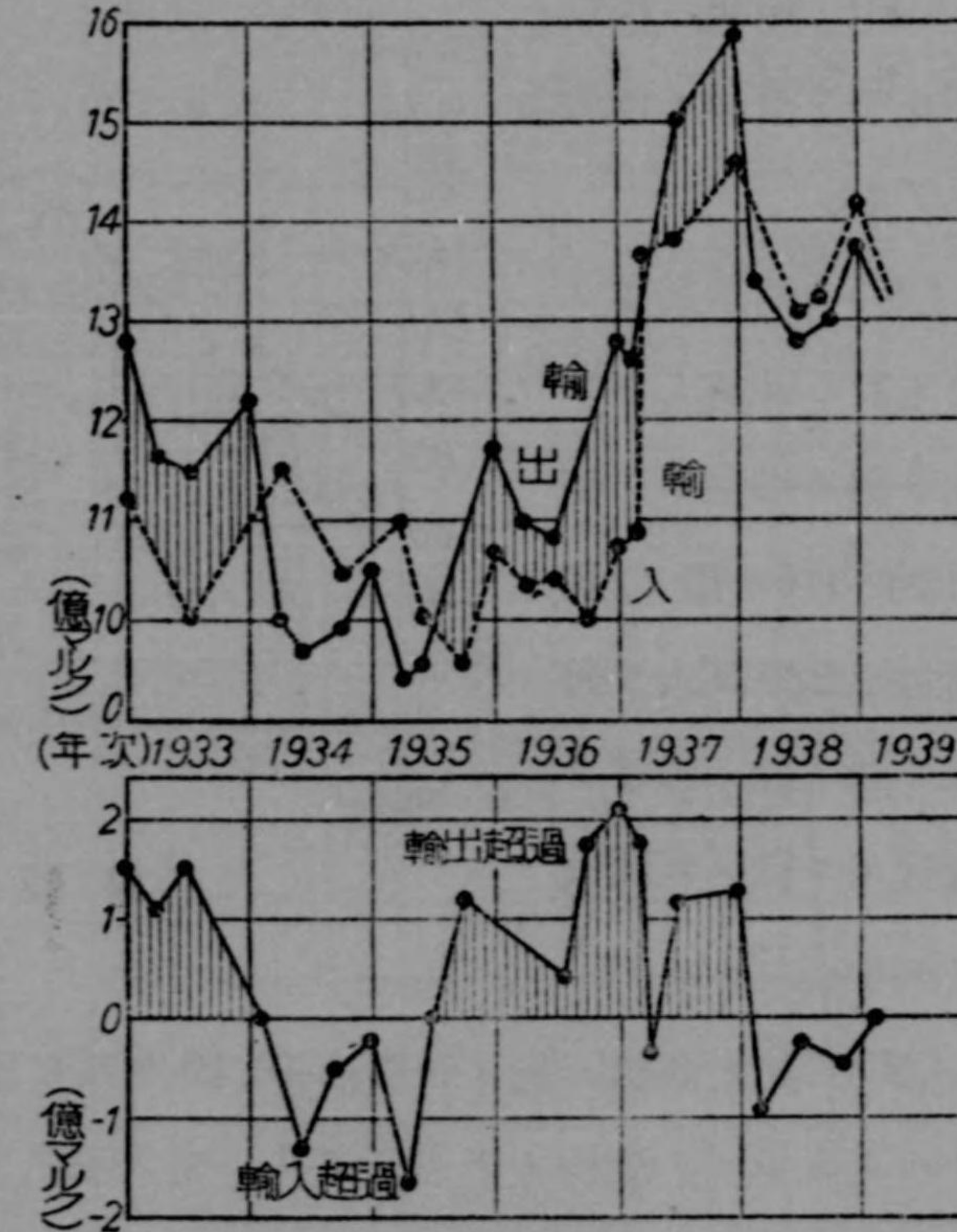
問 4. 北半球ニアル東京ト南半球ニアル「シドニー」トノ四季ヲ比較セヨ。日本ノ冬、春、夏、秋ハ夫々「シドニー」デハ如何ナル季節カ。

以上ノ研究ニ依リ日本ガ如何ニ自然ニ恵マレテキルカガ分ルデアラウ。

問題 2 「ナチスドイツ」ノ對外貿易

右圖ハ「ナチスドイツ」トナツテカラ
 1939年春迄ノ同國檢出入情況デアル。
 1933年中ハ未ダ本格的ナル「ナチ」ノ經濟組織ハ現ハレズ輸出増加デアルガ輸出入共ニ數字ガ小サイ。
 1934年ト1935年前半ニ於テハ四ヶ年計畫ノ強力ナル遂行ト軍備ノ極秘着手ノタメ輸出能力ヲ著シク減ジ輸入超過トナリ
 1935年ノ後半以後ハ指導經濟ノ效果漸ク現ハレ輸出超過ノマ

ナチスドイツ對外貿易ぐらふ
(但シ「オーストラリア」トノ貿易ヲ除ク)



第 14 圖

マ輸出入共漸増ノ方向ニ轉ジ1937年後半ニ於テ其ノ頂點ニ達シテキル。當時ハ其ノ軍備ニ漸ク自信ヲ持ツタ「ナチスドイツ」ガ極度ニ輸出ヲ獎勵シ乍ラ莫大ナル食料、燃料ヲ輸入シテ萬一ニ備ヘタ情況ガ明カデアル。1938

年カラ僅カ作ラ輸入超過ニ轉ジタノハ愈々「ポーランド」其ノ他ニ對シ實力行使ノ止ムヲ得ザルヲ覺悟シテ更ニ高度ノ軍備擴充ト食料其ノ他ノ輸入ニ着手シタタメ輸出能力ヲ漸減シ來ツタコトヲ表ハシテキル。(森川氏、「ナチスドイツ」ノ解剖参照)

問題 3. 本邦(内地)ノ出生, 死亡及ビ人口自然増加

第15圖ヲ見テ次ノ

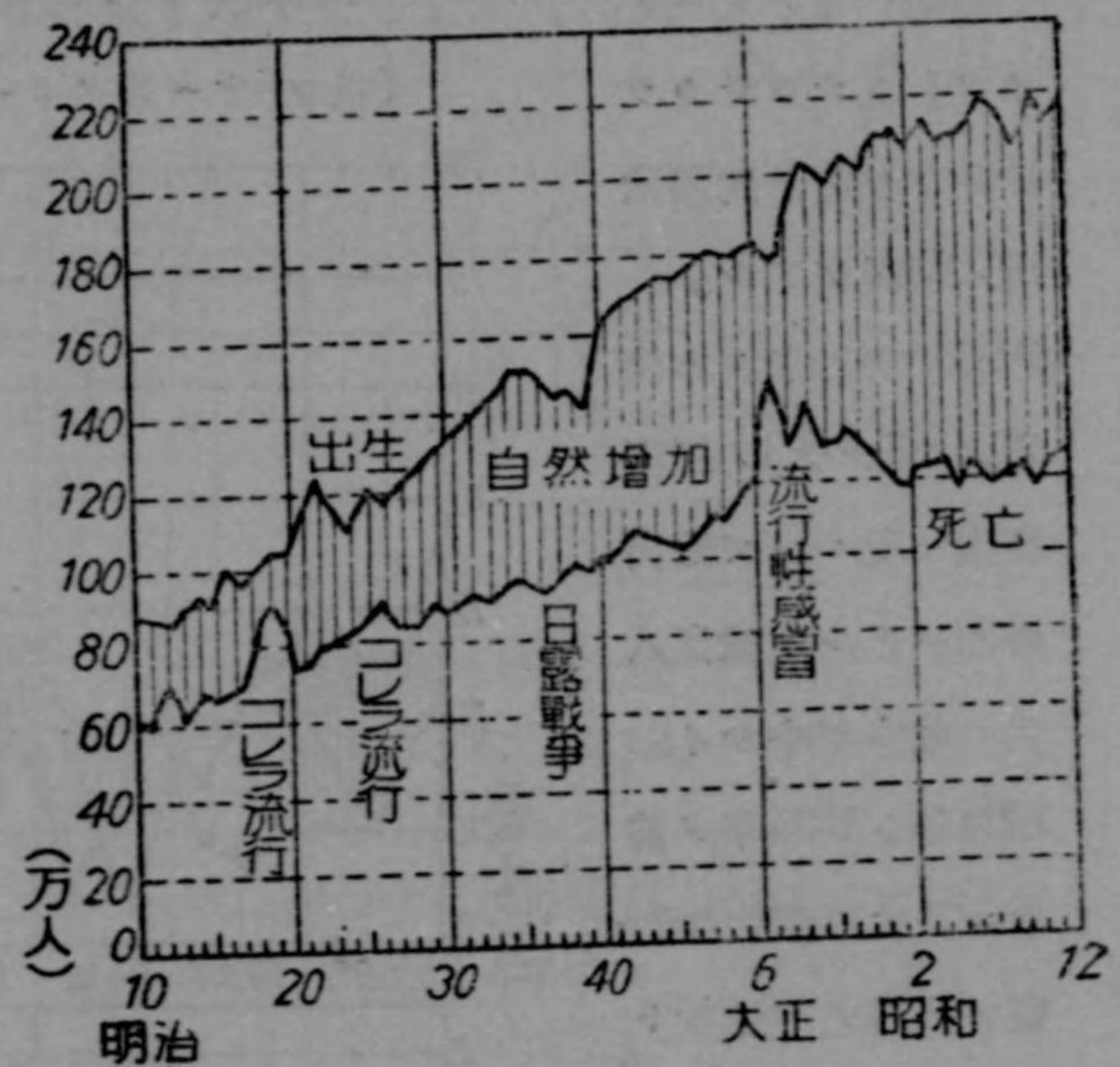
事柄ガ分ル。

(1) 出生, 死亡共ニ年々増加ノ傾向ニアル。

(2) 明治10年ノ出生數ハ90萬人デア
ルガ年々増加シテ昭和2年以後ハ概ネ210萬乃至220萬人デ將來モ概ネ此ノ數字ヲ持續スル様ニ判斷セラレル。

(3) 死亡曲線ニ就イテ明治18, 19年及ビ同25年ニ死亡數ノ多イノハ「コレラ」流行ノタメデアリ, 又大正7, 9年ニハ流行性感胃ノタメ多數ノ死亡者ヲ出シテキル。日露戰爭デハ4.5萬ノ戰死者ヲ出シタガ其ノ年齡ハ概ネ青壯年ニ限リ國民全體ヨリ見レバ死亡曲線ハ左程影響ヲ受ケテラナイコトヲ知ル。然シ乍ラ此ノ間ニ於ケル出生數ノ減少ハ認メラレル。

本邦(内地)ノ出生, 死亡及ビ自然増加

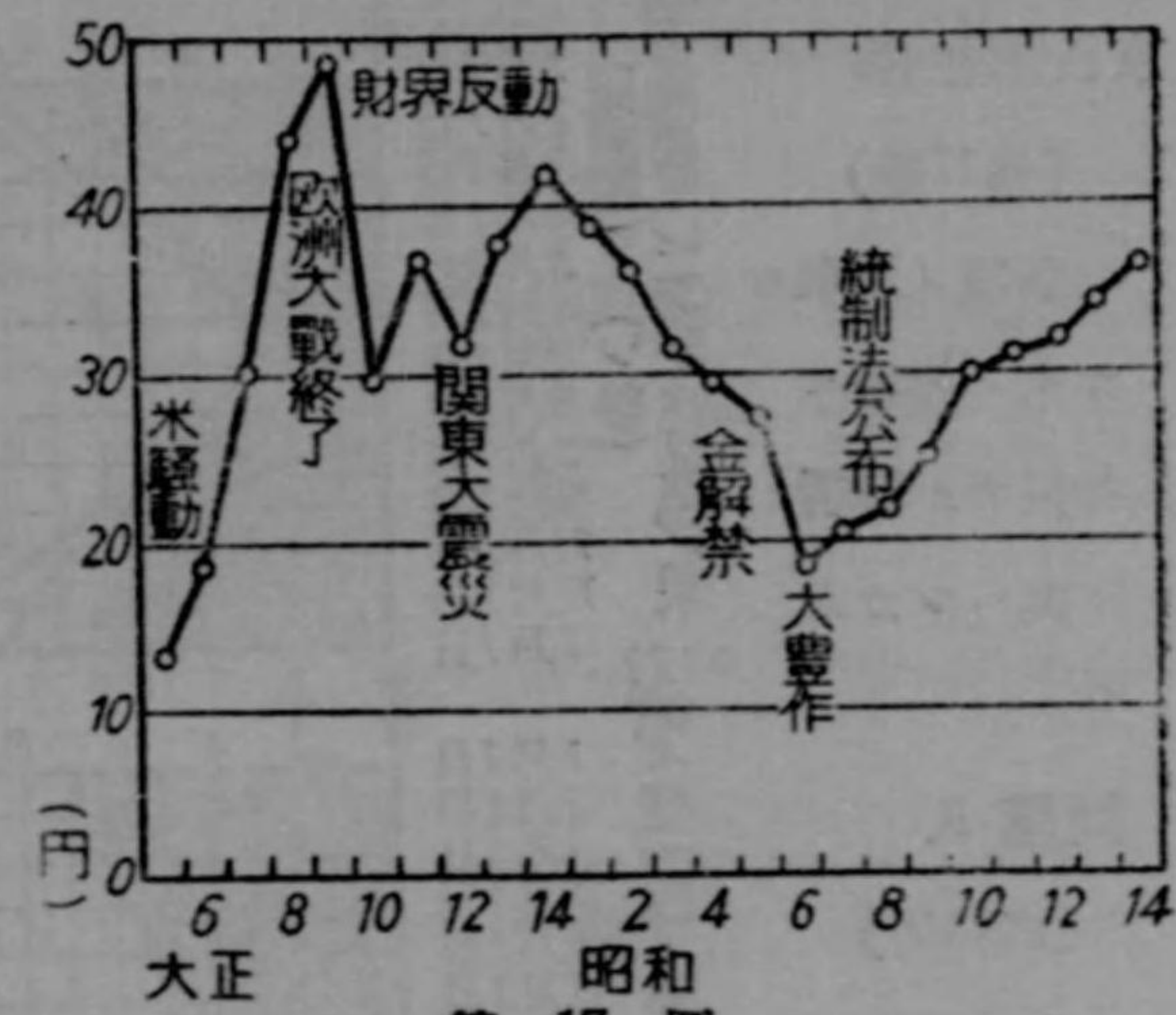


第 15 圖

最近ノ死亡者ハ毎年概ネ120萬人デ將來モ同程度ト判斷セラレル。

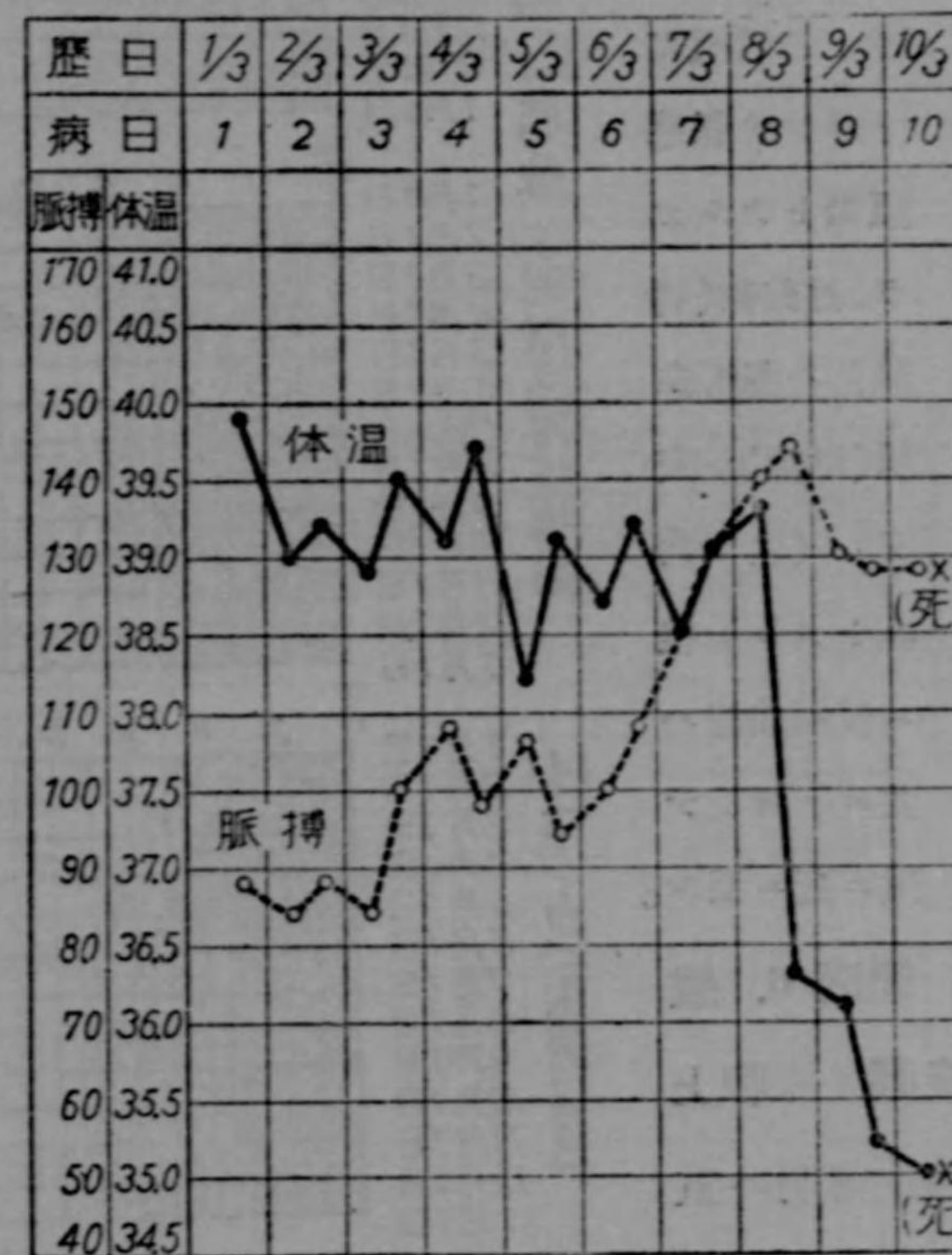
(4) (出生數)-(死亡數)ヲ人口ノ自然増加トイヒ其ノ一年間ニ於ケル人口ノ増加ヲ示ス。出生數及死亡數ガ漸増ノ傾向アルノミデハ効果ナク, 此ノ自然増加數ノ増加コソ國力發展ノ基礎デアル。明治以來之モ亦漸増ノ傾向ニアツタガ, 昭和2年頃ヨリ概ネ90萬人程度デ停止ノ状態ニアル。其ノ原因ノ探求ト之ガ排除及ビ多産ノ獎勵, 衛生施設ノ完備ニ依ル死亡特ニ乳幼兒ノ死亡防止ニ依リ益々此ノ自然増加ヲ増大シ國力發展ノ基礎ヲ確立スベキデアル。

東京正米相場ノ變動



第 17 圖

發疹「チブス」ニ於ケル虛脱體温



第 18 圖

問題 4. 東京正米相場

(第17圖)

各種ノ現象ガ米ノ相場ニ如何ナル影響ヲ與ヘルカガ分ル。

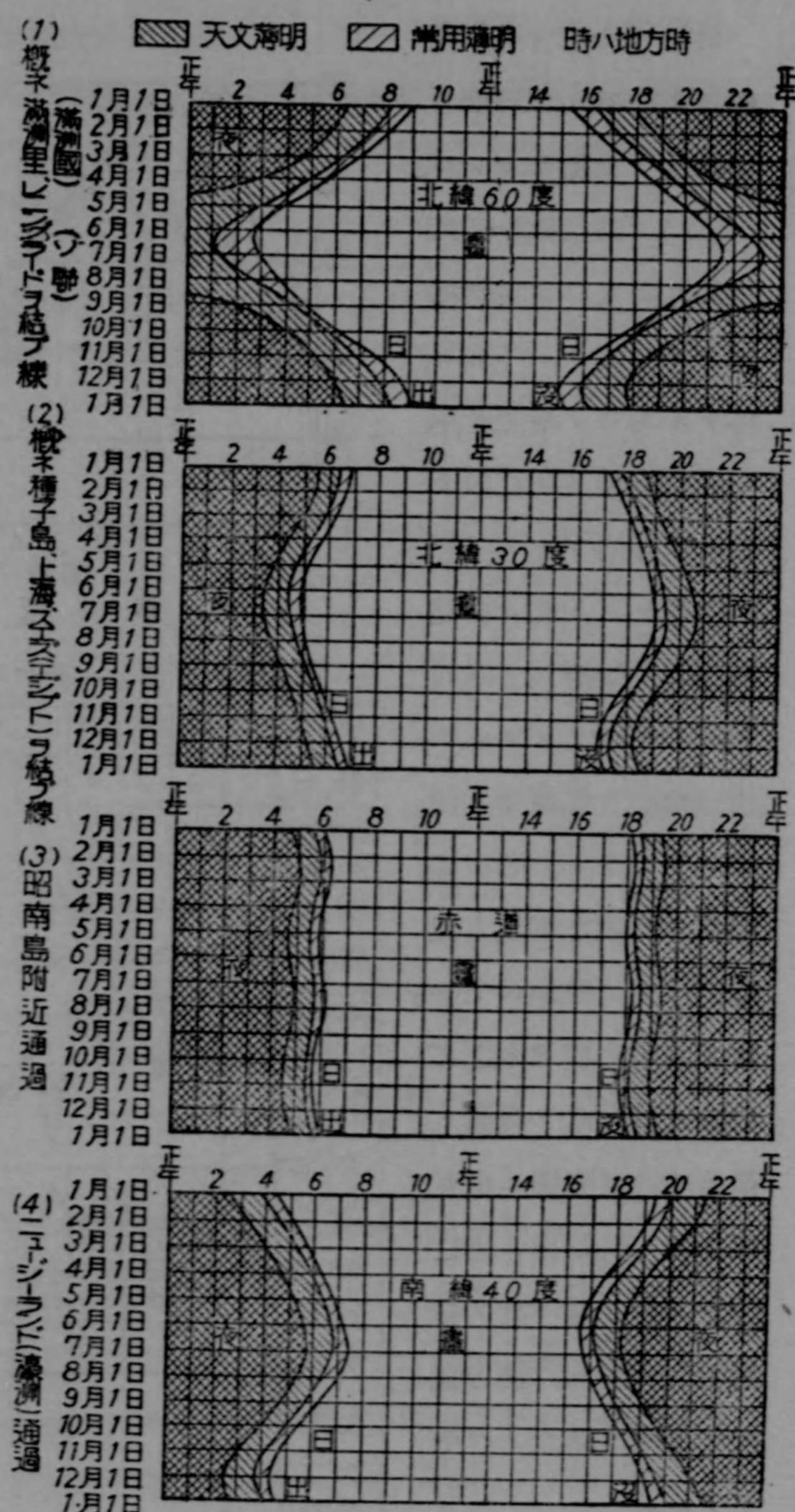
問題 5.

(第18圖)

熱度表ヲ見ルニ虚脱ノ際多クハ体温ガ下降シテ脈搏頻繁トナルカラ、熱曲線(實線)ハ脈搏曲線(點線)ト交叉シ(之ヲ凶兆トスル)後ニ又兩曲線ハ共ニ下降シテ遂ニ死ニ至ル。

問題 6. 晝夜圖

(作戰上特ニ薄明ハ重要視セラレル)



第 19 圖

第19圖ハ何レモ横軸ニ地方時、縦軸ニ一年ノ日ヲトリ日出、薄明、日没、夜ノ時間ヲ連ネテ得タ圖表デアル。四個ノ圖ヲ比較研究スルコトニ依リ次ノ事柄ガ分ル。

- (1) 赤道附近ニ於テハ一年ヲ通ジ晝、夜ノ時間ハ概ネ相等シイ。
- (2) 北緯ノ度ガ高クナルニ從ヒ内地ノ夏ノ頃ノ夜ハ短ク、冬ノ夜ハ長クナル。
- (3) 南緯ノ度ガ高クナルニ從ヒ夏ノ夜ハ長ク、冬ノ夜ハ短ク北半球ト反對デアル。
- (4) 緯度ガ進ンデ北極及ビ南極ニ於テハ半年ハ夜、残り半年ハ晝デ南北兩極ニ於テハ其ノ時期ガ相反スル。

問題 本節問題1ノ氣温表ト對照シテ緯度ト日照時間ノ長短、氣温トノ關係ヲ研究セヨ。

7. ぐらふ描畫上ノ注意

自動車ノ「エンヂン」ニ關シ次ノ値ヲ得タトスル。

機關毎分回轉數 (R.P.M)	600	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700	1800
實馬力 (B.H.P)	17	21.7	24.5	27.5	30.5	34.2	36.5	38.9	41.8	43.9	46.5	48.0	50.0
回轉力 (馬・米)	21.4	21.6	21.9	22.1	22.2	22.1	21.9	21.6	21.3	20.9	20.5	20.2	19.6
燃料消費量 (立)	38	37.5	37.1	37.1	37.0	36.9	36.9	37.0	37.1	37.2	37.5	37.9	38.1

之ヲ一ツノぐらふニ表ハス場合ノ例ニ就イテ一般ニぐらふ描畫上ノ注意ヲ述ベル。(第20圖参照)

- (1) 内容ヲ適確ニ表ハス題名ヲ附スルコト。
自動車機關ノ特性曲線
- (2) 機關毎分ノ回轉數ガ基礎ニナツテキルカラ之ヲ横軸上ニト

リ他ノ三量即チ實馬力、同轉力、燃料消費量ヲ縱軸上ニトル。

(3) 機關同轉數ハ600ヨリ1800迄デアルカラ横軸ノ目盛ハコノ間丈ケニスル。(不要ノ目盛ハ記サナイ)

(4) 實馬力ハ17以上50迄デアルカラ縦軸上例ヘバ10カラ50迄トスル。(同上)

(5) 兩軸上ノ目盛ノ單位ハ適當ニ撰ブ。(必ズシモ等シクスル必要ハナイ)

(6) 同轉力、燃料消費量ハ適當ナ位置ニ撰ンデ明瞭ニ畫ク。兩者ノ數値ハ其ノ範圍何レモ小デアルカラ必要目盛丈ケヲ目盛ル。

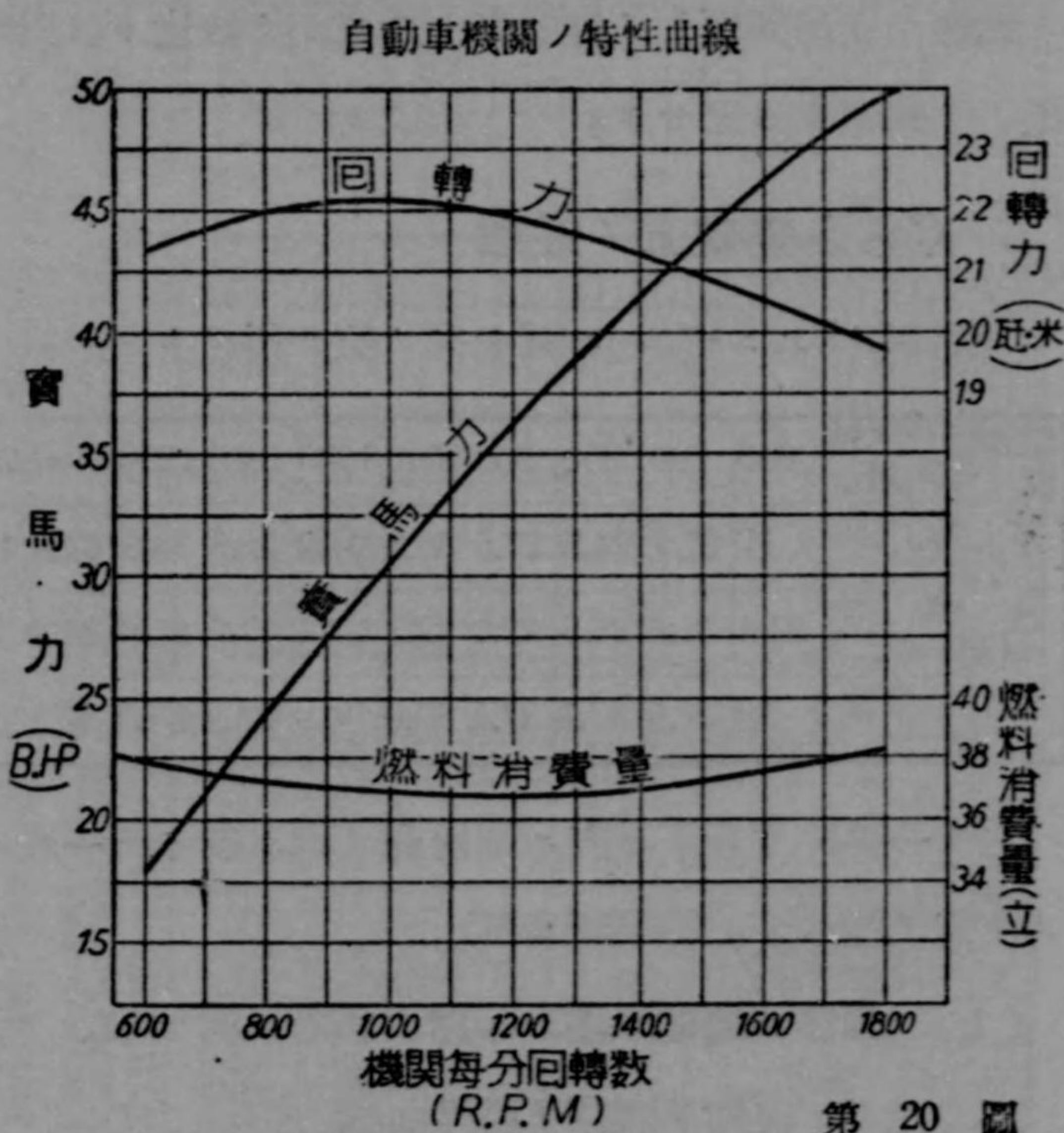
(7) 各目盛ニ沿ヒ其ノ名稱ト單位トヲ明記スル。

(8) 表ニ

基イテ各點ヲ
トリ之等ヲ滑
カナル曲線デ
結び、コレニ
沿ヒ名稱ヲ附
ケル。

要スルニぐ
らふハ正確デ
アルト共ニ一
目瞭然タルコ
トガ缺クベカ
ラザル要件デ

アルカラ其ノ都度工夫ヲスルコトガ肝要デアル。



第 20 圖

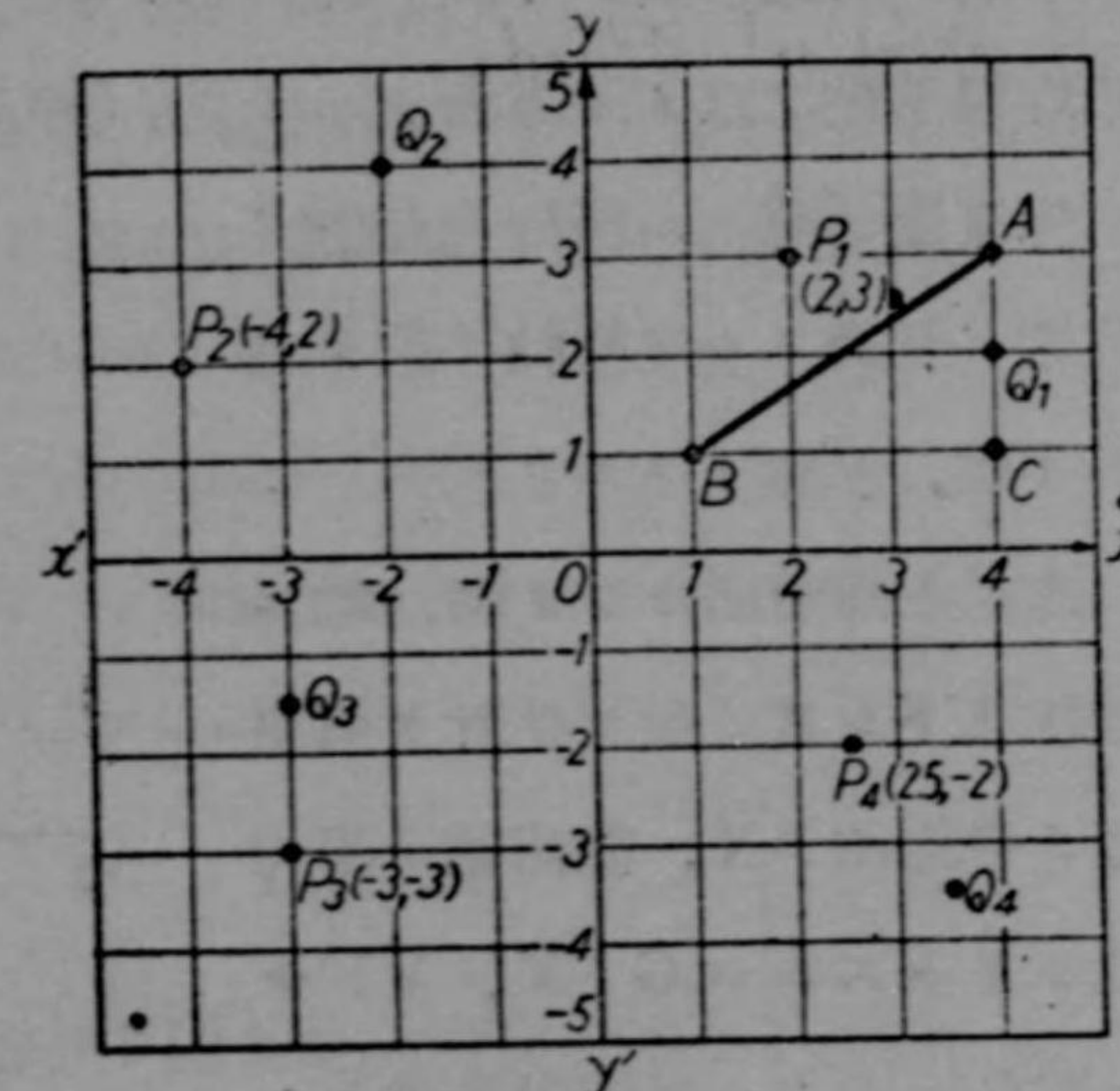
第二章 直線ぐらふ

8. 直角座標

平面上ノ點ノ位置ヲ示スノニ其ノ平面上ニ直交スル二直線ヲ定メ其ノ點ヨリ此ノ二直線ニ到ル距離ヲ以テスルコトガアル。

即チ水平ナル直線(通常之ヲ横軸又ハx軸トイフ)ト之ニ直交スル直線(通常之ヲ縦軸又ハy軸トイフ)トヲ引キ其ノ交點Oヲ原點、二直線ヲ座標軸トイヒ、此ノ上ニ原點ヨリ始メテ適當ナル單位(兩軸上ノ單位ハ必ズシモ等シクナクテモヨイ)ヲ以テ目盛ヲ施ス。

此ノ時通常x軸ニ於テハ原點ヨリ右ニ正、左ニ負ノ目盛ヲ施シy軸ニ於テハ原點ヨリ上ニ正、下ニ負ノ目盛ヲ附ケル。之ヲ直角座標軸トイフ。



第 21 圖

第21圖ニ於テ點P₁ハ原點ヨリ右ニ2(或ハy軸ヨリ右ニ2)、原點ヨリ上ニ3(或ハx軸ヨリ上ニ3)ノ距離ニ在ル。

此ノ時2ヲP₁ノ横座標又ハx座標、3ヲP₁ノ縦座標又ハy座標トイヒ纏メテ次ノ如ク記ス。 P₁(2,3)

又P₂ノ横座標ハ-4、縦座標ハ2、故ニ P₂(-4,2)

同様ニ P₃(-3,-3)

P₄(2.5, -2)

等ト記ス。原点Oノ座標ハ(0,0)トナル。尙斯克ノ如ク座標軸ヲ設ケタ平面ヲ座標平面トイフ。

問 前圖ニ於テ點 Q₁, Q₂, Q₃, Q₄ ノ座標如何。

答 Q₁(4, 2), Q₂(-2, 4)

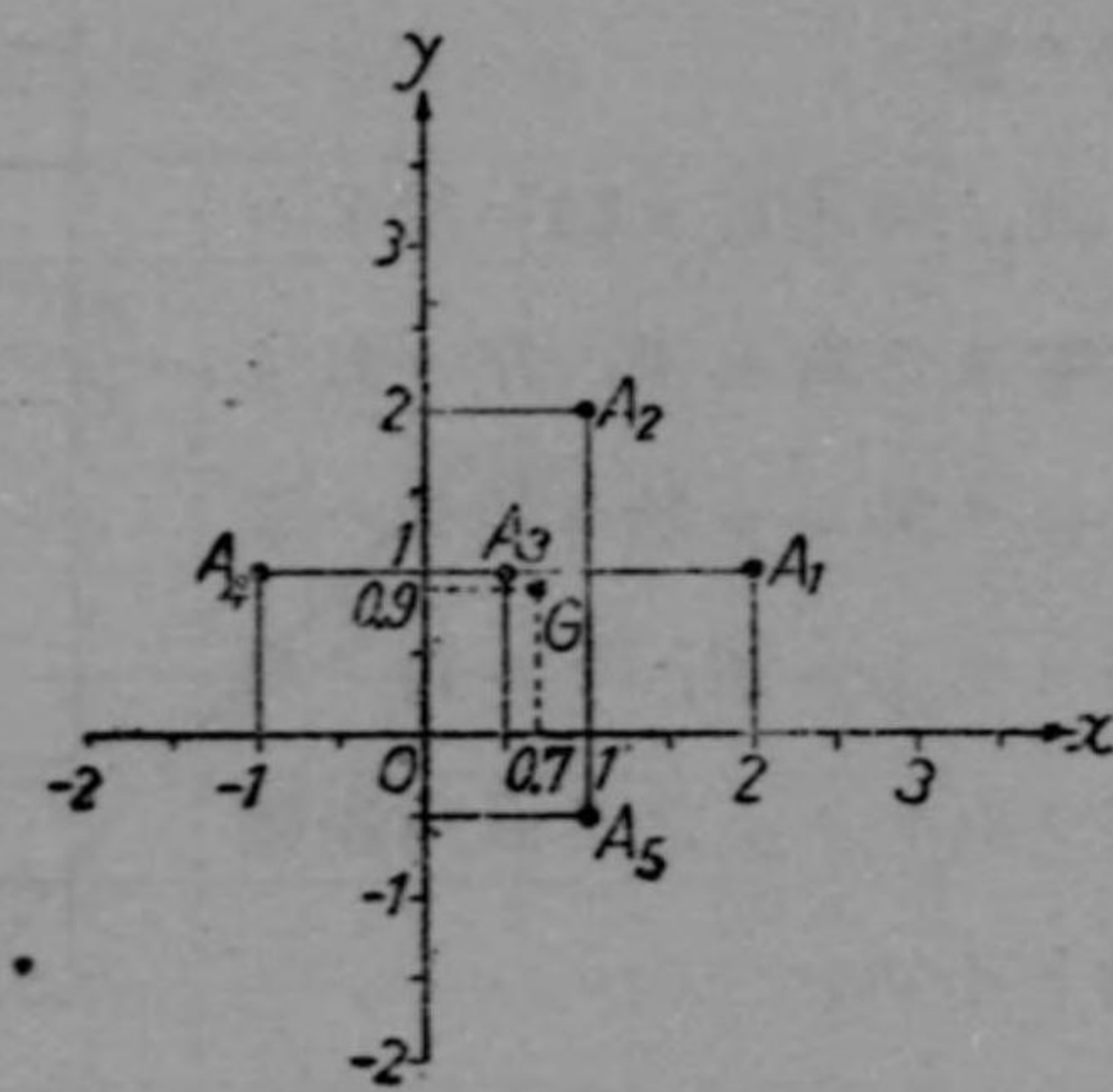
Q₃(-3, -1.5), Q₄(3.5, -3.5)

9. 平均彈着點ノ求メ方

小銃ノ射撃ニ於テ下圖ノ様ナ彈痕圖ヲ得タ時彈痕ノ座標ヲ測ツテ平均彈着點ヲ求メル方法ヲ示サウ。(諸兵射撃教範第一部第三十一)

彈痕圖ヲ有スル紙面上任意ノ位置ニ直交スル座標軸ヲ設ケ之ヲx軸, y軸トスル。

次ニ各彈着點カラx軸, y軸ニ垂線ヲ下シ其ノ長サヲ計リ横座標ノ平均値ヲ \bar{X} , 縦座標ノ平均値ヲ \bar{Y} トスレバG(\bar{X} , \bar{Y})ナル點Gハ求ムル平均彈着點トナル。今實測ノ結果彈痕 A₁, A₂,



第 22 圖

A₃, A₄, A₅ノ兩軸ヨリノ距離即チ座標ガ

A₁(2, 1), A₂(1, 2), A₃(0.5, 1), A₄(-1, 1), A₅(1, -0.5)

デアツタトスレバ

$\bar{X} = \frac{\text{横座標ノ和}}{\text{彈數}} = \frac{2+1+0.5+(-1)+1}{5} = \frac{3.5}{5} = 0.7$

$\bar{Y} = \frac{\text{縦座標ノ和}}{\text{彈數}} = \frac{1+2+1+1+(-0.5)}{5} = \frac{4.5}{5} = 0.9$

故ニ點G(0.7, 0.9)ハ求ムル平均彈着點デアル。

10. 二點間ノ距離

第21圖デ A, B 二點間ノ距離ヲ求メルニハ

BC=4-1=3, CA=3-1=2

故ニ「ピタゴラス」ノ定理ヨリ

BA=√BC²+CA²=√3²+2²=√13≈3.6

一般ニ二點 P₁(x₁, y₁), P₂(x₂, y₂) ノ距離ハ次式デ與ヘラレル。

P₁P₂=√(x₂-x₁)²+(y₂-y₁)²

例 1 軒方眼ヲ施シタ五萬分ノ一地圖ニ於テ例ヘバ横座標ガ 563.7 軒, 縦座標ガ 534.3 軒ノ點ヲ軍事上(X563.7, Y534.3)ト記ス習慣ガアル。二點 A(X563.7, Y534.3), B(X582.5, Y530.6) ノ距離ヲ求メヨ。

解 AB=√(563.7-582.5)²+(534.3-530.6)²
=√193.21+13.69 =√206.90 ≈14.3(軒).....(答)

A, B 共ニ兩座標ノ百位數ハ5デ等シイカラコノ時ハ5ヲ省イテヨイ。

11. 直線ぐらふ

自動車ガ毎時 20km ノ速サデ進ム時, 所要時間ヲ t(時), 其ノ間ニ進ム距離ヲ S(km)トスレバ S ト t トノ間ニハ次ノ關係ガアル。

S=20t 或ハ $\frac{S}{t}=20$

此ノ様ナ場合ニ於テハ時間ヲ 2倍, 3倍, 4倍, …… $\frac{1}{2}$ 倍, $\frac{1}{3}$ 倍, ……等トスレバ距離ハ同ジク 2倍, 3倍, 4倍, …… $\frac{1}{2}$ 倍, $\frac{1}{3}$ 倍, ……等トナル。斯克ノ如キ關係ヲ有スル二ツノ量ハ互ニ正比例スルトイフ。

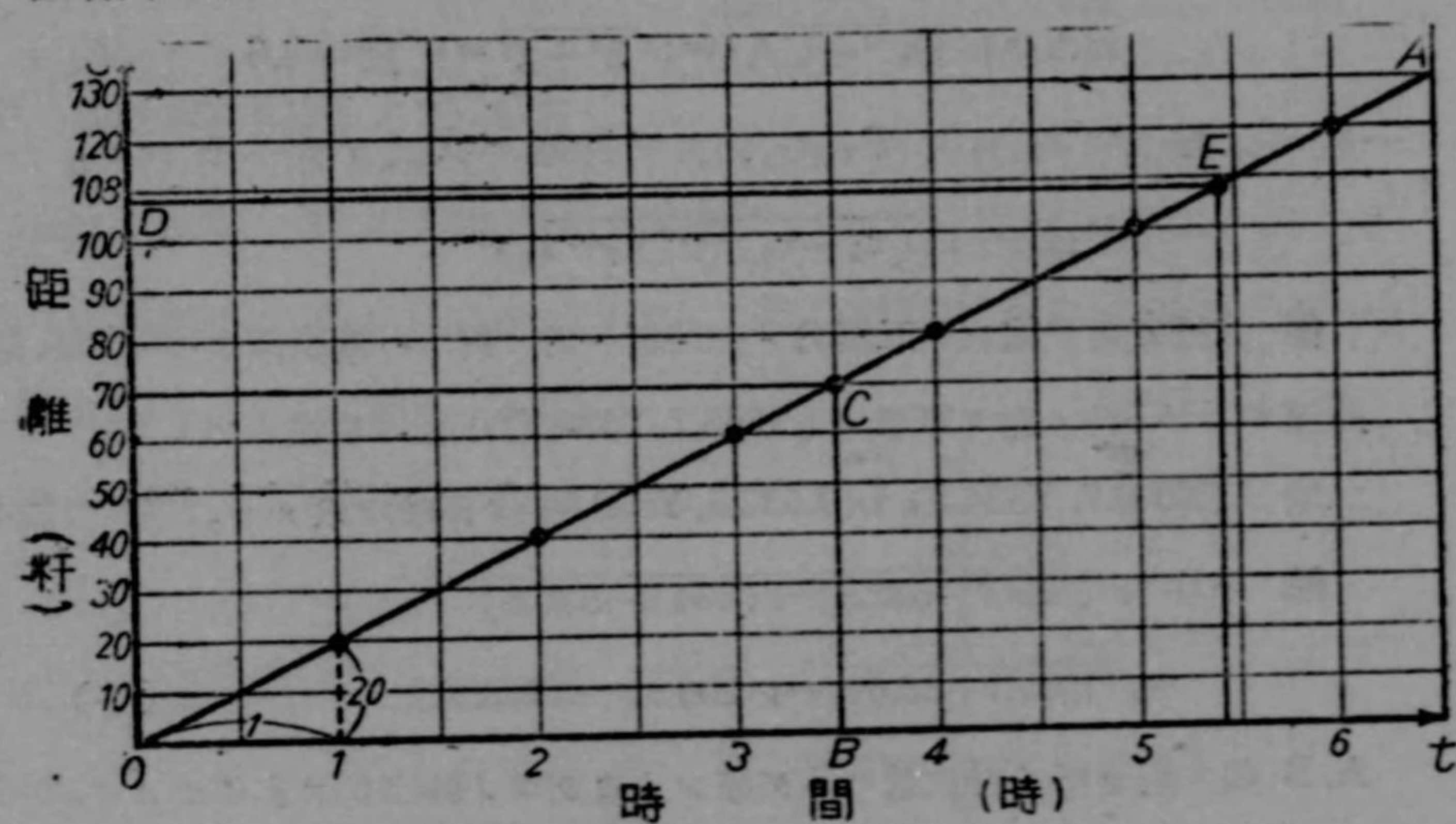
今 t ノ變化ニ伴フ S ノ變化ヲ表ニ作レバ

時間(t時)	1	2	3	4	5	6.....
距離(Skm)	20	40	60	80	100	120.....

トナル。茲ニ於テ時間ヲ横座標、距離ヲ縦座標トスル點

$$(1, 20), (2, 40), (3, 60), (4, 80), (5, 100), (6, 120), \dots (1)$$

ヲ座標平面上ニトレバ各點ハ一直線OA上ニアルコトヲ知ル。



第 23 圖

何トナレバ對應スルSトtトノ値ノ比ハ凡テ 20 = 等シク從ツテ (1)ノ各點ト原點トヲ結ブ直線ノ傾斜ハ何レモ 20 デアル。故ニ各點共ニ原點ヲ通り傾斜ガ20デアル直線OA上ニアル。

コノぐらふヲ利用シテ所要時間ヲ與ヘテ距離ヲ、距離ヲ與ヘテ所要時間ヲ求メルコトガ出來ル。

例 1 3.5時間ニ進ム距離ハ横軸上3.5ノ點Bヨリ垂線ヲ立テ直線OAトノ交點Cノ縦座標ヲ讀ミ70kmヲ得ル。コレガ求ムル距離デアル。

例 2 108kmヲ行クニ要スル時間ハ縦軸上108ノ點Dヨリ横軸ニ平行線ヲ引キ直線OAトノ交點Eノ横座標ヲ讀ミ5時24分ガ得ラレル。

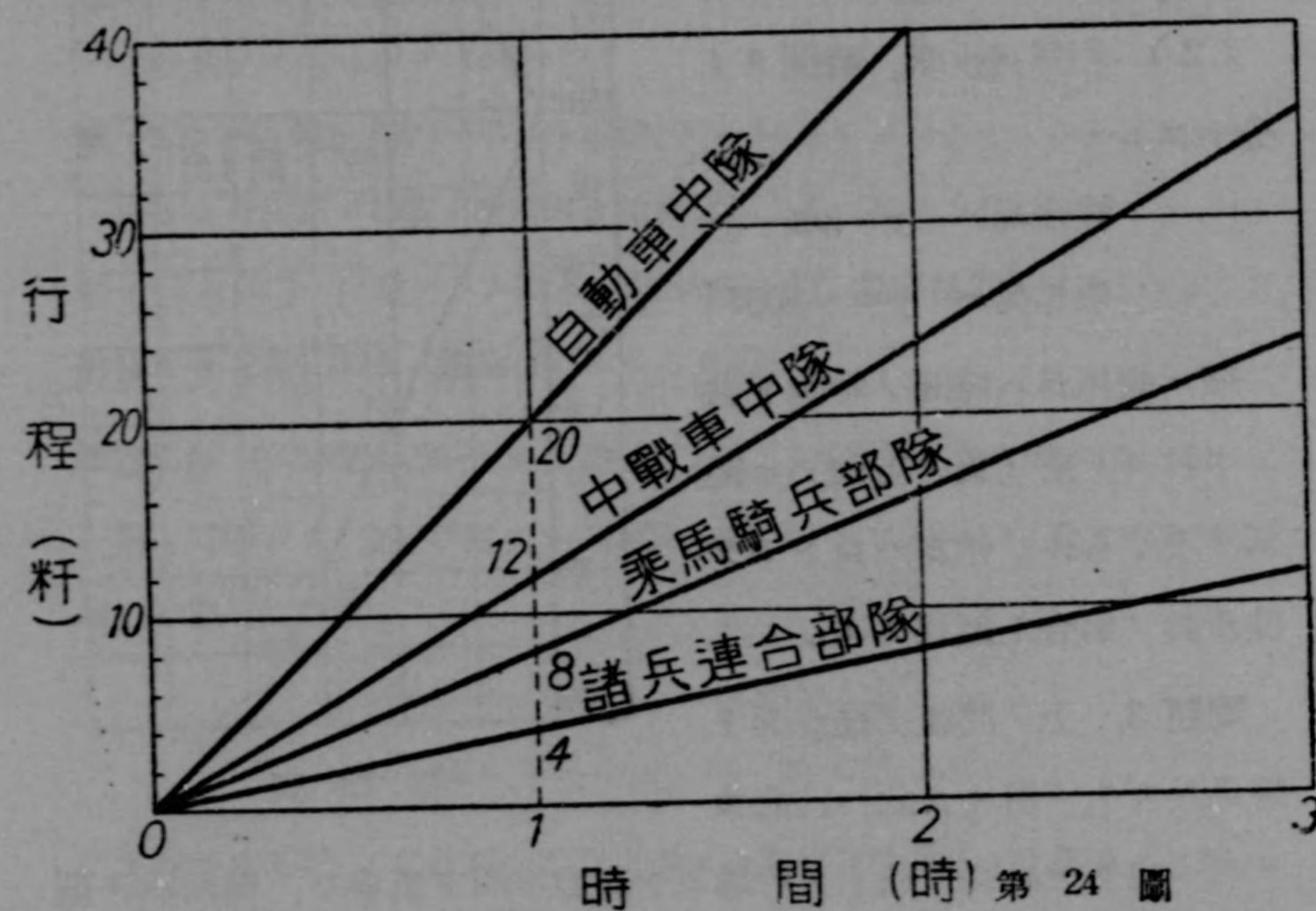
定理 一般ニ x, y ガ正比例スルトキハ

$$y = mx \text{ 或ハ } \frac{y}{x} = m \text{ (但シ } m \text{ ハ常數)}$$

ナル關係ガ成立シ、コノ方程式ノぐらふハ原點ヲ通り傾斜ガ m デアル直線トナル。

問題 1. 右ノ表ヨリ各部隊ノ行軍行程ト時間トノ關係ヲぐらふデ示セ。(解第24圖)

行軍速度ノ標準表(畫間)	
部 隊	行軍速度(秆/時)
諸兵連合部隊	4
乘馬騎兵部隊	8
自動車中隊	20
中戰車中隊	12



時間 t (時), 行程 y (秆) トスレバ

- 諸兵連合部隊ハ $y = 4t$, 此ノ直線ノ傾斜 = 4
- 乘馬騎兵部隊ハ $y = 8t$, " = 8
- 自動車中隊ハ $y = 20t$, " = 20

中戦車中隊ハ $y=12t$, 此ノ直線ノ傾斜 $=12$
トナリ何レモ原点ヲ通り傾斜ガ夫々4,8,20,12ナル直線トナル。

問題 2. 甲村ヲ同時ニ出發シテ徒歩兵ハ毎分86米ノ速サデ北へ、
乗馬兵ハ毎分100米ノ速サデ南
ニ進ムトキ兩者ノぐらふヲ作レ
バ第25圖ノ如クナル。コノぐら
ふヲ使ツテ

(1) 2分後ノ兩者ノ距リハ

$$BA=372m$$

(2) 行程ヲ y 米, 時間ヲ t

分トスレバ

$$\text{徒歩兵ハ } y=86t$$

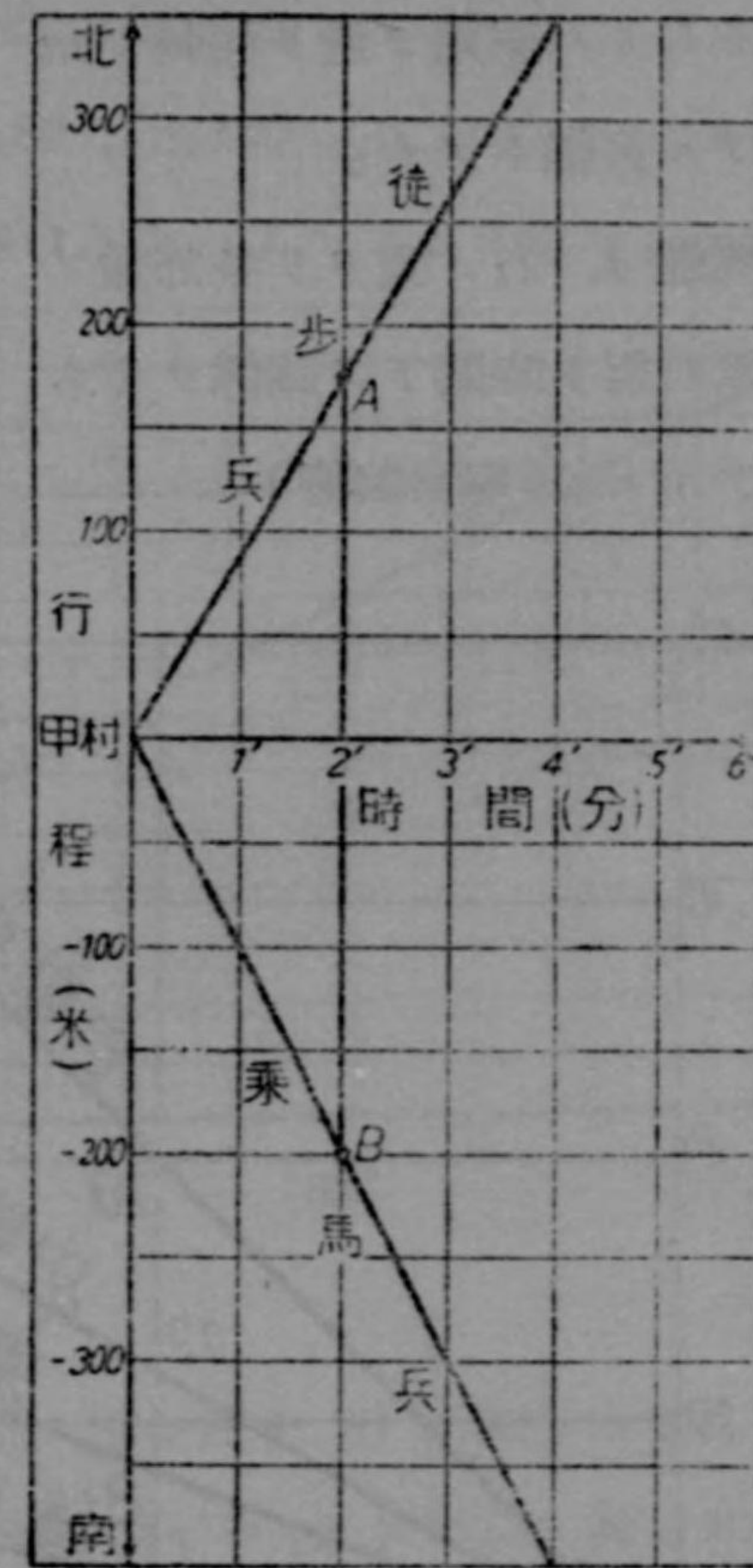
$$\text{乗馬兵ハ } y=-100t$$

茲ニ乗馬兵ハ時間ノ増加ト共
ニ甲村ヨリ南(負ノ方向)ニ距
ルカラぐらふノ傾斜ハ負トシテ
徒歩兵ノ場合ト區別スル。

問題 3. 上ノ問題デ徒歩兵ト
乗馬兵ガ夫々南カラ北へ, 北カ

ラ南へ向ツテ同ジ道路上ヲ行進シテ現在甲村デ出會ヒ, 尙前進ヲ續
ケルトキノぐらふハ縦軸ノ左側ニモ存在スルコトトナリ, 第26圖ノ
如クナル。

コノぐらふニヨレバ3分前ニハ徒歩兵ハ甲村ノ南258米ノ所ニ乗
馬兵ハ甲村ノ北300米ノ所ニ在リ兩者ノ距リハ $BA=558$ 米デアツ



第 25 圖

タコトガ分ル。

問題 4. 前ノ問題デ現在
徒歩兵ハ甲村ノ南方200米
乗馬兵ハ甲村ノ北方300米
ノ地點ヲ通過シテ前進ヲ續
ケルモノトスレバ兩者ハ何
時, 下ノ地點デ出會フカ。

解 縦軸上-200ノ點ヲ

通り(1)ニ平行ナ直線(1')

ハ徒歩兵ノぐらふデアリ, 縦

軸上300ノ點ヲ通り(2)ニ平行ナ直線(2')ハ乗馬兵ノぐらふトナル。(第26圖)

從ツテ今後或ル時間ノ後兩者ガ相會スルノハ, 兩者ノ距離ガ零ニナル所
即チ(1'),(2')ノ交點デアル點Pノ横座標約2.7, 縦座標約30ヲ讀ンデ約2.7
分後甲ヨリ北約30米ノ地點デアルコトヲ知ル。

問題 5. 第26圖ニ於ケル直線(1'),(2')ノ方程式ヲ求メヨ。

解 時間ヲ t (分), 甲村ヨリノ距離ヲ y (米)トスレバ(1)及ビ(2)ノ方
程式ハ既ニ知ル如ク

$$y=86t \dots \dots \dots (1)$$

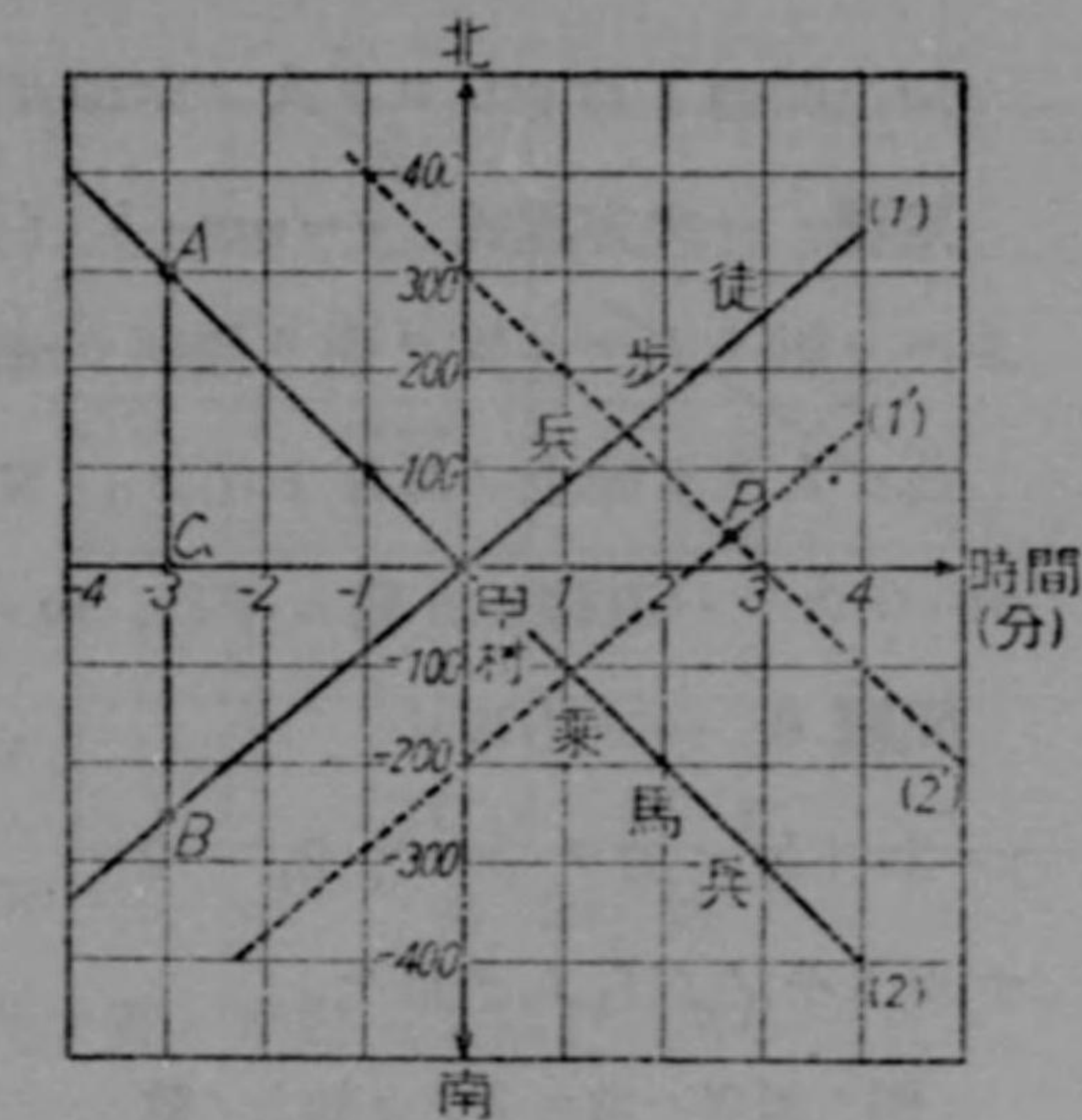
$$y=-100t \dots \dots \dots (2)$$

トコロガ(1')ノぐらふハ(1)ノ兵ヨリ常ニ200米後レテ北進スル兵ノ
ぐらふト考ヘラレルカラ方程式ハ

$$y=86t-200 \dots \dots \dots (1')$$

又(2')ノぐらふハ(2)ノ乗馬兵ヨリ常ニ300米後レテ南進スル兵ノぐ
らふト考ヘラレルカラ方程式ハ

$$y=-100t+300 \dots \dots \dots (2')$$



第 26 圖

以上問題 1 乃至 5 ヨリ次ノ定理ヲ推知セラレル。

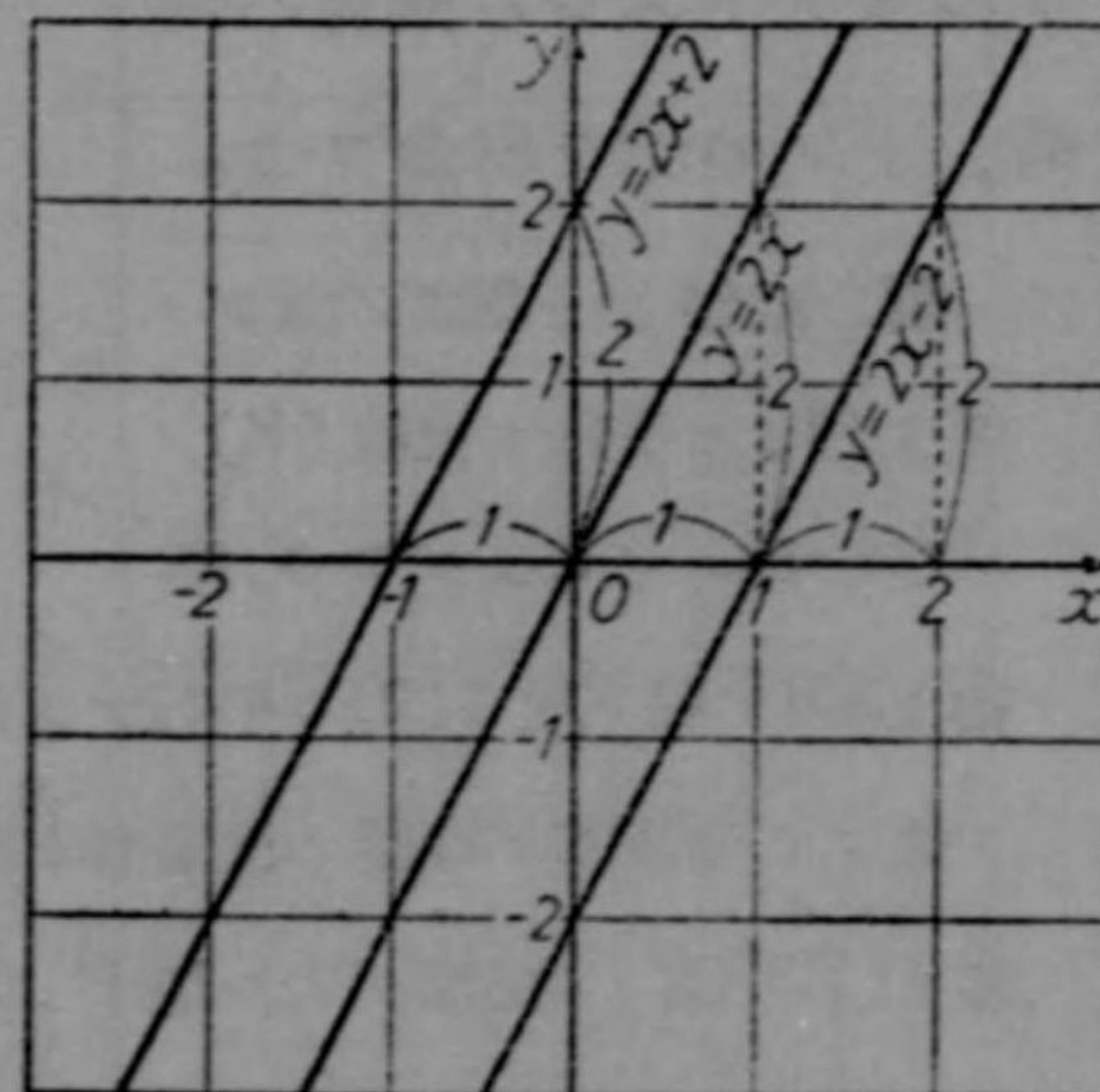
定理 一次方程式 $y=mx+b$ (但シ m, b ハ常數トス。) ノぐらふハ y 軸上 b ナル點ヲ通り傾斜ガ m ナル直線トナル。

茲デ b ヲ y 軸上ノ截片トイフ。又 $m > 0$ ナラバ直線ハ右上リ、
 $m = 0$ ナラバ直線ハ x 軸ニ平行、 $m < 0$ ナラバ直線ハ右下リトナル。

問題 6. 一次方程式

$y=2x+b$ ニ於テ $b=0, 2, -2$ ナルトキノぐらふヲ畫ケ。

解 傾斜ハ常ニ 2 デ y 軸上ノ截片ガ 0, 2, -2 ナル平行直線ガ求ムルモノデアル。(第 27 圖)

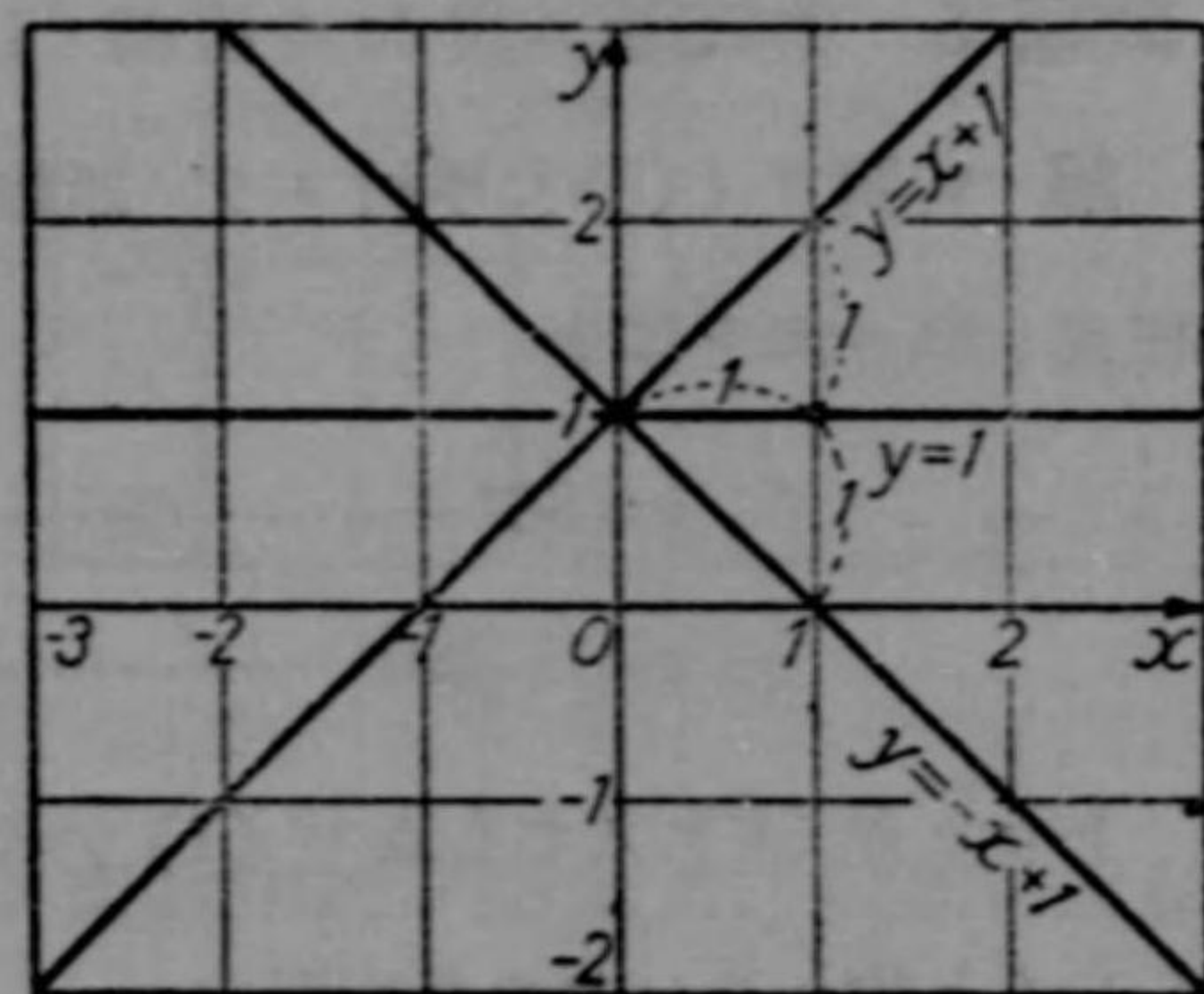


第 27 圖

問題 7. 一次方程式

$y=mx+1$ ニ於テ $m=0, 1, -1$ ナルトキノぐらふヲ畫ケ。

解 $m=0$ ノトキハ y 軸上ノ截片ガ 1 デ x 軸ニ平行ナ直線トナリ、 $m=1$ ノ時ハ y 軸上ノ截片ガ 1 デ傾斜 1 ナル直線、 $m=-1$ ノ時ハ y 軸上ノ截片 1、傾斜 -1 ナル直線トナル。(第 28 圖)



第 28 圖

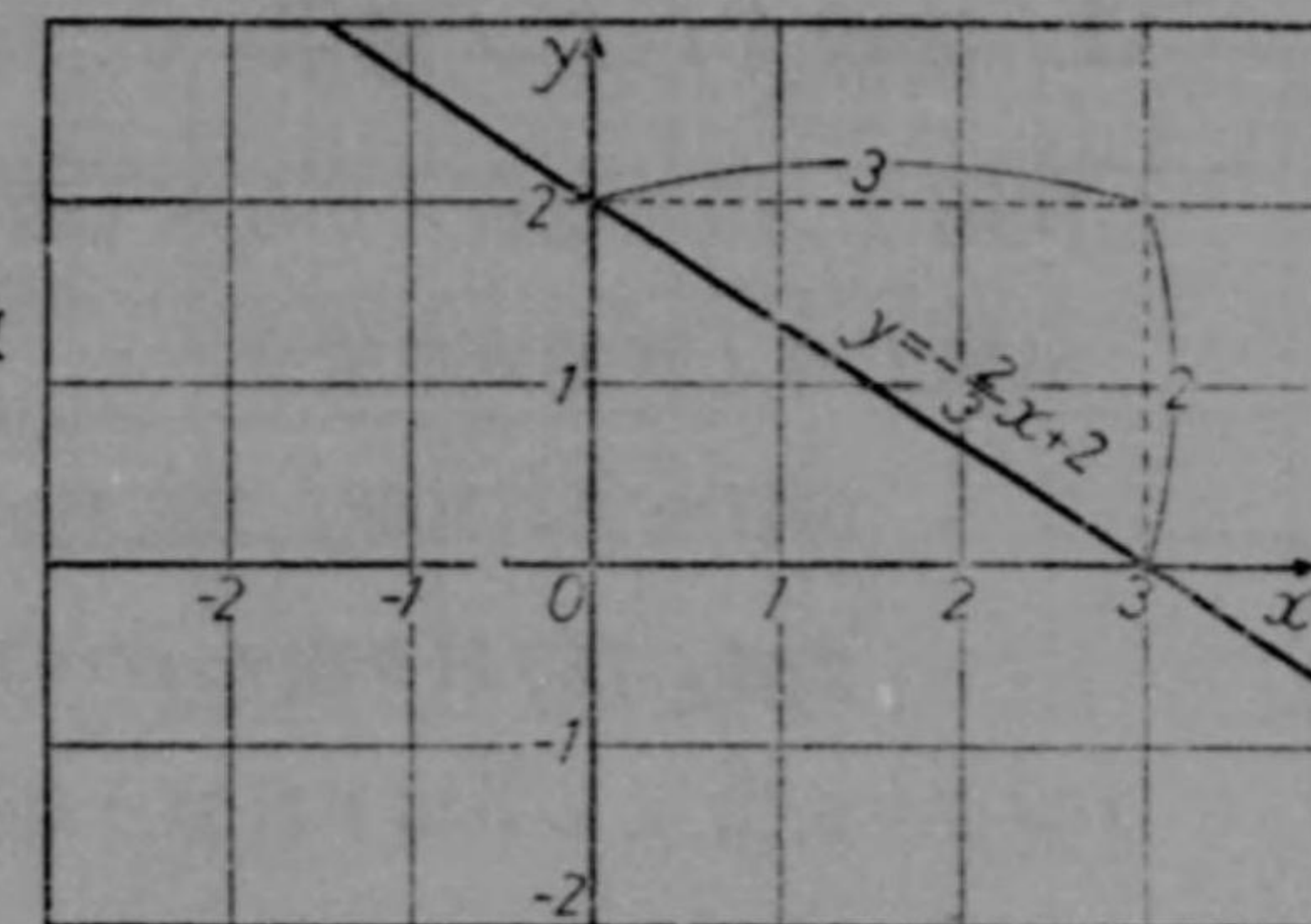
問題 8. 一次方程式

$2x+3y=6$ ノぐらふヲ畫ケ。

解 與ヘラレタ方程式ヲ y = ツイテ解ケバ

$$y = -\frac{2}{3}x + 2$$

故ニ y 軸上ノ截片 2、傾斜 $-\frac{2}{3}$ ナル直線トナル。(第 29 圖)



第 29 圖

問題 9. 溫度計ノ攝氏ノ度數

x ト華氏ノ度數 y トノ間ニハ

$$y = \frac{9}{5}x + 32 \dots (1)$$

ナル關係ガアル。之ハ y 軸上ノ截片ガ 32 デ、傾斜ガ $\frac{9}{5}$ デアル

直線ヲ表ハス。(第 30 圖)但シ此ノ圖ハ兩軸上ノ單位ハ等シクナイ。

コノ圖表ヲ利用シテ

問題ヲ解ク例ヲ示ス。

(i) 攝氏 20° ハ華氏何度カ。

x 座標ガ 20 デアル

(1) 上ノ點 C ノ y 座標 c ヲ讀ミ 68° ガ得ラレル。

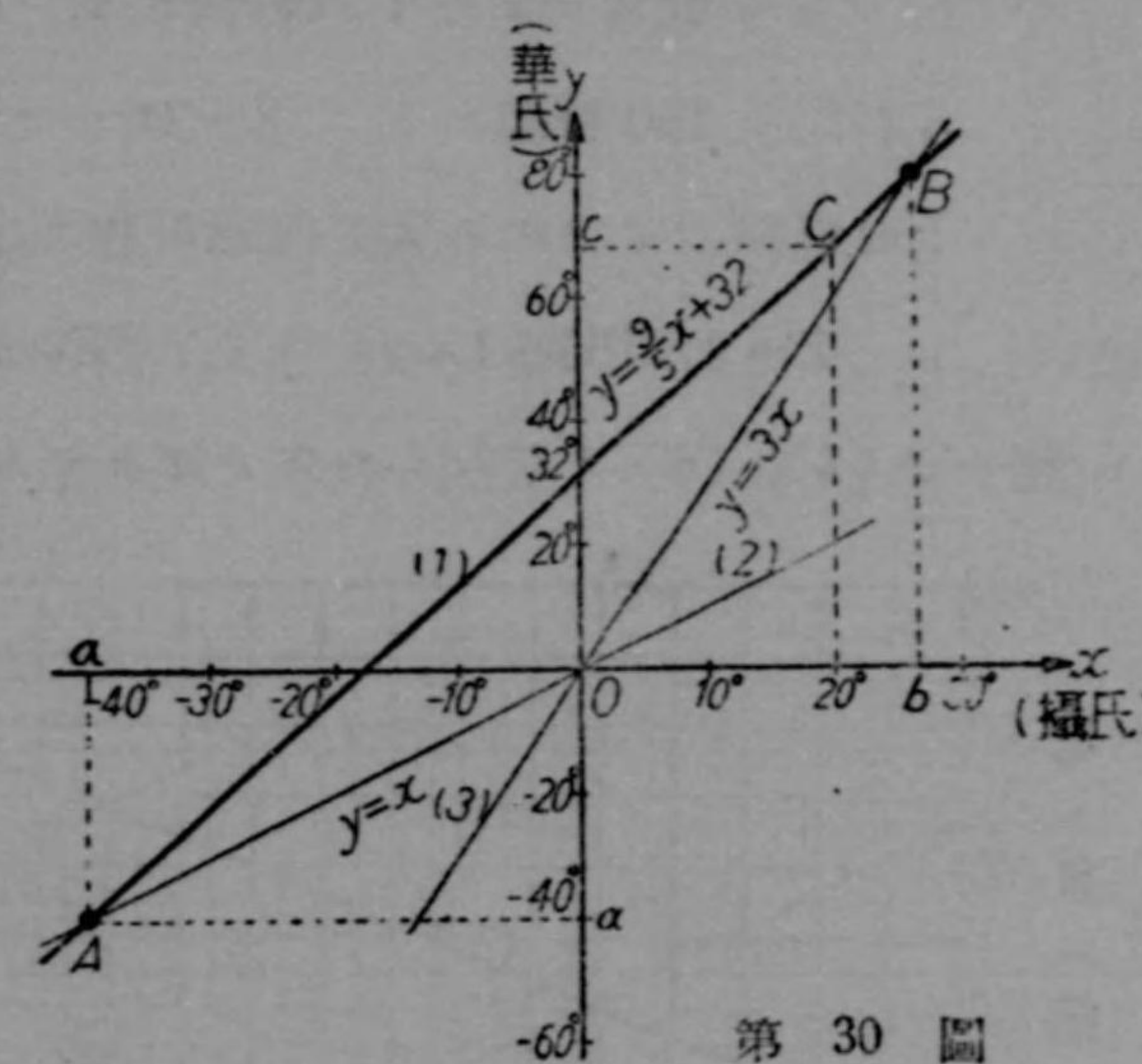
(ii) 攝氏ノ度數ト華氏ノ度數トガ等シイ

ノハ何度カ。

x ト y トハ (1) ノ關係ヲ満足スルト同時ニ $y=x$ (2) ナル關係モ満足スベキデアルカラ (2) ノ直線ヲ畫キ (1) トノ交點 A ノ座標 (a, a) ヲ讀ミ $a = -40°$ ヲ得ル。

(iii) 華氏ノ度數ガ攝氏ノ度數ノ 3 倍トナルハ何度カ。

x, y ハ (1) ノ他ニ $y=3x$ (3) ヲ満足スベキデアルカラ (3) ノ直線ヲ畫キ (1) トノ交點 B ノ横座標 b ヲ讀ミ攝氏 26° ヲ得ル。



第 30 圖

12. 直線ぐらふノ應用

問題 1. 鐵道運賃ノぐらふ (通行稅ヲ含マズ)

省線三等ノ普通乗車賃金ハ

$$\left. \begin{array}{l} 5 \text{ 秆マデハ} 10 \text{ 錢, } 150 \text{ 秆マデハ } 1 \text{ 秆ニツキ} \\ 2 \text{ 錢, } 150 \text{ 秆ヲ超エレバ } 1 \text{ 秆ニツキ } 1 \text{ 錢} \end{array} \right\} \dots\dots(1)$$

ノ割合デ計算スル。但シ計算ヲ簡單ニスルタメニ

$$\left. \begin{array}{l} \text{秆數ハ } 1 \text{ 秆未滿ハ切上ゲ, 又運賃ハ } 5 \text{ 錢未} \\ \text{滿ハ } 5 \text{ 錢ニ, } 10 \text{ 錢未滿ハ } 10 \text{ 錢ニ切上ゲル} \end{array} \right\} \dots\dots(2)$$

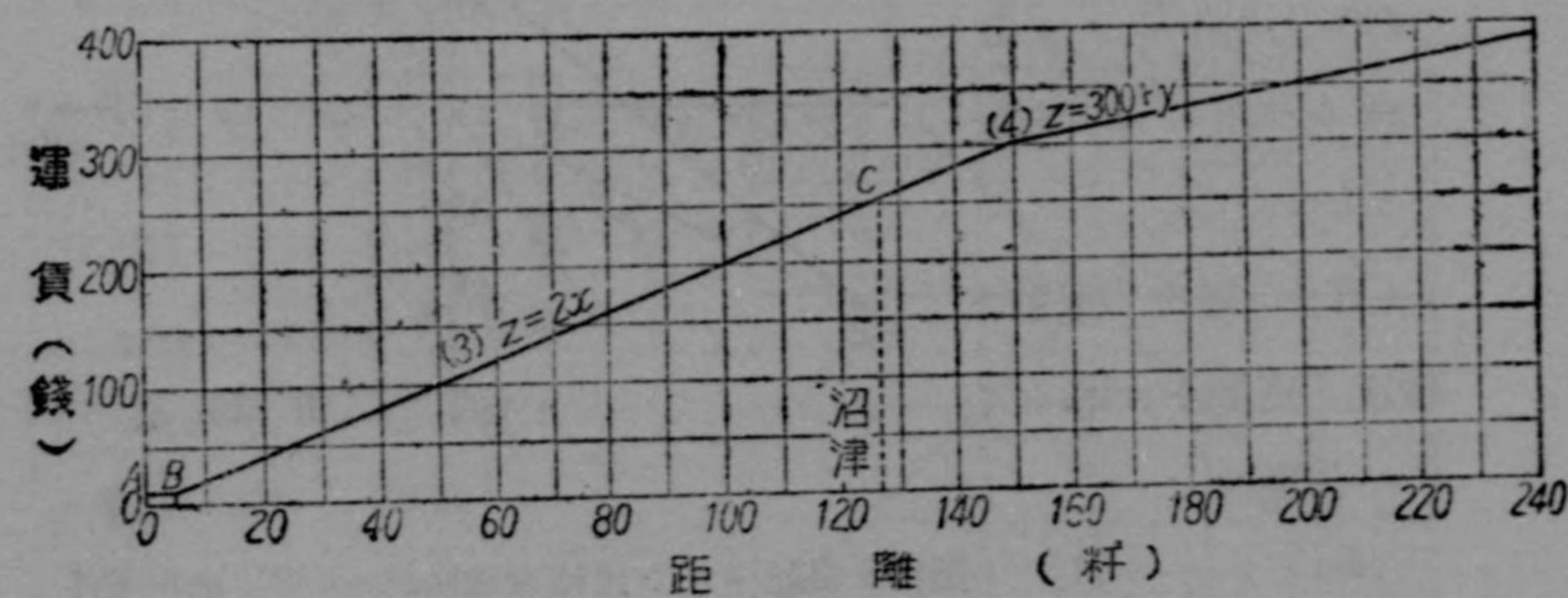
今(1)ノミニ就イテ考ヘレバ秆數ヲ x , 運賃ヲ Z 錢トスレバ

$$5 \text{ 秆以上 } 150 \text{ 秆迄ハ } Z = 2x \dots\dots(3)$$

150 秆以上ノトキハ其ノ超過秆數ヲ y トスレバ

$$Z = 2 \times 150 + 1 \times y \quad \therefore Z = 300 + y \dots\dots(4)$$

從ツテ(3), (4)ノぐらふハ次ノ如クナル。

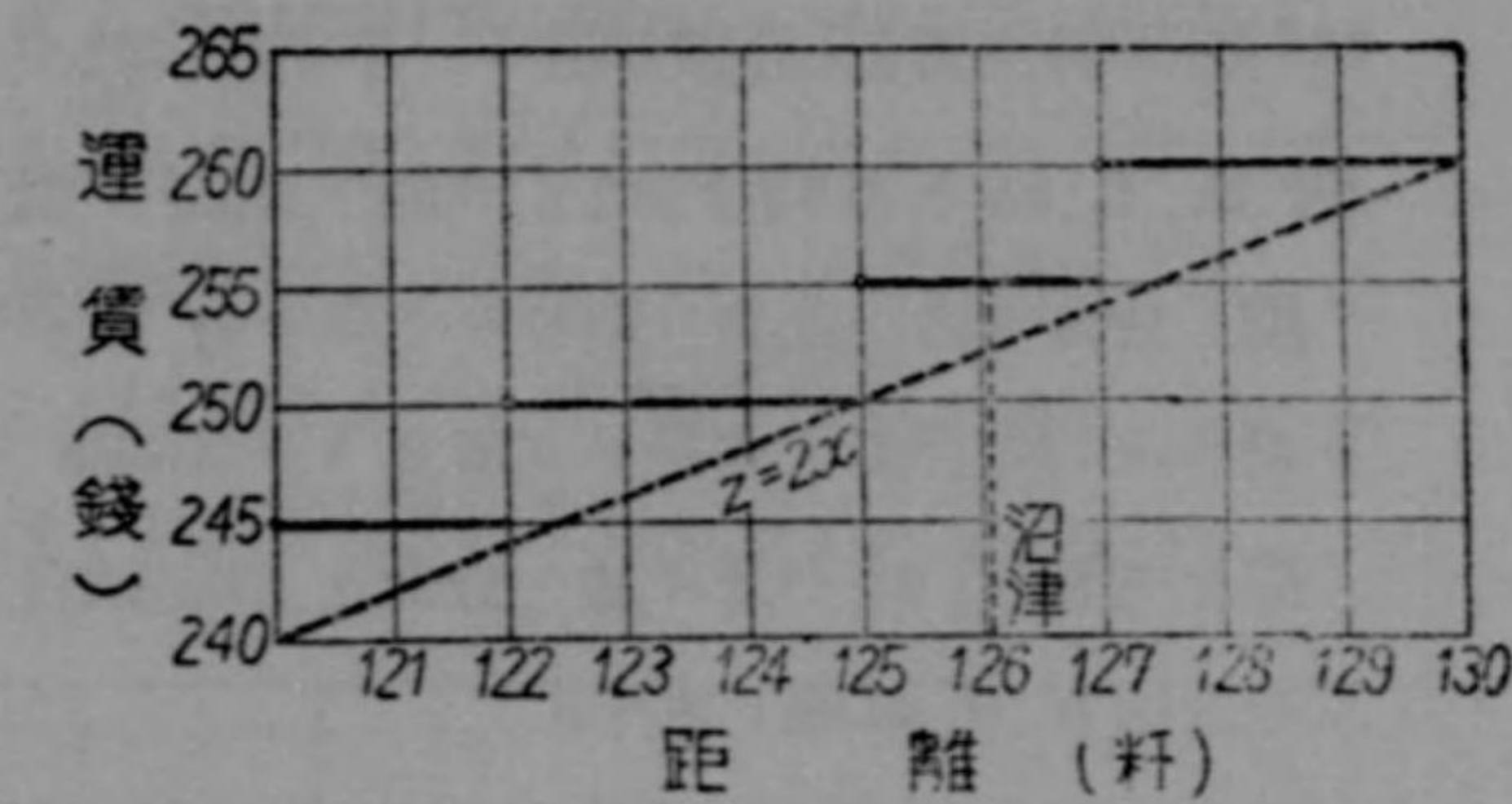


第 31 圖

然シ乍ラ端數ノ計算ヲ(2)ニ依ツテ行フタメぐらふハ第32圖ノ如ク階段狀ニナル。(120秆カラ130秆ノ間ノミ示ス)

例ヘバ東京, 沼津間ノ運賃計算ハ(第32圖ニヨレバ直チニ得ラレル)

距離 = 126.2 秆
 2 ヲ切上ゲ 127 秆トシ
 $2 \text{ 錢} \times 127 = 254 \text{ 錢}$
 デ 4 錢ヲ切上ゲテ
 255 錢



トナル。

然ルニ第31圖ニ依ツテ求メ

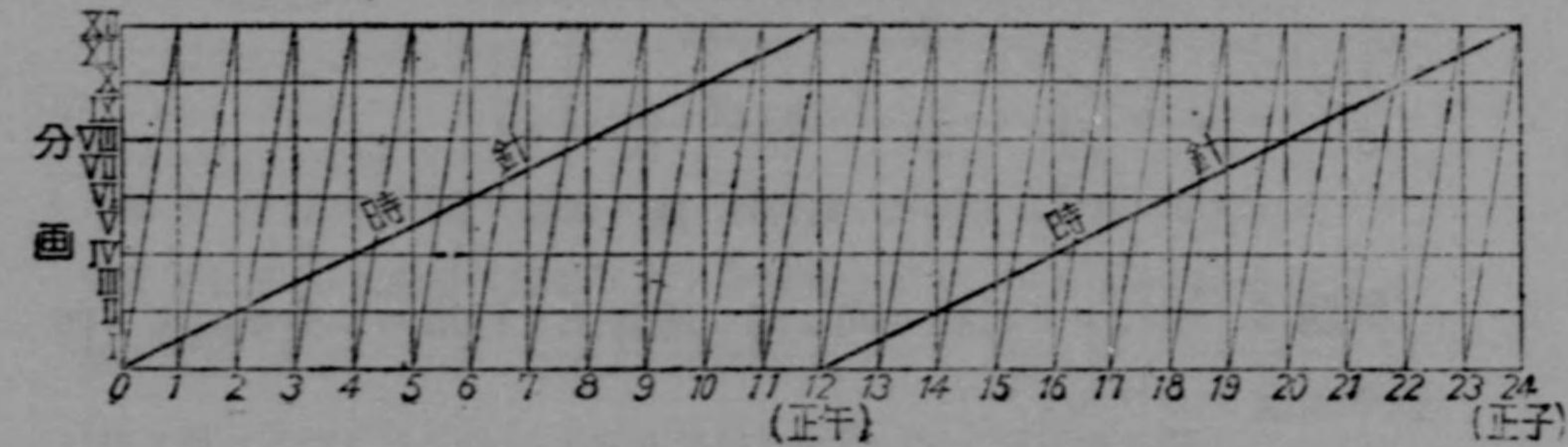
第 32 圖

レバ約 250 錢トナリ實際ノ値ヨリ 5 錢少イ。從ツテ第31圖ハ概算ニハ便利デアルガ正確ニハ第32圖ヲ用ヒナケレバナラス。

問題 2. 時計ノ兩針

時計ノ分針, 時針ハ毎時各々 60 分畫, 5 分畫ヲ回轉スル。

今横軸 = 時間, 縦軸 = 分畫 (便宜上 5 分畫ヲ單位トシ, I, II, III, IV, X, XI, XII ……ヲ以テ示ス) ヲトツテ兩針ノぐらふヲ作レバ次ノ如クナル。



第 33 圖

次ニ例ヘバ 5 時ト 6 時トノ間ノ圖表ヲ擴大シテ時計問題ノ解法ノ例ヲ示ス。(第34圖)

例 1. 5 時ト 6 時トノ間ニ於テ兩針ノ重ナル時刻ヲ求メヨ。

解 分針ノぐらふ a ト時針ノぐらふ b トノ交點 A ノ横座標ヲ讀ンデ約 5

時27分20秒ヲ得。(計算=依レバ $5+25 \div (1-\frac{1}{12})=5時27分16\frac{7}{11}秒$)

例 2. 5 時ト 6 時トノ間ニ於テ兩針ノ直角ヲナス時刻ヲ求メヨ。

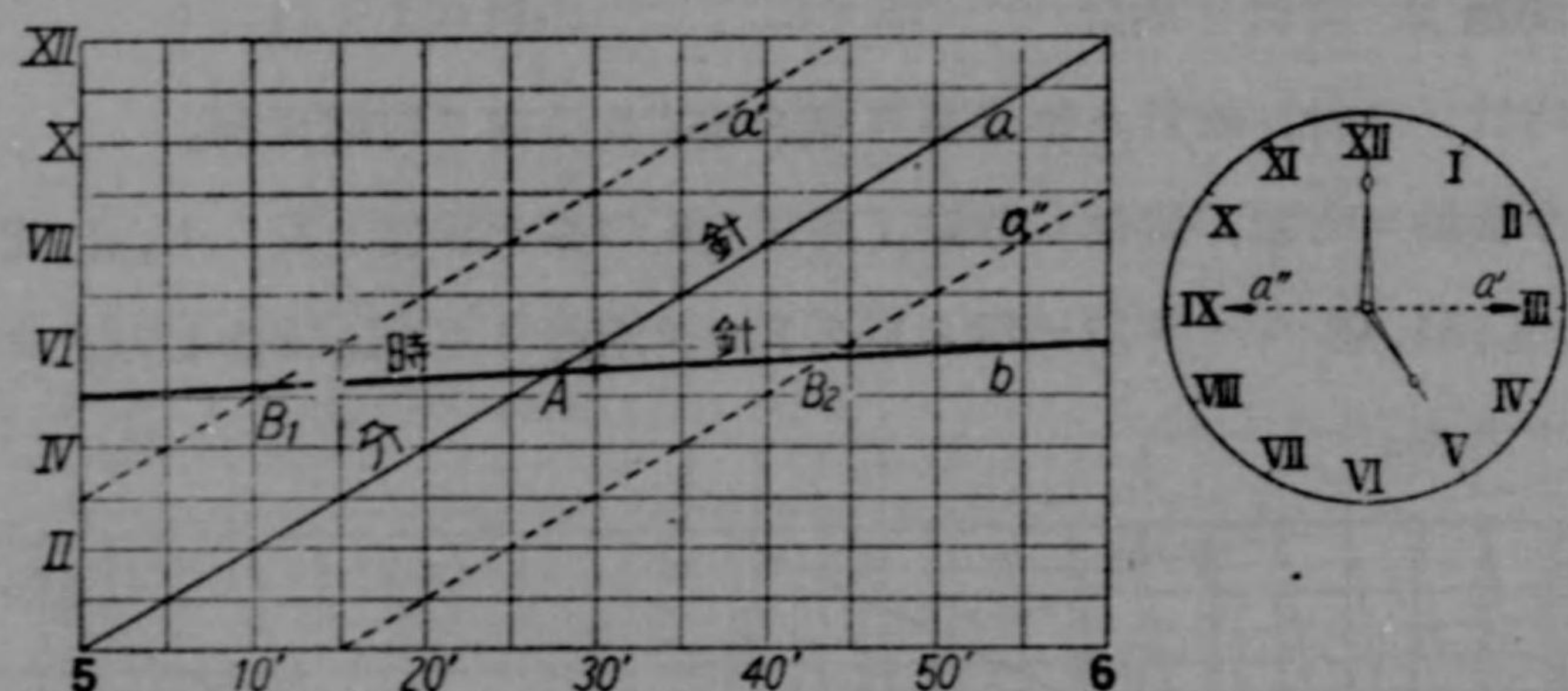
解 分針ニ之ト直角ニ取付ケラレタ針 a', a'' ヲ假想スレバ a', a'' ガ時針ト重ナル時ハ分針ト時針トガ直角ヲナス時デアル。

然ルニ針 a', a'' ハ夫々常ニ分針ヨリ 15 分前及ビ後ニアルカラ其ノぐらふハ夫々 a', a'' 直線トナル。

故ニ例 1 ト同様 a' ト b トノ交點 B_1 ノ横座標ヲ讀ンデ約 5 時 11 分ヲ, a'' ト b トノ交點 B_2 ノ横座標ヲ讀ンデ約 5 時 43 分ヲ得。

計算=依レバ $5+10 \div \frac{11}{12}=5時10分49\frac{1}{11}秒$

$5+40 \div \frac{11}{12}=5時43分38\frac{2}{11}秒$



第 34 圖

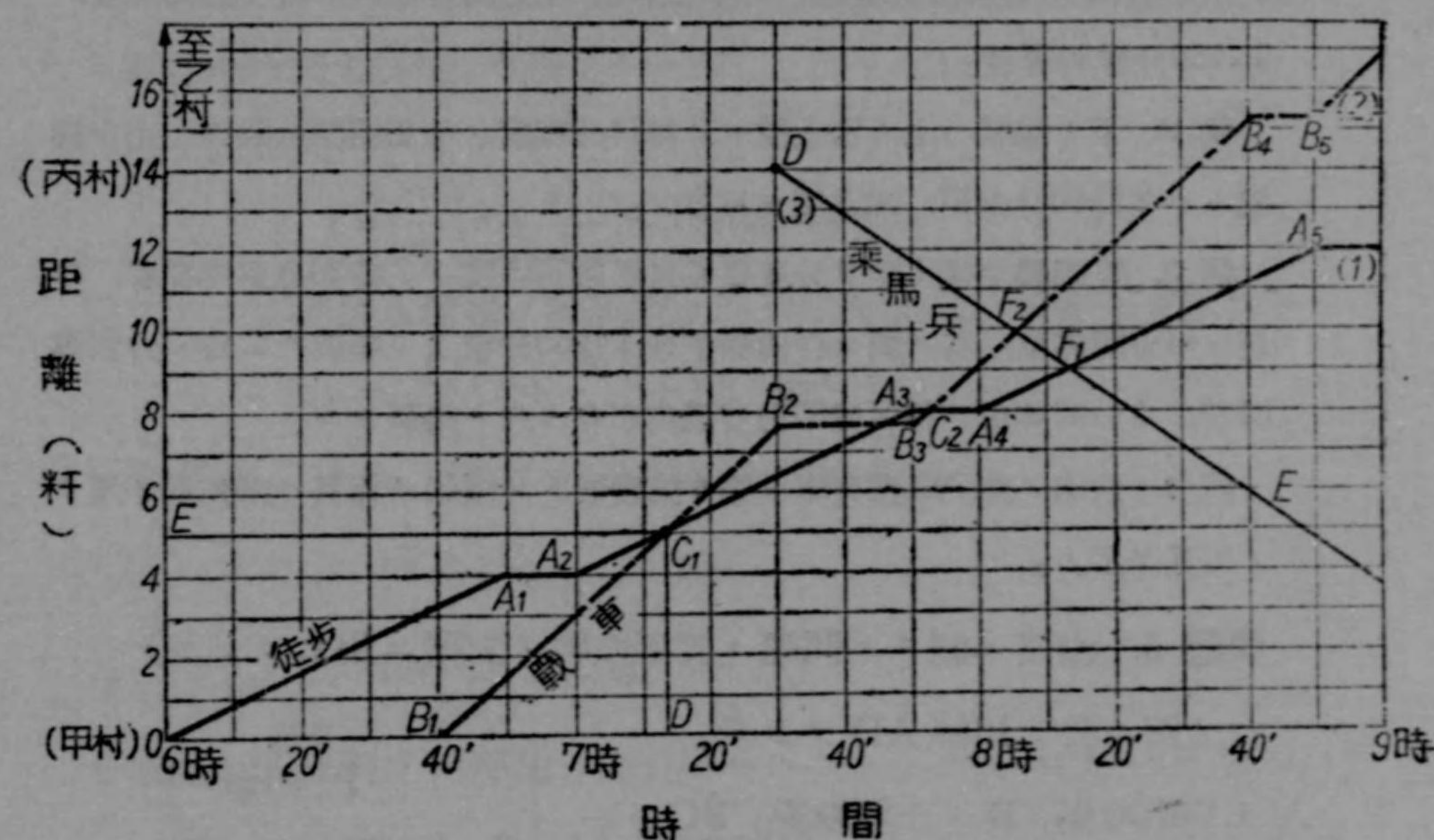
問題 3. 甲村ヨリ乙村ニ向ヒ同ジ道路上ヲ行軍スル徒歩部隊ト輕戰車部隊トガアル。

徒歩部隊ハ 6 時其ノ先頭ヲ以テ甲村ヲ出發シ毎時 50 分間ニ 4 杆前進シテ 10 分間休憩スル割合デ前進シ, 輕戰車部隊ハ 6 時 40 分其ノ先頭ヲ以テ甲村ヲ出發シ 50 分間ニ 16 杆前進シテ 10 分間休憩スル割合デ前進スルモノトスル。但シ戰車ハ第一回ノ休憩ノ際故障修理ノタメ 20 分ヲ費シタ。兩者ノぐらふヲ畫キ次ノ問題ヲ研究スル。

例 1. 徒歩部隊ノ行軍ぐらふハ第 35 圖 (1) ノ折線トナル。

例 2. 戰車部隊ノ行軍ぐらふハ第 35 圖 (2) ノ折線トナル。

例 3. 戰車部隊ノ先頭ガ最初徒歩部隊ノ先頭ニ追ヒ付ク時間及ビ其ノ地點ガ甲村ヨリ何杆ノ地點カハ (1), (2) ノぐらふガ始メテ交ル點 C_1 ノ横座標ヲ讀ミ 7 時 13 分, 縦座標ヲ讀ミ甲村カラ 5 杆ノ地點デアルコトガ分ル。



第 35 圖

例 4. 甲村カラ 14 杆ノ距離ニアル丙村ヲ 7 時 30 分ニ出發シ甲村ニ向ツタ乘馬傳令ガ $\frac{1}{4}$ ノ歩度 (毎時 7 杆) デ前進スルモノトストキ徒歩部隊及ビ戰車部隊ノ先頭ニ出會フ地點及ビ時刻ヲ求メルニハ乘馬傳令ノ行軍ぐらふ DE ヲ畫キ之ガ (1), (2) ノぐらふヲ切ル點 F_1, F_2 ノ兩座標ヲ讀メバヨイ。

戰車部隊ノ先頭トハ 8 時 5 分ニ甲村カラ 9.9 杆ノ地點デ, 徒歩部隊ノ先頭トハ 8 時 13 分ニ甲村カラ 9 杆ノ地點デ出會フ。

問題 4. 列車運行圖表 (附圖第一)

附圖第一ハ東海道線東京, 静岡間ノ列車運行表ノ一部午後 1 時ヨリ午後 6 時ニ至ル間ヲ簡略ニシタモノノ一例デアル。

横軸=時間(分マデ讀メル),縦軸=距離(杆)[驛間距離=應ジテ驛名ヲ記入ス]ヲトツテアル。(現在ハ24時間制ヲ採用ス。)

運行圖表ノ讀ミ方例

例 1. 東京驛午後一時發特急鷗號(第1031列車)ハ1時26分横濱驛着, 2分間停車, 1時28分同驛發, 3時沼津着, 4分間停車, 3時4分同驛發, 3時50分静岡驛着。

例 2. 下り鷗號ハ上り富士號ト2時14分鴨宮, 小田原間=於テ, 上り櫻號トハ2時50分函南, 三島間デ出會フ。

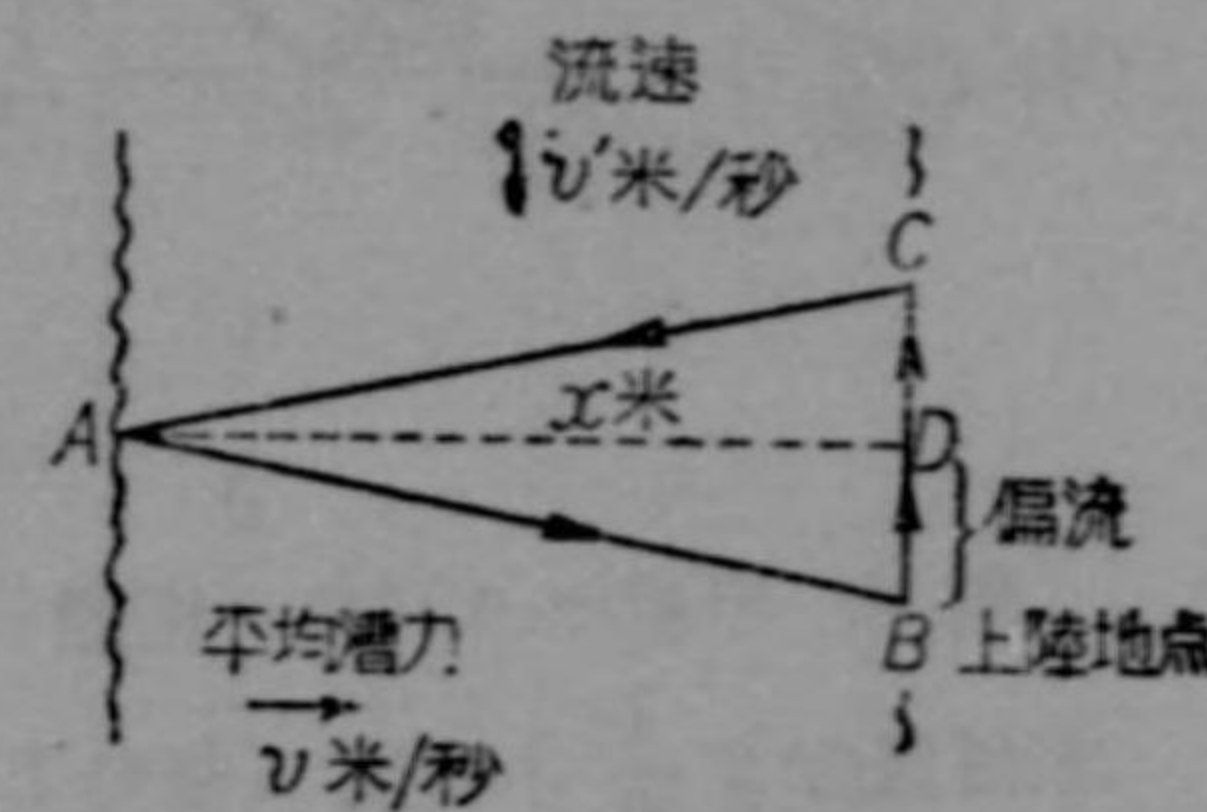
例 3. 静岡驛午後1時9分發普通列車第703號ハ2時28分沼津驛着, 待避シ11分間停車, 其ノ間=静岡驛午後1時50分發上り櫻號ハ2時33分沼津驛着, 4分間停車ノ後2時37分普通列車ヨリ先=出發スル。

例 4. 前例ノ第708號列車ト第4號櫻號トノ傾斜ノ相異ハ兩列車ノ速サノ相異ヲ示ス。

問題 5. 漕渡=關スル問題(渡河作戰ノ立案=用ヒラレル)

右ノ圖=於テ川幅 AD ヲ x 米,

A ヲ乘船地點, B ヲ上陸地點, BC ヲ對岸ノ漕場距離トスルトキ一回ノ漕渡時間及ビ A 渡場ノ配船數ヲ求メル公式ヲ示ス。



第 37 圖

DB 之ヲ偏流トイヒ實驗上

$$\text{偏流} = \text{流速}(\text{米}/\text{秒}) \times \frac{\text{川幅}(\text{米})}{5}$$

故=流速ヲ v' 米/秒 トスレバ

$$\text{偏流} DB = v' \times \frac{x}{5}$$

又 AB, AC ハ共=略々 AD = 等シク x 米トスレバ航路

A → B → D → C → A (之ヲ三角航路トイフ) ハ

$$\text{三角航路} = 2(AB + BD) = 2 \left(x + \frac{xv'}{5} \right)$$

三角航路ヲ一回往復スル時間ハ漕力ヲ平均毎秒 v 米トスレバ

$$\text{三角航路ヲ漕グ時間}(\text{秒}) = 2 \left(x + \frac{xv'}{5} \right) \div v$$

之ニ A = 於ケル乗船時間(徒歩兵ハ2分), B = 於ケル上陸時間(徒歩兵ハ1分)ノ和(徒歩兵ナラバ3分)ヲ加ヘレバ一回ノ漕渡=要スル時間 t (秒) ガ得ラレル。

以下徒歩兵ニツイテ考ヘレバ

$$t = \frac{2}{v} \left(x + \frac{xv'}{5} \right) + 3 \times 60 \text{ (秒)} \dots\dots\dots(1)$$

從ツテコノ場合 A 渡場ノ配船數 y ハ乗船時間(2×60秒)デ割ツテ

$$y = \frac{1}{60v} \left(x + \frac{xv'}{5} \right) + 1.5 \text{ (艘)} \dots\dots\dots(2)$$

今流速 $v' = 1$ 米/秒, 漕力 $v = 1$ 米/秒 トスレバ

$$(1) \text{ヨリ } t = 2 \left(x + \frac{x}{5} \right) + 180$$

$$\therefore t = \frac{12}{5}x + 180$$

今兩邊ヲ60デ割ツテ時間ヲ分デ表ハスコトスレバ(t 秒ヲ T 分トス)

$$1 \text{ 回ノ漕渡時間 } T = \frac{x}{25} + 3 \text{ (秒)} \dots\dots\dots(3) \text{ 公式}$$

從ツテ(2)式ハ次ノ如クナル。

$$\text{配船數 } y = \frac{T}{2} = \frac{x}{50} + 1.5 \text{ (艘)} \dots\dots\dots(4) \text{ 公式}$$

例 1. 川幅 150 米, 流速毎秒 1 米, 漕力平均毎秒 1 米ノ時徒歩兵 1 回ノ漕渡時間及ビ其ノ渡場ノ配船數ヲ求メヨ。

解 公式(3)=於テ $x=150$ トオケバ

$$\text{漕渡時間 } T = \frac{150}{25} + 3 = 9 \text{ (分)} \dots\dots\dots(\text{答})$$

又(4)ヨリ

$$\text{配船數 } y = \frac{9}{2} = 4.5 \text{ (艘)} \dots\dots\dots(\text{答})$$

例 2. 公式(3),(4)及ビ砲兵, 乘(駟)馬ノ一回ノ漕渡時間ヲぐらふ=畫

ケ。

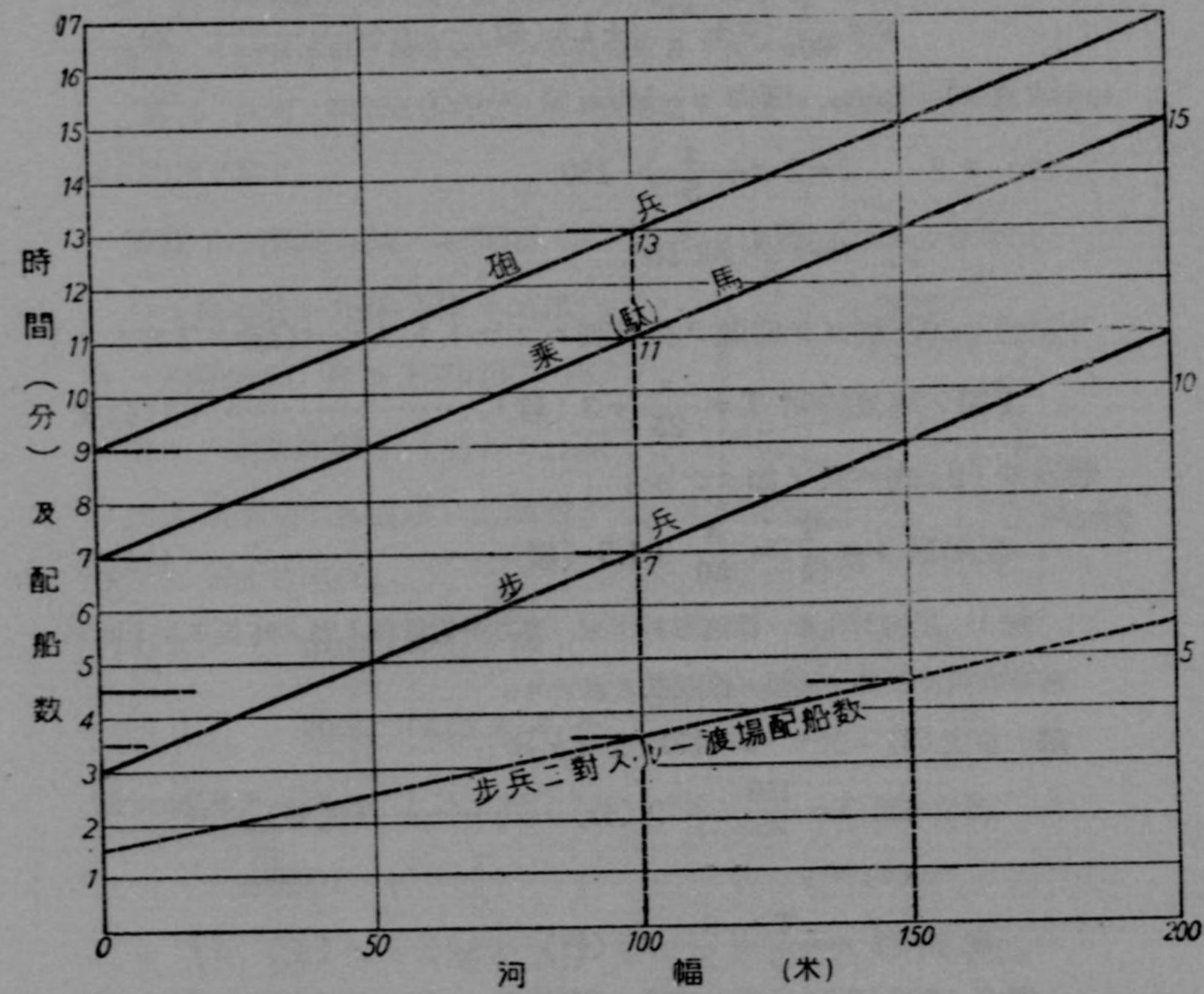
但シ砲兵, 乘(駟)馬ハ乗船及ビ上陸時間ノ和ガ夫々9分, 7分デアコトノミ異ナリ, 平均漕力ハ徒歩兵ノ場合ト等シイモノトスル。

解 横=川幅(米), 縦=時間(分)及ビ配船數ヲ目盛ルコトトスレバ(3)ハ縦軸上3ノ所ヲ通り傾斜ガ $\frac{1}{25}$ ノ直線トナル。砲兵ノハ縦軸上9, 乘(駟)馬ハ縦軸上7ノ所ヲ通り同ジ傾斜ノ直線ヲ引ケバヨイ。

又配船數(4)ハ縦軸上1.5ノ所ヲ通り傾斜ガ(3)ノ半分デアル $\frac{1}{50}$ ノ直線トナル。(第38圖)

各兵種一回ノ漕渡時間表

(但シ流速ハ毎秒1米, 漕力ハ平均毎秒1米トス)



第 38 圖

[求メ方]

- (1) 川幅 150 米ナラバ漕渡時間ハ
歩兵 9 分, 砲兵 15 分, 乘(駟)馬 13 分
徒歩兵ノタメノ配船數ハ 4.5 艘トナル。
- (2) 川幅 100 米ナラバ漕渡時間ハ
歩兵 7 分, 砲兵 13 分, 乘(駟)馬 11 分
徒歩兵ノタメノ配船數ハ 3.5 艘トナル。

問題 6. 部隊ノ集合, 出發時間ノ計算ぐらふ (幅ヲ考慮ニ入レタぐらふノ例)

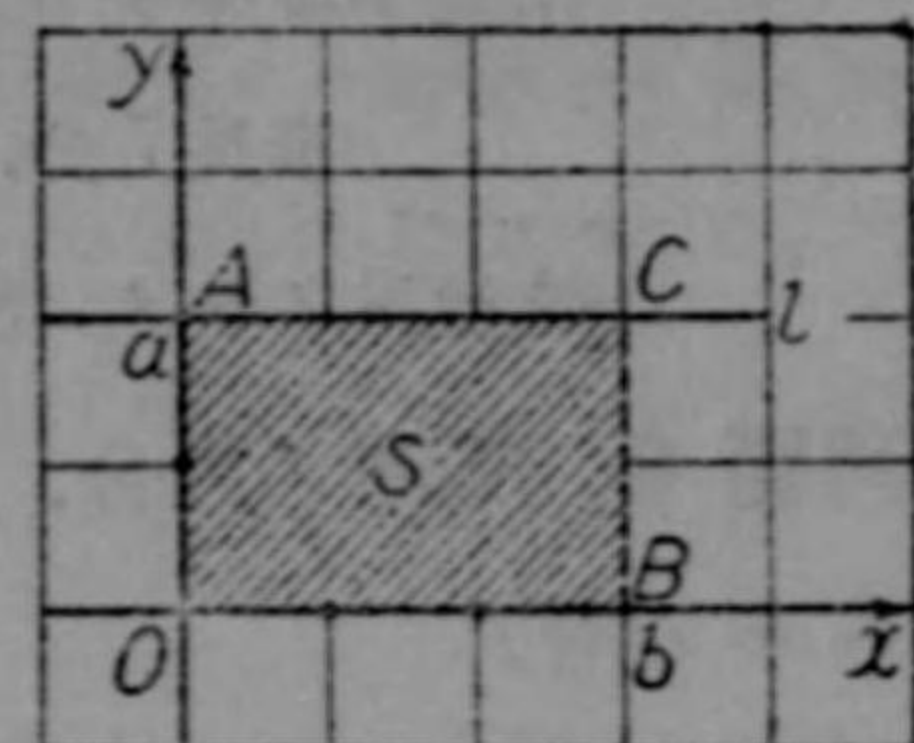
(附圖第二)

第三章 面積ノ應用

13. 座標平面上ノ圖形ノ面積

(1) 矩形ノ面積

右圖ノ如ク x, y 兩軸ト x 軸ニ平行ナ直線 l 及ビ y 軸ニ平行ナ直線 BC デ圍マレタ矩形 $AOBC$ ノ面積 S ハ A ノ y 座標ヲ a , B ノ x 座標ヲ b トスレバ



第 40 圖

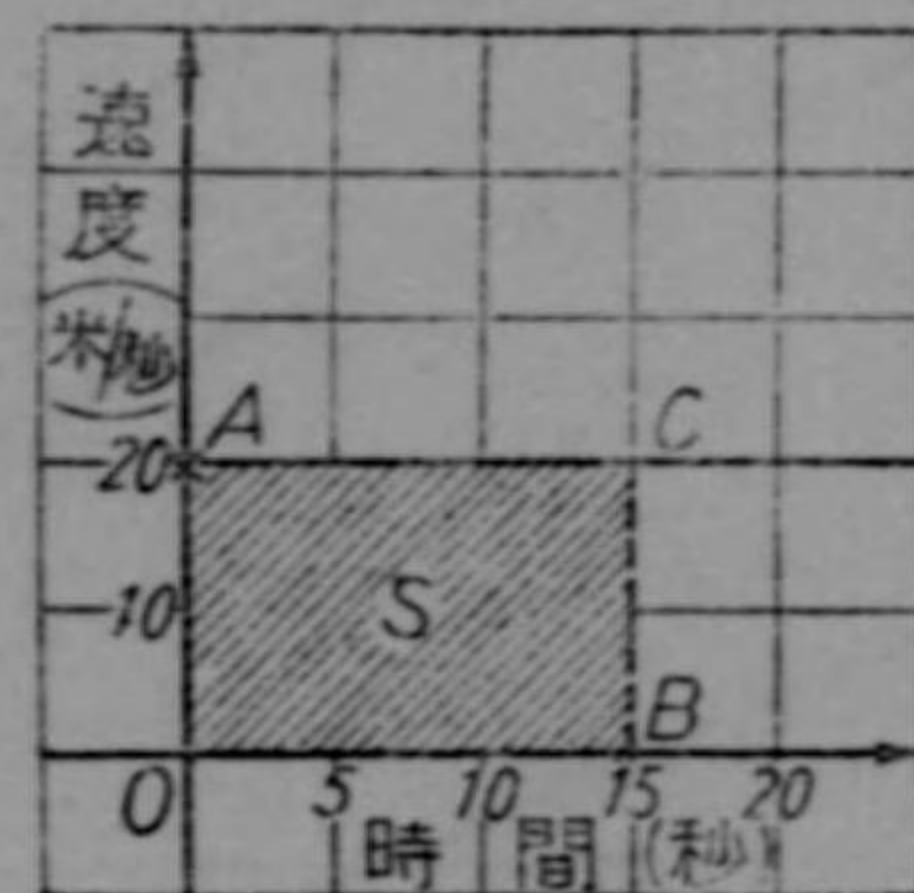
$$S = ab$$

例 1. 上圖ニ於テ, $a=2m$, $b=3m$ トスレバ $S=2m \times 3m=6m^2$

例 2. 速度ノ圖示 毎秒 20 米ノ速度ヲ進ム物體ノ 15 秒間ニ進ム距離 S ハ

明カニ $S=20 \text{ 米/秒} \times 15 \text{ 秒} = 300 \text{ 米}$

今時間ヲ横軸ニ, 速度ヲ縦軸ニトルトキ (兩軸ノ單位ヲ同ジ長サニスル必要ハナイ) 速度ノ常ニ 20 米/秒デアルカラ速度ノぐらふハ直線 AC トナル。次ニ横軸上 15 秒ニ對應スル點 B ヲ通り縦軸ニ平行線ヲ引キ AC トノ交點ヲ C トスレバ矩形 $AOBC$ ノ面積ハ進ム距離ヲ



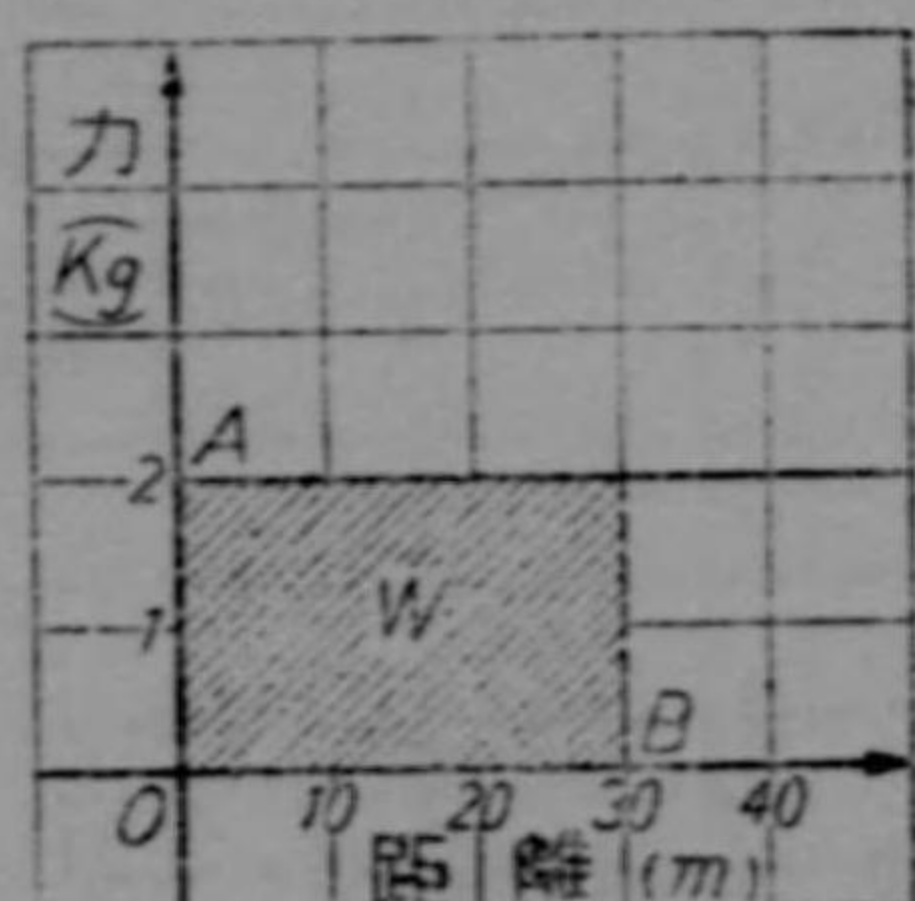
第 41 圖

表ハス。即チ $S=20 \text{ 米/秒} \times 15 \text{ 秒} = 20 \times 15 \times \frac{\text{米}}{\text{秒}} \times \text{秒} = 300 \text{ 米}$

例 3. 仕事ノ圖示 重サ $2kg$ ノ物體ガ $30m$ ノ高サヨリ落チル時此ノ物體ノナス仕事 W ハ

$$\begin{aligned} W &= 2 \text{ 斤} \times 30 \text{ 米} \\ &= 2 \times 30 \text{ 斤} \cdot \text{米} \\ &= 60 \text{ 斤} \cdot \text{米} \end{aligned}$$

コノ場合ニ於テモ横軸ニ距離ヲ, 縦軸ニ力ヲトリ次ニ横軸上 $30m$ ニ對應スル點 B ヲ通り



第 42 圖

y 軸ニ, 縦軸上 $2kg$ ニ對應スル點 A ヲ通り x 軸ニ平行ナ直線ヲ引イテ矩形 $AOEC$ ヲ作レバコノ矩形ノ面積ハ即チ仕事ノ量 $60 \text{ 斤} \cdot \text{米}$ ヲ表ハス。

(2) 階段線下ノ面積

右圖ノ如ク階段線 $ABCDEF$ ノ下ニアル圖形 $CABCDEFF'$ ノ面積 S ハ矩形 $AOC'B, CC'E'D, EE'F'F$

ノ面積 S_1, S_2, S_3 ノ和デアル。然ルニ

$$S_1 = x_1 y_1$$

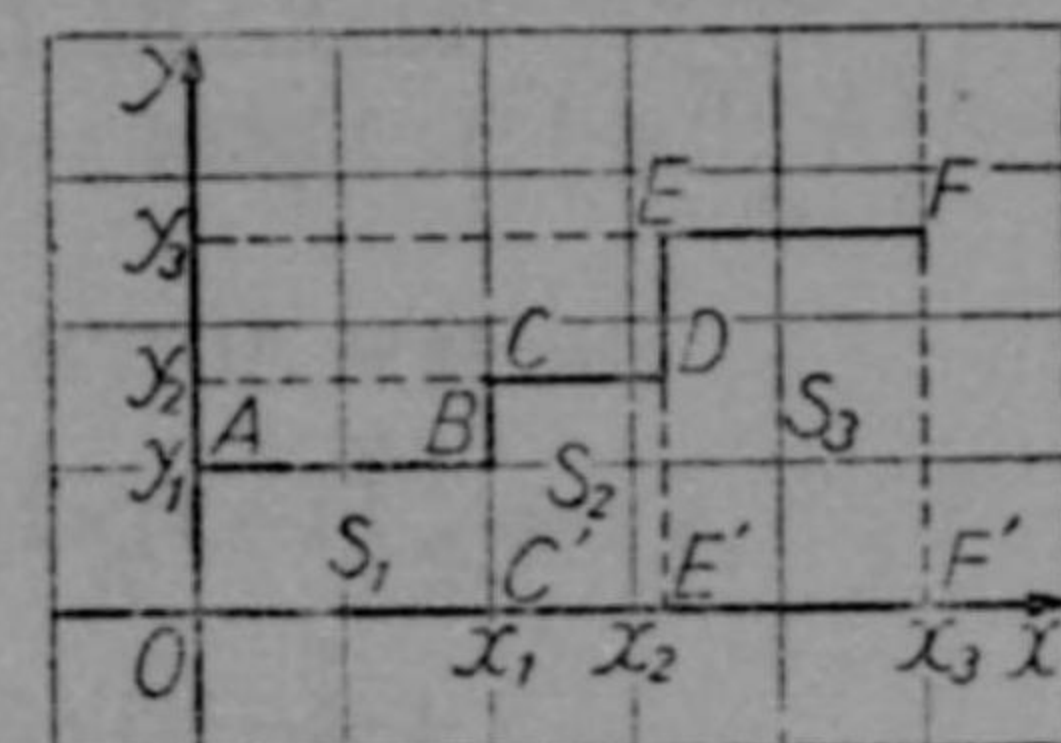
$$S_2 = (x_2 - x_1) y_2$$

$$+ S_3 = (x_3 - x_2) y_3$$

$$\therefore S = x_1 y_1 + (x_2 - x_1) y_2 + (x_3 - x_2) y_3$$

例 上圖ニ於テ $x_1=10, x_2=16, x_3=25, y_1=5, y_2=8, y_3=13$ ナラバ

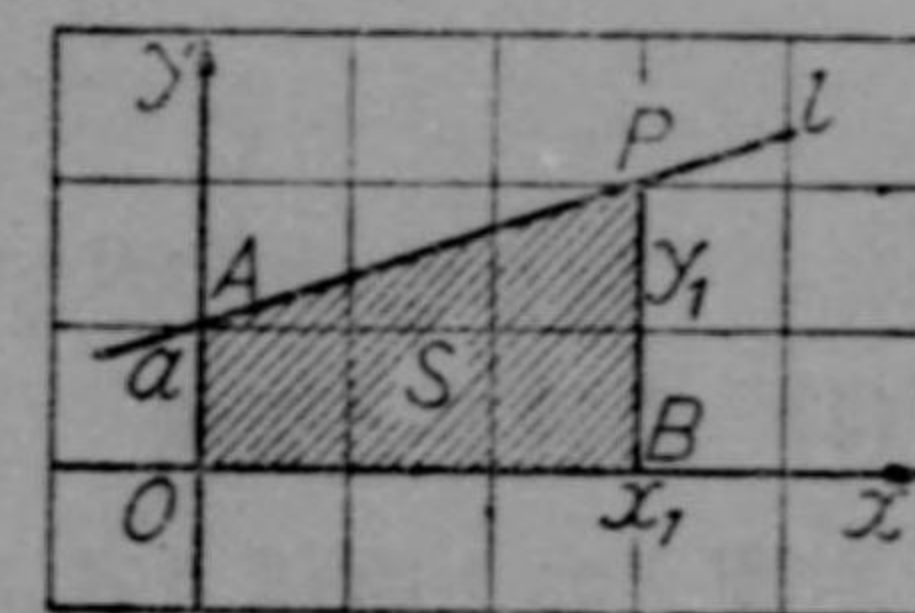
$$\begin{aligned} S &= 10 \times 5 + (16 - 10) \times 8 + (25 - 16) \times 13 \\ &= 50 + 48 + 117 = 215 \end{aligned}$$



第 43 圖

(3) 梯形ノ面積

右圖ニ於テ直線 l ノ下ニアル梯形 $AOBP$ ノ面積 S ハ l ノ y 軸上ノ截片ヲ a, P ノ座標ヲ (x_1, y_1) トスレバ



第 44 圖

$$S = \frac{1}{2} (a + y_1) x_1$$

上底 下底 高さ

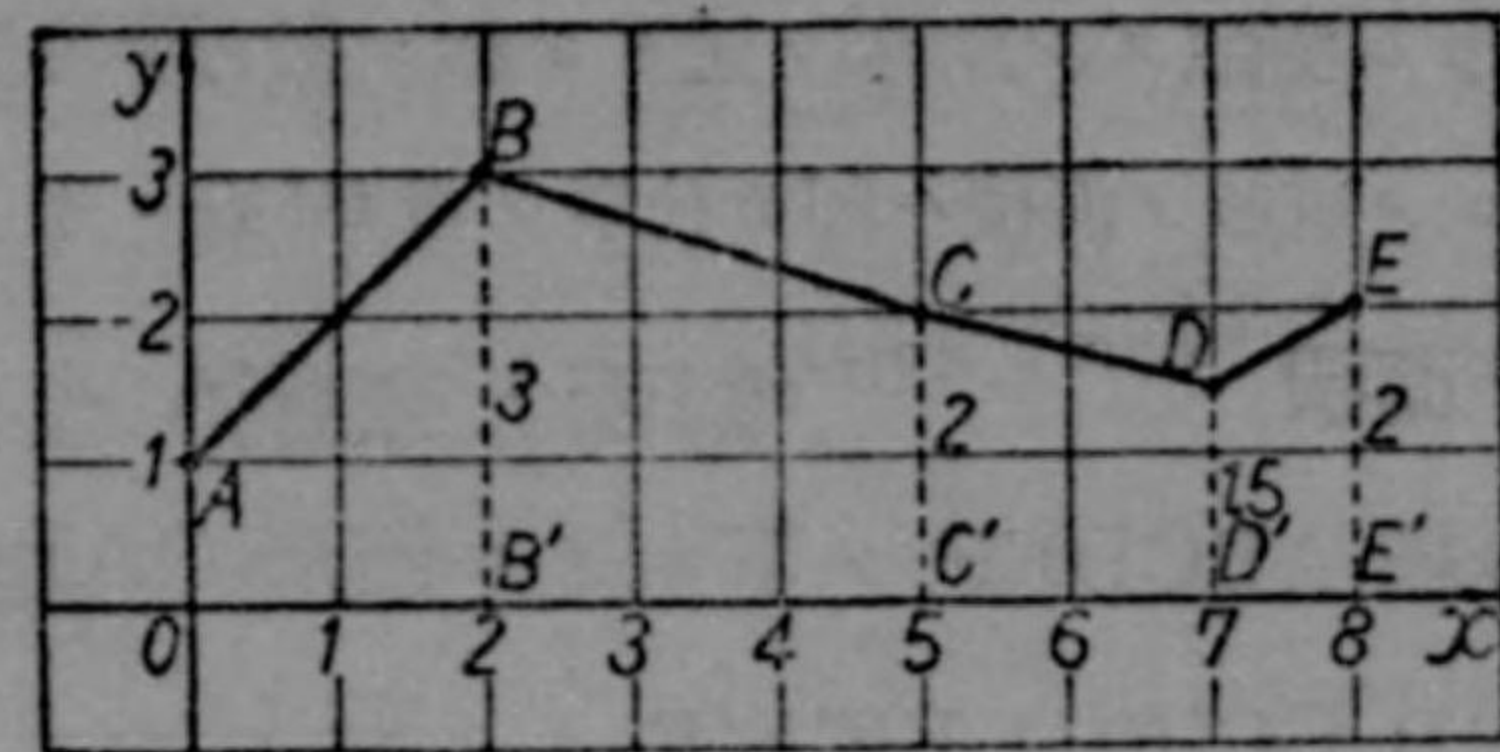
例 1. 上圖ニ於テ $a=5cm, x_1=15cm, y_1=10cm$ ナラバ

$$AOBP \text{ ノ面積} = \frac{1}{2} (5 + 10) \times 15 = 112.5 (cm^2)$$

例 2. 折線下ノ面積

第 45 圖ニ於テ折線 $ABCDE$ ノ下ノ面積ヲ求メヨ。但シ端點ノ座標ハ $A(0, 1), B(2, 3), C(5, 2), D(7, 1.5), E(8, 2)$ トス。

解 求ムル面積ヲ S トスレバ

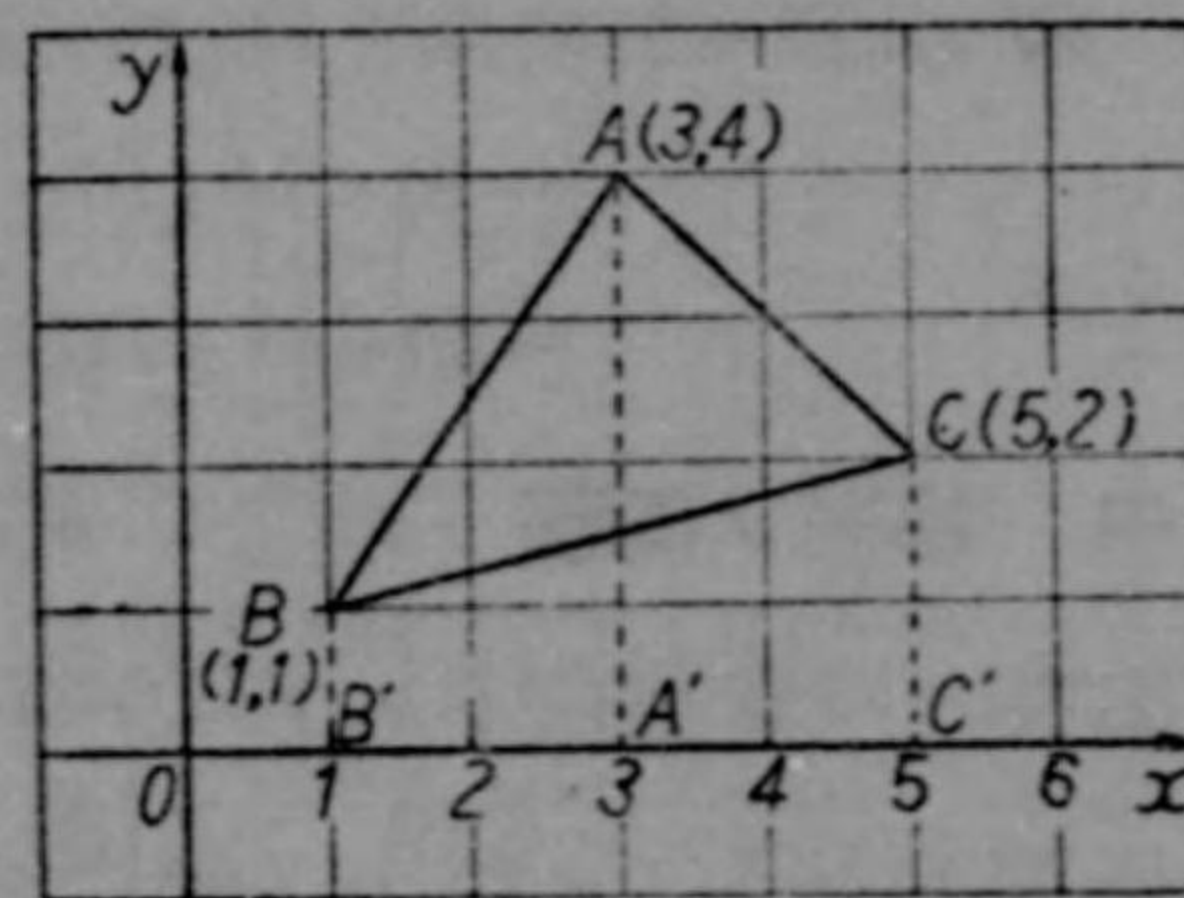


第 45 圖

$$\begin{aligned}
 S &= \text{梯形 } AOB'B + \text{梯形 } BB'C'C + \text{梯形 } CC'D'D + \text{梯形 } DD'E'E \\
 &= \frac{1}{2}(1+3) \times 2 + \frac{1}{2}(3+2) \times (5-2) + \frac{1}{2}(2+1.5) \times (7-5) \\
 &\quad + \frac{1}{2}(1.5+2) \times (8-7) = 4 + 7.5 + 3.5 + 1.75 = 16.75
 \end{aligned}$$

例 3. 三角形 ABC ノ面積ヲ求メヨ。但シ A(3,4), B(1,1), C(5,2) トス
 $\Delta ABC = \text{梯形 } BB'A'A + \text{梯形 } AA'C'C - \text{梯形 } BB'C'C$

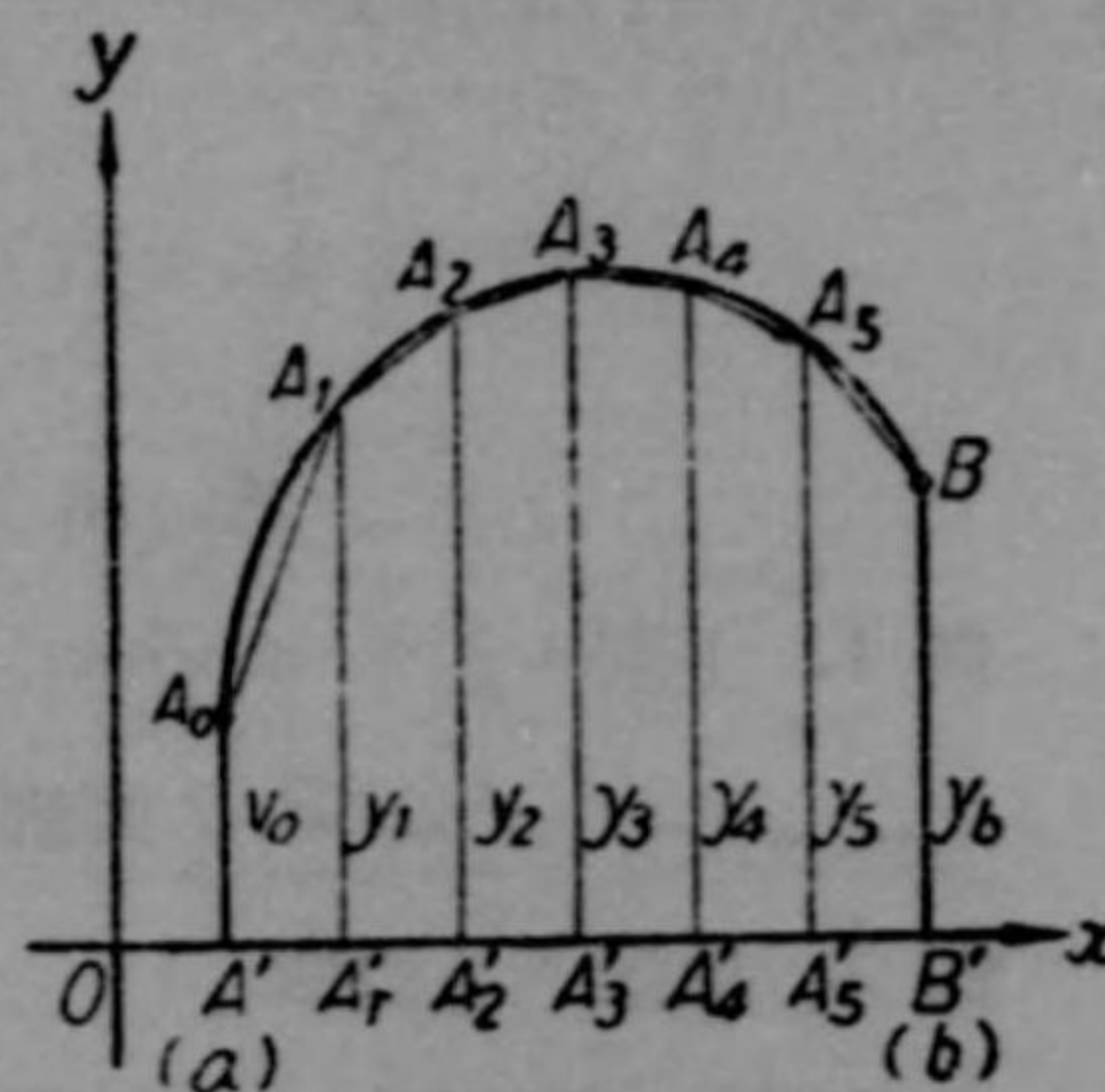
$$\begin{aligned}
 &= \frac{1}{2}(1+4) \times (3-1) \\
 &\quad + \frac{1}{2}(4+2) \times (5-3) \\
 &\quad - \frac{1}{2}(1+2) \times (5-1) \\
 &= 5 + 6 - 6 = 5
 \end{aligned}$$



第 46 圖

(4) 曲線下ノ面積

右圖ノ如ク曲線 AB ノ下ニ在ル圖形 A₀A₁B'B ノ面積ヲ求ムル方法ヲ説明スル。但シ A₀, B ノ座標ハ夫々 (a, y₀), (b, y₆) トスル。A'B'ヲ例ヘバ六等分シテ其ノ分點ヲ左カラ順次 A₁', A₂', A₃', A₄', A₅' トスレバ相隣ル分點間ノ距離 (之ヲ區間ノ長サトイフ) $\frac{b-a}{6}$ ナリ。此ノ各分點ヲ



第 47 圖

通り y 軸ニ平行ナ直線ヲ引キ曲線 AB トノ交點ヲ夫々 A₁, A₂, A₃, A₄, A₅ トスル。

次ニ A, A₁, A₂, A₃, A₄, A₅, Bヲ順次結び付ケレバ概ネ曲線 AB ニ近似シタ折線ガ得ラレル。從ツテ此ノ折線下ノ面積ヲ求メレバ所要ノ面積ノ近似値ガ得ラレル。之ガタメ各分點ノ y 座標ヲ夫々

A₁'A₁=y₁, A₂'A₂=y₂, A₃'A₃=y₃, A₄'A₄=y₄, A₅'A₅=y₅ トスレバ折線下ノ面積 (S₆トス) ハ高サノ相等シイ ($=\frac{b-a}{6}$) 六個ノ梯形ノ面積ノ和ニ等シイ。即チ

$$\begin{aligned}
 S_6 &= \frac{1}{2}(y_0+y_1) \frac{b-a}{6} + \frac{1}{2}(y_1+y_2) \frac{b-a}{6} + \frac{1}{2}(y_2+y_3) \frac{b-a}{6} \\
 &\quad + \frac{1}{2}(y_3+y_4) \frac{b-a}{6} + \frac{1}{2}(y_4+y_5) \frac{b-a}{6} + \frac{1}{2}(y_5+y_6) \frac{b-a}{6} \\
 &= \frac{1}{2}(y_0+2y_1+2y_2+2y_3+2y_4+2y_5+y_6) \frac{b-a}{6} \\
 &= \left(\frac{y_0+y_6}{2} + y_1+y_2+y_3+y_4+y_5 \right) \frac{b-a}{6} \dots\dots\dots(1)
 \end{aligned}$$

但シ A'B' 間ノ等分ノ度ヲ進メレバ折線ハ益々曲線ニ近似シ、其ノ下ニアル面積ハ愈々曲線 AB 下ノ面積ノ眞ノ値ニ近ヅク。

若シ曲線 AB ノ方程式ガ與ヘラレテタル場合ニハ各分點ノ y 座標ハ計算ニ依リ精密ニ求メラレル。

斯様ニシテ面積ヲ求メル方法ヲ梯形法トイフ。

例 1. 原点ヲ中心、半径 4cm デアル四分圓ノ面積ヲ求メヨ。

右圖ニ於テ圓弧 AB ノ下ノ面積ノ近似値ヲ梯形法テ求メル。

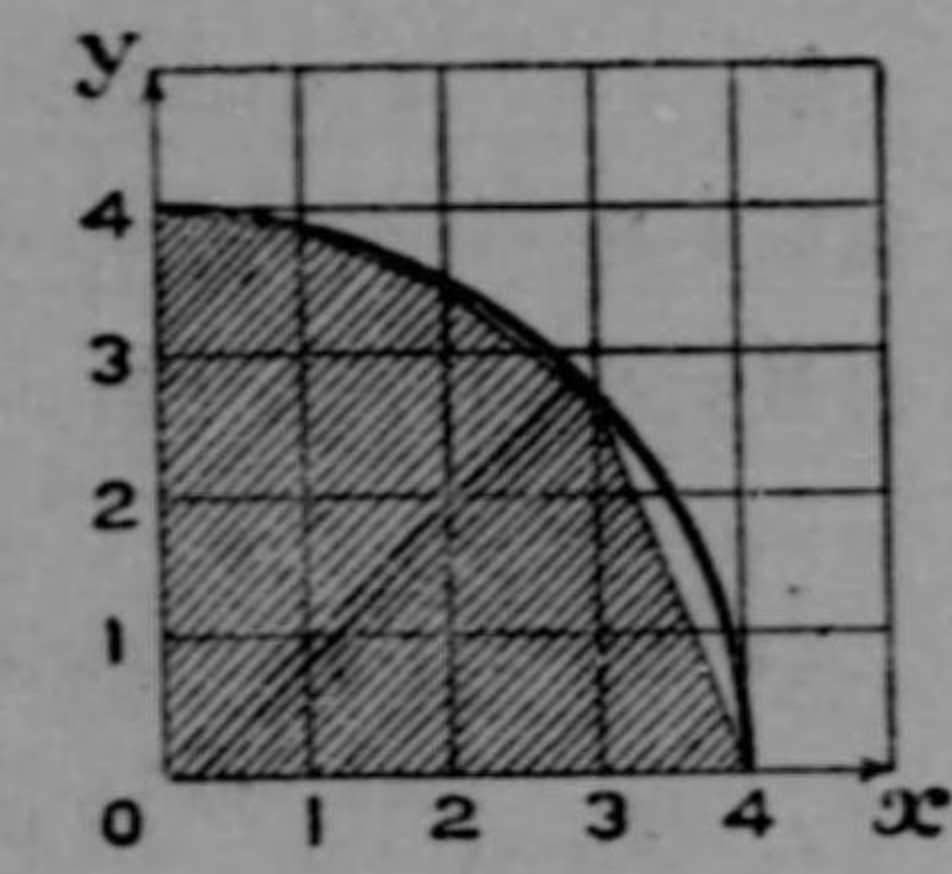
今 O, B 間ヲ 4 等分シタ場合ニハ

$$y_0=4, y_1=3.9, y_2=3.5, y_3=2.6, y_4=0$$

$$\therefore S_4 = \left(\frac{y_0+y_4}{2} + y_1+y_2+y_3 \right) \times 1 \quad \text{ヨリ}$$

$$S_4 = \left(\frac{4+0}{2} + 3.9+3.5+2.6 \right) \times 1 = 12(\text{cm}^2)$$

然ルニ此ノ四分圓ノ眞ノ面積 S ハ



第 48 圖

$$S = \frac{\pi r^2}{4} = \frac{3.14 \times 4^2}{4} = 12.56 (cm^2)$$

デアルカラ S_4 ノ誤差ハ $S - S_4 = 12.56 - 12 = 0.56 (cm^2)$

又 S_4 ノ誤差率ハ $\frac{S - S_4}{S} \times 100 = \frac{0.56}{12.56} \times 100 = 4.45\%$

次ニ OB 間ヲ 10 等分スレバ 區間ノ長サハ $\frac{4}{10} = 0.4 (cm)$ トナリ

* $y_0 = 4, \quad y_1 = 3.98$

$y_{10} = 0, \quad y_2 = 3.95$

$\frac{y_0 + y_{10}}{2} = 2, \quad y_3 = 3.80$

$y_4 = 3.65$

$y_5 = 3.45$

$y_6 = 3.20$

$y_7 = 2.90$

$y_8 = 2.40$

+) $y_9 = 1.80$

29.13

$\therefore S_{10} = (2 + 29.13) \times 0.4 = 12.45$

誤差 = $S - S_{10} = 12.56 - 12.45 = 0.11$

誤差率 = $\frac{S - S_{10}}{S} \times 100 = \frac{0.11}{12.56} \times 100 = 0.87\%$

*

コノ圓ノ方程式ハ

$$y = \sqrt{16 - x^2}$$

デアルカラ x 軸上ノ各分點

$x = 0, 0.4, 0.8, 1.6, \dots, 3.6, 4$

ニ對シ y ノ値ヲ計算ニヨリ求メテ

$y_0, y_1, y_2, \dots, y_9, y_{10}$

トシタ。

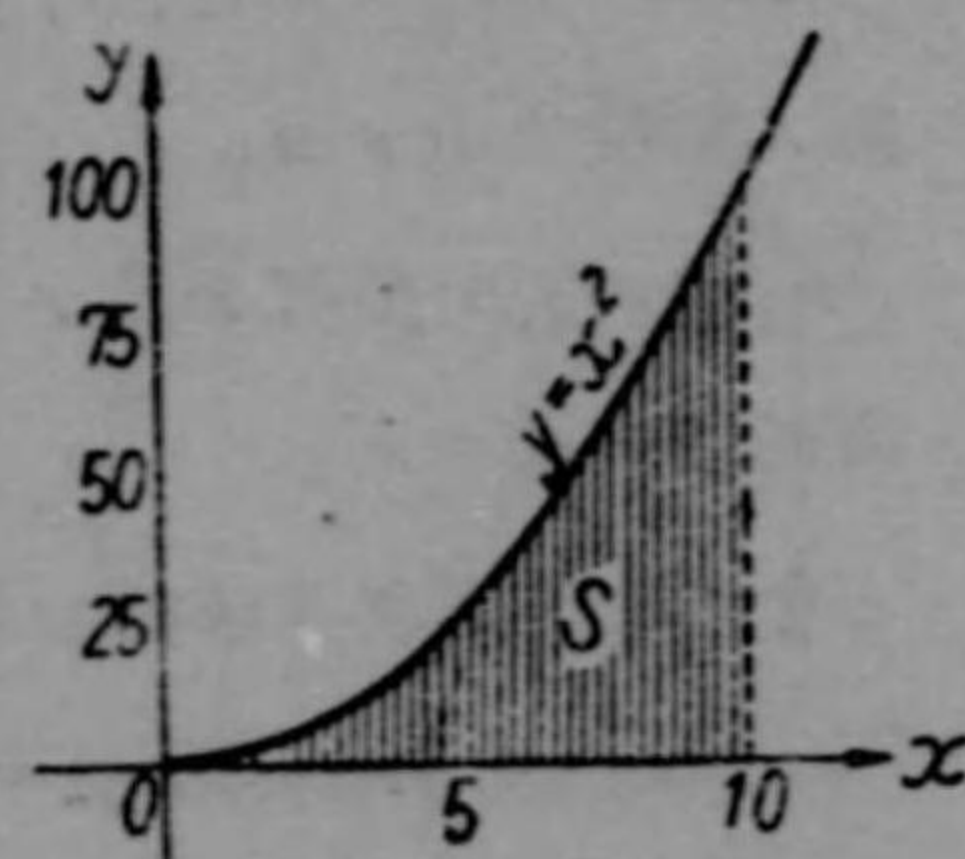
即チ 4 等分ヨリ 10 等分ノ場合ノ方ガ正確ナル値ニ近イコトヲ知ル。

例 2. 曲線 $y = x^2$ ノ下ニアツテ $x = 0$ ヨリ $x = 10$ 迄ノ面積ヲ求メヨ。

解 $x = 0$ ト $x = 10$ トノ間ヲ 10 等分スレバ 區間ノ長サハ 1 トナル。又各分點ノ縱座標ヲ計算テ求メレバ次ノ如クナル。

x	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
x^2	0	1	4	9	16	25	36	49	64	81	100

$\therefore S_{10} = \left(\frac{0+100}{2} + 1+4+9+16+25+36+49+64+81 \right) \times 1 = 335$



第 49 圖

* 誤差率 = $\frac{(\text{眞ノ値}) - (\text{實測値})}{(\text{眞ノ値})}$

注意 1. 上ノ面積 S ヲ別ニ理論上カラ求ムレバ (積分學) 正確ナル値トシテ次ノ値ガ得ラレル。

$$S = 333 \frac{1}{3}$$

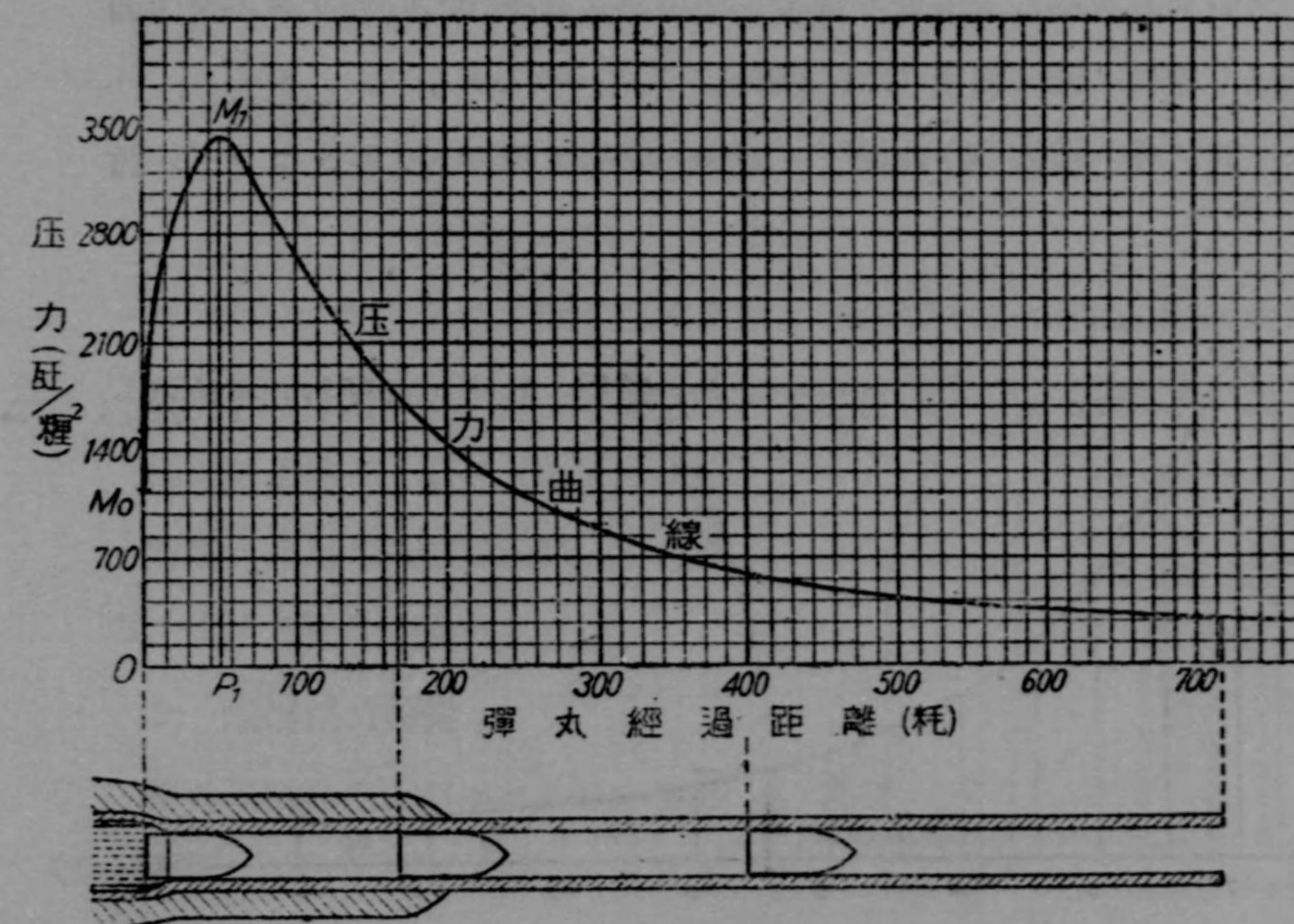
從ツテ S_{10} ノ誤差率ハ $\frac{S - S_{10}}{S} = \frac{333 \frac{1}{3} - 335}{333 \frac{1}{3}} \times 100 = -0.5\%$

注意 2. 等分數ノ増加ニ伴ヒ近似ノ度合ノ進ム情況ヲ次ニ示ス。

等分數 (n)	2	3	4	5	6	7	8	9	10	眞ノ値
S_n	375	351.4	343.5	340	337.9	336.7	335.9	335.3	334.5	$S = 333 \frac{1}{3}$
誤差率 $\frac{S - S_n}{S} \times 100$	-12.4	-5.5	-3.55	-2	-1.39	-1.02	-0.78	-0.60	-0.5	

14. 腔内壓力曲線ト彈丸ノ運動「エネルギー」

(1) 腔内壓力曲線 (第 50 圖)



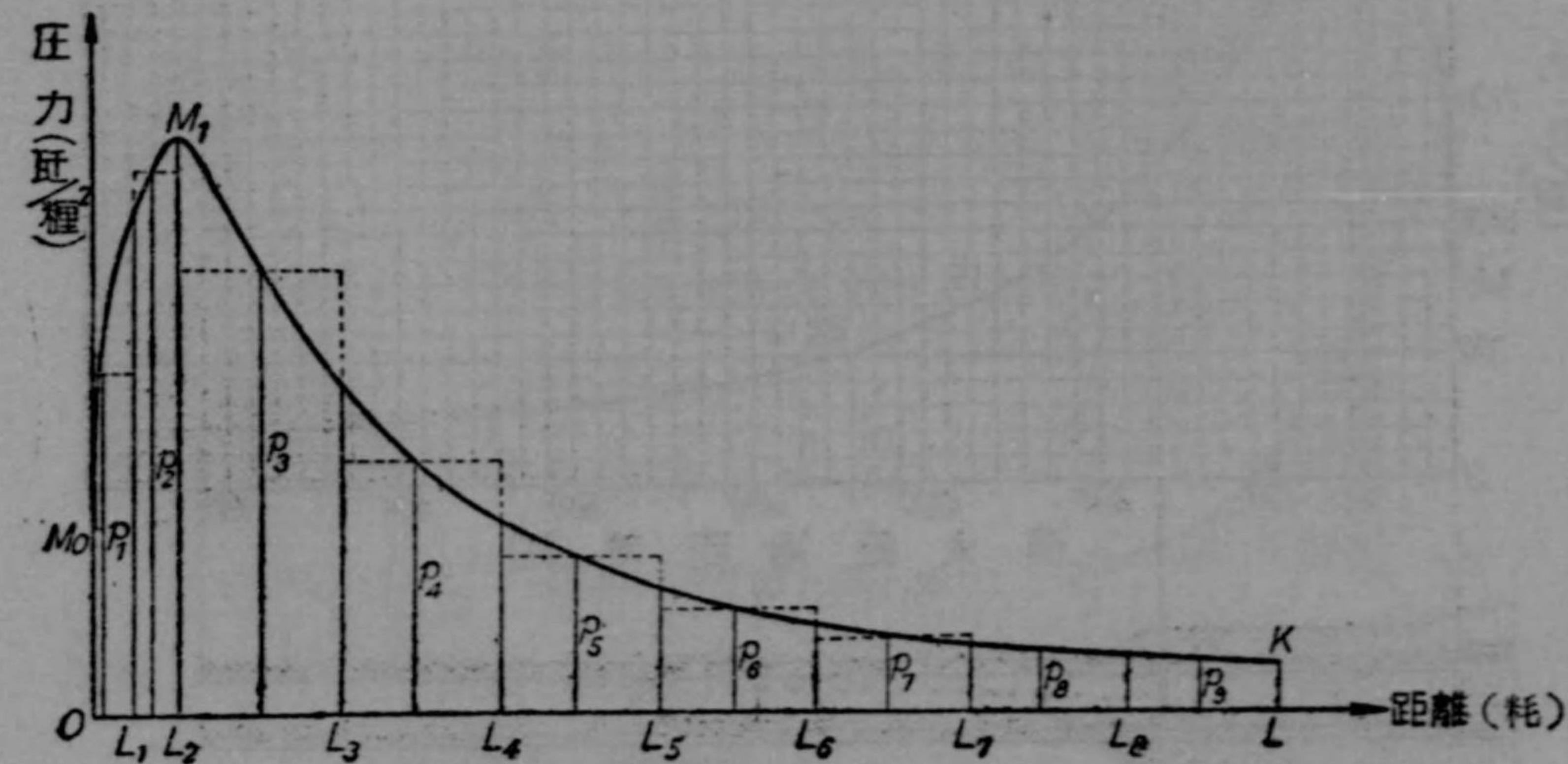
第 50 圖

起爆薬ノ爆發ニヨツテ薬莖内ノ發射薬ガ燃燒ヲ始メルト、薬室内ノ壓力(之ヲ腔壓トイフ)ハ燃燒速度ノ増加ト相俟ツテ急速ニ上昇シ、彈丸ノ推進ニ必要ナ値 OM_0 ニ達スルト、彈丸ハ始メテ運動ヲ開始スル。始メハ彈丸ノ速度ガ緩カデアルカラ「ガス」ノ占ムベキ容積ノ増加ニ比シ「ガス」ノ發生量ハ著シク大キク、從ツテ腔壓ハ尙急速ニ上昇スル。從ツテ彈丸ノ速度モ亦急速ニ増加シ、「ガス」ノ占ムベキ容積ノ増加モ亦急速デ、同時ニ溫度ノ減少ヲ來シ、之レガタメニ「ガス」ハ腔壓ヲ増加サセ得ズシテ漸次減少スル。コノ限界 P_1M_1 ハ即チ腔壓ノ上昇シタ最大值デ、之ヲ最大腔壓トイフ。

(2) 彈丸ニ及ボス火薬「ガス」壓力ノ仕事

「ガス」壓力 P (圧/極²) ヲ縦軸ニ、彈丸經過距離ヲ横軸上ニトリ、之レヲ銃身長 L デ限レバ彈底ニ作用シタ火薬「ガス」ノ仕事ハ壓力曲線ト横軸ノ間ノ面積 OM_0M_1KL デ與ヘラレル。

其ノ理ハ前節(4) 曲線下ノ面積ノ説明デ明カデアルガココデハ前



第 51 圖

節ト多少異ナル方法デ考ヘルコトニスル。

今第51圖ノ如ク OL ヲ例ヘバ $L_1, L_2, L_3, \dots, L_9$ ニヨツテ任意ニ 9 個ノ部分ニ分ケ彈丸ガ O カラ L_1, L_1 カラ L_2, L_2 カラ L_3, \dots, L_9 カラ L マデ進ム間ノ平均壓力 ((1), (2) ガ前節ノ方法ト異ナル) ヲ夫々 $p_1, p_2, p_3, \dots, p_9$ トスレバ

彈底ガ O カラ L_1 マデ進ム間ニ「ガス」壓力ノナス仕事 W_1 ハ

$$W_1 = p_1 \times OL_1 (\text{底} \cdot \text{極}) = (\text{底邊} OL_1, \text{高サ} p_1 \text{ノ矩形ノ面積} S_1)$$

同様ニ L_1 カラ L_2 マデ進ム間ニナス仕事 W_2 ハ

$$W_2 = p_2 \times L_1L_2 (\text{底} \cdot \text{極}) = (\text{底邊} L_1L_2, \text{高サ} p_2 \text{ノ矩形ノ面積} S_2)$$

以下同様ニシテ L_8 カラ L マデ進ム間ニナス仕事 W_9 ハ

$$W_9 = p_9 \times L_8L (\text{底} \cdot \text{極}) = (\text{底邊} L_8L, \text{高サ} p_9 \text{ノ矩形ノ面積} S_9)$$

從ツテ彈丸ガ銃口ヲ飛び出ス迄ニ「ガス」ヨリ受ケル仕事ノ全量 W' ハ

$$W' = W_1 + W_2 + W_3 + \dots + W_9$$

$$= (\text{矩形ノ面積ノ和})$$

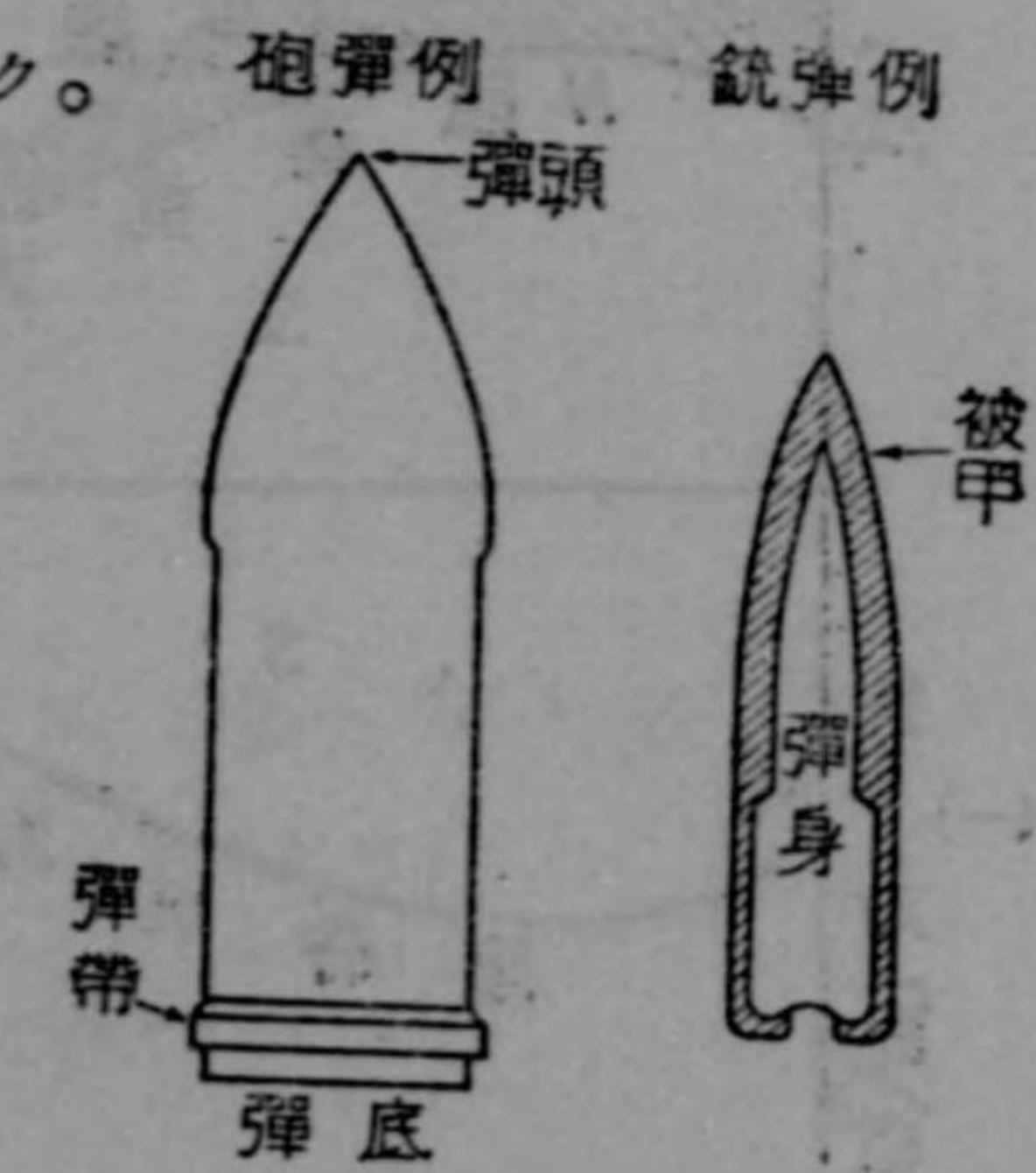
$$= S_1 + S_2 + S_3 + \dots + S_9$$

切テ OL ノ間ノ分割ノ度ヲ進メテ行ケバ、前節(4)ト同様ニ階段状ノ矩形ハ段々曲線ノ下部ノ圖形ニ近ヅク。

從ツテ曲線下ノ圖形 OM_0M_1KL ノ面積ハ彈丸ニ及ボス火薬「ガス」壓力ノ仕事ノ全量ヲ表ハス。

(3) 阻碍抗力曲線

彈丸ガ銃身内ヲ前進スル時ハ實際ハ諸種ノ抗力ヲ受ケルガ、コノ内重ナルモノハ次ノ二種ト云ヘル。



第 52 圖

- (イ) 彈帶(銃彈デハ被甲)ノ腔綫ニ吻入スルタメ生ズル抵抗
- (ロ) 銃身内ニ於ケル彈丸特ニ彈帶ノ摩擦

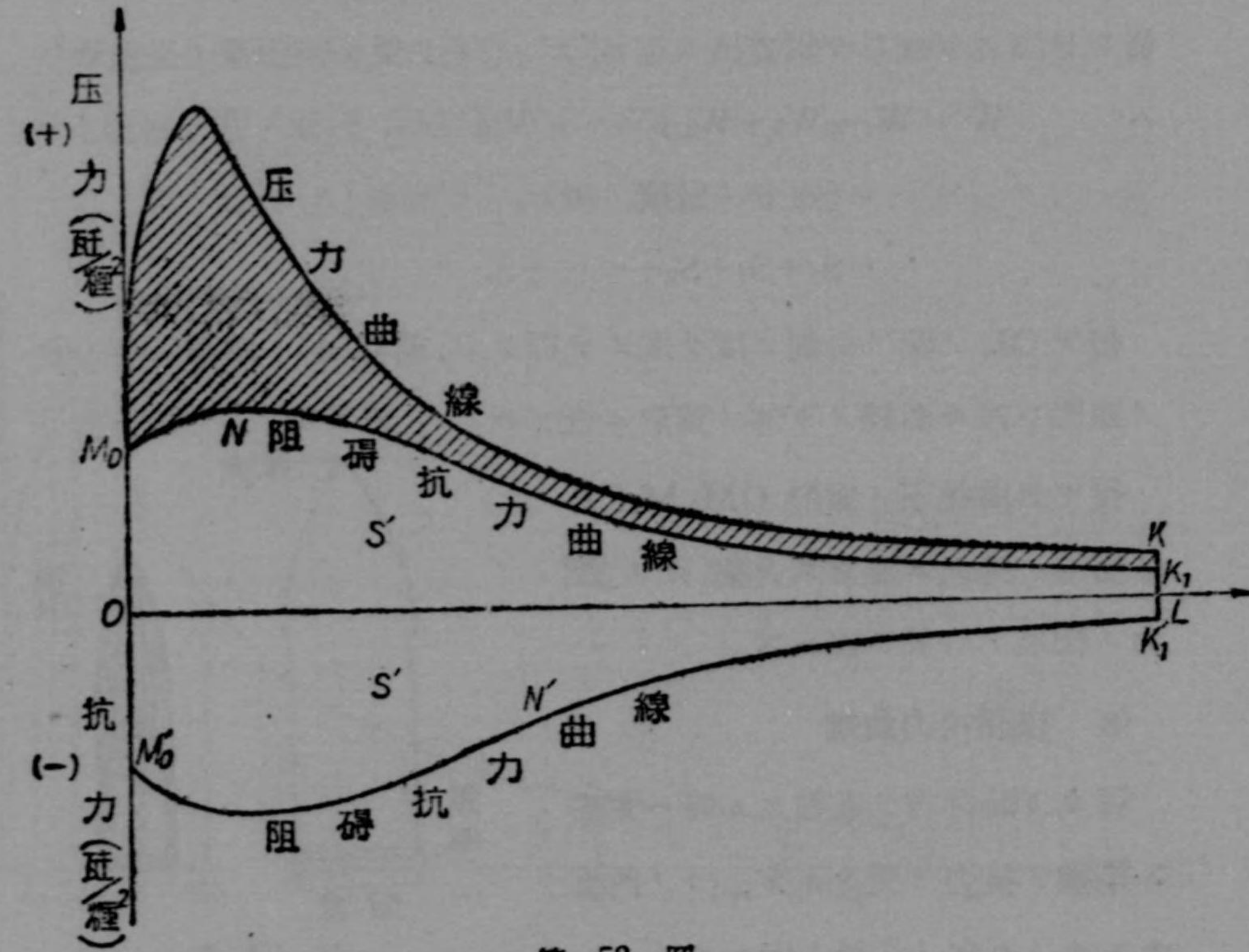
茲ニ於テ壓力曲線ヲ畫クト同様ニ阻碍抗力ノ曲線ヲ畫クト第53圖ノ $M_0'N'K_1'$ ノ如クナル。何トナレバ、抗力ハ壓力トハ反對方向ニ働クカラ壓力ヲ正トシテキルカラ抗力ハ負トスベキデ、曲線ハ横軸ノ下側ニ出來ル。

從ツテ曲線 $M_0'N'K_1'$ ト横軸ノ間ノ圖形 $OM_0'N'K_1'L$ ノ面積ヲ S' トスレバ阻碍抗力ノナス仕事 W'' ハ

$$W'' = -S' \quad (\text{負ハ仕事ノ損失ヲ表ハス})$$

トナル。依ツテ實際ニ彈丸ガ銃口ヲ出ル迄ニ受ケル仕事 W ハ

$$W = W' + W'' = S - S'$$



第 53 圖

故ニ曲線 $M_0'N'K_1'$ ヲ横軸ヲ折目トシテ上側ニ折返シタ圖形ヲ M_0NK_1 トスレバ圖形 OM_0NK_1L ノ面積ハ S' ニ等シイ。

從ツテ $S-S'$ ハ斜線ヲ施シタ部分ノ面積トナル。

之ガ即チ實際彈丸ニ作用シタ有効壓力ノ全仕事量ヲ表ハスコトトナル。

(4) 彈丸ノ有スル運動ノ「エネルギー」

重量 W 疋ナル物體ガ速度 V 米/秒ヲ以テ運動シテキルトキ有スル運動ノ「エネルギー」 E ハ

$$E = \frac{WV^2}{2g} = \frac{WV^2}{2 \times 9.8} \quad (\text{疋} \cdot \text{米})$$

從ツテ銃身内デ彈丸ニ作用スル有効ガス壓力ノ全仕事量ハ前ニ説明シタ如ク、壓力曲線ト阻碍抗力曲線トノ間ニ夾マレル面積デ計算ガ出來ルガ一方コノ全仕事量ニヨツテ銃口ヲ出ルトキ彈丸ノ受ケタ運動ノ「エネルギー」(之ヲ初活カトイフ) モ之ニ等シイ筈デアルカラ、彈丸ノ重量ヲ W' 疋、初速ヲ V 米/秒トスレバ

$$W = E = \frac{1}{2 \times 9.8} W' V^2 \quad (\text{疋} \cdot \text{米})$$

\vdots (銃運動ヲノ出ルトキ) \vdots (重量疋) \vdots (初速米/秒)
 \vdots (ガスノ有効仕事) \vdots (エネルギー) \vdots (仕事)

例 三八式歩兵銃實包ノ彈丸ノ重量ハ9瓦、初速ハ763米/秒デアルカラ銃口ヲ出ルトキコノ彈丸ノ有スル運動ノ「エネルギー」 E ハ

$$E = \frac{1}{2 \times 9.8} \times \frac{9}{1000} \times 763^2 = 267 \quad (\text{疋} \cdot \text{米})$$

15. 四衝程機関

(1) 四衝程機関ノ構造及ビ作動ノ大要

第54圖ニ於テ

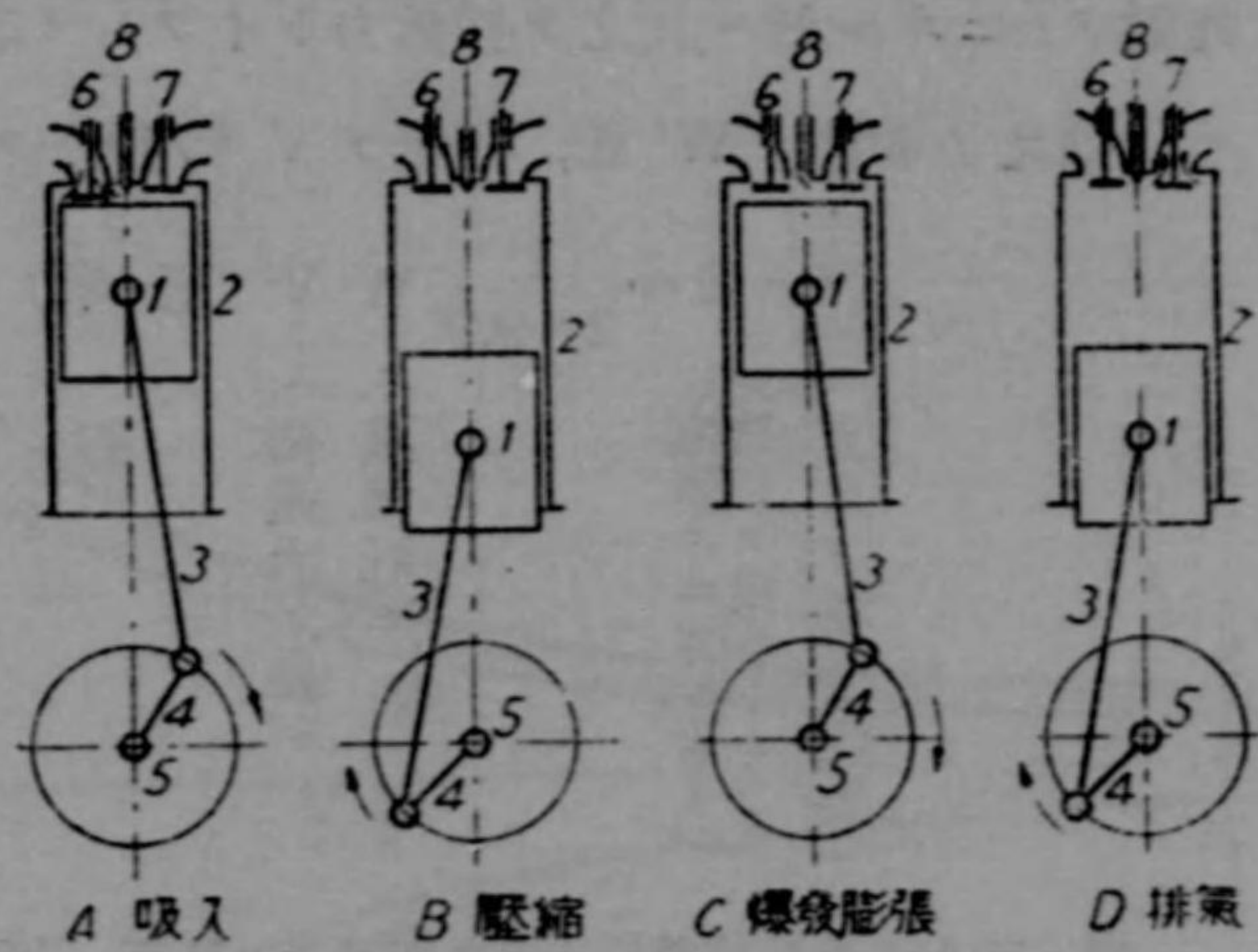
A. 「ピストン」1ガ降下シテ吸入弁6ヨリ「ガス」ト空氣トノ混合「ガス」ヲ「シリンダ」2ノ内ニ吸込ム。コレヲ吸入衝程トイフ。コノ時「シリンダ」内ノ「ガス」壓力ノ平均ハ約0.9氣壓デアアル。

B. 「ピストン」1ガ上昇スルトキ弁6,7ハ閉ヂテキルカラ混合「ガス」ハ壓縮セラレテ「シリンダ」上部ノ燃燒室内ニ密閉サレル。コレヲ壓縮衝程トイヒ、最高壓力ハ約36氣壓トナル。

C. 壓縮衝程ノ終リニ近ク約3000°Cノ電氣火花ヲ「シリンダ」内ニ放チ混合「ガス」ニ點火スレバ「ガス」ハ爆發燃燒シテ「ピストン」ヲ押し下ゲル。コレヲ爆發及ビ膨脹衝程トイフ。

D. 膨脹ノ終リニ

近付クト排氣弁7ハ開イテ「シリンダ」ハ大氣ニ通ズルカラ「ピストン」ノ上昇衝程ニヨリ不要「ガス」ハ「シリンダ」ノ外方ニ押し出サレル。之ヲ排氣衝程トイフ。

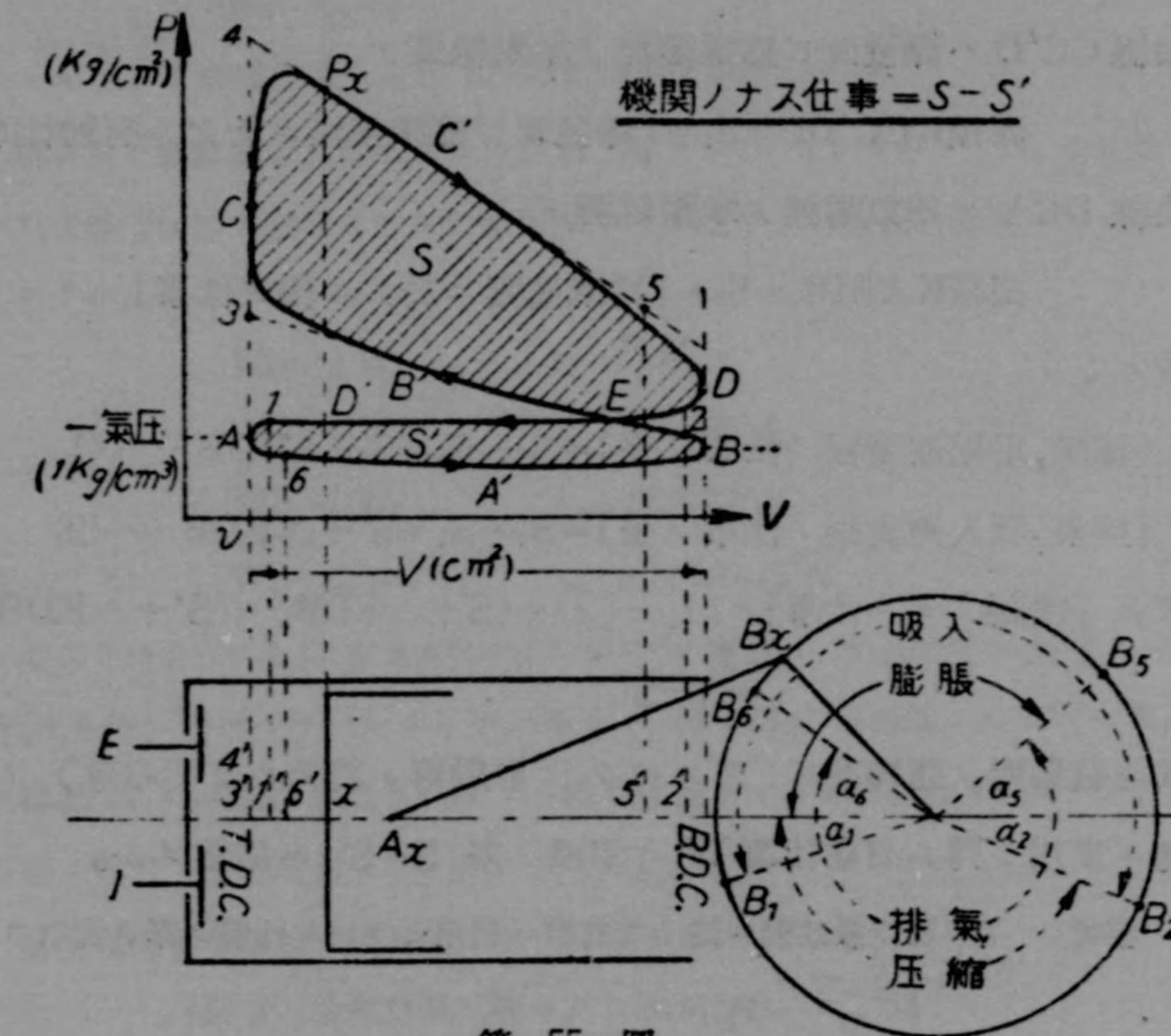


第54圖

「ピストン」ガ昇リ切ツタ點及ビ下リ切ツタ點ヲ夫々上死點、下死點トイフ。コノ四種ノ衝程ヲ繰返シテ動力ガ生ジ、はづみ車デ調節セラレテ車輪又ハ「プロペラ」ニ傳達セラレル。

(2) 示壓線圖(附 効率)

四衝程機関ノ各衝程ニ於ケル「シリンダ」内ノ壓力ト「ガス」容積(衝程ノ長サトイフモ同ジ)トノ關係ヲ圖ニ示セバ第55圖ノ如クナル。之ヲ示壓線圖トイフ。

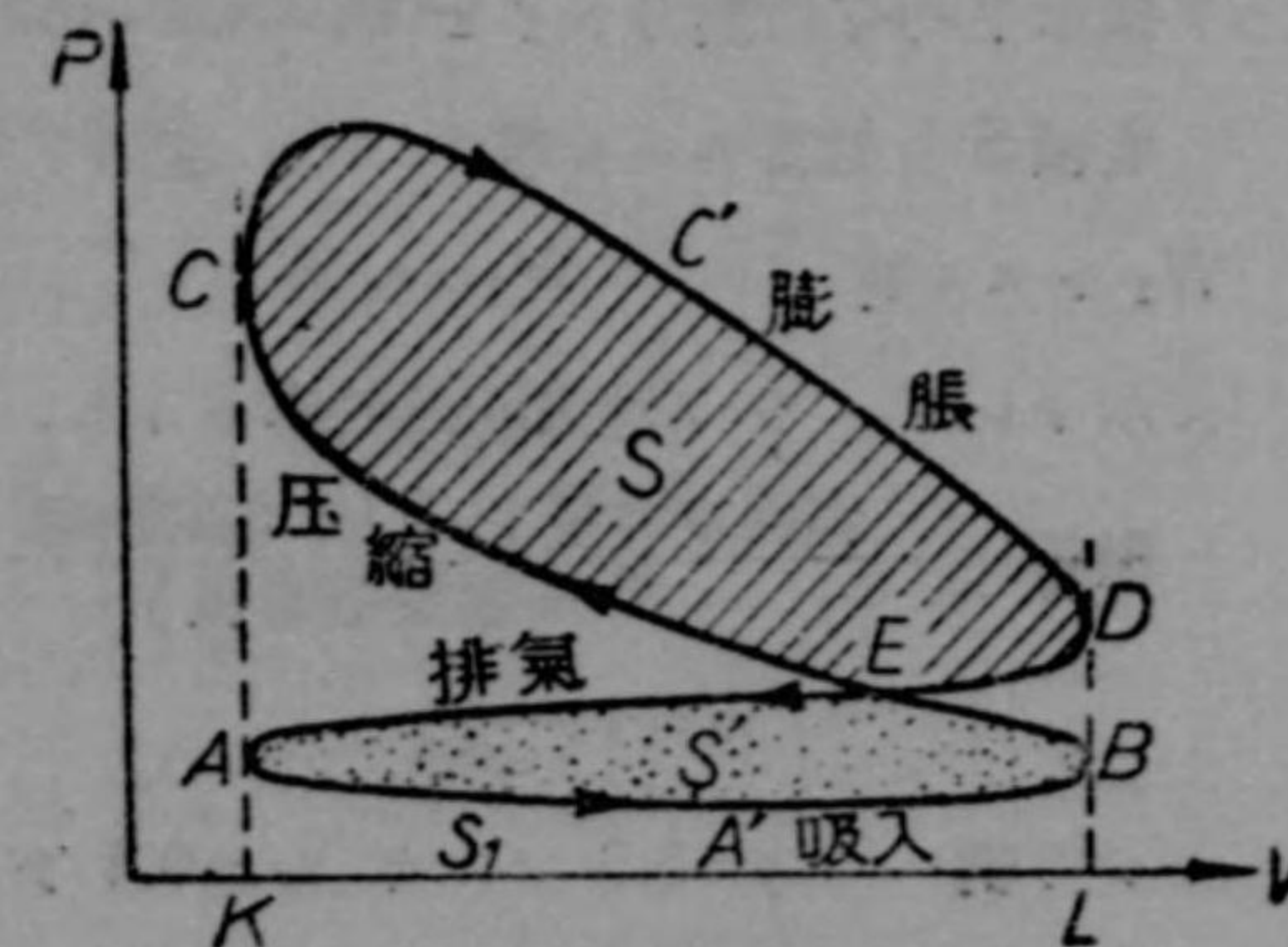


第55圖

上圖ニ於テ機關ノナス有効仕事ハ斜線ヲ施シタ部分ノ面積ノ差

$$S - S'$$

デ表ハサレル。之ガ説明ノタメ上圖ヲ右ノ如クスル。



第56圖

第56圖ニ於テ曲線AA'Bハ

吸入衝程ノ場合ノ示壓線圖デ

$$\text{面積} KAA'BL = S_1 = [\text{吸入衝程ニナス仕事}]$$

曲線 BEC ハ壓縮衝程ノ示壓線圖デ

$$\text{面積} KCEBL = S_2 = [\text{壓縮衝程ニ於ケル損失仕事}]$$

曲線 CC'D ハ爆發及ビ膨脹衝程ノ示壓線圖デ

$$\text{面積} KCC'DL = S_3 = [\text{爆發及ビ膨脹衝程ニ於ケル有効仕事}]$$

曲線 DEA ハ排氣衝程ノ示壓線圖デ

$$\text{面積} KAEDL = S_4 = [\text{排氣衝程ニ於ケル損失仕事}]$$

故ニ

$$[\text{膨脹, 壓縮兩衝程ノ仕事ノ差}] = S_3 - S_2 = S + \Delta EDB \dots\dots(1)$$

$$[\text{排氣, 吸入兩衝程ノ仕事ノ差}] = S_4 - S_1 = S' + \Delta EDB \dots\dots(2)$$

$$\begin{aligned} \text{故ニ} \quad [\text{機關ノナス仕事}] &= (1) - (2) = (S + \Delta EDB) - (S' + \Delta EDB) \\ &= S - S' \end{aligned}$$

故ニ發動機ノ運轉及ビ「プロペラ」(自動車ニ於テハはづみ車)ノ回轉ニ使用シ得ル有効仕事 W ハ面積ノ差 S-S' ニ相當スル。

[參考] 次ニ航空發動機ニ就イテ實際ニ利用セラレル仕事ノ率ヲ例示スル。

$$\frac{S-S'}{V} = P_i$$

ヲ指示平均有効壓力トイヒ $P_i = 8.5 \sim 15 \text{ kg/cm}^2$ デアル。

面積 S = 相當スル仕事ヲ W_2 , 混合「ガス」ノ有スル全「エネルギー」ヲ

$$W_1 \text{ トスル時} \quad W_2 = \eta_t W_1$$

デ示サレル。 η_t ヲ理論的熱効率トイヒ,

$$\text{壓縮比} \left[\frac{(\text{燃燒室容積}) + (\text{上, 下死點間ノ容積})}{(\text{燃燒室容積})} \right] \text{ヲ} \rho \text{ トスル時ハ}$$

$$\eta_t = 1 - \frac{1}{\rho^{0.3}}$$

トナリ例ヘバ $\rho = 5.5$ ノトキ $\eta_t = 0.4$ デアル。

$$\text{次イテ} \quad W_3 = \eta_d W_2$$

ナル關係デ示サレル η_d ヲ示壓線圖効率トイヒ $\eta_d = 85 \sim 95\%$ デアル。

又 W_3 ノ一部ハ發動機運轉ノタメ摩擦及ビ油ポンプ等ノ附屬装置ノ運轉ニ消費セラレ「プロペラ」ノ回轉ニ使用シ得ル仕事即チ軸馬力ニ相當スルモノヲ W_4 トスル時ハ W_3 及ビ W_4 ノ間ニ次ノ關係ガアル。

$$W_4 = \eta_m W_3$$

コヽニ η_m ヲ機械能率トイヒ $87 \sim 92\%$ デアル。

斯クシテ發動機ニ供給セラレル燃料ノ有スル全「エネルギー」 W_1 ガ有効ナル仕事 W_4 即チ軸馬力トシテ使用セラレル途中ニハ各種ノ損失ヲ伴フモノデアル。以上ヲ纏メレバ

$$W_2 = \eta_t W_1 \quad \eta_t = 40\%$$

$$W_3 = \eta_d W_2 \quad \eta_d = 85 \sim 95\%$$

$$W_4 = \eta_m W_3 \quad \eta_m = 87 \sim 92\%$$

$$\text{故ニ} \quad W_4 = \eta_m \eta_d \eta_t W_1 \quad \eta_m \eta_d \eta_t = 25 \sim 32\%$$

從ツテ混合「ガス」ノ有スル「エネルギー」ノ僅カニ $25 \sim 32\%$ ニ相當スル W_4 ガ有効ニ使用セラレルノミデ, 残りノ $75 \sim 68\%$ ニ相當スル $W_1 - W_4$ ハ排氣「ガス」ニ依リ奪取ラレタリ, 或ハ冷却水ニヨツテ放散セラレル等, 各種ノ損失トシテ消費セラレルノデアル。

航空用揮發發動機ニ就キ熱分布ノ一例ヲ示ス。

冷却又ハ冷却空氣ニ與ヘラルル熱量	14
放射及ビ排氣「ガス」ニ依ル損失熱量	41
不完全燃焼ニ依ル損失熱量	11
滑油ノ奪フ熱量	2
摩擦損失熱量	6
軸馬力トシテ利用シ得ル熱量	26
全供給熱量	100

(3) 發生馬力

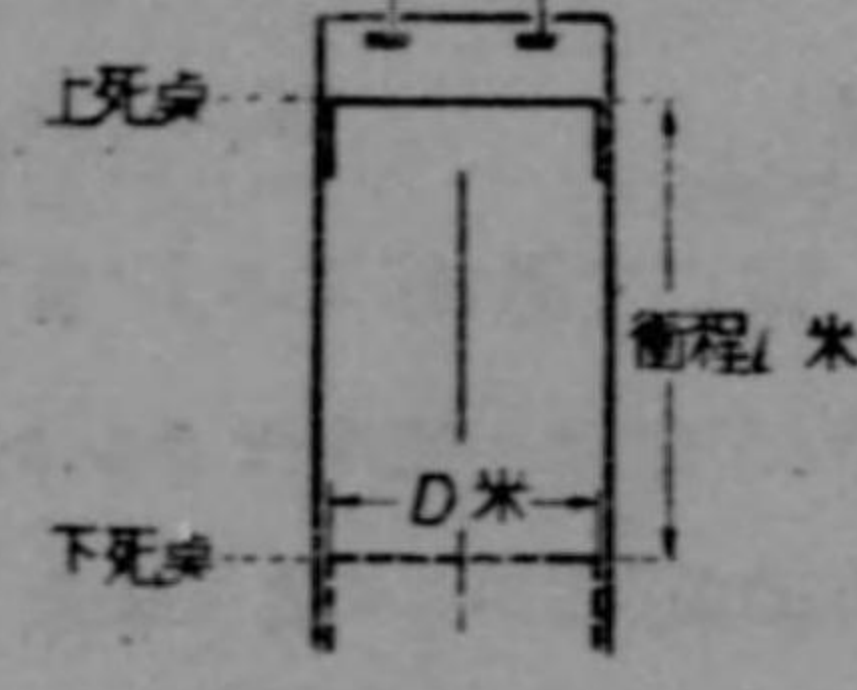
示壓線圖(第55圖)ニ於ケル面積 S-S' ニ相等スル仕事ニヨツテ表

ハサレル馬力ヲ示指馬力トイヒ **I.H.P** ト記ス。之ガ全部ハづみ車ノ有スル馬力即チ軸馬力(實馬力又ハ正味馬力トモイヒ **B.H.P** ト記ス)トハナラナイデ機械ノ摩擦其ノ他ノ抵抗ノタメ小トナル。コノ割合ヲ機械効率トイヒ、石油機關デハ概ネ 0.80~0.85 デアル。今コレヲ η_m トスレバ兩馬力ノ間ニハ $B.H.P = I.H.P \times \eta_m$ ナル關係ガアル。次ニ馬力ノ算定ハ次ノ式ニヨル。

$$(1) \quad I.H.P = \frac{P \times n \times D^2 \times L \times N}{1.146}$$

$$(2) \quad B.H.P = \frac{P \times n \times D^2 \times L \times N}{1.146} \times \eta_m$$

但シ P: 平均有効壓力(= $\frac{\text{面積} S - S'}{\text{衝程}}$) (斤/匁²)

n: 毎分ノ回轉數(*r.p.m* ト記ス) 

D: 「ピストン」ノ直徑 (米)

L: 衝程 (米)

N: 氣筒數

η_m : 機械効率

第 57 圖

說明 先ヅ單氣筒ニツイテ考ヘル。

(イ) 爆發「ガス」ノ「ピストン」ノ上面ニ及ボス全壓力(斤)
 = 「ピストン」ノ上面積(匁²) × [有効平均壓力(斤/匁²)]
 = $\frac{\pi}{4} (100D)^2 \times P$ (斤)

(ロ) 爆發「ガス」ノナス仕事 (斤・米)
 = [全壓力(斤)] × [衝程(米)]
 = $[\frac{\pi}{4} (100D)^2 \times P] \times L$ (斤・米)

(ハ) 毎秒ノ仕事
 = [爆發「ガス」ノナス仕事(斤・米)] × (毎分ノ爆發回數)

$$= [\frac{\pi}{4} (100D)^2 \times P \times L] \times \frac{n}{2 \times 60} \quad (\text{斤} \cdot \text{米} / \text{秒})$$

↑
 { 毎分 n 回轉故ニ毎秒 $\frac{n}{60}$ 回轉, 又爆發ハ 2 回轉ニツキ }
 { 1 回起ルカラ毎秒ノ爆發回數ハ $\frac{n}{2 \times 60}$ }

(ニ) 1馬力=75斤・米/秒 デアルカラ

$$I.H.P = [\text{毎秒ノ仕事}] \div [75 \text{斤} \cdot \text{米} / \text{秒}]$$

$$= [\frac{\pi}{4} (100D)^2 \times P \times L \times \frac{n}{2 \times 60}] \times \frac{1}{75}$$

從ツテ氣筒數ヲ N トスレバコノ機關ノ示指馬力ハ

$$I.H.P = \frac{\pi}{4} (100D)^2 \times P \times L \times \frac{n}{2 \times 60} \times \frac{1}{75} \times N$$

$$= \frac{P \times n \times D^2 \times L \times N}{1.146} \left[\because \frac{\pi}{4} \times 100^2 \times \frac{1}{2 \times 60} \times \frac{1}{75} = \frac{1}{1.146} \right]$$

例 四氣筒 (N=4), 衝程 1.4 米 (L), 「ピストン」ノ直徑 0.116 米 (D), 平均有効壓力 6.3 斤/匁² (P), 毎分回轉數 100 (n), 機械効率 0.8 (η_m) ナル機關ノ軸馬力ヲ求メヨ。

解 (2) 式ヨリ $B.H.P = \frac{6.3 \times 100 \times 0.116 \times 1.4 \times 4}{1.146} \times 0.8 = 36$ (馬力)

問 九氣筒, 衝程 16 匁, 氣筒内徑 14 匁, 平均有効壓力 10 斤/匁² ナル四衝程航空發動機ノ示指馬力幾何カ。又機械効率 90% ナラバ軸馬力幾何カ。

答 I.H.P=591, B.H.P=532

【參考】

(i) 警視廳ニ於ケル課稅用馬力算定公式ハ

$$B.H.P = \frac{N \times D^2}{3} \dots \dots \dots (3)$$

但シ D: 氣筒中徑 (匁), N: 氣筒數

コレハ如何ニシテ出スカトイフニ依リ、封度制デハ

$$B.H.P = \frac{P \times S \times 0.785 D^2 \times N \times \eta}{33000 \times 4} \dots \dots \dots (4)$$

但シ P: 平均有効壓力 (封度/吋²)

S: 「ピストン」ノ速度 (呎/分)

[(軸ノ回轉數) × (腕ノ長さ) × 2]

D:「ピストン」ノ中徑(吋) $\left[0.785 = \frac{\pi}{4}\right]$

N: 氣筒數

η : 機械効率

分母ノ33000ハ 1馬力=33000封度・呎, 4ハ四衝程機關ノ4

然ル=實驗上自動車用機關デハ

P=90 (封度/吋²), S=1000 (呎/分), $\eta=0.75$

デアカラ(4)ヲ簡畧=シテ

$$B.H.P. = \frac{N \times D^2}{2.489} = \frac{N \times D^2}{2.5} = \frac{N \times D^2}{3}$$

||
(米國, 英國ノ算定公式)

トシタモノデアロ。

(ii) 獨逸國馬力算定公式ハ

$$B.H.P. = 0.3 \times N \times D^2 \times l$$

但シ N: 氣筒數

D:「シリンダ」ノ徑(吋)

l: 衝程(米)

第二篇 密位法

16. 緒言

軍事上用ヒラレテキル角ノ單位ハ種々アルガ、概ネ高低角ハ六十分法, 方向角ハ密位法^{ミツタ}デ測ル。密位法ハ又別ノ測角法デア^{ミツタ}ル弧度法ト簡單デ而モ便利ナ關係ガアルノデ利用價値ガ一層大キイ。

次ニ之等三種ノ測角法ニ就イテ説明スル。

17. 六十分法

圓周ノ三百六十分ノ一ノ弧ニ對スル中心角ノ大サヲ一度(1°ト記ス)トイヒ, 他ニ一分(1'ト記ス), 一秒(1''ト記ス)ノ單位ヲ用ヒル。

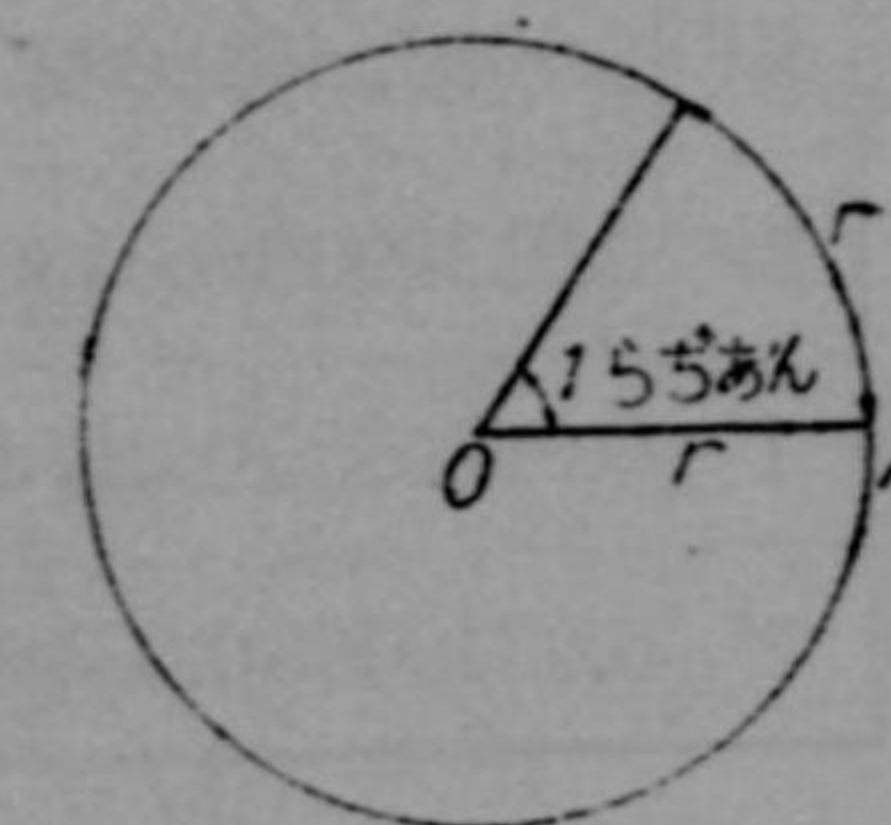
コレ等ノ單位ノ間ニハ次ノ關係ガアル。

$$1^\circ = 60', \quad 1' = 60''$$

コレ等ノ單位ヲ以テ角ヲ測ル方法ヲ六十分法トイフ。

18. 弧度法

圓ノ半徑ノ長サニ等シイ圓弧ニ對スル中心角ノ大サヲ一弧度^{コト}又ハ1ラぢあんトイヒ, コノ單位ニヨル測角法ヲ弧度法トイフ。



例 半徑5mノ圓ニ於テ

(i) 5mノ圓弧ニ對スル中心角ハ1ラぢあん

第58圖

(ii) 10mノ圓弧ニ對スル中心角ハ2ラぢあん

デアロ。

定理 1. 圓ノ半徑ヲr, 弧ノ長サヲl, 中心角ヲ θ ラぢあんトス

レバ

$$\theta = \frac{l}{r} \text{ 又ハ } l = r\theta$$

系 $180^\circ = \pi$ らちあん $= 3.14159 \dots$ らちあん (但シ π ハ圓周率)
 何トナレバ半径 r ノ圓ノ半圓周ハ πr , コノ半圓周ニ對スル中心
 角ハ明カニ 180° デアリ, 又其ノ弧度ハ $\frac{\pi r}{r} = \pi$ らちあん デアルカ
 ラデアル。

問題 1. 1 らちあん $= \frac{180^\circ}{\pi} = \frac{180^\circ}{3.1415 \dots} = 57^\circ 17' 44.8''$

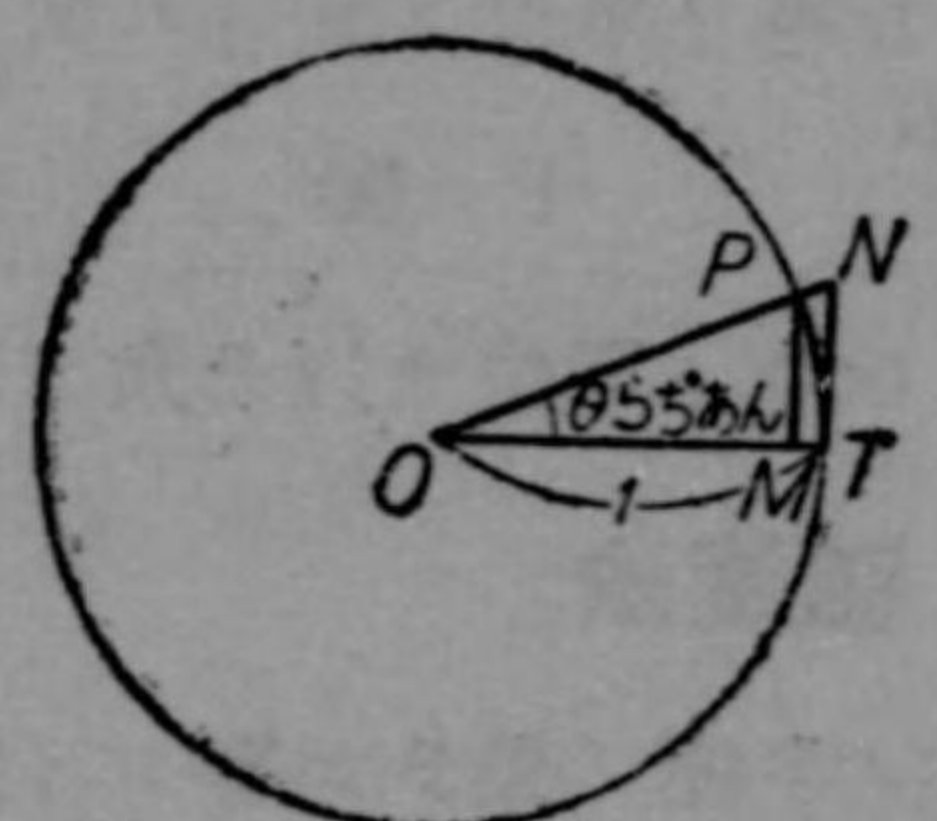
1 度 $= \frac{\pi}{180} = \frac{3.1415 \dots}{180} = 0.017$ らちあん

定理 2. 小サイ角ノ弧度ヲ θ トスレバ次ノ近似式ガ成立スル。

$$\sin \theta \approx \theta \approx \tan \theta$$

之ハ次ノ表及ビ圖ニヨツテ理解シ得ルデアラウ。

角	角ノ弧度	$\sin \theta$	$\tan \theta$
1'	0.0002909	0.0002909	0.0002909
15'	0.0043633	0.0043633	0.0043634
30'	0.0087266	0.0087265	0.0087269
45'	0.0130900	0.0130896	0.0130907
1°	0.0174533	0.0174524	0.0174551
2°	0.0349066	0.0348995	0.0349208



$$\left. \begin{aligned} \sin \theta &= \overline{MP} \\ \theta &= \overline{PT} \\ \tan \theta &= \overline{TN} \end{aligned} \right\} \begin{aligned} \overline{MP} &\approx \overline{PT} \approx \overline{TN} \\ \sin \theta &\approx \theta \approx \tan \theta \end{aligned}$$

第 59 圖

系 小サイ角ノ度数ヲ α トスレバ

$$\sin \alpha \approx \frac{\pi}{180} \alpha \approx \tan \alpha$$

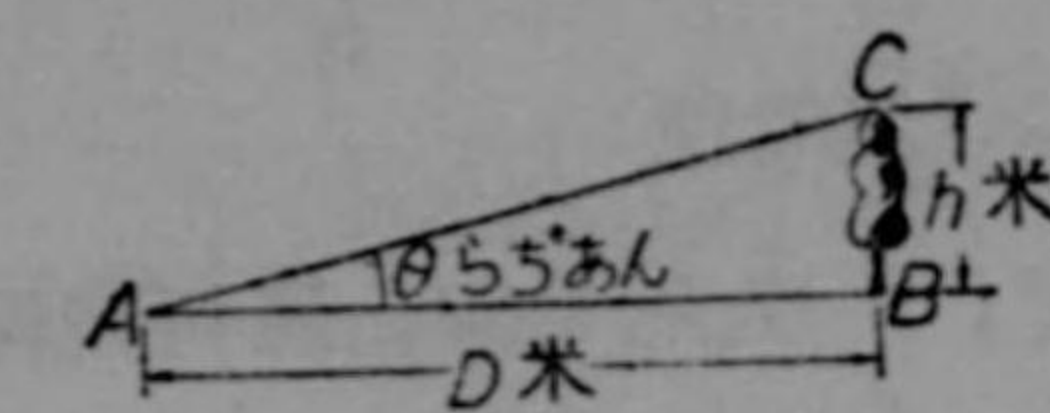
定理 3. 正切法 (射教第一部第八十九) ノ原理

次ノ圖ニ於テ基線 $AB = D$ 米, $BC = h$ 米, $\angle CAB = \theta$ らちあんト

スレバ

$$h \approx D\theta \text{ 又ハ } D \approx \frac{h}{\theta}$$

何トナレバ $\tan \theta = \frac{h}{D}$, 又 θ ガ小ナ



第 60 圖

ラバ $\tan \theta \approx \theta$

從ツテコノ二式カラ $\theta \approx \frac{h}{D} \therefore D \approx \frac{h}{\theta}, h \approx D\theta$

例 1. $D = 120$ m, $\theta = 0.02$ らちあん ナラバ

$$h \approx D\theta = 120 \times 0.02 = 2.4 \text{ m}$$

例 2. $h = 10$ m, $\theta = 0.12$ らちあん ナラバ

$$D \approx \frac{h}{\theta} = \frac{10}{0.12} = 83.33 \text{ m}$$

19. 携帶測速器ノ原理 (簡易ナル距離測量ニ使フ)

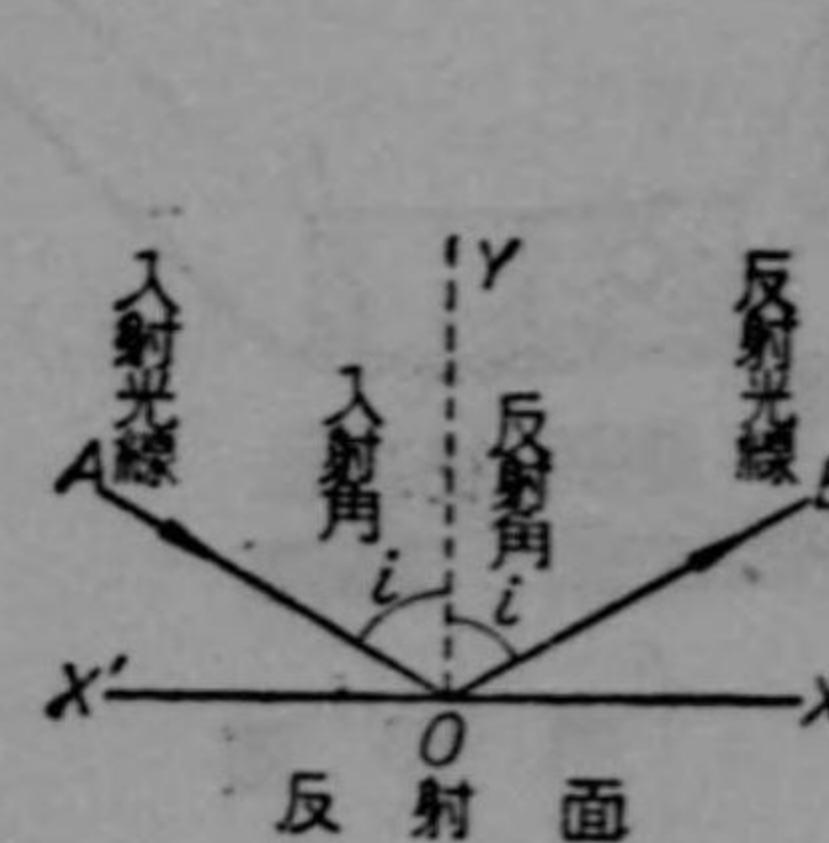
(1) 光ノ反射ノ法則 光ガ滑カナ表面ニ當ツテ反射スルトキハ反
 射光線ハ次ノ法則ニ從フ。(第61圖)

(i) 入射光線, 反射光線及ビ入射點ニ於テ平面ニ立テタ垂線ハ
 凡テ同一平面内ニアル。

(ii) 入射角ト反射角トハ常ニ相等シイ。

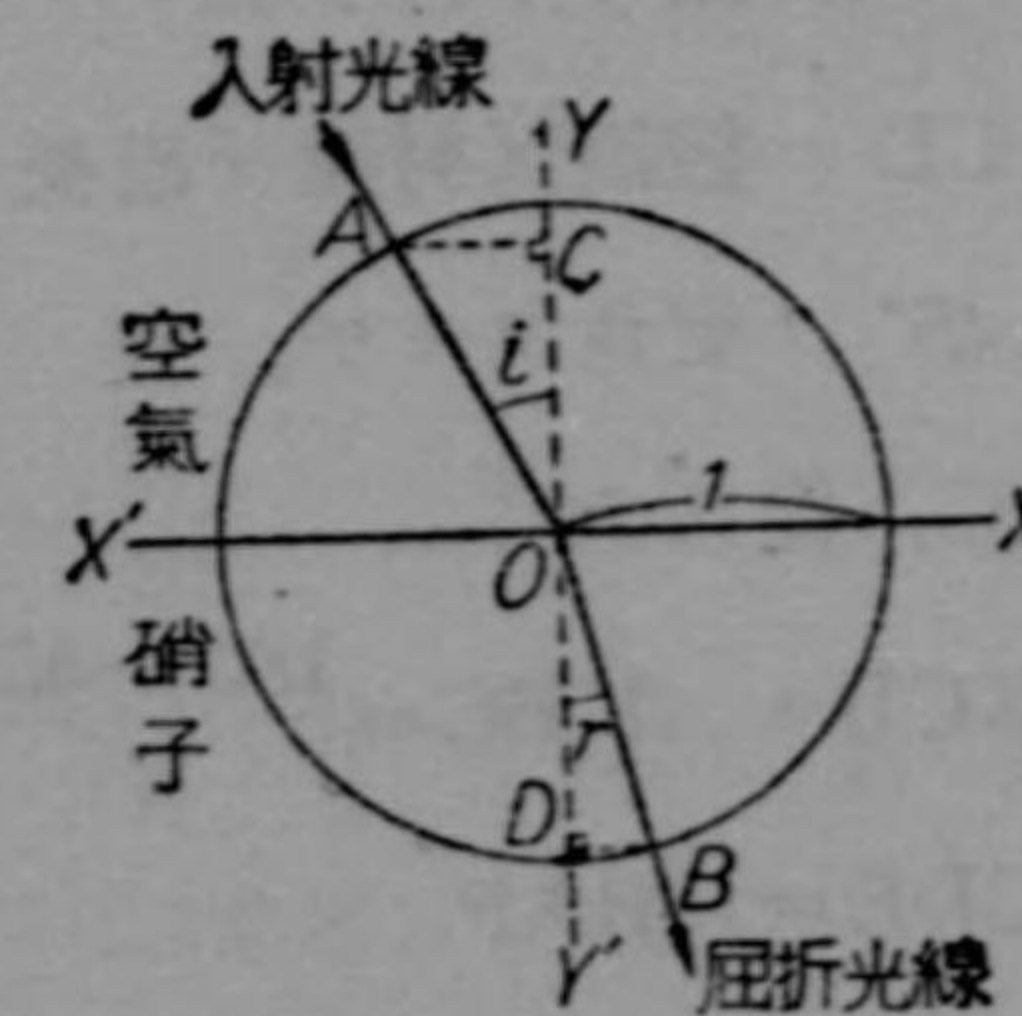
(2) 光ノ屈折ノ法則 光線ガ一媒質 (例ヘバ空氣) カラ他ノ物質

反射ノ法則



第 61 圖

屈折ノ法則



第 62 圖

(例へバ硝子)ニ入ルトキハ一般ニ屈折シ屈折光線ハ次ノ法則ニ從フ。(第62圖)

(i) 入射光線, 屈折光線及ビ入射點ニ於テ境界面ニ立テタ垂線ハ凡テ同一平面内ニアル。

(ii) 入射角ノ正弦ト屈折角ノ正弦トノ比ハ入射角ノ如何ニ拘ハラズ兩媒質ニツキ一定シタ數デアル。

コノ比ヲ第一ノ物質ニ對スル第二ノ物質ノ屈折率トイフ。

今光ガ空氣ヨリ硝子ニ入ルモノトスレバ(第62圖)入射光線AO, 屈折光線OB, 垂線YOY'ハ一平面内ニアリ, 又入射角ヲ*i*, 屈折角ヲ*r*トスレバ

$$\begin{aligned} \text{空氣ニ對スル硝子ノ屈折率} &= \frac{\sin i}{\sin r} = \frac{AC}{BD} \\ &= 1.5 = \frac{3}{2} \quad (\text{實驗値}) \end{aligned}$$

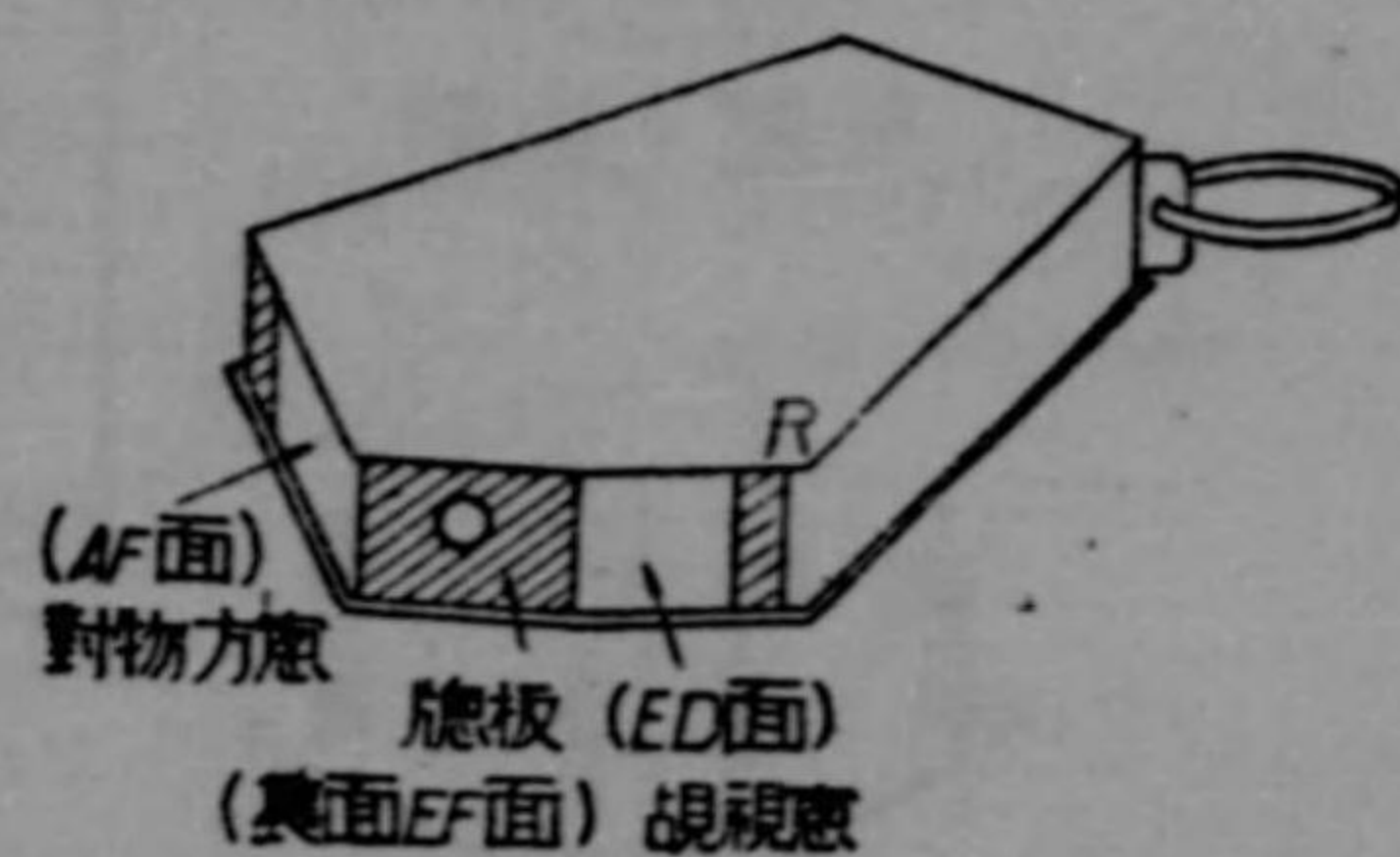
注意 空氣ニ對スル水ノ屈折率ハ $\frac{4}{3}$ デアル。

(3) 小サイ角ノ度數ヲ*a*°トスレバ

$$\sin a^\circ \approx \frac{\pi}{180} a \quad \text{らちあん (56頁定理2系)}$$

(4) 構造(第64圖)

主體ハ六角ぶりサむデニツノ面AB, CDハ鍍銀反射面デ延長スレバ45°ノ交角ヲモチ, 且



KB=KC, 從ツテ

$$\angle KCB = \angle KBC = \frac{180^\circ - 45^\circ}{2} = 67^\circ 30' \quad \text{第63圖}$$

又 $\angle CDE = \angle BAF$

$$= 180^\circ - 67^\circ 30' = 112^\circ 30'$$

AF ⊥ ED

$$\angle FEF' = a = 2^\circ 17' 20''$$

ED及ビEFハ貼視面, AFハ入射面。

(5) 機能 AF面ヨリ入射シタ

光線12ハCD面デ反射シテ23

トナリ反射ノ法則ニヨリ結局

$$\angle 12D = \angle 32C = \angle 2DL = 67^\circ 30' = \delta$$

又23ハAB面デ同様ナ反射ヲシテ

3GトナリED面ヨリ視視者ノ目ニ入リ

$$\begin{aligned} \angle 3M2 &= 360^\circ - (\angle K + \angle K2M \times 2) \\ &= 360^\circ - (45^\circ + 112^\circ 30' \times 2) = 90^\circ \end{aligned}$$

從ツテZノ像ハED面ニ直角ノH方向ニ出來ル。

次ニEF面ヨリ視視スルトキハAB面デ反射シタ光線ハ30ノ如

クFE面ニ當ツテOPノ方向ニ空氣中ニ出テ視視者ノ目Pニ入ル。コノ時屈折ノ法則ニヨ

リ

空氣ニ對スル硝子ノ屈折率

$$= \frac{\sin \beta}{\sin a} = \frac{3}{2}$$

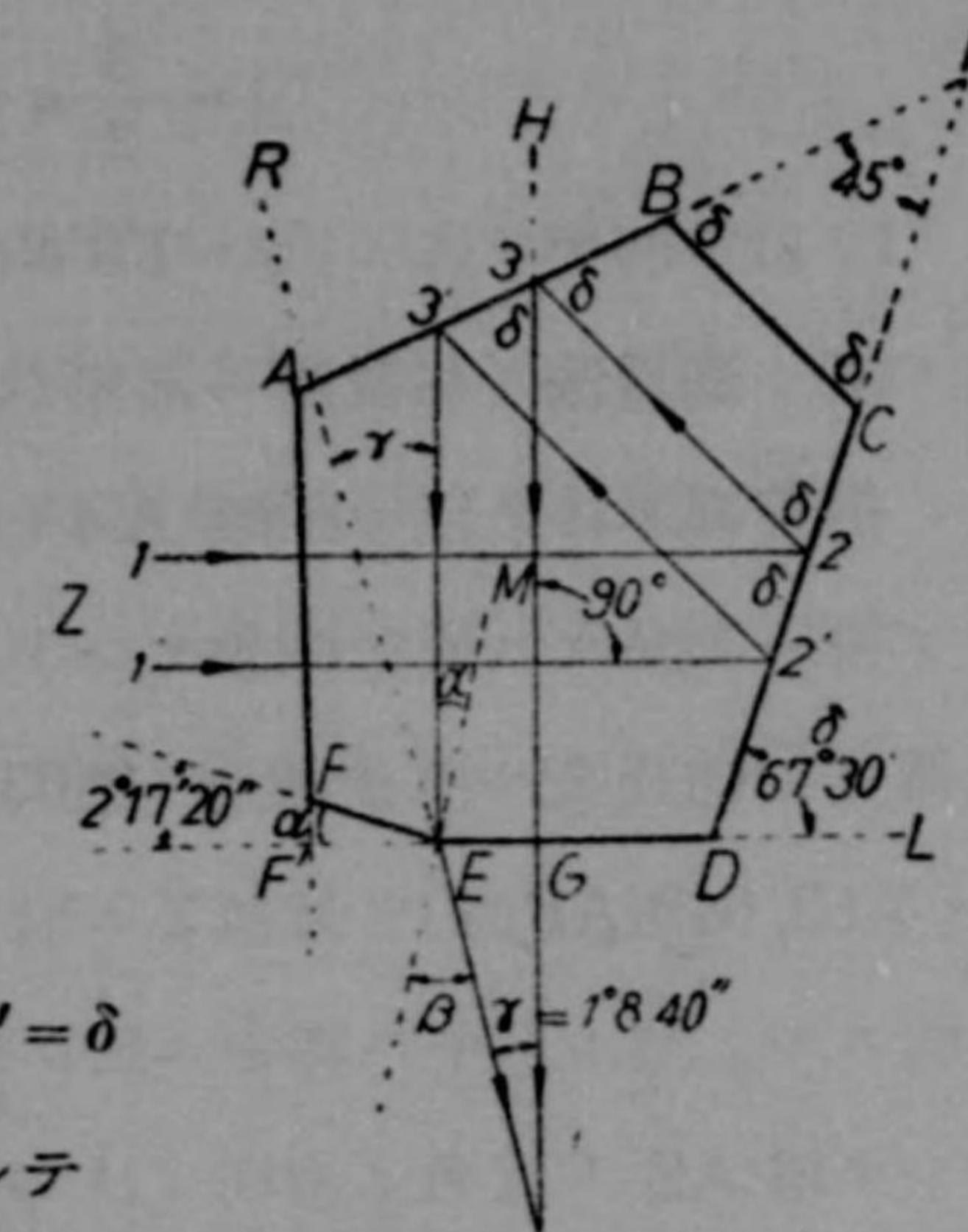
又*a*, *β*ガ小サイカラ

$$\frac{\sin \beta}{\sin a} = \frac{\pi \beta}{180} \div \frac{\pi a}{180} = \frac{\beta}{a} = \frac{3}{2}$$

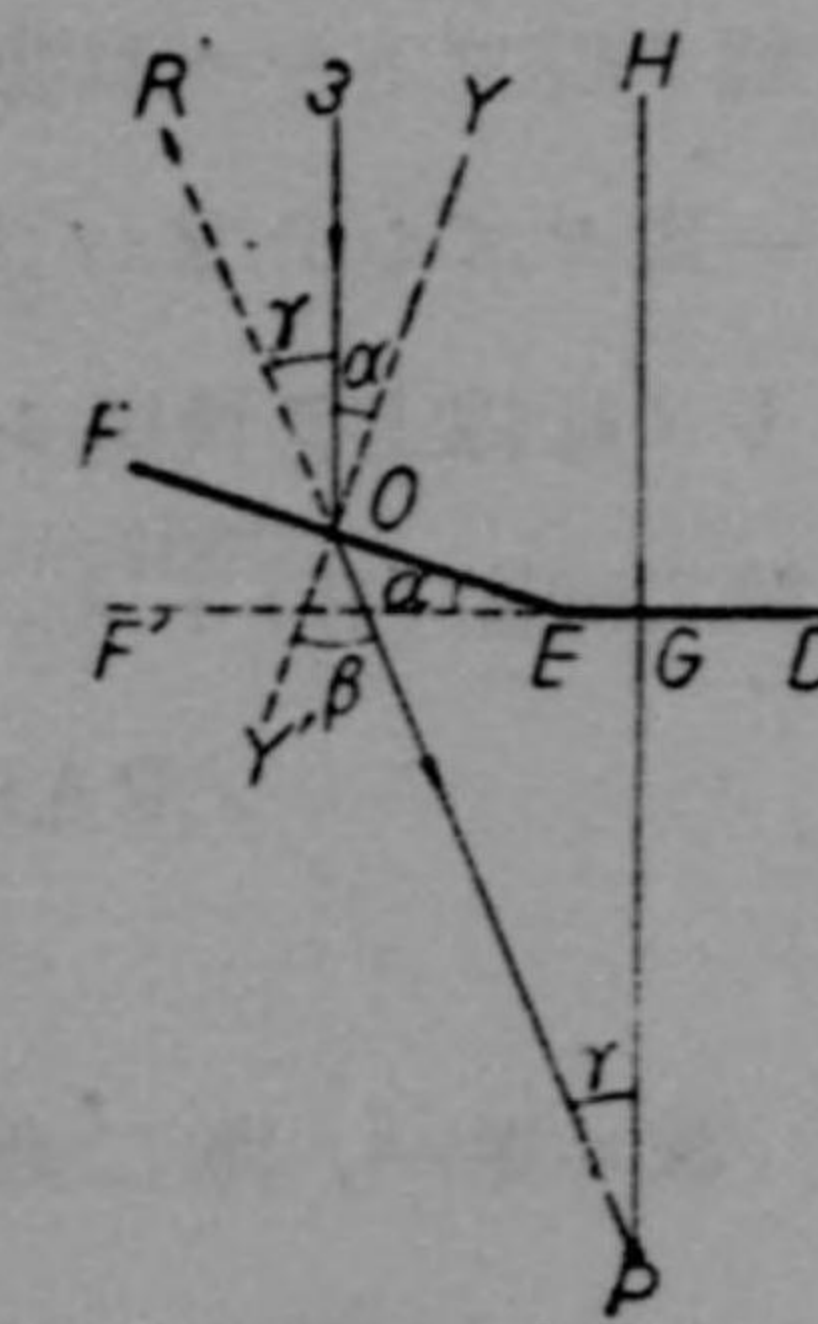
$$\therefore \beta = \frac{3}{2} a$$

又 $\angle P = \gamma = \angle RO3 = \angle ROY - \angle 3OY = \angle ROY - \angle FEF'$

$$= \beta - a \quad (\text{第65圖})$$



第64圖



第65圖

$$= \frac{3}{2} a - a = \frac{a}{2} = \frac{2^{\circ}17'20''}{2} = 1^{\circ}8'40''$$

即チ $\gamma = 1^{\circ}8'40''$

(6) 測量法 (射教第一部第八十七) (第63, 66圖)

携帶測速器ヲ以テ距離 AZ (第66圖) ヲ測量スルニハ、測手ハ先ヅ第一測點 Aニ於テ測量セントスル目標 Zヲ側方ニシテ立チ、測速器ノ「R」ト記シタ視視窓 (第63, 64, 65 圖 ED面) ヲ開イテ對物方窓 (第63, 64圖AF面) ヲ目標 Zニ面セシムル様ニ器ヲ水平ニ保持シテ視視スル。然ルトキハ器中ニ於ケル目標ノ映像ハ目標ト測手トヲ連結

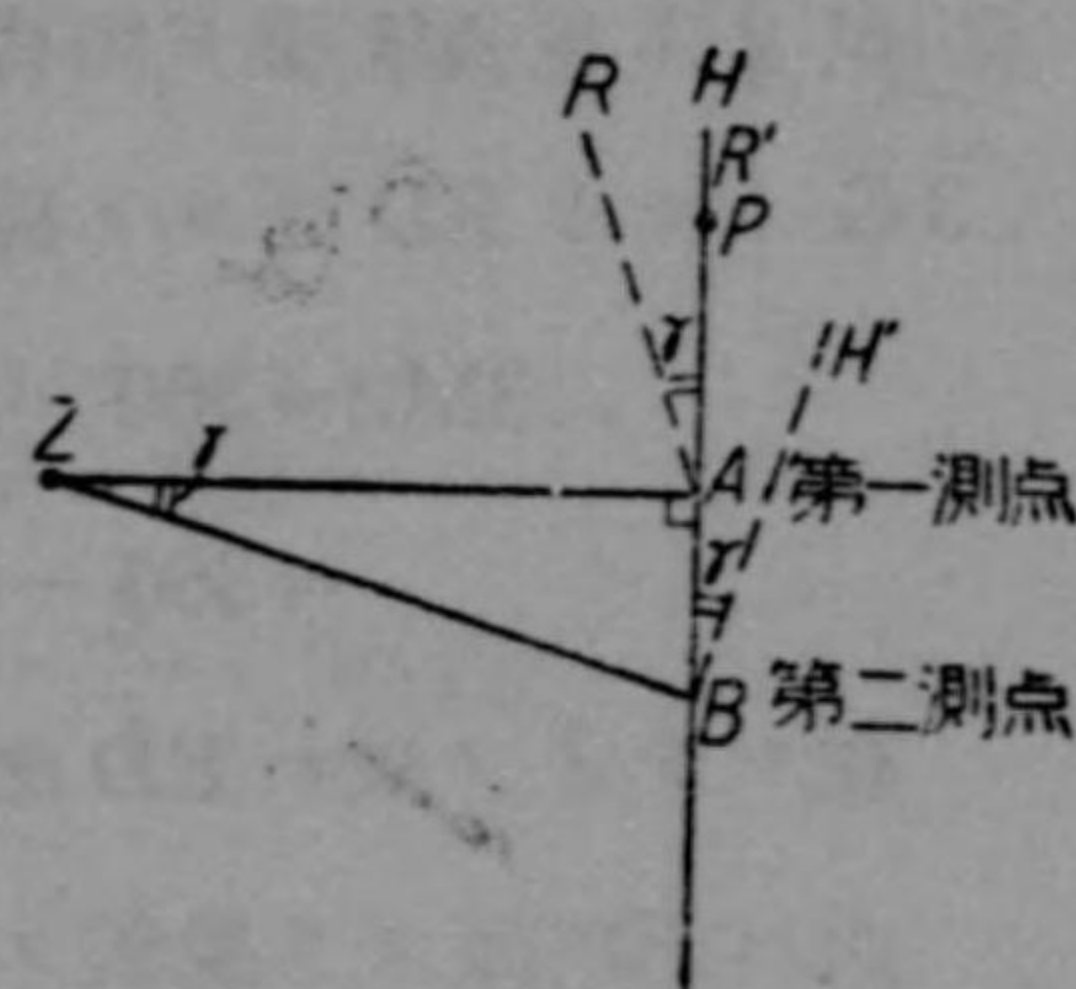
シタ線 AZト直角ノ方向 (H方向) ニ現ハレル。測手ハ器ノ上方或ハ下方ヨリ前方ヲ通視シ、其ノ映像ト同方向ニ於テ之ト一致スベキノ假標ヲ定メル。次ニ臆板ヲ「R」ノ窓ニ移シ他ノ視視窓 (第63圖 EF面) ヨリ再ビ前ト同要領ヲ以テ目標ヲ視フトキハ目標ノ映像ハ前ノ假標ニ

一致セズシテ Rノ方向ニ生ズ。是ニ於テ測手ハ假標 Hト第一測點トノ延線上ヲ後退シツツ此ノ映像ト假標トノ一致スル點ヲ求め之ヲ第二測點 (B) トス。然ルトキハ第66圖ノ如ク

$$\begin{aligned} \angle RAH &= \angle R'BH' = \gamma \\ &= \angle AZB \end{aligned}$$

故ニ第一、第二測點 A, B 間ノ距離ヲ測リ b 米ヲ得タトスレバ

$$\begin{aligned} AZ = D(\text{米}) &= AB \times \frac{AZ}{AB} = b \cot \gamma \\ &= b \cot 1^{\circ}8'40'' \\ &= 50b (\text{米}) \quad (\because \text{眞數表ヨリ } \cot 1^{\circ}8'45'' \approx 50) \end{aligned}$$



第 66 圖

20. 密位法ト其ノ應用

圓周ノ六千四百分ノ一ノ圓弧ニ對スル中心角ノ大サヲ一密位 (1^{ミリ}ト記スコトガアル) トイヒ、コノ單位ニヨル測角法ヲ密位法トイフ。百密位ヲ一分畫トイフ。(射教第一部第九十五)

(1) 密位ト度トノ關係

同ジ圓又ハ相等シイ圓ノ中心角ノ大サハソレニ對スル圓弧ノ長サニ比例スルカラ

$$\begin{aligned} 1^{\circ} : 1^{\text{ミリ}} &= \frac{\text{圓周}}{360} : \frac{\text{圓周}}{6400} \\ \therefore 1^{\circ} &= 1^{\text{ミリ}} \times \frac{6400}{360} = 17.77 \dots \text{ミリ} \end{aligned}$$

注意 海岸要塞砲デハ一度ノ十六分ノ一ヲモ用ヒルガ之ハ上ノ關係カラ $\left(\frac{1}{16}\right)^{\circ} = \left(\frac{17.77 \dots}{16}\right)^{\text{ミリ}} = 1.111 \dots = 1^{\text{ミリ}}$ トナル。

(2) 密位トらぢあんトノ關係

半圓周ニ對スル中心角ノ大サハ3200密位又ハ π らぢあんデアルカラ

$$3200^{\text{ミリ}} = \pi \text{らぢあん}$$

$$\text{故ニ } 1^{\text{ミリ}} = \frac{\pi}{3200} = \frac{3.14159 \dots}{3200} = \frac{1}{1000} \text{らぢあん}$$

即チ $1^{\text{ミリ}} = \frac{1}{1000} \text{らぢあん}$ 又ハ $1 \text{らぢあん} = 1000^{\text{ミリ}}$

從ツテ今半徑1000米ノ圓ニ於テ

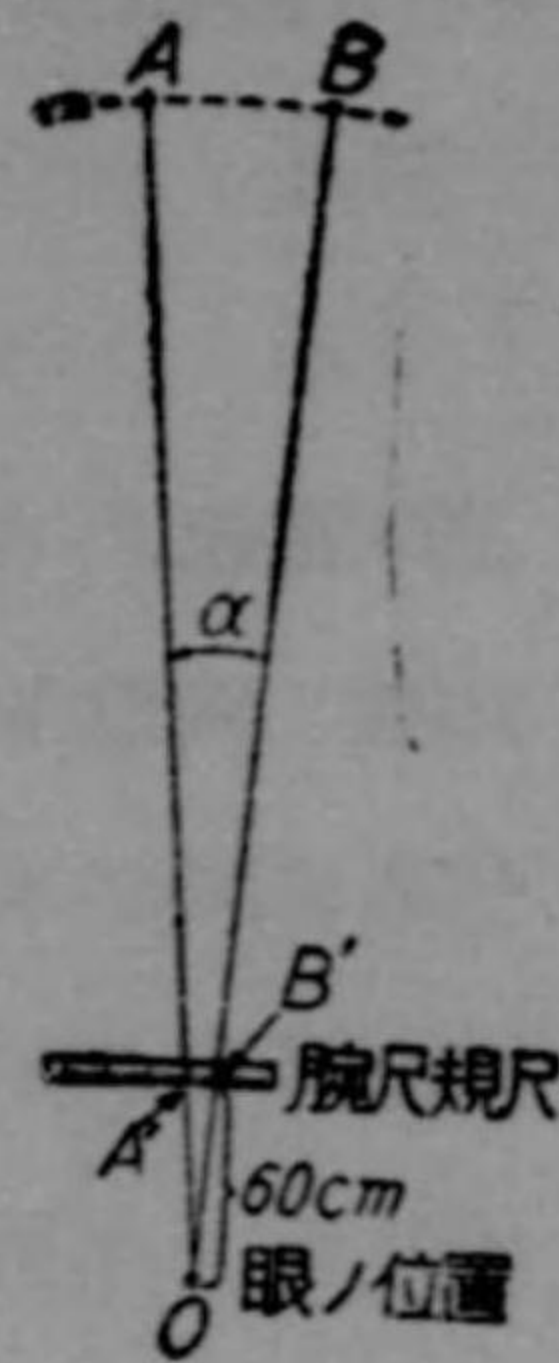
$$1000 \text{米ノ弧} = \text{對スル中心角ハ } 1 \text{らぢあん}$$

1米ノ弧ニ對スル中心角ハ $\frac{1}{1000}$ らぢあん $\approx 1^{\text{ミリ}}$

即チ射教第一部第九十五、第一項後段ニ於テ「此ノ圓弧ハ半徑ノ約千分ノ一ノ長サニ等シ」ト示サレテキル所以デアル。

問題 1. 腕長規尺ニヨル測角法 (射教第一部第百六)

腕ヲ十分前方ニ伸バシタトキノ眼ト拇指トノ水平距離(概ネ60cm)ヲ腕長トイフ。腕長ノ十分ノ一(腕長60cmノ時ハ6cm)ヲ一分畫トシテ刻ンダ規尺ヲ腕長規尺トイフ。之ヲ水平ニ保持シテ兩地點間ノ分畫ヲ測リ a ヲ得タトスレバ、コノ兩地點間ノ水平角ハ a 分畫(即チ100 a 密位)デアル。



第67圖ニ於テ

$$\begin{aligned} \angle AOB &= \frac{A'B'}{OA'} = \frac{6a}{60} \text{ラヂあん} = \frac{1}{10} \text{ラヂあん} \\ &= \frac{1}{10} a \times 1000 \text{ミリ} \\ &= 100a \text{ミリ} \\ &= a \text{分畫} \end{aligned}$$

簡單ニ指幅ヲ用フル場合ニハ一指幅ハ概ネ2cmデアルカラ腕長60cmトスレバ

$$1 \text{指幅ノ密位數} = \frac{2}{60} \times 1000 = 33$$

從ツテ指3本ハ概ネ一分畫トイヘル。

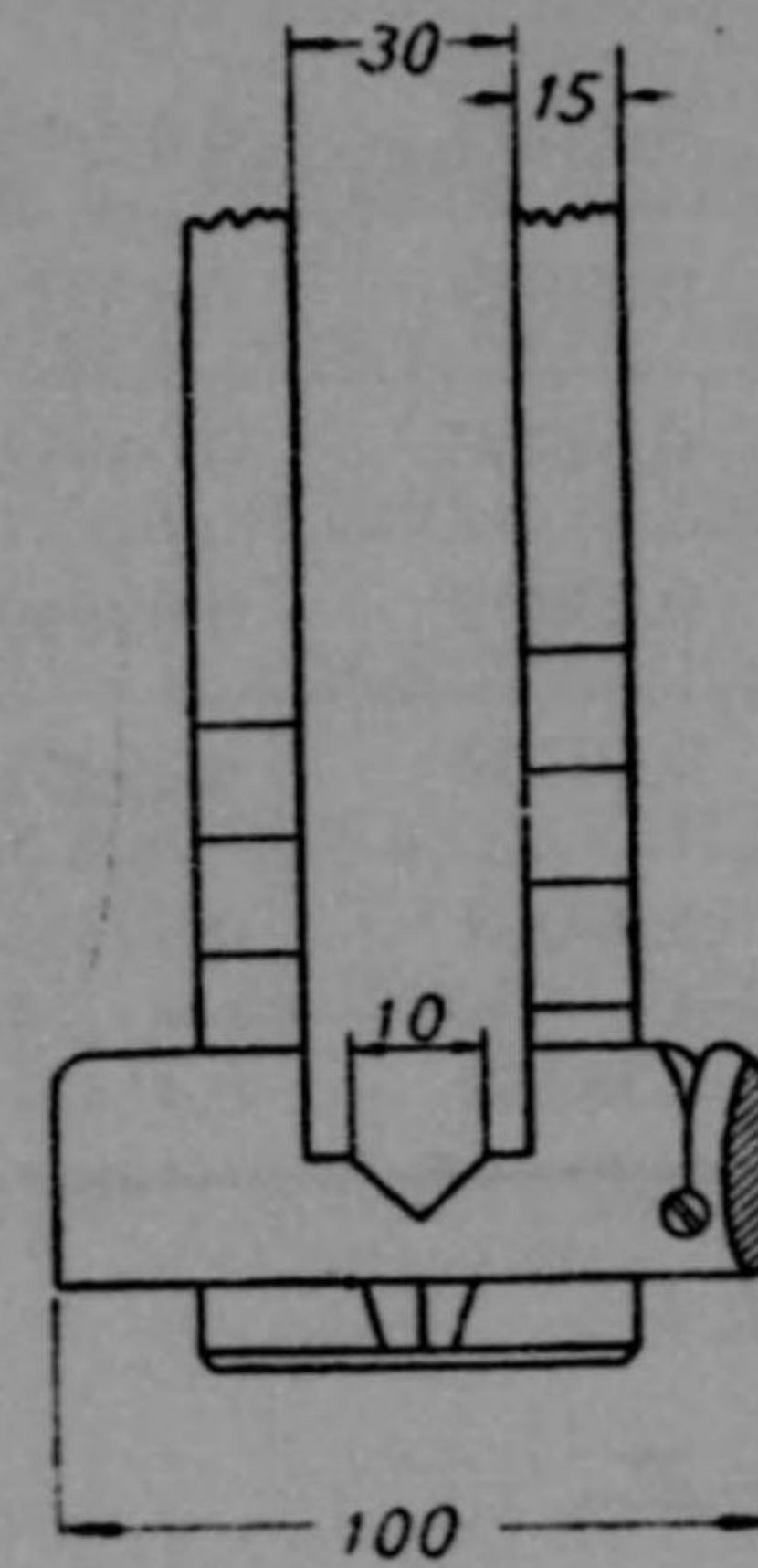
射教第一部第百六第二項デハ“一指幅ハ通常約三十密位”ト示サレテキル。

問題 2. 伏射姿勢ニ於テ三八式歩兵銃ノ照尺ノ各部ヲ見込ム角ノ密位概數ハ第68圖ノ如クデアル。(射教第一部附圖第三)

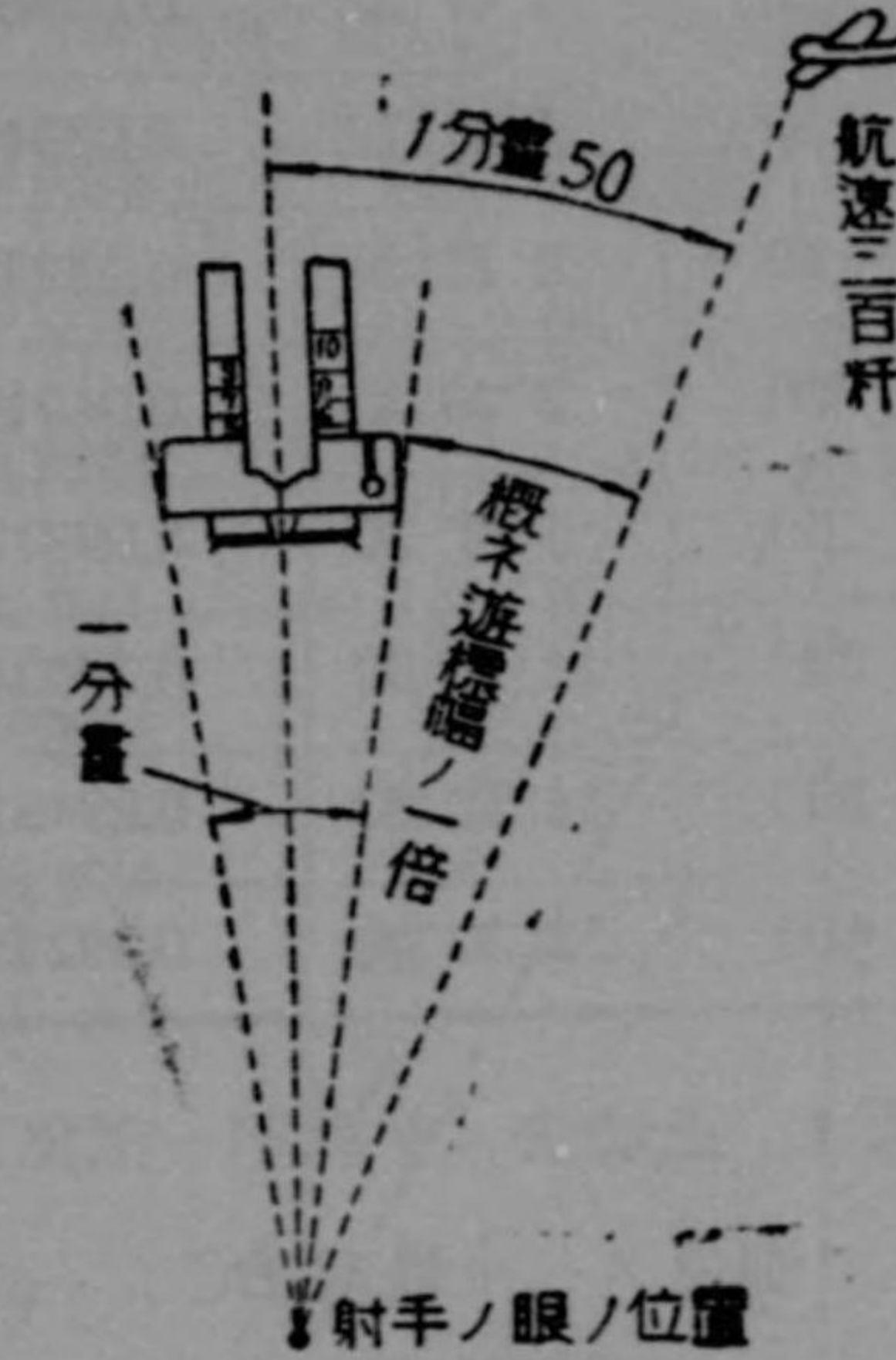
問題 3. 小銃ヲ以テ飛行機ヲ射撃スル時航速300 籽デ方向上風ノ影響ナク其ノ進路ガ射線ニ直角ニ近イトキハ目標ノ前方約一分畫五十ヲ射撃スレバヨイ。(射教第二部第二十六參照) 修正量ト遊標幅トノ關係ハ第69圖ノ如クデアル。

伏射姿勢ニ於ケル三八式歩兵銃照尺密位概數表

前方修正量ト遊標幅トノ關係



第 68 圖



第 69 圖

定理 4. 小サイ角ノ密位數ヲ a トスレバ次ノ近似式ガ成立スル。

$$\sin a \approx \frac{a}{1000} \approx \tan a \dots \dots \dots (1)$$

證明 コノ角ノ弧度ヲ θ トスレバ定理2ヨリ

$$\sin \theta \approx \theta \approx \tan \theta$$

又 $\sin a = \sin \theta$, $\tan a = \tan \theta$, $\frac{a}{1000} \approx \theta$ デアルカラ之ヲ上式ニ代入

スレバ(1)ガ得ラレル。

注意 1. 此ノ關係ハ極メテ廣ク利用セラレテキル。(次ノ各問題參照)

注意 2. 小サイ角ニツイテ定理4ヲ確メルタメ次ノ表ヲ掲ゲル。(技術本部編纂, 密位對數表ニヨル)

密位	角ノ大サ		sin θ	tan θ
	度	弧度		
1	0° 03' 23"	0.00098	0.00098	0.00098

10 ^分	0° 33' 45"	0.00982	0.00982	0.00982
20	1 07 30	0.01964	0.01963	0.01963
30	1 41 15	0.02946	0.02945	0.02945
40	2 15 00	0.03928	0.03929	0.03929
50	2 48 45	0.04910	0.04907	0.04913
100	5 37 30	0.09817	0.09802	0.09849
200	11 15 00	0.19634	0.19509	0.19891
300	16 52 30	0.29451	0.29028	0.30335
400	22 30 00	0.39268	0.38268	0.41421

問題 1. 正切法 (射教第一部第八十九)

距離ヲ測量スベキ地線 BC ノ一端 B = 於テ之ニ直角ナ水平ノ基線 AB ヲ設ケ A, B ヨリ地線ノ他端 C ヲ見込ム角 α ヲ測リ次ノ式ヲ計算スル。

$$D = \frac{l}{\tan \alpha} \quad (\because \frac{l}{D} = \tan \alpha) \dots\dots(1)$$

α ガ小サイトキ (2分畫以下) ハ上ノ表ヨリ $\tan \alpha = \frac{a}{1000}$ (小數點第二位又ハソレ以下マデ一致スル) デアルカラ

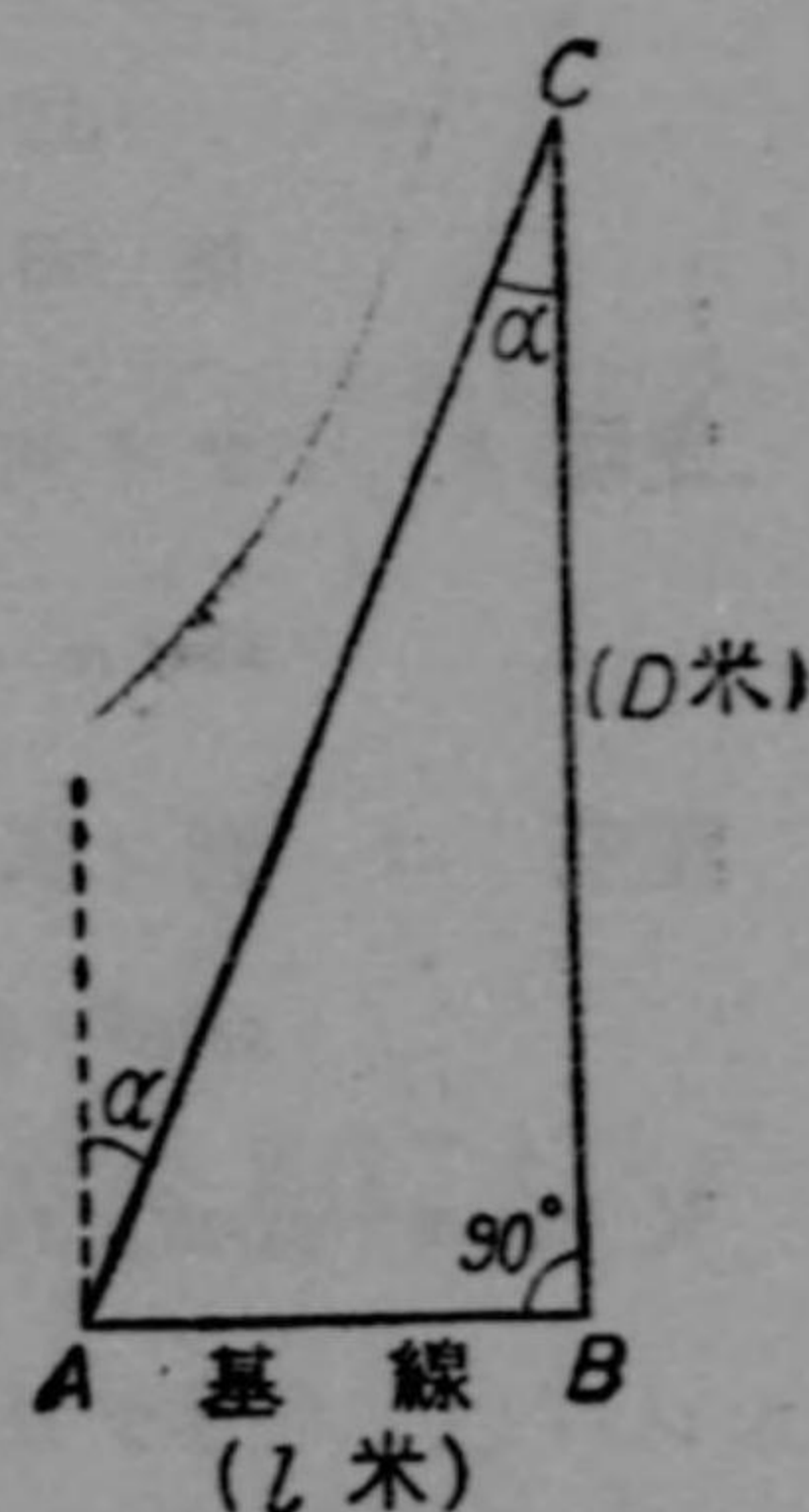
$$D = \frac{l \times 1000}{a} \dots\dots(2)$$

[但シ D: 求メル距離(米), l: 基線長(米), α : 頂角(密位)]

特ニ AB ノ籽數ヲ D' トスレバ (2) ヨリ次ノ式ヲ得ル。

$$D' = \frac{l}{a} \dots\dots(3)$$

例 l=100米, $\alpha=100^{\text{分}}$ ナラバ



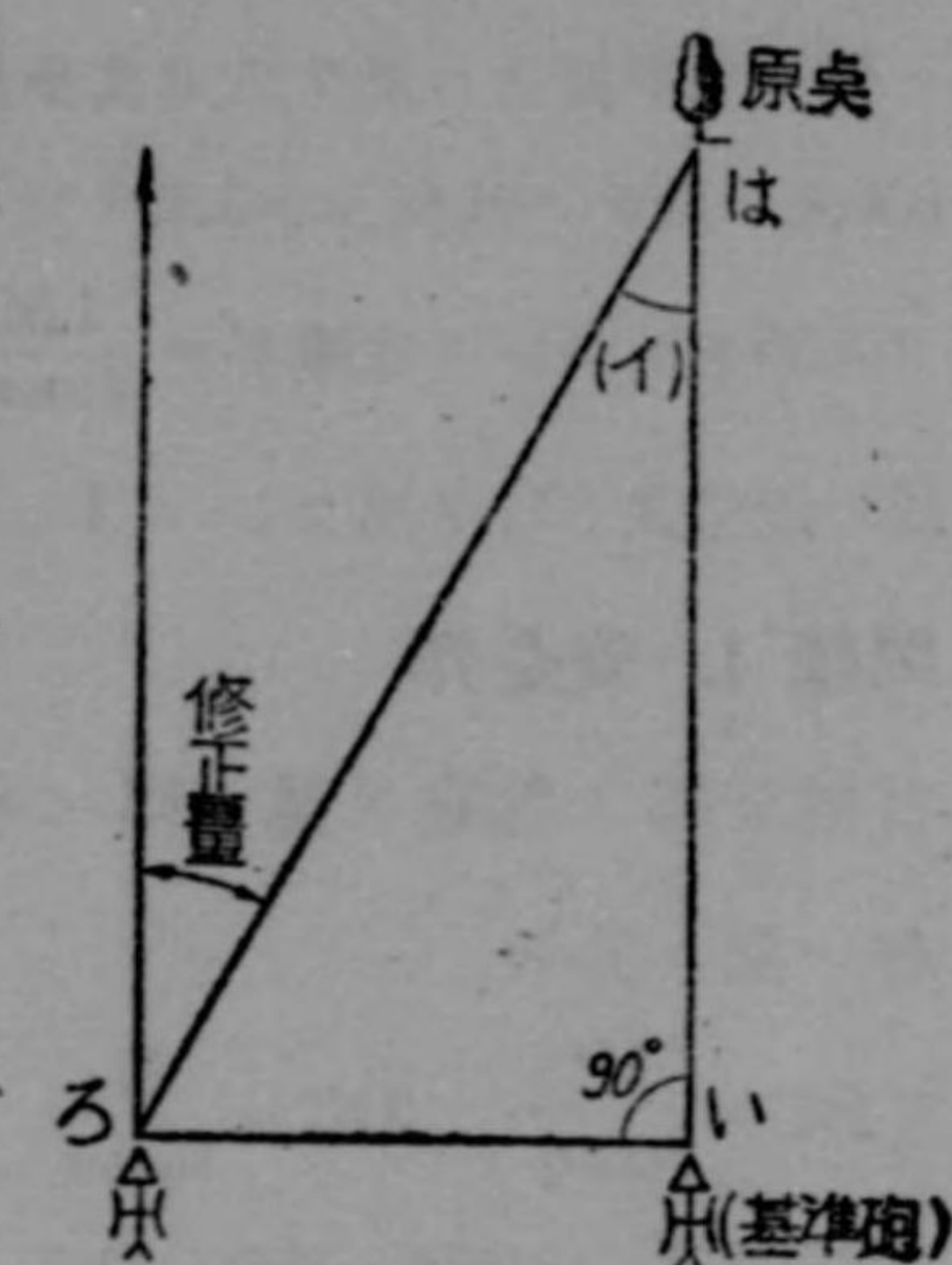
第 70 圖

(1) ヨリ $D = \frac{100}{\tan 100} = \frac{100}{0.09849} = 1015.5$ (米)

(2) ヨリ $D = \frac{100 \times 1000}{100} = 1000$ (米)

問題 2. 平行射撃ニ於ケル射向修正量 (射教第三部第百十七)

射向決定ニ方リ兩砲ノ射向ガ原點ニ對シテ集中シテキルトキ平行射線ヲ取ラセルニハ砲間隔「いろ」(米)ヲ, 砲目距離「いは」(米)ノ籽數ヲ以テ除シタ量(密位)ヲ基準砲デナイ他ノ砲ノ方向角ニ修正ヲスレバヨイ。



何トナレバ (イ) 角ヲ α 密位トスレバ

修正量 = (イ) = α 密位,

$$\tan \alpha = \frac{\text{「いろ」米}}{\text{「いは」米}}$$

$$\text{又 } \tan \alpha = \frac{a}{1000}$$

ヨツテ $\frac{a}{1000} = \frac{\text{「いろ」米}}{\text{「いは」米}}$

$$\therefore \alpha = \frac{\text{「いろ」米}}{\text{「いは」米}} = \frac{\text{「いろ」米}}{1000}$$

$$(イ) = \frac{\text{「いろ」米}}{\frac{\text{「いは」米}}{1000}} = (\text{修正量})$$

第 71 圖

例 「いは」=1200米, 「いろ」=20米ナラバ修正量 $\alpha^{\text{分}} = \frac{20}{1.2} = 17^{\text{分}}$

問題 3. 危險界 (射教第一部第七章)

“彈道ノ目標高ヲ超過セザル地界ノ長サヲ危險界トイフ”

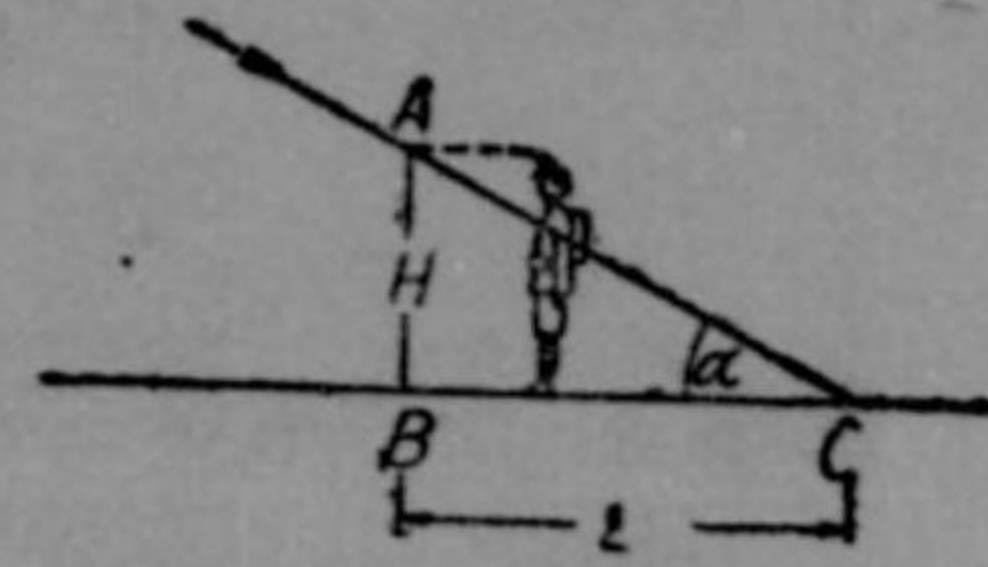
第72圖ニ於テ BC ハ立姿勢ノ人ニ對スル危險界デアル。

目標高ヲ H 米, 落角ヲ α 密位トスレバ圖カラ明カニ

危険界 $L = \frac{H}{\tan \alpha}$ (1)

a が小ナラバ $\tan \alpha = \frac{a}{1000}$

$\therefore L = \frac{1000H}{a}$ (2)



第 72 圖

例 水平面上ニ於テ三八式歩兵銃ハ射距離

600米ニ於テハ落角 $\alpha = 5.33^\circ$ 從ツテ $\tan \alpha = 0.0053$, 駈歩前進ノ目標高ヲ 1.35米トスレバ危険界 $= \frac{1.35}{\tan \alpha} = \frac{1.35}{0.0053} = 250$ 米 デアル。

或ハ近似式(2)ヲ用フレバ $L = \frac{1000H}{\alpha} = \frac{1.35 \times 1000}{5.33} = 250.3$ (米)

問題 4. 安全界

目標全部ノ危険ヲ免レ得ベキ水平面上ノ地界ヲ安全界トイフ。

右ノ圖ニ於テ

$BC = \frac{H'}{\tan \alpha}, DC = \frac{H}{\tan \alpha}$

\therefore 安全界 $L' = BD = BC - DC$

$= \frac{H' - H}{\tan \alpha}$

a が小ナラバ $\tan \alpha = \frac{a}{1000}$

$\therefore L' = \frac{1000(H' - H)}{a}$

問題 5. 遮蔽度 (射教第一
部第四十六, 第二十一圖)

遮蔽度トハ砲ノ直上デ敵

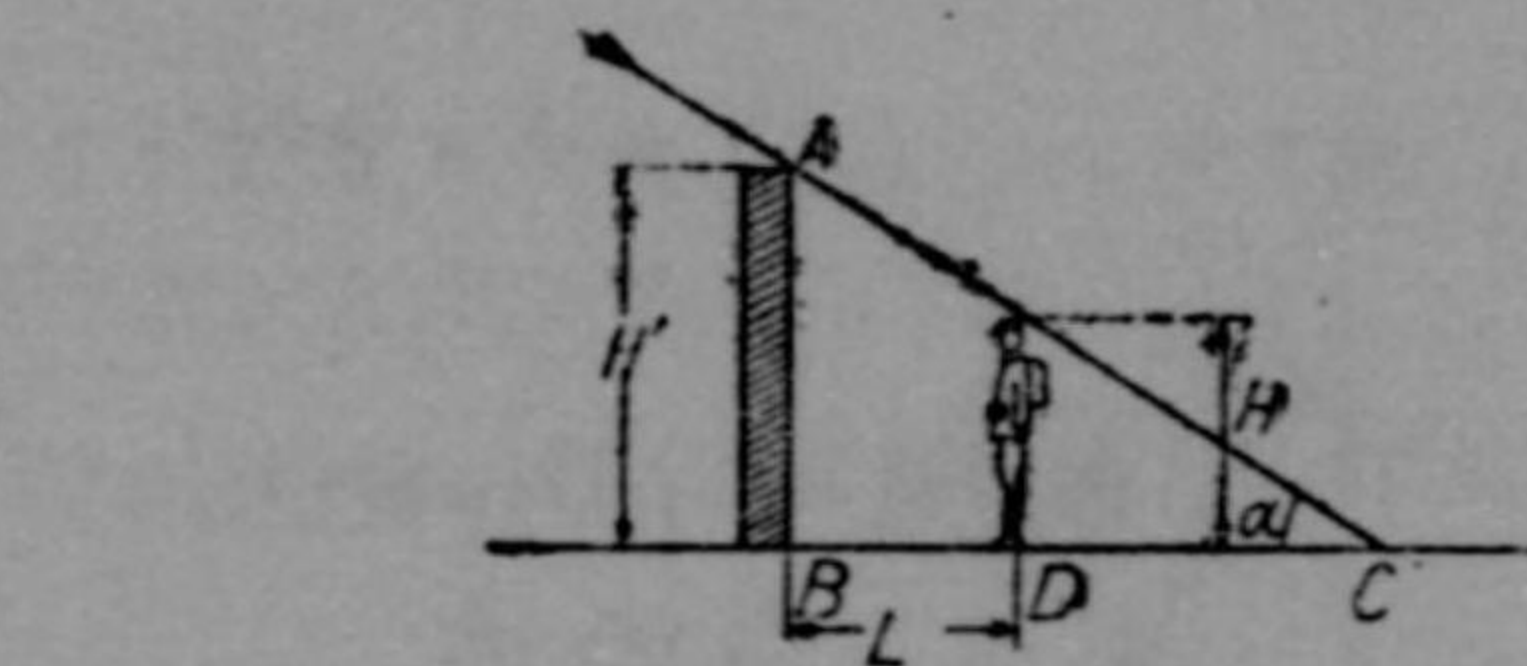
眼ト遮蔽頂トヲ連ネル線ニ

至ル高サライヒ, 次ノ式デ近似値ヲ求メルコトガ出來ル。

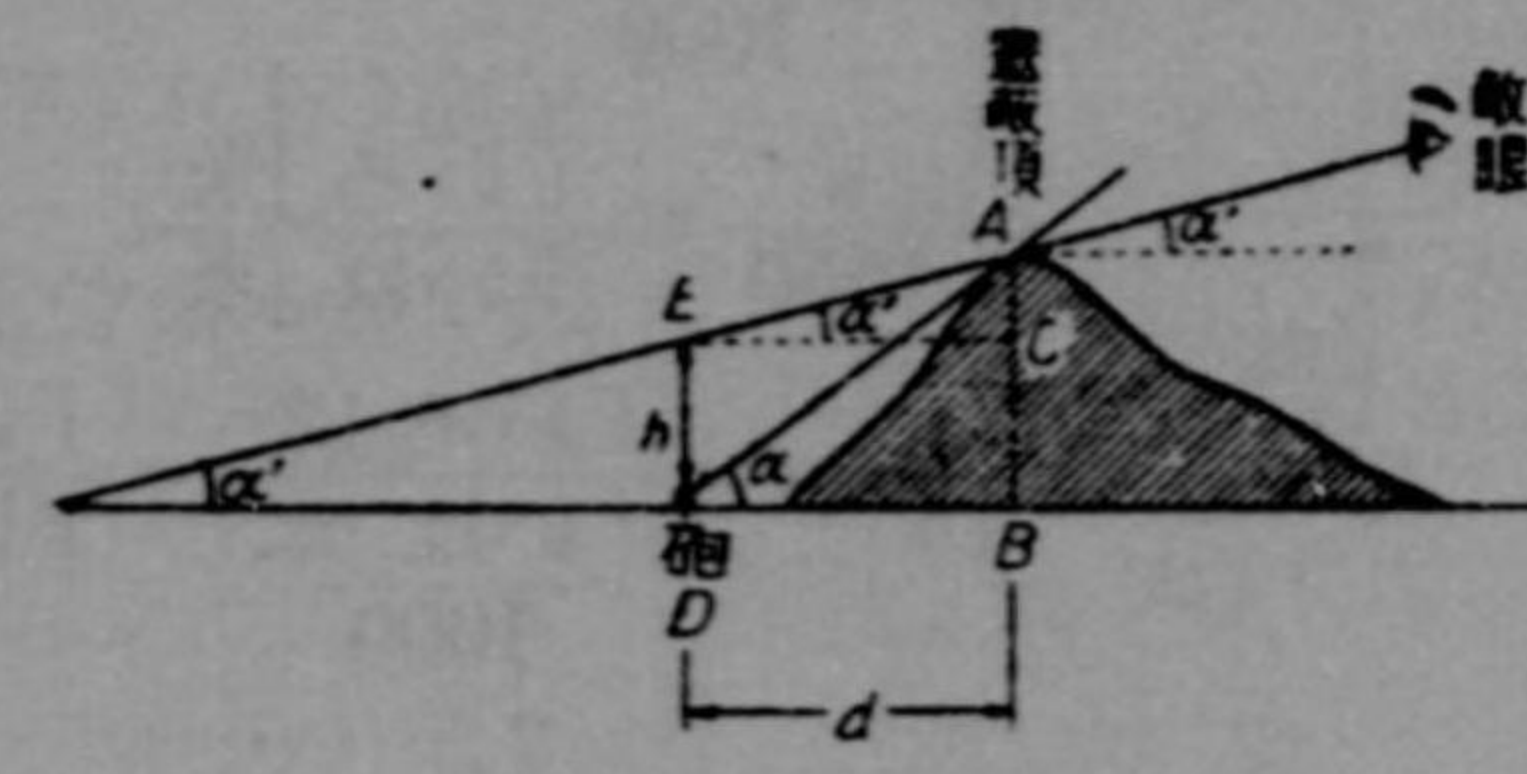
遮蔽度 h (米) $= DE = BC$

$= BA - CA = DB \tan \alpha - EC \tan \alpha' = d(\tan \alpha - \tan \alpha')$

$\therefore h = d(\tan \alpha - \tan \alpha')$



第 73 圖



第 74 圖

又 a, a' が小ナラバ $\tan \alpha = \frac{a}{1000}, \tan \alpha' = \frac{a'}{1000}$

$\therefore h = \frac{d}{1000}(a - a')$

又 d ノ料數ヲ d' トスレバ

$h = d'(a - a')$

第三篇 ねじト齒車

第四章 回轉運動トねぢ、齒車

21. 回轉運動ノ速サ

今或ル自動車ノ車輪ガ毎分 100 回轉スルトキ

回轉速度ハ毎分 100 トイヒ、100 (r.p.m) ト記ス。

コノトキ又車輪ノ定半徑ハ毎秒

$$\frac{2\pi \times 100}{60} = \frac{2 \times 3.1416 \times 100}{60} = 10.5 \text{ らぢあん/秒}$$

回轉スルカラ 角速度 $\omega = 10.5$ (らぢあん/秒) トモイフ。

一般ニ回轉體ガ t 秒間ニ θ らぢあん 回轉スルトキハ

$$\text{角速度 } \omega = \frac{\theta}{t} \text{ (らぢあん/秒)} \quad [\text{角速度}] = \frac{[\text{角}]}{[\text{時間}]}$$

車輪ノ半徑ヲ r , t 秒間ニ周上ノ點 P ガ進

ム距離ヲ S , 半徑 OP ノ回轉角ヲ θ らぢあん

トスレバ $S = r\theta$

周上ノ點ノ一秒間ニ進ム距離 (之ヲ線速度

トイフ) ヲ v トスレバ

$$v = \frac{S}{t} = \frac{r\theta}{t} = r\omega$$

又毎分 n 回轉スル回轉體ノ角速度ハ

$$\omega = \frac{2\pi n}{60} \text{ らぢあん/秒}$$

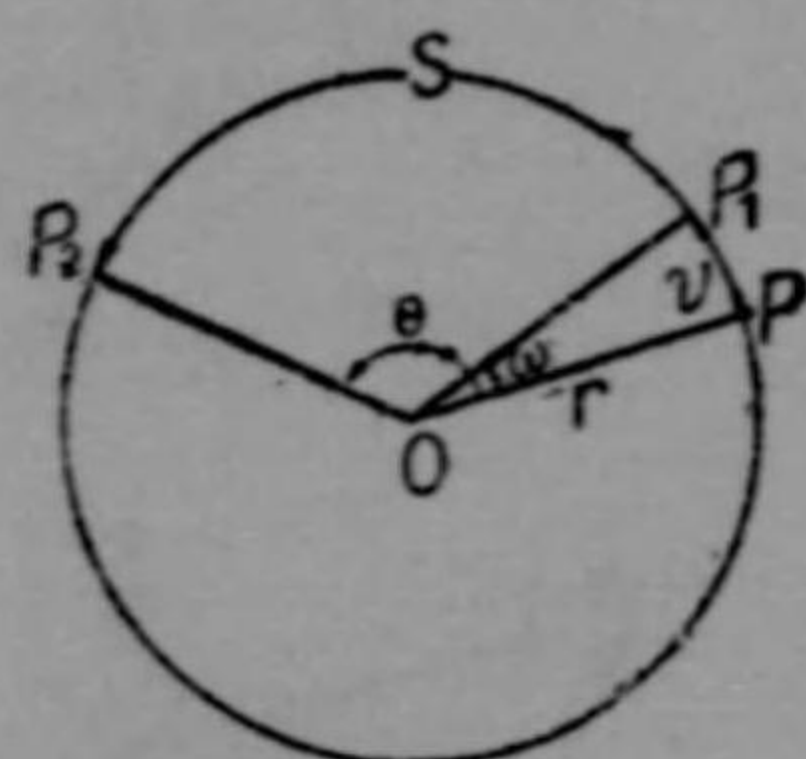
デアル。

例 1. 10吋板ノ蓄音機ノ「レコード」ガ毎分 75 回轉スレバ

回轉速度 r.p.m = 75

角速度 $\omega = 2\pi \times 75 \div 60 = 2 \times 3.1416 \times 75 \div 60 = 7.8$ (らぢあん/秒)

周上ノ點ノ線速度 $v = r\omega = 10 \times 7.8 = 78$ (吋/秒)



第 75 圖

22. ねぢ、だいやる

(1) ねぢ

ねぢノ形ハ種々アルガ用途ノ上カラ見レバ

(イ) 物ヲ締附ケルタメノモノ

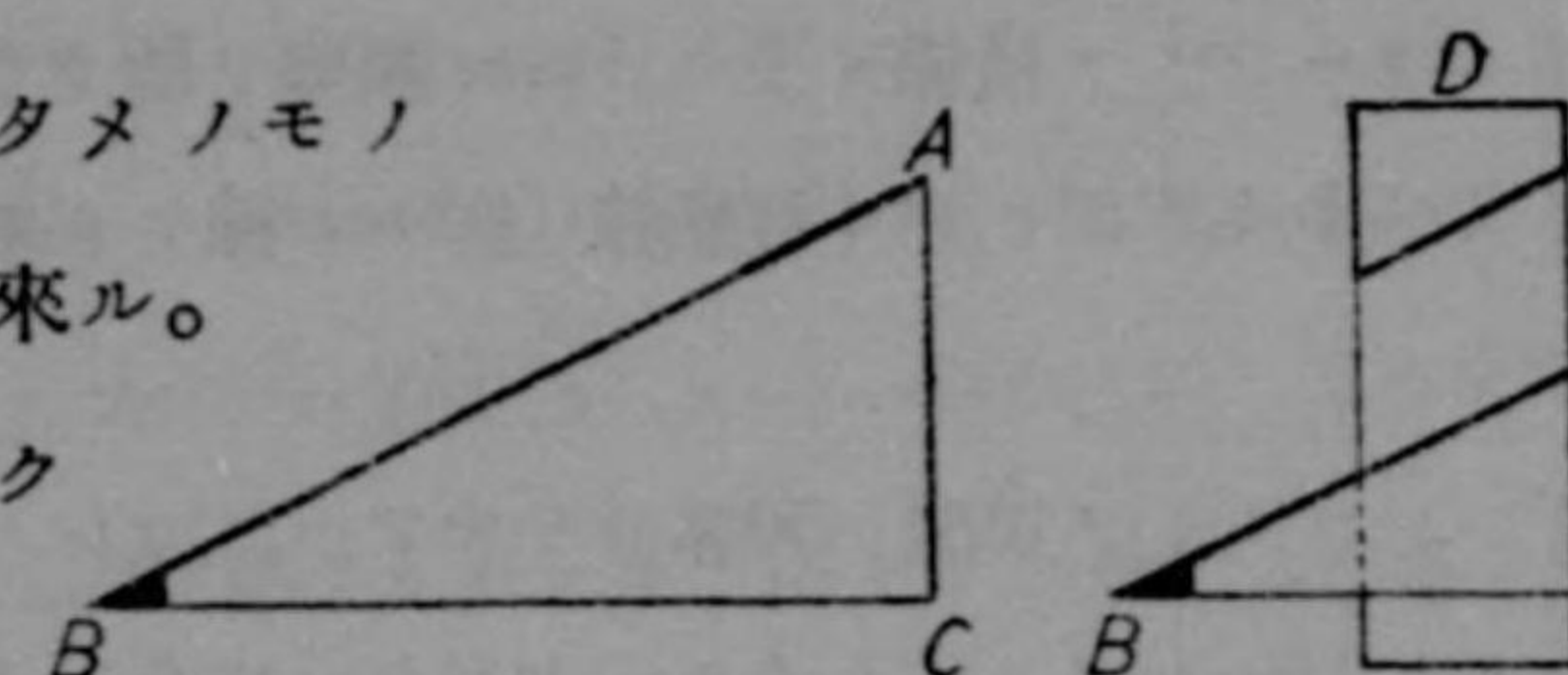
(ロ) 運動ヲ傳達スルタメノモノ

ノ二種ニ分ケルコトガ出來ル。

ねぢハ第 76 圖ニ示ス如ク

直角三角形ヲ圓摺ニ卷キ

附ケルトキ斜邊ノ作ル螺



第 76 圖

線ヲ例ヘバ山トシテ、山ノ間ヲ削リ取ツテ

第 77 圖ノ如クシタモノトイフコトガ出來ル

ねぢノ各部ノ名稱ハ右圖ノ如クデアル。

ねぢハ一個デハ用ヲナサズ雄ねぢノ山ガ

雌ねぢノ谷ニ嵌マリツツ回轉スルコトニヨ

ツテ働キヲ生ズル。

法則「ピッチ」 p ノ雄ねぢヲ n 回轉サセル

トキ l 丈ケ進ムトスレバ (l ヲ歩ミトイフ)

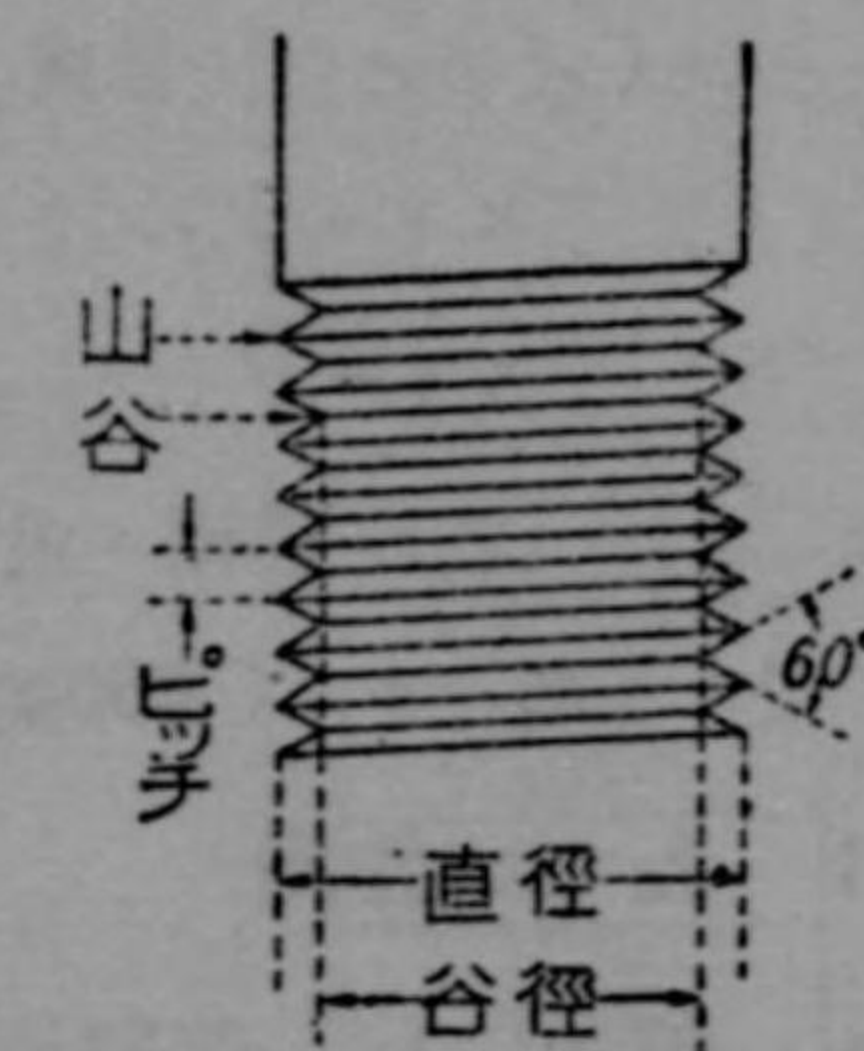
$$l = np$$

(2) だいやる

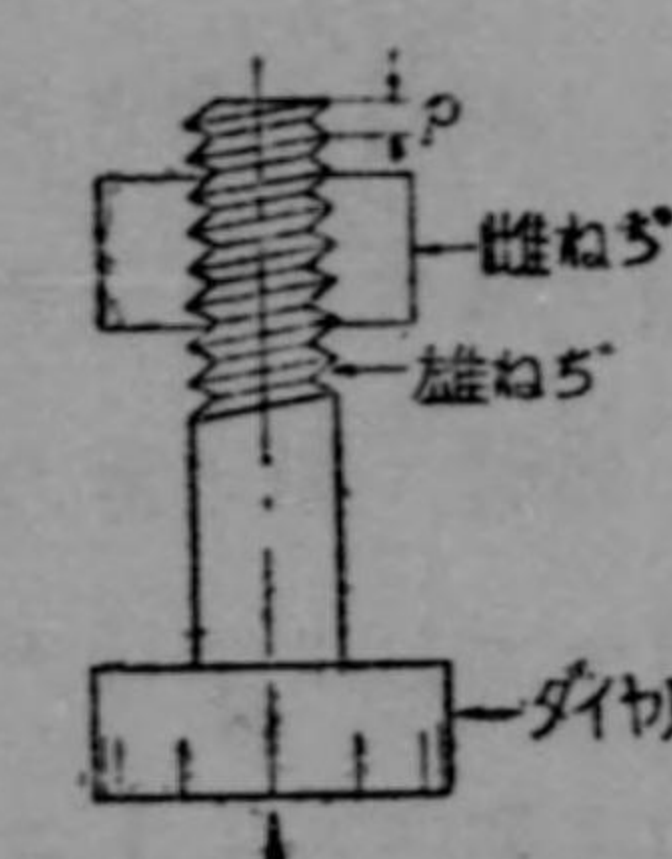
各種ノ測器、工作機械等ニ於テ僅カナ動キヲ

確實ニ傳達スルタメニ送りねぢニだいやるヲ取

付ケルコトガ多イ。(第 78 圖)



第 77 圖



第 78 圖

例 1. 「ピッチ」 4mm ノ送りねぢニ 100 等分シタだいやるヲ附ケタ時、

コレヲ $\frac{1}{100}$ 回轉スレバ其ノ送りハ

$$l = np = \frac{4}{100} = 0.04 \text{ mm}$$

例 2. 前例に於て 2.3mm ノ送りヲ與ヘルタメだいやるノ回轉數ハ

$$\frac{p}{l} = \frac{2.3}{0.04} = \frac{230}{4} = 57.5 \text{ (回轉)}$$

例 3. 耗目盛ノまいくろめ-た (第79圖)

「スリーブ」ノ横線ノ上ニ 1mm 間隔ノ線ヲ引キ更ニ其ノ中央下部ニ短イ目盛線 (0.5mm 線) ガ影シマレテキル。

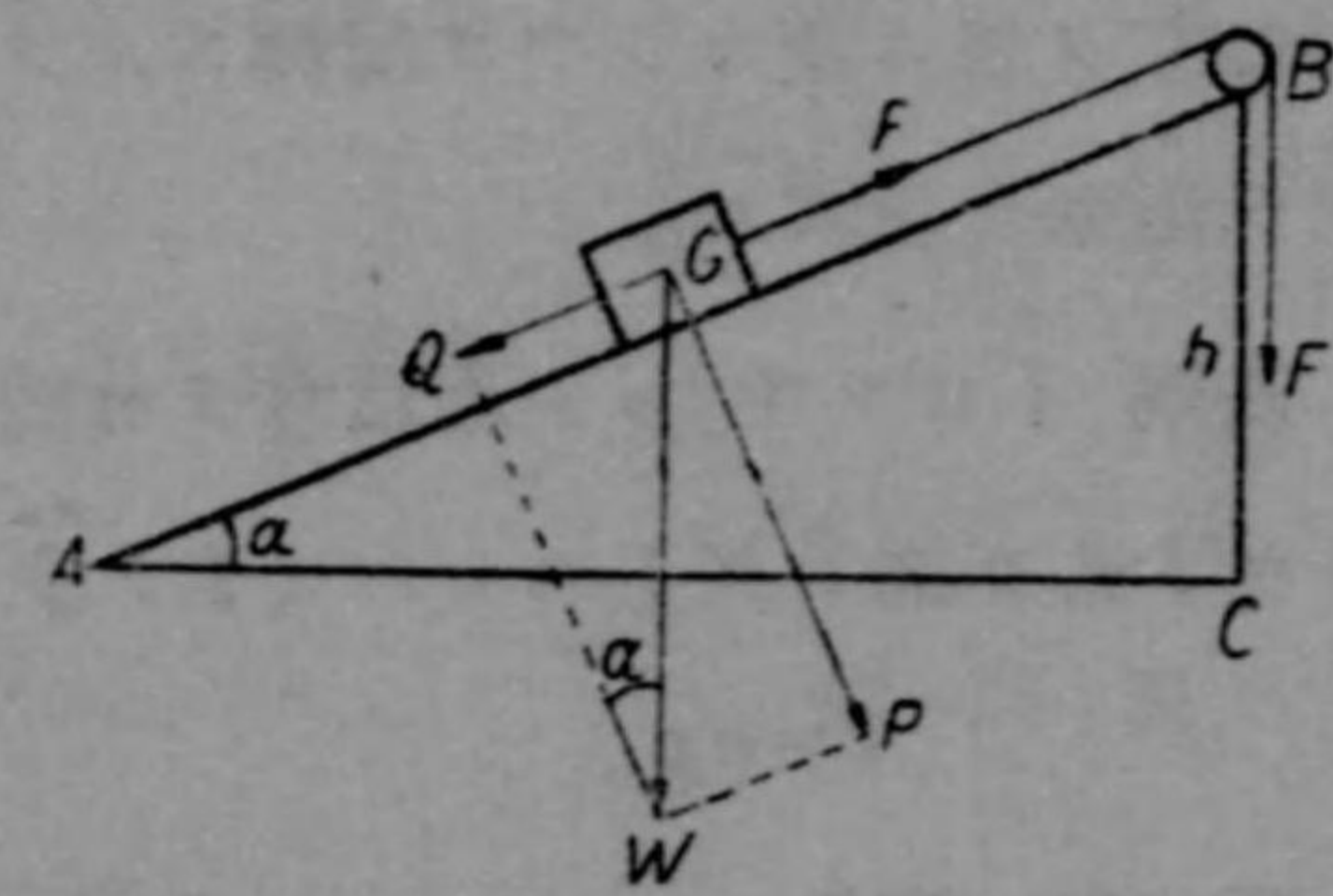
「シンプル」ノ周圍ハ 50 等分シテアリ、コレハ「ピッチ」0.5mm ノまいくろめ-たねぢニ啮合ツテキルカラ「シンプル」ヲ一回轉サセルト自ラ 0.5mm 進ム。

まいくろめ-たノ目盛ノ讀ミ方。 例: $3.5 + 0.01 \times 15 = 3.65 \text{ mm}$

- (i) 「スリーブ」ノ上デ完全ニ讀メル寸法ヲ讀ム。
- (ii) 「スリーブ」ノ一目ニ滿タナイ寸法ハ「シンプル」ノ何番目ノ目盛ガ「スリーブ」ノ横線ニ重ナルカヲ見テ、ソノ番號ヲ 0.01mm ニ乗ジテ (i) ノ讀ミニ加ヘル。(第80圖下ノ例参照)

(3) ねぢノ作用

(a) 斜面ノ利 第81圖ニ於テ斜面 AB ハ滑カナモノトスル。今コノ斜面ニ沿ウテ重サ W 軋ノ物體ヲ A カラ B マデ引上ゲルトキ、物體ニ働ク重力 W ヲ斜面ニ

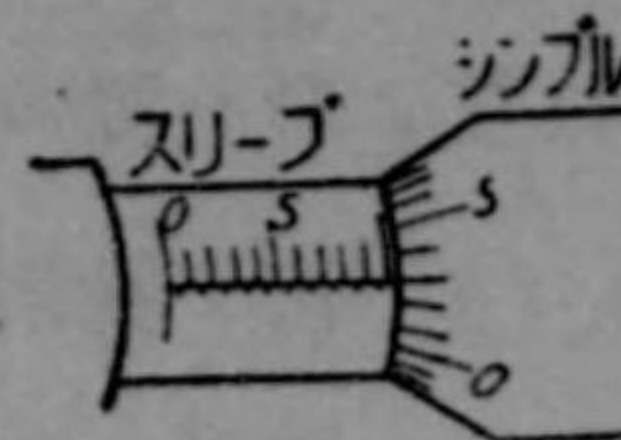


第 81 圖

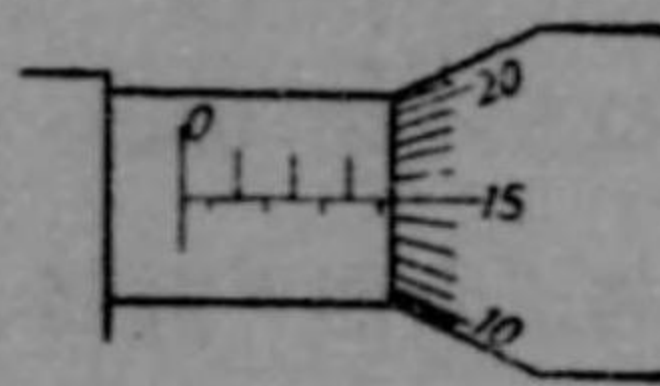
垂直ナ力 P ト平行ナ力 Q トニ分ケテ考ヘレバ、引上ゲルタメニハ Q ノ力ヲ要スル。トコロガ $\triangle ABC$ ト $\triangle WGP$ トハ相似デアルカラ $\angle GWQ = \angle BAC = \alpha$, $\therefore Q = W \sin \alpha$ 從ツテ $Q < W$

從ツテ A カラ B 迄引上ゲルトキノ仕事ノ量ハ

$$(\text{力}) \times (\text{距離}) = Q \times AB = W \sin \alpha \times h \text{ (BC = h 米トスル)}$$



第 79 圖



第 80 圖

$$= Wh \text{ (軋} \cdot \text{米)}$$

Wh(軋・米) ハ重サ W 軋ノ物體ヲ眞直ニ h 米ノ高サニ上ゲルトキノ仕事ノ量デアル。從ツテ斜面ニ沿ウテ引上ゲテモ、眞直ニ持上ゲテモ結局仕事ノ量ハ變リガナイガ、之ニ要スル力ハ $Q < W$ ナルコトヨリ小サクテヨイ。之ガ即チ斜面ノ利デアル。

例 傾斜 30° ノ斜面ニ沿ウテ重サ 1 頓ノ物體ヲ押上ゲル爲ニ要スル力ハ

$$1000(\text{軋}) \times \sin 30^\circ = 1000(\text{軋}) \times \frac{1}{2} = 500(\text{軋})$$

又コノ斜面ヲ利用シテ此ノ物體ヲ 5 米ノ高サ迄上ゲルトキノ仕事ノ量ハ、斜面ノ長サガ $5 \text{ cosec } 30^\circ = 5 \times 2 = 10(\text{米})$ デアルカラ

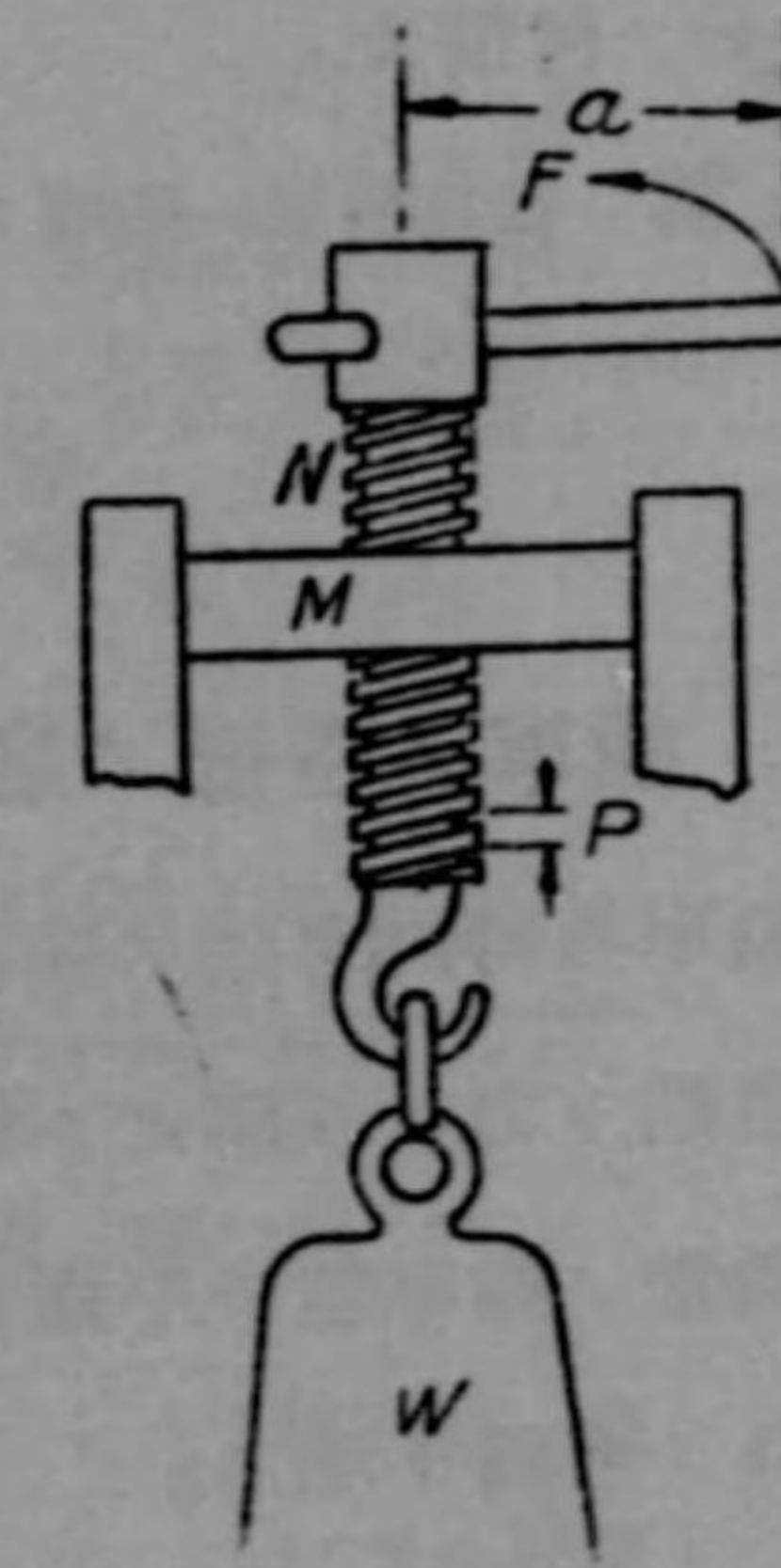
$$500(\text{軋}) \times 10(\text{米}) = 5000(\text{軋} \cdot \text{米}) \dots \dots \dots \text{答}$$

然シ乍ラ斜面ヲ利用シテモ力ニ利ガアル丈ケデ、ナス仕事ノ量ハ變リナイカラ、眞直ニ上ゲルトキノ仕事ノ量ハ

$$1000(\text{軋}) \times 5(\text{米}) = 5000(\text{軋} \cdot \text{米})$$

トシテ求メル方ガヨイ。

(b) 右ノ圖ニ於テ雌ねぢ M ヲ固定シ、ソレニ嵌マツテキル雄ねぢ N ニ錘 W ヲ懸ケ、力 F ヲテコノ端ニ加ヘ、コノ雄ねぢヲ回シテ錘ヲ上ゲル場合ニツイテ考ヘル。雌ねぢノ溝ノ上面ハ螺旋狀ニ曲ツター種ノ斜面ヲ作り、雄ねぢノ凸部ガ其ノ上ニ支ヘラレテキルカラ、斜面ノ上ニ重イ物體ガ載セラレテキルノト同様デアル。(タダ斜面ニ接スル部分ガ



第 82 圖

長イ丈ケデアル) 今雄ねぢヲテコニ依ツテ一回轉サセレバ錘 W ハねぢノ「ピッチ」p 丈ケ上ゲラレルカラ、錘ノ受ケル仕事ハ Wp デアル。又ねぢノ中心カラテコノ着力點マデノ距離ヲ a トスレバ、テコガ一回轉スル間ニスル仕事ハ、力ノ働ク距離 $2\pi a$ ト力 F トノ積 $2\pi a F$ デ

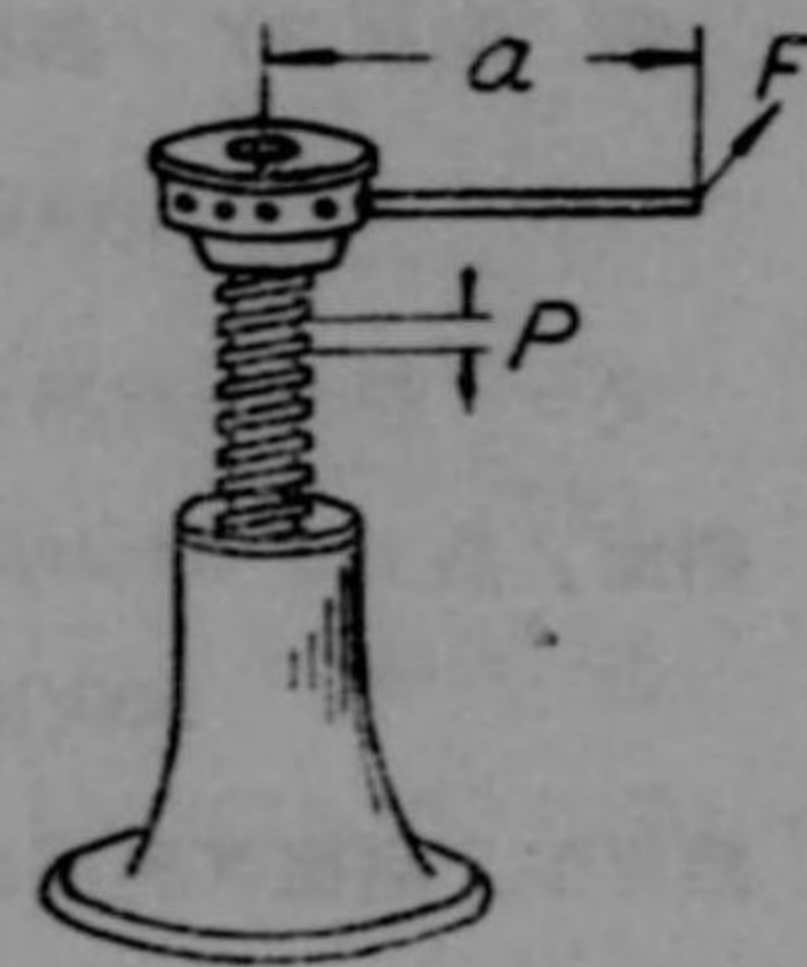
アル。コノ二ツノ仕事ノ量ハ相等シイカラ

$$W_p = 2\pi a F$$

$$\therefore W = \frac{2\pi a}{p} F \dots\dots(1)$$

即チ雄ねぢノ中心カラ距離 a ノ點ニ力 F ヲ加ヘルトキ、雄ねぢハ $\frac{2\pi a}{p} F$ ノ力ヲ支ヘルコトガ出來ル。

問題 右ノ圖ハ建築物其ノ他重イモノヲ押し上ゲルクメノ装置デアル。今雄ねぢニ附ケラレタテコニ雄ねぢノ中心カラ $200mm$ ノ點ニ力 F ヲ加ヘルトキ、ねぢノ「ピッチ」ヲ $3mm$ トスレバ、物體ノ押し上ゲラレル力 W ハ加ヘタ力 F ノ何倍カ。



第 83 圖

解 着力點ガ一同轉スレバ其ノねぢノ進行距離 $2\pi \times 200mm$ 、「ピッチ」 $3mm$ 、故ニ(1)ヨリ

$$\therefore \frac{W}{F} = \frac{2\pi a}{p} = \frac{2\pi \times 200}{3} \approx 419(\text{倍}) \dots\dots(\text{答})$$

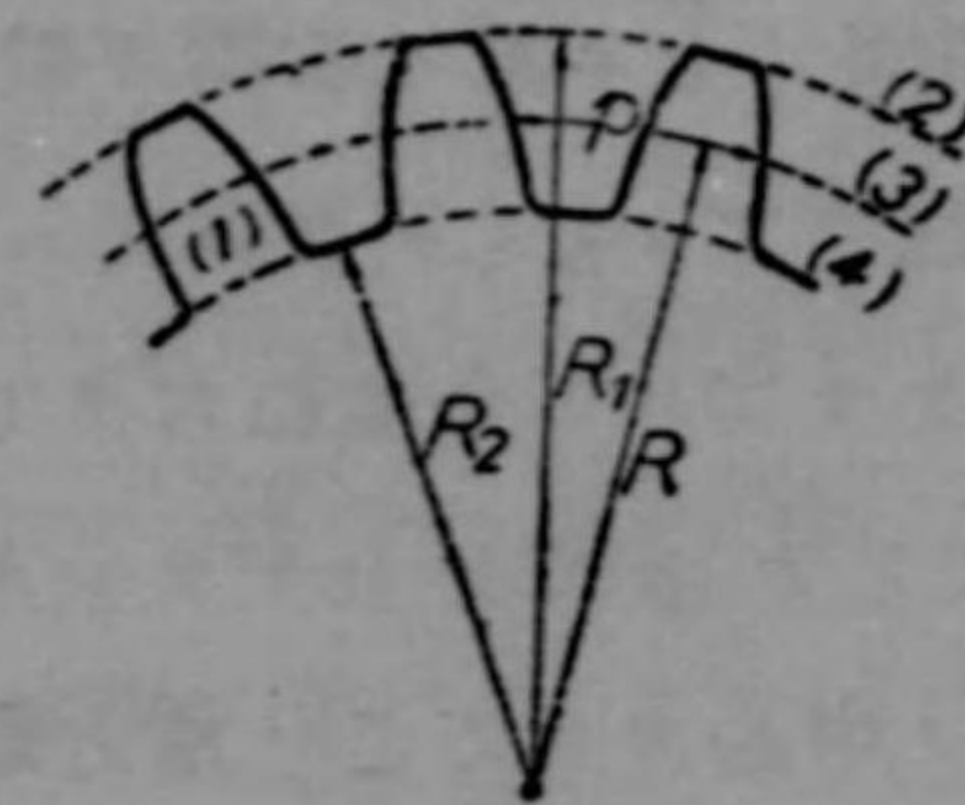
23. 齒車ノ各部ノ名稱ト種類

齒車ハ時計ヲ始メ各種ノ計器、機械、兵器等ニ於テ二軸ノ間ノ同轉運動ト力ノ正確ナル傳達機關ノ主體ヲナスモノデアル。

通常ノ齒車即チ平齒車ニ就イテソノ主要部分ノ名稱ヲ示ス。

第84圖ニ於テ

- (1).....齒
- (2).....齒先圓
- (3).....「ピッチ」圓 (又ハ刻ミ圓)
- (4).....齒本圓



第 84 圖

p 「ピッチ」(又ハ刻ミ)

R 「ピッチ」圓ノ半径

R_1 齒先圓ノ半径

R_2 齒本圓ノ半径

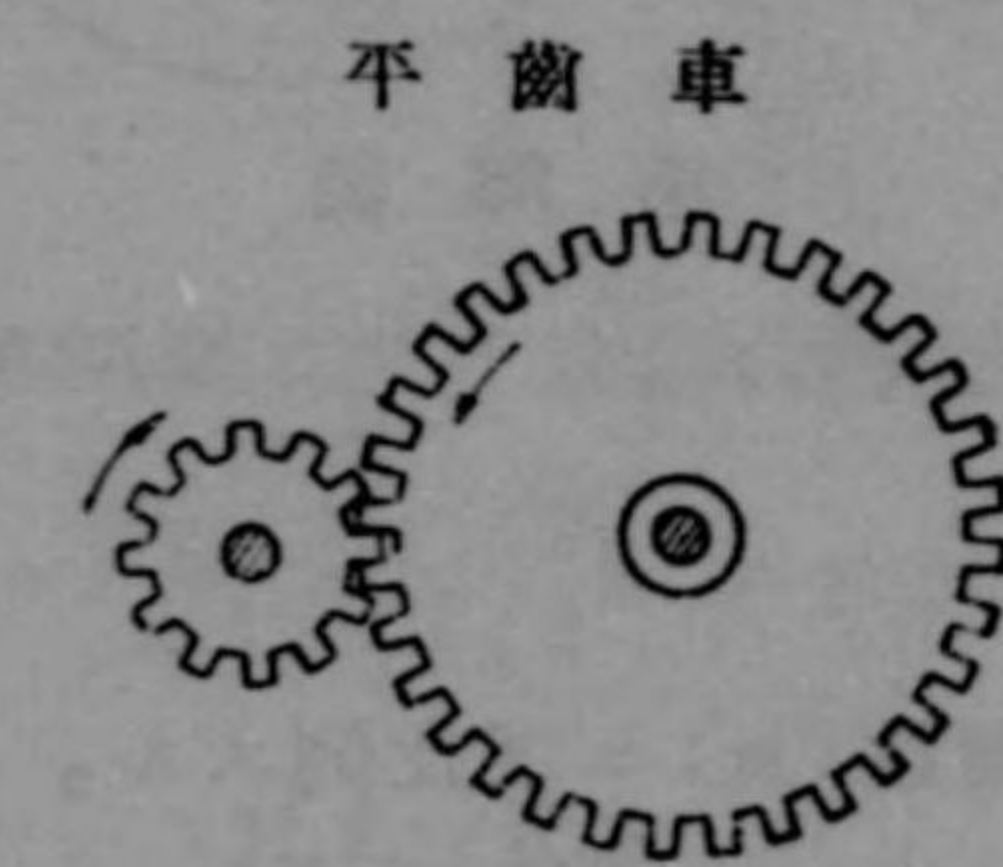
齒車ノピッチ p 、ピッチ圓ノ半径 R 及ビ齒數 n トノ間ニハ次ノ關係ガアル。

$$p = \frac{2\pi R}{n} \quad (\text{但シ } \pi = 3.1416 \text{ 圓周率})$$

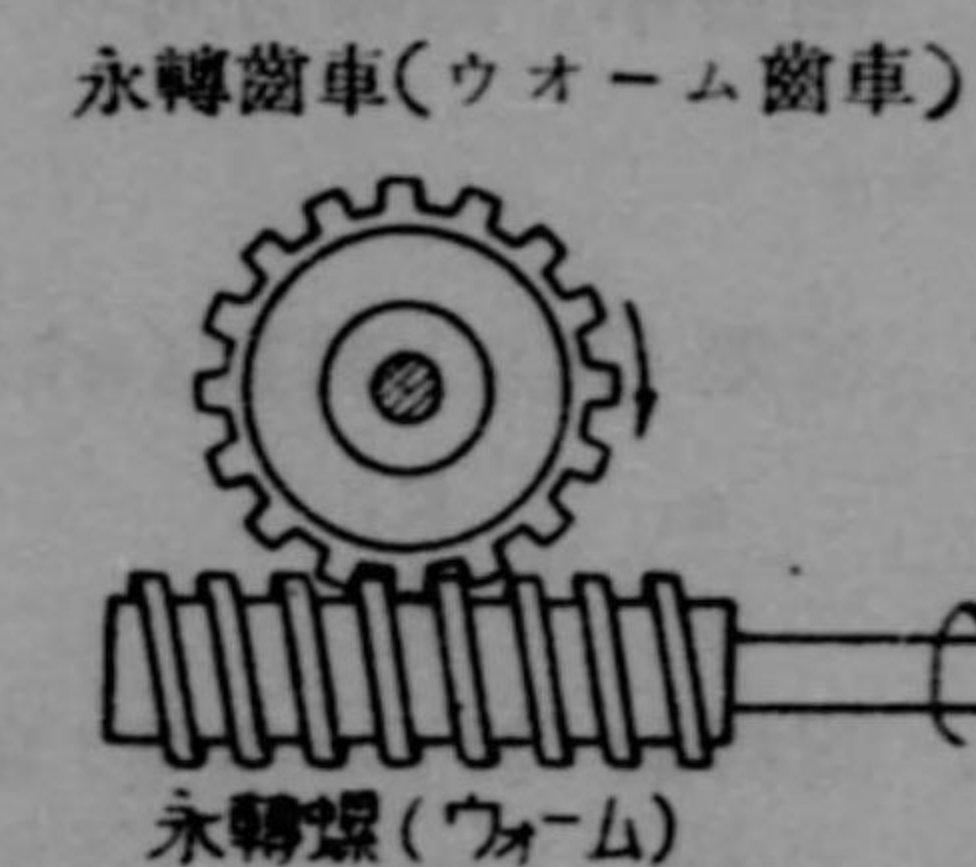
次ニ齒車ハ其ノ用途ニ依リ形狀ヲ異ニスルガ、主ナモノハ次ノ三種デアル。

(1) 平齒車(第85圖) 平行ナ二軸ノ間ニ同轉及ビ力ヲ傳ヘルタメニ使フ。

(2) 永轉螺(ウオーム、芋蟲) (第86圖) 減速比(95頁)ヲ大ニ



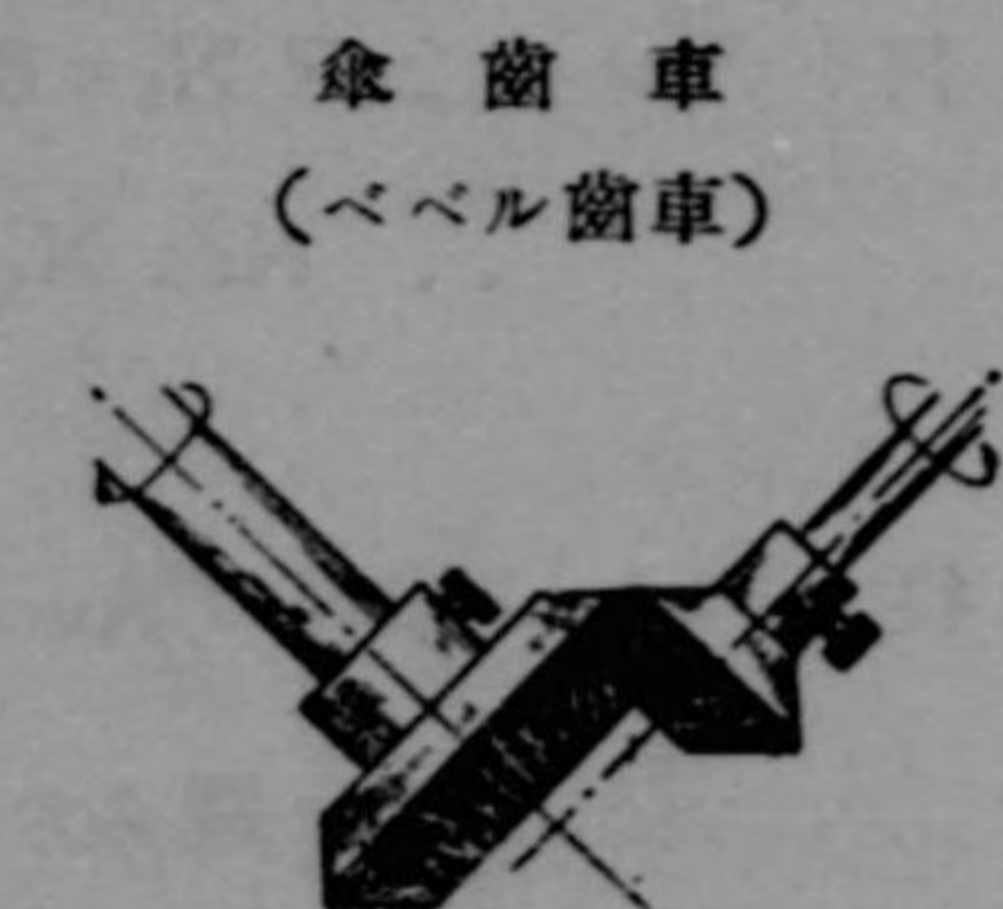
第 85 圖



第 86 圖

シ、且垂直(但シ交ラナイ)ナ二軸間ニ同轉及ビ力ヲ傳ヘルタメニ使フ。

(3) 傘齒車(ベベル齒車)(第87圖) 相交ナル二軸ノ間ニ同轉及ビ力ヲ傳ヘルタメニ使フ。



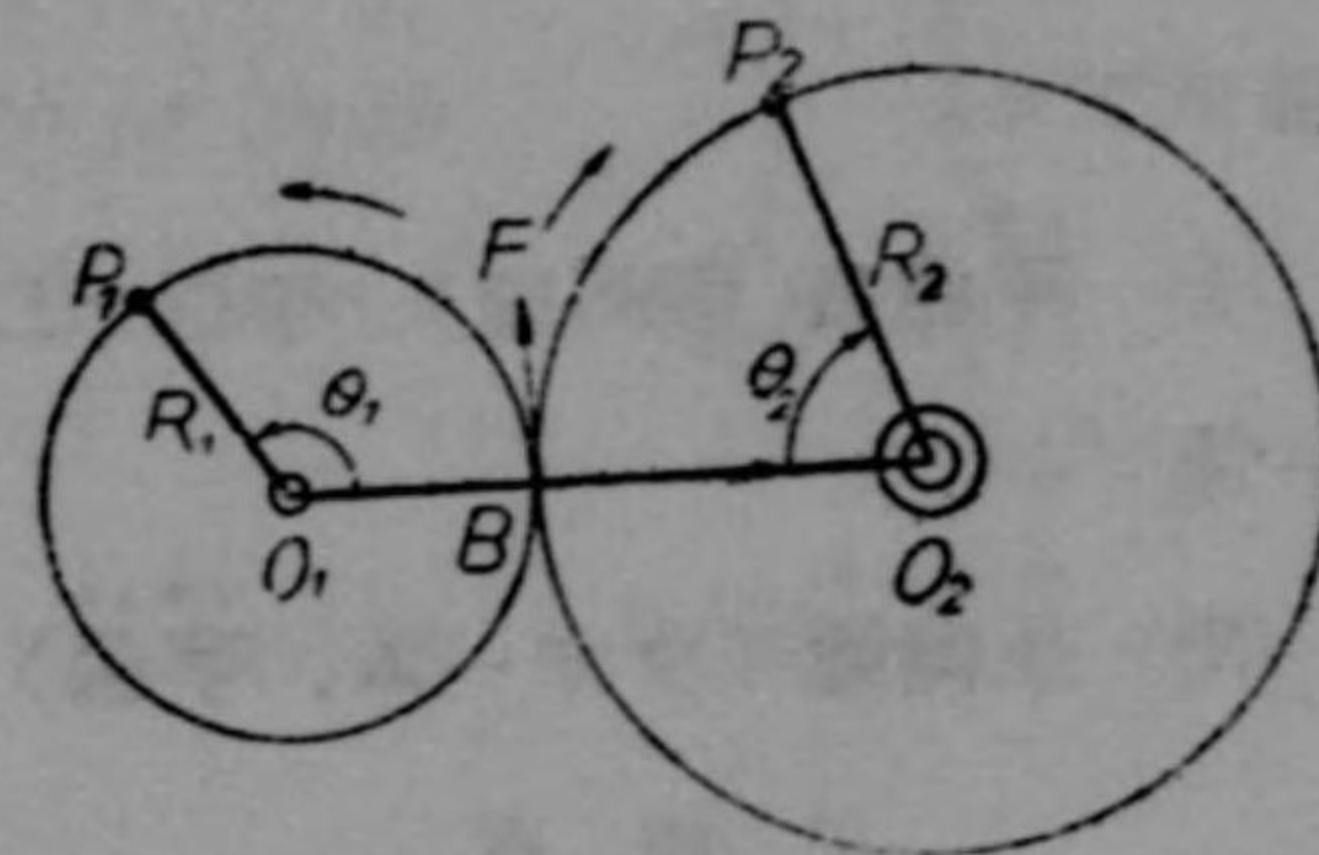
第 87 圖

24. 平齒車

(1) 外接二齒車 第88圖ニ於テ起動軸 O_1 ノ同轉ヲ從動軸 O_2 ノ同轉及ビ同轉力ニ移スクメ兩軸ニ夫々齒車 A_1, A_2 ヲ固着サセテ嚙ミ合ハセルトキヲ考ヘル。今兩齒車ノ各種ノ數量ヲ次表ノ如ク表ハスモトスル。

	ピッチ圓ノ 半徑	齒數	同轉數	角速度 (<small>ラジアン/秒</small>)	軸ノ同轉力 (kg)
A_1	R_1	n_1	N_1	ω_1	F_1
A_2	R_2	n_2	N_2	ω_2	F_2

又始メ相接シテキタ「ピッチ」圓周上ノ點Bガt秒後ニ P_1 及ビ P_2 ニマデ來タモノトスレバ次ノ諸法則ガ成立スル。



第 88 圖

法則 1. 兩齒車ノ同轉方向ハ反對デアル。

法則 2. 半徑 (R) ト齒數 (n) トハ正比例スル。

$$\frac{n_1}{n_2} = \frac{R_1}{R_2}$$

法則 3. 同轉數 (N) ハ半徑 (R) 又ハ齒數 (n) = 反比例スル。

$$\frac{N_2}{N_1} = \frac{R_1}{R_2} = \frac{n_1}{n_2}$$

何トナレバ $2\pi R_1 N_1 = 2\pi R_2 N_2$ ヨリ $R_1 N_1 = R_2 N_2$

$$\begin{aligned} \therefore N_2 : N_1 &= R_1 : R_2 \\ &= n_1 : n_2 \text{ (法則 2)} \end{aligned}$$

從ツテ A_2 ノ半徑ガ A_1 ノ半徑ノ 2, 3, …… 倍トナレバ A_2 ノ同轉數ハ $\frac{1}{2}, \frac{1}{3}, \dots$ ト遅クナル。

コノトキ $\frac{N_2}{N_1}$ ヲ速度比トイフ。

注意 主動軸 O_1 ノ同轉數ハ大キクトモ從動軸 O_2 ノ同轉數ハ半徑ニ反比例シテ小トナリ不經濟ノ様ニ考ヘラレルガ、軸ノ同轉力ハ却ツテ大トナル。之ガ次ノ法則 4 ノ示スコロデアル。

法則 4. 軸ノ同轉力 (F) ハ半徑 (R) = 正比例スル。

$$\frac{F_2}{F_1} = \frac{R_2}{R_1}$$

兩齒車ノ切點 B = 於ケル力ヲ F トスレバ軸 O_1, O_2 = 關スル能率即チ同轉セントスル力 F_1, F_2 ハ

$$F_1 = FR_1, F_2 = FR_2 \quad \therefore F_2 : F_1 = R_2 : R_1$$

即チ從動軸ノ半徑ガ 2, 3, …… 倍トナレバ同轉數ハ $\frac{1}{2}, \frac{1}{3}, \dots$ トナルガ軸ノ同轉力ハ 2, 3, …… 倍トナル。

法則 5. 角速度 (ω) ハ半徑 (R) = 反比例スル。

$$\frac{\omega_2}{\omega_1} = \frac{R_1}{R_2}$$

第88圖ニ於テ $\widehat{BP_1} = \widehat{BP_2}$ デ且 $\widehat{BP_1} = R_1 \theta_1, \widehat{BP_2} = R_2 \theta_2$, 又

$$\omega_1 = \frac{\theta_1}{t}, \omega_2 = \frac{\theta_2}{t} \text{ デアルカラ}$$

$$R_1 \theta_1 = R_2 \theta_2 \quad \therefore R_1 \frac{\theta_1}{t} = R_2 \frac{\theta_2}{t} \quad \therefore R_1 \omega_1 = R_2 \omega_2$$

即チ半徑ガ 2, 3, …… 倍トナレバ角速度ハ $\frac{1}{2}, \frac{1}{3}, \dots$ ト遅クナル。

以上五個ノ法則ヲ纏メテ記セバ次ノ如クナル。但シ始メノ負號ハ同轉方向ノ反對ナルコトヲ示スコトトスル。

$$\text{法則 6. 速度比} = -\frac{\omega_2}{\omega_1} = \frac{N_2}{N_1} = \frac{n_1}{n_2} = \frac{R_1}{R_2} = \frac{F_1}{F_2}$$

問題 1. 主動齒車 A_1 ノ直徑 10cm ノ齒數 24, 1 分間ノ同轉數 50 ナラバ之ト嚙ミ合フ從動齒車 A_2 ノ直徑 20cm ノトキ A_2 ノ齒數及ビ同轉數ヲ求メヨ。

解 法則 6 = 於テ $R_1=10cm, n_1=24, N_1=50, R_2=20cm$ デアルカラ

$$\frac{n_2}{n_1} = \frac{R_2}{R_1} \therefore n_2 = 24 \times \frac{20}{10} = 48 \quad (\text{答})$$

$$\frac{N_2}{N_1} = \frac{R_1}{R_2} \therefore N_2 = 50 \times \frac{10}{20} = 25 \quad (\text{答})$$

問題 2. 主動軸が毎分1800回轉スルトキ從動軸ヲ毎分720回轉サセルニ
ハ、兩軸ニ附ケル齒車ノ半徑ノ比ヲ如何ニスレバヨイカ。

又ニ時從動軸ノ回轉力ハ主動軸ノ回轉力ノ何倍トナルカ。

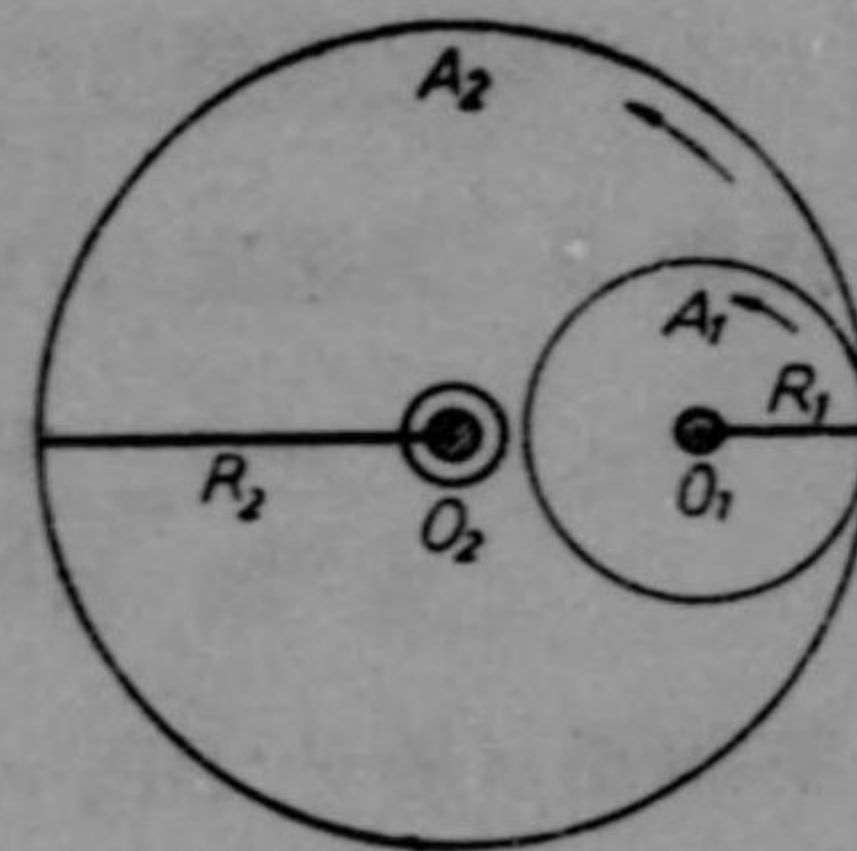
解 法則 6 = 於テ $N_1=1800, N_2=720$

$$\frac{R_2}{R_1} = \frac{N_1}{N_2} \therefore \frac{R_2}{R_1} = \frac{1800}{720} = \frac{5}{2} \quad (\text{答})$$

$$\text{又} \quad \frac{F_2}{F_1} = \frac{R_2}{R_1} \therefore \frac{F_2}{F_1} = \frac{5}{2} \quad (\text{答})$$

(2) 内接二齒車

二ツノ平齒車ガ第89圖ノ如ク内接スル場
合ニ於テハ回轉方向ガ同ジ法則 2 乃至 5 ハ
成立スルカラ法則 6 ノ代リニ負號ノナイ次
ノ法則 7 ガ成立ツ。

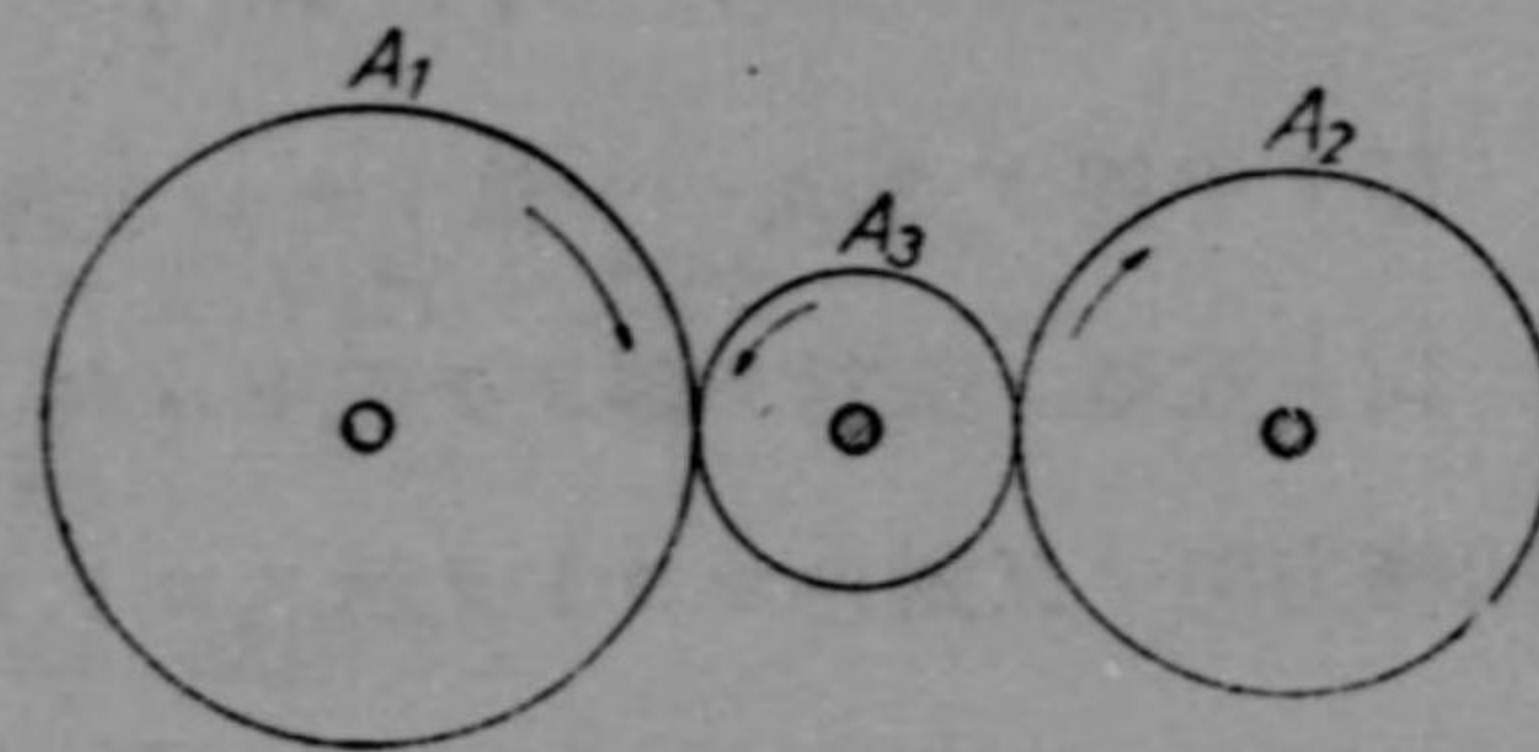


第 89 圖

$$\text{法則 7.} \quad \frac{\omega_2}{\omega_1} = \frac{N_2}{N_1} = \frac{n_1}{n_2} = \frac{R_1}{R_2} = \frac{F_1}{F_2}$$

(3) 三ツ以上ノ平齒車

(a) 第 90 圖, 第 91 圖ニ示
ス A_1, A_2 ハ主動軸及ビ從動軸
ニ取付ケラレタ齒車トシ, 其
ノ角速度ヲ ω_1, ω_2 ; 「ピッチ」
圓ノ半徑ヲ R_1, R_2 トスル。

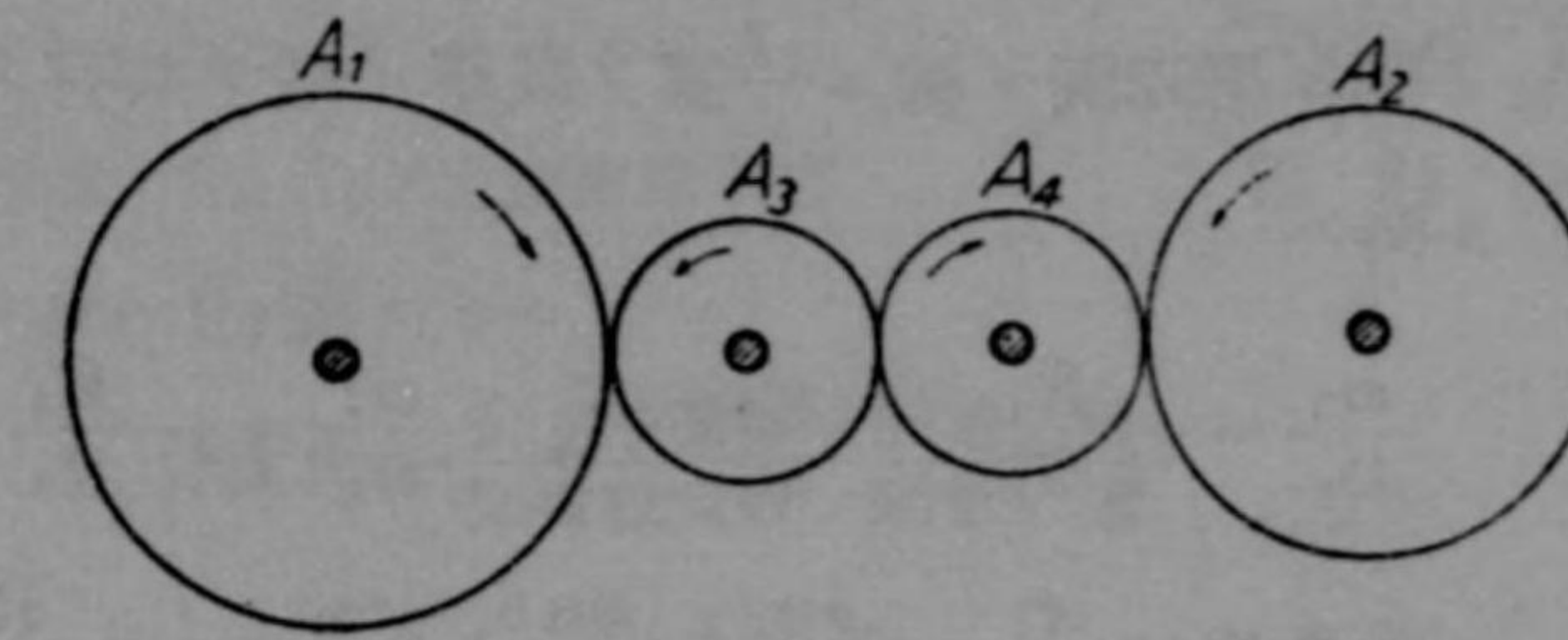


第 90 圖

今若シ A_1, A_2 ノ間ニ第90圖ノ様ニ中間車 A_3 ヲ入レタ場合ニ
 A_3 ノ角速度ヲ ω_3 , 半徑ヲ R_3 トスレバ法則 6 ヨリ

$$\frac{\omega_3}{\omega_1} = -\frac{R_1}{R_3}, \quad \frac{\omega_2}{\omega_3} = -\frac{R_3}{R_2}$$

$$\therefore \frac{\omega_2}{\omega_1} = \frac{\omega_2}{\omega_3} \times \frac{\omega_3}{\omega_1} = \left(-\frac{R_3}{R_2}\right) \times \left(-\frac{R_1}{R_3}\right) = \frac{R_1}{R_2}$$



第 91 圖

第91圖ノ場合ニハ同様ニシテ

$$\frac{\omega_2}{\omega_1} = -\frac{R_1}{R_2}$$

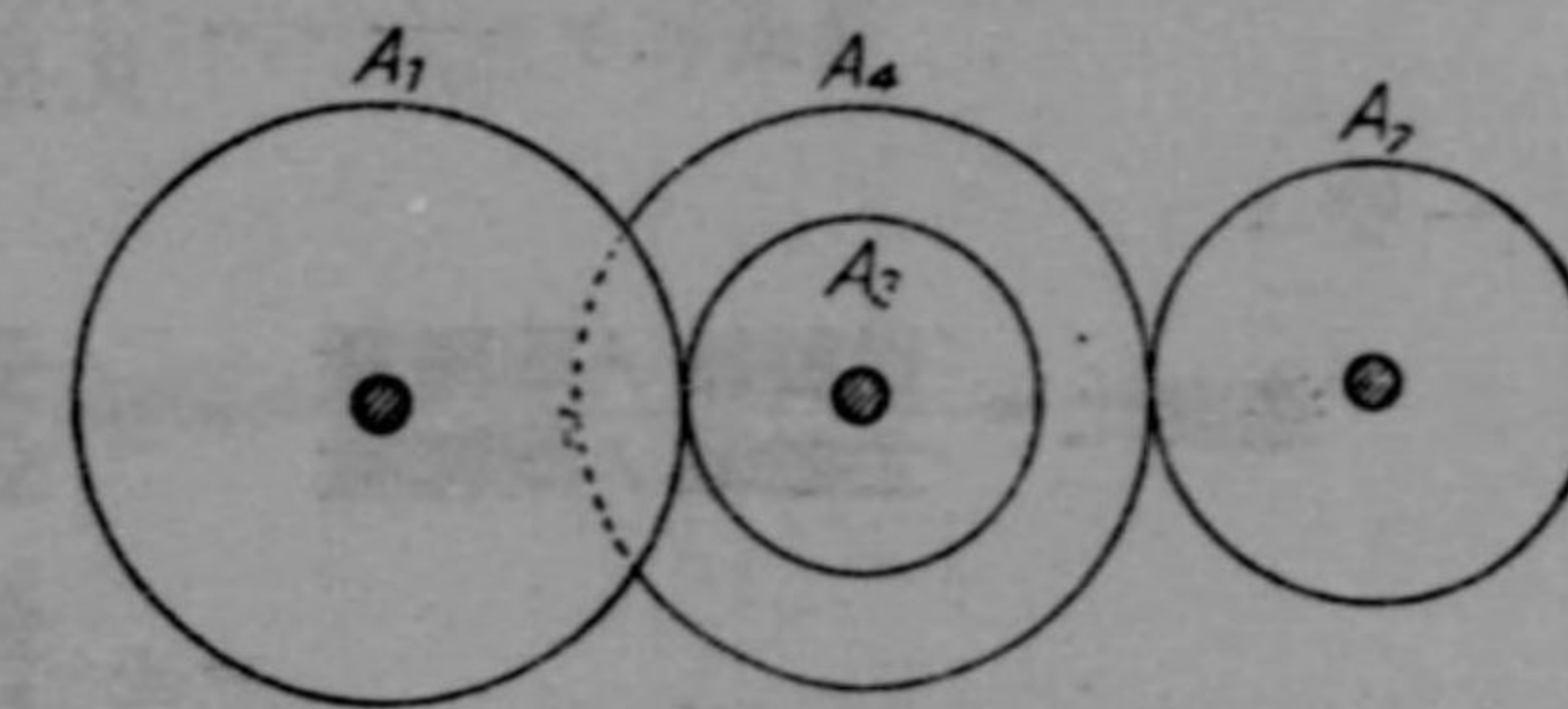
從ツテ一般ニ中間車ヲ數個用フルトキハ

$$\frac{\omega_2}{\omega_1} = \pm \frac{R_1}{R_2} = \pm \frac{N_1}{N_2} \quad (\text{但シ} N_1, N_2 \text{ハ齒數ヲ示ス})$$

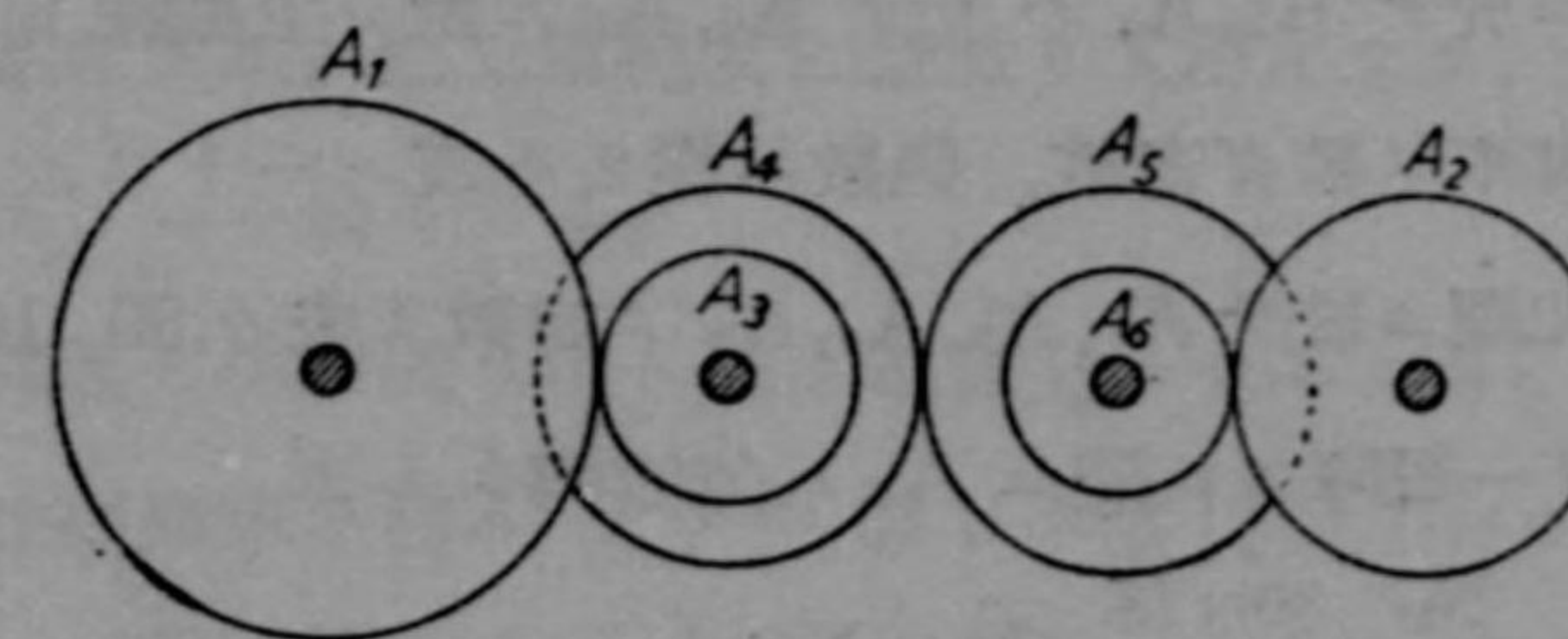
即チ中間車ハ主動軸及ビ從動軸ノ速度比ニハ何等影響ヲ與ヘナイ
タダ中間車ノ數ガ 0 又

ハ偶數ノトキハ複號ハ
負デ兩軸ノ回轉方向ハ

反對, 奇數ノ時ハ複號
ハ正デ回轉ハ同方向デアル。



第 92 圖



第 93 圖

注意 中間車ハ速度比ニ影響ヲ與ヘナイトイフ意味デ「遊ビ車」ト呼バ

レルコトガアル。

(b) 第92圖、第93圖ニ示ス A_1, A_2 ハ主動軸及ビ從動軸ニ取付ケラレタ齒車デ角速度及ビ「ピッチ」圓ノ半徑ハ前ト同様トスル。

今 A_1, A_2 ノ間ニ第92圖ノ様ニ一個ノ複車(軸ヲ共有スル二ツノ齒車)ヲ入レル時ハ

$$\frac{\omega_3}{\omega_1} = -\frac{R_1}{R_3}, \quad \frac{\omega_4}{\omega_3} = 1, \quad \frac{\omega_2}{\omega_4} = -\frac{R_4}{R_2}$$

$$\therefore \text{速度比} = \frac{\omega_2}{\omega_1} = \frac{\omega_2}{\omega_4} \times \frac{\omega_4}{\omega_3} \times \frac{\omega_3}{\omega_1} = \left(-\frac{R_4}{R_2}\right) \times 1 \times \left(-\frac{R_1}{R_3}\right) = \frac{R_1 R_4}{R_2 R_3}$$

同様ニ二個ノ複車ヲ入レタ第93圖ノ如キ場合ニハ

$$\frac{\omega_3}{\omega_1} = -\frac{R_1}{R_3}, \quad \frac{\omega_4}{\omega_3} = 1, \quad \frac{\omega_5}{\omega_4} = -\frac{R_4}{R_5}, \quad \frac{\omega_6}{\omega_5} = 1,$$

$$\frac{\omega_2}{\omega_6} = -\frac{R_6}{R_2}$$

$$\therefore \text{速度比} = \frac{\omega_2}{\omega_1} = -\frac{R_1 R_4 R_6}{R_2 R_3 R_5}$$

一般ニ

$$\text{速度比} = \frac{\text{從動軸ノ回轉數}}{\text{主動軸ノ回轉數}} = \pm \frac{\text{全主動軸ノ半徑ノ積}}{\text{全從動軸ノ半徑ノ積}} \dots (1)$$

$$= \pm \frac{\text{全主動軸ノ齒數ノ積}}{\text{全從動軸ノ齒數ノ積}} \dots (2)$$

但シ第92圖ニ於テ A_1, A_4 ハ夫々 A_3, A_2 ニ對シ主動軸トイフコトニスル。±ハ複車ノ數ガ奇數、偶數ニ從ヒ+或ハ-トスル

問題 1. 第92圖ニ於テ A_1, A_3, A_4, A_2 ノ齒數ヲ夫々80, 10, 75, 10トスル時 A_1 ガ一回轉スル間ニ A_2 ハ何回轉スルカ。

$$\text{解 (2)ヨリ } \frac{N_2}{N_1} = \frac{80 \times 75}{10 \times 10} = 60, \quad N_1 = 1, \quad \therefore N_2 = 60$$

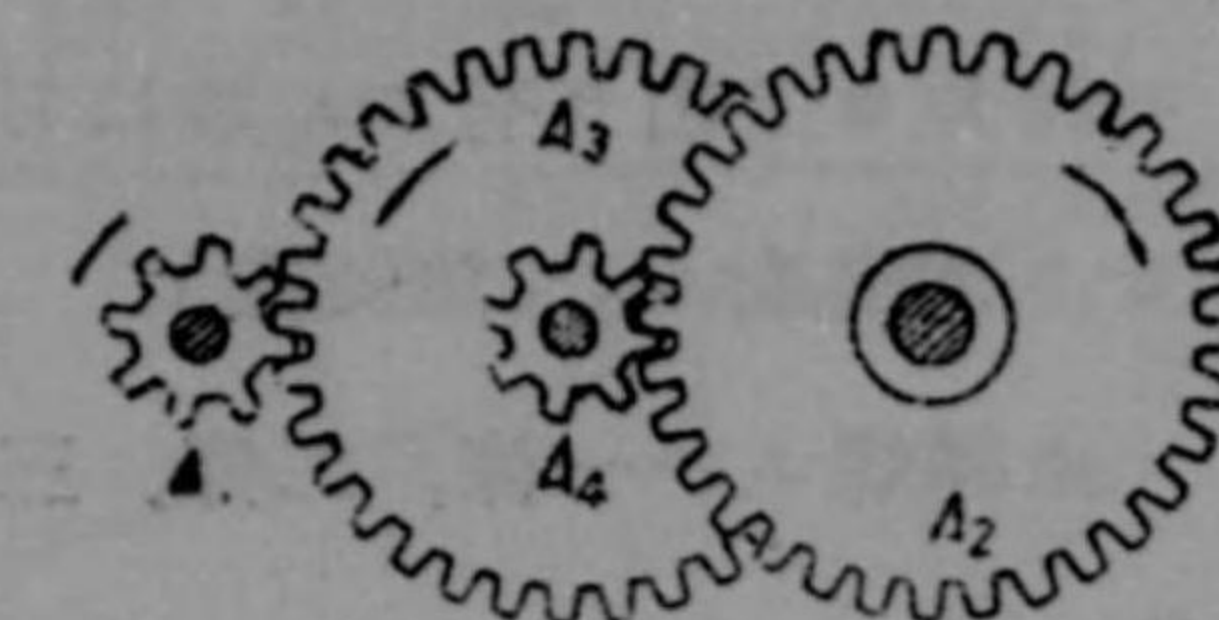
問題 2. 第94圖ニ於テ A_1 ハ主動齒車、 A_2 ハ從動齒車トシ其ノ間

ニ $A_3 A_4$ ノ複車ヲ入レタ時速度比

ヲ求メヨ。

解 A_1, A_2, A_3, A_4 ノ齒數ハ夫々8, 32, 32, 8 デアルカラ(2)式ヲ用ヒ A_1, A_4 ヲ主動齒車、 A_3, A_2 ヲ從動齒車ト考へ又複車ノ數ハ1デアルカラ

$$+ \text{ヲトリ } \text{速度比} = \frac{\text{全主動齒車ノ齒數ノ積}}{\text{全從動齒車ノ齒數ノ積}} = \frac{8 \times 8}{32 \times 32} = \frac{1}{16} \quad \text{答 } \frac{1}{16}$$



第94圖

25. 永轉螺(ウオーム、芋蟲)ト永轉齒車(ウオーム齒車)

之ハ右圖ノ如ク雄ねぢ N ノ山ノ間ニ齒車 M ノ

齒ガ嵌マリ「ハンドル」 A ヲ回轉スレバ齒車 M

ガ回轉スル装置デ

雄ねぢ N ヲ永轉螺又ハ「ウオーム」、芋蟲等ト

イヒ、 M ヲ永轉齒車又ハ「ウオーム」齒車トイフ。

コノ装置ニ依レバ

(i) 回轉ヲ直角方向ニ傳達スル

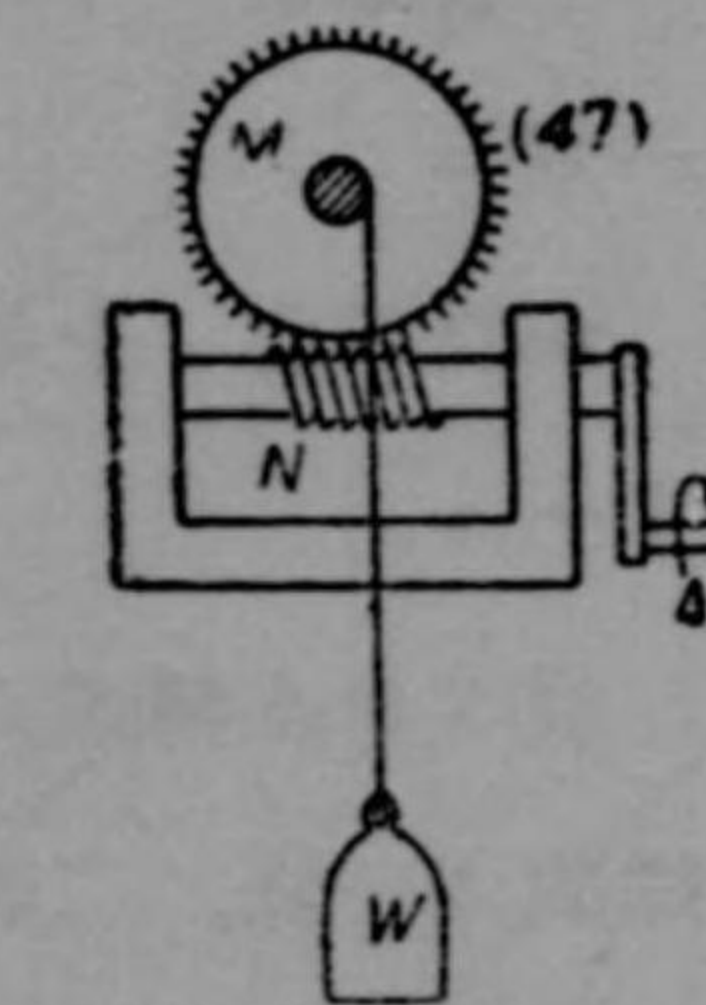
(ii) 速度比ヲ大キクスル

(iii) 從ツテ小サナ力ヲ以テ大キナ力ヲ發揮サセル

等ノ利益ガアル。然シ摩擦及ビ磨滅が大キイカラ、絶エズ動力ヲ傳達スルモノニハ適シナイ。

第96圖及ビ第97圖ニ示ス如ク軍事上ニモ多く用ヒラレル。

次ニ永轉齒車ノ齒ハ「ピッチ」圓ノ半徑(R)、「ピッチ」(p)ノ一定ナ齒形ノ断面ヲ無數ニ重ね合ハセテ之ヲ永轉螺ノ螺旋ノ傾角 α 文ケ摺ラシタモノトイフベク(第98圖)、又永轉螺ノ齒ハ圓嚙面ノ周圍



第95圖

ニ傾角 α ノ山ヲ有スル雄ねちト云フ
コトガ出來ル。(第98圖)

永轉螺ニハ一條、二條、三條螺旋
等ガアル。

永轉齒車ノ「ピッチ」 p ナ一定ニス
ルトキ永轉螺ガ一回轉スルトキノ螺
旋ノ歩ミハ (次頁第99圖参照)

一條螺旋ノトキハ p

二條螺旋ノトキハ $2p$

三條螺旋ノトキハ $3p$

一般ニ

m 條螺旋ノトキハ mp

トナル。

從ツテ永轉螺ガ一回轉スルトキ其ノ
螺旋ガ一條、二條、三條、……ナルニ
從ヒ永轉齒車ノ齒ヲ一、二、三、……前
進サセル。從ツテ逆ニ齒車ノ齒數ヲ n
トスレバ齒車ガ一回轉スル間ニ永轉螺
ハ

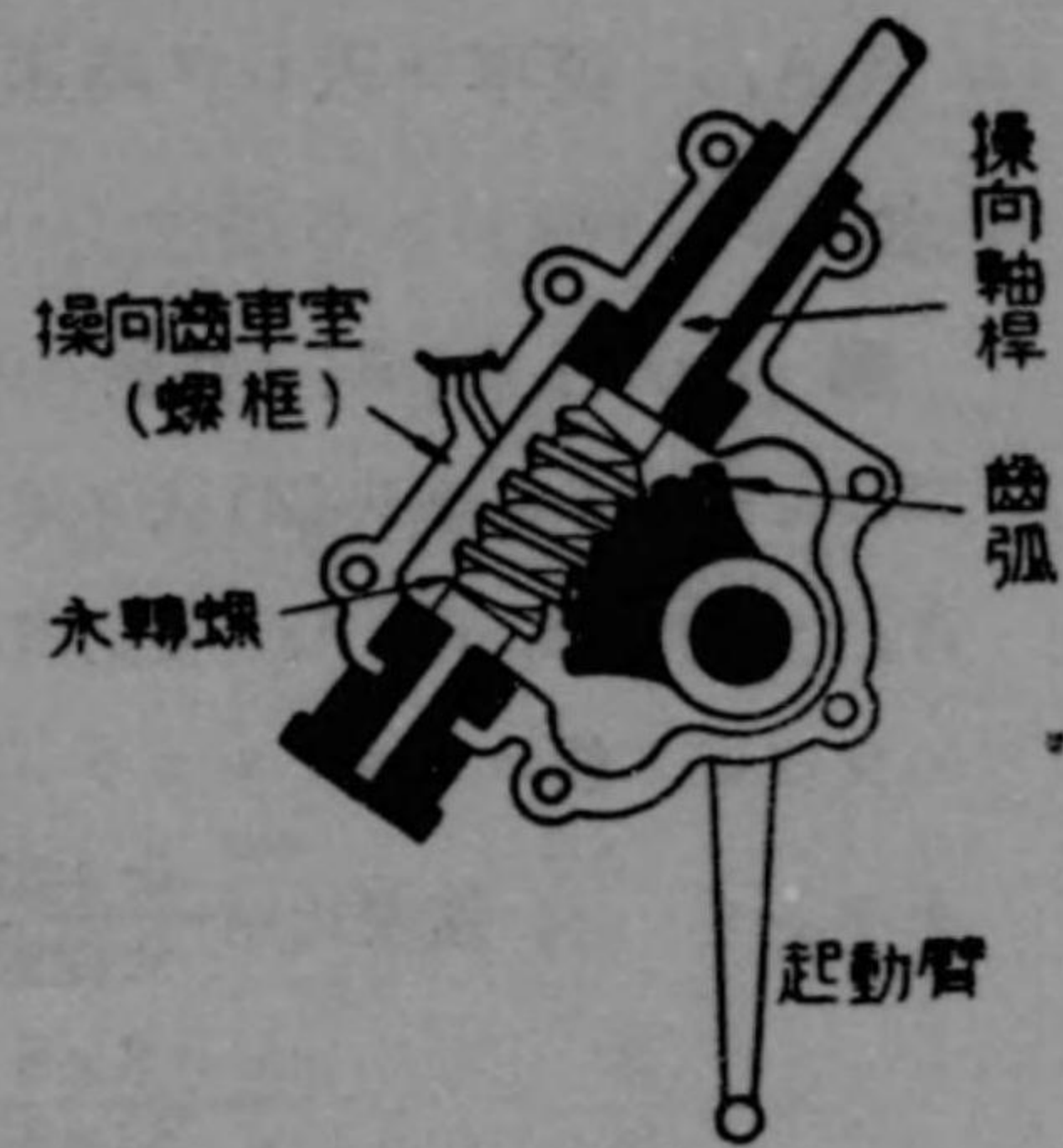
一條螺旋ノトキハ n 回

二條螺旋ノトキハ $\frac{n}{2}$ 回

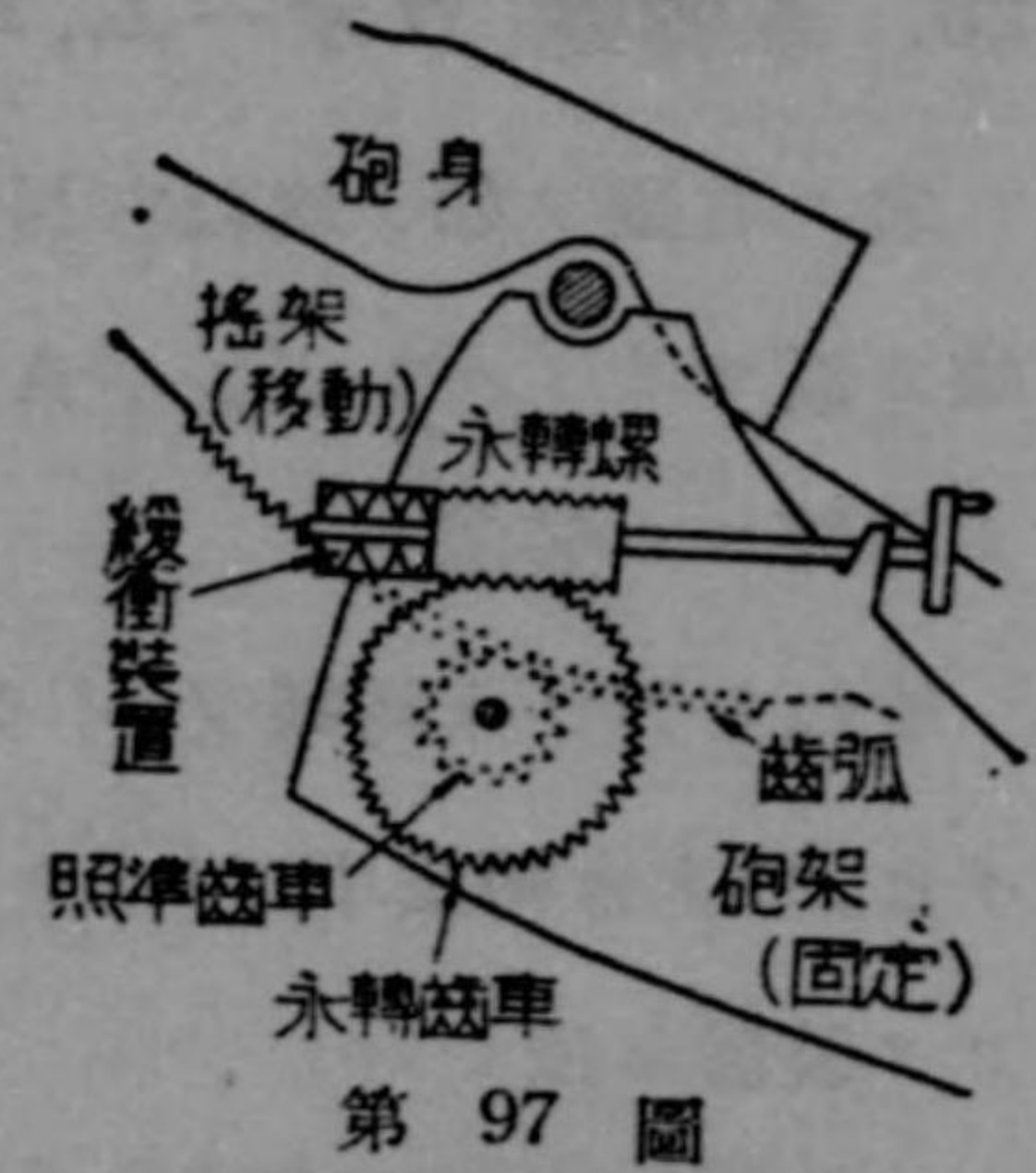
三條螺旋ノトキハ $\frac{n}{3}$ 回

同轉スル。(次頁第99圖参照)

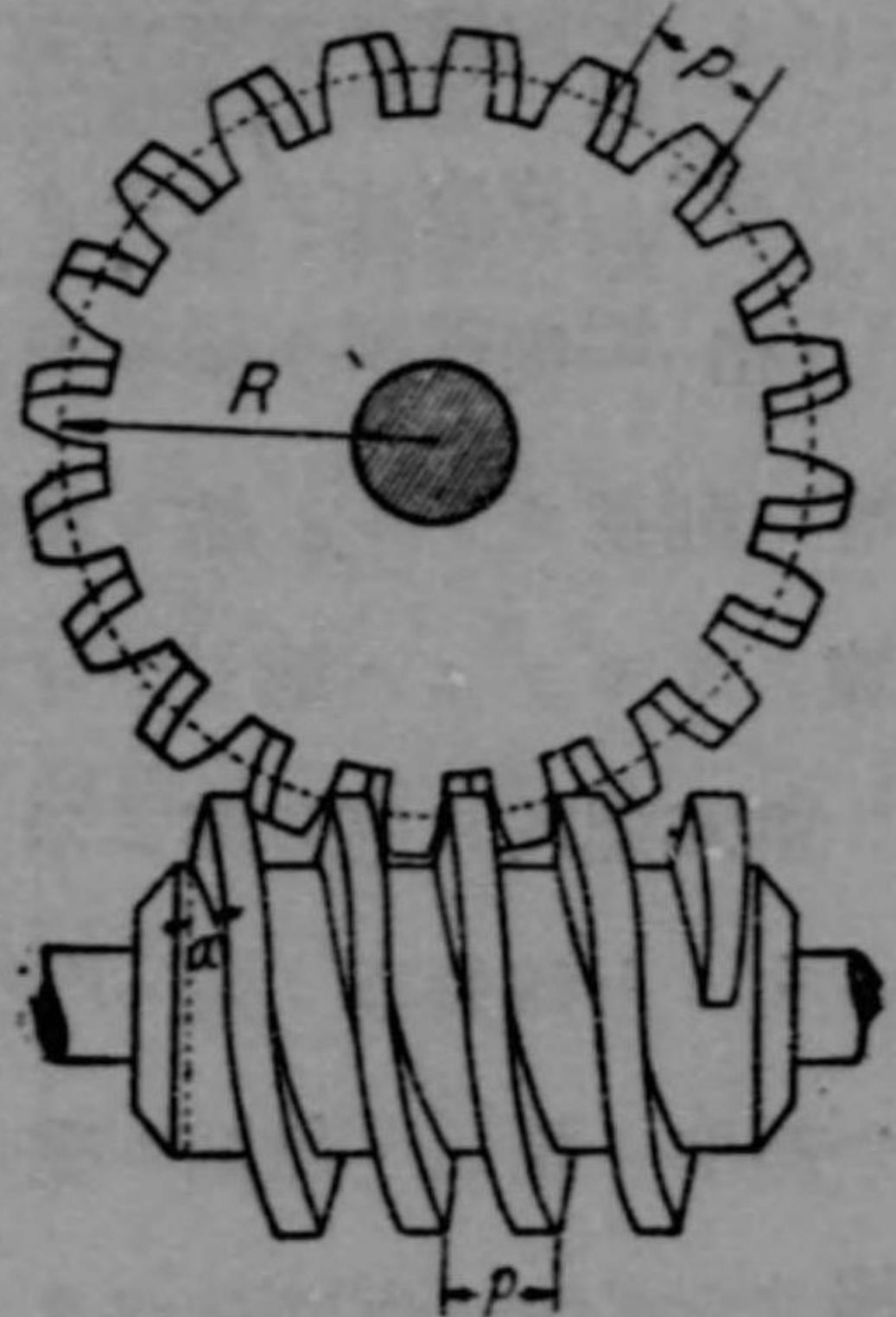
從ツテ速度比ハ夫々



第 96 圖

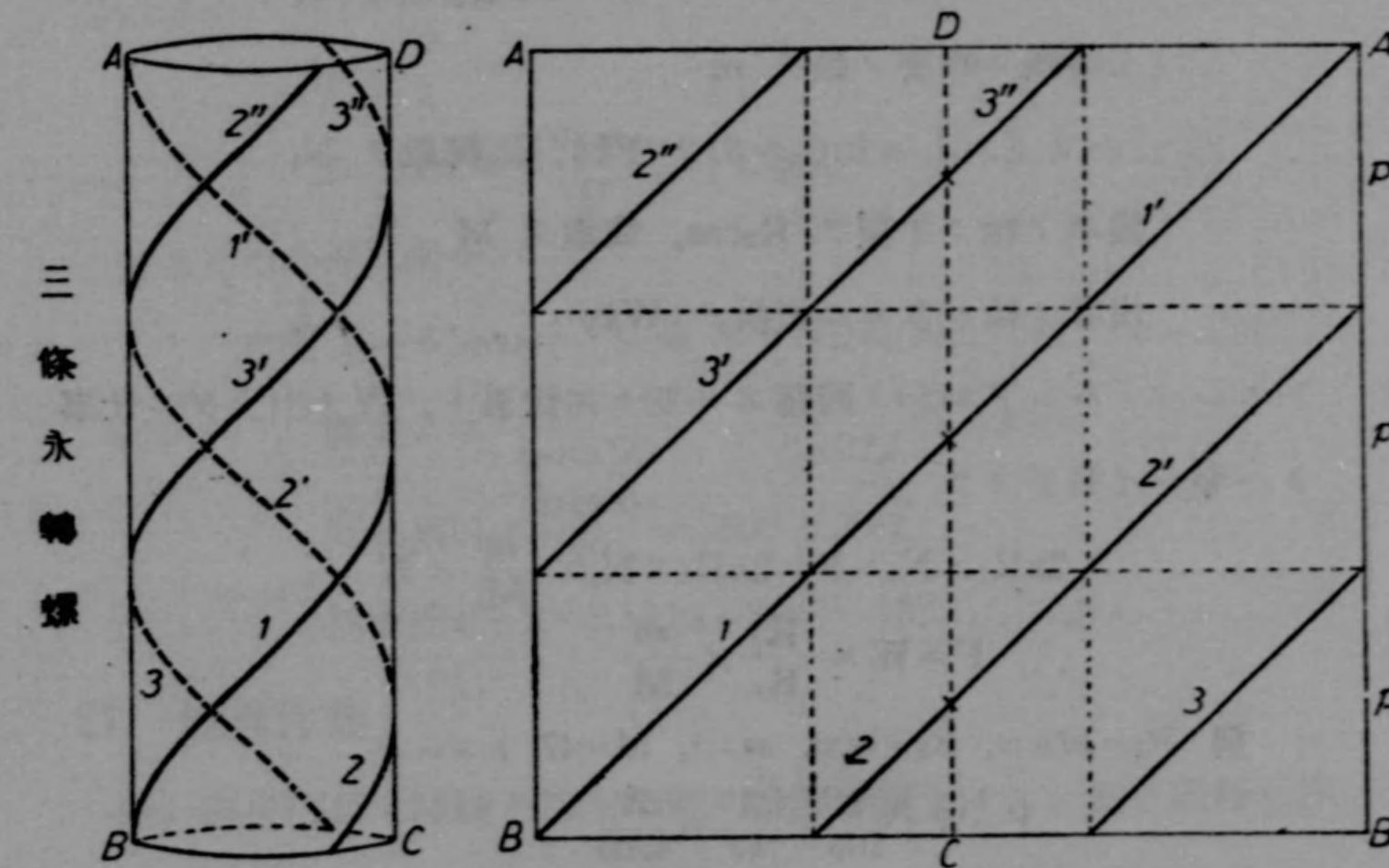
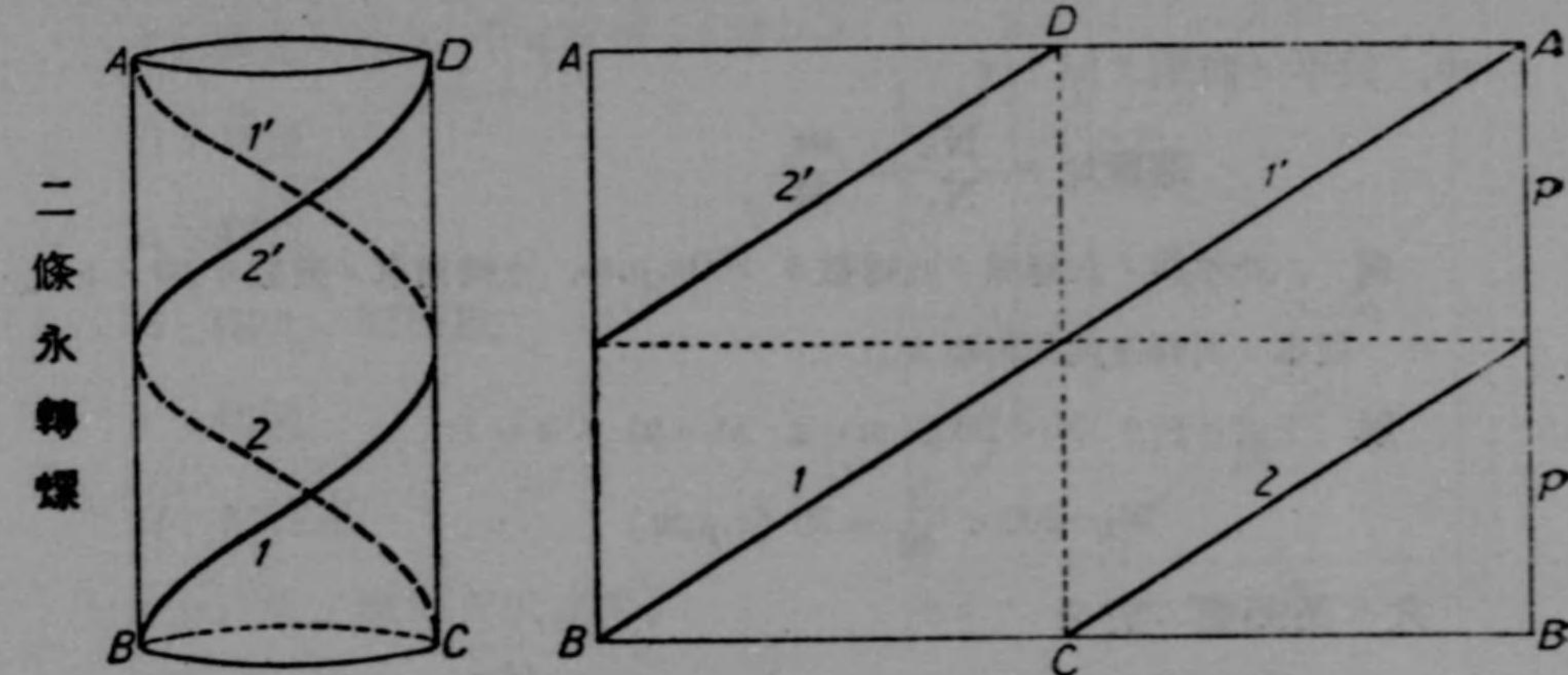
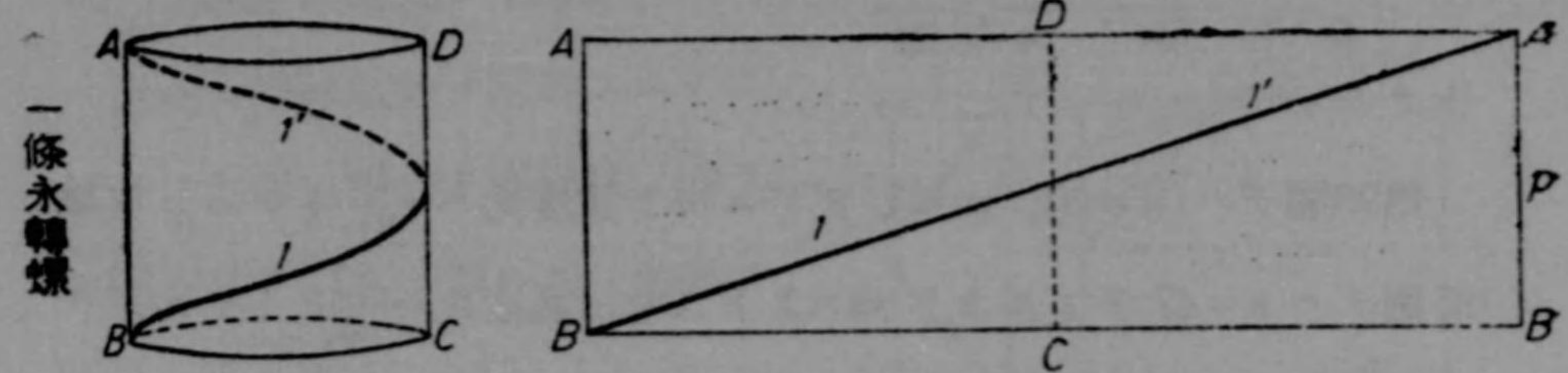


第 97 圖



第 98 圖

展開圖



第 99 圖

$$\frac{1}{n}, \frac{2}{n}, \frac{3}{n}$$

トナル。

第98圖デハ $n=20, m=1$ デアルカラ速度比ハ $\frac{1}{20}$ トナル。又第95圖デハ $n=47$ デアルカラ $m=1$ トスレバ速度比ハ $\frac{1}{47}$ トナル。

法則 永轉螺及ビ永轉齒車ノ同轉數ヲ夫々 N_1, N_2 , 螺旋ノ條數ヲ m , 齒車ノ齒數ヲ M トスレバ

$$\text{速度比} = \frac{N_2}{N_1} = \frac{m}{M}$$

例 二條螺旋ノ永轉螺ノ同轉數ガ $200r.p.m.$, 永轉齒車ノ齒數ガ 40 ノトキハ齒車ノ同轉速度如何程カ。

解 上式ニ於テ $N_1=200, m=2, M=40$ トオケバ

$$N_2 = 200 \times \frac{2}{40} = 10 (r.p.m)$$

次ニ第95圖ニ於テ

永轉螺ノ中心ト「ハンドル」ノ距離ヲ R_1cm ,

永轉螺ノ螺旋ノ數ヲ m

「ハンドル」ニ加ヘル力ヲ Fkg , 同轉數ヲ N_1

齒車ノ軸ノ半徑ヲ R_2cm , 齒數ヲ M

齒車ノ軸ニカカル抵抗ヲ Wkg

トスレバ「ハンドル」ノ同轉ニヨリナス仕事ト, W ヲ引上ゲル仕事

トハ等シイ筈ダカラ

$$2\pi R_1 \times N_1 \times F = 2\pi R_2 \times N_1 \times \frac{m}{M} \times W$$

$$\therefore F = W \times \frac{R_2}{R_1} \times \frac{m}{M}$$

例 $R_1=100cm, R_2=1cm, m=1, M=47$ トスレバ

$$F = W \times \frac{1}{100} \times \frac{1}{47} = \frac{W}{4700}$$

即チ物體ノ重サノ $\frac{1}{4700}$ トイフ極ク小サイ力ヲ加ヘレバ釣合フ事トナル。

26. 腔綫ト彈丸ノ同轉

彈丸ニ同轉運動ヲ附與スルタメ銃身ノ内面ニ彫ツタ螺旋狀ノ溝ヲ腔綫トイフ。右ノ圖ハ其ノ要領ヲ示ス。茲ニ於テ

l : 纏度 (ねちノ「ピッチ」ニ當ル)

D : 口徑

α : 傾角

N : 彈丸ノ同轉數

V : 初速

Ω : 初旋速

トスレバ次ノ關係ガ成立ツ。

$$l = \frac{\pi D}{\tan \alpha} \dots (1)$$

$$N = \frac{V}{l} \dots (2)$$

$$\Omega = 2\pi N = \frac{2V \tan \alpha}{D} \text{らちあん} \dots (3)$$

三八式歩兵銃ニ於テハ

口徑 $D=6.5mm$, 初速 $V=760m/sec$, 傾角 $\alpha=5'50''$

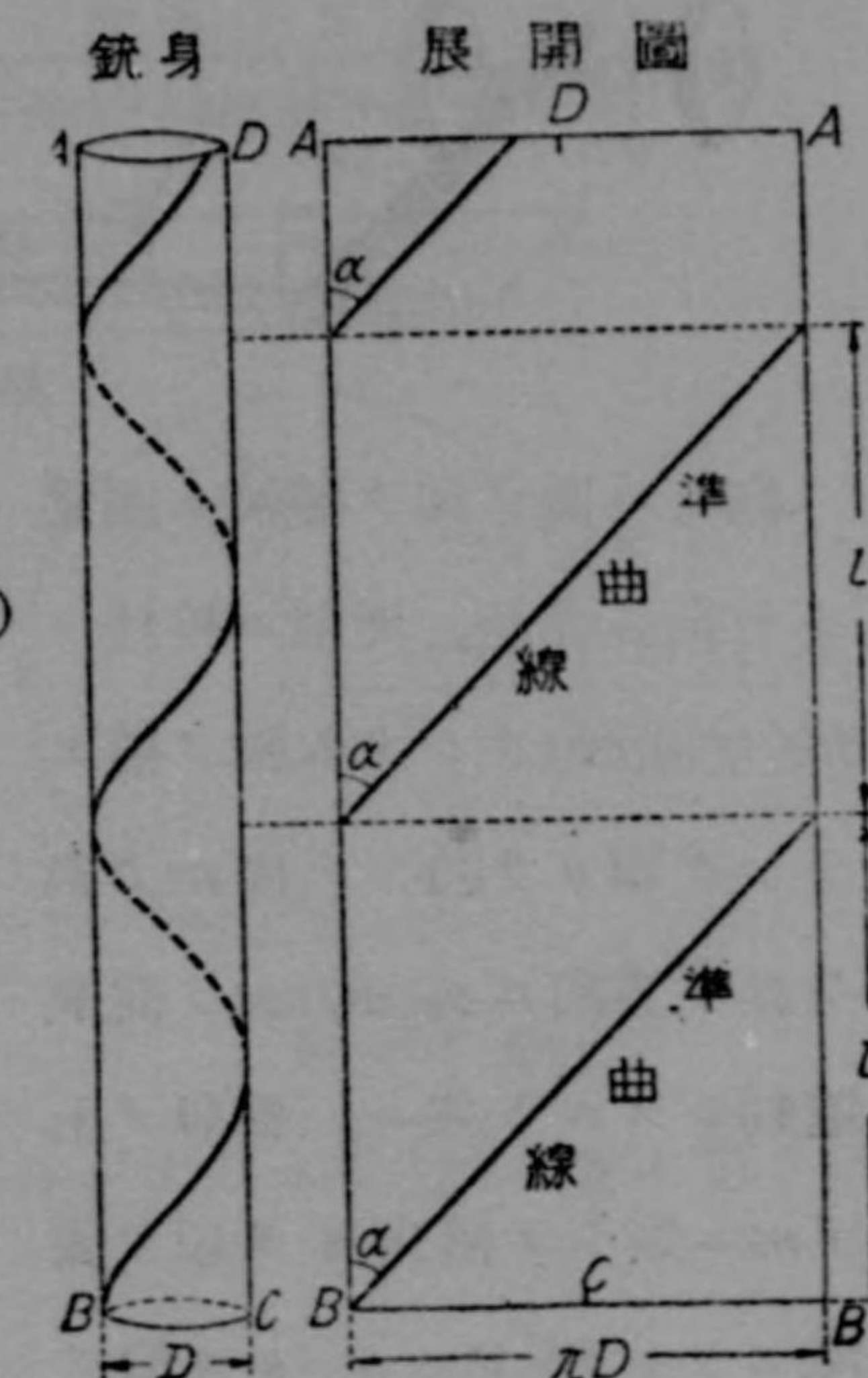
從ツテ 纏度 $l = \frac{3.1416 \times 6.5}{\tan 5'50''} = \frac{3.1416 \times 6.5}{0.1022} = 20cm$

\therefore 同轉數 $N = \frac{76000}{20} = 3800$ (毎秒)

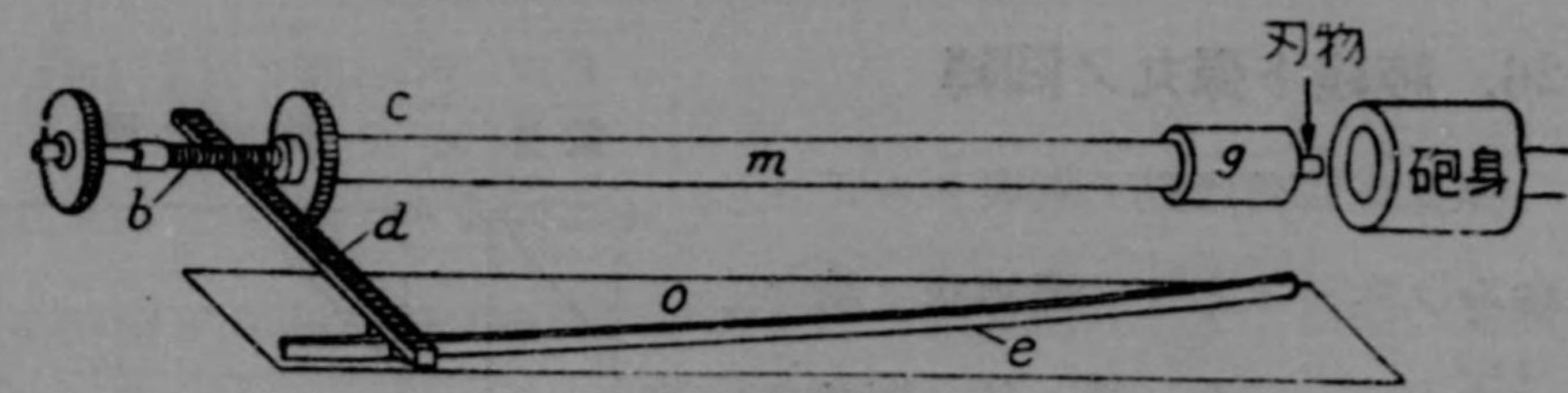
初旋速 $\Omega = 2 \times 3.1416 \times 3800 = 13876$ らちあん

27. 旋綫作業

銃, 砲身内面ノ腔綫ヲ切ル作業ヲ旋綫作業トイヒ, 甚ダ困難ナ作業デアル。其ノ要領ノ一例ヲ次圖ニ示ス。

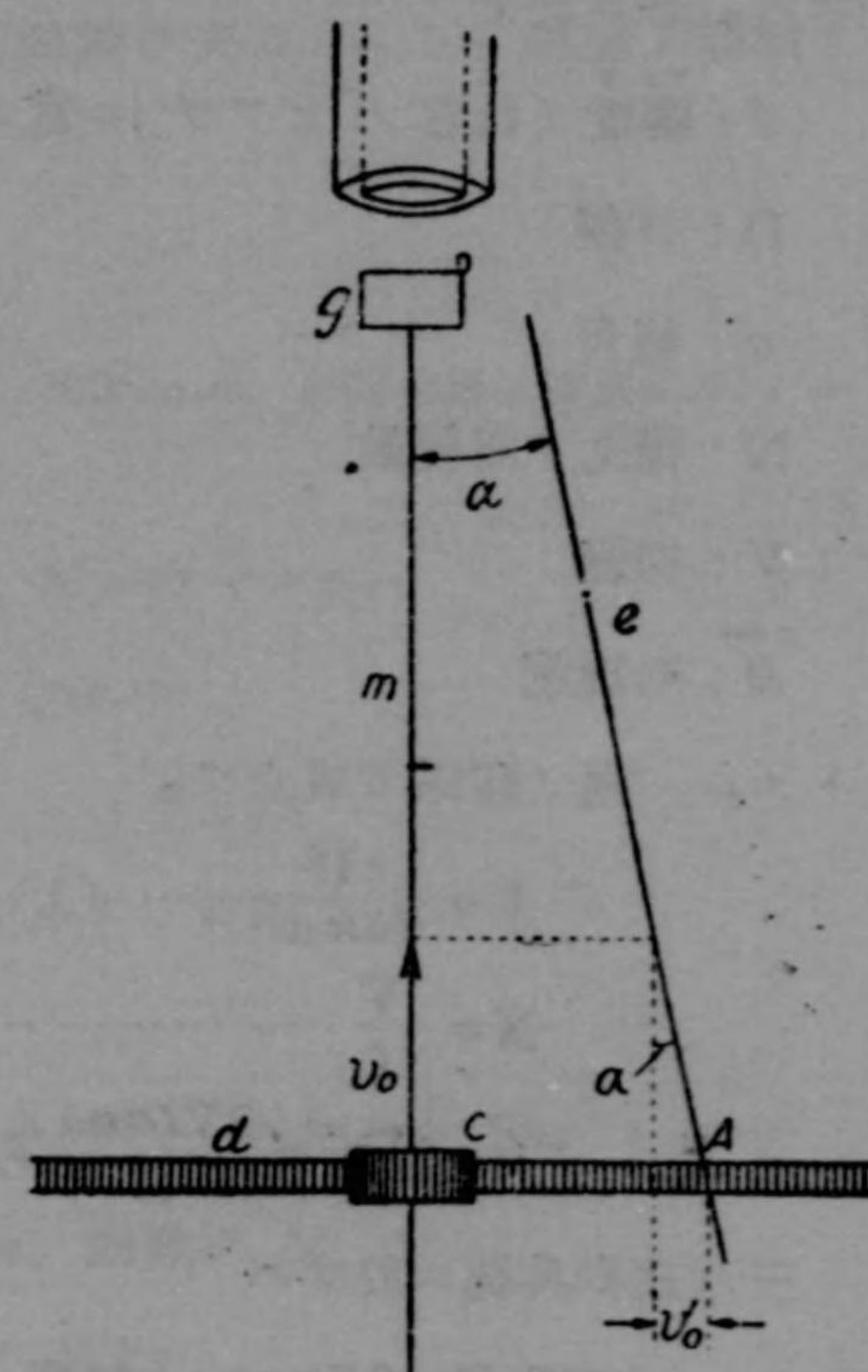


第 100 圖



第 101 圖

砲身ハ圖ノ如ク機械ニ固定シテ据エラレ、周圍ニ腔綫ノ形(半圓形)ヲシタ双物ノ植エラレタ頭gヲ持ツタ棒mガ砲身軸ノ方向ニ $v_0 \text{ cm/sec}$ ノ前進運動ヲスルト共ニ、板Oノ上デmニ對シテ傾角 α ヲ以テ固定セラレタ「レール」eニ沿ツテdガ滑レバ齒車ノ嚙合ハセデcガ周リ從ツテmハ回轉運動ヲモ併セ行ヒ、之ニヨツテgノ双物ハ砲身ニ傾角 α ノ腔綫ヲ彫ル。

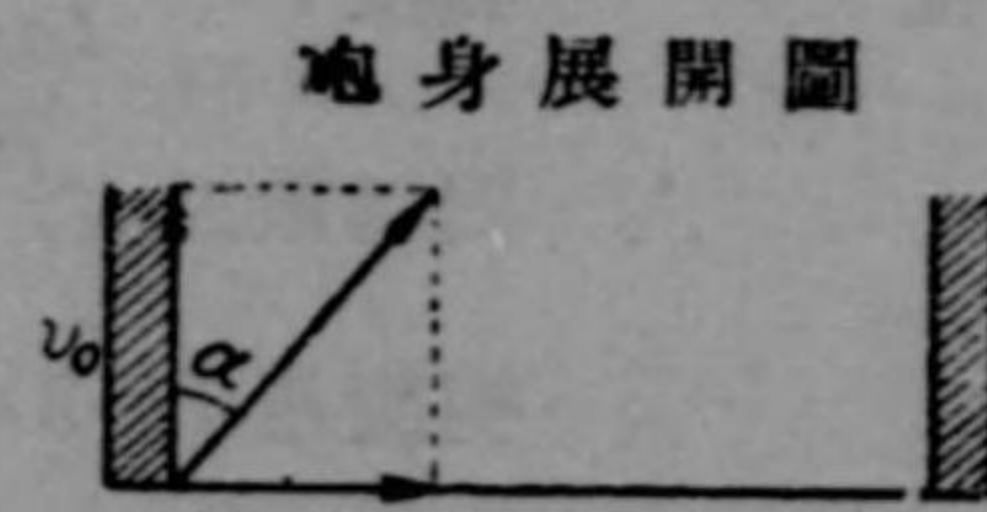


第 102 圖 (1)

何トナレバ第102圖ヨリ齒車cガ一秒間ニ $v_0 \text{ cm}$ 進ム間ニA點ハ左へ

$$v_0' = v_0 \tan \alpha \text{ (cm)}$$

丈ケ進ム。從ツテ齒車cノ周ノ線速度ハ $v_0 \tan \alpha$ トナリ、cノ半径ト砲身ノ



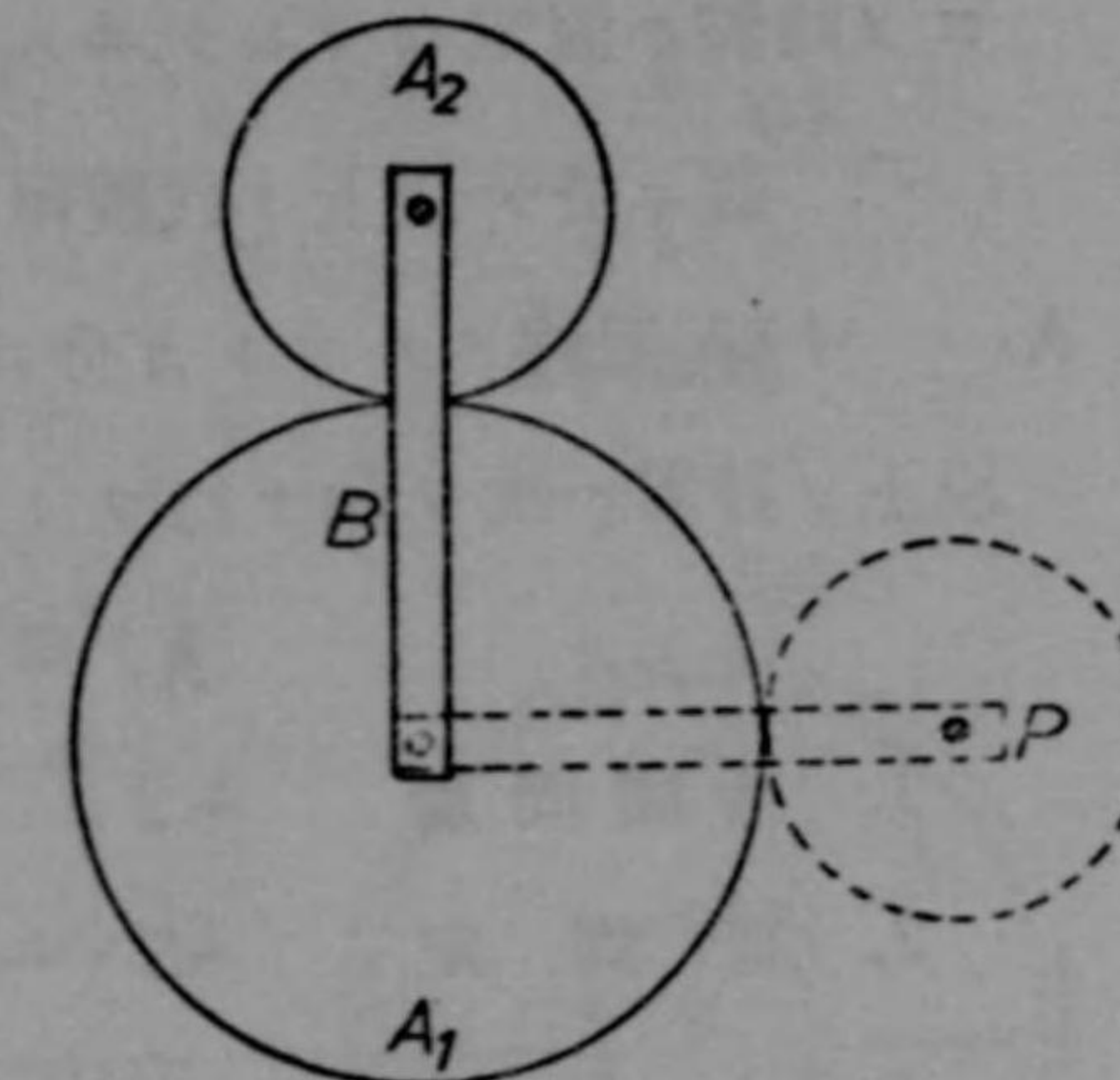
第 102 圖 (2)

内徑トガ相等シケレバ(2)圖ヨリ明カニ腔綫ノ傾角ハ α トナル。

28. 差動齒車裝置

第 103 圖ニ於テ A_1, A_2 ヲ齒車トシBヲ兩齒車軸ノ支持腕トスル。コノ裝置ニ於テ

- (1) A_1 ヲ固定シオイテBヲ回轉スル時 A_2 ノ回轉ノ情況
 - (2) A_1 及ビBヲ回轉サセル時ノ A_2 ノ回轉ノ狀況
- ニツイテ研究スル。



第 103 圖

一般ニ齒車ガ自轉シツツ他ノ齒車ノ周リヲ公轉スル裝置ヲ差動齒車裝置トイフ。

上ノ(1)ノ場合ハ(2)ノ特殊ナ場合デアルカラ(2)ノ解キ方ヲ研究スル。

之ニハ A_2 ノ回轉ハ、腕Bト齒車 A_1 トノ回轉ヨリ受ケル二ツノ影響ガ合成サレテ生ズルモノト考ヘル。

今 A_1 ノ齒數ヲ80、 A_2 ノ齒數ヲ40トシ腕Bガ時計ノ針ト同方向(+)=3回轉シ A_1 ガ反對方向(-)=2回轉スル時 A_2 ノ回轉方向ト回轉數ヲ求メルニハ

(イ) 第一ニ A_1, A_2, B ヲ固定シテ一體トシ、之ニ腕ノ回轉數ヲ與ヘレバ A_1, A_2 ハ A_1 ノ軸ヲ中心トシテ共ニ+3回轉スル。

(ロ) 次ニ腕ヲ其ノ位置ニ固定シテオイテ A_1 ヲ合成回轉數ガ-2回轉ニナル迄回轉スル。即チ A_1 ニハ最初腕ト共ニ+3回轉ガ與ヘラレテキルカラ-5回轉ヲ與ヘレバ合成回轉ハ-2回轉トナル。

從ツテ A_2 ハ

$$(-5) \times \left(-\frac{80}{40}\right) = 10$$

即ち +10 回轉スル。

コノ時腕ハ固定セラレテキルカラ回轉數ハ零デアル。

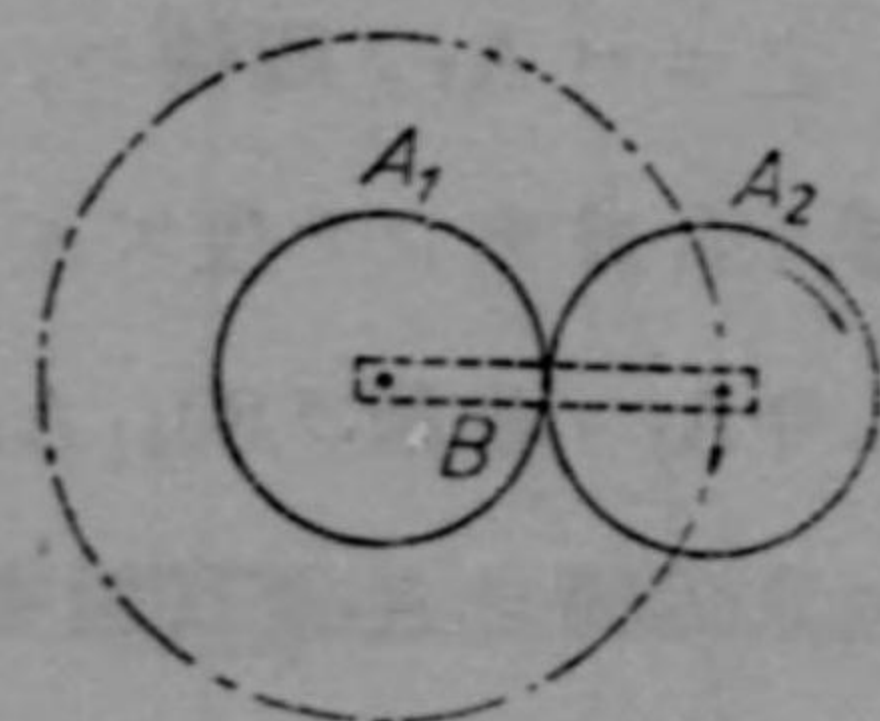
(ハ) 茲ニ於テ以上ノ代數和ヲ取レバ各部ノ合成回轉數ガ得ラレ
A₂ハ +13 回轉スルコトガ分ル。

以上ノ計算ハ次ノ如ク行フノガ便利デアル。

	A ₁	A ₂	B
1. 全體固着	+3	+3	+3
2. 腕 固定	-5	$(-5) \times \left(-\frac{80}{40}\right) = +10$	0 (+)
3. 合成回轉數	-2	+13	+3

問題 1. 一錢銅貨ノ問題

一個ノ一錢銅貨 A₂ヲ他ノ一錢銅貨 A₁ノ周リニ滑ルコトナク回轉
シ乍ラ一周サセルトキ、A₂ハ何回轉スル
カ。



第 104 圖

解 A₁, A₂ノ中心ヲ結ブ腕 Bヲ假定スルト
上ノ問題ト同様ニナル。

今 A₁ヲ固定シテ腕 Bヲ +1 回轉サセレバヨ
イ。

	A ₁	A ₂	B
1. 全體固着	+1	+1	+1
2. 腕 固定	-1	$(-1)(-1) = +1$	0 (+)
3. 合成回轉數	0	+2	+1

即チ A₂ハ 2 回自轉スル。

答 2 回轉

問題 2. 上ノ問題デ A₂ノ半径ガ A₁ノ半径ノ $\frac{1}{n}$ ノ時ハ如何ニナ
ルカ。

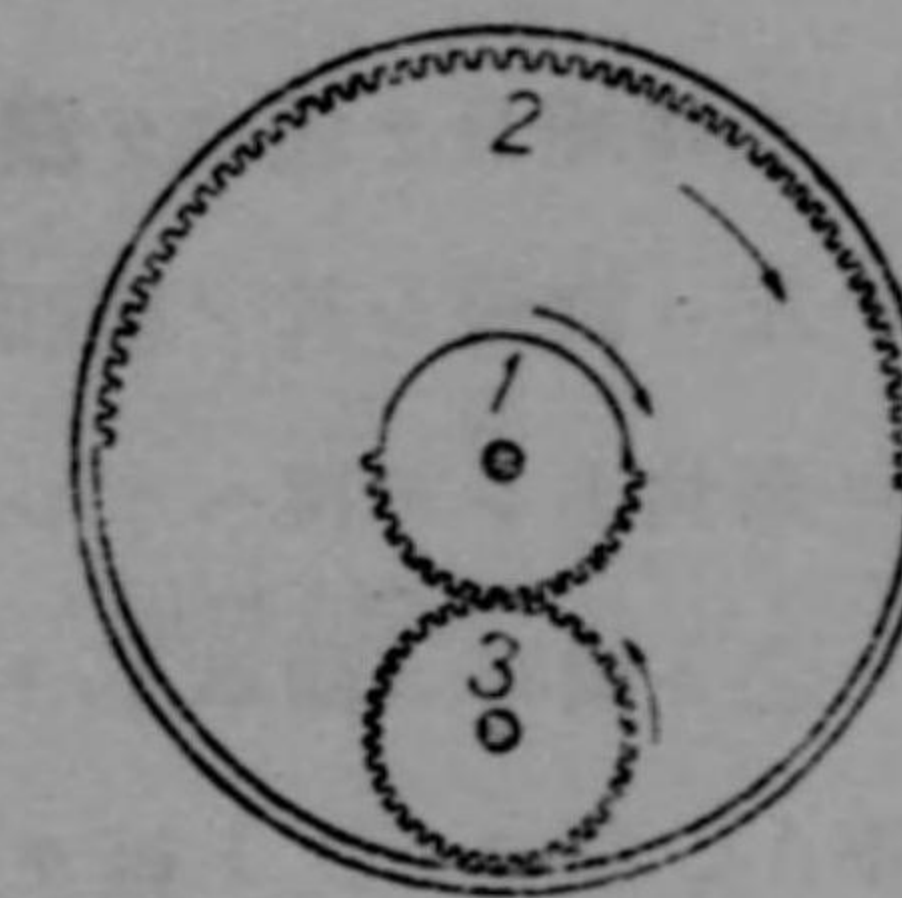
	A ₁	A ₂	B
1. 全體固着	+1	+1	+1
2. 腕 固定	-1	$(-1)(-n) = +n$	0 (+)
3. 合成回轉數	0	n+1	+1

答 n+1 回轉

問題 3. 齒車應用ノ早戻リ運動

第 105 圖ニ於テ缺齒車 1, 2ハ同ジ軸ヲ共
有シ又同時ニ回轉スル。

今 1, 2ガ動車トナツテ右回轉ヲスレバ 3
ハ 1ト嚙合フ間ハ左回轉スルガ、之ガ外レ
ルヤ否ヤ 2ト嚙合フニ至リ右回轉スル。而
モ 3ノ右回轉ハ左回轉ヨリ速イ。コノ速度
比ヲ計算スル。



第 105 圖

今 1, 2, 3ノ角速度ヲ夫々 $\omega_1, \omega_2, \omega_3$ 及ビ 2ト3ガ組ムトキノ 3ノ
角速度ヲ ω_3' トシ 2, 3ノ半径ヲ R₂, R₃トスレバ

(イ) 1, 3ガ組ム間ハ $\omega_3 : \omega_1 = -1$ (1)

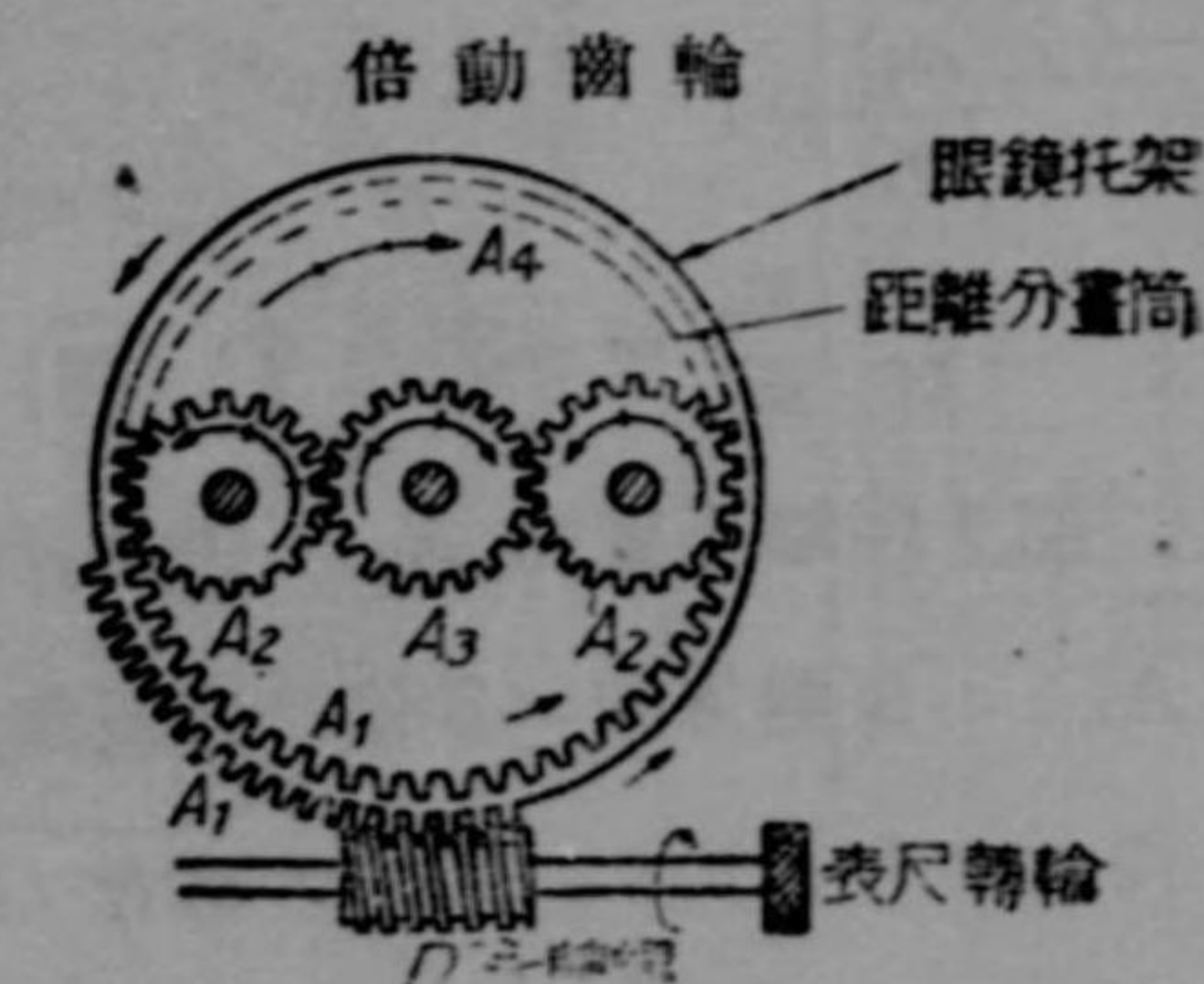
(ロ) 2, 3ガ組ム間ハ $\omega_3' : \omega_2 = \omega_3' : \omega_1$ ($\because \omega_1 = \omega_2$)
= R₂ : R₃ = 3 : 1(2)

(1), (2)ヨリ $\omega_3' : \omega_3 = -3$

即チ 3ノ右回轉速度ハ左回轉速
度ノ 3 倍デ回轉方向ハ反對デア
ル之ガ早戻リ運動ヲナス理デア
ル。

問題 4. 照準眼鏡ノ倍動齒輪ノ
原理

眼鏡デ目標ヲ照準シツツ砲身ニ



第 105 圖

與ヘル微小ナ角度ノ變化ヲ擴大シテ分畫ヲ見易クスルタメ鼓胴表尺

デハ倍動齒輪ガ用ヒラレテキル。

第108圖ハ鼓胴表尺ノ側面圖デ、倍動齒輪ノ要領ハ第106圖ノ如クデアル。第106圖ニ於テ表尺轉輪ヲ例ヘバ右ニ旋回スレバ永轉螺Dヲ通ジテ眼鏡托架A₁ハ左ニ旋回シ其ノ旋回量ハ砲身ニ高角トシテ與ヘラレル。

之ト同時ニ齒車A₂ヲ介シテ齒車A₃、從ツテ之ト軸ヲ同ジクスル距離分畫筒A₄ハ眼鏡托架トハ反對方向ニ旋回スル。

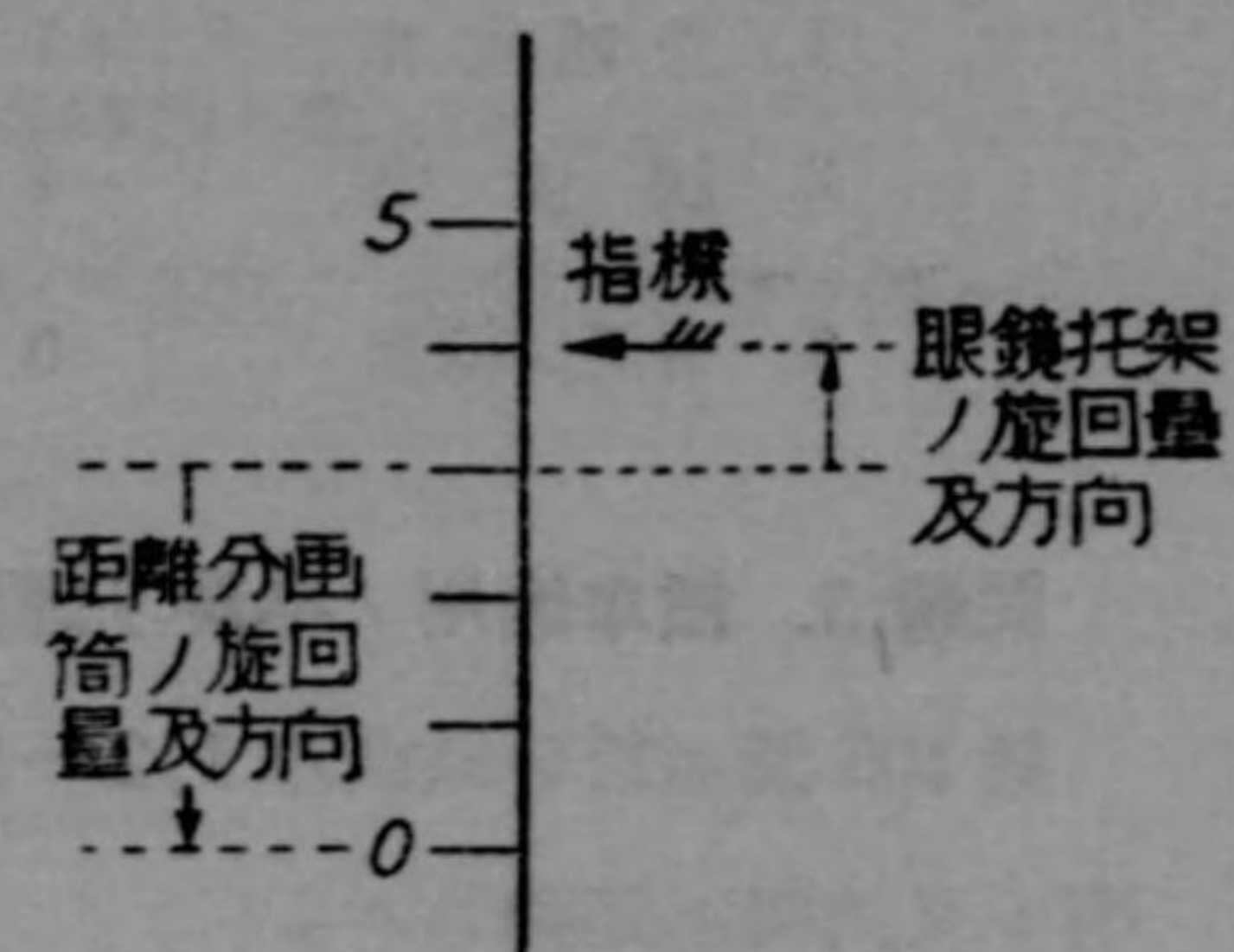
齒車A₂、A₃ハ齒車A₄ノ半径ノ三分ノ一デアルカラ速度比ハ次ノ如クナル。

$$\frac{\omega_1}{\omega_2} = \frac{1}{3}, \quad \frac{\omega_2}{\omega_3} = -1,$$

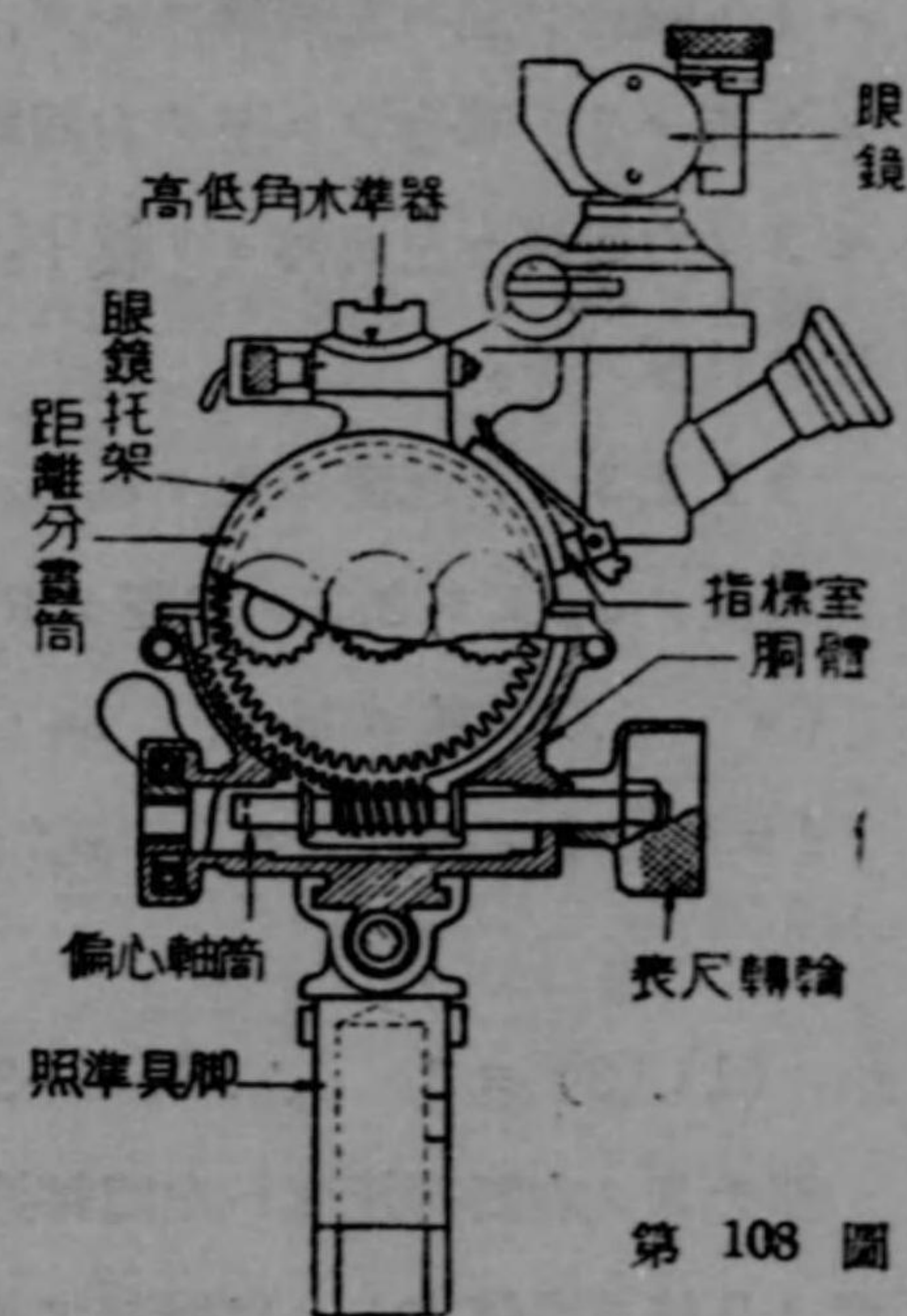
$$\frac{\omega_3}{\omega_4} = 1$$

$$\therefore \frac{\omega_4}{\omega_1} = -3$$

即チ距離分畫筒A₄ハ眼鏡托架A₁トハ反對方向ニ3倍ノ旋回量ヲ得ルコトトナル。從ツテ兩者ノ關係速度ハ1:4トナル。指標ハ眼



第107圖 鼓胴表尺要領圖



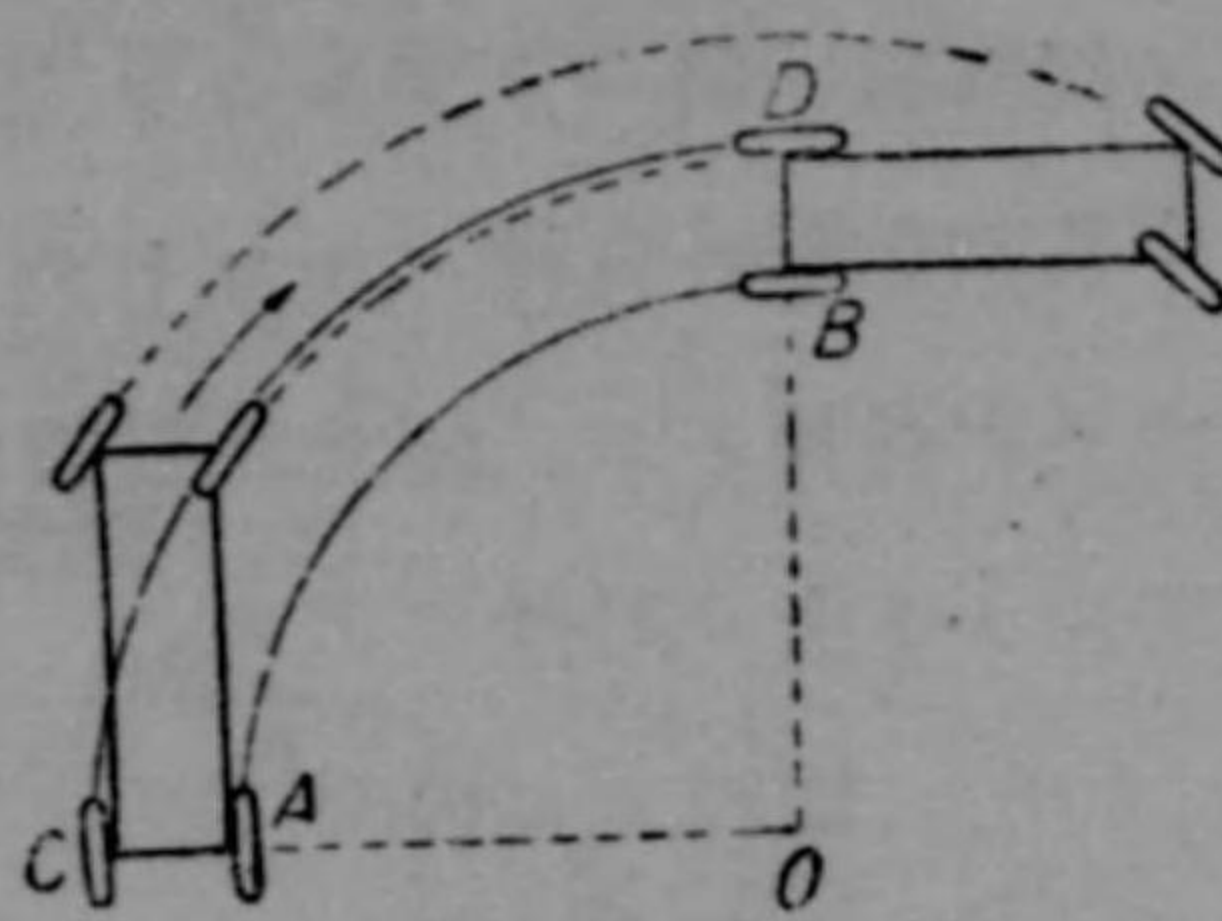
第108圖

- 備考 1. 齒車A₂ト距離分畫筒トハ一體トナリテ旋回ス
 2. 齒車A₂ハ胴體ニ軸ヲ有シテ其ノ位置ヲ移動スルコトナシ(第106圖)

鏡托架ニ附屬シテキルカラ距離分畫筒ノ目盛ハ四倍ニ擴大シテ刻ムコトガ出來ル。(第107圖)コノ故ニA₄ヲ倍動齒輪トイフ。

問題5. 自動車ノ差動齒車裝置

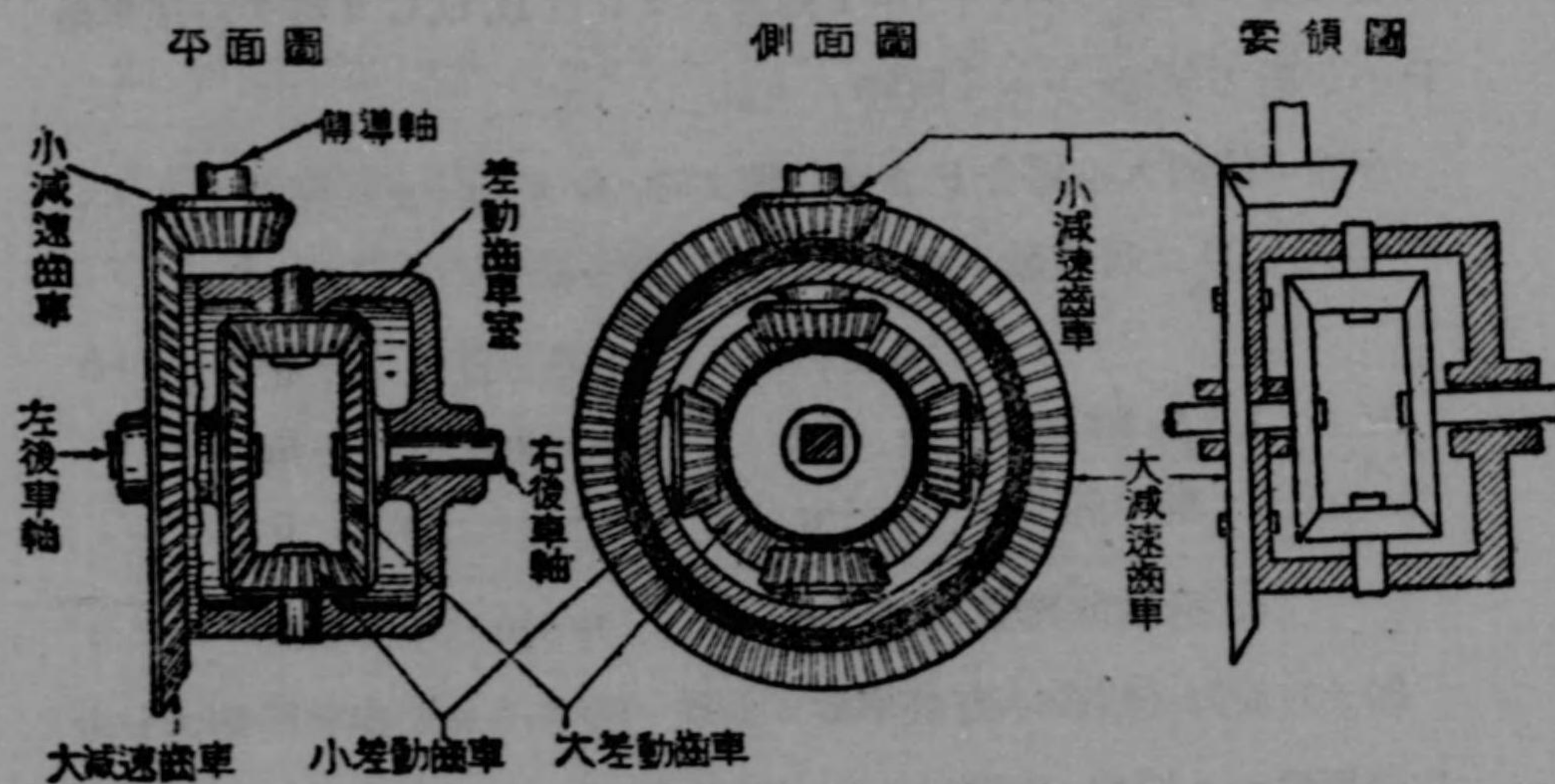
自動車ガ方向ヲ變換スルトキ後車輪ガ滑ルコトナク圓滑ニ同轉走行スルタメニハ、内側ノ車輪ハ小サイ半径ノ曲線ヲ、外側ノ車輪ハ大キナ半径ノ曲線ヲ走ルコト



第109圖

トナルカラ内側車輪ノ同轉速度ハ外側車輪ノ同轉速度ヨリ小サクナケレバナラス。(第109圖參照)

從ツテ起動輪デアル後車輪ヲ同一ノ軸ニ取付ケタノデハ兩車輪ハコノ様ナ異ナツタ速度ノ同轉ヲスルコトガ出來ナイカラ別々ノ軸ニ取付ケル必要ガ起ル。コレガタメ自動車デハ傳導軸ト後車軸トノ間ニ適當ナ機構即チ差動機(第110圖)ヲ介在サセル。

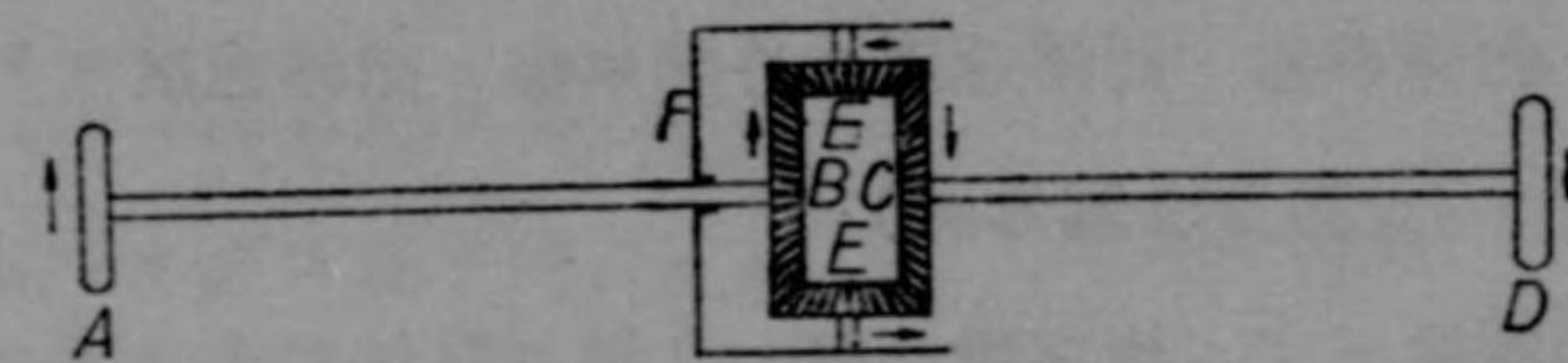


第110圖

次ニ差動機ノ作用ニツイテ説明スル。

(イ) 直進ノ場合 自動車ガ直進スルトキハ左、右二ツノ後車輪ノ回轉數ハ同一デアアルカラ大差動齒車モ亦同一回轉ヲスル。從ツテ小差動齒車ハ自轉スルコトナク差動機室ト後車軸ノ兩半部ハ一體トナツテ回轉スル。即チ差動齒車ハ何等作用シナイデ後車軸ガ一本デアアルノト全ク同様デアアル。

(ロ) 旋回スル場合 コノトキハ左、右兩後車輪ノ回轉數ハ等シクナイ。次ノ圖ハ差動機及ビ兩後車輪ノ要領ノミヲ示ス。



第 111 圖

A, B 及ビ C, D ハ一體トナツテ回轉シ差動機室 F ガ前述(第28節)ノ支持腕ノ役目ヲスル。今機關ヲ停止シテ自動車ノ兩後車輪ヲ上げ左後車輪ヲ前進方向(+)=1回轉サセレバ B, E, C ヲ經テ右後車輪 D ハ反對方向(-)=1回轉スル。

今右ニ旋回スル場合 F ガ m 回轉ノ時, A ガ $m+n$ 回轉シタトスレバ C 及ビ D ノ回轉數ハ次ノ計算カラ $m-n$ デアルコトガ分ル。

	A 及ビ B	C 及ビ D	F
1. 全體固着	$+m$	$+m$	$+m$
2. 腕 固 定	$+n$	$(+n)(-1) = -n$	0 (+)
3. 合成回轉數	$m+n$	$m-n$	m

即チ右旋回ノ場合ニ左後車輪ガ直進ノ時ヨリ n 回多ク回轉スレバ右後車輪ハ n 回少ク回轉スルコトヲ知ル。

例 機關カラ F = 傳ヘラレル回轉數ガ毎秒3回ノ時或ル曲半徑ニ應ジ

テ内方輪ガ毎秒 2.8, 2.5, 2.2 回轉スレバソレニ應ジテ外方輪ハ毎秒 3.2, 3.5, 3.8 回轉スル。茲ニ

$$2.8 = 3 - 0.2, \quad 3.2 = 3 + 0.2; \quad 2.5 = 3 - 0.5, \quad 3.5 = 3 + 0.5;$$

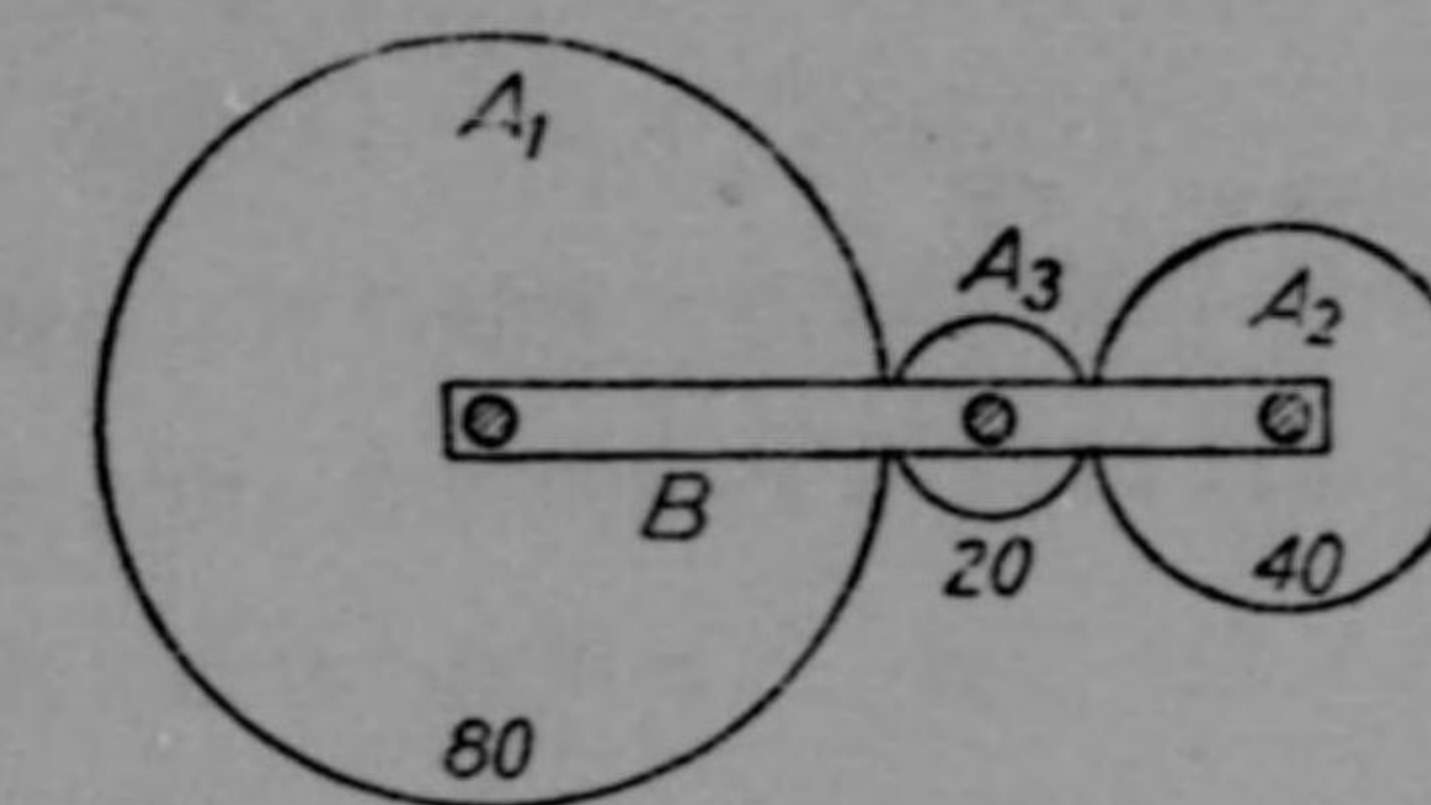
$$2.2 = 3 - 0.8, \quad 3.8 = 3 + 0.8$$

デ $m=3$ ノ時 $n=0.2, 0.5, 0.8$ ノ場合デアアル。

問題 6. 中間車ヲ有スル差動齒車裝置

(イ) 中間車ガ單車ノトキ

A_1, A_2 ノ間ニ中間車 A_3 ガ入ツテキル場合, 今 A_1, A_2, A_3 ノ齒數ヲ夫々 80, 40, 20 トシ, A_1 ガ -2 回轉, 腕 B ガ A_1 ノ周ハリニ +3 回轉スレバ A_2, A_3



第 112 圖

ノ回轉數ハ前ト同様ニ計算セラレレル。

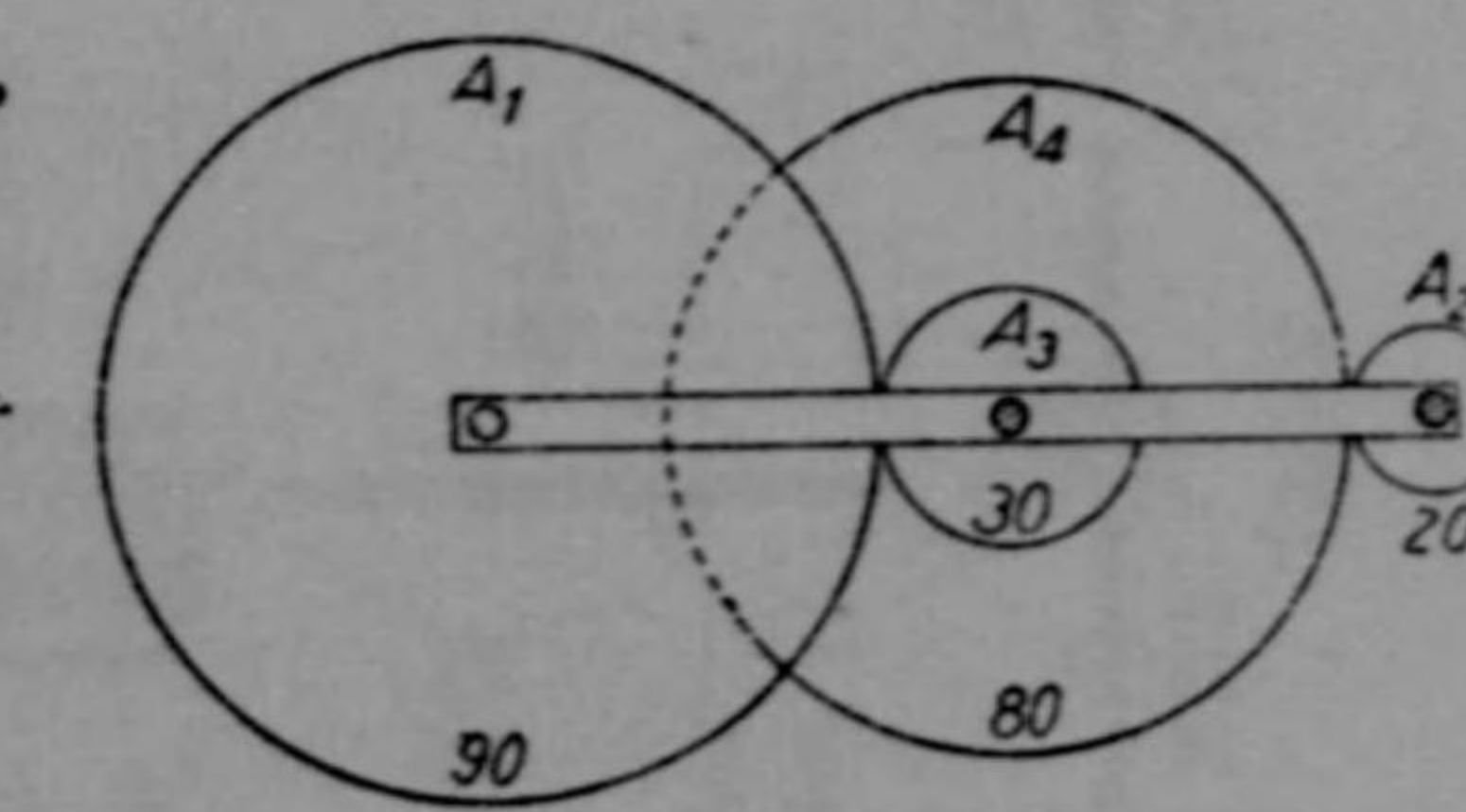
	A_1	A_3	A_2	B
1. 全體固着	+3	+3	+3	+3
2. 腕 固 定	-5	$(-5) \left(-\frac{80}{20} \right) = +20$	$20 \times \left(-\frac{20}{40} \right) = -10$	0 (+)
3. 合成回轉數	-2	+23	-7	+3

即チ A_3 ハ正方向ニ 23 回轉,

A_2 ハ負方向ニ 7 回轉スル。

(ロ) 中間車ガ複車ノトキ

右ノ圖デ A_3, A_4 ハ軸ヲ同ジウスル複車デ A_1 ハ A_3 ト, A_4 ハ A_2 ト聯合フ。 $A_1, A_3,$



第 113 圖

A_4, A_2 ノ齒數ヲ夫々 90, 30, 80, 20 トシ A_1 ガ時計ノ針ト反對方向(-)

ニ 8 回轉シ, 腕 B ガ同方向ニ 5 回轉スルトキ A_3, A_4, A_2 ノ回轉方向

及回轉數ヲ求メルニハ次ノ如クスレバヨイ。

	A ₁	A ₃	A ₄	A ₂	B
1. 全體固着	-5	-5	-5	-5	-5
2. 腕固定	-3 (-3)	$-\frac{90}{30} = +9$	$+9, +9, (+9)$	$-\frac{80}{20} = -36$	0 (+)
3. 合成回轉數	-8	+4	+4	-41	-5

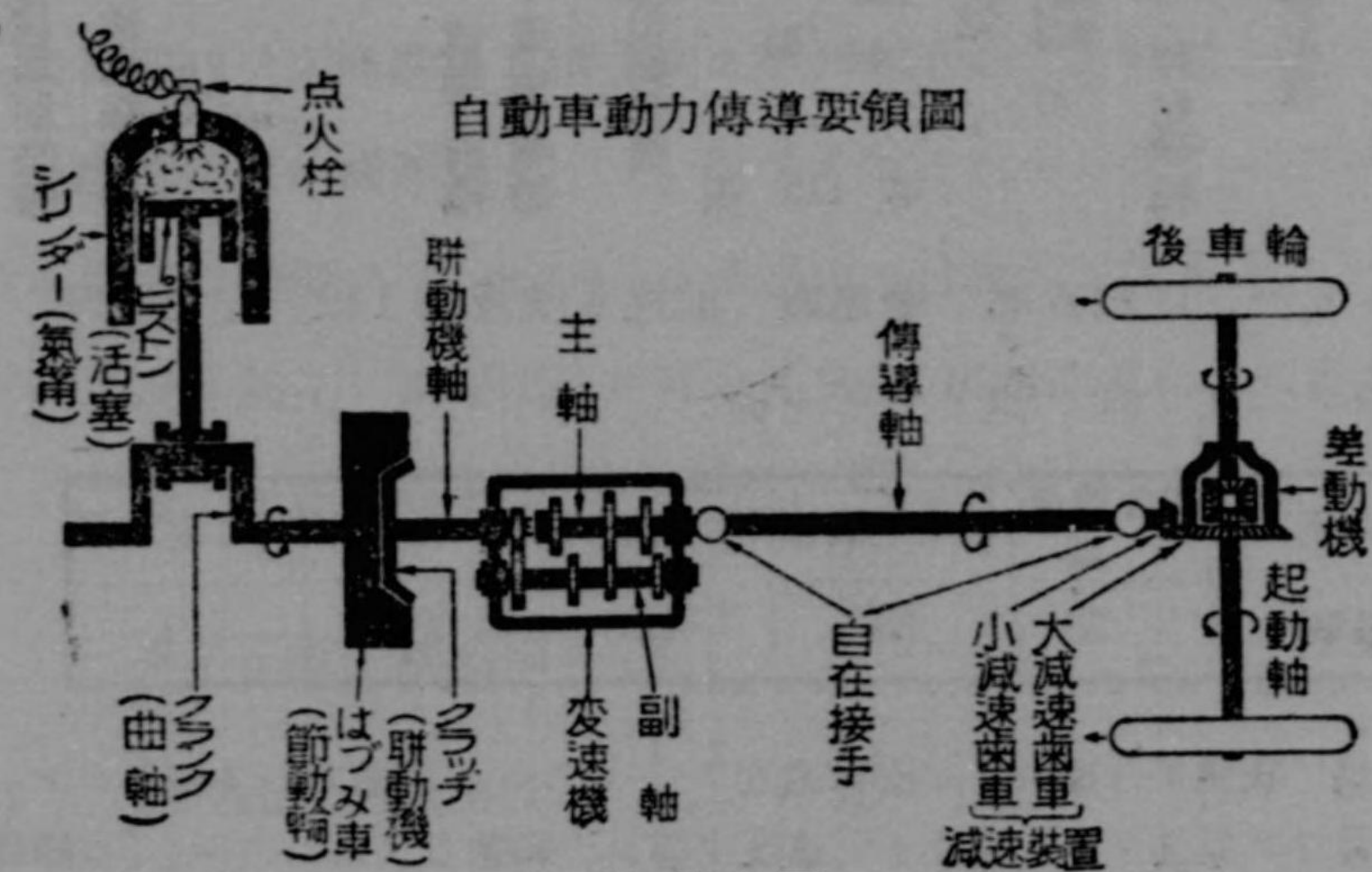
即チ A₃, A₄ハ正方向ニ回轉, A₂ハ負方向ニ41回轉スル。

第五章 自動車ノ傳導裝置

29. 傳導裝置

第114圖ハ自動車ノ動力傳導ノ要領圖デアル。機關部ニ於ケル「ピストン」ノ上下運動ハ「クランク」(曲軸)ニヨリ回轉運動ニ變ジ、此ノ回轉運動ハはづみ車ニヨリ調整セラレテ後「クラッチ」ノ接續ニヨリ聯動機軸ニ傳達セラレル。次イデ變速機ニ於テ三種若クハ四種ノ速度ニ變速セラレテ主軸、傳導軸ニ、次イデ減速裝置ニヨリ減速セラレ且回轉方向ヲ直角ニ變ジテ後差動機ヲ經テ起動軸、後車輪ヲ回轉サセテ前進又ハ後退スル。但シ差動機室内ノ四個ノ齒車ハ第28節問題5ニ説明シタ如ク直進ノ場合ハ作用セズ、旋回ノ場合ニ於テノミ内側ノ車輪ノ減速ヲ外側ノ車輪ニ傳ヘテ之ヲ増速シ、滑ルコトナク圓滑ニ旋回スル。

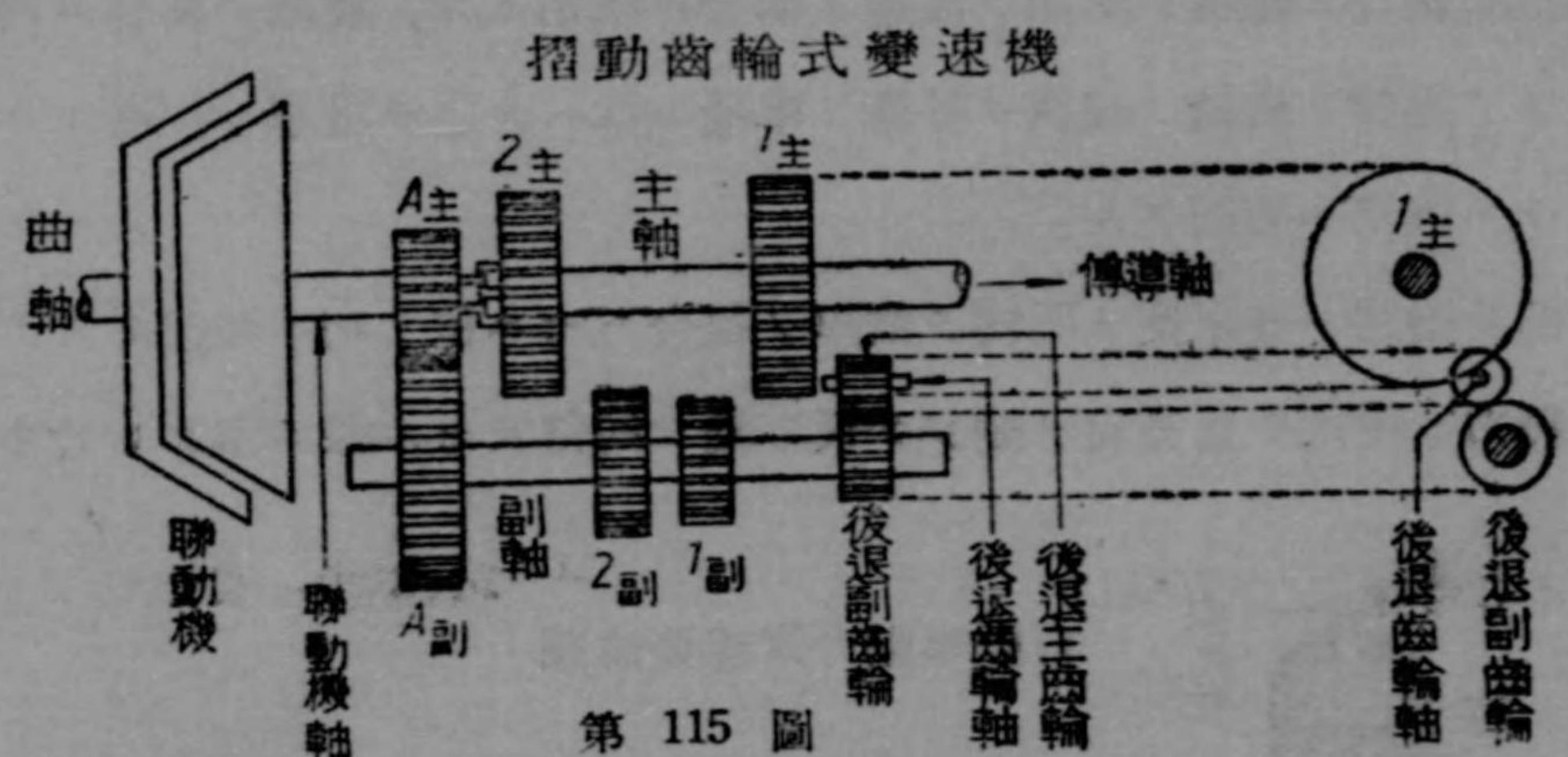
即チ機關ノ高速度ノ回轉ヲ齒車ノ組合ハセニ依リ巧ニ減速從ツテ回轉力ヲ増大シ且方向ヲ變ジテ後車輪ヲ回轉サセル様ニ作ラレテキル。



第 114 圖

30. 變速機, 減速比及ビ減速裝置

(イ) 自動車ノ速度ハ道路ノ狀況特ニ坂路ノ傾斜ト障害物ニ應ジ
 驅動力ト走行速度ノ變化ノ要求ニ應ズルタメ機關ト傳動軸トノ間ニ
 通常前進3段乃至4段, 後退1段ノ變速機ヲ設ケル。其ノ構造ニハ種
 種アルガ第115圖ハ摺動齒輪式變速機デ機關ノ回轉ハ「クラッチ」ノ
 接續ニヨリ聯動機軸ニ從ツテ其ノ端ニアル齒輪A主ヲ回轉サセル。
 別ニ副軸ノ齒輪A副ガアツテA主ト常ニ啮合ヒ減速スル。而シテ前
 進3段ノ第一, 第二, 第三速度ハ夫々1主ヲ1副ニ, 2主ヲ2副ニ, 主軸
 ヲ聯動機軸ニ直接連結シテ得ラレル。後退速度ハ1主ヲ後退主齒輪
 ニ啮合ハシ主, 副軸ノ回轉方向ヲ同一ニシテ得ラレル。



第115圖

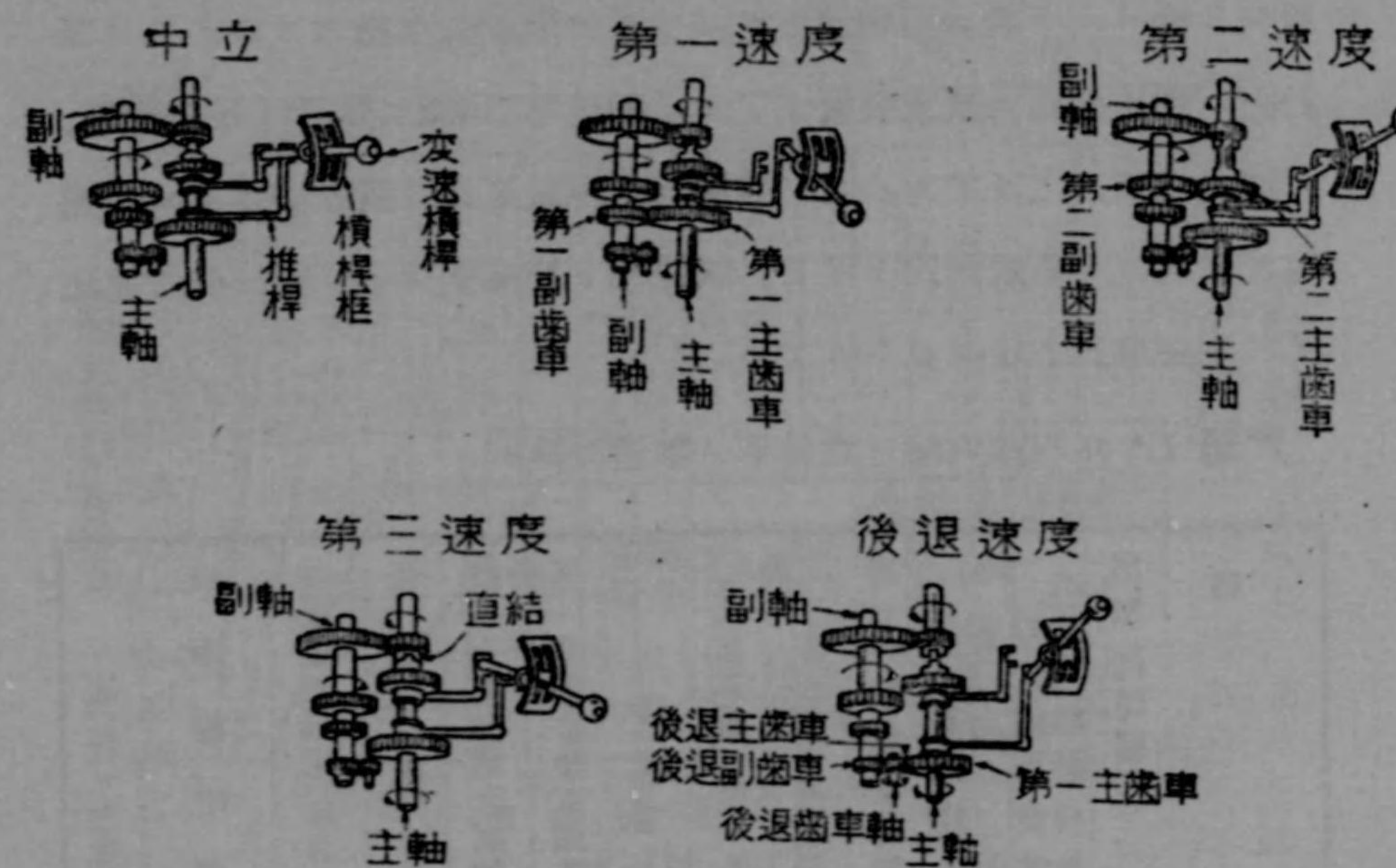
次ニ九四式自動貨車ノ變速機(前進4段後退1段)ノ各齒車ノ齒
 數ハ次ノ二ツノ表ノ通りデアル。

名稱	常時啮合齒車		第一主齒車	第一副齒車	第二主齒車	第二副齒車
	主	副				
齒數	17	33	33	12	31	19

* 他ノ條件ガ一樣ナラバ走行速度ヲ $\frac{1}{2}$ ニスレバ驅動力ハ2倍トナル。
 從ツテ坂道ヲ登ル場合ニハ速度ヲ落シテ驅動力ヲ大ニスル。(本節問
 題3參照)

名稱	第三主齒車	第三副齒車	後退主齒車	後退副齒車
齒數	24	25	22 38	12 18

變速機操縱裝置要領



第116圖

一般ニ機關ノ回轉數ト各種速度ニ於ケル主軸ノ回轉數トノ比ヲ減
 (又ハ變)速比或ハ齒車比トイフ。從ツテ減速比ガ6ナラバ主軸ノ回
 轉數ハ機關回轉數ノ $\frac{1}{6}$ デアル。(減速比ハ速度比ノ逆數トナル。)

前掲ノ表ニ基イテ減速比ヲ計算シヨウ。(第24節末尾公式參照)

第一速度ノ減速比ハ $\frac{33}{17} \times \frac{38}{12} = 6.15$

第二速度ノ減速比ハ $\frac{33}{17} \times \frac{31}{19} = 3.17$

第三速度ノ減速比ハ $\frac{33}{17} \times \frac{24}{26} = 1.79$

第四速度即チ直結ノ場合ハ聯動機ト主軸トハ同一ノ回轉ヲスルカ

ラ減速比ハ1 デアル。

$$\text{後退速度ノ減速比ハ } \frac{33}{17} \times \frac{22}{12} \times \frac{33}{18} = 7.51$$

(ロ) 減速齒車 傳導軸ノ回轉ヲ後車軸ニ傳ヘルトキ回轉方向ヲ直角ニ換ヘルト共ニ回轉速度ヲ減少シテ驅動力ヲ増大スルタメニ差動機ニ到ル直前ニ減速裝置ガアル。即チ第114圖ニ於テ小減速齒車、大減速齒車ガ之デアル。コノ裝置ニヨル減速比ヲ變速機ニヨル減速比ト區別シテ終減速比トイヒ、減速比ト終減速比トノ積ヲ全減速比又ハ全齒車比トイフコトガアル。

問題 1. 九四式六輪自動貨車ノ車速計算例

種別	機關回轉數(毎分)	變速機			減速裝置		差動機		全減速比	後車輪回轉數(毎分)	後車輪中徑	時速(杆・概數)
		常時齒聯動機軸數	聯合齒副車齒數	主軸齒車齒數	副軸齒車齒數	減(變)速比	永轉齒車式	小差動齒車齒數				
第一速度	例ハ1800同轉スルモノトス	17	33	33	12	6.15	減速比	12	18	51.2	35.1	5
第二速度				31	19	3.17				26.4	68.1	10
第三速度				24	26	1.79				14.0	128.5	20
第四速度						1.00				8.3	216.7	33
後退速度			22	12					62.0	23.5	4	
			33	18								

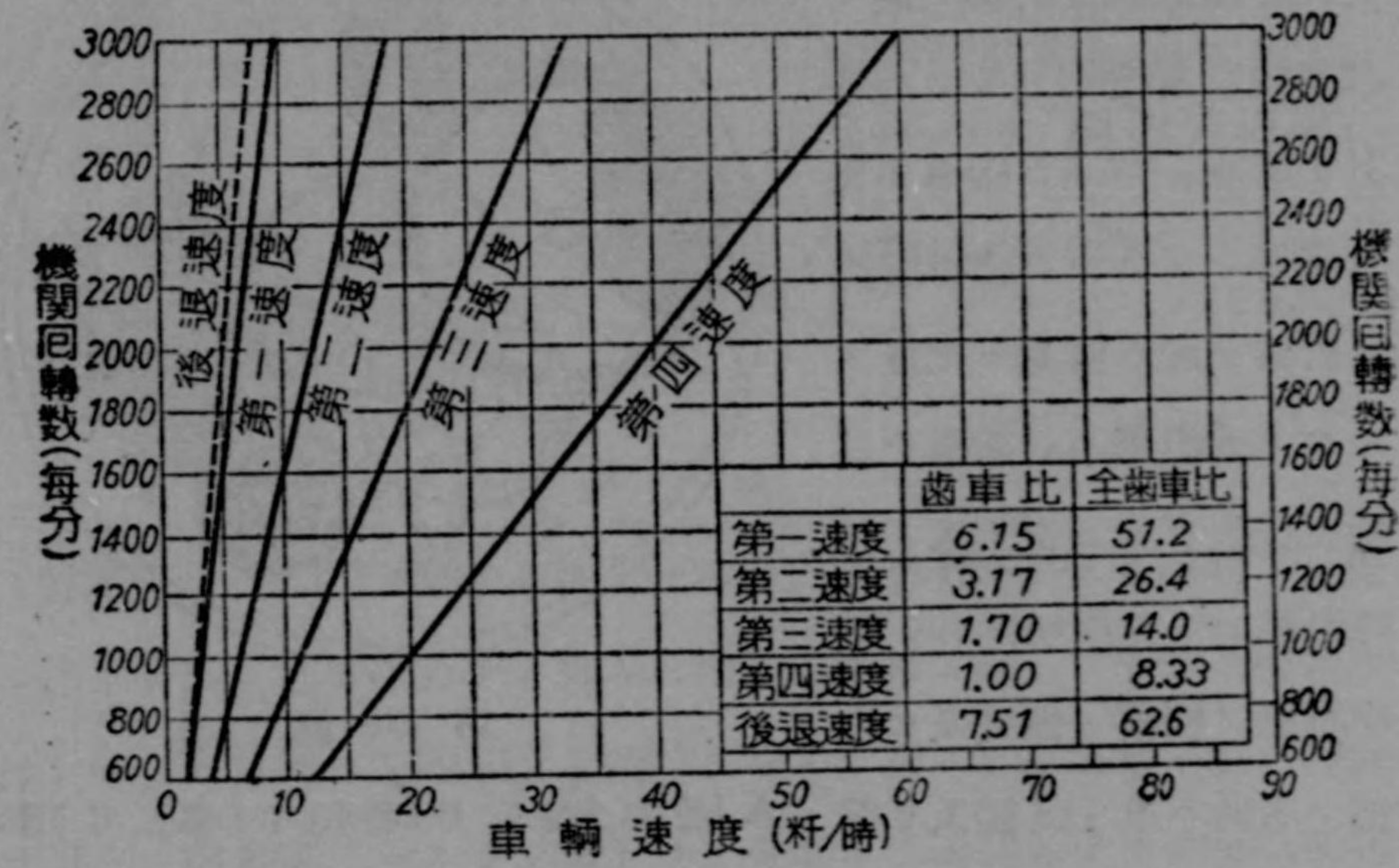
時速計算式ハ次ノ通りデアル。

$$\text{時速(杆)} = \text{機關回轉數}(r.p.m) \times \frac{1}{\text{全減速比}} \times [\text{後車輪中徑(桿)}] \times 3.1416 \times \frac{60}{100000}$$

$$= [\text{後車輪回轉數}(r.p.m)] \times [\text{後車輪中徑(桿)}] \times 3.1416 \times \frac{60}{100000}$$

問題 2. 九四式自動貨車ノ車速表

九四式六輪自動貨車 車速表



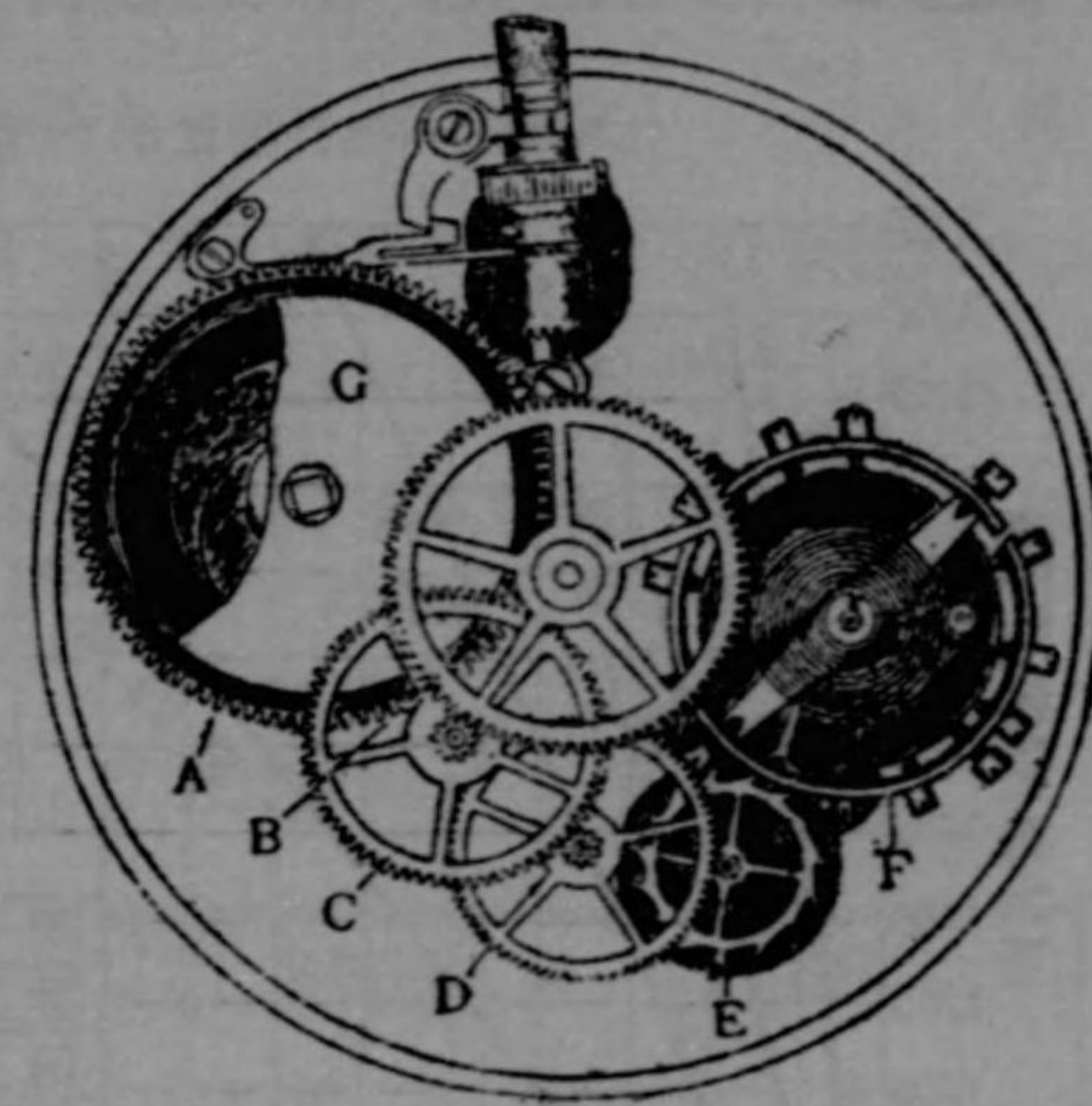
第 117 圖

問題 3. 某自動車ニ於ケル機關ノ回轉數(r.p.m)ト車速, 驅動力ノ一例ヲ次ニ示ス

機關回轉數(r.p.m)	車速(杆/時)	驅動力(杆)
1000	10	2000
2000	13	1800
2200	70	380

31. 齒車應用ノ計器トシテノ時計

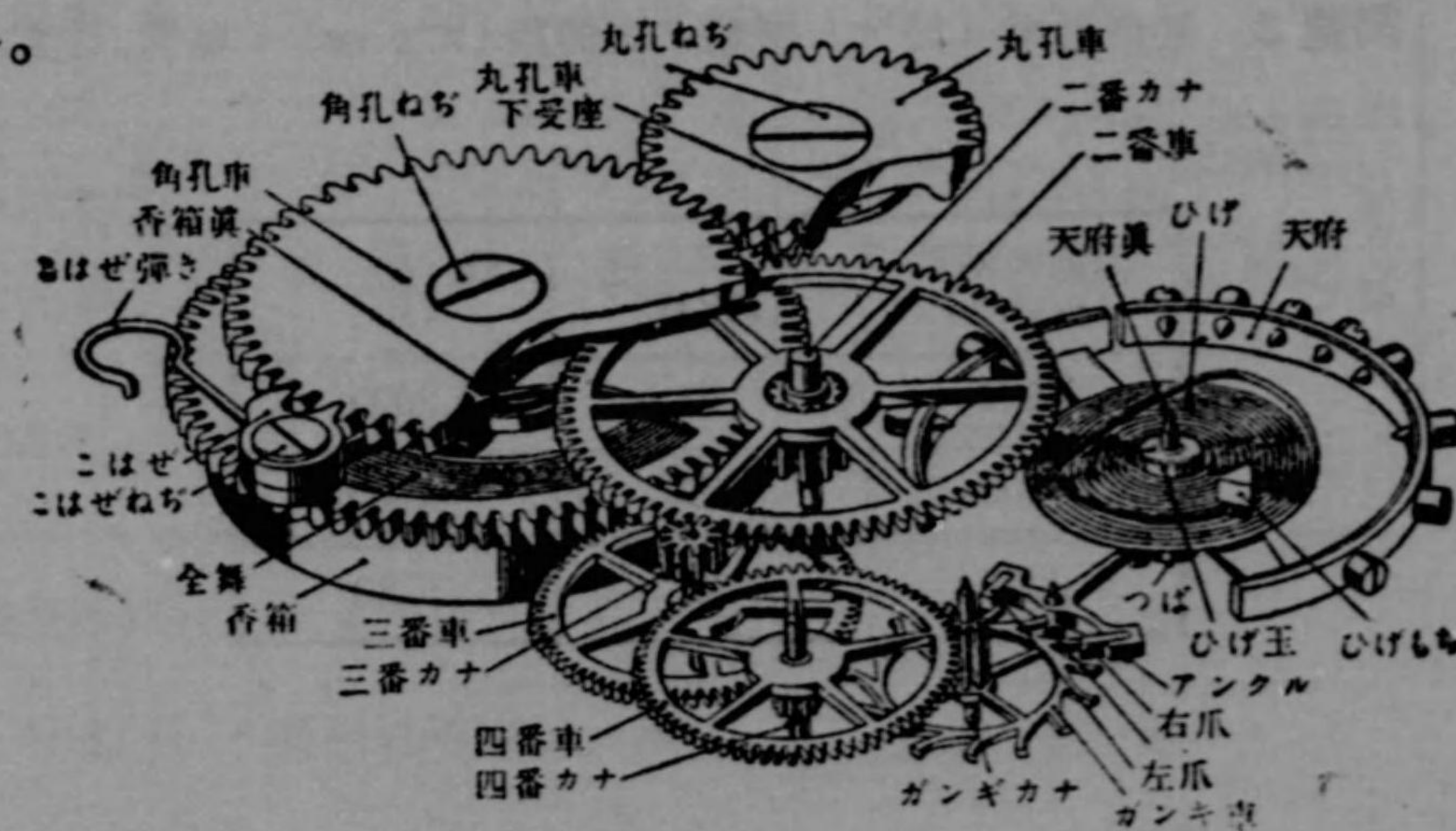
軍事ノミナラズ一般ニ於ケル各種計器ノ内其ノ最モ代表的、基礎的ナモノハ時計デアル。コレガ機構ヲ充分理解シテテレバ齒車應用ノ計器ノ理ハ容易ニ把握スルコトガ出來ル。斯様ナ目的ヲ以テココニ青木博士著「時計學」ニヨリ説明スル。懐中時計ノ機構ノ概要及ビ各部ノ名稱ハ第118圖及ビ第119圖ヨリ知ルコトガ出來



第118圖

A 1番車(大車) B 2番車(中心車) C 3番車
D 4番車(セコンド車) E ガンギ車 F 天府

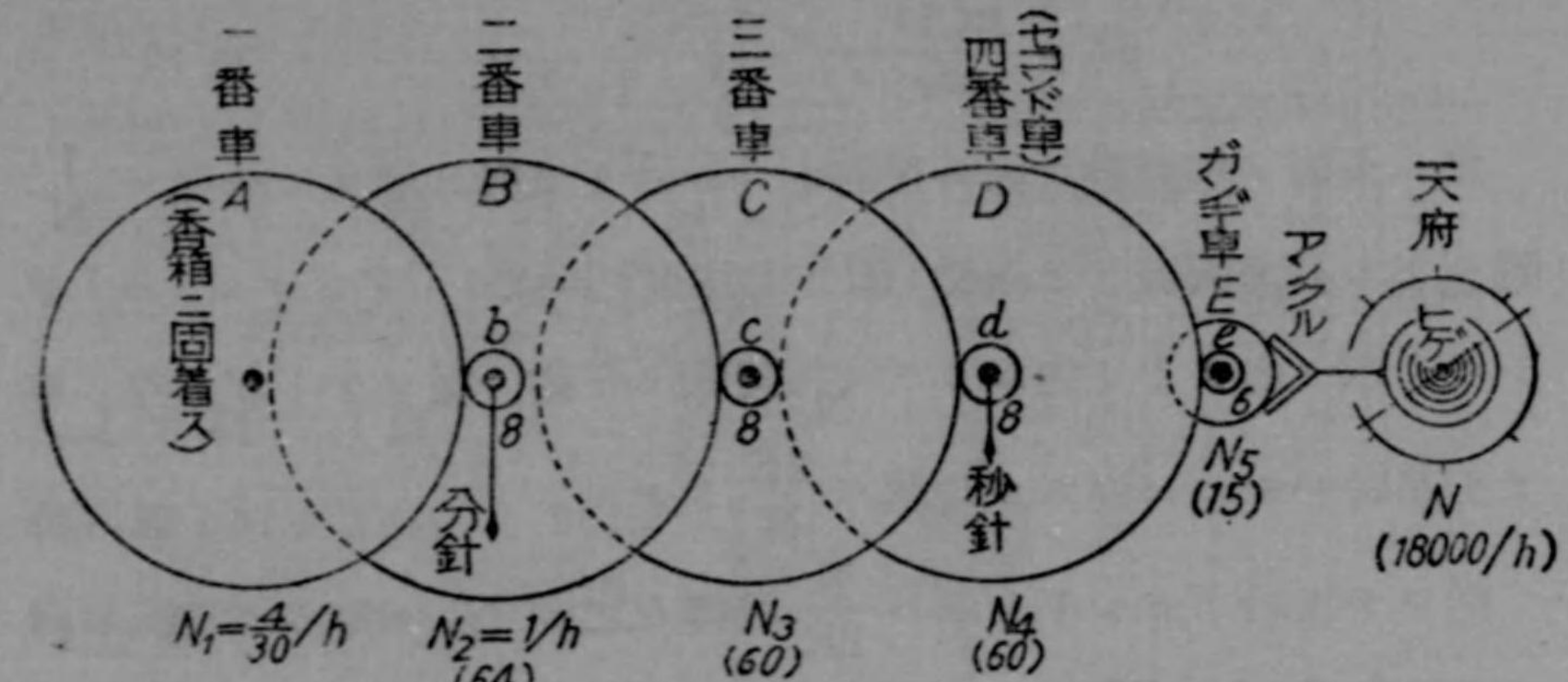
ル。



第119圖

32. 懐中時計ノ傳導裝置

此ノ要領ハ第120圖ノ如クデアル。



第120圖

1) 香箱内「バネ」ノ弛ミニ依リ一箱車ハ通常30時間ニ4回轉スル様ニ作ラレル。之ガ「カナ」車²⁾ニ依リ二番車ニ傳ヘラレ此ノ軸ニ取付ケテアル分針ヲ1時間ニ1回轉サセル。次イデ三番車ヲ經テ秒針ヲ有スル四番車(セコンド車)ヲ1分間ニ1回轉即チ1時間ニ60回轉サセル。

コノ回轉ガ「ガンギ」車ニ傳ヘルカラ「ガンギ」車ノ回轉數ハ、一方天府ノ振動ニヨツテ「アングル」ヲ經テ傳ヘラルル回轉數ト等シクナケレバナラナイ。

今二、三、四番車及ビ「ガンギ」車ノ齒數ヲ夫々 B, C, D, E, 毎時ノ回轉數ヲ N_2, N_3, N_4, N_5 トシ各車「カナ」車ノ齒數ヲ夫々 b, c, d, e トスレバ

$$\frac{N_2}{N_1} = \frac{B}{c}, \quad \frac{N_3}{N_2} = \frac{C}{d}, \quad \frac{N_5}{N_4} = \frac{D}{e}$$

- 1) ねぢヲカケテ巻ク時計ノばねノ收メテアル箱ヲイフ。
- 2) 「カナ」車トハ齒數20以下ノ齒車ノ時計工業界ノ用語デアル。

$$\therefore \frac{N_5}{N_2} = \frac{BCD}{cde}$$

$N_2=1$ (分針ハ毎時一回轉ス) デアルカラ

$$N_5 = \frac{BCD}{cde} \dots\dots\dots(1)$$

次ニ天府ノ振動數ヲ毎時N回トスレバ1振動ニ要スル時間ハ $\frac{1}{N}$ 時デアル。又天府ノ2振動(即チ1往復)ニ依リ「アングル」ハ「ガンギ」車ノ齒ヲ1ツ送ルカラ $\frac{2}{N}$ 時間ニ1齒、從ツテ「ガンギ」車ヲ1回轉サセルニ要スル時間ハ $\frac{2E}{N}$ トナル。

從ツテ毎時「ガンギ」車ハ $\frac{N}{2E}$ 回轉シ之ガ N_b ニ等シクナケレバナラスカラ(1)ヨリ

$$\frac{BCD}{cde} = \frac{N}{2E}$$

$$\therefore N = \frac{2BCDE}{cde}$$

即チ此ノ關係ヲ満足スル様ニ N, B, C, D, E, c, d, e ヲ定メレバ分針ハ毎時1回轉シ秒針ハ毎分1回轉スル。

通常Eハ15トスル。

次ニ輪列ノ齒數例ヲ掲ゲル。之ニ依リ上式ノ成立スルコトヲ確メテ見ヨ。

齒車名稱 (齒數)	二番車 (B)	三番車ノ 「カナ」 (c)	三番車 (C)	四番車ノ 「カナ」 (d)	四番車 (D)	ガンギ車 ノ「カナ」 (e)	ガンギ 車(E)	天府振動 數(毎時) (N)
例 1	64	8	60	8	60	6	15	1,8000
例 2	64	8	60	8	70	7	15	1,8000
例 3	80	10	75	10	72	8	15	1,6200

33. 日ノ裏装置

尙此ノ外ニ時針ヲ回轉サセル装置即チ「日ノ裏装置」トイフモノ

ガアル。其ノ機構

要領ハ右圖ノ如ク

1時間ニ1回轉スル中心軸上ニ「筒カナ」 b ガ固定サレ之ニ啮合フ「裏傳へ車」Mガアル。

Mハ「裏傳へカナ」 m ヲ有シ M, m

ノ共通軸ハ地板Pニ嵌メラレテキル。又 m ニハ「本劍車」Hガ啮合ヒHハ中心軸ニ弛ク嵌マリ其ノ端ニ時針ヲ持ツテキル。又分針ハ b ト共ニ中心軸ニ固定シテアル。

今 b, M, m, H ハ夫々各齒車ノ齒數ヲモ表ハスモノトシ又分針(從ツテ b)、時針(從ツテH)ノ回轉數ヲ夫々 N_b, N_H トスレバ啮合ハセノ順序ヨリ

$$N_b \times \frac{b}{M} \times \frac{m}{H} = N_H \dots\dots\dots(1)$$

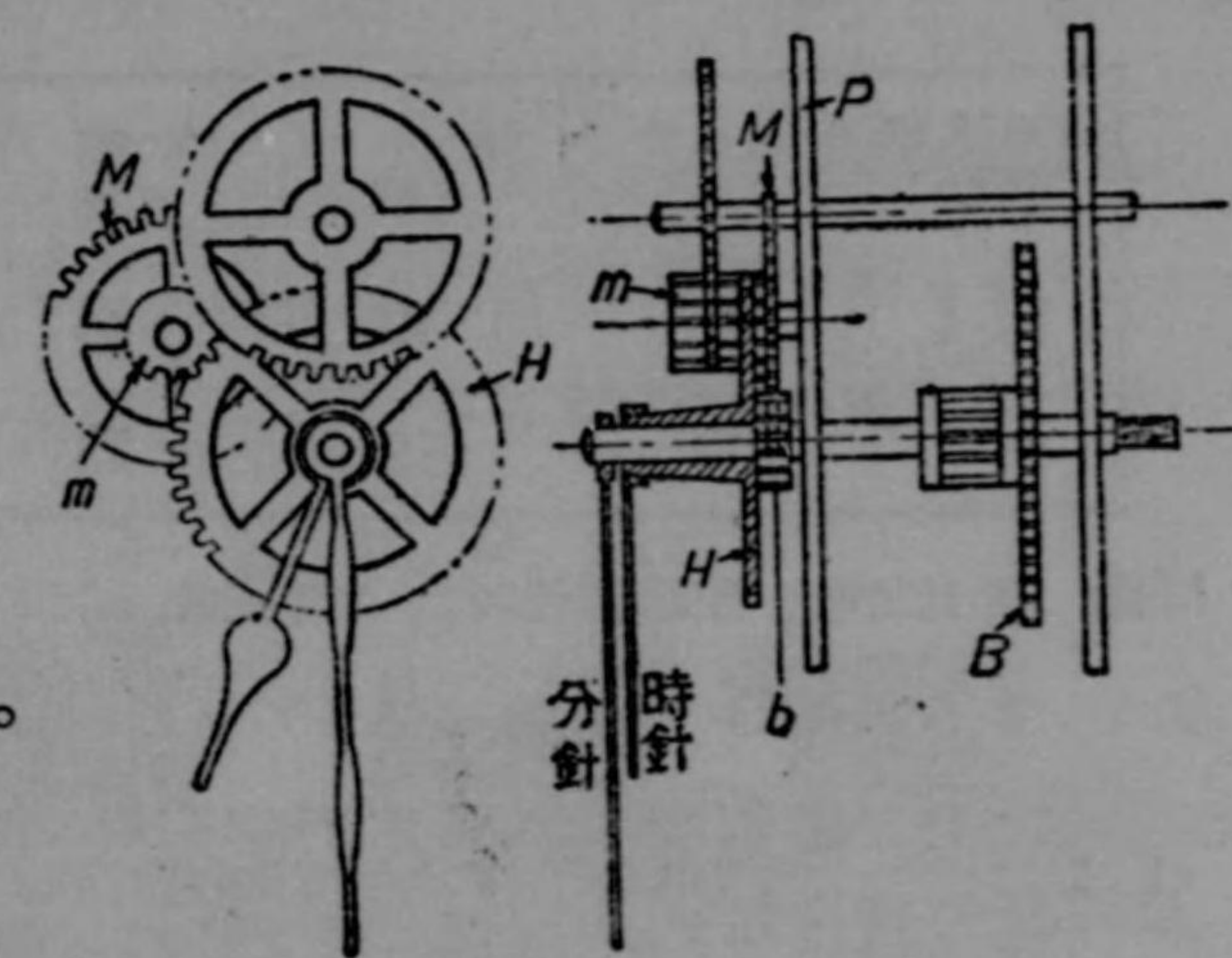
然ルニ12時間制ノ時計デハ分針ノ回轉數ハ時針ノ回轉數ノ12倍デナケレバナラスカラ

$$\frac{N_b}{N_H} = 12$$

從ツテ(1)ヨリ

$$12 = \frac{MH}{mb}$$

次ニ日ノ裏輪列ノ例ヲ掲ゲル。コレニヨリ上式ノ成立スルコトヲ



第 121 圖

確メモ。

齒車名稱 (齒數)	裏傳へカナ (<i>m</i>)	筒カナ (<i>b</i>)	本劍車 (<i>H</i>)	裏傳へ車 (<i>M</i>)
例 1	10	12	40	36
例 2	12	12	48	36

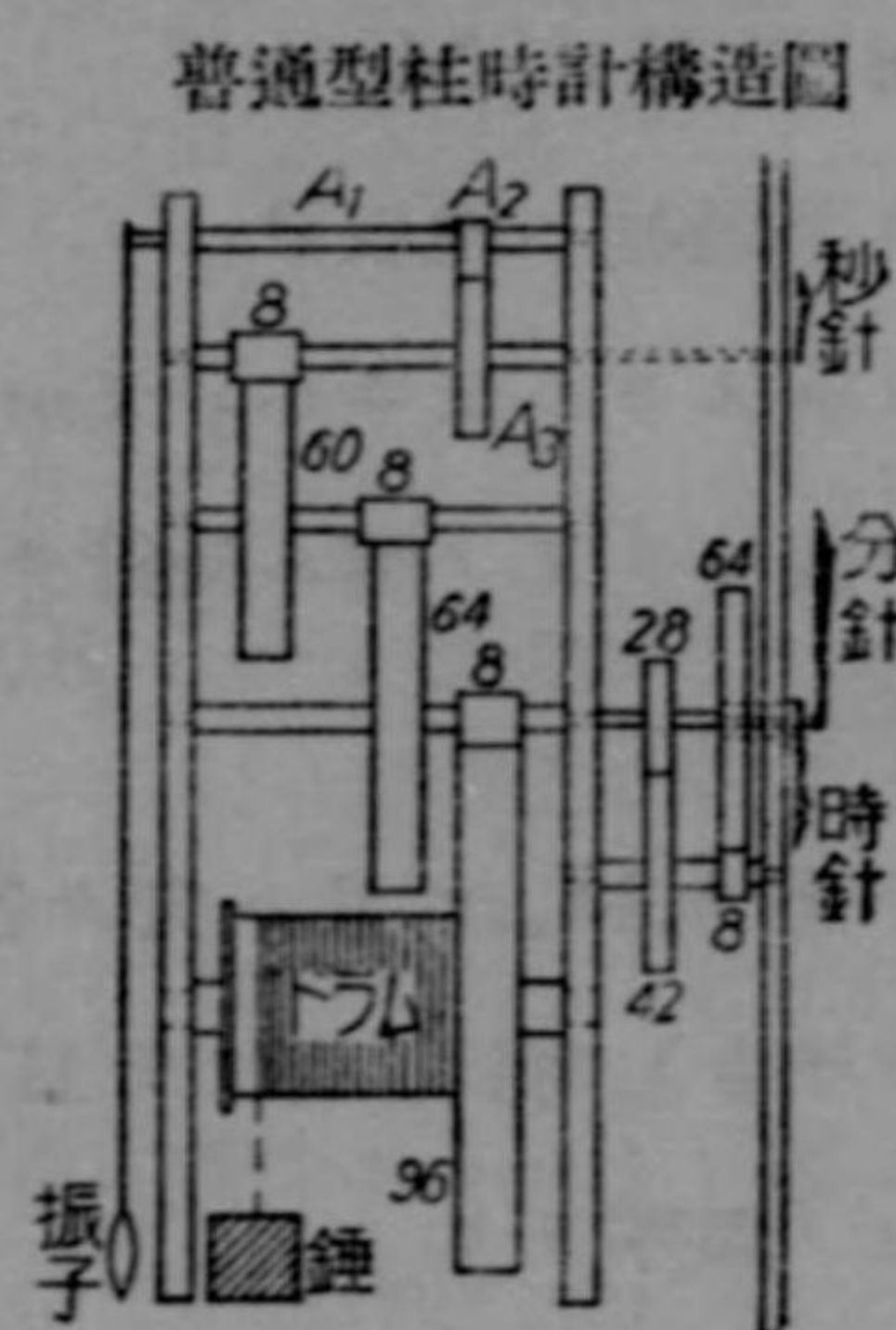
問題 第122圖ハ普通型柱時計ノ構造圖デアル。

振子ノ前後ノ振動ハ A_1 (軸), A_2 (アングル), A_3 (ガンギ車, 秒針固定ス)ヲ經テ數字ノ示ス齒數ヲ有スル「カナ」及ビ齒車ニ依リ逐次分針, 時針ニ傳達セラルルト共ニ又「ドラム」ニ卷附ケラレタ錘ノ垂下ニ依リ運動ガ調整セラレル。但シ A_3 ハ振子ノ1往復ニテ1齒進ミ又分針, 時針ハ夫々齒數 28, 64ノ齒車ニ固定スル。

之ニ就テ

(イ) 秒針, 分針, 時針ノ速度比ヲ研究セヨ。(答 720:12:1)

(ロ) 「ドラム」ハ一晝夜ニ何回轉スルカヲ研究セヨ。(答 2回轉)

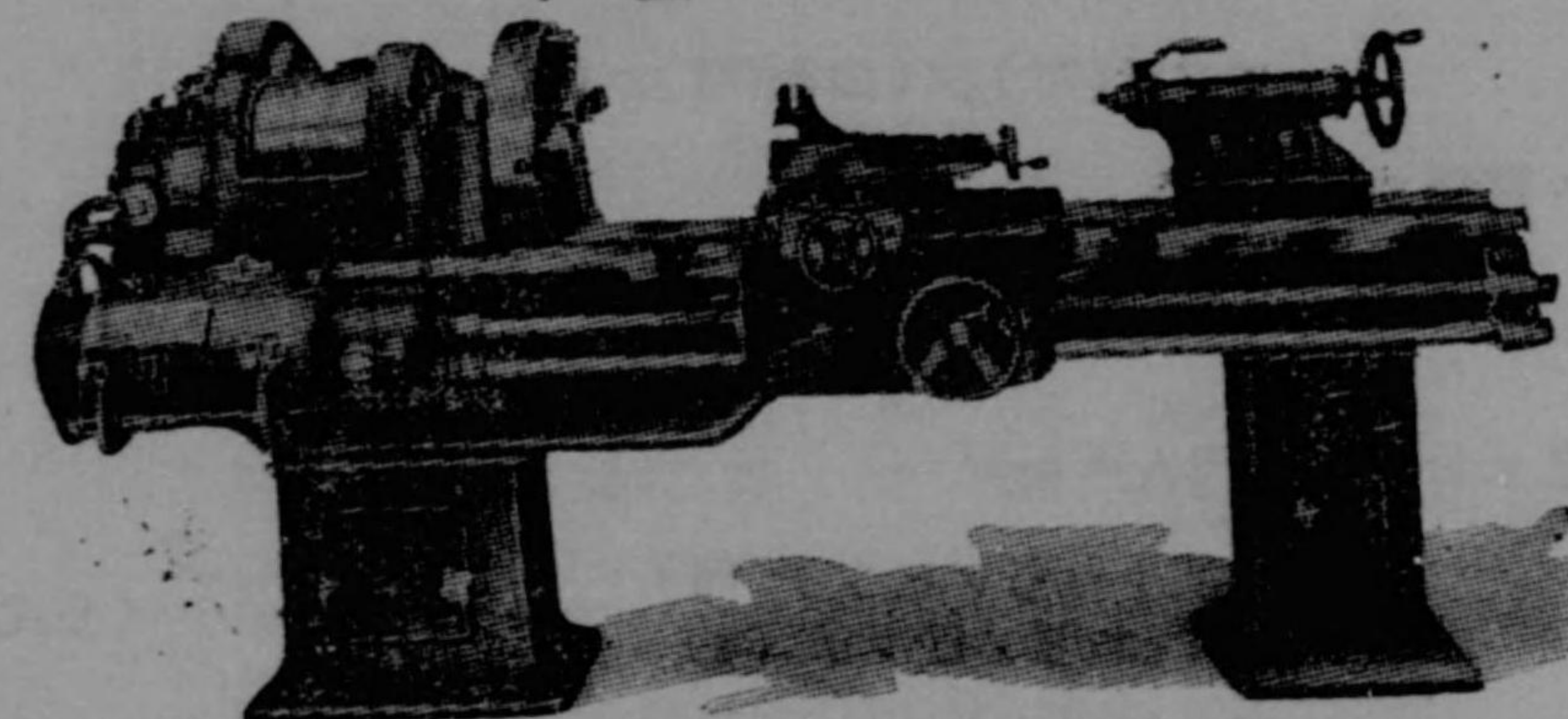


第 122 圖

第七章 旋盤

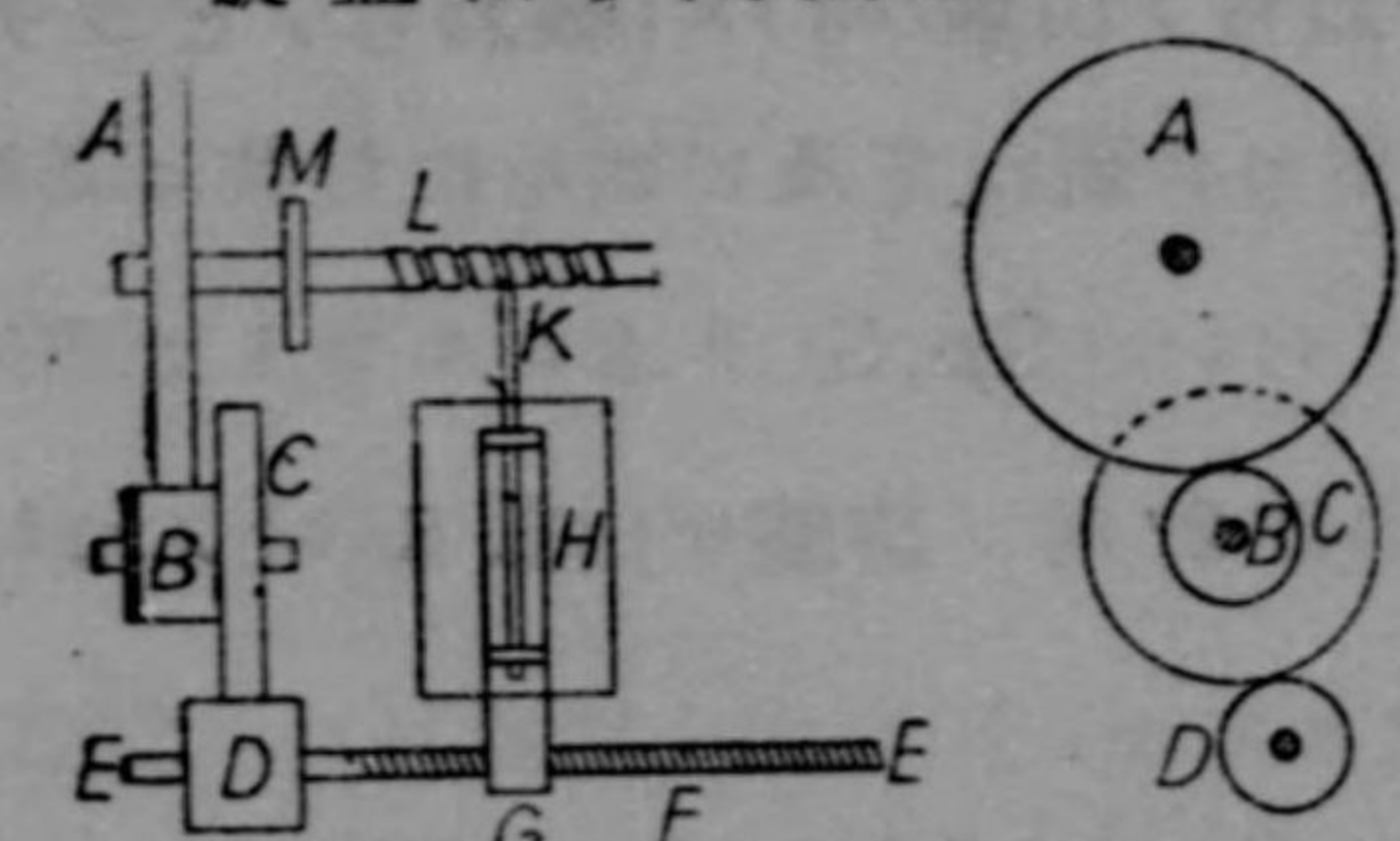
主要工作機械ノーツシテノ旋盤ニツイテねぢ切り作業ノ場合ノ巧ミナ換齒車ノ割出シ方ノ概要ヲ述ベ齒車ノ効用ヲ知ルコトニスル。旋盤ノ形及ビ其ノ機構要領ハ第 123 圖及ビ第 124 圖ノ如クデアル。

十五吋旋盤



第 123 圖

旋盤ねぢ装置要領圖



第 124 圖

A, B, C, D……換齒車, E……親ねぢ, F……ねぢ,
G……Eノ回轉ニ伴ヒ進ム, H……双物臺, K……双物(バイト)
L……截ルベキねぢ, M……ベルト車
特ニ Aヲ主軸齒車, Dヲ親ねぢ齒車トイフ。

親ねぢ齒車 D (從ツテ親ねぢ E) ガ回轉シテ G, K ヲ 1 吋送ル間ニ工作物 L (從ツテ主軸齒車 A) ガ切ラウトスルねぢノ山數ダケ回

轉スレバ所要ノねぢガ切ラレ、兩者ノ回轉數ハ其ノ齒數ニ反比例ス
ルカラ主軸及ビ親ねぢ齒車ノ齒數ヲ夫々 S_p, S_i トスレバ

$$\frac{S_p}{S_i} = \frac{\text{主軸齒車ノ齒數}}{\text{親ねぢ齒車ノ齒數}} = \frac{Dノ回轉數}{Aノ回轉數} = \frac{\text{親ねぢノ山數/時}}{\text{切ルねぢノ山數/時}}$$

即チ
$$\frac{S_p}{S_i} = \frac{\text{親ねぢノ山數/時}}{\text{切ルねぢノ山數/時}} \dots\dots\dots(公式1)$$

次ニねぢノ山數/時 ト「ピッチ」(時) トノ間ニハ
「ピッチ(時)」 \times (山數/時) = 1時

ナル關係ガアルカラ

$$(\text{山數/時}) = \frac{1}{\text{ピッチ(時)}}$$

之ヲ公式1ニ代入スレバ

$$\frac{S_p}{S_i} = \frac{\text{切ルねぢノピッチ(時)}}{\text{親ねぢノピッチ(時)}} \dots\dots\dots(公式2)$$

$$= (\text{親ねぢノ山數/時}) \times [\text{切ルねぢノピッチ(時)}] \dots\dots\dots(公式3)$$

$$= \frac{1}{(\text{切ルねぢノ山數/時}) \times [\text{親ねぢノピッチ(時)}]} \dots\dots\dots(公式4)$$

公式1,2,3,4ヲ用ヒテ親ねぢ及ビ切ルねぢ共ニ其等ノ山數/時 或
ハ「ピッチ」ガ與ヘラレレバ S_p, S_i ヲ求ムルコトガ出來ル。

例 親ねぢノ山數2/時ノ旋盤デ山數6/時ノねぢヲ切ルタメノ
換齒車ヲ求メヨ。

解 公式1ヨリ
$$\frac{S_p}{S_i} = \frac{2}{6} = \frac{1}{3} \dots\dots\dots(1)$$

即チ親ねぢ齒車ト主軸齒車トノ齒車ノ比ハ 1:3 トスレバヨイ。

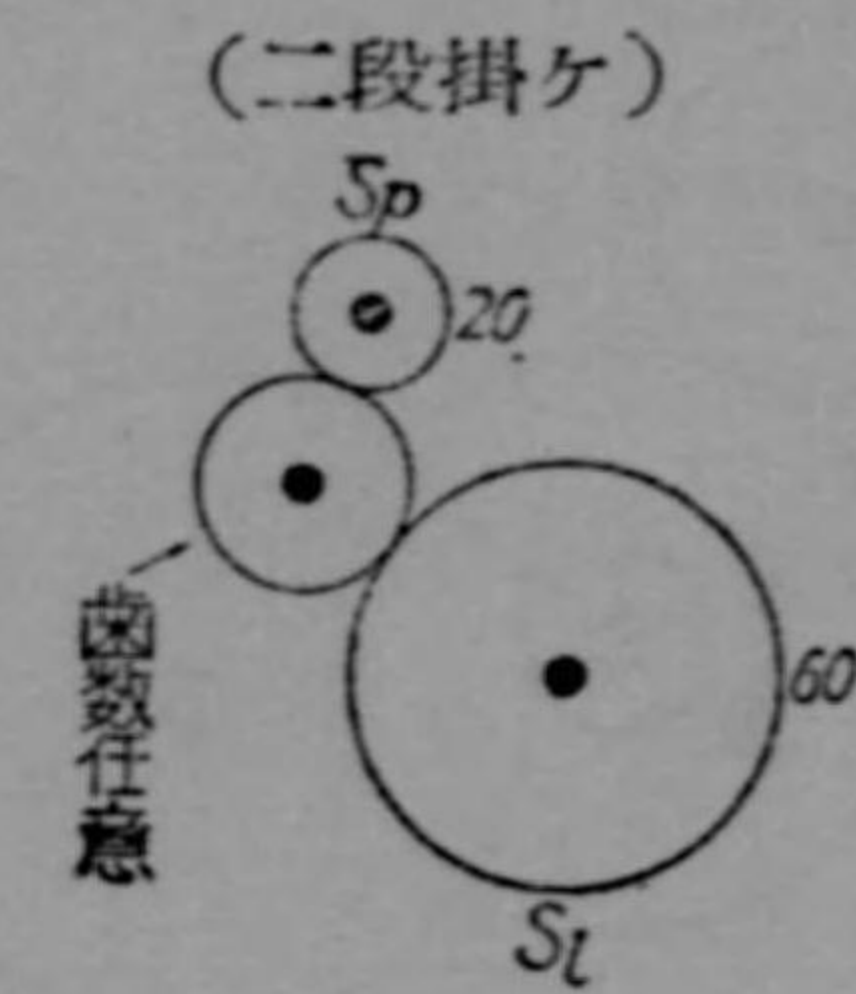
然シ乍ラ齒數1トイフ如キ齒車ハ存在セズ又通常旋盤ニハ齒數ガ

- 20, 25, 30, 35, 40, 45, 50, 55, 60, 65,
- 70, 75, 80, 85, 90, 95, 100, 105, 110, 115,
- 120, 127

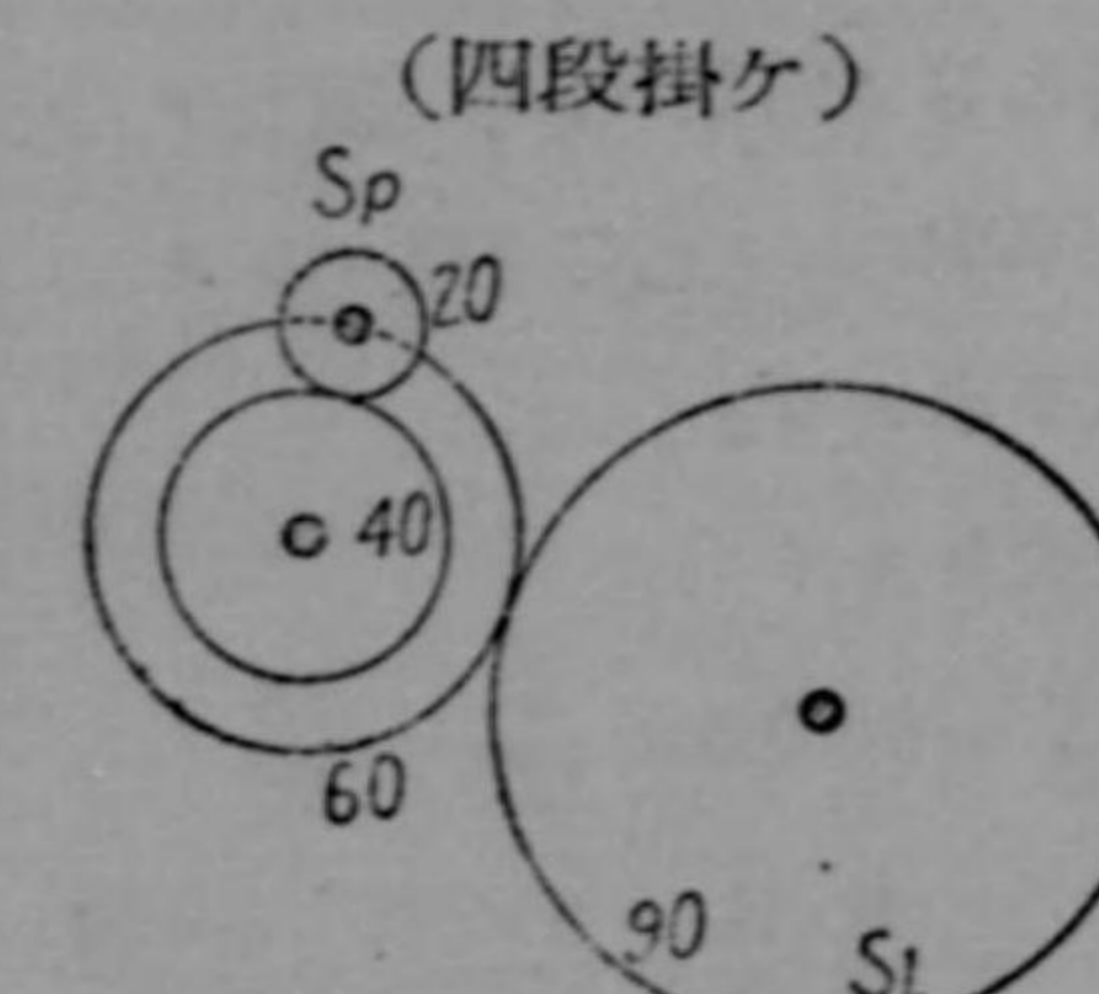
ナル換齒車各一枚宛ガ附屬シテキルカラ(1)ノ分母,分子ニ適當ナ
數ヲ掛ケテ上記ノ數ノ中カラ所要ノ齒數ノ齒車ヲ撰ブ。此ノ場合二
段掛ケ,四段掛ケノ二方法ガアル。通常二段掛ケデ所要ノ齒車數ヲ
得ラレナイトキ四段掛ケヲ用ヒル。

$$\frac{S_p}{S_i} = \frac{1}{3} \times \frac{20}{20} = \frac{20}{60} \text{ (第125圖)}$$
$$= \frac{1}{3} \times \frac{30}{30} = \frac{30}{90} \text{ (二段掛ケ)}$$

$$= \frac{2}{6} = \frac{1 \times 2}{2 \times 3} = \frac{1}{2} \times \frac{20}{20} \times \frac{2}{3} \times \frac{30}{30} = \frac{20}{40} \times \frac{60}{90} \text{ (第126圖)}$$
$$= \frac{1}{2} \times \frac{25}{25} \times \frac{2}{3} \times \frac{30}{30} = \frac{25}{50} \times \frac{60}{90} \text{ 等 (四段掛ケ)}$$



第 125 圖



第 126 圖

次ニ通常旋盤ニハ時旋盤ト米旋盤トガアリ、時旋盤ヲ以テ米ねぢ
ヲ切り、或ハ米旋盤ヲ以テ時ねぢヲ切ルタメニハ換齒車ヲ如何ニシ
テ定メルカ。

之ガタメニハ $1\text{時} = 25.4\text{mm} = \frac{127}{5}\text{mm}$ ナルコトニ注意スル必要

ガアル。

(イ) 時旋盤ヲ以テ時ねぢヲ切ル場合

公式3ニ於テ

$$\text{切ルねぢノピッチ(吋)} = [\text{切ルねぢノピッチ(mm)}] \times \frac{5}{127}$$

トオケバ

$$\frac{S_p}{S_l} = (\text{親ねぢノ山數/吋}) \times [\text{切ルねぢノピッチ(mm)}] \times \frac{5}{127}$$

.....(公式5)

(ロ) 米旋盤ヲ以テ吋ねぢヲ切ル場合

公式4ヲ用ヒテ

$$\frac{S_p}{S_l} = \frac{1}{[\text{親ねぢノピッチ(mm)}] \times (\text{切ルねぢノ山數/吋})} \times \frac{127}{5}$$

.....(公式6)

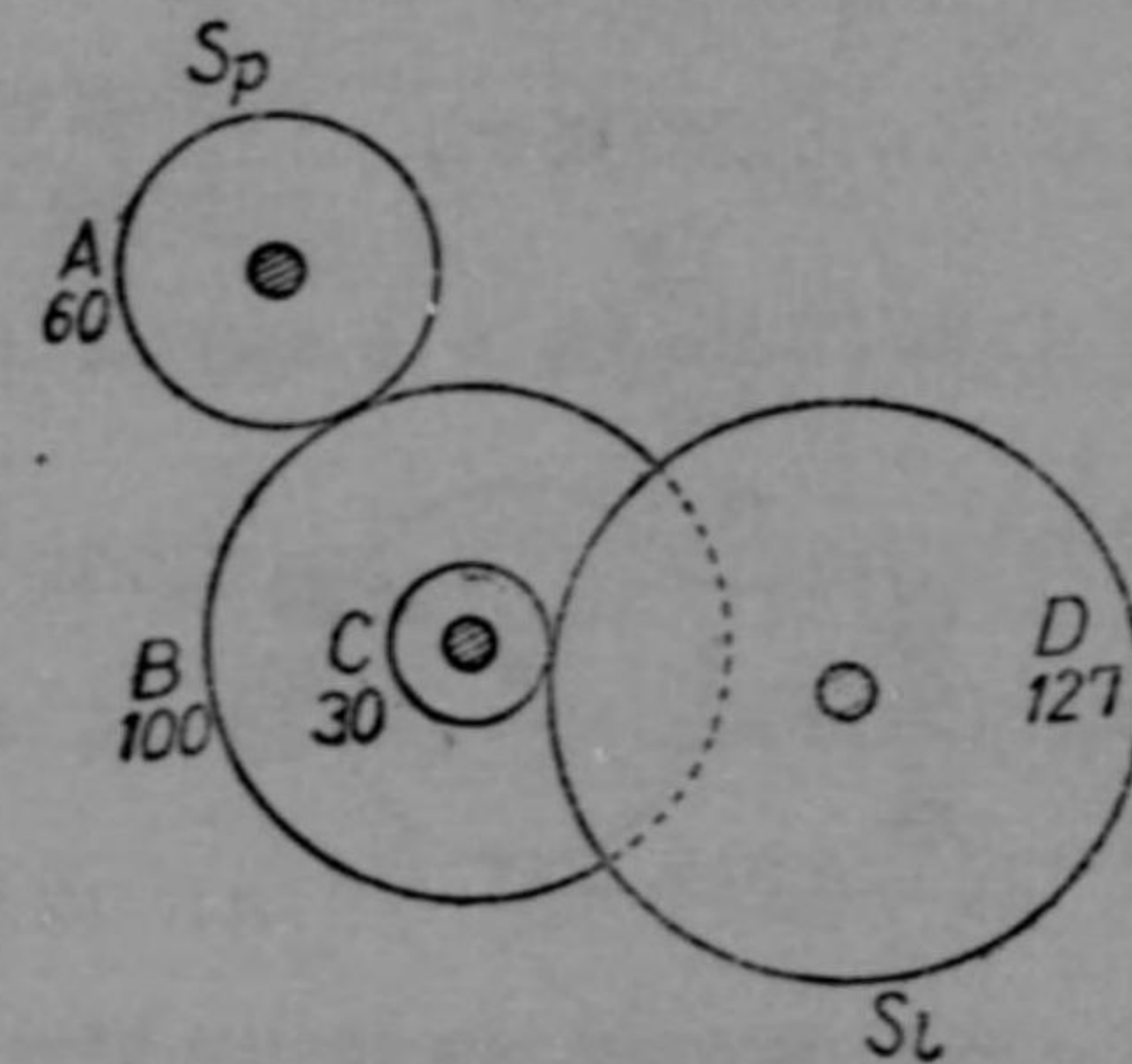
注意 $\frac{127}{5} = \frac{63}{2.5}$ デアルカラ公式5,6ニ於テ齒數127ノ代リ=63

ノ齒車ヲ用ヒル場合ガアル。

例 親ねぢノ山數6/吋ノ旋盤デ「ピッチ」0.6mmノねぢヲ切ルタメノ換齒車ヲ求メヨ。

解 公式5ヨリ

$$\begin{aligned} \frac{S_p}{S_l} &= 6 \times 0.6 \times \frac{5}{127} = \frac{18}{127} \\ &= \frac{6 \times 3}{1 \times 127} = \frac{6 \times 10}{1 \times 100} \times \frac{3 \times 10}{127} \\ &= \frac{60}{100} \times \frac{30}{127} \end{aligned}$$



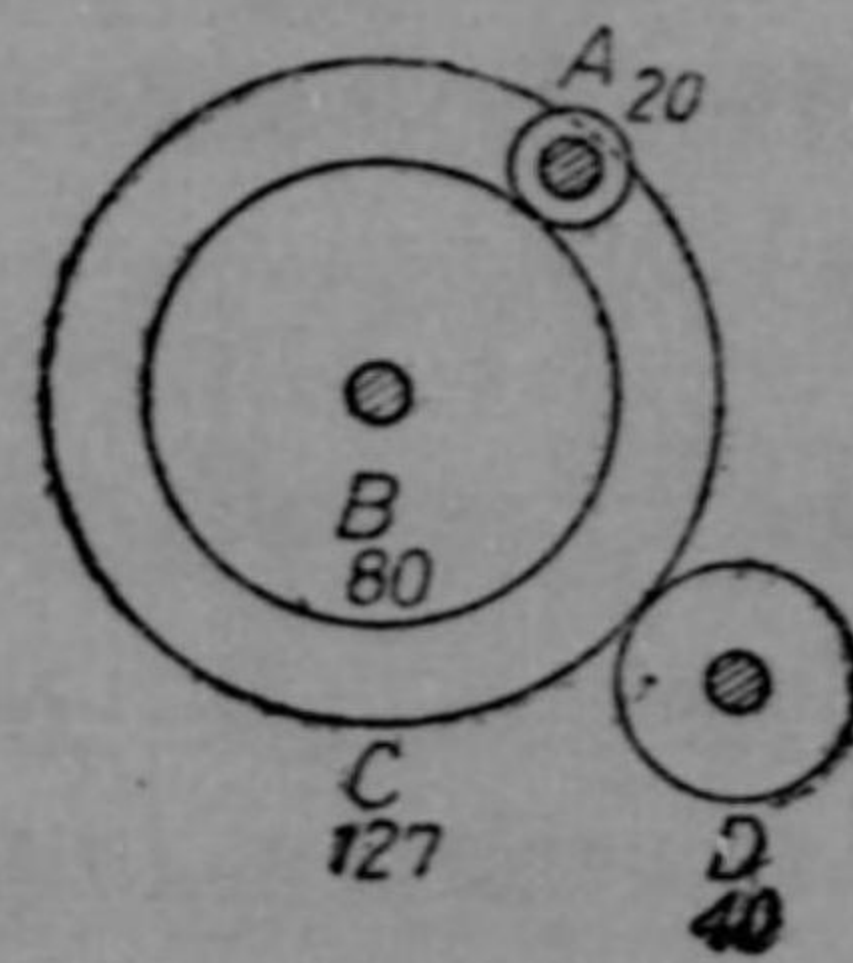
第 127 圖

即チ齒數30, 60, 100, 127ヲ第127圖ノ様ニ掛ケレバヨイ。

例 親ねぢノ「ピッチ」4mmノ旋盤デ山數8/吋ノねぢヲ切ルタメノ換齒車ヲ求メヨ。

解 公式6ヨリ

$$\begin{aligned} \frac{S_p}{S_l} &= \frac{1}{4 \times 8} \times \frac{127}{5} = \frac{127}{160} \\ &= \frac{1 \times 127}{4 \times 40} = \frac{1 \times 20}{4 \times 20} \times \frac{127}{40} \end{aligned}$$



第 128 圖

$$= \frac{20}{80} \times \frac{127}{40}$$

即チ齒數20, 40, 80, 127ノ齒車ヲ第128圖ノ様ニ掛ケレバヨイ。

問題1. 親ねぢノ山數2/吋ノ旋盤ヲ以テ次ノ各ねぢヲ切ル場合ノ換齒車ヲ求メヨ。

- (イ) 山數3/吋 (答 40, 60 ; 60, 90 ; 50, 60, 80, 100)
- (ロ) 山數6/吋 (答 20, 60 ; 20, 40, 50, 75 ; 50, 75, 40, 80)
- (ハ) 「ピッチ」0.5mm (答 20, 100, 25, 127)
- (ニ) 「ピッチ」1.25mm (答 25, 100, 50, 127)

問題2. 親ねぢノ「ピッチ」10mmノ旋盤ヲ以テ次ノ各ねぢヲ切ル場合ノ換齒車ヲ求メヨ。

- (イ) 「ピッチ」0.5mm (答 20, 120, 30, 100)
- (ロ) 「ピッチ」2mm (答 20, 100,)
- (ハ) 山數2/吋 (答 50, 25, 127, 100)
- (ニ) 山數5/吋 (答 20, 100, 127, 50)

第四篇 計算線圖

第八章 計算圖表

34. 機械的近似値ノ計算

兵器ノ設計，築城，各種觀測器具ニヨル觀測値ハ元ヨリ作戰計畫ノ樹立等ニ於ケル諸計算ハ精度ノ差コソアレテ近似値ノ計算ガ必要デアル。而モ軍用兵器ノ取扱ハ兵ニ任スベキモノガ多ク而モ砲煙彈雨ノ中ニアツテ迅速ニ且所要ノ精度ヲ持ツタ觀測値ヲ得ルタメニハ筆算，珠算等デハ役立クナイカラ，コレヲ機械的ニ簡單ニ而モ迅速ニ計算スルコトガ要求セラレル。此ノ様ナ目付ニ副フクメニ考案セラレタモノガ計算圖表デアル。(近時ハ尙進ンデ複雑ナ式ノ計算ヲ電氣的ニヤル所迄發達シテキル。)然シ乍ラ一般ニ對スル普及ノ度ハ未ダシノ感ガ深イ。各方面ニ之ヲ利用スル様ニナレバ軍，否國家全體ノ能率ノ向上ハ蓋シ甚大ナモノガアラウ。

次ニ之ノ基礎タル函數尺ノ作り方カラ始メテ順次説明スルコトトスル。

35. 函數尺

例 x ガ -4 ヨリ 3 マデ變化スル時函數 $2x+3$ ノ函數尺ヲ作レ。

解 1. 計算ニ依ル法

x ガ -4 ヨリ 3 マデノ各整數値ヲトルトキ與ヘラレタ函數ノ値ヲ計算シテ次ノ表ヲ作ル。

x	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3
$2x+3$	-5	-3	-1	1	3	5	7	9

次ニ函數尺ノ畫トナルベキ直線ヲ定メ共ノ上ニ原點 O ト正頁ノ方向 (茲デハ右ノ方ヲ正，左ノ方ヲ負トスル。) 及ビ適當ナ長サノ單位 (茲デハ $1cm$ トスル。) ヲ定メ，上ノ表ニ基イテ x ノ各値ニ應ズル函數値ニ從ツテ此ノ直線上ニ次ノ如ク分畫ヲ目盛ル。

$x=-4$ ノトキ函數ノ値ハ -5 デアルカラ原點カラ左へ $5cm$ ノ所ニ -4 ，
 $x=-3$ ノトキ函數ノ値ハ -3 デアルカラ原點カラ左へ $3cm$ ノ所ニ -3 ，
 以下同様ニ原點カラ左へ $1cm$ ノ所ニ -2 ，右へ $1cm$ ノ所ニ -1 ，右へ $3cm$ ノ所ニ 0 ，右へ $5cm$ ノ所ニ 1 ，右へ $7cm$ ノ所ニ 2 ，右へ $9cm$ ノ所ニ 3 ト目盛レバ次ノ如キ物差ガ得ラレル。之ガ即チ函數 $2x+3$ ノ函數

-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	
-5	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3

(縮尺二分ノ一)

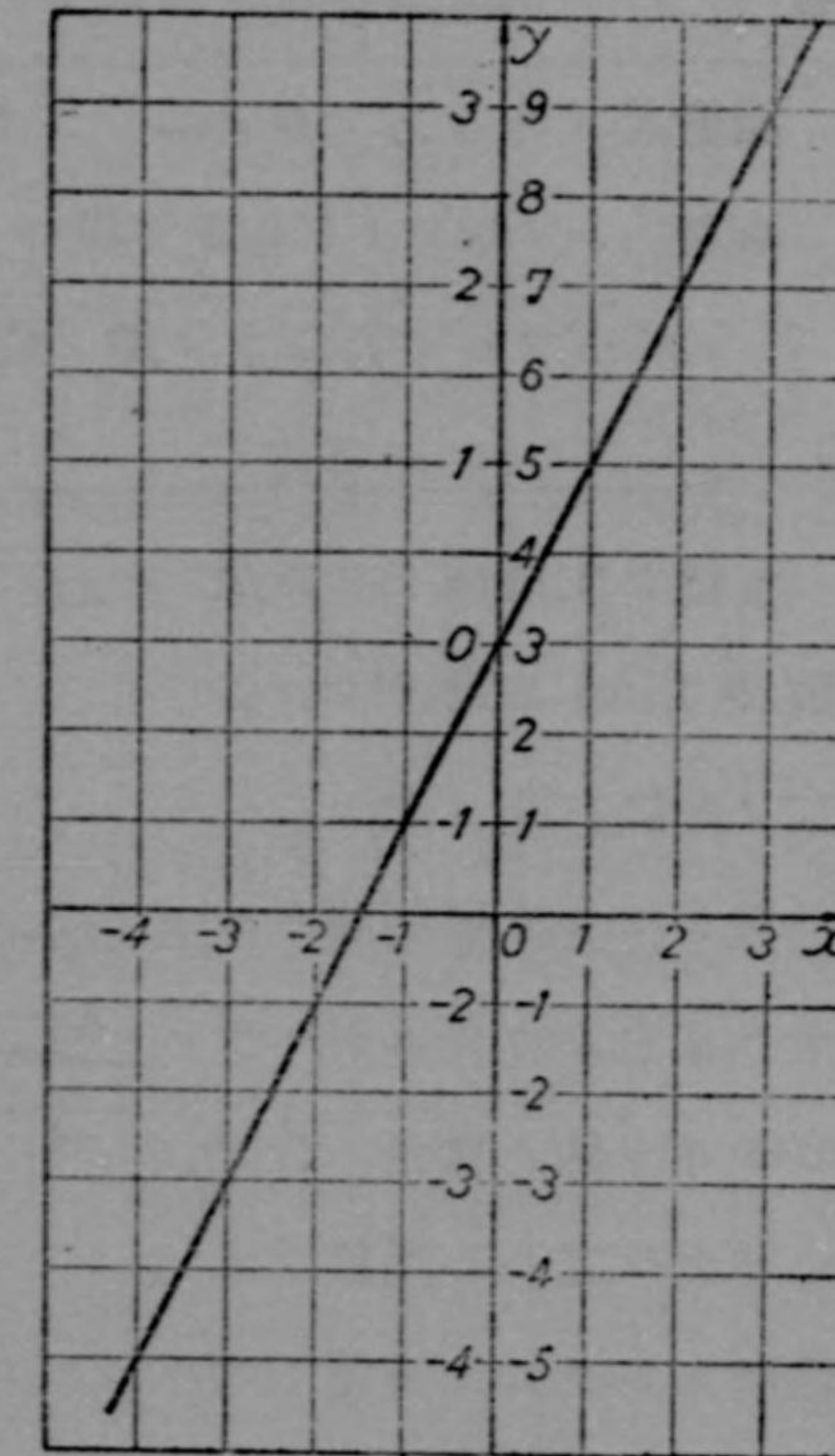
第 129 圖 標 轉 相 座

尺デアル。但シ下側ノ數字ハ普通尺ノ目盛デ原點カラノ距離ト方向ヲ示スモノデ，函數尺ソノモノニハ不用デアル。

解 2. 函數ノぐらふヲ利用スル法
 與ヘラレタ函數ノぐらふ

$$y=2x+3$$

ガ畫カレテキル時ハ $x=-4, -3, \dots, -1, 2, 3$ 等ニ對スル函數ノ値ハ各分點ヲ通ル縱線ガぐらふヲ切ル點ノ縱座標デ與ヘラレルカラ之レヲ y 軸ノ上ニ平行ニ移シ，其ノ點ニ横座標ノ値ヲ目盛レバ所要ノ函數尺ガ得ラレル。右圖ニ於テ y 軸ノ右側ノ目盛ハ普通尺デアル。



第 130 圖

函数尺ノ作り方 其ノ一

變數 x が $x=x_1$ から $x=x_n$ マデ變化スル間ノ函数 $f(x)$ ノ函数尺ヲ作ルニハ

(i) x ノ各値 x_1, x_2, \dots, x_n ニ對スル函数ノ値 $f(x_1), f(x_2), \dots, f(x_n)$ ヲ計算スル。

(ii) 一直線上ニ原点 O ト正, 負ノ方向ヲ定メ, 別ニ適當ナル長さノ單位 k ヲ定メル。(上例デハ $k=1cm$) 此ノ直線ヲ函数尺ノ軸又ハ支持線トイフ。

(iii) コノ直線上ニ函数値 $f(x_1), f(x_2), \dots, f(x_n)$ ニ應ジテ k ヲ單位トシテ正方向又ハ負方向ニ線分ヲトリ, 其ノ端ニ夫々變數ノ値 x_1, x_2, \dots, x_n ノ分畫ヲ目盛レバ所用ノ函数尺ガ得ラレル。

函数尺ノ作り方 其ノ二

函数 $y=f(x)$ ノぐらふガ與ヘラレテキル時ニハ x 座標ガ x_1, x_2, \dots, x_n デアルぐらふ上ノ點ノ縦座標ヲ y 軸上ニ移シ此ノ點ニ夫々 x_1, x_2, \dots, x_n ヲ目盛レ

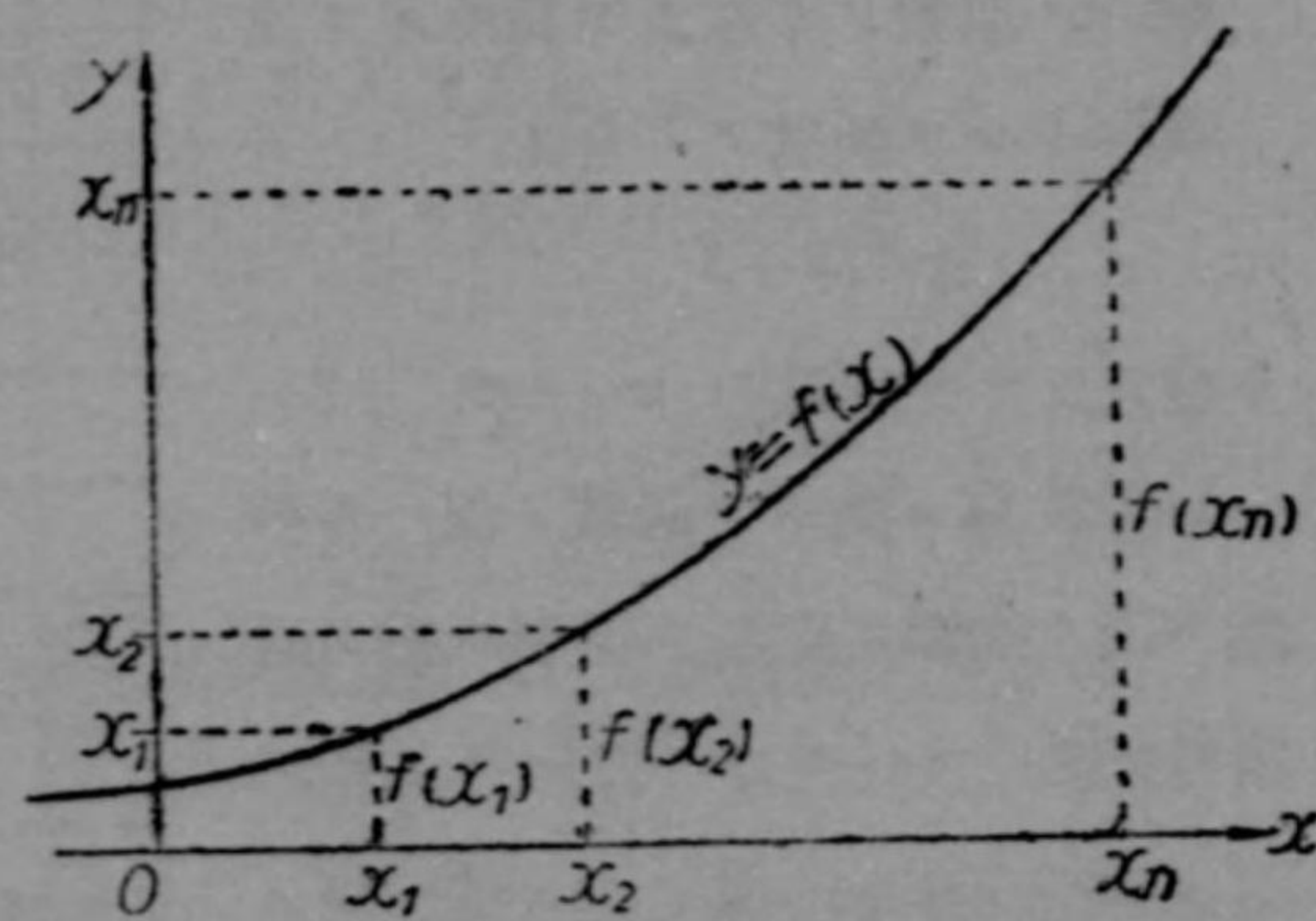
バ y 軸ヲ支持線トスル函数尺 $f(x)$ ガ得ラレル。

其ノ要領右圖ノ如シ。

然シ乍ラ實際問題トシテハぐらふガ先ニ與ヘラレテキル様ナ場合ハ先ヅナイカラ之レハ函数尺ヲ

理解スルタメノ方便ト考ヘレバヨイ。

以上ノ方法ニヨリ函数尺ヲ作ルトキハ分畫ノ目盛ガ等間隔ノモノ



第 131 圖

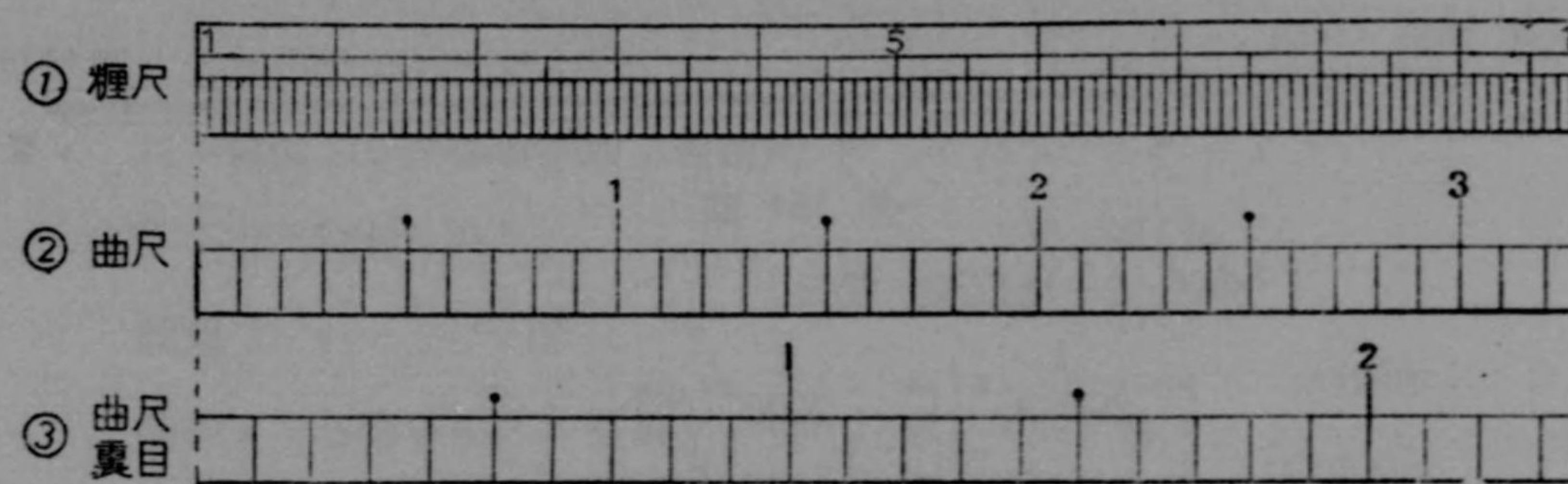
即チ普通尺ト不等間隔ノモノトノ二種ガ出來ル。

(a) 等間隔目盛尺 (普通尺)

(i) $y=kx$

$k=1cm, 1寸, \sqrt{2}寸$ ニ對スル函数尺ヲ作レバ次ノ如ク① 樞尺,

② 曲尺, ③ 曲尺ノ裏目ヲ得。



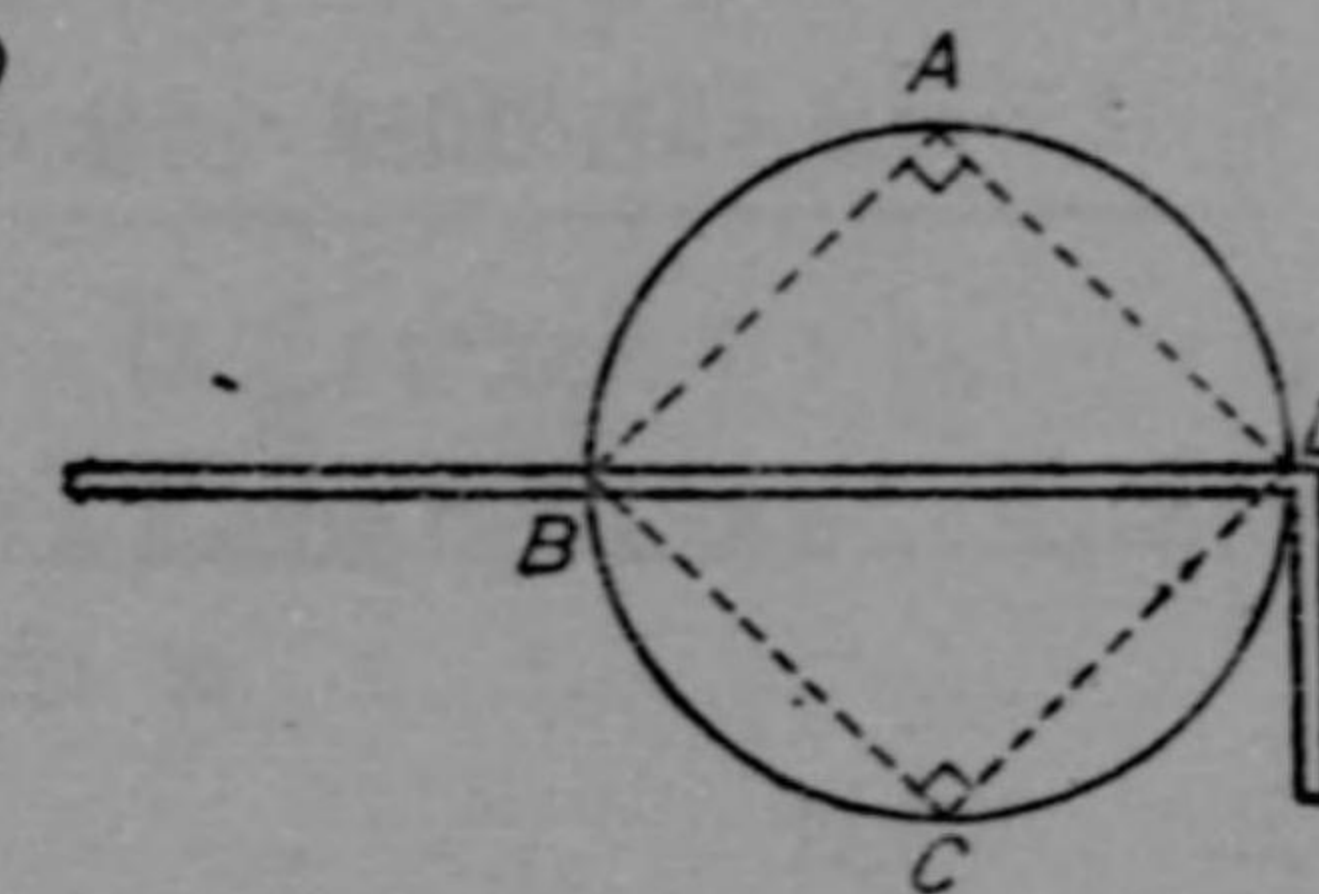
第 132 圖

注意 裏目ノ使用例(第133圖參照)

丸材ノ直徑ヲ裏目デ測リ 1尺2寸5分アレバコノ丸材ヨリトレル最大ノ角材(断面正方形)ノ一邊ノ長さハ曲尺デ同一ノ寸法, 即チ 1尺2寸5分トナル。

(ii) 梯尺 (縮尺)

(イ) 五萬分ノ一地形圖ノ梯尺函数及ビ函数尺即チ梯尺ノ分畫ノ目盛方次表ノ通り。



第 133 圖

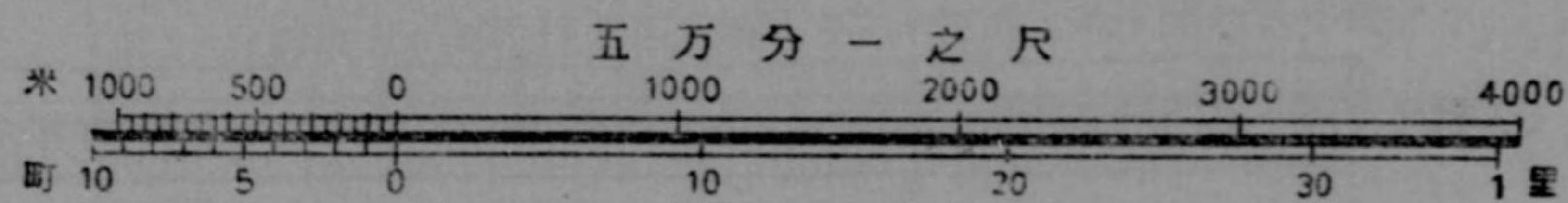
AB=AD=a寸 (曲尺)

トスレバ

BD= $\sqrt{2}a$ 寸 (曲尺)

= a寸 (裏目)

函 數	x	函 數 値	梯尺ノ分畫ノ目盛方
$y = \frac{1}{50000}x$	1000米	$\frac{1000}{50000} = \frac{1}{50} (m) = 2(cm)$	原点ヨリ2cm毎 = 1000m, 2000m,ノ分畫ヲ目盛ル
	10町	$\frac{10}{50000} (町) = \frac{10 \times 60 \times 6 \times 10 \times 10}{50000} (分) = 7.2 (分)$	原点ヨリ7.2分毎 = 10町, 20町, ... ノ分畫ヲ目盛ル



第 134 圖

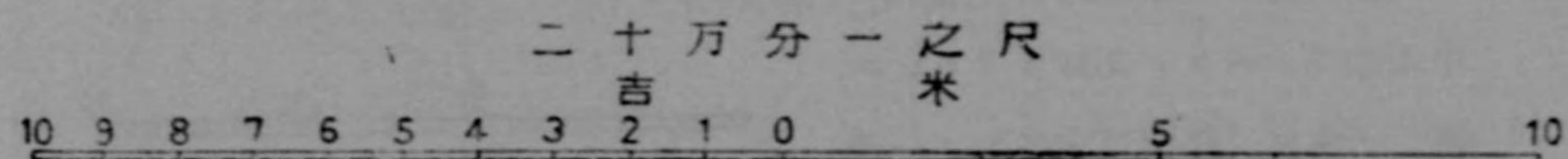
(b) 二十萬分ノ地形圖ノ梯尺

函數ハ $y = \frac{1}{20000}x (m) = \frac{1}{2000}x (cm)$

$x = 1000m$ トスレバ $y = 0.5cm = 5mm$

∴ 原点ヨリ5mm毎 = 1杆, 2杆, ...ノ分畫ヲ目盛ル (左側)

又 2.5cm毎 = 5杆, 10杆ノ分畫ヲ目盛ル (右側)



第 135 圖

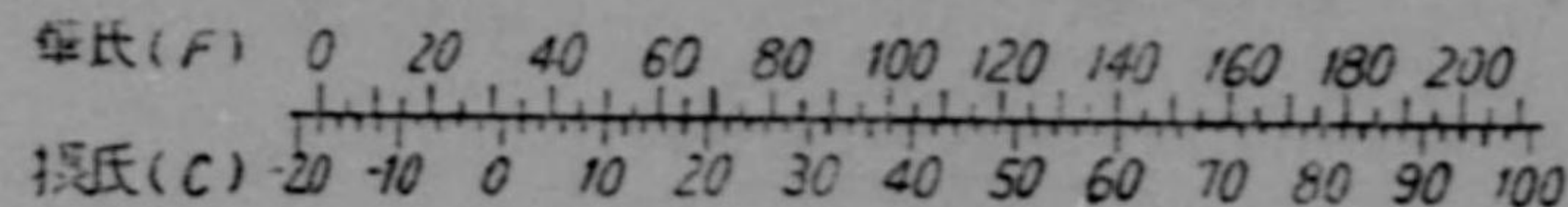
(iii) 溫度計

攝氏ノ度數ヲC, 華氏ノ度數ヲFトスルトキ

華氏: $y = \frac{5}{9}(F - 32) = \frac{5}{9}F - \frac{160}{9}$ (1)

攝氏: $y = C$ (2)

ノ函數尺ヲ背中合ハセニ作レバ溫度計ガ得ラレル。



第 136 圖

一般ニ變數 x 對スル一次函數 $f(x) = ax + b$ (a, b ハ常數) ノ函數尺ハ凡テ等間隔ノ目盛尺トナル。

(b) 不等間隔目盛尺

等間隔目盛尺ハ普通ノ物差デ別ニ變ツタコトハナイガ, 一般ノ函數ノ函數尺ハ不等間隔ノ目盛尺トナリ, 極メテ有効ナモノデアル。

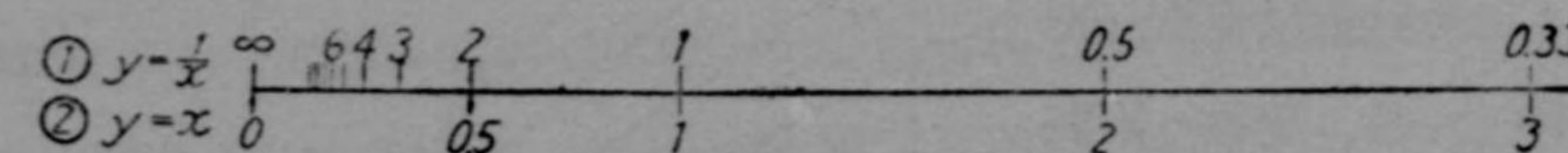
以下問題トシテ各種函數ノ函數尺ノ作り方ヲ説明シヨウ。

問題 1. $y = \frac{1}{x}$ ノ函數尺

變數 x ノ各値ニ應ズル函數 y ノ値ヲ計算シテ表ヲ作ル。

x	∞	6	5	4	3	2	1	0.5	0.33	0
$\frac{1}{x}$	0	0.16	0.2	0.25	0.33	0.5	1	2	3	∞

次ニコノ表ニヨリ函數ノ値ニ應ズル線分ヲ原点ヨリトリ, ソノ端ニ其ノ時ノ變數 x ノ値ヲ目盛レバ求メル函數尺①ガ得ラレル。但シ②ハ普通尺デアル。

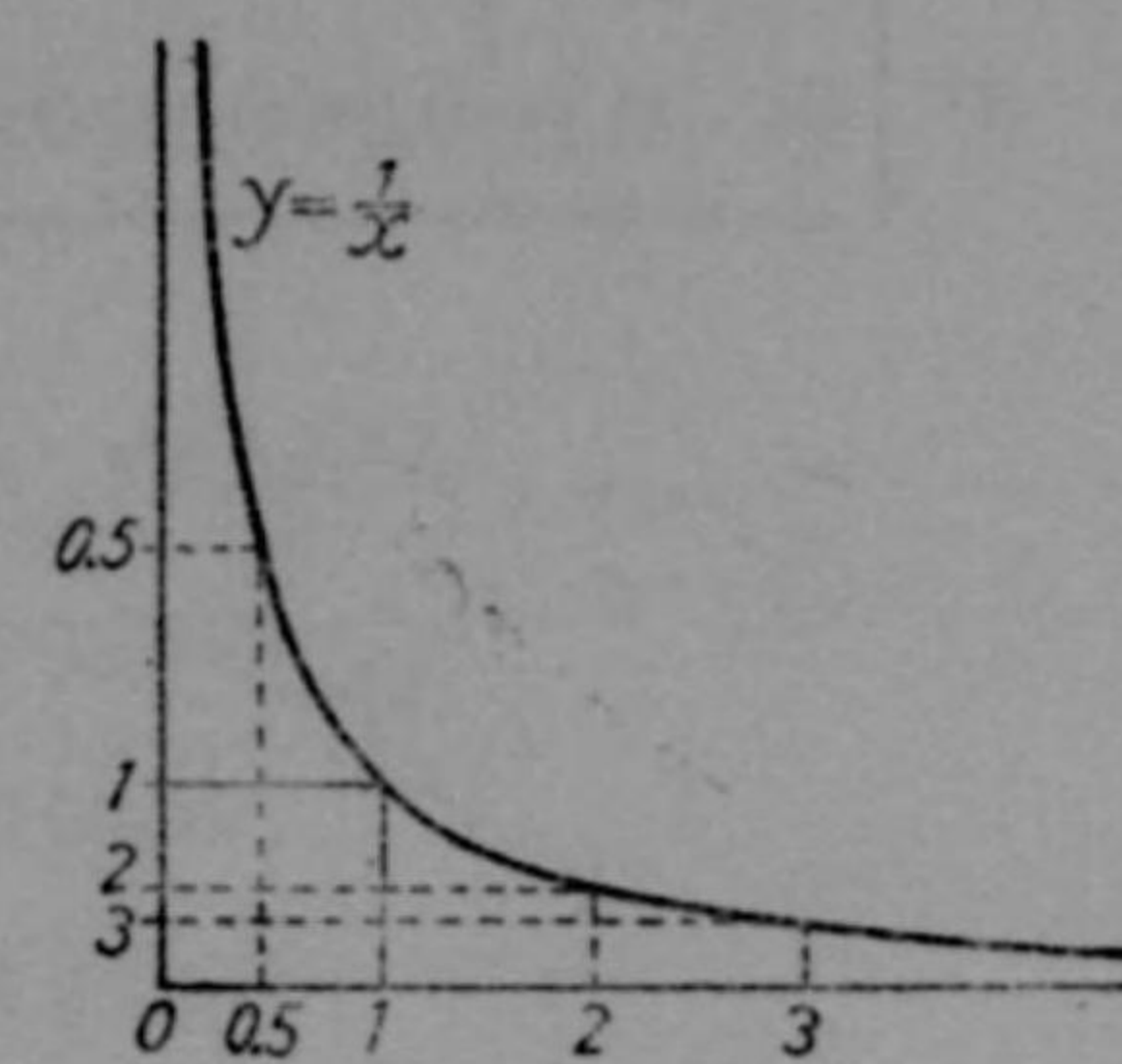


第 138 圖

ぐらふヲ利用シテ作ル方法ハ第137圖ニ依ツテ明カデアル。

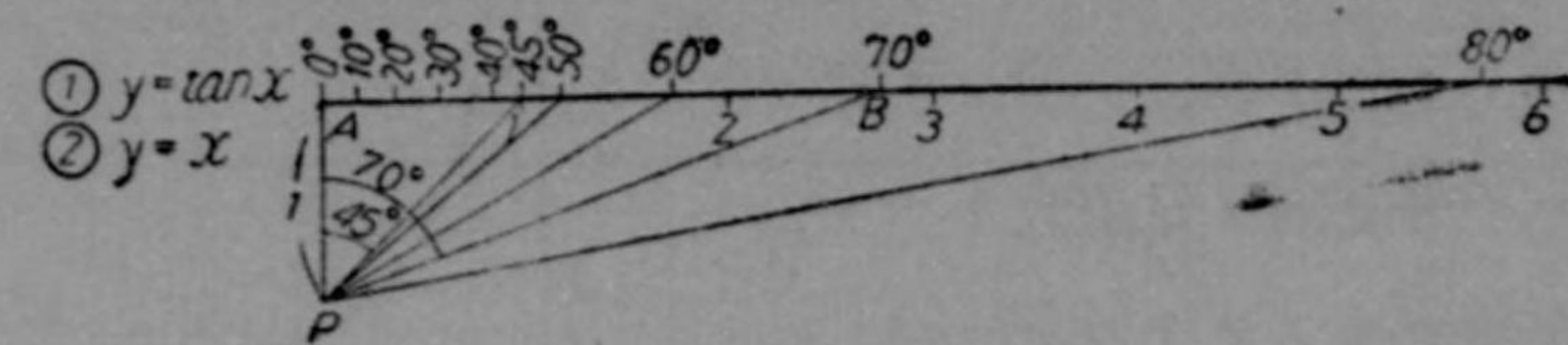
問題 2. $y = \tan x$ ノ函數尺 (正切尺又ハ正切線)

(1) 角度 x ニ應ズル y ノ値ヲ三角函數眞數表ヨリ求メ (小數點第二位以下四捨五入) レバ次表ガ得ラレルカラ, 之ニ基イテ函數尺ヲ作レバヨイ。



第 137 圖

x	10°	20°	30°	40°	45°	50°	60°	70°	80°	90°
y	0.18	0.36	0.58	0.84	1	1.19	1.73	2.75	5.67	∞



第 139 圖

上圖ニ於テ共通水平距離 (P—O 線) ヲ函數尺ノ單位ノ長サニト
レバ O ヨリ 45° 或ハ 70° ノ目盛迄ノ長サハ高サヲ表ハシ

$$\tan 70^\circ = \frac{AB}{PA} = \frac{AB}{1} = AB$$

$$\therefore AB = \tan 70^\circ = 2.75$$

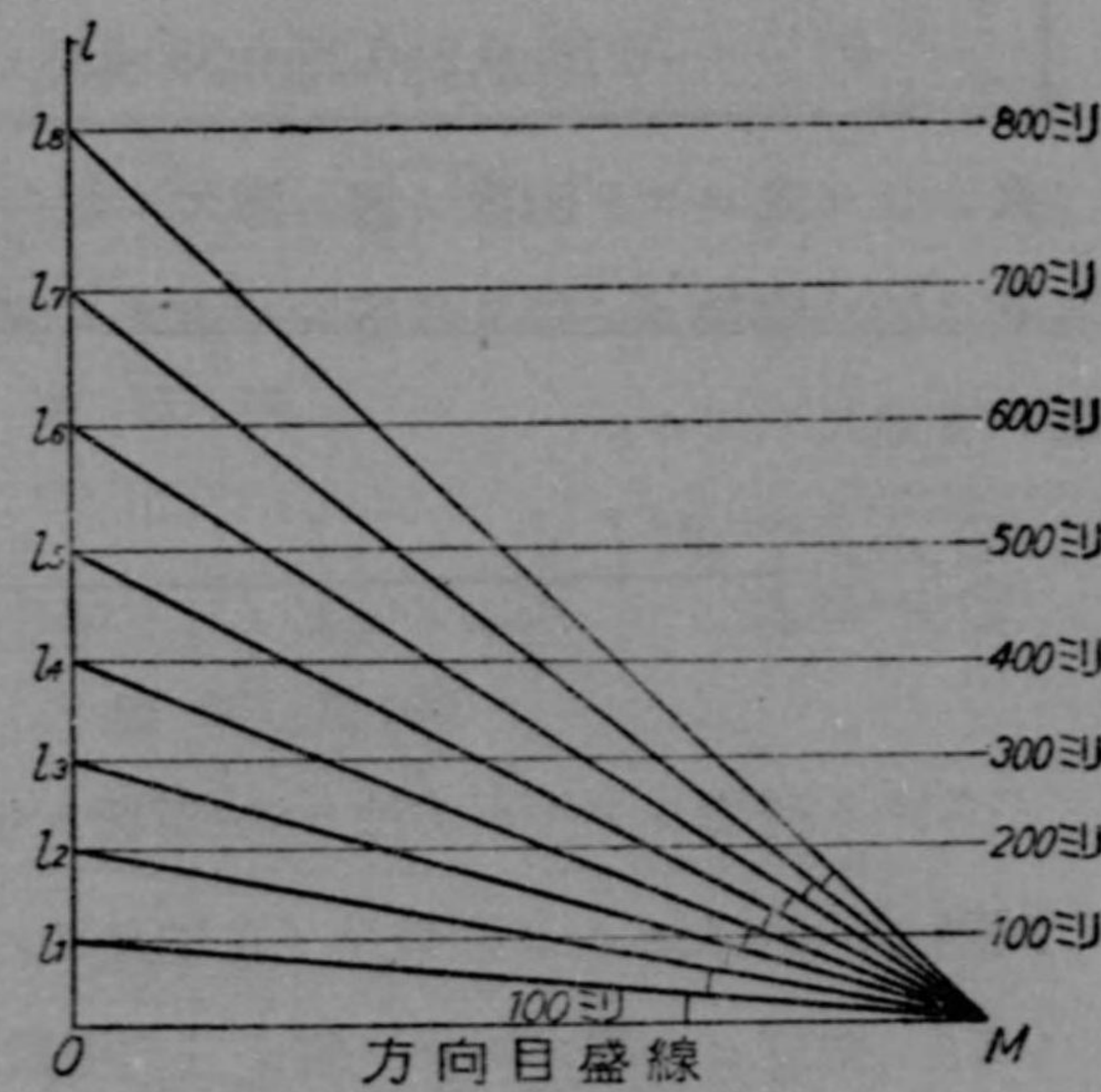
線分 P—45°, P—70° 等
ハ夫々 45°, 70° 等ノ傾斜
ヲモツ直線トナル。

(2) 交會法線圖

(砲兵射撃教範第一部
第三百五, 實物ハ附圖
ニアリ) コノ正切線モ
全ク(1)ト同様ニシテ
作ラレルガタダ函數ガ
 $20\text{cm} \times \tan \theta$ トナリ,

θ ガ密位デ測ラレテキ

ルノガ違フ。今密位ヲ刻ンダ分度器ヲ用フルコトトスレバ方向目盛



第 140 圖

線上ニ OM=20cm ニトリ, Mニ分度器ノ中心ヲオキ MOヲ零方
向トシ Ol 線上ニ逐次 100 密位 (或ハ 10 密位) 毎ニ Cl₁, Ol₂, Ol₃,
……ヲトリ, l₁, l₂, l₃……ヲ通リ OMニ平行線ヲ引キ, 其ノ端ニ密
位數ヲ記セバヨイ。

從ツテ

$$Ol_1 = 20\text{cm} \times \tan 100^\circ \text{密位} (=1.96\text{cm})$$

$$Ol_2 = 20\text{cm} \times \tan 200^\circ \text{密位} (=3.90\text{cm})$$

$$Ol_3 = 20\text{cm} \times \tan 300^\circ \text{密位} (=6.06\text{cm})$$

$$Ol_4 = 20\text{cm} \times \tan 400^\circ \text{密位} (=8.28\text{cm})$$

$$Ol_5 = 20\text{cm} \times \tan 500^\circ \text{密位} (=10.69\text{cm})$$

$$Ol_6 = 20\text{cm} \times \tan 600^\circ \text{密位} (=13.36\text{cm})$$

$$Ol_7 = 20\text{cm} \times \tan 700^\circ \text{密位} (=16.40\text{cm})$$

$$Ol_8 = 20\text{cm} \times \tan 800^\circ \text{密位} (=20.00\text{cm})$$

(正切ノ値ハ眞數表ヨリ求メル)

問題 3. 餘切梯尺 ($y = \cot x$)

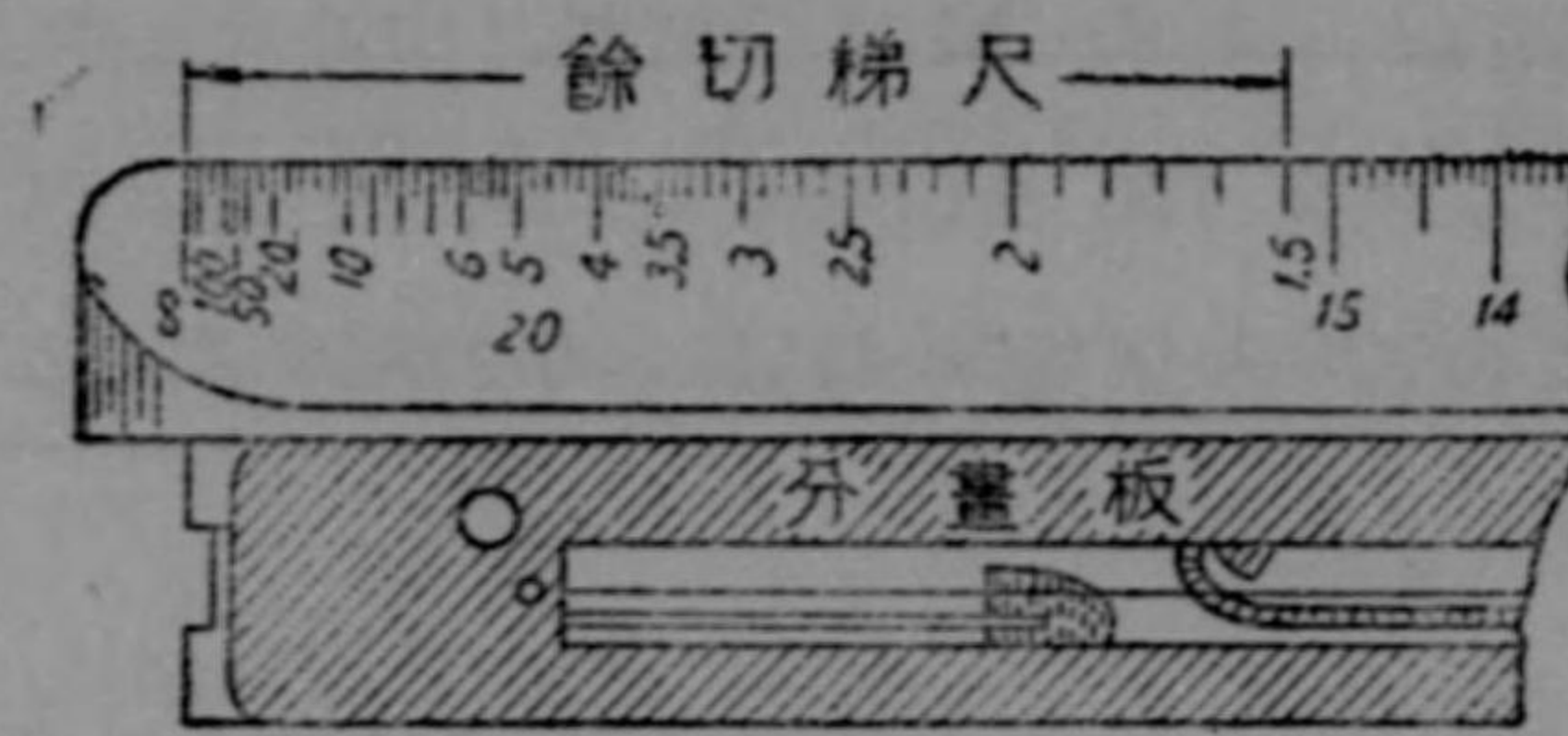
(1) 測斜儀ニ附隨セル餘切梯尺

コノ梯尺ノ目盛ハ通常ノ函數尺ノ目盛トハ多少異ナル。例ヘバ x
ガ 45° ナラバ $\cot 45^\circ = 1$, $x = 10^\circ 10'$ ナラバ $\cot 10^\circ 10' = 5$, ……等デア
カラ原點 O カラ 1 或ハ 5 ノ所ニ夫々 45°, 10°10' ノ如ク記セバ, 普通
ノ目盛方デアガ, 之ニハ傾斜分數ノ百分數ヲ目盛ル。

$$\text{例ヘバ } \cot x = \frac{OB}{OA} = \frac{OB}{1(\text{mm})} = OB (\text{mm}) \quad (\text{第141圖参照})$$

$$= \frac{1}{\tan x} = \frac{1}{\text{BAノ傾斜}} = \frac{1}{\frac{20}{100}} = 5$$

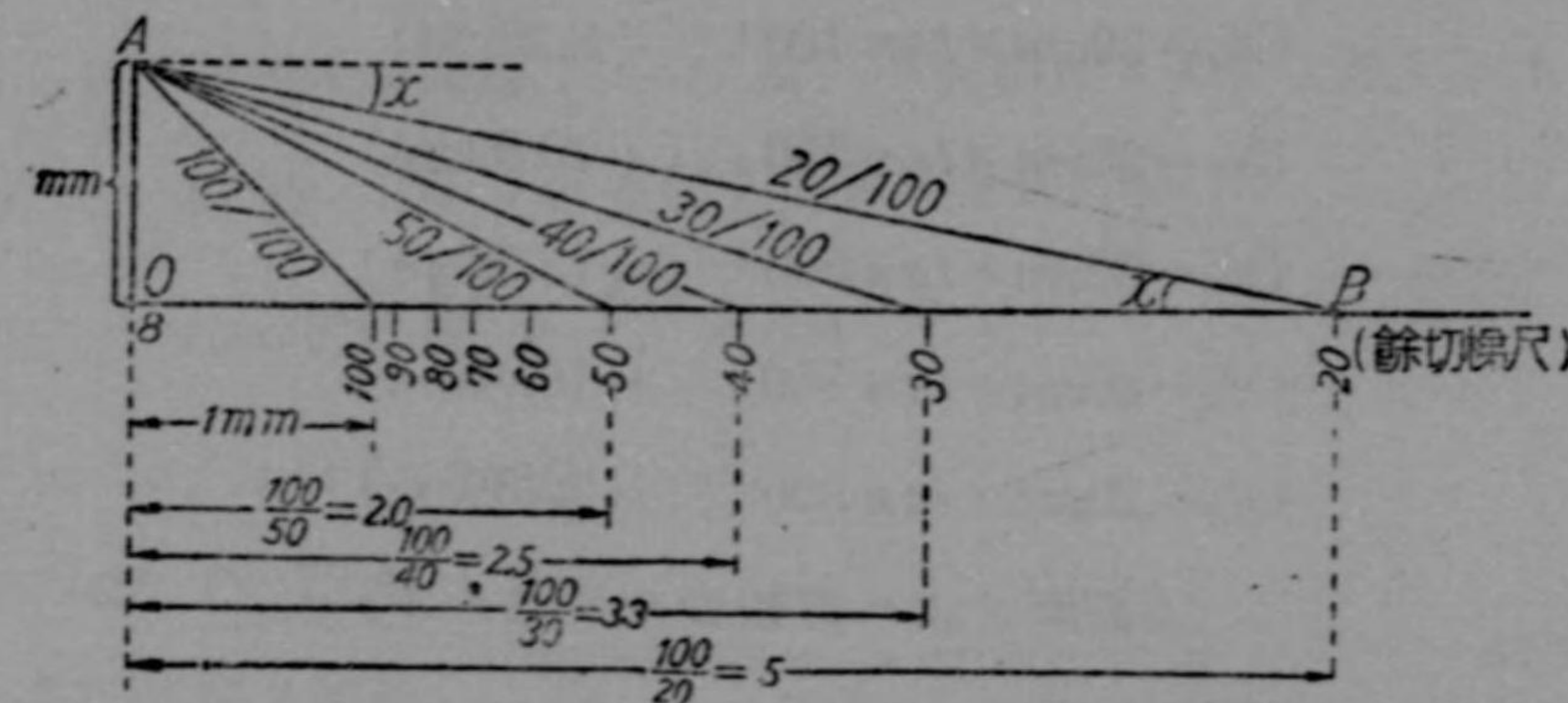
デアカラ圖ノ如ク原點 O カラ 5mm ノ B 點ニ 20 ト目盛ル。



(測斜儀)

第 141 圖

餘切梯尺要領圖



第 142 圖

從ツテ餘切梯尺ニヨツテ 1mmヲ高サトスル各種ノ傾斜ニ應ズル水平距離ヲ求メルコトガ出來ル。

即チ地圖ノ上デ水平曲線ノ間隔(相隣ル主曲線上ニアル二點間ノ水平距離)ヲ測リ、且其ノ傾斜ヲ求メルコトガ出來ル。

即チ圖上等距離(首曲線ヲ畫ククメニ設ケク水準面間ノ距離ヲ真等距離ト名附ケ、コレヲ其ノ地圖ノ梯尺ニ應ジテ縮尺シクモノヲ圖上等距離トイフ) 1mmノ圖ニ於テ曲線間隔ヲ測リ餘切梯尺上ニ $\infty-20$ ヲ得クトスレバ其ノ傾斜ハ $\frac{20}{100}$ デアル。或ハ圖上等距離 0.5mm(陸地測量部二萬分ノ一地形圖真等距離ハ 10mデアルカラ、

圖上等距離ハソノ二萬分ノ一デ 0.5mmトナル。)ノ地圖ニ於テハ餘切梯尺デ曲線間隔 $\infty-20$ ヲ得クトスレバ其ノ傾斜ハソノ二分ノ一即チ $\frac{10}{100}$ トナル。(次圖參照)

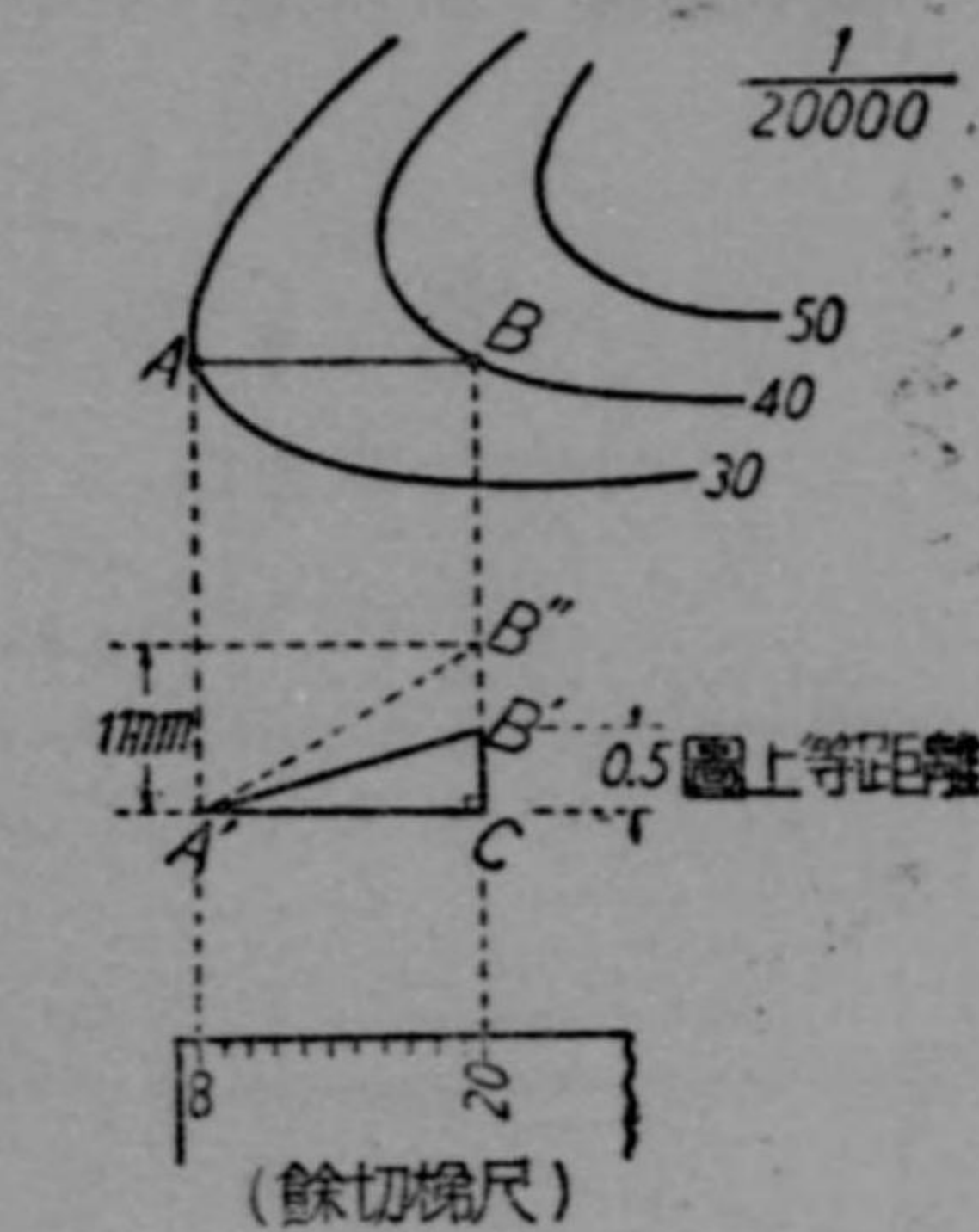
說明 { 真等距離 = 10m
圖上等距離 = 0.5mm

ABヲ含ム垂直平面ニヨル切口上ニ
 $\triangle A'B'C$ ($B'C=0.5mm, \angle C=90^\circ$)
 $\triangle A'B''C$ ($B''C=1mm, \angle C=90^\circ$)

ヲ作レバ ABハ餘切梯尺デ測ツテ $\infty-20$ デアルカラ A'Cモ之ニ等シイ。

$$A'B'ノ傾斜 = A'B''ノ傾斜ノ \frac{1}{2}$$

$$= \frac{20}{100} \times \frac{1}{2} = \frac{10}{100}$$



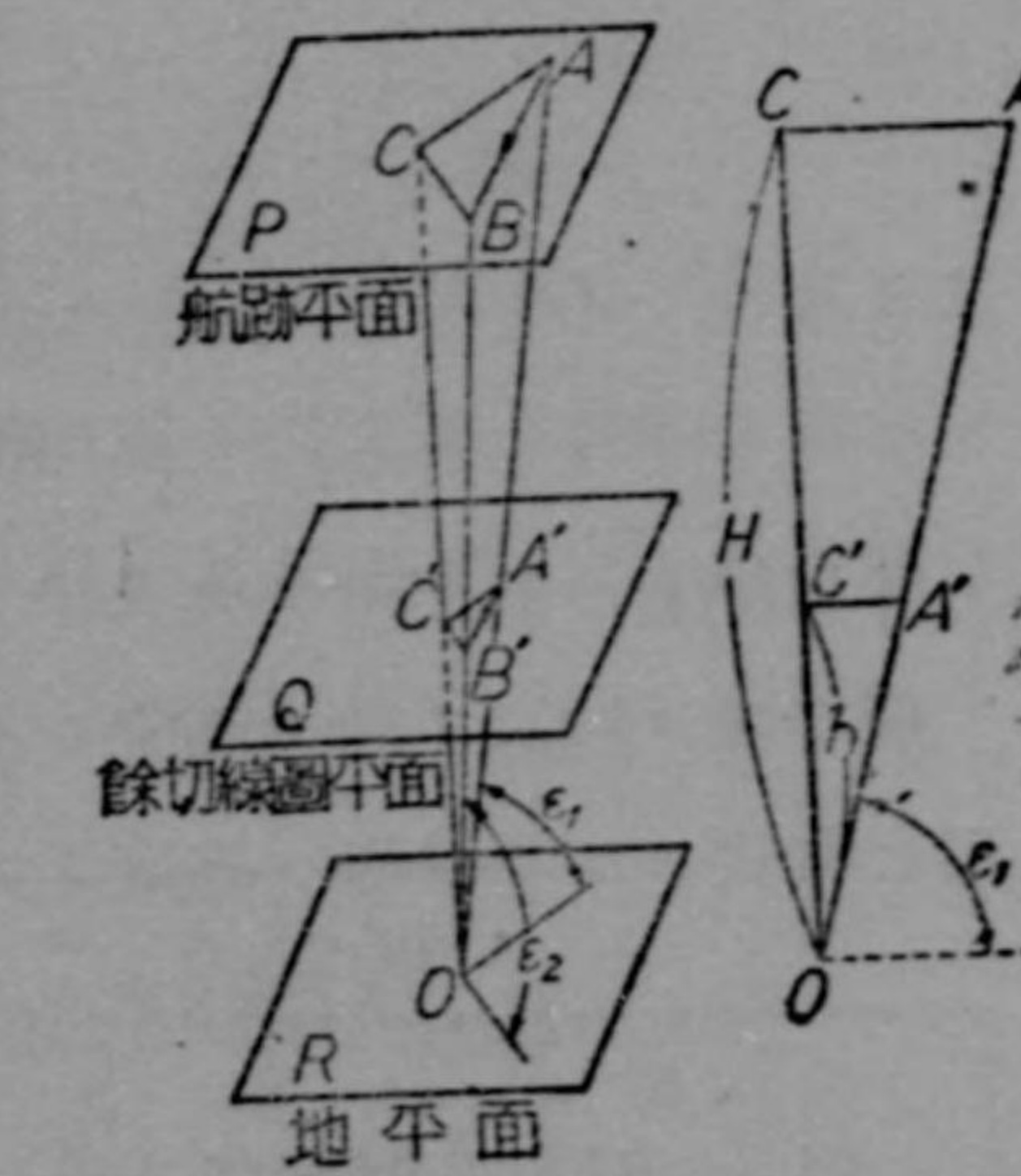
第 143 圖

問題 4. 餘切線圖

右圖ニ於テ高度 Hmナル目標ガ Aヨリ Bニ向ヒ水平ニ飛行スルモノトシ、Rヲ地平面、Oヲ聽音機、Qヲ餘切線圖ノ水平面、ABヲ含ム水平面ヲ Pトスレバ

$$\left. \begin{aligned} C'A' &= h \cot \varepsilon_1 \\ C'B' &= h \cot \varepsilon_2 \end{aligned} \right\} \dots\dots(1)$$

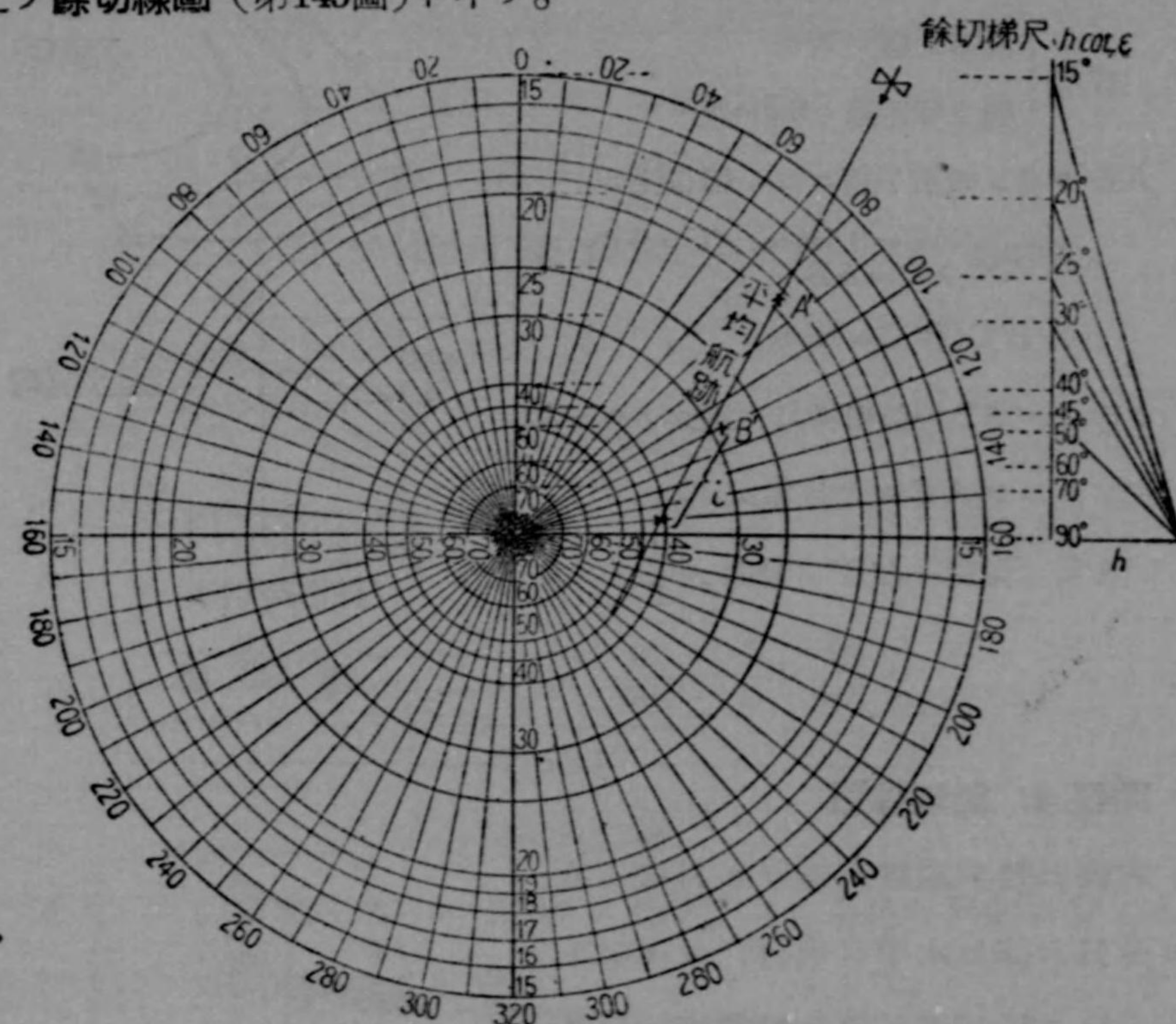
$$A'B' = \frac{h}{H} AB \dots\dots(2)$$



第 144 圖

故ニ豫メ hヲ決定シテオイト各種高低角 ε° ニ應ズル $h \cot \varepsilon$ ノ値ヲ求メコレヲ半径トスル同心圓ト方

向角(密位)ヲ表ハスベキ半徑線トヲ畫イテ置キ聽音機ニヨリ得タ高低角及ビ方向角ニヨリ逐次其ノ位置ヲコノ線圖上ニ記セバ目標航跡ノ投影圖ヲ畫キ得テ高度、航速ノ一方ヲ知レバ他方ガ求メラレル。之ヲ餘切線圖(第145圖)トイフ。



第 145 圖

餘切線圖ノ使用例ヲ次ニ示ス。

飛行機ノ航速ヲ別ニ測定シ得クトキハ上圖ノ如クシテ求メタ i ヲ用ヒ次式ニヨリ目標ノ高度ヲ求メルコトガ出來ル。

$$H = \frac{V \times t \times e}{i}$$

但シ H: 目標高度(米), V: 航速(米/秒)

t: 基準ノ秒時, e: 餘切線圖ノ高サ(糧)

i: 基準秒時ニ應ズル平均航跡ノ長サ(糧)

其ノ理ハ第144圖ヨリ

$$AB = Vt, \quad A'B' = i, \quad OC = H, \quad OC' = e$$

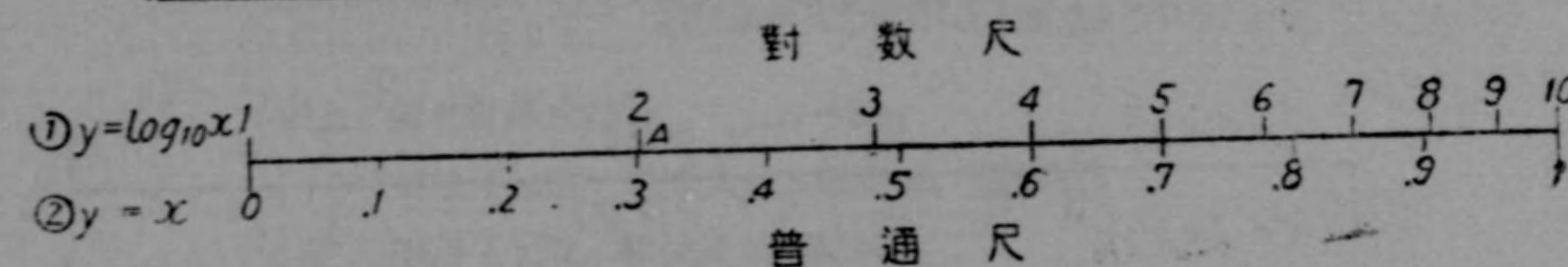
之ヲ $\frac{OC}{OC'} = \frac{OB}{OB'} = \frac{AB}{A'B'}$ ニ代入シテ $\frac{H}{e} = \frac{Vt}{i}$

問題 5. 對數尺及ビ計算尺ノ原理

(1) 對數尺 ($y = \log_{10} x$)

對數表ヨリ次ノ如ク x ト y トノ表ヲ作り (y ノ値ハ小數點第二位以下四捨五入) 適當ナル長サヲ單位トシテ函數尺ヲ作レバヨイ。之ヲ對數尺トイヒ利用ノ範圍ハ極メテ廣イ。(第 146 圖)

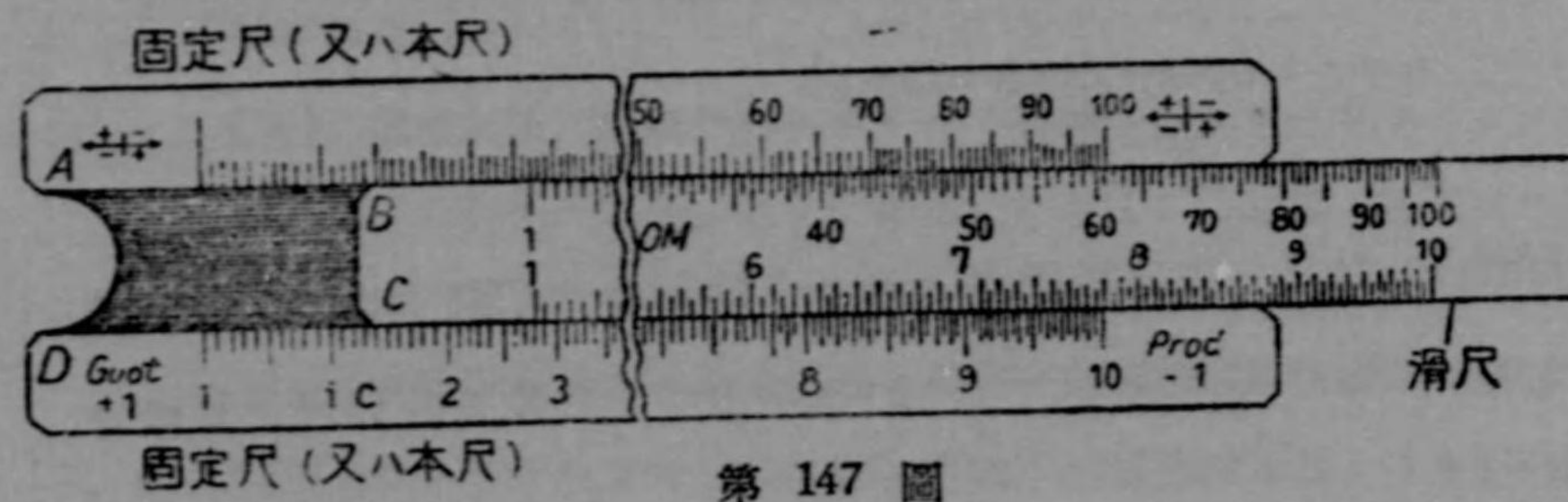
x	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
$y = \log_{10} x$	0.00	0.30	0.48	0.60	0.70	0.78	0.85	0.90	0.95	1.00



第 146 圖

(2) 計算尺ノ原理

計算尺ハ上述ノ對數尺ヲ利用シテ乘法、除法、開方等ノ計算ヲ近似的ニ行フ機械デ、利用ノ範圍ハ極メテ廣ク、又其ノ目的ニ應ジテ各種ノモノガ作ラレテキルガ、茲デハ最モ基本的ナモノニ關シ簡單ニ其ノ原理丈ケヲ述ベルコトトスル。



第 147 圖

第147圖=於テA, D尺ヲ臺尺, B, C尺ヲ滑尺トイヒ,

C尺, D尺ハ共ニ $y = \log_{10} x$ ナル對數尺デ同一目盛,

A尺, B尺ハ共ニ $y = \frac{1}{2} \log_{10} x$ ナル對數尺デ同一目盛

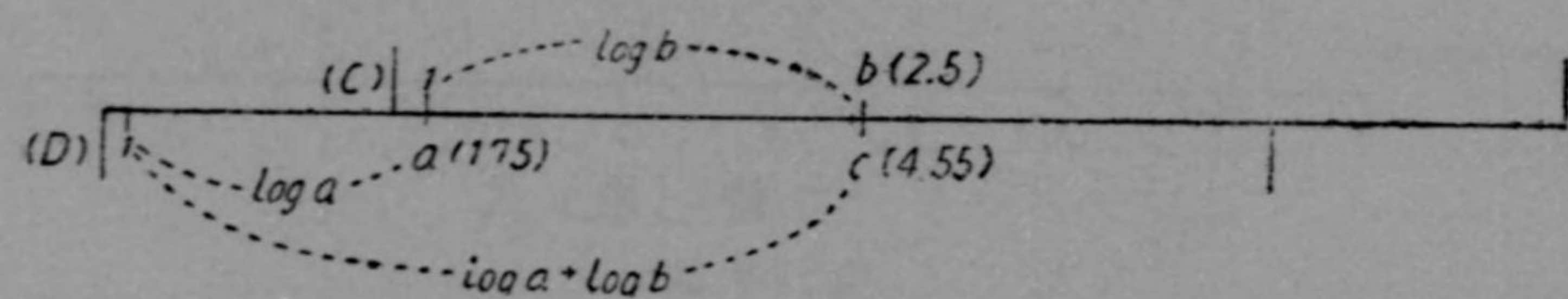
(以下底10ヲ省略スル)

デアル。從ツテ長サノ單位ハA, B尺ノ方ハC, D尺ノ單位ノ $\frac{1}{2}$ デアル。

(乘法) C尺トD尺或ハA尺トB尺ヲ使フ。

今C尺ヲ右(或ハ左)ニ動カシテC尺ノ1(或ハ10)ヲD尺ノ a (例ヘバ1.75)ニ合ハセレバC尺上ノ目盛 b (例ヘバ2.5)ノ眞下ニアルD尺上ノ目盛 c (例ヘバ4.55)ヲ讀メバ c ハ a, b ノ積デアル。

$$a \times b = c \quad (1.75 \times 2.5 = 4.55)$$



(理由)

第 148 圖

其ノ構造ヨリ

C尺ニ於テ1ヨリ b 迄ノ長サハ $\log b$

D尺ニ於テ1ヨリ a 迄ノ長サハ $\log a$

從ツテD尺ニ於テ1ヨリ c 迄ノ長サ $\log c$ ハ

$$\log c = \log a + \log b = \log ab$$

$$\therefore ab = c$$

(除法) D尺ノ上ニ被除數 c ヲトリ除數 b ヲC尺上ニトリ兩者ヲ一致セシメレバ其ノ時ノC尺ノ1(或ハ10)ト一致スルD尺ノ目盛 a ヲ讀メバ

$$c \div b = a$$

トナル。理由ハ第148圖カラ明カデアル。

(平方) D尺ノ目盛 a ノ眞上A尺ノ目盛ヲ讀ミ b ヲ得レバ

$$a^2 = b$$

(理由) D尺ニ於テ1ヨリ a 迄ノ長サハ $\log a$

A尺ニ於テ1ヨリ b 迄ノ長サハ $\frac{1}{2} \log b$

兩者ノ長サ相等シイカラ

$$\log a = \frac{1}{2} \log b \quad \therefore 2 \log a = \log b$$

$$\therefore \log a^2 = \log b \quad \therefore a^2 = b$$

(開方) A尺ノ目盛 a ノ眞下D尺ノ目盛ヲ讀ミ b ヲ得レバ $\sqrt{a} = b$ 。

(理由ハ平方ノ場合ニ同ジ)

以上ノ如ク計算尺ハ

- (i) 乘法(二數ノ乘法及ビ三數以上ノ連乘法)
- (ii) 除法(二數ノ除法及ビ連除法)
- (iii) 混合乗除法
- (iv) 比例式解法及ビ百分率
- (v) 二乗及ビ平方根
- (vi) 立方及ビ立方根
- (vii) 滑尺ノ裏目ヲ用ヒテ三角函數値ヲ求ムルコト

等ノ計算ニハ極メテ便利デアル。

然シ乍ラ

- (i) 通常加法, 減法ハ行ヘナイカラ算盤ト並用スルガヨイ。
- (ii) 近似計算デアル。從ツテ概算ニハヨイガ(通常ノ計算尺ナラバ三桁迄ハ正確ニ讀メル。)金錢ノ計算等ニハ不向キデアル。

然シ乍ラ軍隊ニ於テモ火炮兵器ノ設計ハ勿論射撃, 築城ノ計算等ニハ盛ニ使用セラレテキルガ今一步ヲ進メテ例ヘバ或兵站基地ヨリ先遣部隊ニ對

スル某日間ノ糧秣ノ自動貨車或ハ駄馬ヲ以テスル補給計畫ノ樹立ノ如キハ凡テ乘法、除法ノ混合算デアルカラ計算尺ハ極メテ便利デアリ、之ガ普及ヲ望ム。

問題 6. 測高機ノ原理

右圖ニ於テ飛行機Pノ高度ヲHm、直距離ヲDm、高低角ヲεトスレバ

$$H = D \sin \epsilon \dots\dots\dots(1)$$

兩邊ノ對數ヲトレバ

$$\log H = \log D + \log \sin \epsilon$$

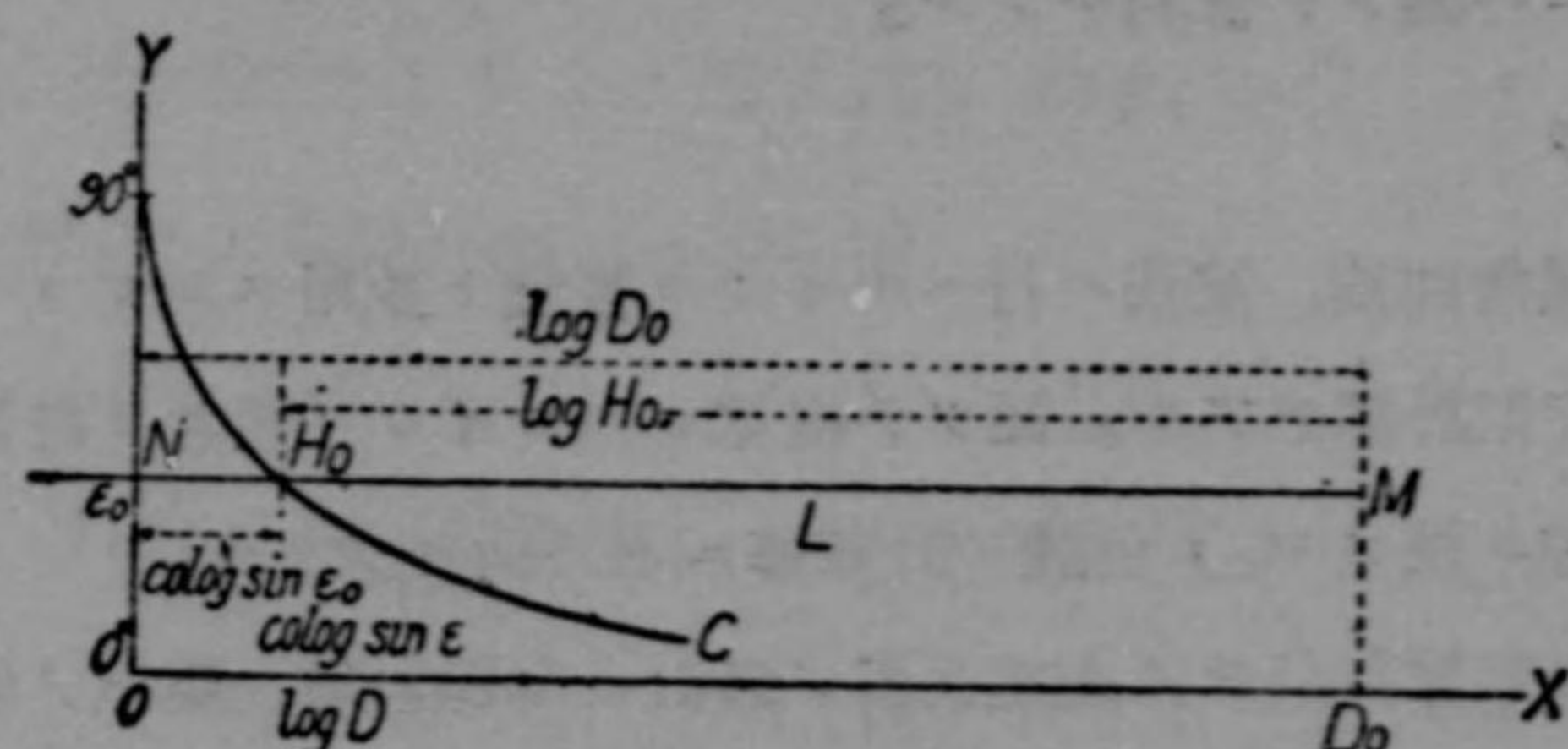
$-\log \sin \epsilon = \operatorname{colog} \sin \epsilon$ ヲ用ヒテ右邊ヲ差ノ形ニ直セバ

$$\log H = \log D - \operatorname{colog} \sin \epsilon \dots\dots\dots(2)$$

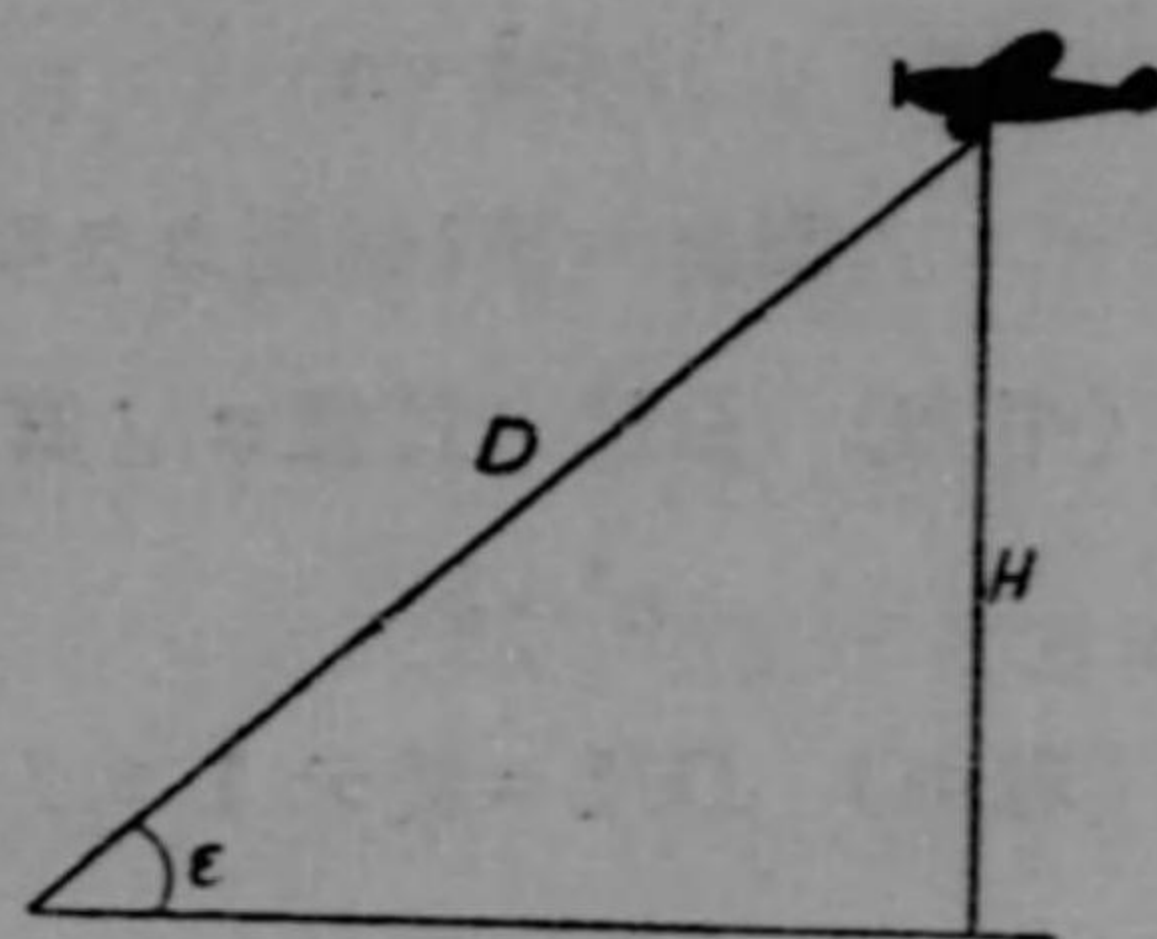
對數尺 $\log D$ 及ビ曲線 $\operatorname{colog} \sin \epsilon$ ヲ用ヒテHヲ求メル測高機ノ原理ハ下圖ニ示ス如クデアル。

即チ曲線Cハ高低角εヲ縱座標ニ、 $\operatorname{colog} \sin \epsilon$ ノ値ヲ横座標ニトツテ畫イタモノデアリ、又横軸OX上ニハ對數尺 $\log D$ ヲ目盛ル。別ニ之ト同ジ對數尺LヲOXニ平行ニ動カシテ高度ヲ求メル。

今直距離 D_0 、高低角 ϵ_0 ヲ得タトスレバ對數尺Lノ原點MヲOX



第 150 圖



第 149 圖

上ノ目盛 D_0 ニ、又高低角 ϵ_0 ヲOY軸ノ目盛ニ合ハセレバ對數尺Lト曲線Cトノ交點ノL上ノ目盛 H_0 ハ求ムルモノデアル。

何トナレバ

$$MN = \log D_0, \quad H_0N = \operatorname{colog} \sin \epsilon_0.$$

$$\therefore MH_0 = \log H_0 = \log D_0 - \operatorname{colog} \sin \epsilon_0.$$

36. 共點圖表

三變數ノ間ノ關係式ヲ圖ニ示ス方法ヲ考ヘルニ先ダチ次ノ例ヲ示ス。

例 1 地圖ニ於ケル緯度線、經度線ト等高線。

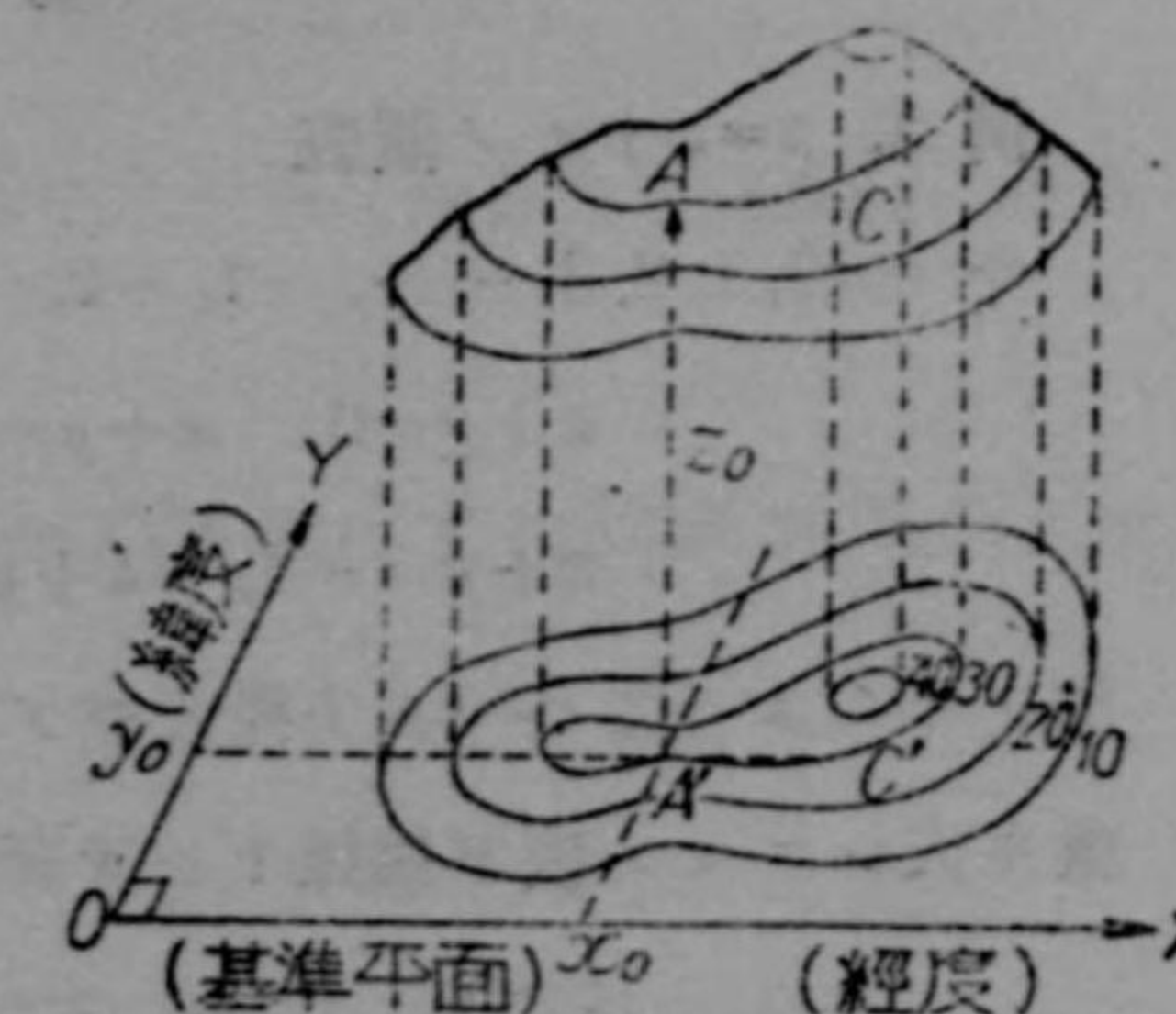
例ヘバ富士山ノ頂上ハ(五萬分ノ一地圖ニヨル)

北緯 $35^\circ 21' 26''$ 、東經 $138^\circ 31' 18.5''$ 標高 $3776.3m$

デアルトイヘバコノ頂上ガ地球上如何ナル地點ニ在ルカガ分ル。

即チ緯度、經度ニ依ツテ地球表面上ノ位置ガ分リ標高ニ依ツテ其ノ上方何米ニアルカガ知ラレル。

一般ニ地圖ハ基準平面ニ平行デ且等間隔ナ平面ニ依ツテ切ツタ切口ヲ基準平面上ニ投影シ標高ヲ附シタモノデアルカラ高地上ノ點Aハ地圖ヨリ



第 151 圖

緯度 ϕ 、經度 λ 、標高 z_0

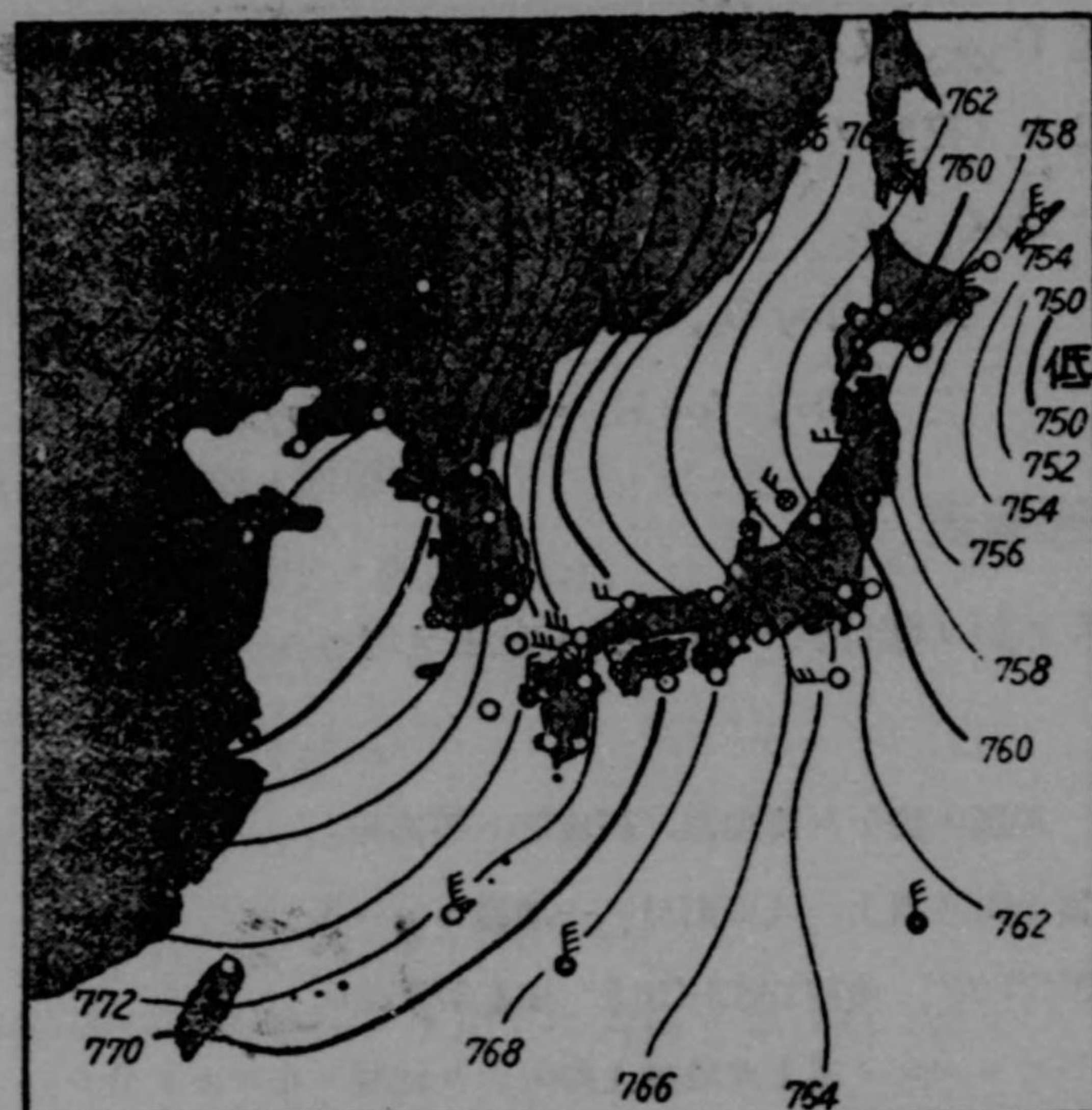
ヲ求メルコトニ依ツテ其ノ位置ガ知

ラレル。即チ緯度線、經度線ト等高線トハ一ノ點A'ヲ共有シテキル。

例 2. 天氣圖ノ等壓線

天氣圖ニ於テハ地球上氣壓ノ等シイ地點ヲ曲線(之ヲ等壓線トイフ)

ヲ結ブカラ緯度線、經度線及ビ等壓線ノ三曲線ニ依ツテ所望ノ地點ノ三要素ガ分ル。(第152圖ハ緯度、經度線ハ省略ス)



第 152 圖

例 3. $z=x+y$ の圖表

今 $z=0, 1, 2, 3, \dots, -1, -2, -3, \dots$ 等ノ値ヲ與ヘルトキ生ズル

$x+y=0, x+y=1, x+y=2, x+y=3, \dots$

$x+y=-1, x+y=-2, x+y=-3, \dots$

等ノぐらふ(之ハ一次方程式デアラカラ直線トナル)ヲ直角座標平面上ニ
畫キ夫レニ z ノ値ヲ指標トシテ記入シタ直線群

$$\left. \begin{aligned} z=0, z=1, z=2, z=3, \dots \\ z=-1, z=-2, z=-3, \dots \end{aligned} \right\} (1)$$

ト座標軸ニ平行ナ縦、横ノ直線群

$x=\pm 1, x=\pm 2, x=\pm 3, \dots (2)$

$y=\pm 1, y=\pm 2, y=\pm 3, \dots (3)$

ヲ以テ第153圖ノ如キ線圖ヲ作ル。

スルト此ノ圖ニ於テハ同一ノ點例ヘバ A ヲ過グル三直線ハ

$x=1, y=2, z=3 \dots (4)$

デアラカラ點 A (1,2) ハ $Z=3$
ノ直線上ニアツテ、 x ノ値 1 ト
 y ノ値 2 トノ和ガ z ノ値 3 デア
ルコトガ分ル。

即チ(4)ノ一組ノ値ハ方程式
 $z=x+y$ ヲ満足スルコトニナル。

從ツテコノ線圖ヲ用ヒテ加法
減法ヲ行フコトガ出來ル。例ヘ
バ 2 ト 3 トノ和ヲ求メルハ直
線 $x=2, y=3$ ノ交點ガ $z=5$ ノ
上ニアルカラ $2+3=5$ トナル。

3-2 ヲ計算スルハ直線 $z=3$

ト $x=2$ トノ交點 B ノ y 座標 1 ハ求ムモノトナル。(或ハ直線 $x=3$ ト
 $y=-2$ トノ交點ハ $z=1$ ノ上ニアルカラ答ハ 1 デアル)

注意 本例ニ於ケル縦線、横線、斜線ハ夫々例 1ニ於ケル緯度線、經度
線、等高線ニ相應スル。

定義 三ツノ變數 x, y, z ノ間ニ $z=f(x, y)$ ナル關係ガアルトキ
 $z=z_0, z_1, z_2, \dots$ 等ノ値ヲ與ヘテ

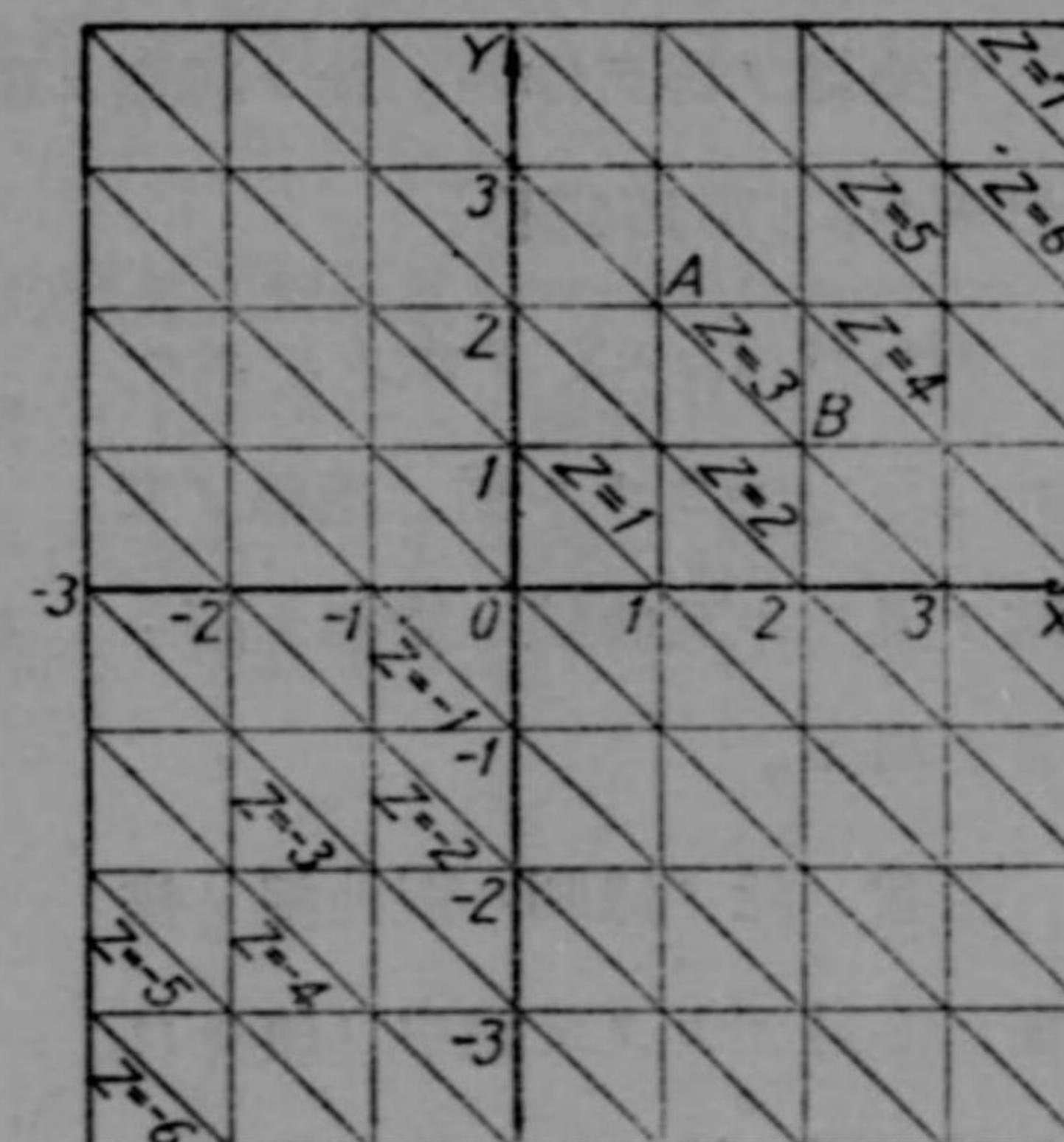
$f(x, y)=z_0, f(x, y)=z_1, f(x, y)=z_2, \dots$

等ノぐらふヲ $x-y$ 座標平面上ニ畫キ(之ヲ z ノ等値曲線トイフ)
コレニ夫々 z_0, z_1, z_2, \dots 等ノ指標ヲ與ヘ、又

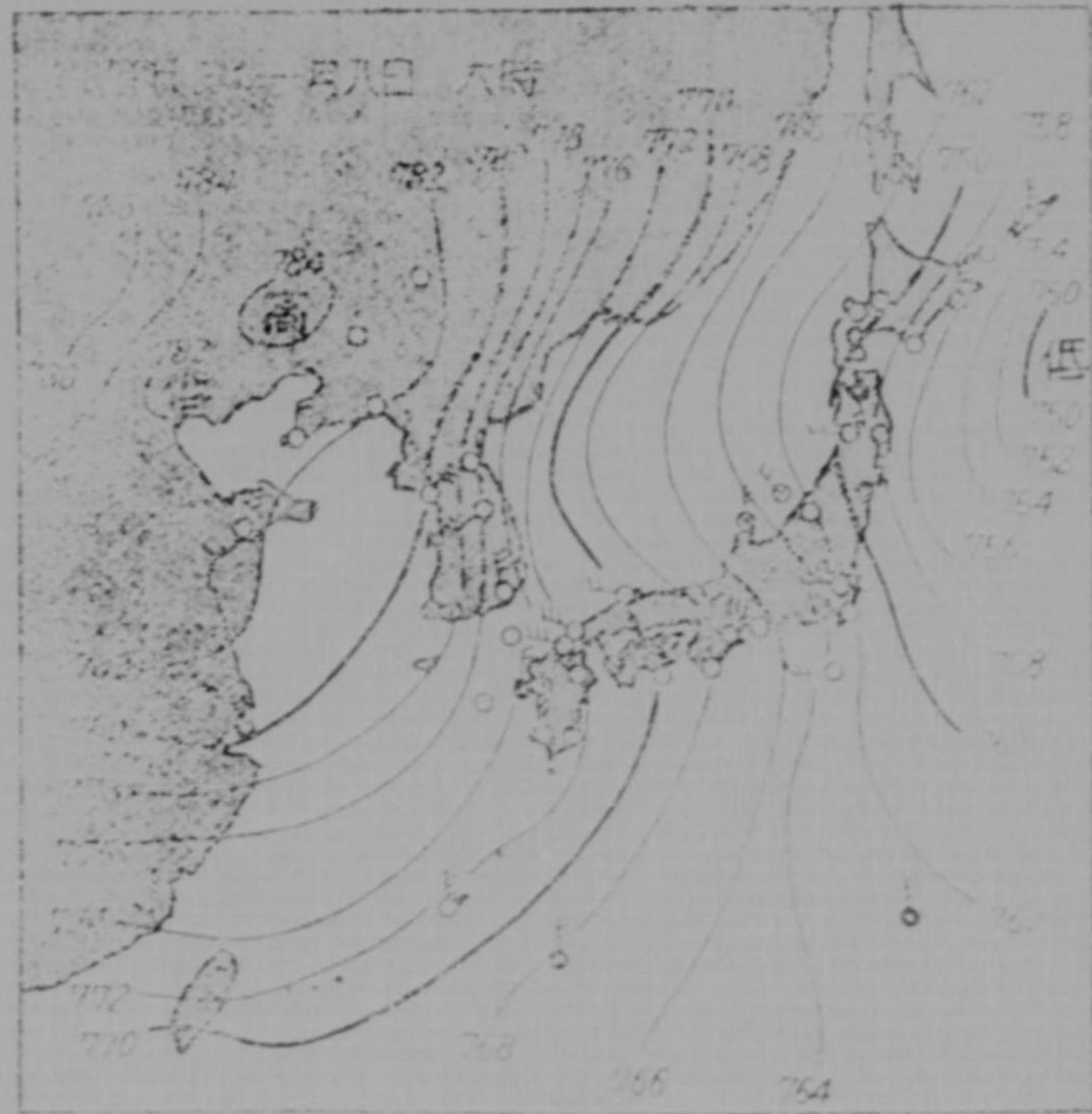
$x=\pm 1, \pm 2, \pm 3, \dots, y=\pm 1, \pm 2, \pm 3, \dots$

等ノ縦、横ノ直線群ヲ作レバ之ヲ $z=f(x, y)$ ノ共點圖表トイフ。

之ニ依レバ x, y, z ノ内ノ二ツヲ與ヘレバ他ノ一ツハ簡單ニ求メ
ラレル。



第 153 圖



例 3. 等圧線圖表

例 3. 等圧線圖表

今、 x, y, z を、 $x = 1, 2, 3, \dots, 10$ 、 $y = 1, 2, 3, \dots, 10$ 、 $z = 1, 2, 3, \dots, 10$ の各値に、 $x^2 + y^2 + z^2$ の値を計算し、その結果を、 x, y, z の各値の組合せごとに、表に記入せよ。

また、 x, y, z の各値の組合せごとに、 $x^2 + y^2 + z^2$ の値の最大値と最小値を求め、その差を計算せよ。

以上を、 x, y, z の各値の組合せごとに、表に記入せよ。

例 4. 等温線圖表

今、 x, y, z を、 $x = 1, 2, 3, \dots, 10$ 、 $y = 1, 2, 3, \dots, 10$ 、 $z = 1, 2, 3, \dots, 10$ の各値に、 $x^2 + y^2 + z^2$ の値を計算し、その結果を、 x, y, z の各値の組合せごとに、表に記入せよ。

また、 x, y, z の各値の組合せごとに、 $x^2 + y^2 + z^2$ の値の最大値と最小値を求め、その差を計算せよ。

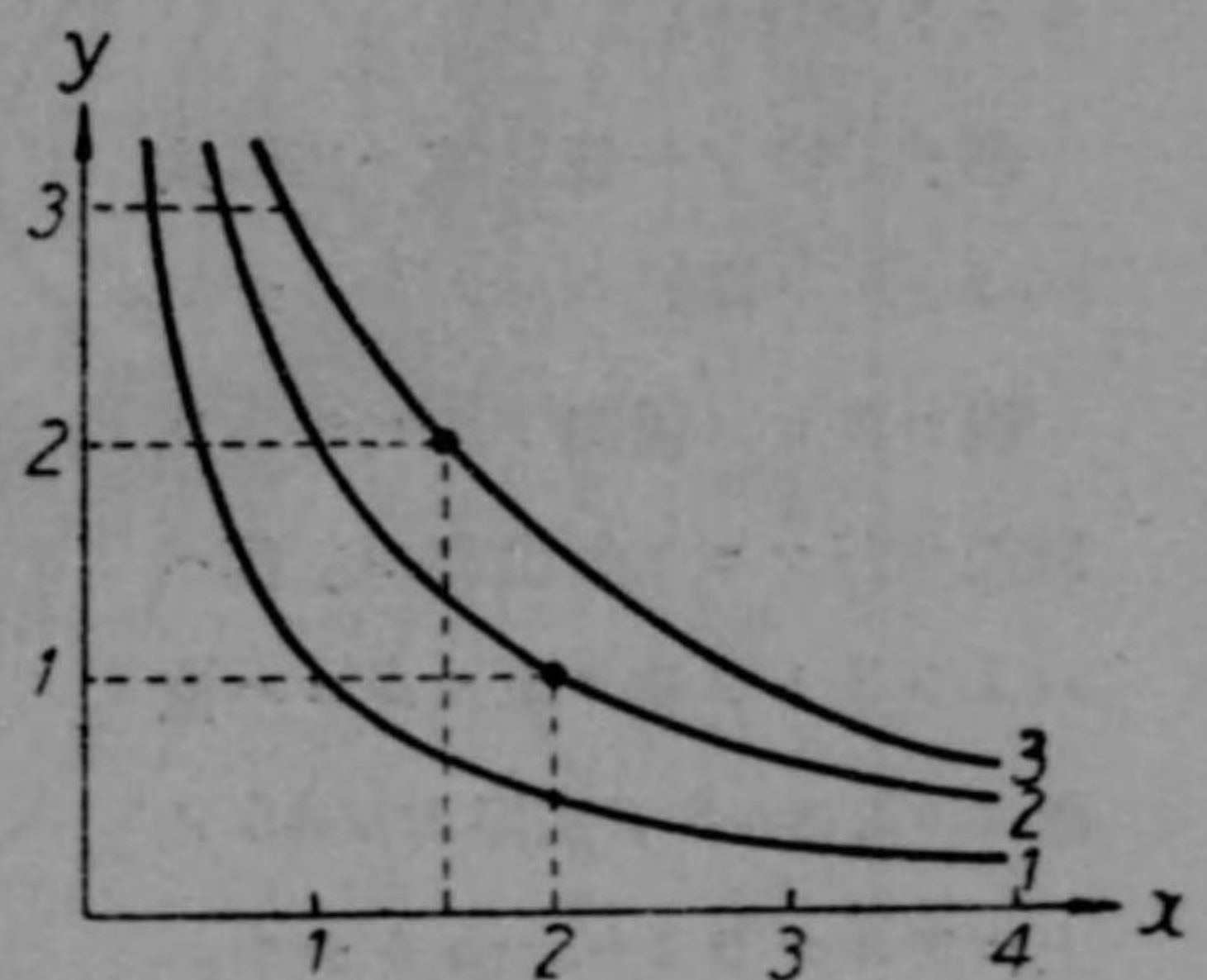
以上を、 x, y, z の各値の組合せごとに、表に記入せよ。

問題 1. $z=xy$ ノ共點圖表 (其一)

$z=1, 2, 3, \dots$ トスルトキ $xy=1, xy=2, xy=3, \dots$ ハ双曲線ノ群ヲ作ル。此ノ線圖ニ依レバ乗、除ノ計算ヲ行フコトガ出來ル。(第154圖)

例ヘバ 1.5×2 ヲ求メルニハ $x=1.5$ $y=2$ ナル縦、横線ノ交點ヲ過ギル双曲線ノ指標ヲ讀ミ 3 ヲ得ル。

注意 此ノ線圖ハ双曲線ノ描畫ガ容易デナク又途中ノ値モ目分量デ讀ミ難イカラ餘リ實用ニハナラナイ。之ガタメ次ノ方法ヲ用フルガ便利デアル。



第 154 圖

問題 2. $z=xy$ ノ共點圖表 (其二)

與式ノ對數ヲ取レバ

$$\log z = \log x + \log y$$

依ツテ $X = \log x, Y = \log y,$

$Z = \log z$ トオケバ $Z = X + Y$

トナル故ニ對數尺 $X = \log x,$

$Y = \log y$ ヲ座標軸トスル座

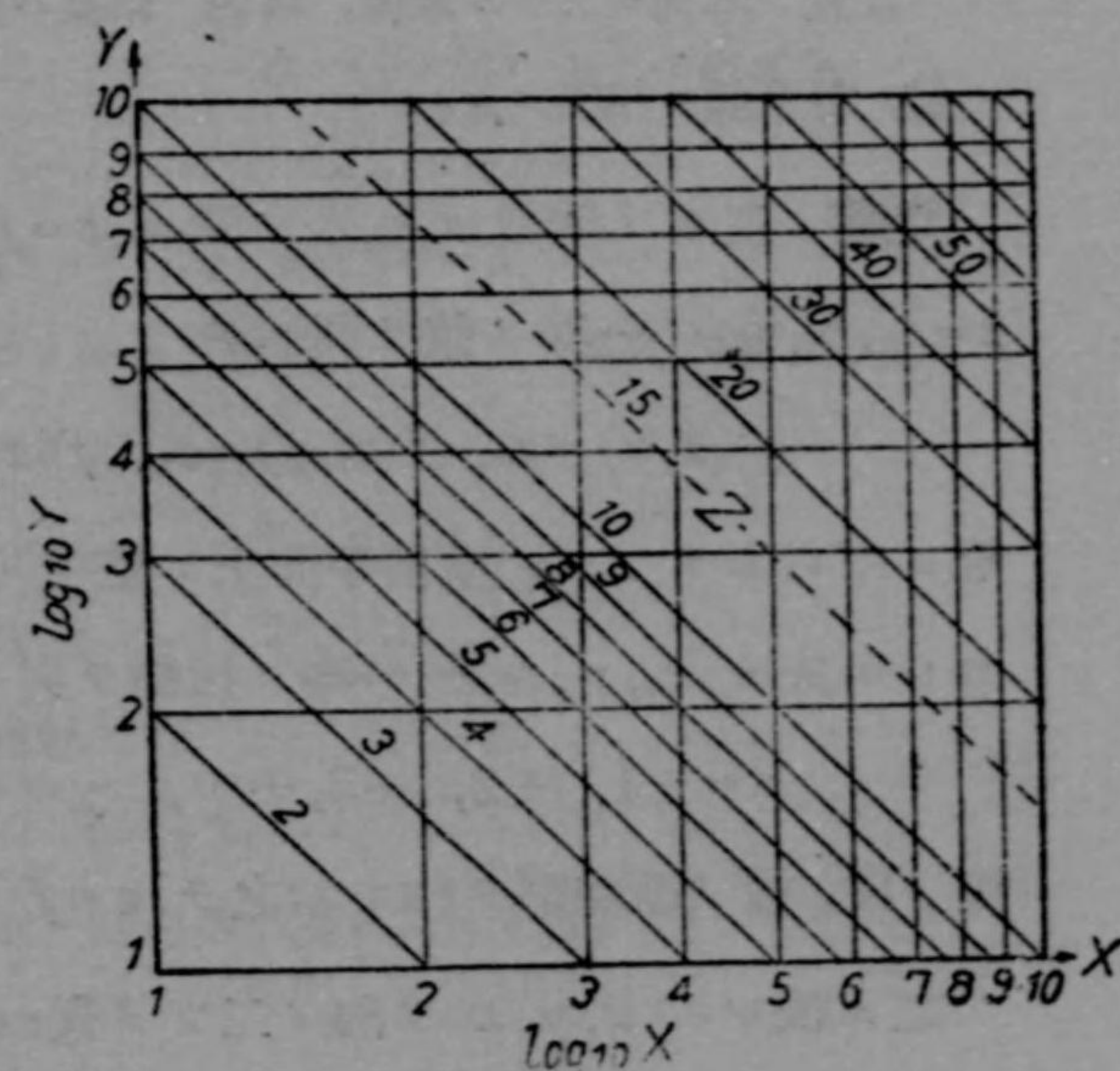
標平面ヲ作り (之ガタメニ

ハ對數方眼紙ヲ用フ。)

$Z=1, 2, 3, \dots$ トスルト

キ $X+Y=1, X+Y=2,$

$X+Y=3$ 等ノぐらふヲ畫

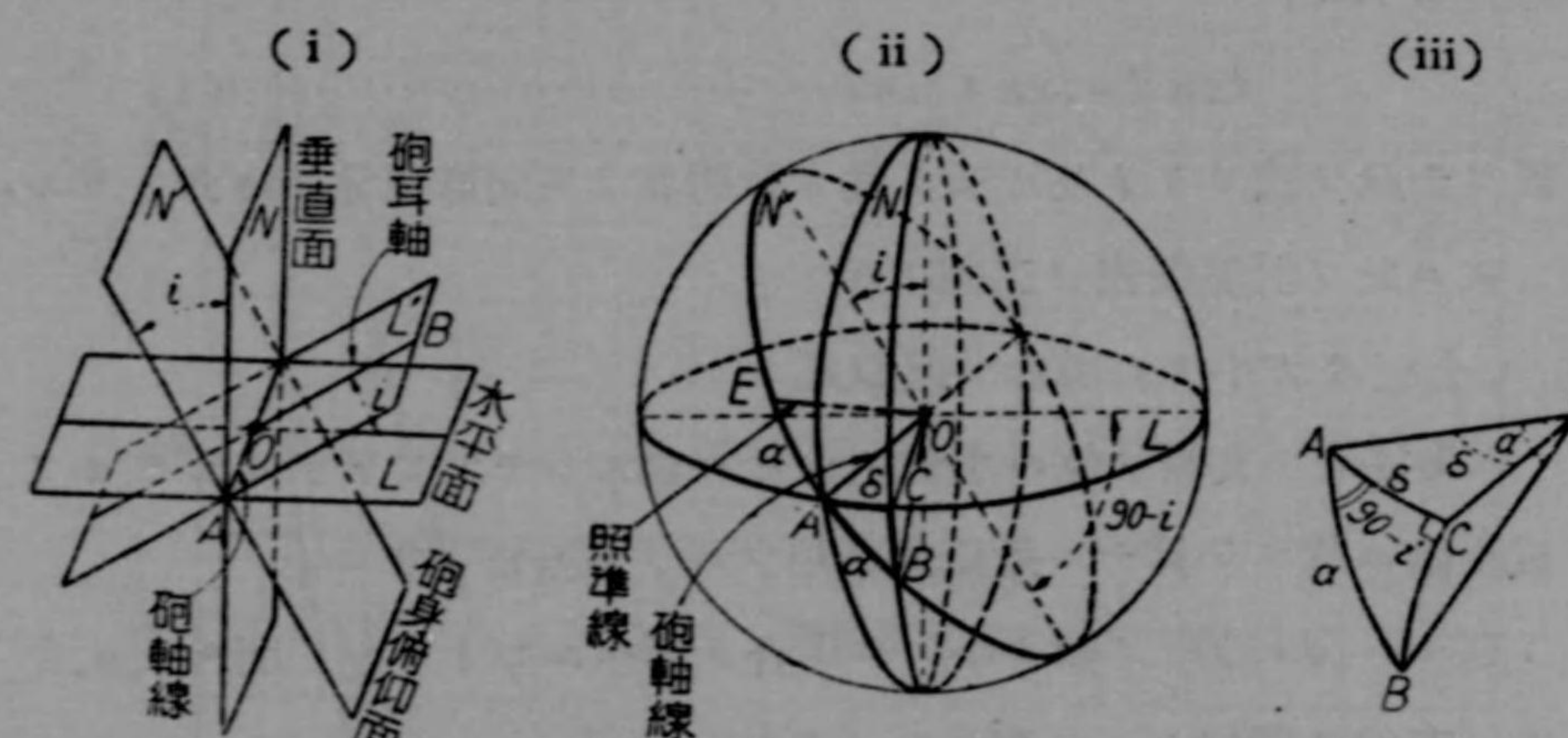


第 155 圖

ケバ之ハ直線群トナリ、ソレニ指標ヲ附スレバ第155圖ノ如キ線圖ガ得ラレル。之ヲ利用シテ 5×3 ヲ求メルニハ $X=5$ ヲ通ル縦線ト、 $Y=3$ ヲ通ル横線トノ交點ハ $Z=15$ ノ直線上ニアルカラ15ハ求ムル積デアル。

問題 3. 砲耳軸傾斜ニ基ク方向誤差ノ修正式 ($\tan \delta = \tan \alpha \sin i$)

砲耳軸トハ砲身ガ之ヲ軸トシテ上下ニ俯仰スル直線ヲイフ。此ノ軸ガ水平面ニ對シテ傾斜シテラレバ方向及ビ射距離ニ誤差ヲ生ズル。今方向ノ誤差ノ起ル原因ヲ圖解シテ誤差ノ算式ヲ示セバ次ノ如クナル。



O : 砲身ノ中心 AE = α : 表尺上ニ與ヘタ射角 球面三角法公式
OA : 砲軸線 δ : α ニ基ク方向上ノ誤差 $\tan \delta = \tan \alpha \sin i$
OB : 砲耳軸

第 156 圖

砲耳軸 OB ガ水平ノトキ之ヲ含ム水平面ヲ L トスル。次ニ OB ガ水平面ニ對シ角 i ヲ傾イタトキニハ水平面 L ハ L' ノ位置ニ來ル。從ツテ始メ砲身ノ俯仰面 (或ハ表尺ノ抽出面) ハ垂直面 N デアルガ之ガ N' ニ移リ N, N' 平面ノナス角ハ傾斜角 i トナル。

次ニ砲車ノ中心 O ヲ中心、半径 1 ノ球 (コレヲ單位球トイフ) ヲ考ヘテ (i) 圖ト同様ナ平面 L, N, N' ト球面トノ交ハリデアル大圓ヲ描

ケバ(ii)圖ノ如クナル。

今砲耳軸ノ傾斜角ガ*i*デアルトキ表尺ヲAE=*a*ナル射角ニ裝定スレバ照準線ハOE方向デ、砲軸線ハOAデアル。高低照準ヲ行フトキ兩線共N'平面内デ俯仰シOE線ハOA線ニ、OA線ハCB線ニ來ル。Bヲ通ル垂直平面上ノ大圓周ガ水平面L上ノ大圓周ヲ切ル點ヲCトスレバ照準線ノ方向ハOAデ、砲身ノ方向ハCCトナル。即チ方向上ニ∠AOC=δナル誤差ヲ生ジ射角ハ∠BOCトナル。而シテ球面三角法ノ示ストコロニヨレバ三ツノ角*i*, *a*, δノ間ニハ次ノ關係ガアル。

$$\tan \delta = \tan a \sin i \dots \dots \dots (1)$$

從ツテ此ノ式ヨリ*i*及ビ*a*ヲ知レバ所要ノ方向修正量δガ求メラル。

次ニ此ノ計算圖表ノ二例ヲ示ス。

(イ) *a*ガ小ナル場合ノ近似式

*i*及ビδノ實際ノ値ハ小サイガ*a*ハ必ズシモサウデナイカラ*a*ノ或範圍ニ依ツテ異ナル近似式ヲ用フルノガ至當デアル。

茲デハ*a* < 30°ノ如ク小ナル場合ヲ考ヘルコトトシ、而モ*i*, *a*, δ共ニ密位ヲ單位トシテ測ルモノトスレバ

$$\tan \delta = \frac{\delta}{1000}, \quad \tan a = \frac{a}{1000}, \quad \sin i = \frac{i}{1000}$$

故ニ(1)ヨリ $a(\text{ミリ}) \times i(\text{ミリ}) = 1000\delta(\text{ミリ}) \dots \dots \dots (2)$

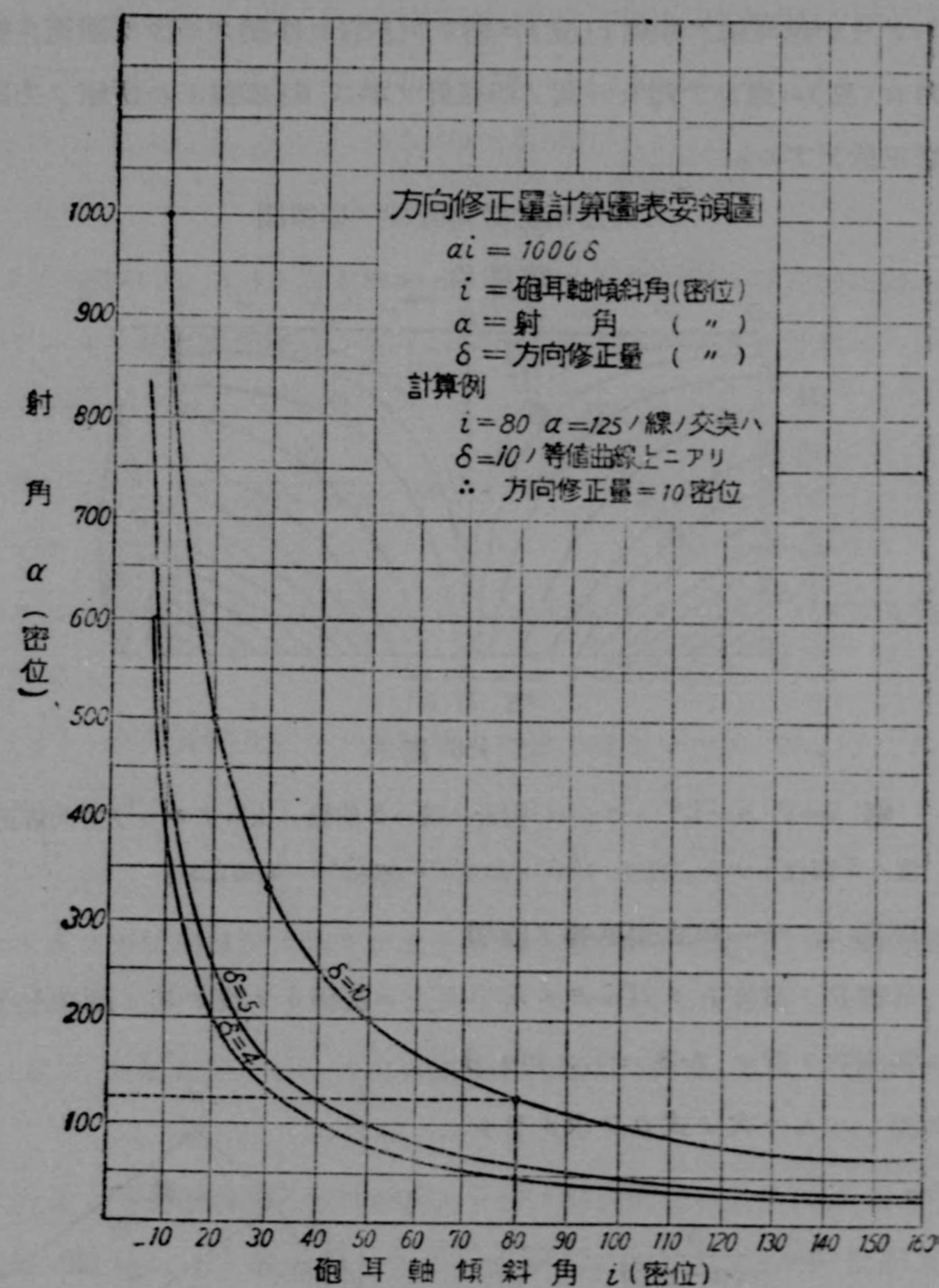
(2)ヲ用ヒテ*i*, *a*ノ某範圍ニ對スルδノ各値ニ應ズル等値曲線ヲ作レバ所望ノ計算圖表ガ得ラレル。第157圖ハ其ノ要領ノミヲ示ス。

(ロ) (1)式ニ於テ

$$z = \tan \delta, \quad x = \sin i, \quad y = \tan a$$

トオケバ $z = xy$

トナルカラ問題1ト同様ニシテ横座標、縦座標ニ夫々 *sini*, *tana* ナ

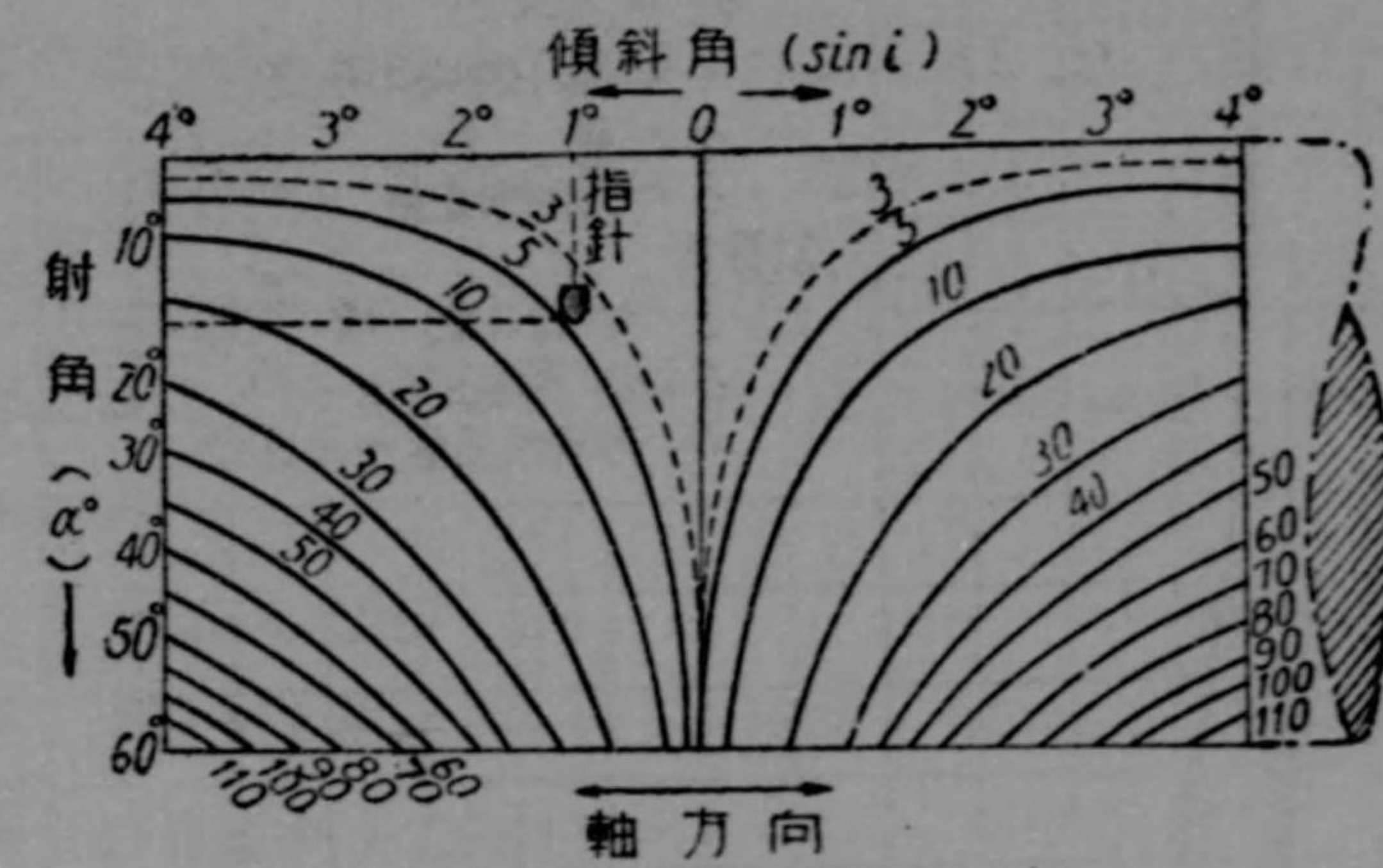


第 157 圖

ル函數尺ノ目盛ヲ附シズ即チδノ等値曲線ヲ畫ケバ所要ノ計算圖表ガ得ラレル。第158圖ハ四五式火砲ニ使ハレテキル計算圓筒デ軸方向ニ *sini*, 圓周上ニ *tana* ガ目盛ラレテアリ、且指針ハ水準儀ト連繫

シテキテ砲耳軸ノ傾斜 i (度) = 應ジテ左右 = 移動スルカラ圓筒ヲ射角 α (度) = 應ジテ回セバ其ノ時指針ノ示ス δ (密位) ハ所望ノ方向修正量デアル。

方向修正量計算圓筒ノ要領圖



第 158 圖

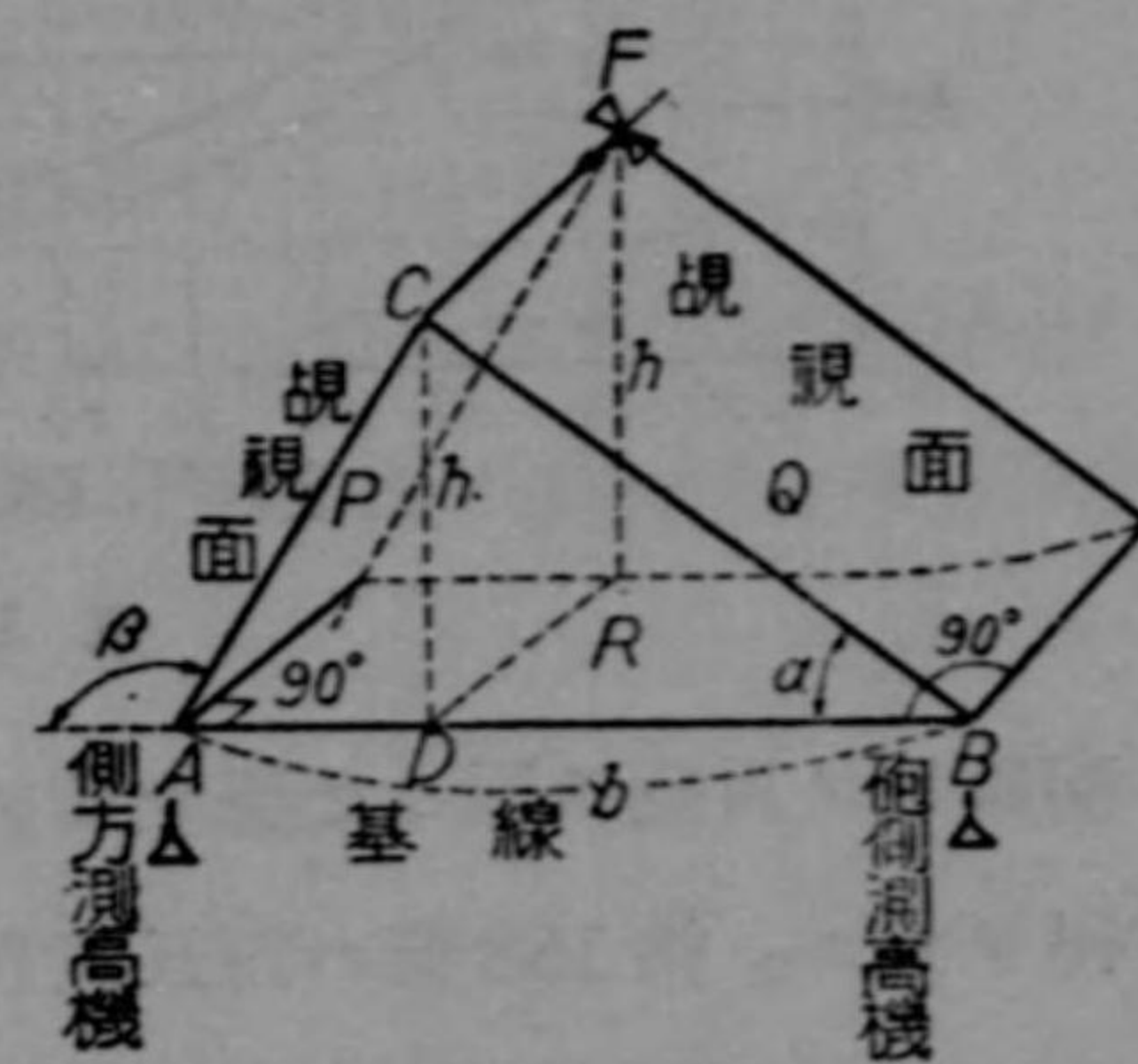
例 $i=1^\circ, \alpha=17^\circ$ トスレバ 指針ノ端ハ5 曲線ノ上ニアルカラ方向修正量ハ5 密位トナル。即チ $\sin 1^\circ \times \tan 17^\circ = \tan 5^\circ$ ガ成立ツ。

問題 4. 十一年式測高機ノ原理

目標 F ノ高度 h ヲ測ルタメ水平面上ニ基線 b ヲ設ケ其ノ兩端 A, B ニ觀測所ヲ置キ, 右圖ニ示ス角 α, β ヲ測レバ h ハ次ノ式カラ求メラレル。

$$h = \frac{b}{\cot \alpha - \cot \beta} \dots (1)$$

(理由) 目標 F ヲ通り基線 b = 垂直ナ水平軸 CF ヲ含ンデ俯仰スル視視面ヲ以テ A, B ヨリ目標 F ヲ視視シ夫々角 β, α ヲ求メレバ



第 159 圖

$$\begin{aligned} b = AB &= AD + DB = CD \cot \angle CAD + CD \cot \angle CBD \\ &= h \cot(180^\circ - \beta) + h \cot \alpha \\ &= h \cot \alpha - h \cot \beta \\ \therefore h &= \frac{b}{\cot \alpha - \cot \beta} \dots (イ) \end{aligned}$$

(イ) 式中ノ α, β, b ヲ測定シテ h ヲ計算スルタメ十一年式測高機ニ於テハ次ノ様ニ共點圖表ヲ巧ミニ利用シテ機械的ニ之ヲ計算スル如ク工夫シテアル。

先ヅ $z = \frac{1}{\cot \alpha - \cot \beta}$ 或ハ $\cot \beta = \cot \alpha - \frac{1}{z} \dots (ロ)$

トオケバ(イ)式ハ $h = bz \dots (ハ)$

トナル故ニ第160圖ニ示ス如ク(ロ)ヲ底角圓筒デ, (ハ)ヲ高度圓筒デ計算スル。

(I) 底角圓筒及ビソノ展開圖カラ分ル様ニ $\beta = \beta_1, \beta_2, \dots$ トスルトキ即チ

$$\cot \alpha - \frac{1}{z} = \cot \beta_1, \quad \cot \alpha - \frac{1}{z} = \cot \beta_2 \dots$$

ナル β ノ等値曲線群ヲ作ツテオケバ $\alpha = \alpha_1$ ト $\beta = \beta_1$ トノ交點ノ横座標ハ $Z = z_1$ トナル。

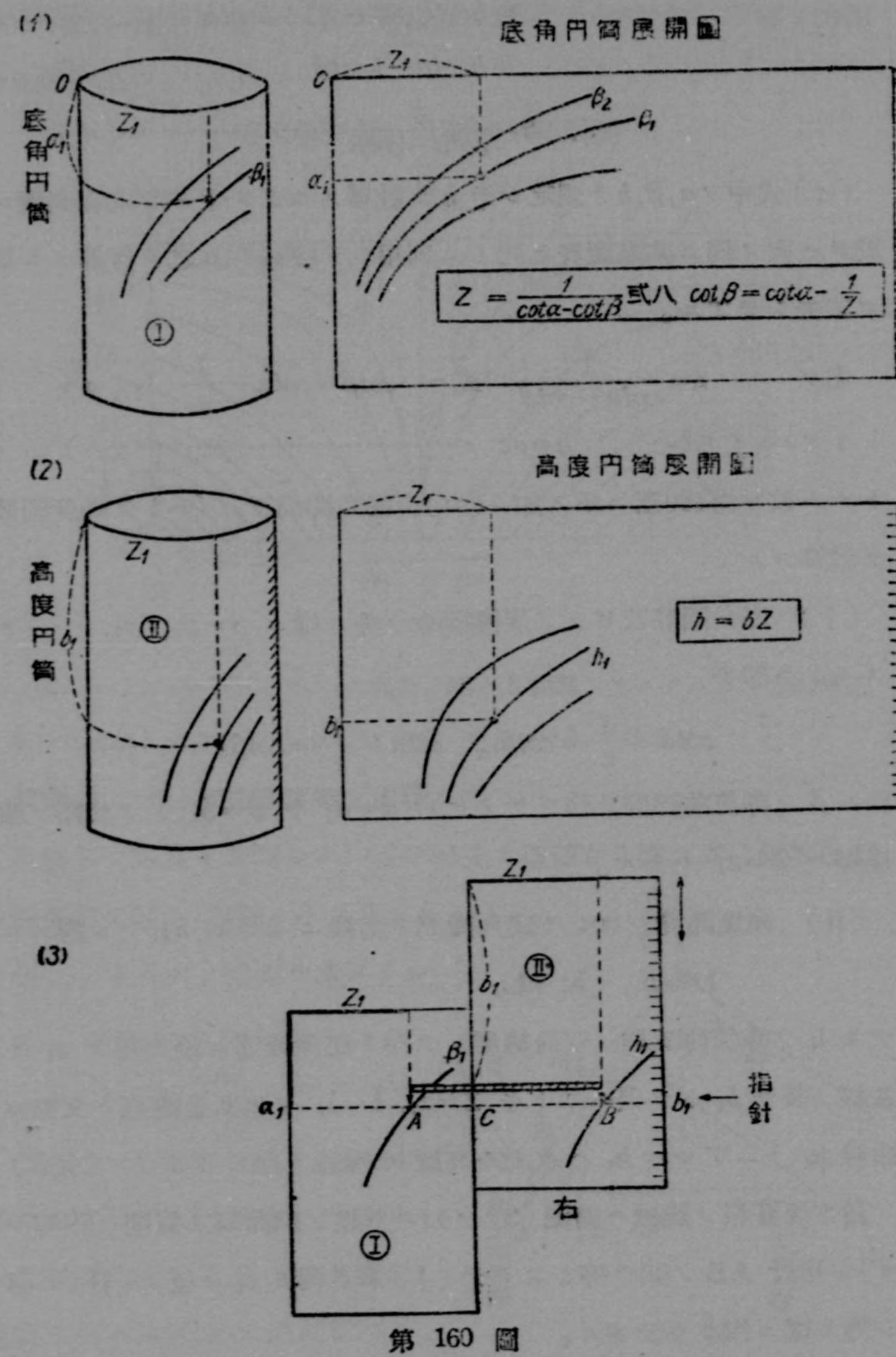
(II) 高度圓筒 コレモ底角圓筒ト同様ニ $h = h_1, h_2, \dots$ ニ對スル

$$bz = h_1, \quad bz = h_2, \dots$$

ナル h ノ等値曲線群 (双曲線群) ヲ作り底角圓筒ニ於テ得タ z_1 ト基線ノ長さ b_1 トヲ與ヘルトキ $Z = z_1, b = b_1$ トナリ且兩線ノ交點ガ曲線 h_1 上ニアレバ h_1 ハ求メル高度トナル。

從ツテ實際ノ器械ハ同圖(3)ノ如ク上述ノ兩圓筒ノ直徑 (相等シイ) ト指針 AB ノ間ヲ等シクシテ (I) ヨリ得タ z_1 ノ値ヲ (II) ニ移シ得ル様ニ作ラレテキル。

十一年式測高機原理説明圖



即チ α_1, β_1 ヲ知レバ (I) = 於テ z_1 ガ求メラレル。指針 A ヲ α_1, β_1 ノ交點ニ置ケバ $CB = z_1$ トナル。次ニ b_1 ヲ α_1 ト同一線上ニオクトキ指針 B ガ曲線 h_1 上ニ來レバコノ h_1 コソ求ムル高サデアル。

問題 5. $x = f_1(y)z f_2(w)$ ノ計算 (方向修正圓筒ノ原理)

與式ヲ次ノ様ニ變形シ

$$\frac{x}{f_1(y)} = z f_2(w) \dots\dots\dots (1)$$

兩邊ノ對數ヲトレバ

$$\log \frac{x}{f_1(y)} = \log z + \log f_2(w)$$

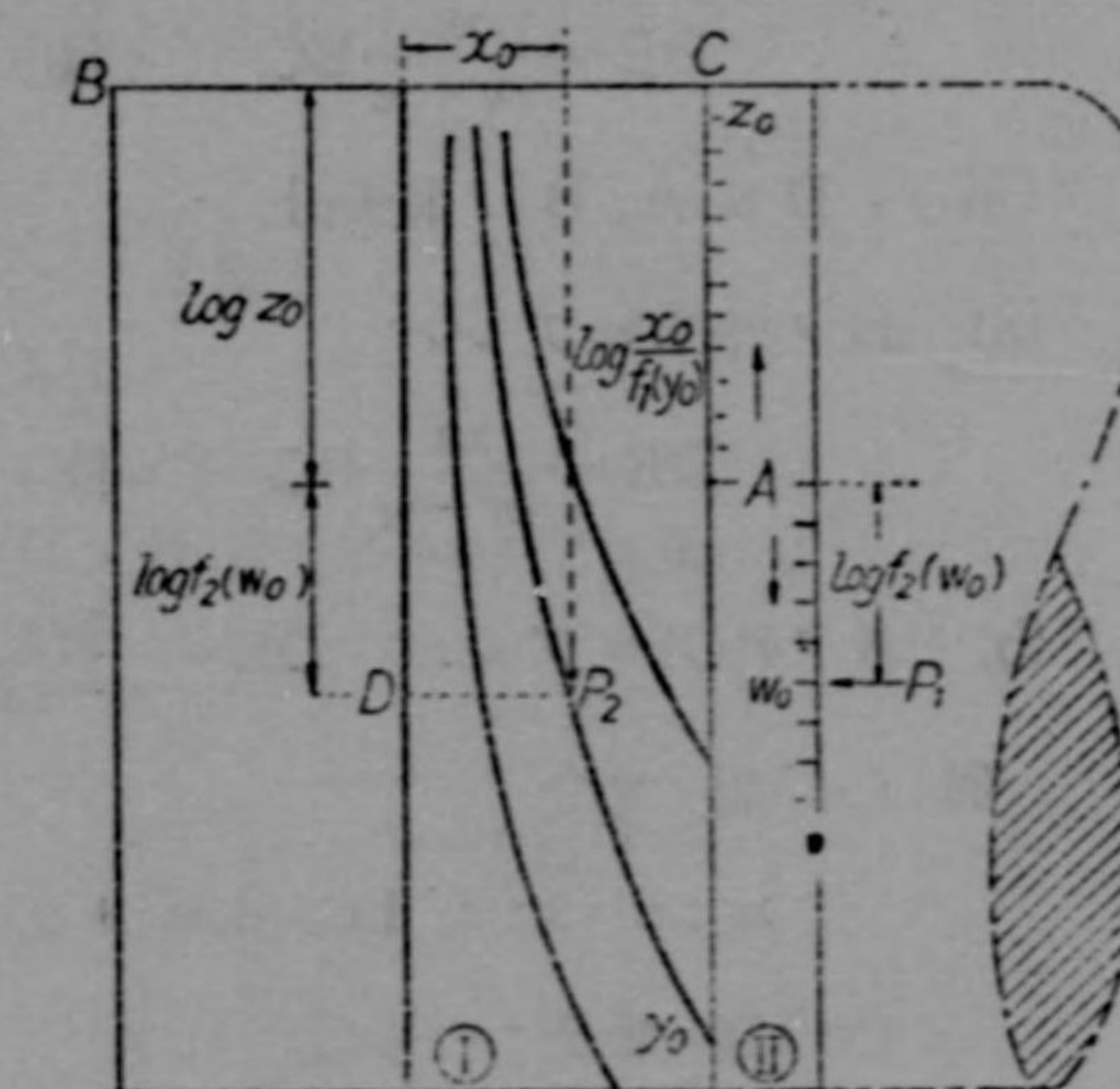
$w = w_0, z = z_0, y = y_0$, トスルトキノ x ノ値 x_0 ヲ求メルノニ次ノ様ニ機構ガアル。之ハ別々ニ動く圓筒 (I), (II) ノ側面圖デアル。

先ヅ (II) ノ周ニハ A ㊦リ反對方向ニ右側ニハ $\log f_2(w)$ ノ函數尺, 左側ニハ $\log z$ ノ函數尺ヲ目盛ル。

(I) ニハ圓筒ノ軸方向ニ x , 周上ニ座標トシテ $\log \frac{x}{f_1(y)}$ ヲトリ y ノ等値曲線ノ群ヲ畫ク。茲ニ於テ (II) ノ右側ニ w_0 ヲ取り之ニ指針 P_1 ヲ合ハセ, 次ニ (II) ヲ回轉

シテ z_0 ヲ原線 BC = 合ハセ又 P_1 ト共ニ同ジ關係位置ニアル指針 P_2 ヲ左右ニ動かシテ等値曲線 y_0 = 合致サセレバ求メル x ノ値 x_0 ハ DP₂ トシテ出テ來ル。

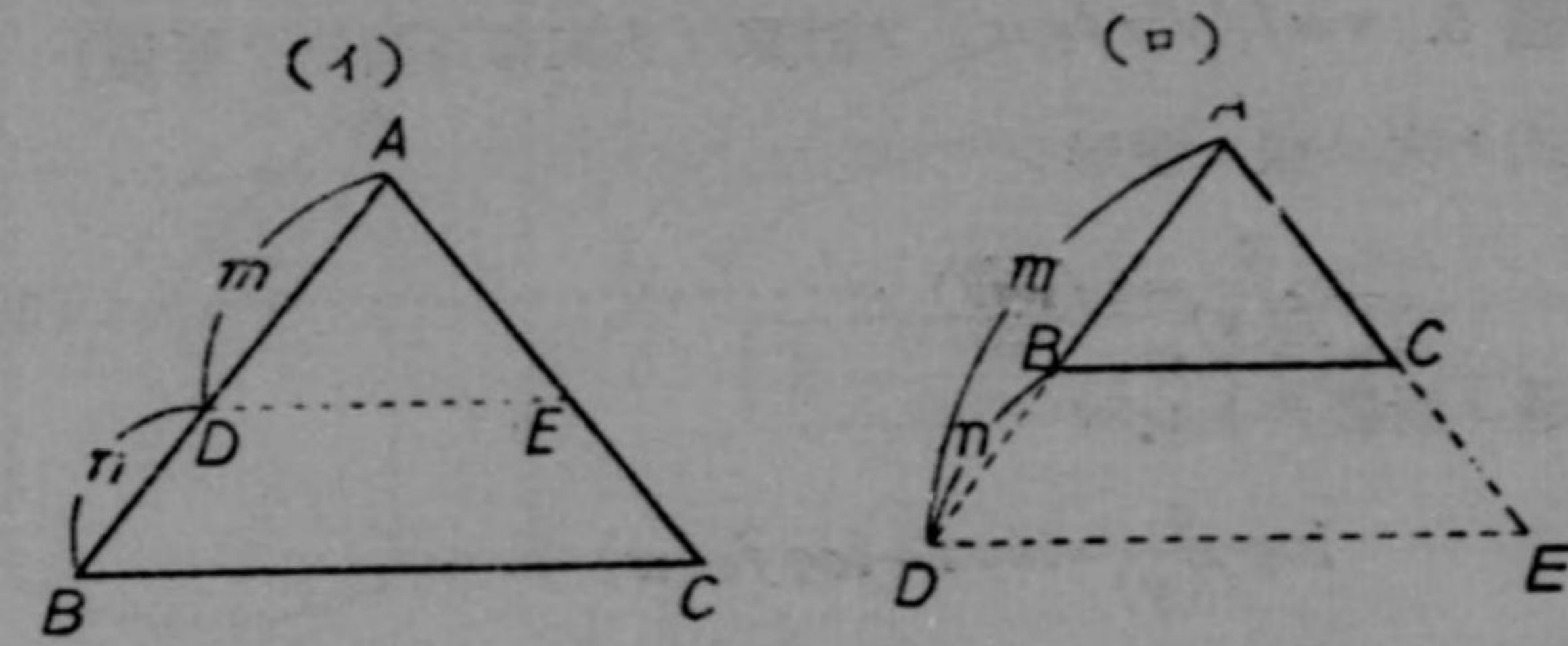
37. 共線圖表



豫備定理 1. $\triangle ABC$ ノ邊 AB 又ハ其ノ延長上ニ點 D ナトリ

$$AD : DB = m : n$$

トシ D ヲ通り BC ニ平行ナ直線ト AC トノ交點ヲ E トスレバ



第 162 圖

(i) D が A, B ノ中間ニアレバ

$$DE = \frac{m}{m+n} BC \quad (\text{イ圖})$$

(ii) D が A, B ノ延長上

(a) B ノ外方ニアレバ

$$DE = \frac{m}{m-n} BC \quad (\text{ロ圖})$$

(b) A ノ外方ニアレバ $DE = \frac{m}{n-m} BC \quad (\text{ハ圖})$

例 (イ)圖ノ場合

$$m : n = 3 : 2, BC = 6cm \text{ ナラバ } DE = \frac{3}{3+2} \times 6 = 3.6cm$$

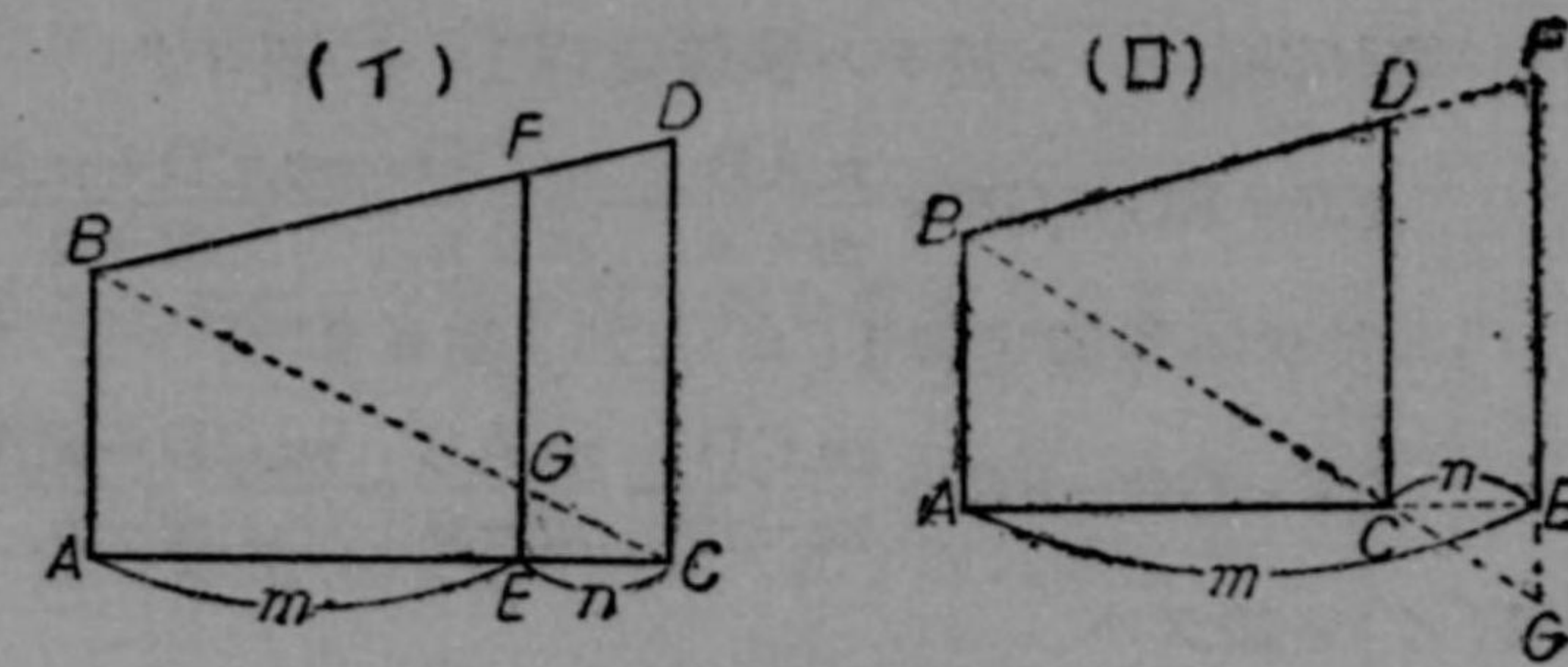
(ロ)圖ノ場合

$$m : n = 5 : 2, BC = 3cm \text{ ナラバ } DE = \frac{5}{5-2} \times 3 = 5cm$$

(ハ)圖ノ場合

$$m : n = 1 : 5, BC = 3cm \text{ ナラバ } DE = \frac{1}{5-1} \times 3 = 0.75cm$$

豫備定理 2. 二直線 AB, CD ガ平行デ且 $AE : EC = m : n$, E ヲ通り AB ニ平行ナル直線ト BD トノ交點ヲ F トスレバ (第163圖)



第 163 圖

(i) AB, CD ガ同方向デ

(a) E が AC 上ニアレバ (イ圖)

$$EF = \frac{m \cdot CD + n \cdot AB}{m+n}$$

(b) E が AC ノ延長上 C ノ外方ニアレバ (ロ圖)

$$EF = \frac{m \cdot CD - n \cdot AB}{m-n}$$

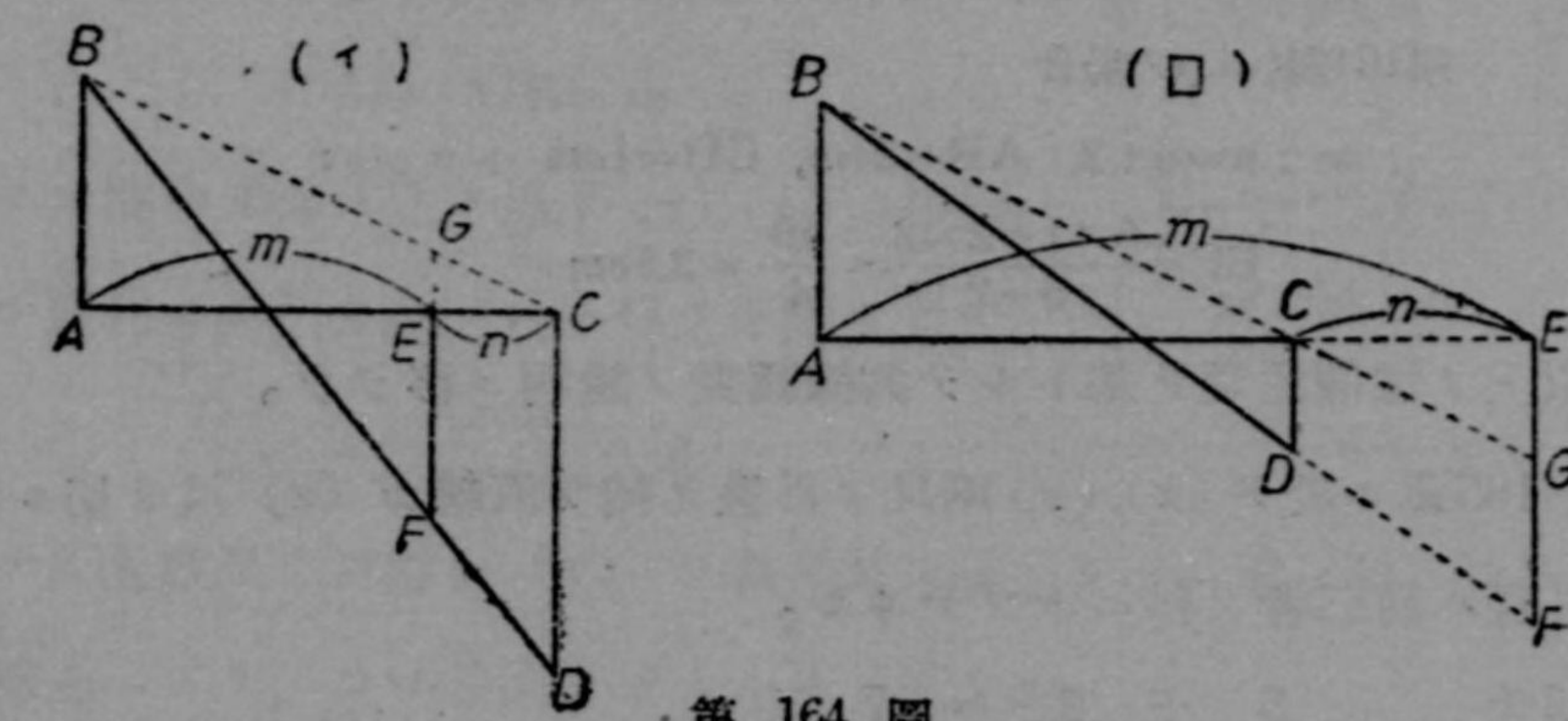
(ii) AB, CD ガ異方向デ

(a) E が AC 上ニアレバ (イ圖)

$$EF = \frac{m \cdot CD - n \cdot AB}{m+n}$$

(b) E が AC ノ延長上 C ノ外方ニアレバ (ロ圖)

$$EF = \frac{m \cdot CD + n \cdot AB}{m-n}$$



第 164 圖

説明

[理由] 第163圖(イ)ニ於テハ豫備定理1(イ)圖ヨリ

$$EF = EG + GF = \frac{n \cdot AB}{m+n} + \frac{m \cdot CD}{m+n} = \frac{m \cdot CD + n \cdot AB}{m+n}$$

同圖(ロ)ニ於テハ豫備定理1(ロ),(ハ)圖ヨリ

$$EF = GF - EG = \frac{m \cdot CD}{m-n} - \frac{n \cdot AB}{m-n} = \frac{m \cdot CD - n \cdot AB}{m-n}$$

第164圖(イ)ニ於テハ

$$EF = GF - EG = \frac{m \cdot CD}{m+n} - \frac{n \cdot AB}{m+n} = \frac{m \cdot CD - n \cdot AB}{m+n}$$

同圖(ロ)ニ於テハ

$$EF = GF + EG = \frac{m \cdot CD}{m-n} + \frac{n \cdot AB}{m-n} = \frac{m \cdot CD + n \cdot AB}{m-n}$$

例 第163圖(イ)ノ場合

$m : n = 3 : 2, AB = 2cm, CD = 3cm$ トスレバ

$$EF = \frac{3 \times 3 + 2 \times 2}{3+2} = \frac{13}{5} = 2.6cm$$

第163圖(ロ)ノ場合

$m : n = 4 : 1, AB = 2cm, CD = 3cm$ トスレバ

$$EF = \frac{4 \times 3 - 1 \times 2}{4-1} = \frac{10}{3} = 3.3cm$$

第164圖(イ)ノ場合

$m : n = 3 : 1, AB = 2cm, DC = 3cm$ トスレバ

$$EF = \frac{3 \times 3 - 1 \times 2}{3+1} = \frac{7}{4} = 1.75cm$$

第164圖(ロ)ノ場合

$m : n = 6 : 2, AB = 2cm, CD = 1cm$ トスレバ

$$EF = \frac{6 \times 1 + 2 \times 2}{6-2} = \frac{10}{4} = 2.5cm$$

以上ノ豫備定理ヲ基トシテ共線圖表ノ説明ニ移ラウ。

第165圖ニ於テ(x),(y)兩尺ノ目盛ヲ結ブ直線ガ(z)尺ヲ切ル點

ノ目盛ハ前二者ノ和ニナツテキル。

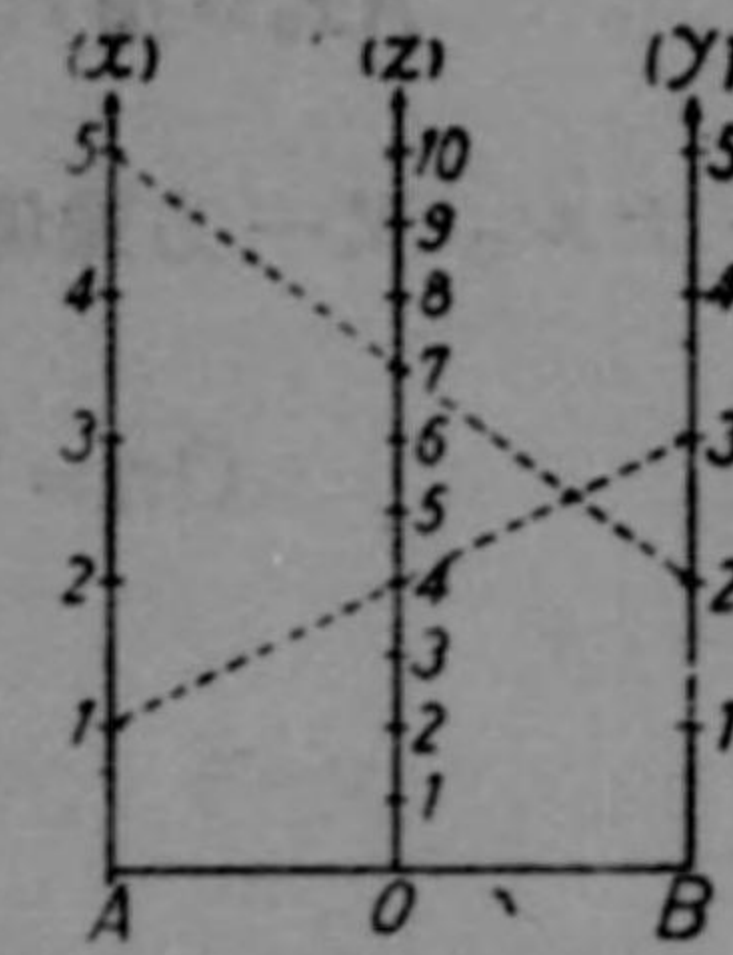
$$\begin{array}{ccc} \text{即チ} & 5 & + & 2 & = & 7 \\ & (x) & & (y) & & (z) \\ & \text{尺} & & \text{尺} & & \text{尺} \end{array}$$

即チコノ線圖ニ於テハ

$$x + y = z$$

ヲ満足スル x, y, z ノ値ガ常ニ同一直線上ニアルコトヲ知ル。

コノ圖表ハ先ノ共點圖表トハ其ノ原理構造ヲ全ク異ニシテキルモノデ、之ヲ共線圖表(與ヘラレタ關係ヲ満足スル變數ノ値ガ一直線ヲ共有スルトイフ意味デカク名附ケラレテキル)トイヒ應用ノ廣イモノデアル。



第 165 圖

共線圖表ノ作り方

三ツノ變數 x, y, z ノ間ニ次ノ様ナ關係ガアルトキコレノ共線圖表ノ作り方ヲ説明シヨウ。

$$h(z) = f(x) + g(y) \dots (1)$$

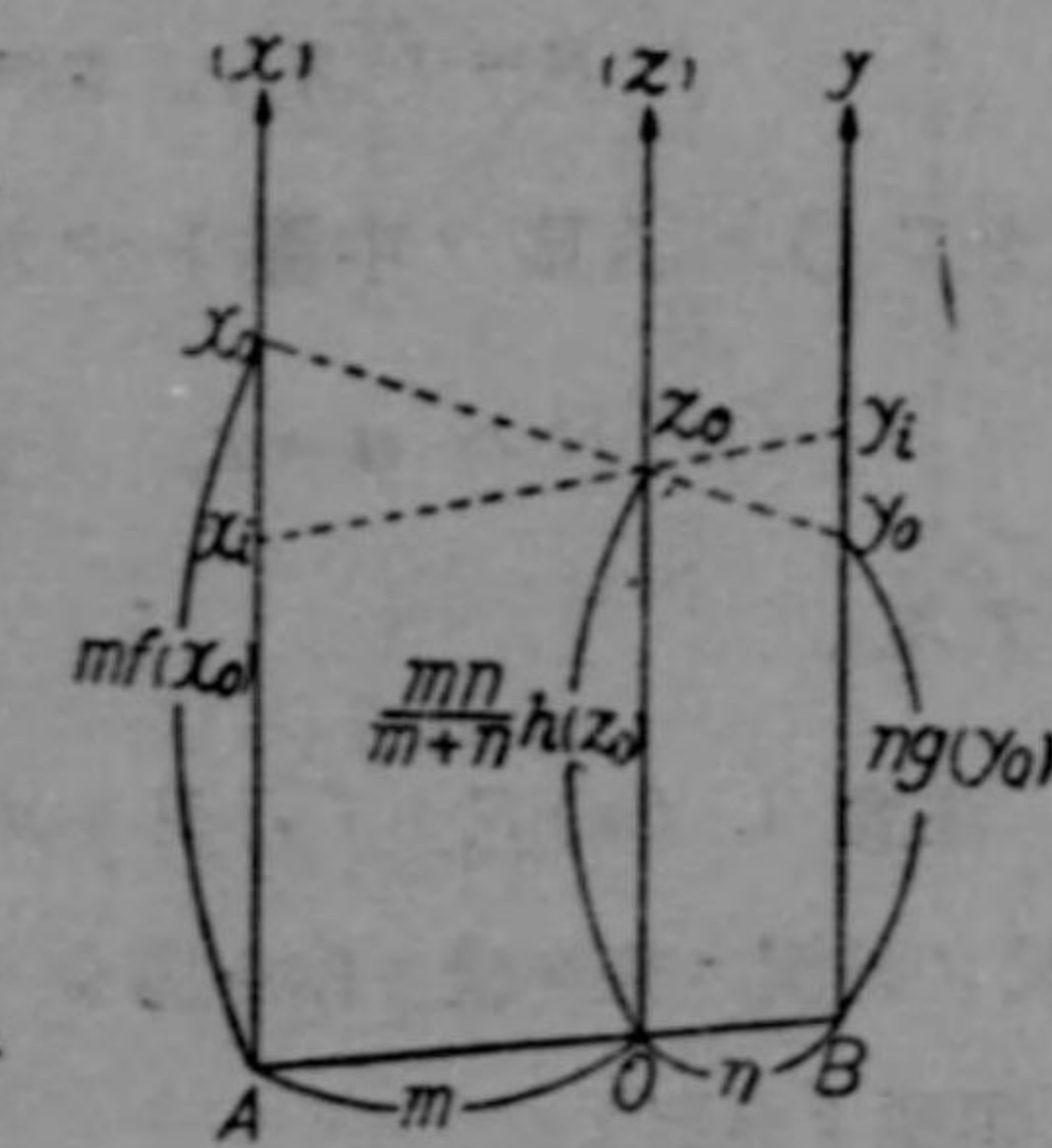
平行二直線(x),(y)ヲ引キ各々ノ上ニ夫々A,Bヲ原點トシテ

$$u = mf(x), v = ng(y) \dots (2)$$

ナル函數尺ヲ作り、次ニA,Bヲ結ンデ

$$AO : OB = m : n$$

ナル點Oヲ求メ之ヲ通り(x),(y)ニ平行ナ直線zヲ引キ此ノ上ニOヲ原點トシテ



第 166 圖

$$w = \frac{mn}{m+n} h(z) \dots (3)$$

ナル函數尺ヲ目盛レバ(1)ヲ満足スル x, y, z ノ一組ノ値ハ常ニ一直線上ニアリ、コノ線圖ガ求ムルモノデアル。

理由 今任意ノ一直線ガ(x),(y),(z)軸ヲ切ル點ノ目盛ヲ夫々 $x_0,$

y_0, z_0 トスレバ(2), (3)及ビ函数尺ノ定義カラ

$$\overline{Ax_0} = mf(x_0), \overline{By_0} = ng(y_0), \overline{Oz_0} = \frac{mn}{m+n}h(z_0) \dots (4)$$

トナル。又一方豫備定理2(i)(a)ヨリ

$$\begin{aligned} \overline{Oz_0} &= \frac{m\overline{By_0} + n\overline{Ax_0}}{m+n} = \frac{mng(y_0) + mnf(x_0)}{m+n} \\ &= \frac{mn[g(y_0) + f(x_0)]}{m+n} \dots (5) \end{aligned}$$

從ツテ(4)ノ最後ノ式及ビ(5)ヨリ

$$\frac{mn}{m+n}h(z_0) = \frac{mn[g(y_0) + f(x_0)]}{m+n}$$

$$\therefore h(z_0) = f(x_0) + g(y_0)$$

即チ同一直線上ニアル目盛ノ數値ハ與ヘラレタ關係(1)ヲ満足スル。特ニ $m=n$ トスレバ(2), (3), (4)ハ

$$u = f(x), v = g(y), w = \frac{1}{2}h(z)$$

トナリOハABノ中點トナル。第165圖ハ即チコノ場合デ

$$(x) \text{尺ハ } u=x, (y) \text{尺ハ } v=y, (z) \text{尺ハ } w = \frac{1}{2}z$$

デアアル。

注意 1. (z)尺ト(y)尺トヲ反對方向ニ目盛ル時、或ハ(z)尺ガ(x), (y)尺ノ外側ニ來ル様ニ作ル場合ハ豫備定理2(i), (b)以下ノ理ニ依レバヨイ。(問題1参照)

注意 2. (1)式ニ於テ $Z=z_0$ トスルトキ $h(z_0) = f(x) + g(y)$ ヲ満足スル x, y ノ値ノ組ヲ $x=x_i, y=y_i$ トスレバ(x), (y)尺上コノ兩目盛ノ點ヲ結ブ直線ハ(Z)尺上ニ於テハ常ニ Z_0 ニ於テ交ハル。

注意 3. 此所デハ變數ガ三個テ然モ(1)ノ形式ノ方程式ニ限ツテ共線圖表ノ作り方ヲ述ベタノテ形式ガ異ナレバ此ノ方法デハ役立たナイ。之ハ專門書ニ譲ル。

問題 1. $3z = 2x + y$ ノ共線圖表

(i) $m=n$ トスレバ三ツノ函数尺ハ

$$u = 2x, v = y, w = \frac{3}{2}z$$

トナリ第167圖(i)ガ求ムルモノデアアル。

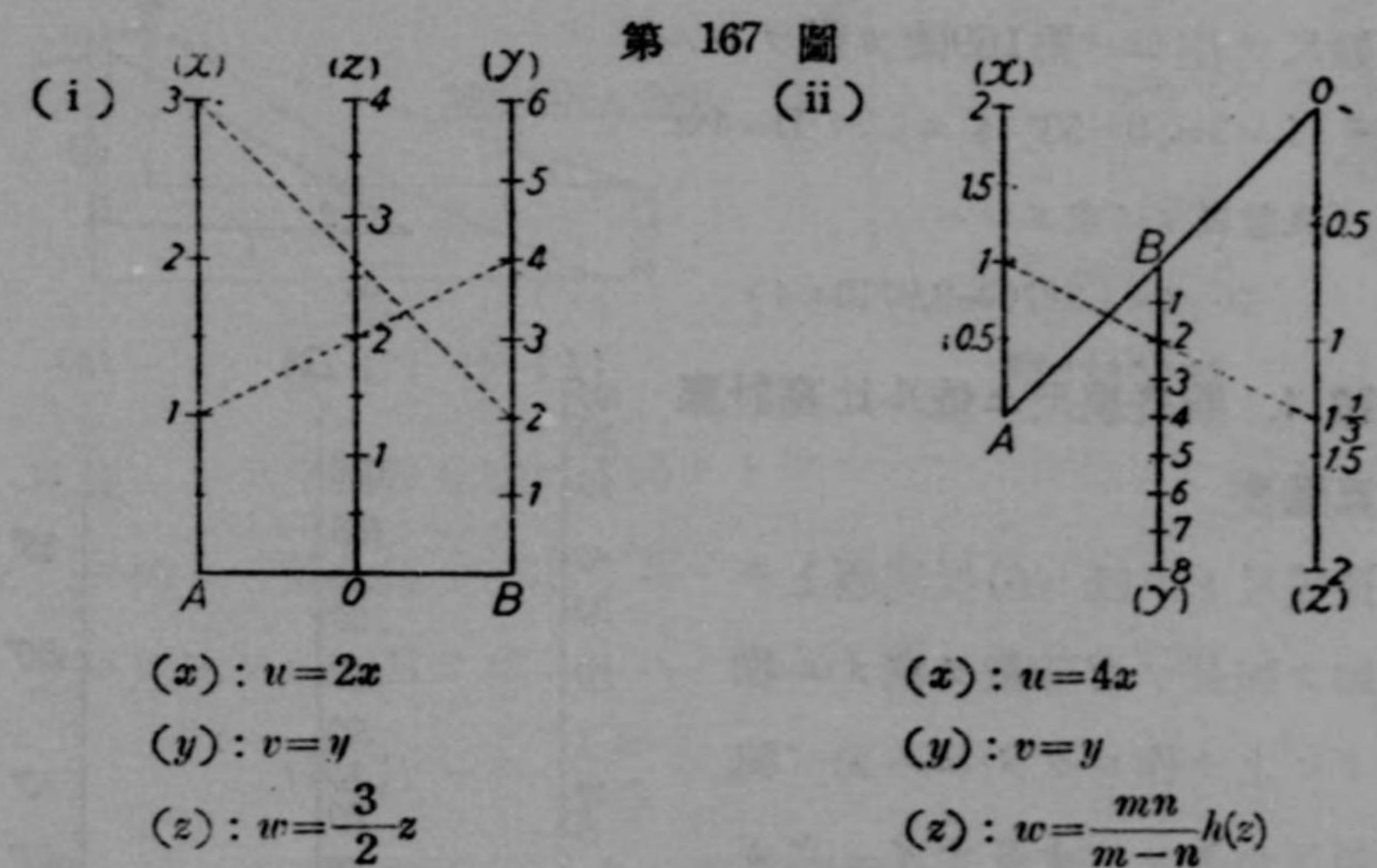
(ii) (x)尺ヲ(y)尺ノ外側ニ作ラウト思ヘバ

$$m=2, n=1 \text{ トスレバ } u=4x, v=y$$

トナリ豫備定理(2)(i)(b)ヨリ

$$w = \frac{mn}{m-n}h(z) = \frac{2 \times 1}{2-1} \times 3z = 6z$$

トナリ第167圖(ii)ガ求ムルモノデアアル。



例 $x=1, y=4$ ナラバ $z=2$

例 $x=1, y=2$ ナラバ $z=1\frac{1}{3}$

問題 2. $z = xy$ ノ共線圖表

兩邊ノ對數ヲトレバ

$$\log z = \log x + \log y.$$

今 $m=n$ トスレバ

$$u = \log x, v = \log y, w = \frac{1}{2} \log z$$

トナルカラ (x), (y) 尺ハ計算尺ノ (c) 尺,
(z) 尺ハ (A) 尺ヲ利用スレバ簡單ニ作ル
コトガ出來ル。(第168圖)

例 $x=2, y=5$ トスレバ $Z=10$

問題 3. $D=L \tan \theta$ ノ共線圖表

兩邊ノ對數ヲトレバ

$$\log D = \log L + \log \tan \theta$$

今 $m=n$ トシテ

$$u = \log L, v = \log \tan \theta, w = \frac{1}{2} \log D$$

ノ函數尺ヲ作レバ第169圖ガ得ラレル。

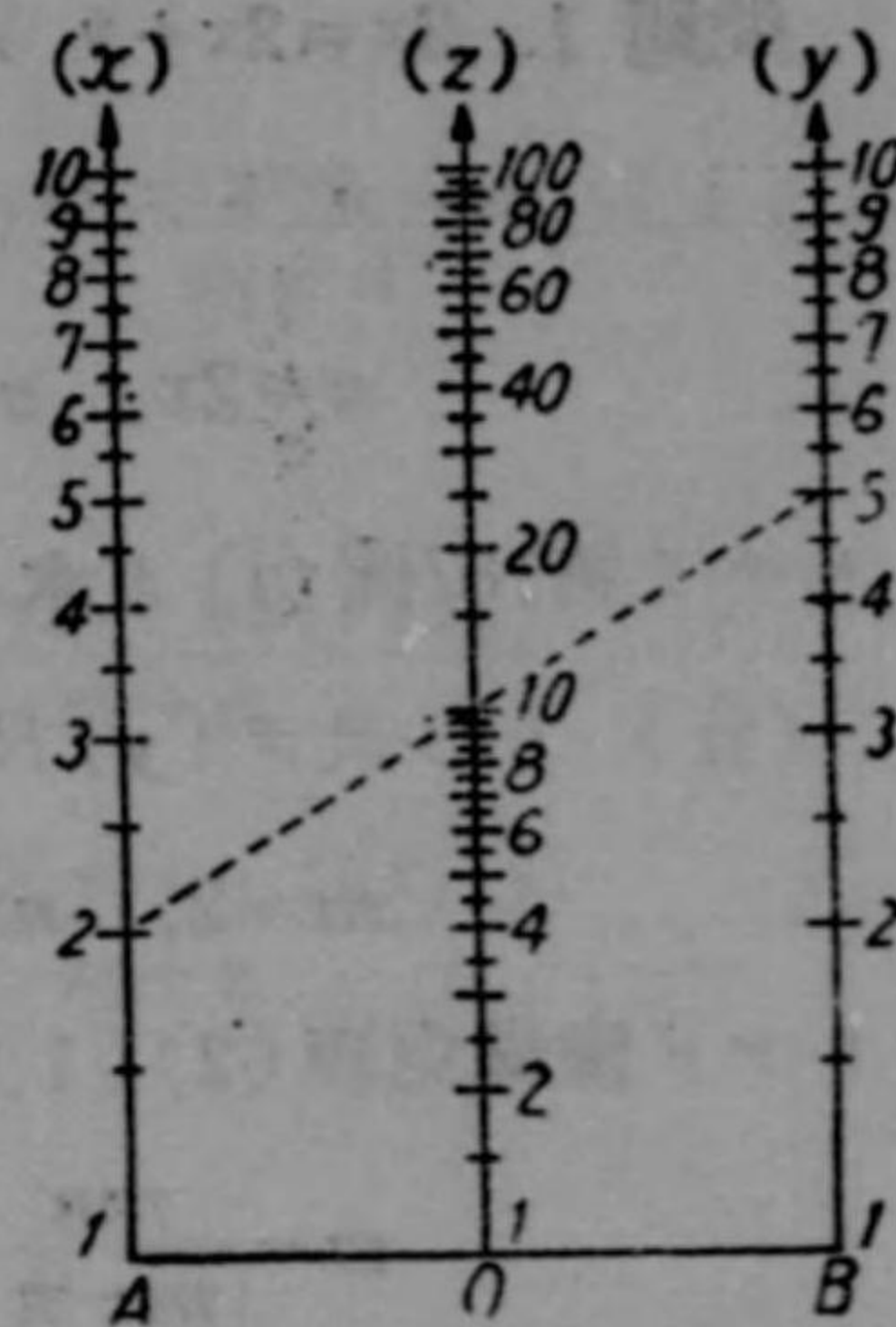
例 $L=3m, \theta=53^\circ$ トスレバ $D=4m$

(眞數表ヨリ求メレバ

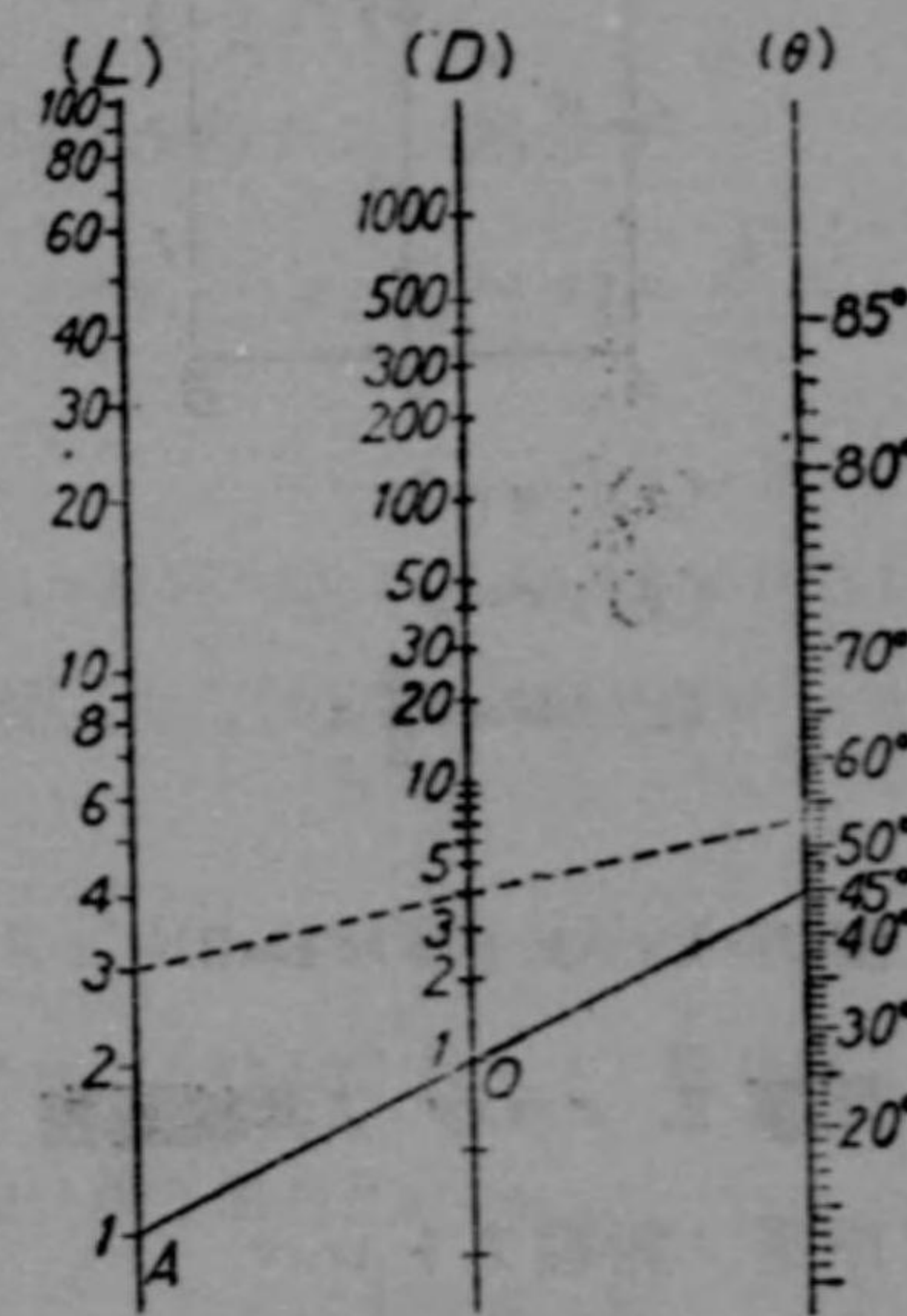
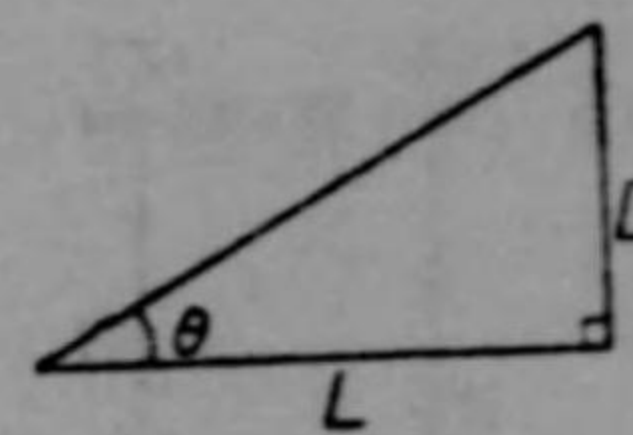
$$D=3 \times 1.3270 \approx 3.9710 \approx 4)$$

問題 4. ワンチヤウキヤク 腕長規尺ニ依ル比高計算
ノ計算圖表

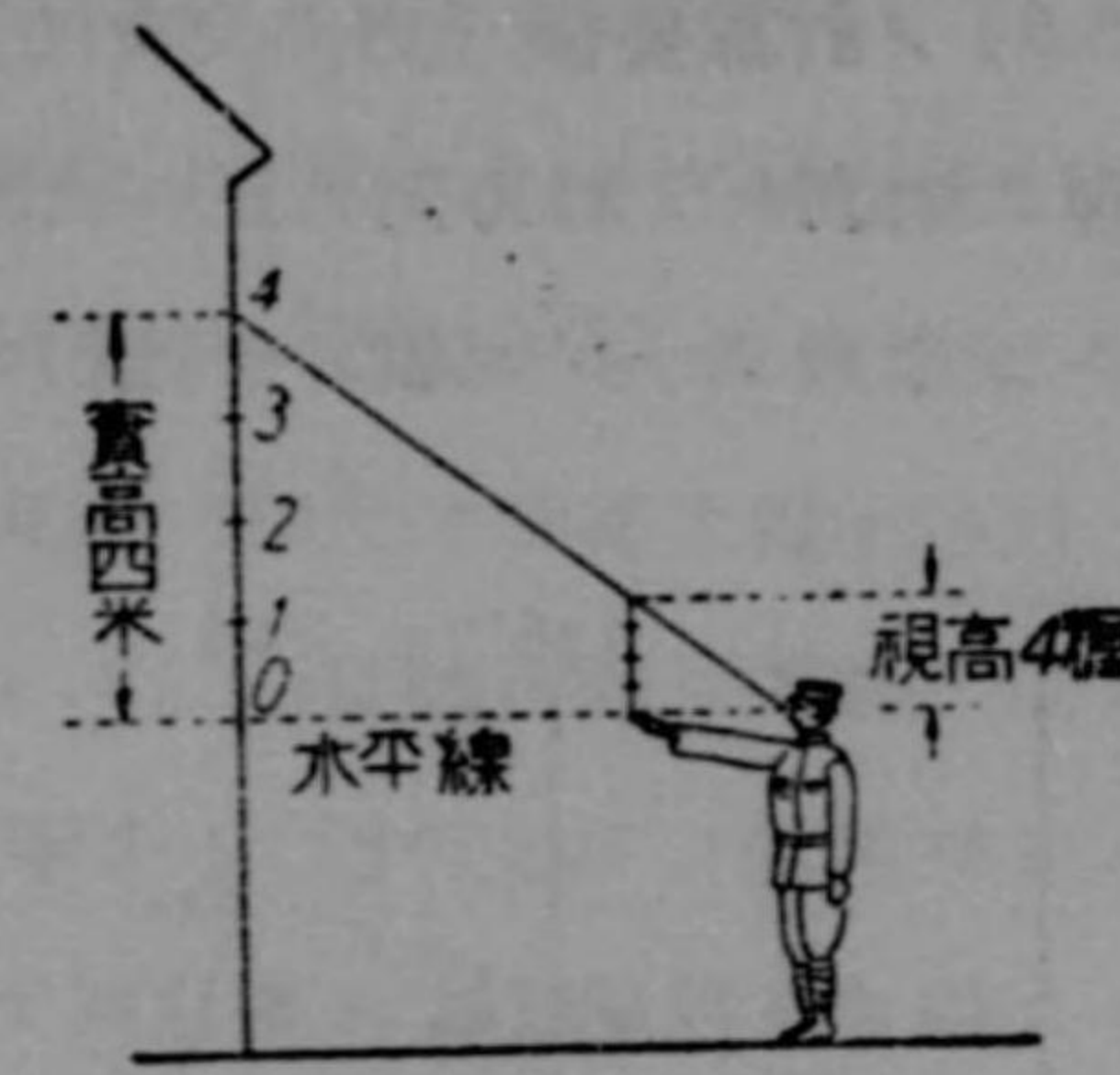
腕長規尺トハ既ニ61頁問題1デ
知ル如ク腕長ノ百分數ヲ刻メル物
差タイヒ之ヲ作ルタメニハ先ヅ腕
長ヲ測ラナケレバナラナイ。之ガ
タメニハ第170圖ノ如ク壁面ニ眼
目高ヲ標示シ其ノ上方一米間隔ニ
四線ヲ畫キ繩尺ノ四種ノ所ニ拇指
ノ頭ヲ置キ四種ノ視高ガ四米ノ實
高ト一致スル迄漸次壁ヨリ離隔ス
ルトキハ腕長ハ壁ニ到ル距離ノ百分ノ一ニ等シイ。



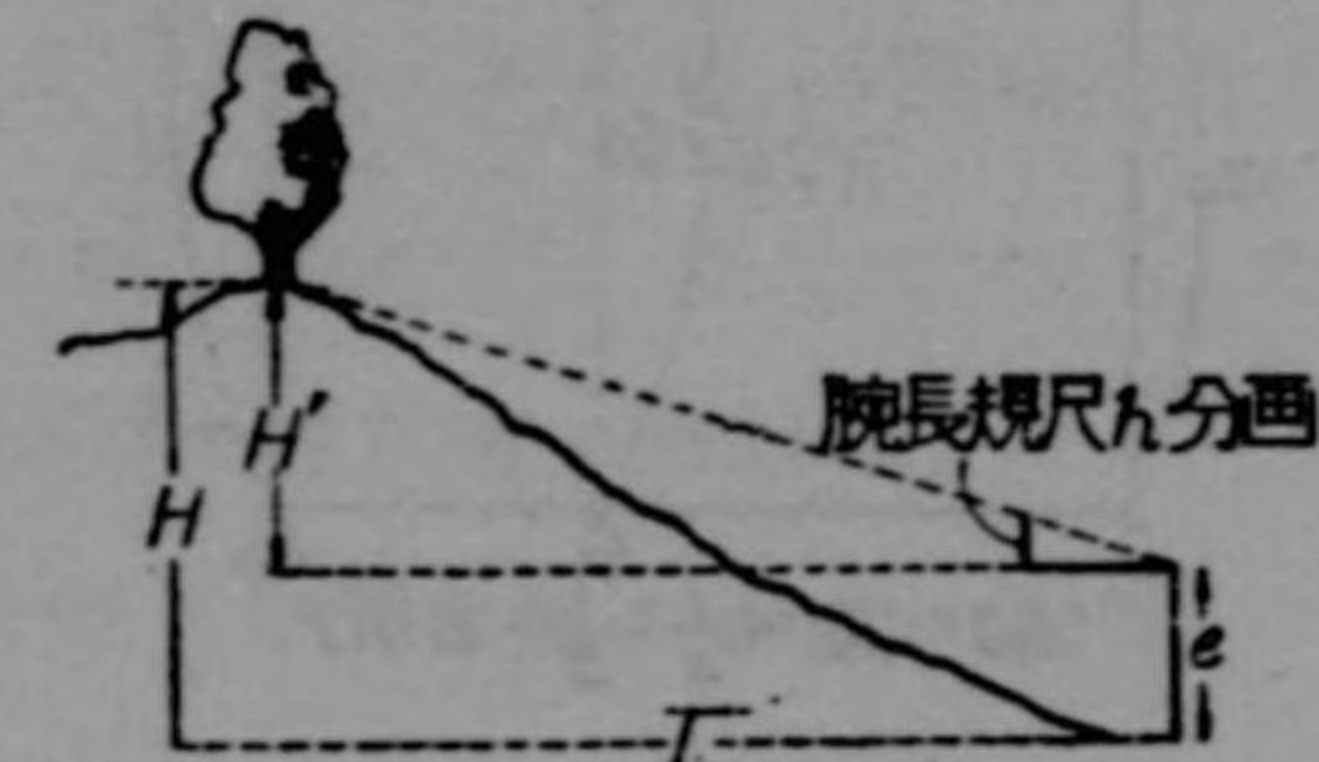
第 163 圖



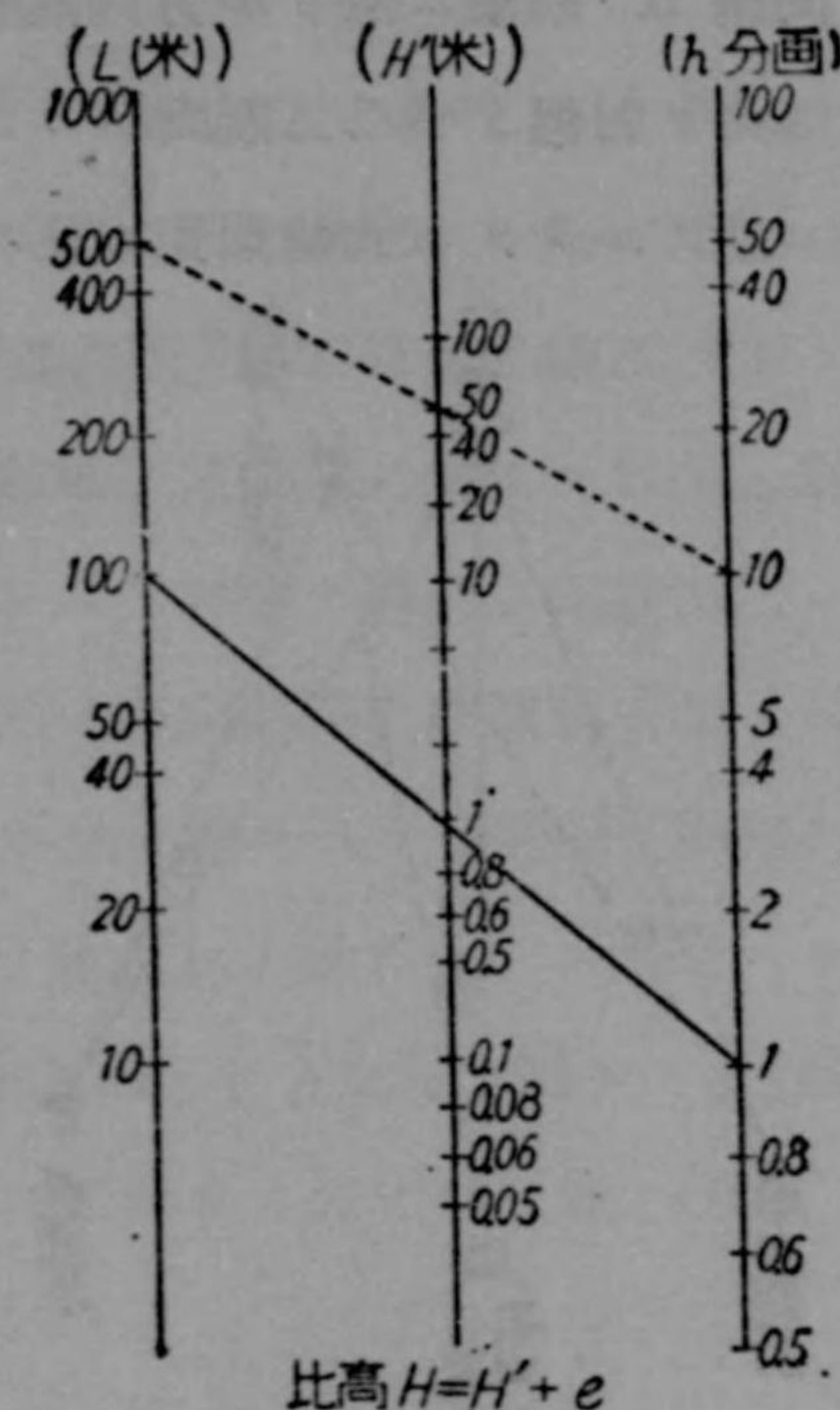
第 169 圖



第 170 圖



第 171 圖



比高 $H=H'+e$

第 172 圖

斯様ニシテ今腕長 60cm ヲ得タトスレバソノ百分ノ一即チ 6mm
ヲ以テ棒ニ分畫ヲ施セバ之ガ其ノ人ノ腕長規尺トナル。

之ヲ用ヒテ比高 H ヲ求ムルニハ第 171 圖ヨリ分ル如ク

$$H = H' + e = \frac{Lh}{100} + e$$

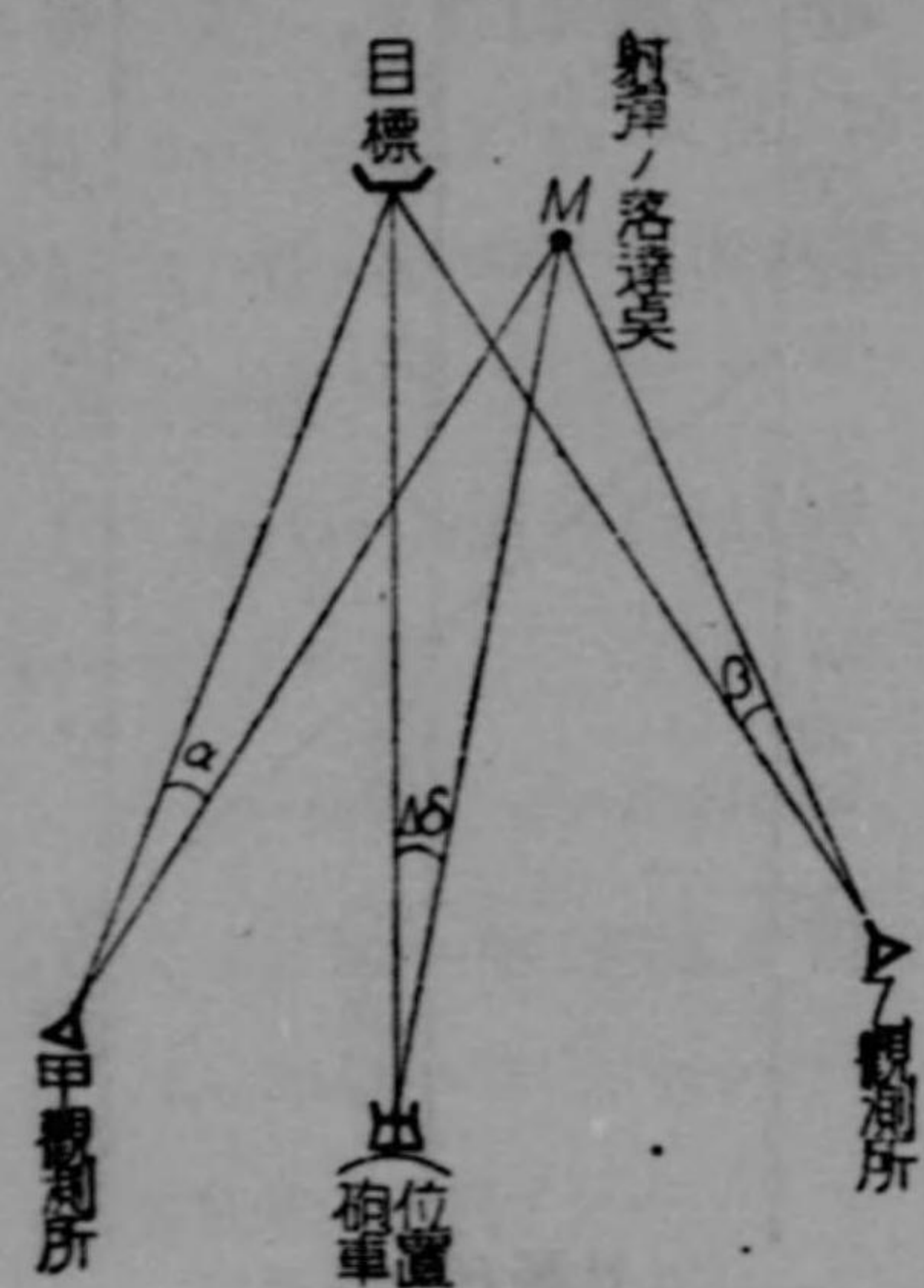
但シ L ハ水平距離(米), h ハ腕長規尺ノ分畫數, e ハ眼目高(米)
トスル。

$H' = \frac{Lh}{100}$ ヨリ $\log H' = \log \frac{L}{100} + \log h$ トシ第 172 圖ノ如キ線圖
ヲ作レバ之ヨリ得ラレル H' ニ對シ眼目高 e ヲ加ヘレバ H ガ求メラ
レル。

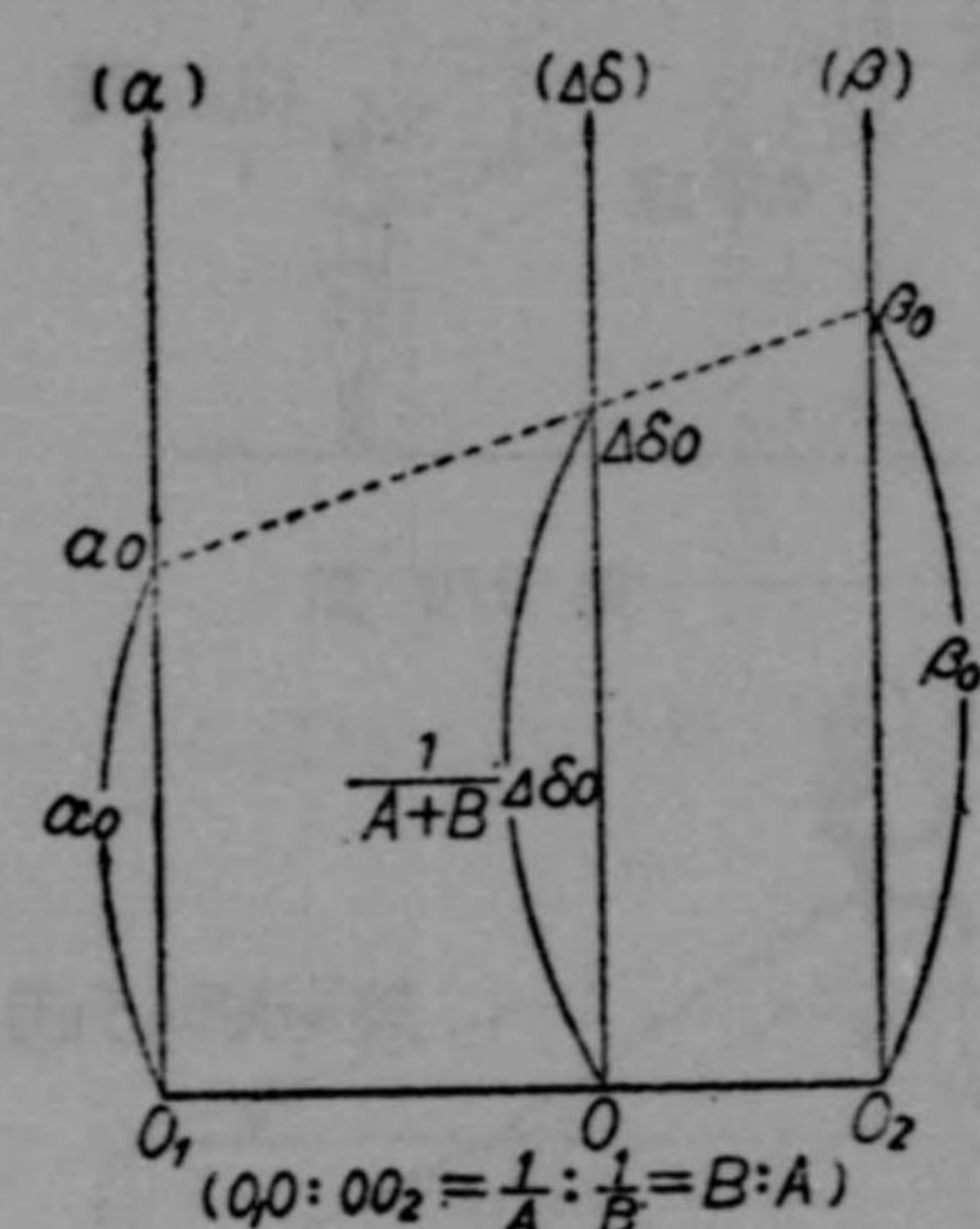
例 $L=500m, h=10$ トスレバ

$$H' = 50m, \text{ 故ニ } e = 1.5m \text{ ナラバ } H = 51.5m$$

問題 5. 射撃ニ於ケル方向偏差 ($\Delta\delta$) ノ計算要領 (方向交會法)
砲兵ノ射撃デ甲乙二觀測所カラ射彈ヲ觀測シテ射方向ヲ正シク目
標ニ通ズルタメニ共線圖表ガ使ハレルガ今其ノーツニ就イテ述ベル。



第 173 圖



第 174 圖

第173圖ニ於テ $\Delta\delta = A\alpha + B\beta$ ナル近似式ガ成立ツ。(本節末參照)
但シ A, B ハ兩觀測所及ビ砲車ノ關係位置ニ依リ決定スル常數デ α ,
 β ハ密位ヲ單位トシテ測ルモノトスル。

今 $m = \frac{1}{A}$, $n = \frac{1}{B}$ 即チ $m:n = B:A$ トスレバ

$$u = \frac{1}{A} \times A\alpha = \alpha, \quad v = \frac{1}{B} \times B\beta = \beta$$

$$w = \frac{\frac{1}{A} \times \frac{1}{B}}{\frac{1}{A} + \frac{1}{B}} \Delta\delta = \frac{1}{A+B} \Delta\delta$$

トナリ、之ヲ用ヒテ線圖ヲ作レバ第 174 圖ノ線圖ガ得ラレル。茲ニ
(α), (β) 尺ハ同一ノ等距離目盛尺デアアル。

然シナガラ ($\Delta\delta$) 尺ヲ作ルコトハ時間ヲ要スルカラ實際ニハ次ノ

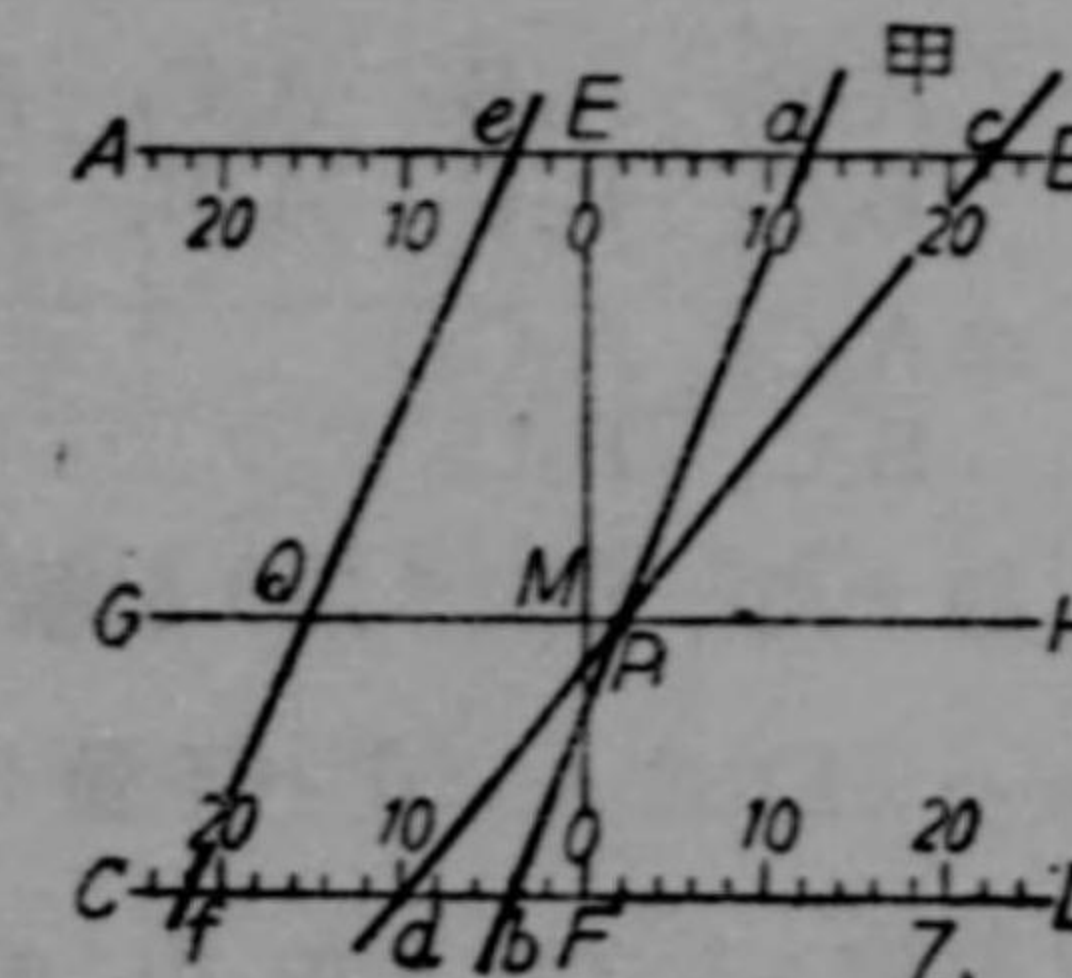
如ク行フノガ便デアアル。

任意ノ間隔ヲ以テ二平行線 AB, CD ヲ引キ、之ニ直交スル理論上
ハ直交スル必要ナシ) 直線 EF ヲ引キ E 及ビ F ヲ原點トシ其ノ兩側ニ
適宜同一梯尺ノ目盛ヲ畫キ AB ヲ甲觀測所用, CD ヲ乙觀測所用ト
定メル。今目標ニ對シ大砲ヲ以テ射距離ノ差 100m 若クハ 200m, 射
方向同一 (即チ $\Delta\delta$ ノ値相等シイ) ナル二射彈ヲ發射シ兩觀測所ニ
於テ兩射彈ノ方向偏差ヲ觀測スル。此ノ方向偏差ヲ兩觀測所用ノ目
盛ノ上ニ記シ射彈毎ニ連結シテ ab, cd 線ヲ畫キ其ノ交點 P [點 P ハ
($\Delta\delta$) 尺上ニアル筈, 138 頁注意 (2) 參照] ヲ過ギ EF ニ直交スル
GH 線 [($\Delta\sigma$) 尺, 臺尺トナル] ヲ作り EF トノ交點ヲ M トス。(兩
觀測所ガ射方向ノ兩側ニアルカー方ニアルカニ從ヒ GH 線ハ AB,
CD 線ノ中間ニアルカ或ハ外側ニアルカ)

次イデ通常 10 密位若クハ 20 密位射方向ヲ變換シテ發射シタ一彈ノ
方向偏差ヲ觀測シ前ト同様ニシテ圖上ニ ef 線ヲ畫キ GH トノ交點
Q ヲ求メ P, Q ノ間ヲ射方向ヲ變換シタ密位數ニ應ジテ等分シコノ
梯尺ヲ以テ M 點ヲ原點トシテ GH 線上ニ目盛ヲ畫ク。

(即チ函數尺 $w = \frac{1}{A+B} \Delta\delta$ ガ出來ル)

射	第一發	第二發	第三發
觀測所		第一發ニクハ二百米ヲ修正シタ射彈	第二發ニクハ二十密位ヲ修正シタ射彈
甲	+12	+22	-4
乙	-4	-10	-22



第 175 圖

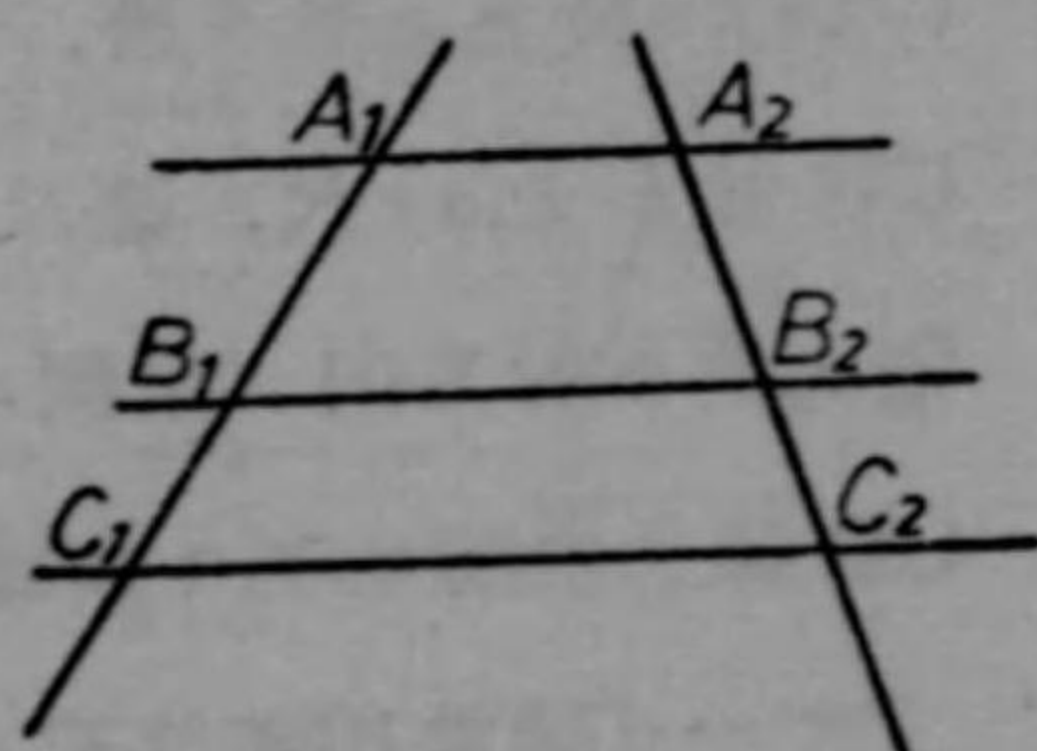
QM 密位ヲ方向ニ修正シテ發射シ ef 線ト同要領ニ依リ求メタ直線ガ M 點ノ近傍ヲ過ギル時ハ射方向ハ概ネ目標ニ通ジタコトニナル。

注意 昭和十六年改正ノ砲兵射擊教範總則及第一部第四篇第一章方向交會法觀測射擊要領ハ一見共線圖表ノ利用ト考ヘラレルガ之ハ全ク座標平面上ニ於テノ直線ノ方程式ノ應用ニ過ギヌ。茲デ簡單ニ説明シテ置ク。其ノ理ト云フベキモノハ次ノ三ツデアル。

(イ) 三ツノ方向偏差 $\alpha, \beta, \Delta\delta$ ノ間ニハ前ニ述ベタ如ク α, β ニ關スル次ノ一次方程式ガ成立ツコト。但シ A, B ハ常數デアル。

$$A\alpha + B\beta = \Delta\delta \dots\dots(1)$$

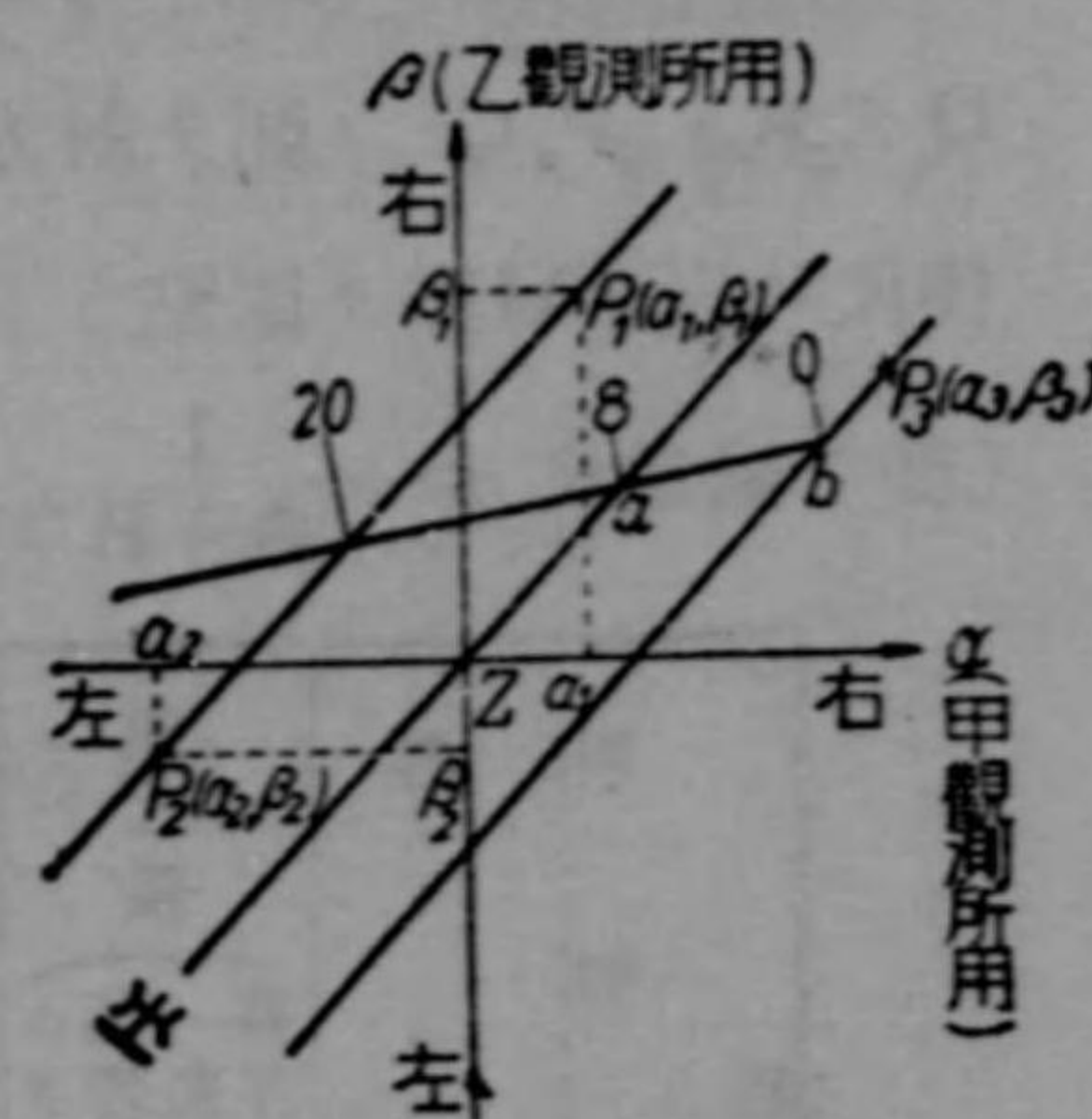
(ロ) α, β テ夫々兩座標軸上ニトリ (1) ノぐらふヲ畫ケバ直線トナリ從ツテ $\Delta\delta$ ノミノ變化 (A, B ハ不變) ニ對シテハ直線ガ平行ニ移動スルノミデアルコト。(即チ方向ハ變化シナイ)



第 176 圖

(ハ) 平行三直線ガ與ヘラレタルトキ之ニ交ル任意ノ直線ヲ引ケバ平行線ノ間ニ夾マレル對應スル分ノ比ハ常ニ一定デアル。第176圖ニ於テ

$$\frac{A_1B_1}{B_1C_1} = \frac{A_2B_2}{B_2C_2}, \quad \frac{A_1C_1}{B_1C_1} = \frac{A_2C_2}{B_2C_2}$$



第 177 圖

切テ同一方向ヲ以テ射擊スル場合ニハ (1) 式ノ $\Delta\delta$ ハ不變デアルカラ今二發ノ同一方向 ($\Delta\delta_0$ トス) ノ射擊ニ於テ夫々 $\alpha_1, \beta_1; \alpha_2, \beta_2$ ヲ得レバ點 $P_1(\alpha_1, \beta_1), P_2(\alpha_2, \beta_2)$ ヲ結ブ直線ノ方程式ハ

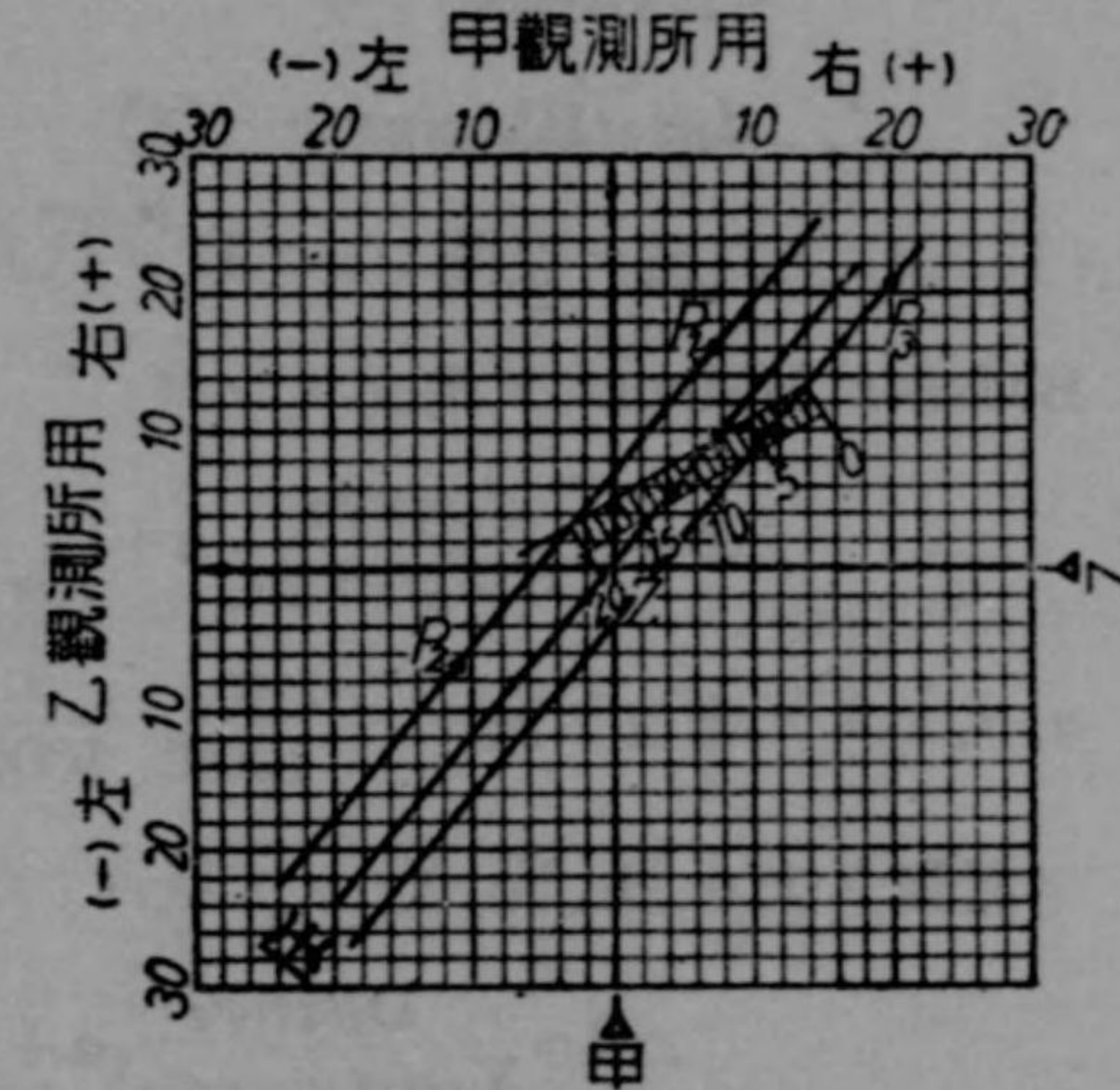
$$A\alpha + B\beta = \Delta\delta_0 \dots\dots(2) \text{ デアル。}$$

次ニ $\Delta\delta_0$ ヲ $\Delta\delta$ ニ修正シテ射擊シタトキ (通常ハ $\Delta\delta_1$ ト $\Delta\delta_0$ ノ差ハ 10 密位若クハ 20 密位) α_s, β_s ヲ得タトスレバ點 $P_s(\alpha_s, \beta_s)$ ヲ求メテ之ヲ通り P_1P_2 ニ平行線ヲ引ケバコノ方程式ハ

$$A\alpha + B\beta = \Delta\delta_1 \dots\dots(3) \text{ デアル。 [原理(ロ)]}$$

次ニ原點 O ヨリ P_1P_2 ニ平行線ヲ引ク。

今糧尺 (教範ニハ糧尺ト示シテアルガ等距離目盛ノ物差ナラバ何デモヨイ) ノ目盛ノ一端ヲ P_s (或ハ P_1P_2) 方向線ニ合ハセ次ニ其ノ尺上方向修正量ニ等シイ目盛ヲ P_1P_2 方向線 (或ハ P_s) ニ一致サセル時 P_s 方向線ト Z 方向線トノ間ニ夾マレル糧尺ノ長サ ab (右圖ニ於テハ 8 密位) ヲ讀ミ此ノ値ヲソノママ目標ニ對スル P_s ノ方向修正量ノ密位數 (左ハ 8 密位) トスル。[原理(ハ)]



第 178 圖

發射番号	号令	觀測	
		甲	乙
1		5300	+7 +16
2		5100	-11 -7
3	20右	5100	+20 +21
4	7左		

實施ハ右圖ノ要領ニヨル。

[參考] $A\alpha + B\beta = \Delta\delta$ ノ導入ヲ參考ノタメ記シテオク。

初メ $\alpha, \beta, \Delta\delta$ ヲ弧度デ表セバ $\Delta\delta$ 小ナルニヨリ

$$\left. \begin{aligned} MM_0 &= X \sin \Delta\delta \approx X \Delta\delta \\ &= B M \sin(x + \varphi_2) \end{aligned} \right\}$$

$$\therefore X\Delta\delta = BM\sin(x+\varphi_2) \dots (1)$$

又 a, β ハ小ナルニヨリ同様ニ

$$\left. \begin{aligned} MM_1 &= d_1 \tan \alpha = d_1 a \\ &= BM \sin(x+\varphi_1+\varphi_2) \end{aligned} \right\}$$

$$\therefore d_1 a = BM \sin(x+\varphi_1+\varphi_2) \dots (2)$$

$$\left. \begin{aligned} MM_2 &= d_2 \tan \beta = d_2 \beta \\ &= BM \sin x \end{aligned} \right\}$$

$$\therefore d_2 \beta = BM \sin x \dots (3)$$

(1), (2) ノ右邊ヲ展開シテ (3) ヲ代入シ

$BM \sin x, BM \cos x$ ヲ消去スレバ

$$\Delta\delta = \frac{d_1 \sin \varphi_2}{X \sin(\varphi_1+\varphi_2)} a + \frac{d_2 \sin \varphi_1}{X \sin(\varphi_1+\varphi_2)} \beta$$

$a, \beta, \Delta\delta$ ヲ密位ヲ表セバ $\frac{a}{1000}, \frac{\beta}{1000}, \frac{\Delta\delta}{1000}$ トナルカラ今 d_1, d_2, X

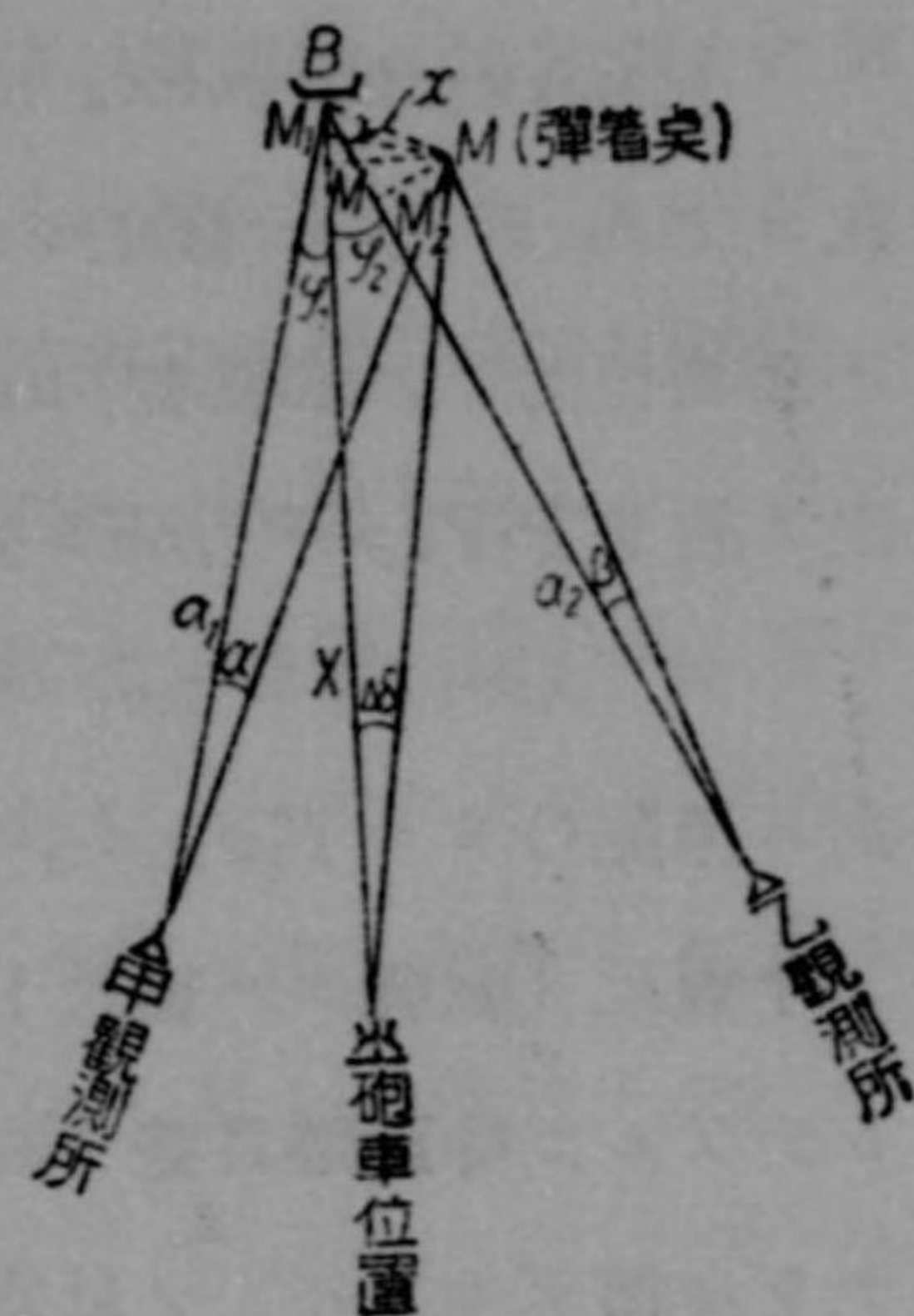
ノ杆數ヲ夫々 D_1, D_2, X_1 トスレバ

$$\Delta\delta = \frac{D_1 \sin \varphi_2}{X_1 \sin(\varphi_1+\varphi_2)} a + \frac{D_2 \sin \varphi_1}{X_1 \sin(\varphi_1+\varphi_2)} \beta \dots (4)$$

茲ニ於テ

$$\frac{D_1 \sin \varphi_2}{X_1 \sin(\varphi_1+\varphi_2)} = A, \frac{D_2 \sin \varphi_1}{X_1 \sin(\varphi_1+\varphi_2)} = B \quad \text{トオケバ } A, B \text{ ハ}$$

常數トナリ (4) ハ $Aa + B\beta = \Delta\delta$ トナル。



第 179 圖

第九章 偏差交會法

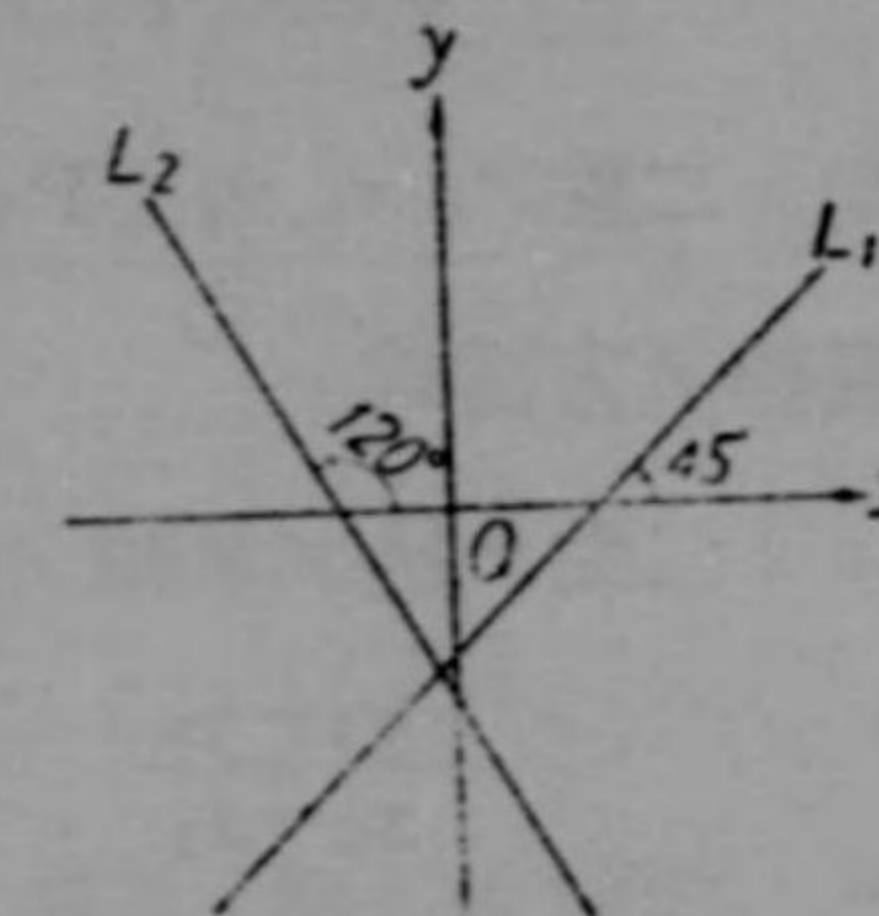
38. 直線ノ方程式

既ニ第二章デ述ベタモノニ一部ヲ附加シテ豫備トスル。

(1) 直線ノ方向角ト傾斜

直線ガ横軸ノ正ノ方向トナス角ヲコ
ノ直線ノ方向角, コノ角ノ正切ヲ傾斜
トイフ。

第180圖ニ於テ直線 L_1 ノ方向角ハ 45° ,
傾斜ハ $\tan 45^\circ = 1$, L_2 ノ方向角ハ 120° ,
傾斜ハ $\tan 120^\circ = -\sqrt{3}$ デアル。



第 180 圖

(2) y 軸上ノ截片ガ b , 方向角ガ θ デ アル直線ノ方程式

コノ直線上ノ任意ノ點Pノ座標ヲ x, y
トスレバ第181圖ヨリ明カニ

$$\tan \theta = \frac{y-b}{x}$$

$$\text{或ハ } y = x \tan \theta + b \dots (1)$$

傾斜ヲ m トスレバ (1) ハ

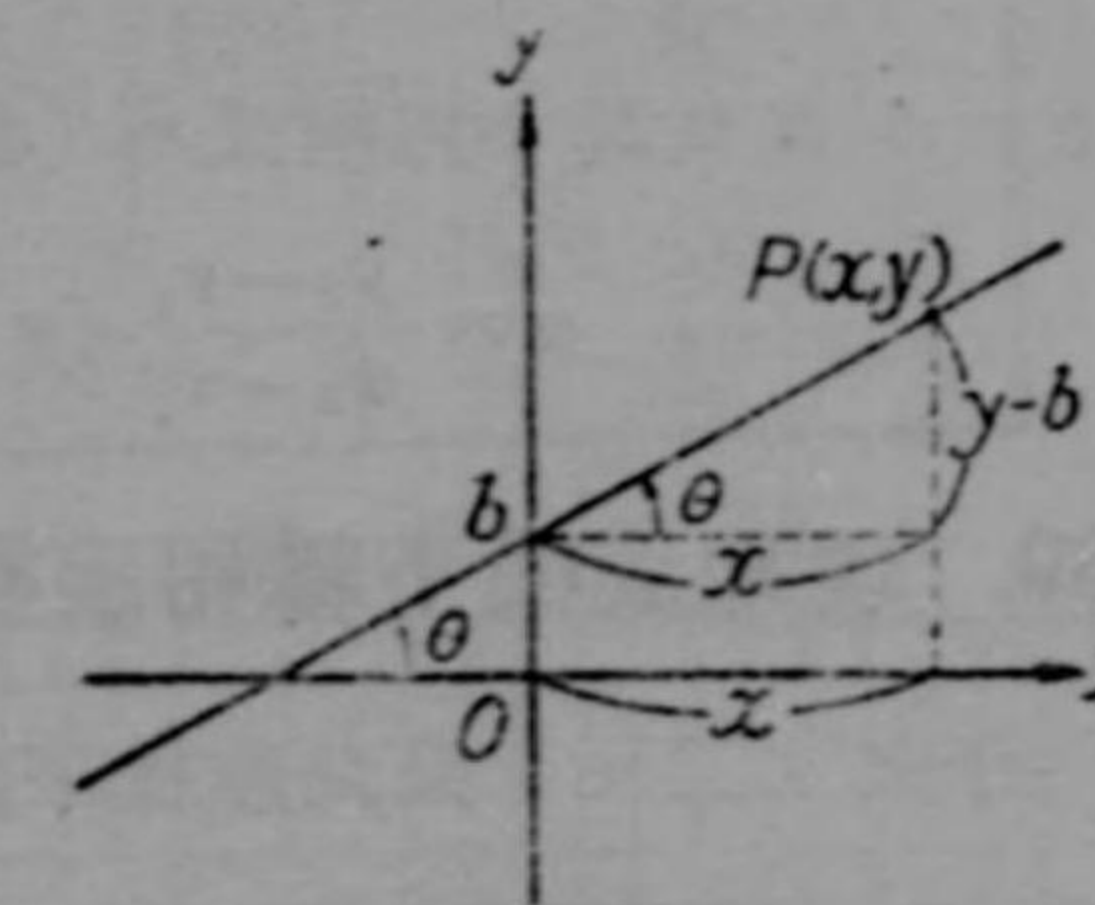
$$y = mx + b \dots (2)$$

(3) 二點 $P_1(x_1, y_1), P_2(x_2, y_2)$ ヲ結 ブ直線ノ傾斜

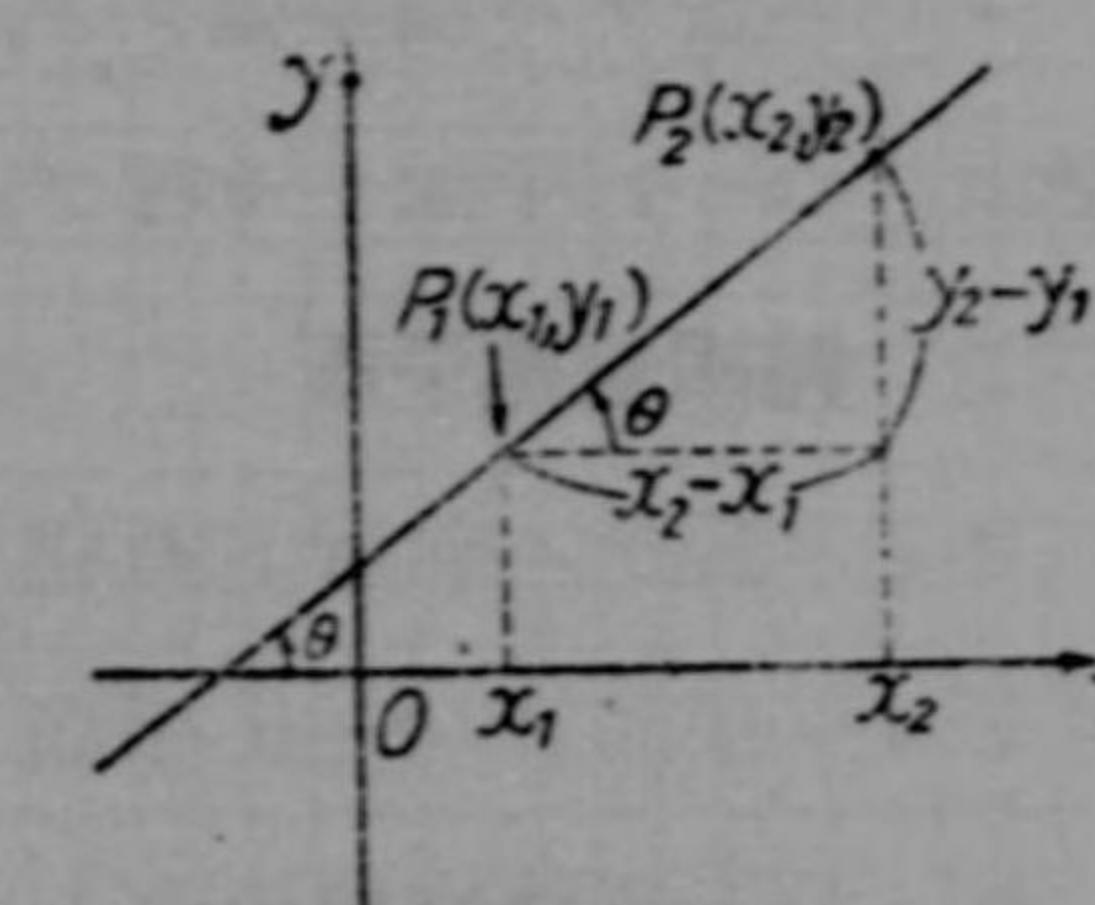
第182圖ヨリ明カニ

$$\tan \theta = \frac{y_2 - y_1}{x_2 - x_1} \dots (3)$$

(4) 定點 $P_1(x_1, y_1)$ ヲ通り傾斜ガ m デアル直線ノ方程式



第 181 圖



第 182 圖

直線上ノ任意ノ點ヲ $P(x, y)$ トス
レバ (第183圖)

$$m = \frac{y - y_1}{x - x_1}$$

$$\therefore y = m(x - x_1) + y_1 \dots (4)$$

(5) 二點 $P_1(x_1, y_1), P_2(x_2, y_2)$ ヲ結
ブ直線ノ方程式

コノ二點ヲ結ブ直線ノ傾斜ハ (3) ヨリ

$$\frac{y_2 - y_1}{x_2 - x_1}$$

從ツテコノ直線ハ點 $P_1(x_1, y_1)$ ヲ通り傾斜ガ $\frac{y_2 - y_1}{x_2 - x_1}$ デアル直線

トナルカラ其ノ方程式ハ (4) ヨリ

$$y = \frac{y_2 - y_1}{x_2 - x_1} (x - x_1) + y_1 \dots (5)$$

39. 現地座標ト轉相座標

今次ノ二ツノ直角座標平面ヲ考ヘル。

(1) 現地座標平面

コレニ於テハ横座標ヲ x , 縦座標ヲ y トスルコトトシ從ツテコノ
平面ヲ $x-y$ 平面トモ呼ブ。

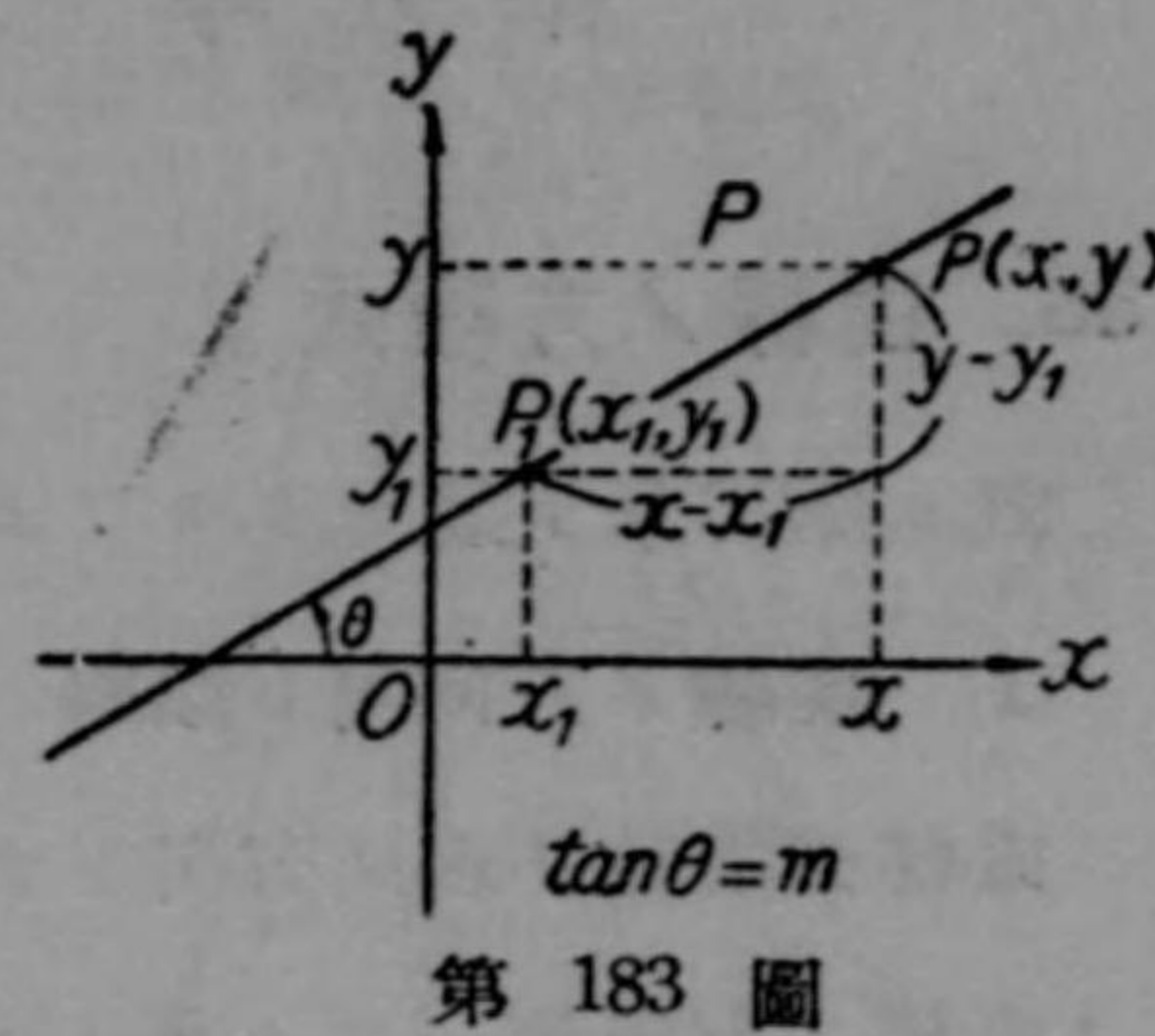
(2) 轉相座標平面

コレニ於テハ前者ト區別スルタメ横座標ヲ u , 縦座標ヲ v トシ從
ツテコノ平面ヲ $u-v$ 平面トモ呼ブ。

茲ニ於テ現地座標平面上ノ直線ニ對シ次ノ規約ニヨツテ轉相座標
平面上ノ點ヲ對應サセル。

規約 現地座標平面上デ y 軸上ノ截片ガ b , 傾斜ガ m デアル直線

$$y = mx + b$$

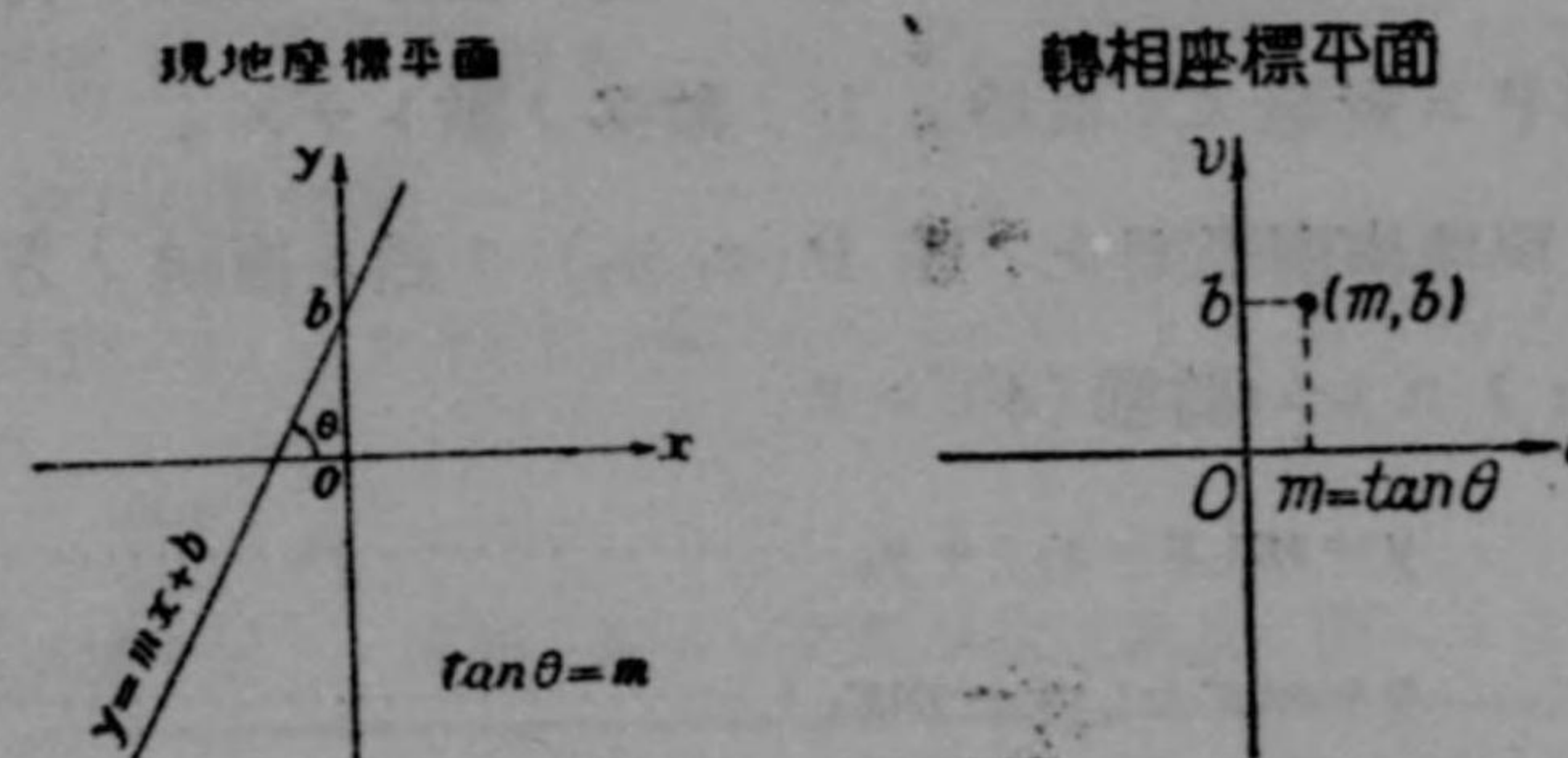


第 183 圖

ニ對シ轉相座標平面上デハ横座標ガ m , 縦座標ガ b デアル點

$$(m, b)$$

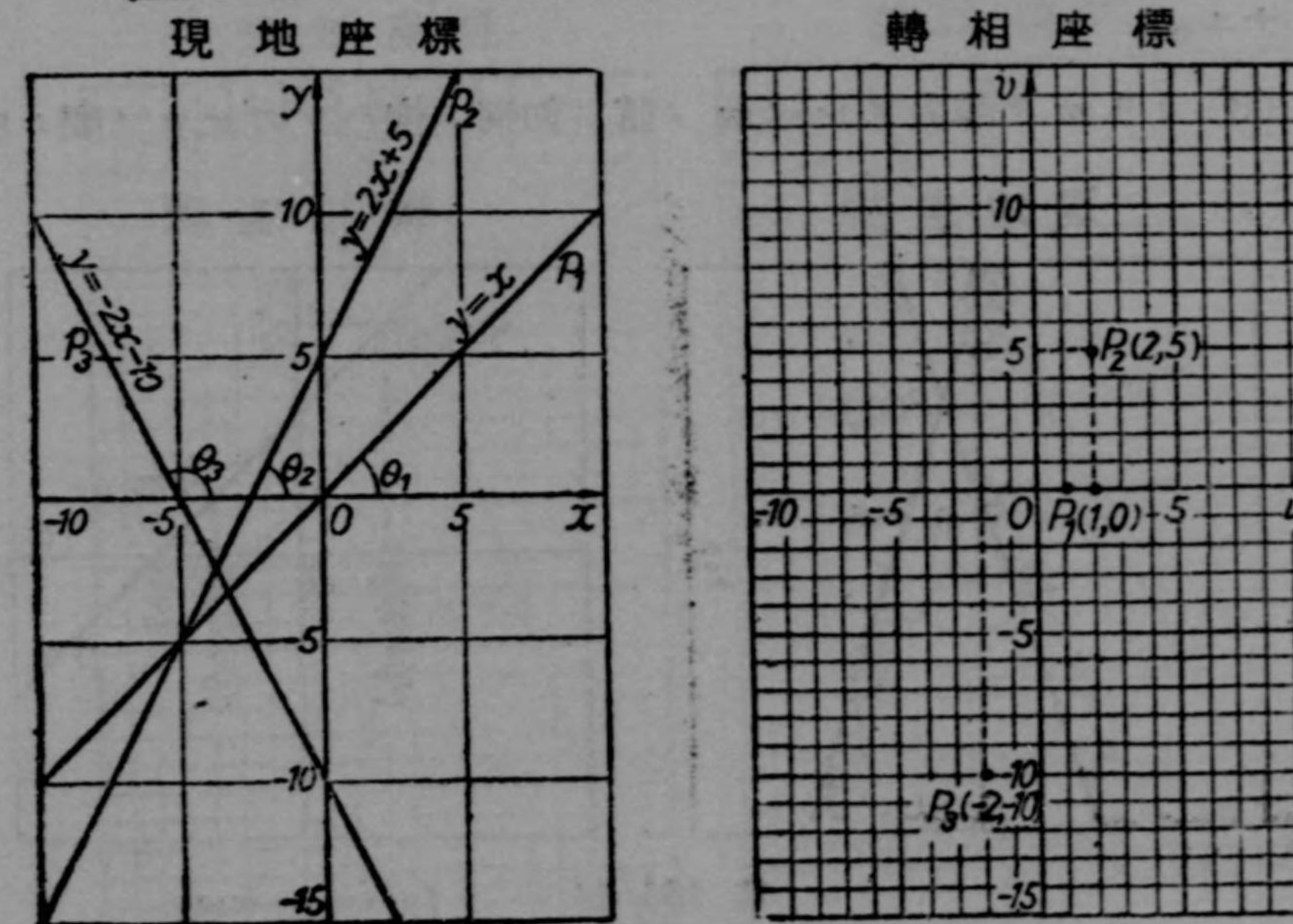
ヲ對應サセル。



第 184 圖

例 兩座標平面上ノ直線ト點トノ對應ヲ次ノ表及ビ圖ニヨリ研究セヨ。

直線	傾斜	y 軸上ノ截片	轉相座標點
$p_1: y = x$	$1 = \tan \theta_1$	0	$P_1(1, 0)$
$p_2: y = 2x + 5$	$2 = \tan \theta_2$	5	$P_2(2, 5)$
$p_3: y = -2x - 10$	$-2 = \tan \theta_3$	-10	$P_3(-2, -10)$



第 185 圖

上ノ規約ニ基イテ直線ヲ點ニ換ヘルト次ノ二ツノ重要ナ關係ガ成立ツ。

定理 1. 現地座標平面上ノ點 P ヲ通ル數多ノ直線ハ轉相座標平面上デハ點 P = 對應スル直線 p 上ノ數多ノ點トナル。

證明 現地座標平面上ノ點 P(x₁, y₁) ヲ通ル直線ノ方程式ハ其ノ傾斜ヲ m トスレバ前節(4)ヨリ

$$y = m(x - x_1) + y_1 \dots\dots\dots(1)$$

或ハ $y = mx + (y_1 - mx_1) \dots\dots\dots(2)$

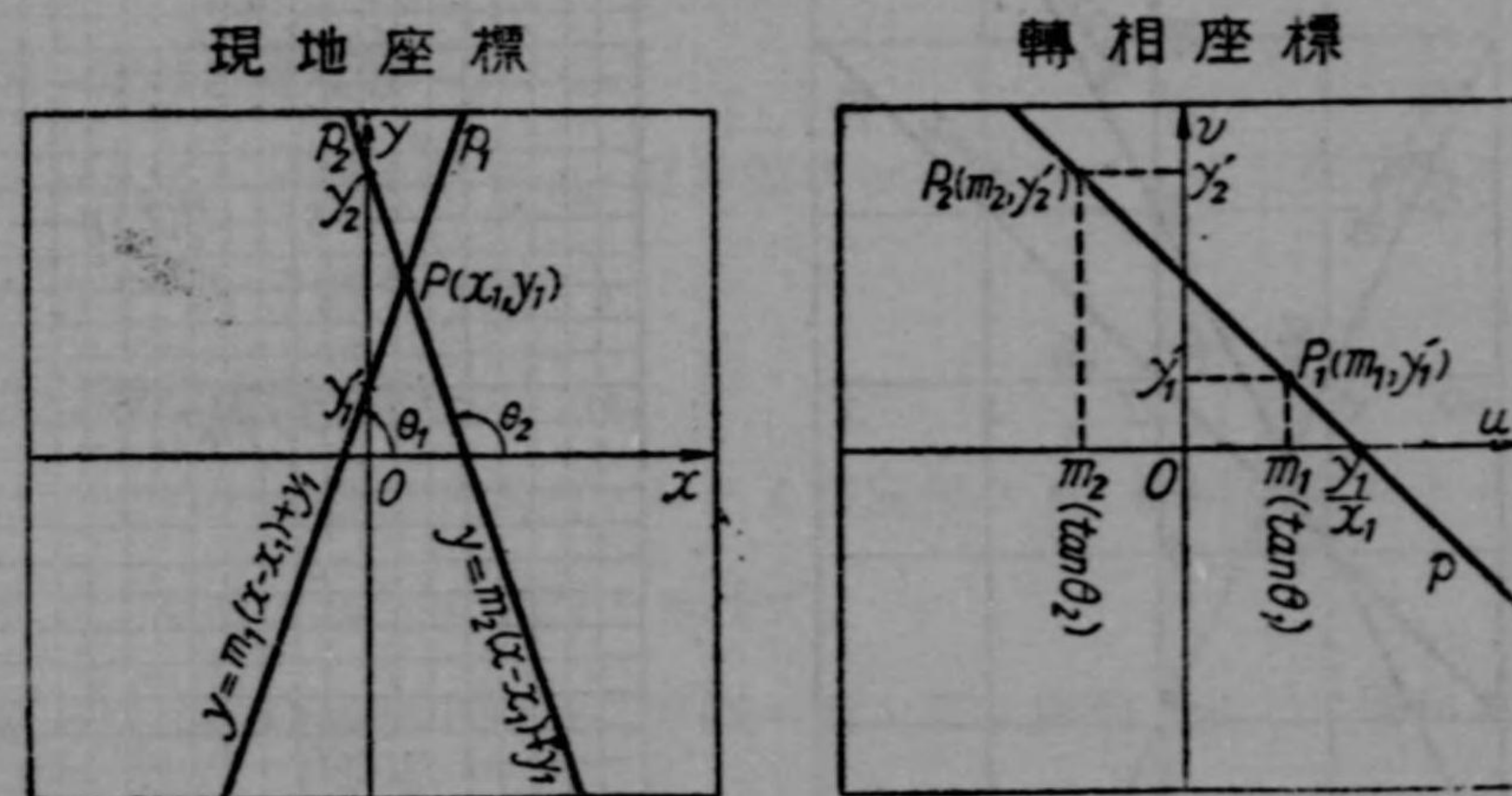
ココデ m = 種々ノ値ヲ與ヘレバ P ヲ通ル數多ノ直線ノ方程式ガ得ラレル。

コノ各直線 = 對應スル轉相座標平面上ノ點ノ u, v 座標ハ規約ニ基イテ

$$u = m, v = y_1 - mx_1 \dots\dots\dots(3)$$

トナル。

(3) カラ m ヲ消去スレバ m ノ値ノ如何ニ拘ハラズ u, v ノ間ニ成



第 186 圖 $\begin{cases} y_1' = y_1 - m_1 x_1 \\ y_2' = y_1 - m_2 x_1 \end{cases}$

立スル關係, 即チ(2) = 對應スル點ノ軌跡ノ方程式ガ得ラレル。

即チ $v = -x_1 u + y_1 \dots\dots\dots(4)$

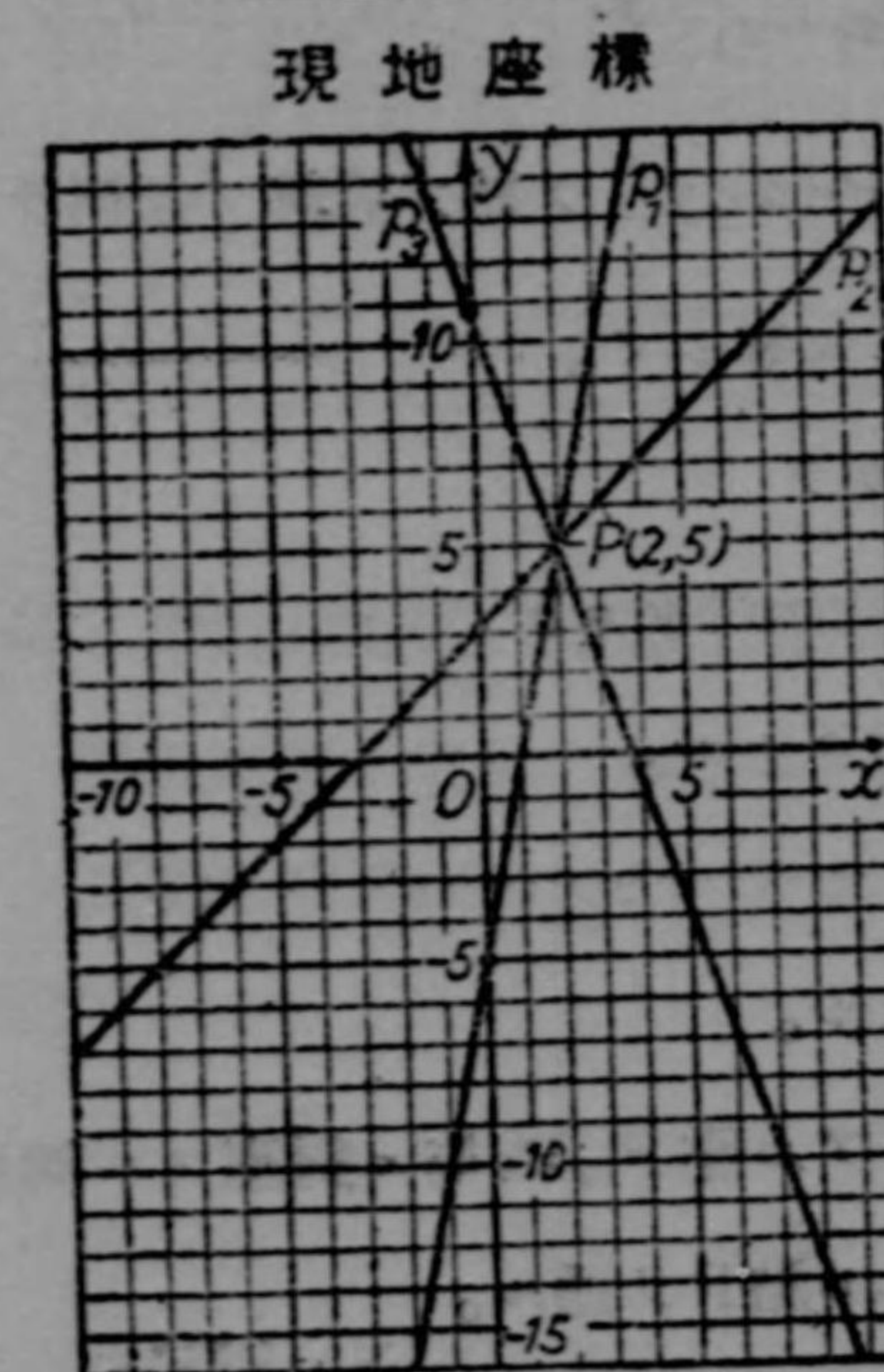
依ツテ現地座標平面上ノ點 P(x₁, y₁) ヲ通ル數多ノ直線 = 對應スル轉相座標平面上ノ點ハ傾斜ガ -x₁, v 軸上ノ截片ガ y₁ デアル直線上ニアル。(第186圖參照)

注意 直線(4)ノ u 軸上ノ截片ハ v=0 トオケバ次ノ如クナル。

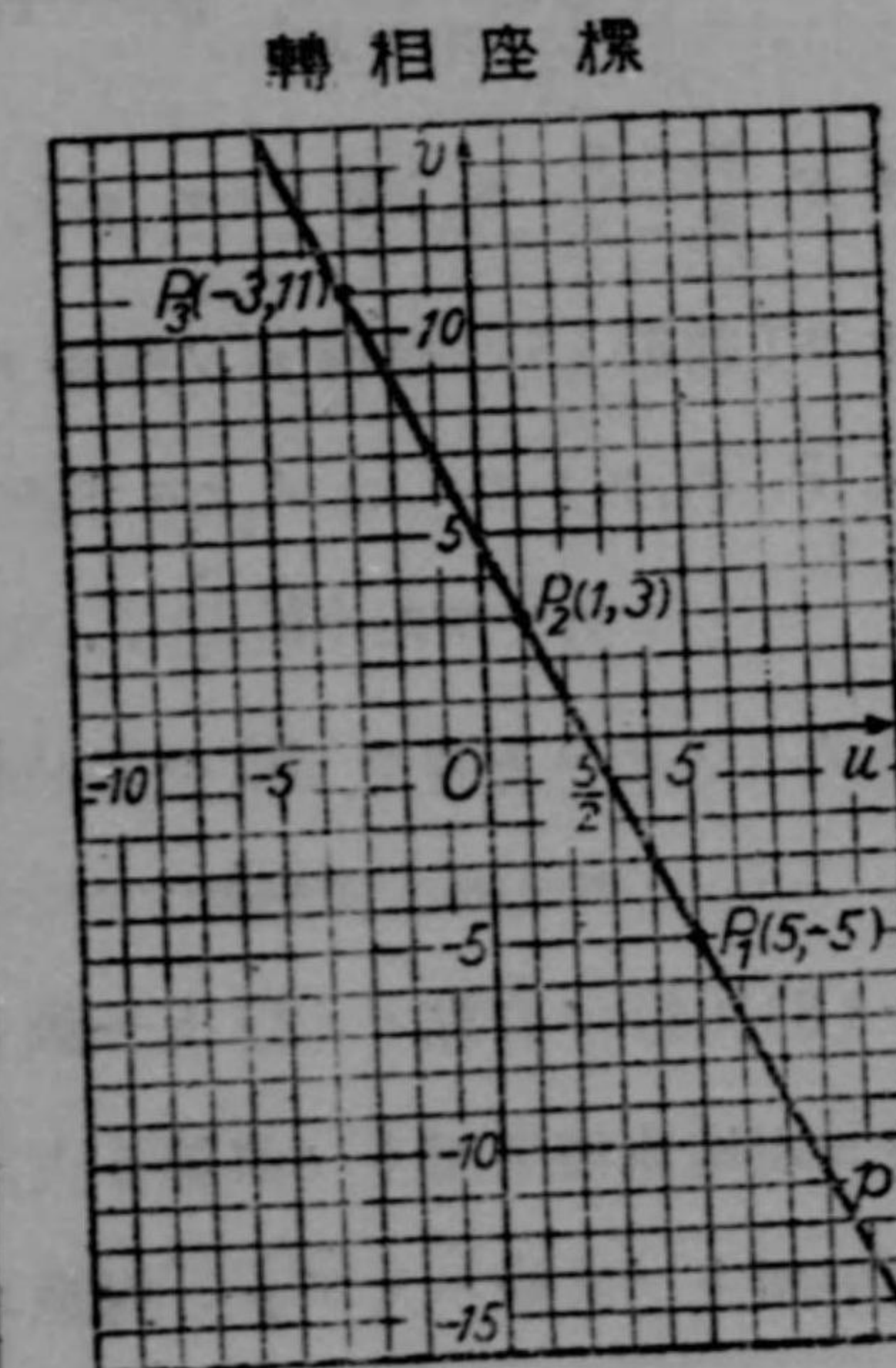
$$u = \frac{y_1}{x_1}$$

例 兩座標平面上ノ直線ト點トノ對應ヲ次ノ表及ビ圖ニヨリテ研究セヨ。

現地座標		轉相座標	
點 P(2,5)		直線 p: v = -2u + 5	
點 P(2,5) ヲ通ル直線	p ₁ : y = 5x - 5	P ₁ (5, -5)	直線 p 上ニアリ
	p ₂ : y = x + 3	P ₂ (1, 3)	
	p ₃ : y = -3x + 11	P ₃ (-3, 11)	



第 187 圖



第 188 圖

定理 2. 現地座標平面上ノ直線 p ノ上ニアル數多ノ點ハ轉相座標平面上デハ直線 p ニ對應スル點 P ヲ通ル數多ノ直線トナル。

證明 現地座標平面上ノ直線 p ノ方程式ヲ

$$y = mx + b \dots\dots\dots(1)$$

トスレバ之ニ對應スル轉相座標平面上ノ點ハ

$$P(m, b) \dots\dots\dots(2)$$

トナル。

次ニ p 上ノ任意ノ二點ヲ $P_1(x_1, y_1), P_2(x_2, y_2)$ トスレバ之ニ對應スル轉相座標平面上ノ直線ハ定理 1 ヲリ

$$P_1(x_1, y_1) \rightarrow v = -x_1u + y_1 \dots\dots\dots(3)$$

$$P_2(x_2, y_2) \rightarrow v = -x_2u + y_2 \dots\dots\dots(4)$$

(3), (4) ノ交點ノ座標ハ

$$u = \frac{y_2 - y_1}{x_2 - x_1}, \quad v = -x_1 \frac{y_2 - y_1}{x_2 - x_1} + y_1 \dots\dots\dots(5)$$

所ガ $\frac{y_2 - y_1}{x_2 - x_1}$ ハ二點 $P_1(x_1, y_1), P_2(x_2, y_2)$ ヲ結ブ直線ノ傾斜デア

ルカラ〔前節 (5)〕直線 p ノ傾斜 m ニ等シイ。

又 $P_1(x_1, y_1)$ ハ (1) ノ上ニアルカラ

$$y_1 = mx_1 + b \quad \therefore -x_1m + y_1 = b$$

コノ二ツノコトカラ (5) ハ次ノ如クナル。

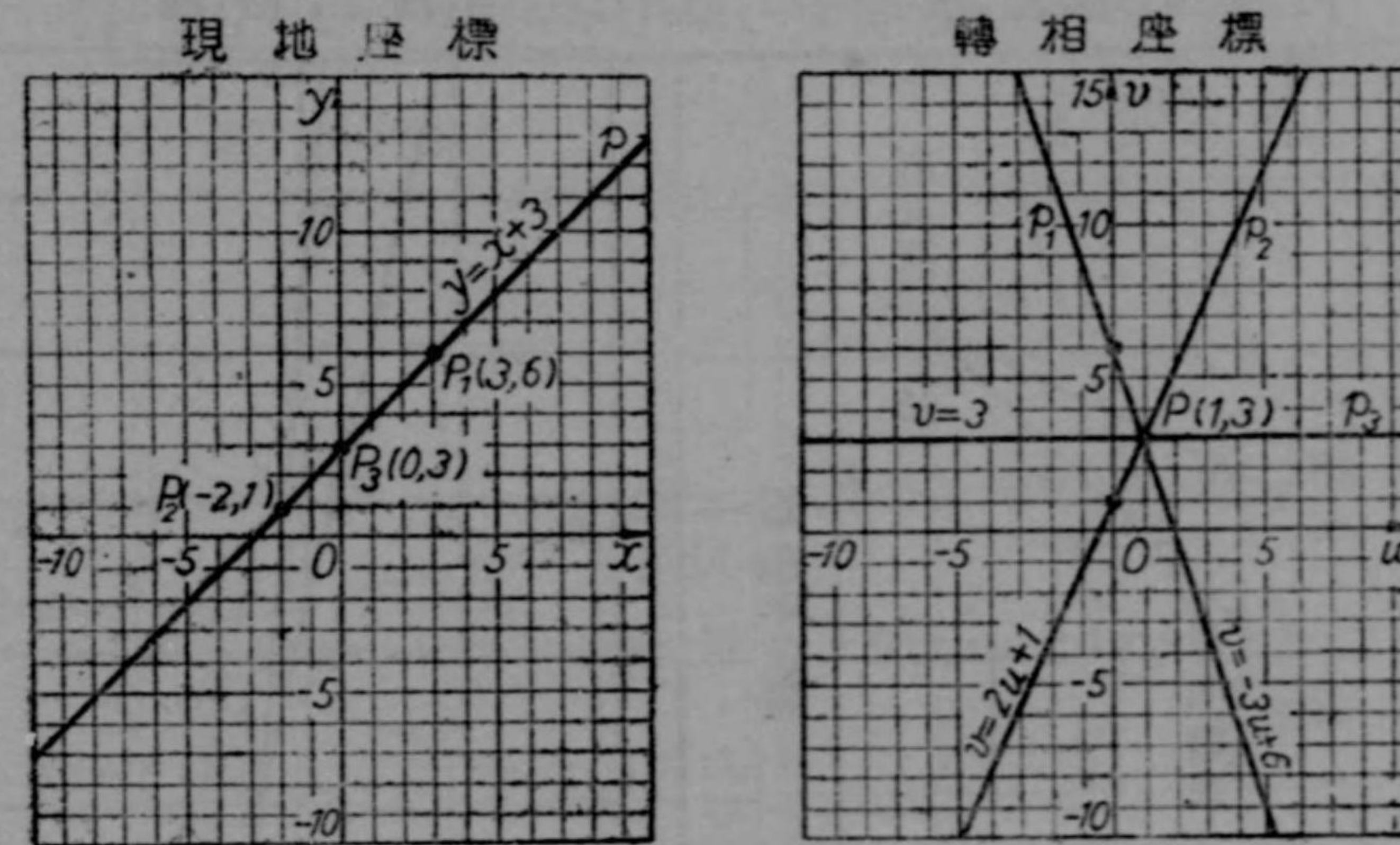
$$u = m, \quad v = b \dots\dots\dots(6)$$

即チ (3), (4) ノ交點ハ (2) ト一致スル。

故ニ現地座標平面上ノ直線 p 上ニアル點 P_1, P_2 等ニ對應スル轉相座標平面上ノ直線ハ凡テ p ニ對應スル點 P ヲ通ル。

例 兩座標平面上ノ直線ト點トノ對應ヲ次ノ表及ビ圖ニヨリテ研究セヨ。

現地座標		轉相座標			
直線 $p: y = x + 3$	傾斜	1			
	y 軸上ノ截片	3			
直線 p 上ノ點		Pヲ通ル直線	傾斜	v 軸上ノ截片	u 軸上ノ截片
$P_1(3, 6)$		$p_1: v = -3u + 6$	-3	6	$\frac{6}{3} = 2$
$P_2(-2, 1)$		$p_2: v = 2u + 1$	2	1	$\frac{1}{2}$
$P_3(0, 3)$		$p_3: v = 3$	0	3	∞



第 189 圖

40. 轉相座標ノ偏差交會法ヘノ應用

轉相座標ヲ應用シテ射彈ノ目標ニ對スル方向及ビ遠近ノ偏差ヲ圖上デ迅速且正確ニ求メル方法〔砲兵射撃教範第二章第二節〕ニツキ説明スル。

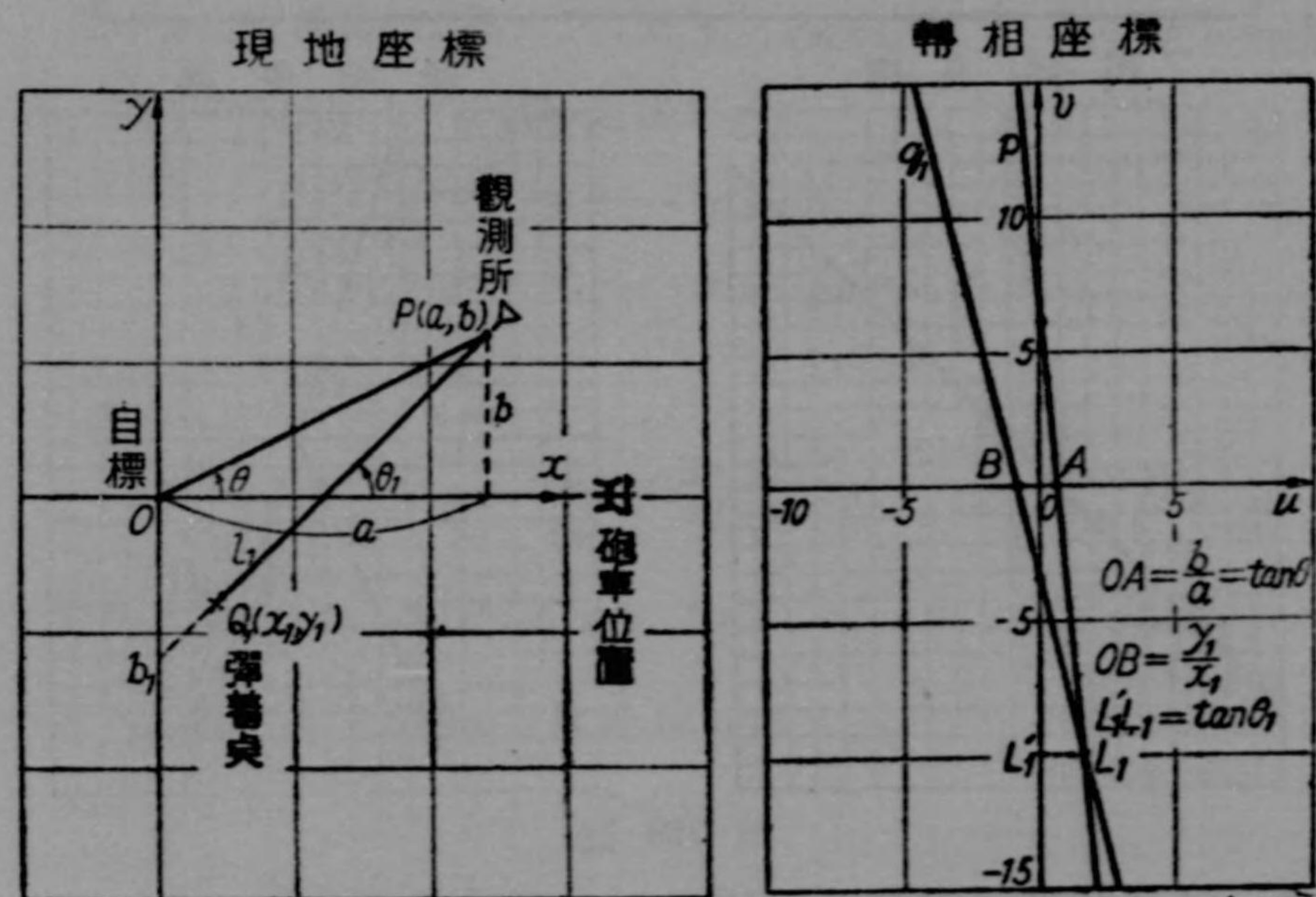
先ヅ砲車ノ位置ト目標トヲ連ネル線即チ砲目線ヲ x 軸、目標ヲ通り之ニ直交スル直線ヲ y 軸トシテ現地座標ヲ定メル。

之ニ對シテ轉相座標平面ヲ定メル。

砲車及ビ觀測所ノ位置及ビ射彈ノ彈着點ガ第 190 圖ノ如クデアレ

ハ既ニ知ル如ク兩座標平面上テ次ノ對應ガ成立ツ。

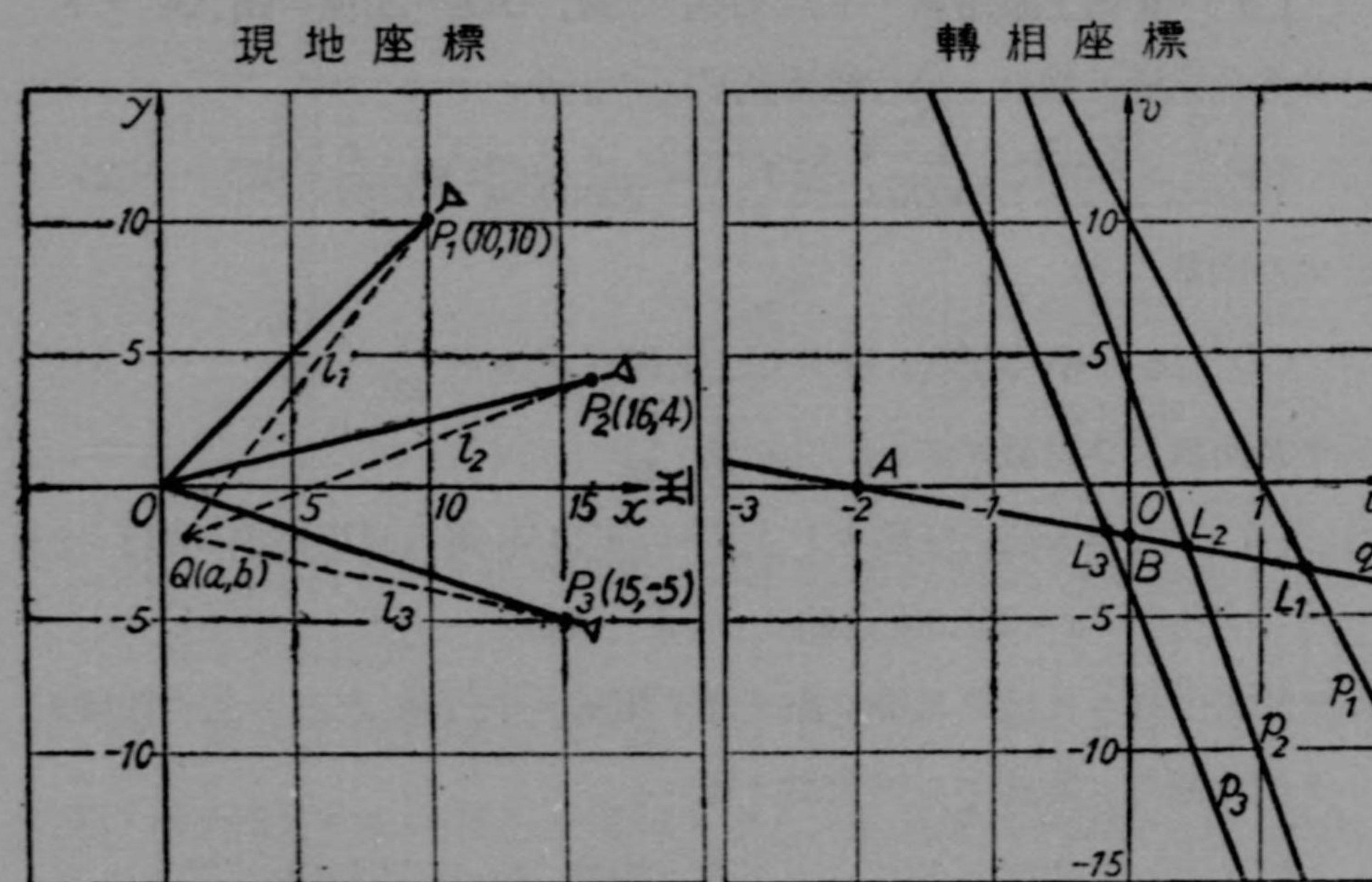
現地座標	轉相座標
觀測所: $P(a, b)$	直線 $p: v = -au + b$
直線OP: $y = \frac{b}{a}x = x \tan \theta$	點A: $(u = \frac{b}{a} = \tan \theta, v = 0)$
彈着點: $Q(x_1, y_1)$	直線 $q_1: v = -x_1u + y_1$
直線PQ ₁ : $y = x \tan \theta_1 + b_1$	p, q_1 ノ交點L ₁ : $(u = \tan \theta_1, v = b_1)$



第 190 圖

次ニ第 189 圖ノ如ク三個ノ觀測所 P_1, P_2, P_3 ガアルトキハ

現地座標	轉相座標
觀測所: $P_1(x_1, y_1)$	直線 $p_1: v = -x_1u + y_1$
觀測所: $P_2(x_2, y_2)$	直線 $p_2: v = -x_2u + y_2$
觀測所: $P_3(x_3, y_3)$	直線 $p_3: v = -x_3u + y_3$
彈着點 $Q(a, b)$	直線 $q: \begin{cases} v = -au + b \\ OA = \frac{b}{a}, OB = b \dots (1) \end{cases}$
一點Qヲ通ル直線P ₁ Q, P ₂ Q, P ₃ Q	一直線q上ニアル點L ₁ , L ₂ , L ₃



第 191 圖

上表中ノ(1)式ヨリ圖上ノOA, OBヲ用フレバ射彈ノ方向及ビ遠近ノ偏差ハ次ノ如クナル。

$$\text{方向偏差 } b = OB, \text{ 遠近偏差 } a = \frac{OA}{OB} \dots \dots \dots (1)$$

之ヲ簡單ニ求ムルタメニ次ニ述ベル特殊ノ線圖用紙ヲ使フ。

41. 偏差交會法用線圖ノ作り方 (添付附圖参照)

- (1) 縦, 横各々約50種ノ用紙ヲ用意スル。
- (2) 用紙ノ中央ニ原點ヲ置キ横ニ v 軸, 縦ニ u 軸ヲトリ前者ハ右ヲ正, 後者ハ下ヲ正トスル。

(3) v 軸上ニハ原點カラ左右ニ梯尺 $1/2000$ ノ目盛り即チ y ヲ米數トスレバ函數尺 $v = \frac{y}{2000}$ (米) = $\frac{y}{20}$ (種)(1) 目盛り。

(4) u 軸上原點ヨリ下ニ $OO_1 = 2$ 種, $OO_2 = 20$ 種 = O_1, O_2 ヲトリ各々ヲ通り横軸ニ平行線 EF, CD ヲ引キ

EF 上ニハ梯尺 $\frac{1}{20000}$, 即チ $u = \frac{x}{20000}$ (米) = $\frac{x}{200}$ (種)(2) ナル函數尺ヲ,

CD 上ニハ梯尺 $\frac{1}{2000}$, 即チ (1) ト同ジク $u = \frac{y}{20}$ (種)(3) ナル函數尺ヲ目盛り。

(5) 次ニ u 軸上原點ヨリ上, 下ニ正切尺(第八章第32節問題2ノ2) $x = 20 \tan \theta$ (種) (θ ハ密位)(4)

ヲ50密位毎ニ目盛り其等ノ點ヲ通り横軸ニ平行線(左右ニ各々20種) ヲ引キ兩端ニ對應スル密位數ヲ記ス。

縦ノ長サヲ40種ニトレバ上下各々20種, $\tan 800^{\text{ミ}} = 1$ デアルカラ $20 \tan 800 = 20$

トナリ密位數ハ800マデ目盛ラレルガ必要ニ應ジテ線圖用紙ヲ大ニシ同ジ要領デ大ナル密位數ニ應ズル正切線ヲ引ケバヨイ。

42. 觀測所ニ對應スル直線ノ畫キ方

觀測所 P_1 ノ現地座標ヲ (x_1, y_1) トスルトキ之ニ對應スル轉相座標

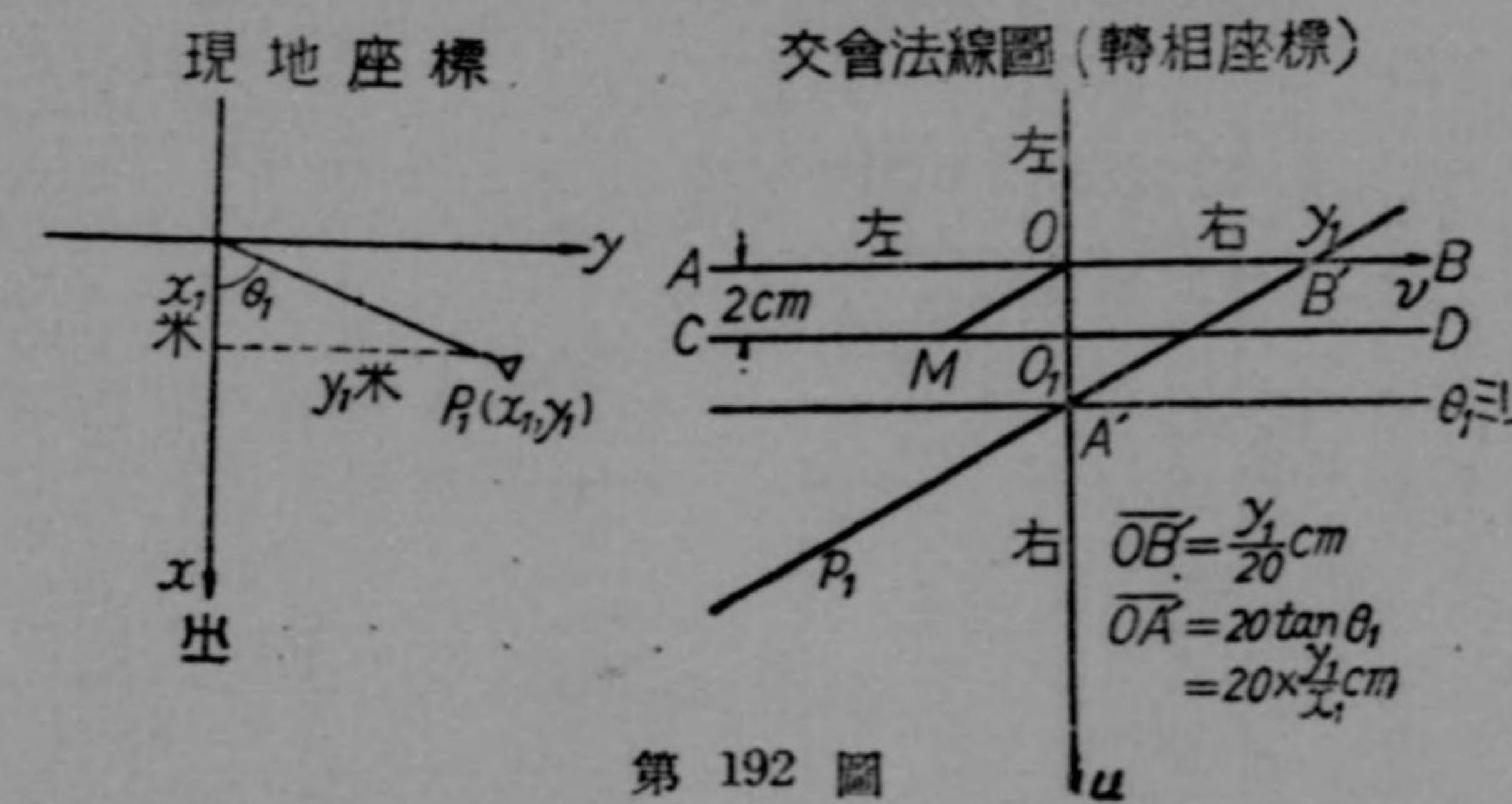
平面上ノ直線 p_1 ヲ畫クニハ (第192圖)

(a) 觀測所ガ砲目線ノ右(或ハ左)ニアレバ, v 軸上 y_1 ニ應ズル點 B' ヲ原點ヨリ右(或ハ左)ニ, u 軸上 θ_1 ニ應ズル點 A' ヲ原點ヨリ下(或ハ上)ニトリ A', B' ヲ結ベバコレガ p_1 トナル。

理由 第38節デ明カナ様ニ p_1 ノ方程式ハ

$$v = -x_1 u + y_1$$

トナリ之ハ v 軸上ノ截片ガ y_1 , u 軸上ノ截片ガ $y_1/x_1 = \tan \theta_1$ デアルカラデアル。



次ニ y_1 ノ値ガ大キクテ線圖上ニ點 B' ヲトリ得ナイ時ハ次ノ如クスレバヨイ。即チ

(b) 觀測所ガ砲目線ノ右(或ハ左)ニアレバ, CD 直線上 O_1 ヲリ左(或ハ右)ニ x_1 ニ應ズル點 M ヲ求め, θ_1 ニ應ズル點 A' (上ノ場合ト同様) カラ直線 OM ニ平行線ヲ引ケバ之ガ求メル直線トナル。

理由 今 A' ヲ通り OM ニ平行ナ直線ガ v 軸ヲ切ル點(用紙ヲ大キクシテ) ヲ B' トスレバ $\triangle B'OA' \sim \triangle MO_1O$ デアルカラ

$$\frac{OB'}{OA'} = \frac{O_1M}{OO_1} \text{(1)}$$

トコロガ $OO_1 = 2cm$ デ又前節

(4) 式カラ $\overline{OA'} = 20 \tan \theta_1 = 20 \times \frac{y_1}{x_1} (cm)$

(2) 式カラ $\overline{O_1M} = \frac{x_1}{200} (cm)$

從ツテ $\overline{OB'} = \overline{OA'} \times \frac{\overline{O_1M}}{\overline{OO_1}} = 20 \times \frac{y_1}{x_1} \times \frac{x_1}{200} \times \frac{1}{2} = \frac{y_1}{20} (cm)$

トナリ，線圖用紙ヲ大ニシタト假定シタ場合(a)ノ方法ヲ求メラレ
ル點B'ト一致スルカラコノ直線ハ求メルモノデアル。

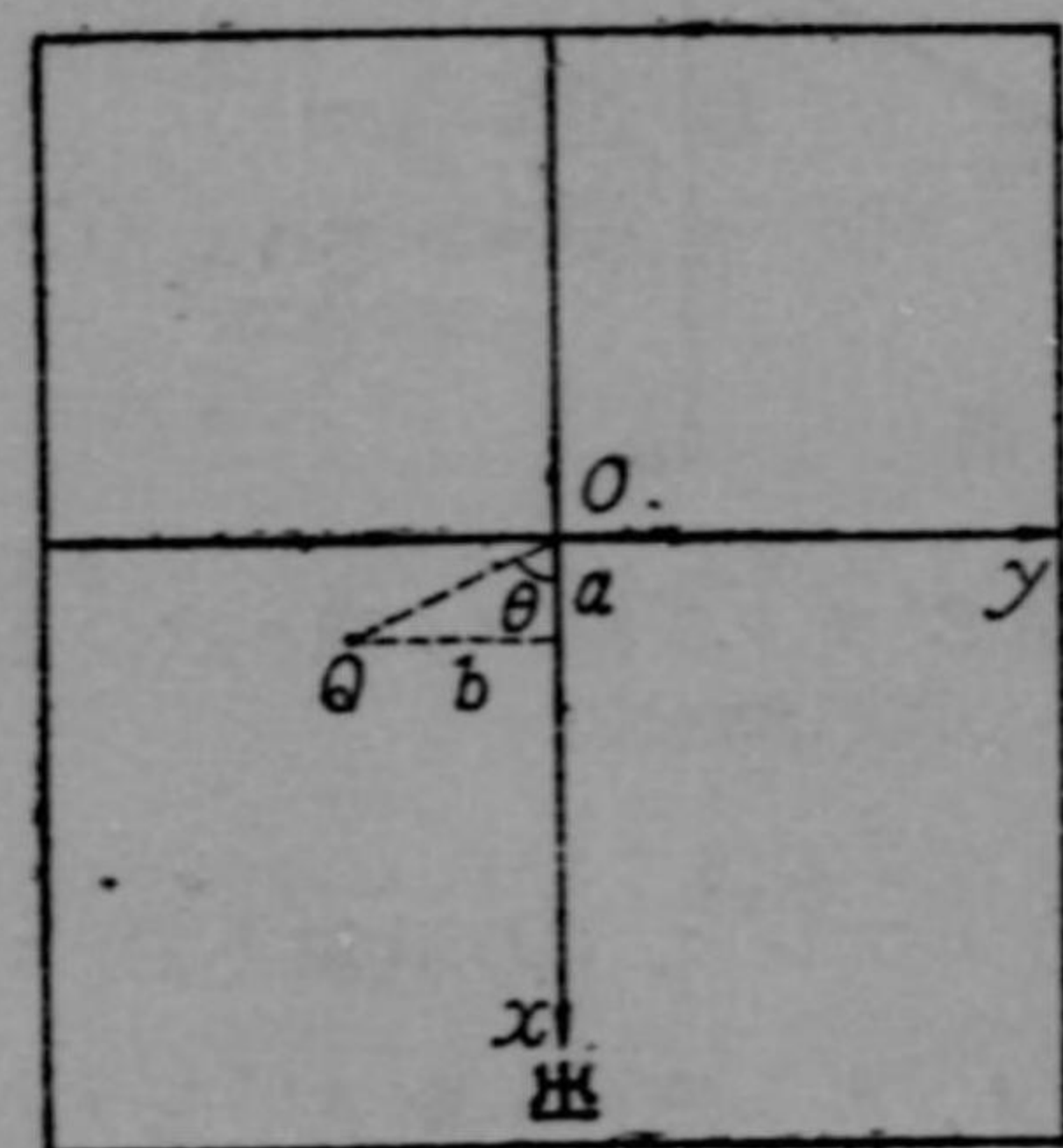
43. 偏差ノ決定法

第193圖(一)ニ於テ點Q(a, b)ヲ彈着點トスレバQ點ニ對應スル
轉相座標平面上ノ直線ハA'B'トナリ

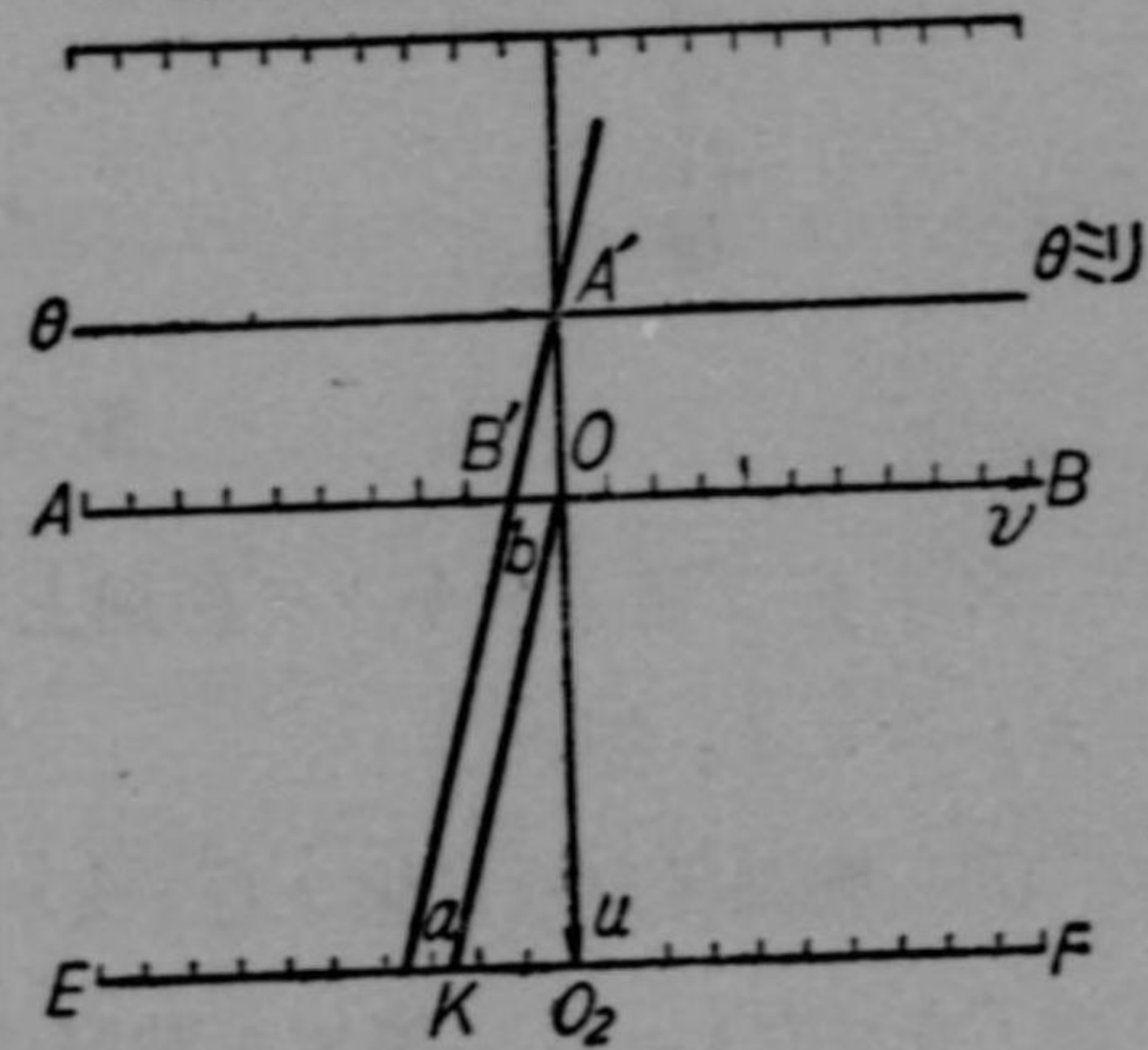
方向偏差 $b = \overline{OB'}$ (1)

遠近偏差 $a = \frac{\overline{OB'}}{\overline{OA'}}$ (2)

(一) 現地座標



(二) 交會法線圖(轉相座標)



第 193 圖

從ツテ方向偏差 b ハ點 B' ノ目盛ヲ讀メバ左(或ハ右)何密位カガ
分リ，又遠近偏差 a ハ前節ト同様ニ

$\triangle A'OB' \sim \triangle OO_2K \quad \therefore \frac{\overline{OB'}}{\overline{OA'}} = \frac{\overline{O_2K}}{\overline{OO_2}}$

$\therefore \overline{O_2K} = \overline{OO_2} \times \frac{\overline{OB'}}{\overline{OA'}} = 20 \times \frac{b}{20} \times \frac{a}{20b} = \frac{a}{20} (cm)$

トナリ EF ノ目盛ハ AB ト同ジク梯尺 1/2000 デ函數尺

$v = \frac{y}{20}$

ガ目盛ツテアルカラ點 K ニ應ズル目盛ガ a トナリ求ムル遠近偏差ト
ナル。

注意 添附附圖ニ依リ線圖ノ用法ヲ研究セヨ。

索引 1 (主ナル術語)

	頁		頁
ア行 (エ, ナ含ム)		減速比	95
壓縮比	50	傾斜分數	115
安全界	66	計算尺	119
アングル	99	現地座標	148
裏傳へ車	101	誤差率	42
繪ぐらふ	10	腔内壓力曲線	43
永轉螺(ウォーム, 芋蟲)	73	腔 綫	44
カ行		弧度法	55
階段線下ノ面積	39	鼓胴表尺	88
角速度	68	香 箱	99
傘齒車	73	交會法線圖	114
外接二齒車	74	サ行	
カナ車	99	三角航路	34
ガンギ車	"	最大腔壓	44
曲線下ノ面積	40	差動齒車裝置	84
機械効率	51	差動機	89
危險界	65	示壓線圖	49
共點圖表	123	示指馬力	52
" ノ作り方	125	軸(實)馬力	"
共線圖表	133	射向修正量	65
" ノ作り方	137	遮蔽度	66
屈折率	58	初旋速	83
九四式六輪自動貨車	96	旋綫作業	"
携帯測遠器	57	支持線	109

水平曲線ノ間隔..... 116
 眞等距離....."
 圖上等距離....."
 扇形くらふ.....11
 折線くらふ.....13
 正切法.....56
 線速度.....68
 旋盤..... 103
 正切尺(正切線)..... 113
 漕渡時間.....35
 速度ノ圖示.....38
 阻碍抗力曲線.....45
 速度比.....74
 測高機ノ原理..... 122
 " (十一年式)..... 130

タ行

だいやる.....69
 對數尺..... 119
 晝夜圖.....18
 直角座標.....21
 直線くらふ.....23
 聽音機..... 117
 點くらふ..... 2
 梯形ノ面積.....39
 梯形法.....41
 纏度.....83

傳導裝置(自動車).....91
 " (懷中時計).....99
 天府....."
 梯尺..... 111
 轉相座標..... 148
 統計くらふ..... 1
 時計.....98
 等壓線..... 123

ナ行

ねぢ.....69

ハ行

配船數.....35
 發生馬力.....51
 齒車.....72
 齒先圓....."
 齒本圓....."
 早戻リ運動.....87
 倍動齒輪....."
 齒車比.....95
 光ノ反射ノ法則.....57
 光ノ屈折ノ法則....."
 平齒車.....73
 ビッチ圓(刻圓).....72
 日ノ裏裝置..... 100
 平均彈着點.....22
 偏流.....34

變速機.....94
 偏差交會法線圖..... 156
 棒くらふ..... 3
 本劍車..... 101
 砲耳軸..... 127
 方向交會法觀測射擊要領... 145

マ行

まいくろめーた.....70
 密位法.....61

ヤ行

四衝程機關.....48
 餘切梯尺..... 115
 餘切線圖..... 118

ラ行

六十分法.....55
 らちあん....."
 列車運行圖表.....33

ワ行

腕長規尺.....61

索引 2 (主ナル圖表)

	頁
主要國ノ面積, 人口, 人口密度.....	2
米移輸出割合(日本内地).....	3
大陸別面積.....	4
世界貿易額.....	"
國防力ノ源泉トシテノ人口.....	5
本邦軍事費.....	6
作業豫定及ビ進行圖表.....	9
日英米保有戰艦比較表.....	11
一年間日平均氣溫比較.....	14
ナチスドイツ對外貿易くらふ.....	15
本邦(内地)ノ出生, 死亡及ビ自然増加.....	16
東京正米相場ノ變動.....	17
發疹「チブス」ニ於ケル虛脫體溫.....	"

晝夜圖.....18

自動車機關ノ特性曲線.....20

各部隊行軍行程ト時間.....25

鐵道運賃計算くらふ.....30, 31

列車運行圖表.....附圖第一

各兵種一回ノ漕渡時間表.....36

部隊ノ集合, 出發時間計算くらふ.....附圖第二

腔内壓力曲線.....43

阻碍抗力曲線.....46

示壓線圖.....49

九四式自動貨車車速表.....97

交會法線圖.....附圖第三

餘切梯尺線圖.....118

方向修正量計算圖表要領圖 ($\tan \theta = \tan \alpha \sin i$).....129


 " 圓筒要領圖 (四五式火砲用).....130

十一年式測高機原理說明圖.....132

$D = L \tan \theta$140

腕長規尺 = 依ル比高計算ノ計算圖表.....141

出文協承認 あ 390500

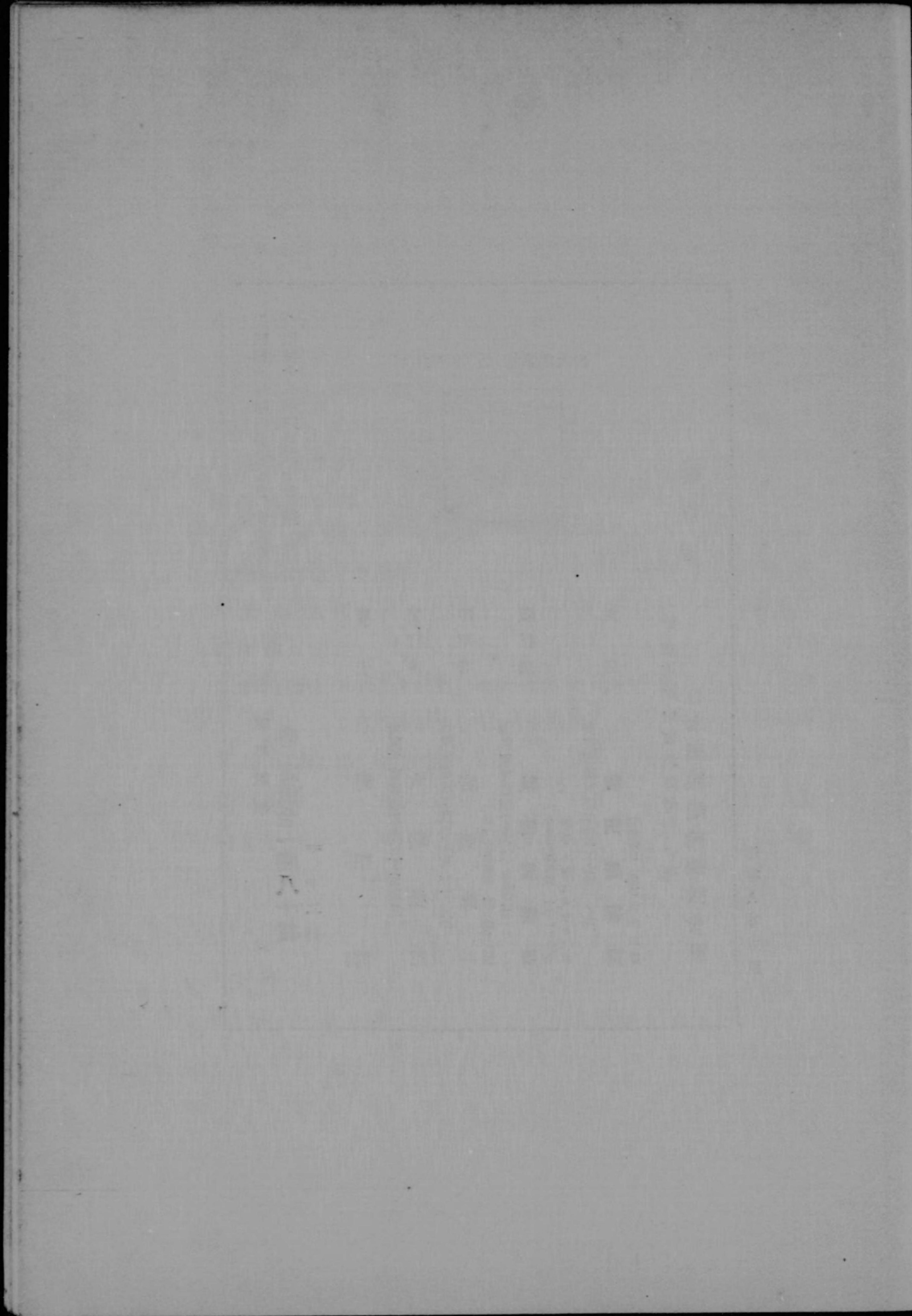


昭和十八年三月廿五日印刷
昭和十八年三月三十日發行
(三, 000部)

軍事數學
定價金一圓八十錢
十二錢

	著者	發行者	印刷者	發行所	支店	
	野原博	大冨市南區塩通三丁目四三	大冨市浪速區西園手町一〇三	大冨市南區塩通三丁目四三 印文會員會館 西大第五九號	東京市神田區多町二丁目一ノ三 秋田屋書房 電話 神田 (25) 六四三番	東京市神田區淡路町二ノ九 日本出版配給株式會社

規格A列五號

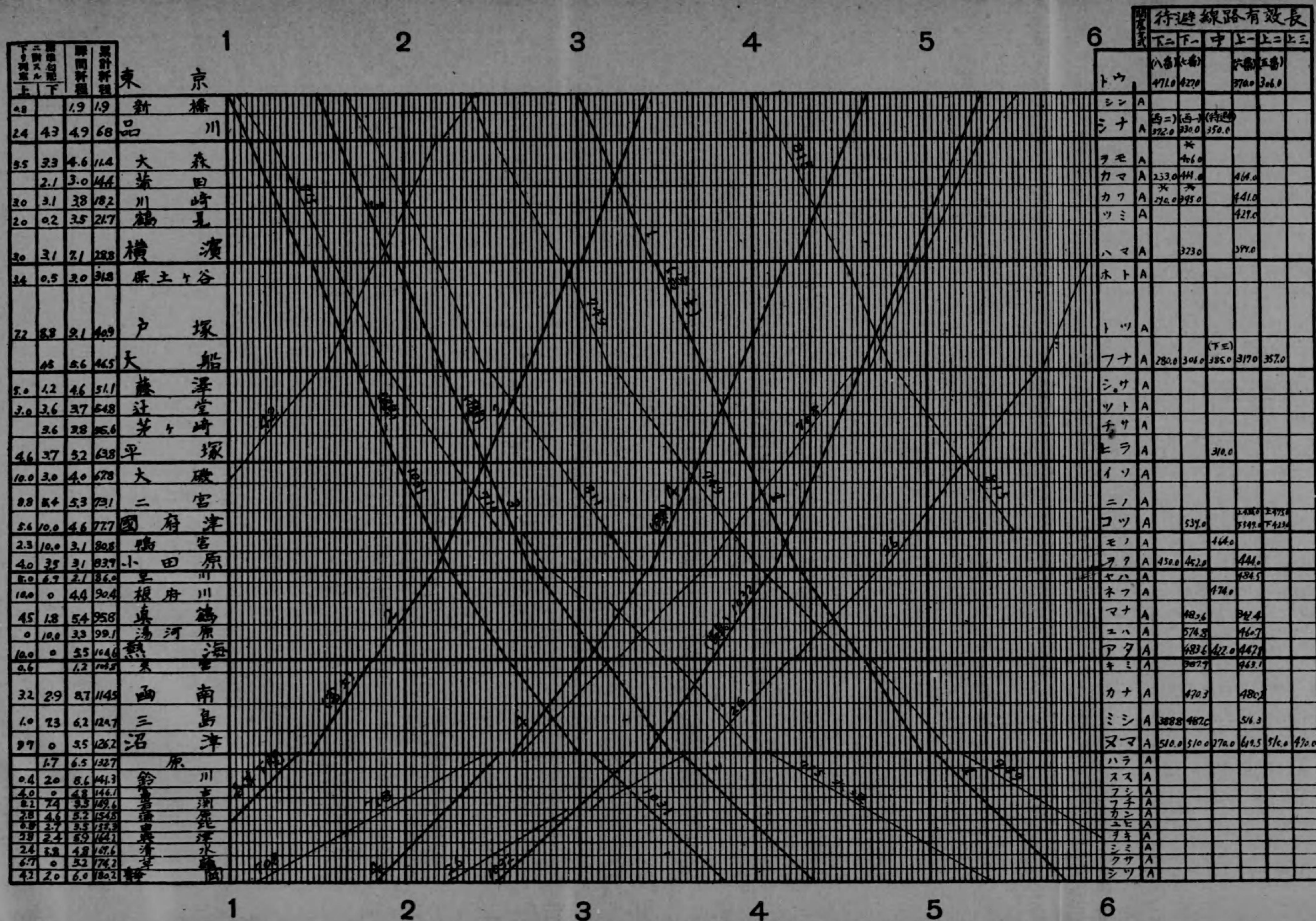


		月	日	時	分	秒	分	秒	分	秒
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23
24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26
27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28
29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29
30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31

Vertical text on the right side of the page, likely a title or header for the table.

東海道線列車運行圖表

東京鐵道局運轉部



待避線路有効長

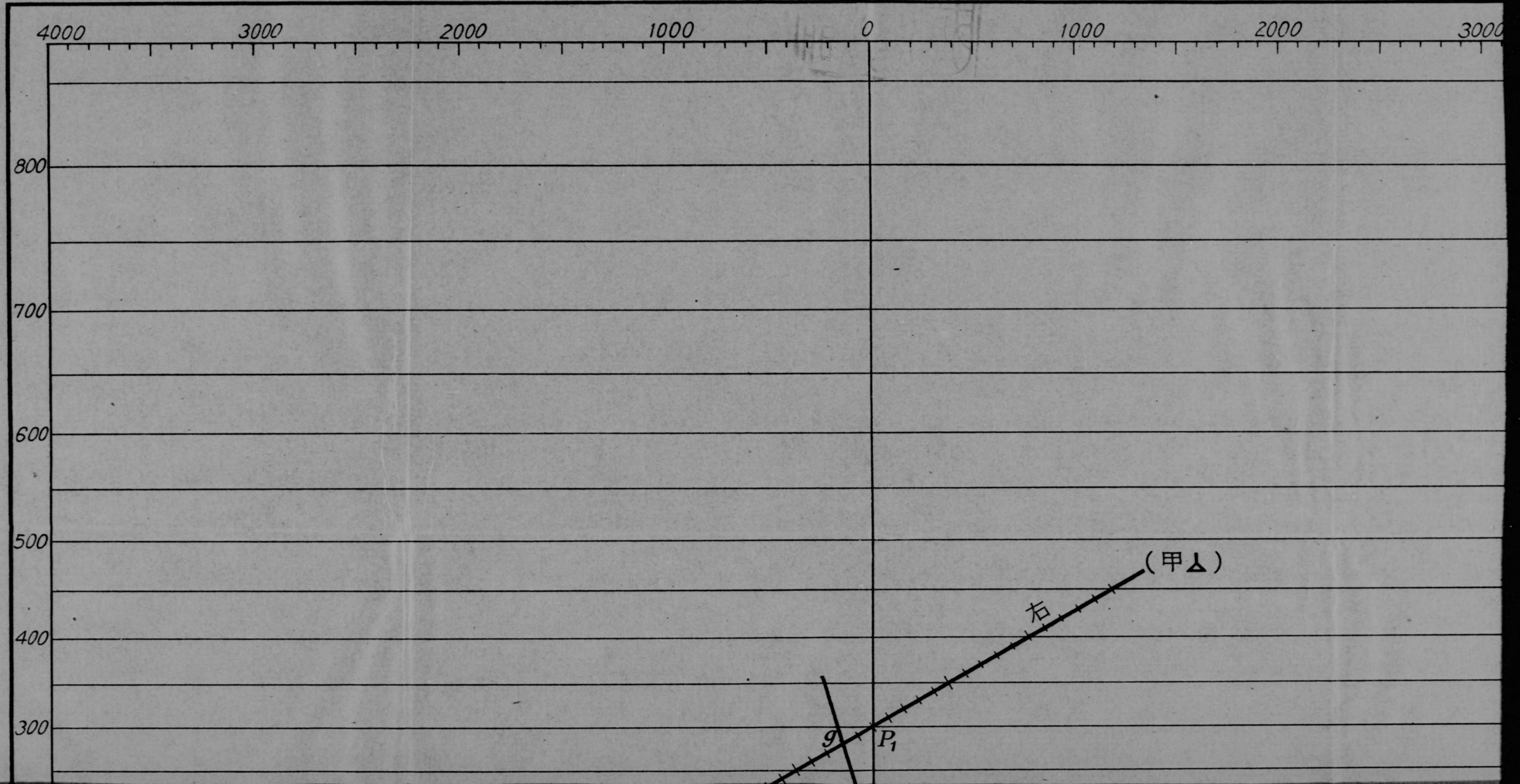
附圖第一

- 一 欄外数字は左ヨリ午後一時二時...午後六時ヲ表ハス。
- 一 太線ハ急行列車、細線ハ普通列車トス。
- 一 線ニ沿フ数字ハ列車番號トス。

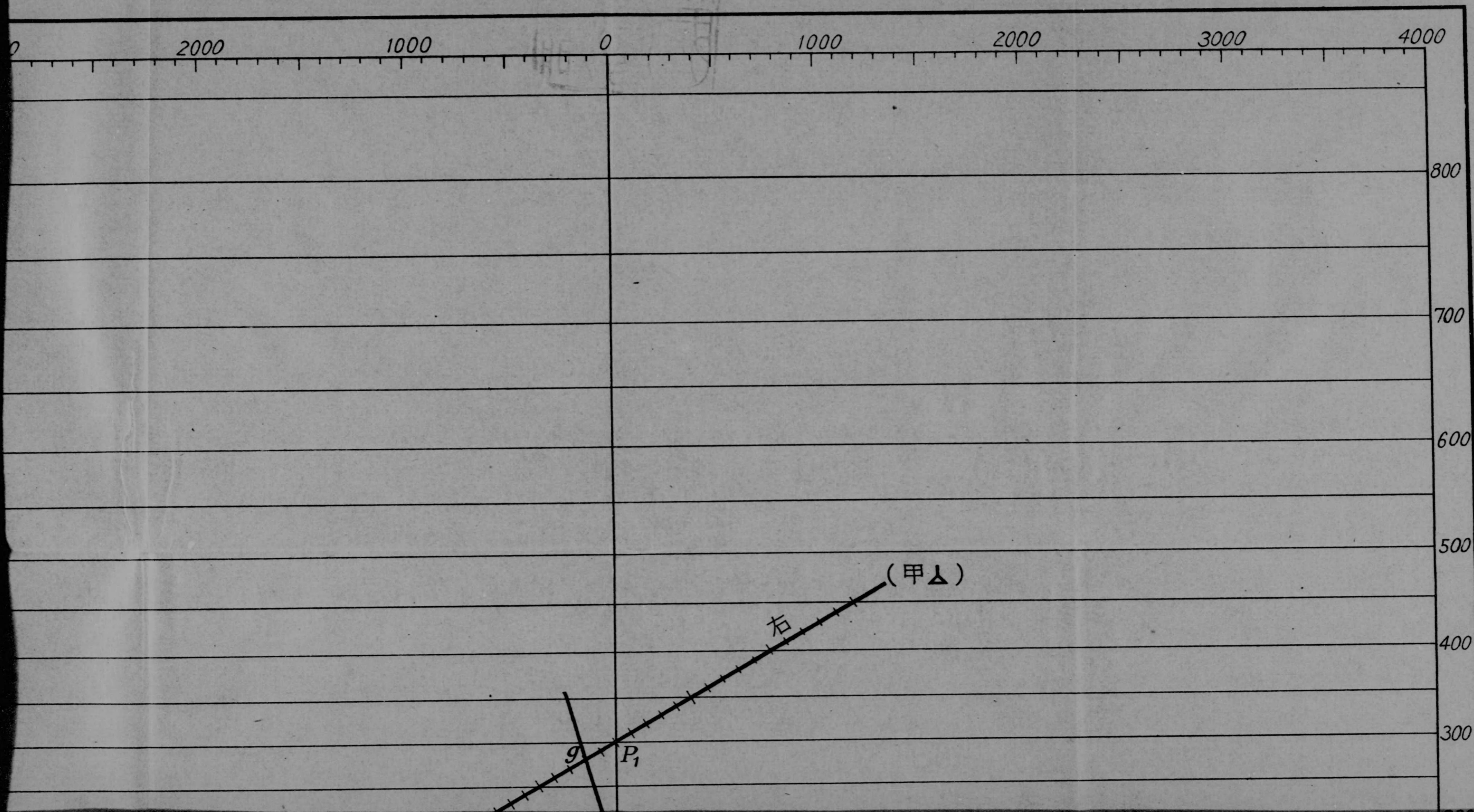
表二枚在中

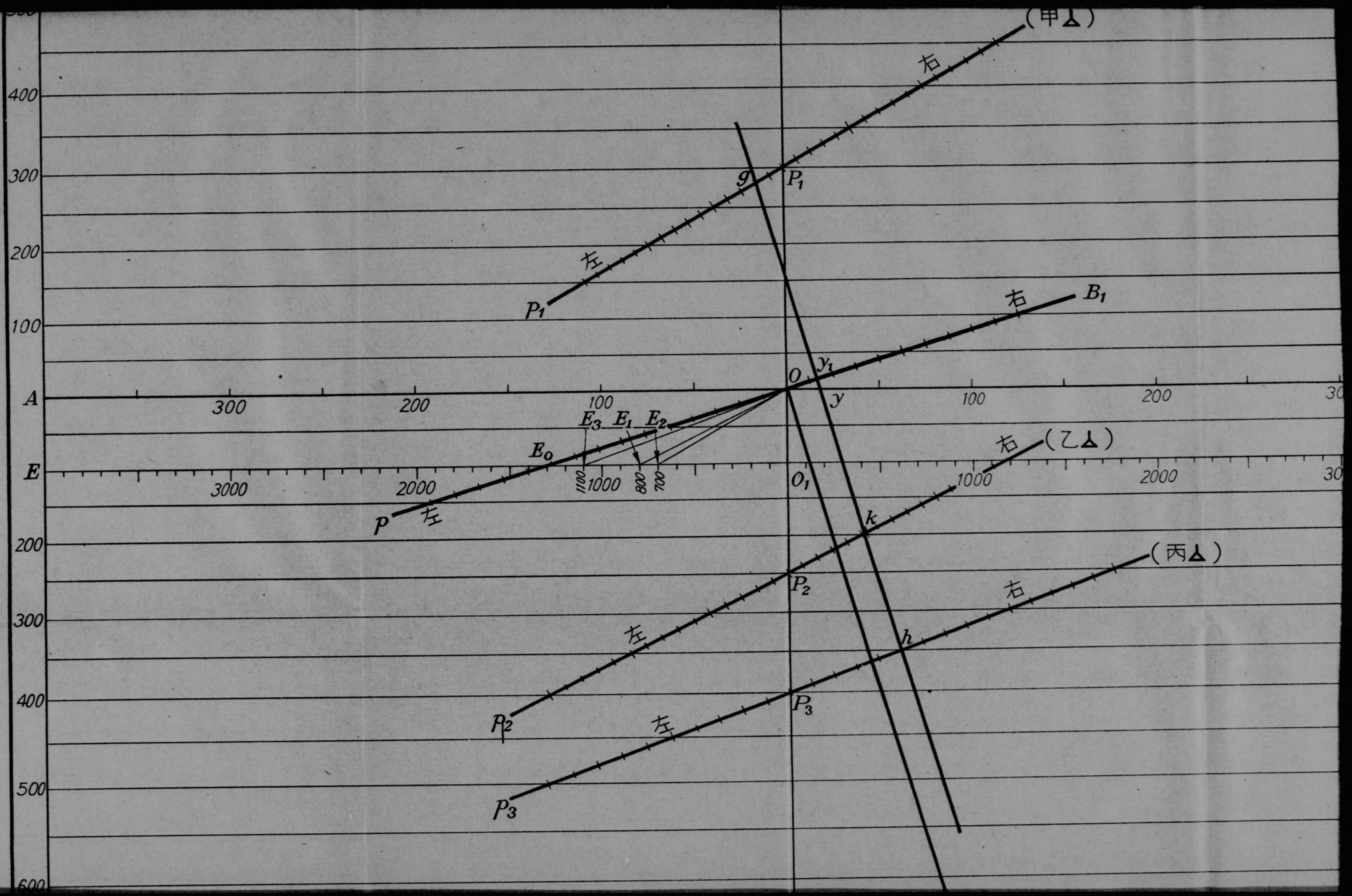
偏差交會法射擊ノ要領

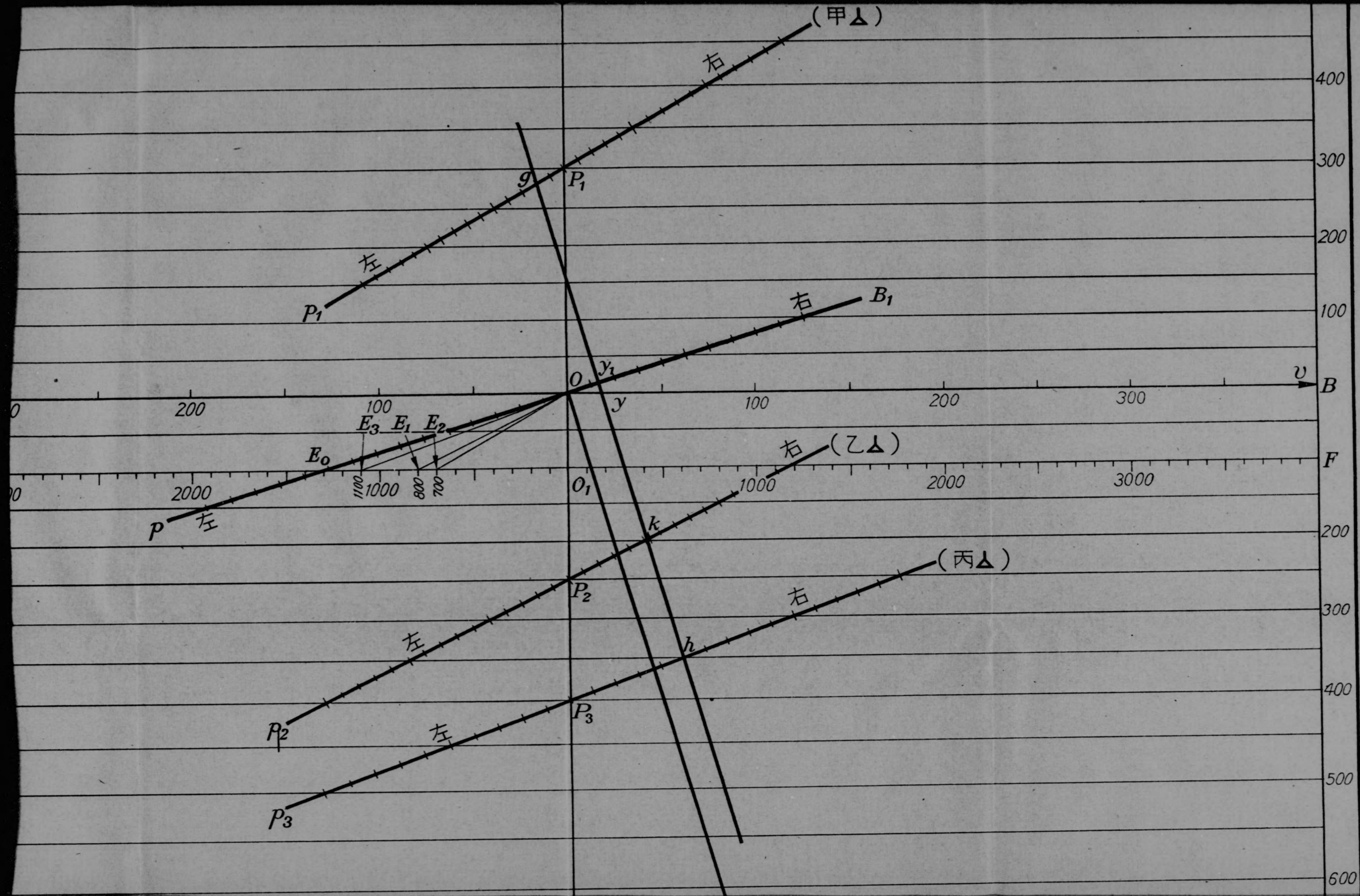
(線圖八實物大)

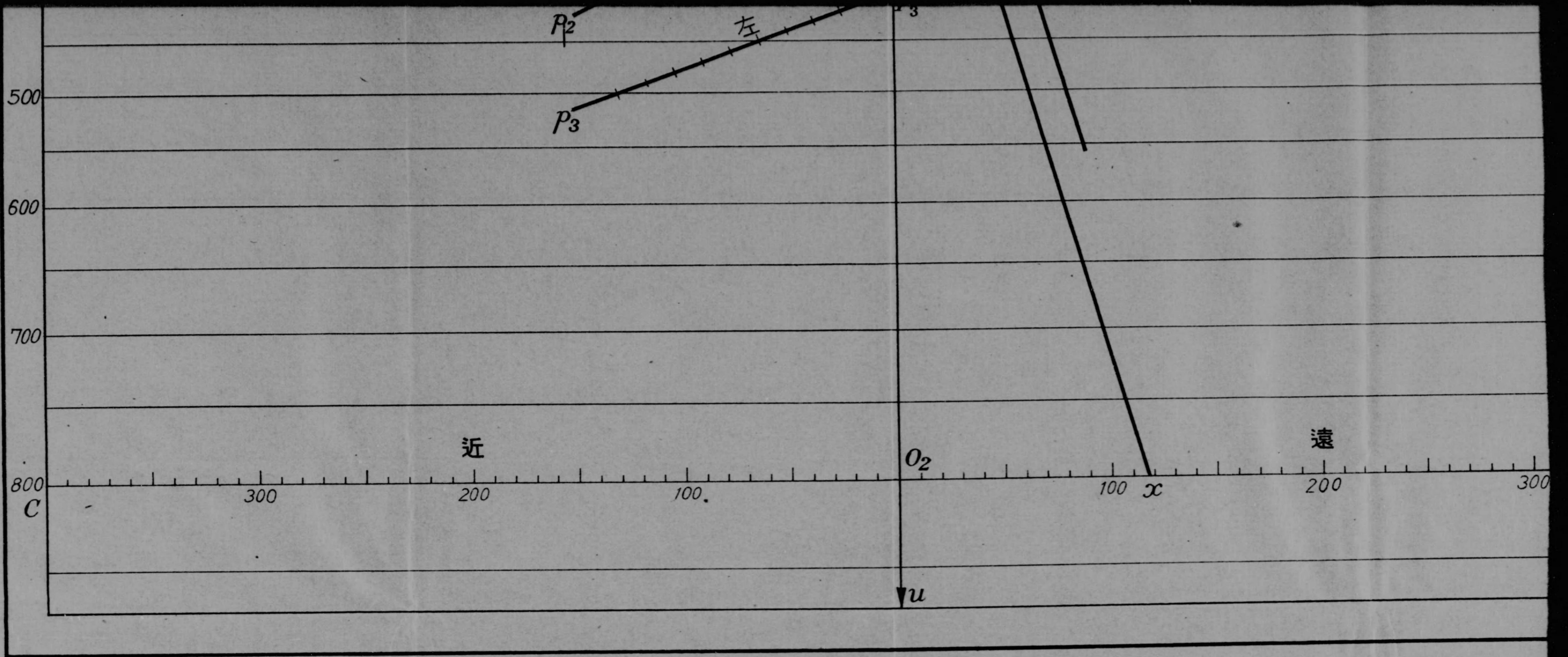


偏差交會法射擊ノ要領 (線圖八實物大)

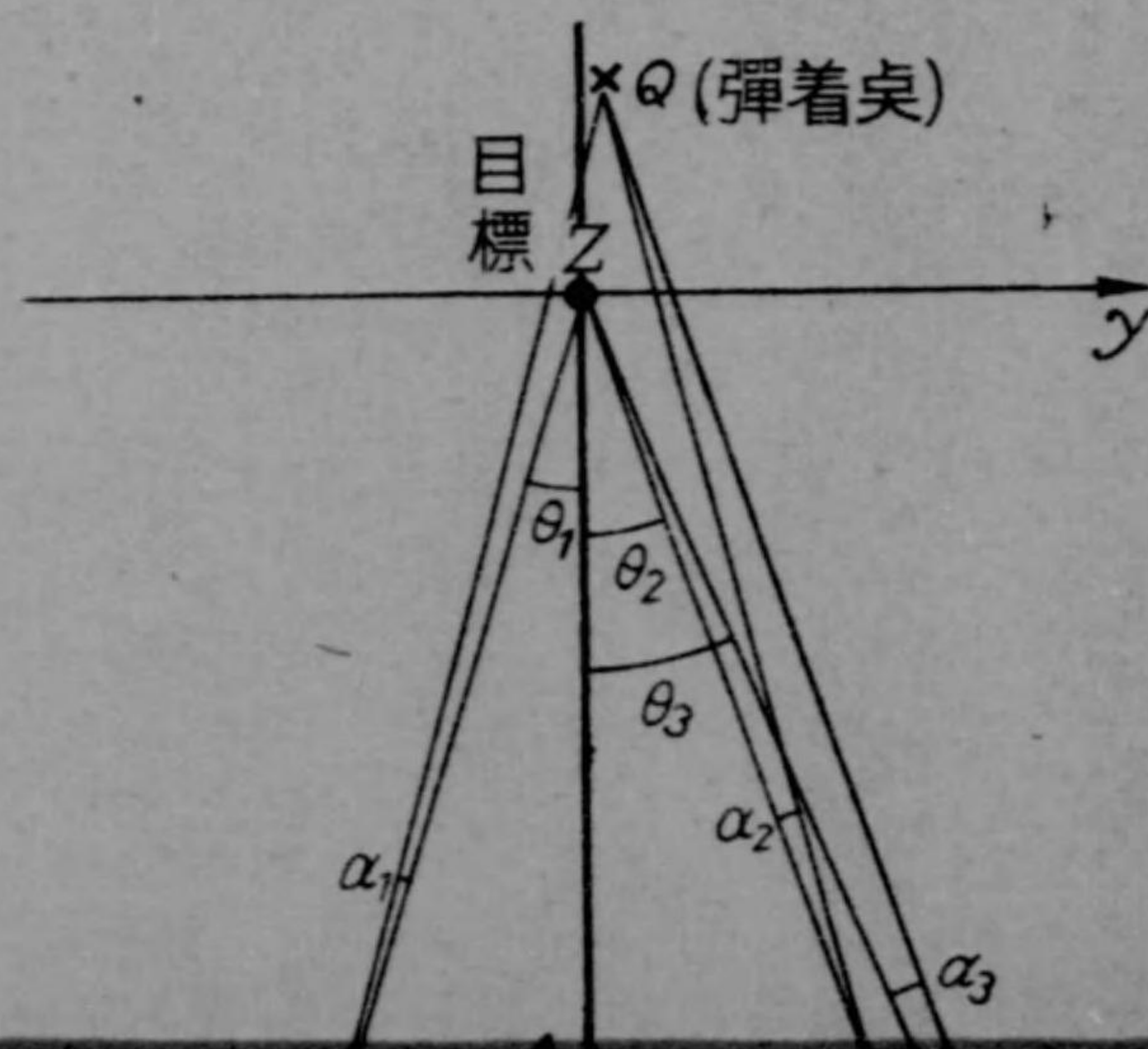








現地座標



左圖ニ於テ次ノ
モノヲ精密ニ測
定ス。

- $\theta_1 = 300$ 密位
- $\theta_2 = 250$ "
- $\theta_3 = 400$ "
- $ZA_1 = 800\text{m}$
- $ZA_2 = 700\text{m}$
- $ZA_3 = 1100\text{m}$
- $ZG = 1300\text{m}$

交會法線圖ノ作り方及ビ偏差ノ求メ方

準備

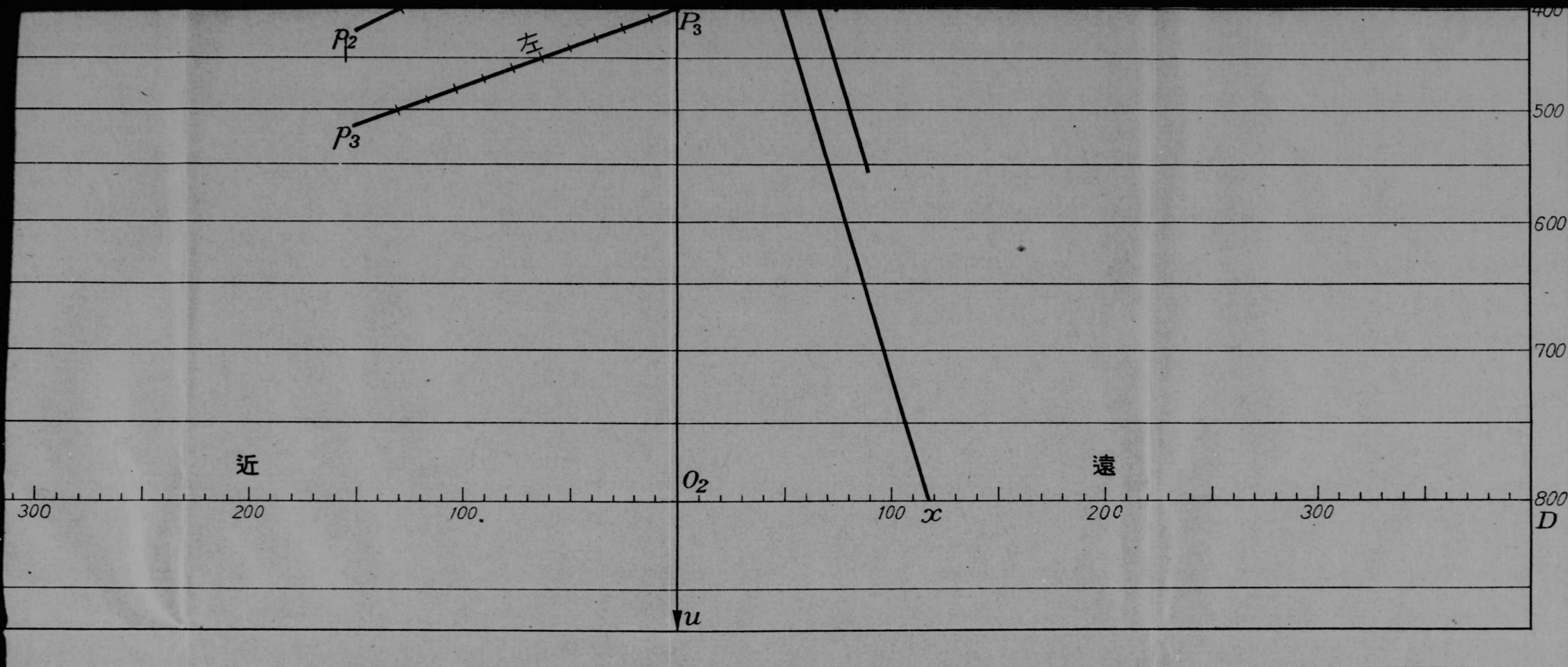
1. O_1 ヨリ E 方向ニ梯尺 $\frac{1}{20000}$ ヲ以テ
 $O_1E_0 = ZG = 1300\text{m}$
 $O_1E_1 = ZA_1 = 800\text{m}$
 $O_1E_2 = ZA_2 = 700\text{m}$
 $O_1E_3 = ZA_3 = 1100\text{m}$

ノ如ク E_0, E_1, E_2, E_3 ヲトリ O ト結ブ。

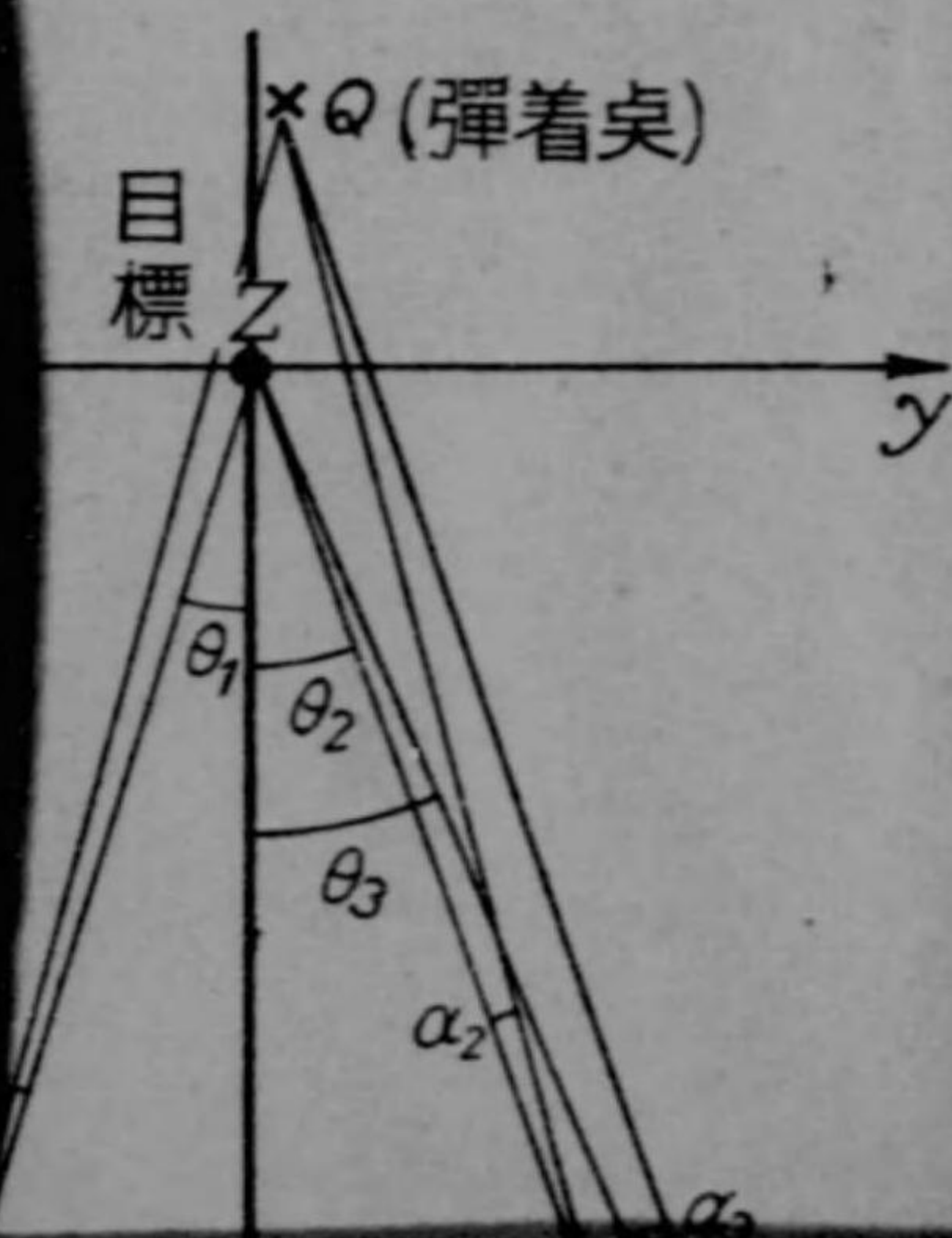
2. 縦軸 u ト、 $\theta_1 = 300''$ 、 $\theta_2 = 250''$ 、 $\theta_3 = 400''$ ニ
 應ズル正切線トノ交點ヲ夫々 P_1, P_2, P_3 トスル。
 而シテ P_1, P_2, P_3 ハ觀測所ガ射線ノ左(右)ニ
 アレバ O ヨリ上(下)ニトル。

偏差ノ求メ方

1. 各觀測所デ觀測シター射彈ノ方
 甲觀測所デハ $a_1 = 20$
 乙 " $a_2 = 54$
 丙 " $a_3 = 50$
 ヲ得タトスレバ p_1, p_2, p_3 上
 P_3h ヲコノ値ニトリ之ヲ直線
 コノ gh 線ト方向偏差線 p ト
 14.7 讀ミ方向偏差右 14 密位ヲ得
 (又 gh 線ト方向目盛線 AB ト
 目盛ヲ讀メバ方向偏差右 30 密位)
2. 原點 O ヲ過ギ gh 線ニ平行線



地 座 標



左圖ニ於テ次ノ
モノヲ精密ニ測
定ス。

- $\theta_1 = 300$ 密位
- $\theta_2 = 250$ "
- $\theta_3 = 400$ "
- $ZA_1 = 800\text{m}$
- $ZA_2 = 700\text{m}$
- $ZA_3 = 1100\text{m}$
- $ZG = 1300\text{m}$

交會法線圖ノ作り方及ビ偏差ノ求メ方

準 備

1. O_1 ヨリ E 方向ニ梯尺 $\frac{1}{20000}$ ヲ以テ
 $O_1E_0 = ZG = 1300\text{m}$
 $O_1E_1 = ZA_1 = 800\text{m}$
 $O_1E_2 = ZA_2 = 700\text{m}$
 $O_1E_3 = ZA_3 = 1100\text{m}$
 ノ如ク E_0, E_1, E_2, E_3 ヲトリ O ト結ブ。
2. 縦軸 u ト、 $\theta_1 = 300''$ 、 $\theta_2 = 250''$ 、 $\theta_3 = 400''$ ニ
 應ズル正切線トノ交點ヲ夫々 P_1, P_2, P_3 トスル。
 而シテ P_1, P_2, P_3 ハ觀測所ガ射線ノ左(右)ニ

偏差ノ求メ方

1. 各觀測所デ觀測シター射彈ノ方向ノ偏差ヲ測リ
 甲觀測所デハ $\alpha_1 = 20$ 密位左
 乙 " $\alpha_2 = 54$ 密位右
 丙 " $\alpha_3 = 50$ 密位右
 ヲ得タトスレバ p_1, p_2, p_3 上ニ夫々 $P_1g, P_2k,$
 P_3h ヲコノ値ニトリ之ヲ直線デ結ブ。
 コノ gh 線ト方向偏差線 p トノ交點 y_1 ノ目盛
 14 ヲ讀ミ方向偏差右 14 密位ヲ得。
 (又 gh 線ト方向目盛線 AB トノ交點 y' ノ
 目盛ヲ讀メバ方向偏差右 30 米ヲ得。